

科目名： <UGH001> 人生と哲学
担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

哲学に魅力を感じる者もいれば、敬遠したくなる者もいるかもしれない。それは自分に必要なものだと期待する者もいれば、そんなものは自分には不要だと考える者もいるかもしれない。そのような哲学とは一体何だろうか。この問い自体、どこか哲学的なところがある。そして、そのような問いに対する答えは哲学者が決めれば良いと思うかもしれないが、誰もが考えて良いものである。

本授業科目では、哲学の歴史、有名な哲学者や学派の議論、哲学が扱うテーマなどを概説する。また、哲学の古典も（部分的に）読んでみる。そして、受講生には自分自身で哲学することも経験してもらう。言い換えると、この授業科目では哲学という学問の知を学び、また、自分自身で哲学的思考を働かせるトレーニングを行う。

当授業科目では、受講生に対して哲学に関する前提的知識を有することを特に求めない。一方で、授業のなかで自分なりに思考を広げ、毎週のように哲学的なエッセーを書き続けていく（あるいは、書き直していく）ことを要求するので、そのような意欲は求める。

この授業科目は、高松大学の卒業認定・学位授与の方針の一つである「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」の育成と関わっている。同様に、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力』の修得を目標としている。

本授業科目は、課題の連絡や資料の共有にあたりGoogle Classroomを使用する。クラスコードは第1回授業時に連絡する。

【到達目標】

1. 哲学的思考の特徴を理解し、それを駆使しようとすることができる。
2. 授業で紹介された哲学の知（哲学史、哲学者の思想など）を理解する。
3. 哲学とは何かという問いに対して、自分なりの考え（答え）を述べることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション／哲学への誘い方
第2回	哲学の教育
第3回	哲学的思考
第4回	哲学の歴史① 古代・中世の哲学
第5回	哲学の歴史② 近代の哲学
第6回	哲学の歴史③ 現代の哲学
第7回	古典（デカルト『方法序説』）の紹介
第8回	古典（デカルト『方法序説』）の批判
第9回	古典（デカルト『方法序説』）との対話
第10回	古典（ヴィーコ『学問の方法』）の紹介
第11回	古典（ヴィーコ『学問の方法』）の批判
第12回	古典（ヴィーコ『学問の方法』）との対話
第13回	哲学と現代的問題
第14回	哲学エッセーを通じた対話① 1回目の話し合い
第15回	哲学エッセーを通じた対話② 2回目の話し合い
- ※定期試験は実施しません。

【授業時間外の学習】

- ・毎週、哲学エッセーを書くために資料や事例を探し、エッセーを執筆する（毎週2時間）
- ・他の学生のエッセーを読み、コメントを書く。（毎週2時間）

【成績の評価】

- ・毎週の哲学エッセー（60%）
- ・最終の哲学エッセー（40%）

※ 提出されたエッセーについては、適宜フィードバックを行う。フィードバックにあたっては、Google Classroomを使用する。

【使用テキスト】

テキストは指定しない。授業では、講師が作成した資料を配布する。

【参考文献】

『物語 哲学の歴史——自分と世界を考えるために』（伊藤邦武著、中央公論新社、2012年）

『思考の用語辞典——生きた哲学のために』（中山元著、筑摩書房、2007年）

また、授業内で適宜紹介する。

また、第7回～第12回で使用する古典は、受講生の興味・関心や授業へのコメントをもとに、適宜変更することがある。

科目名： <UGS002> 日本国憲法
担当教員： 金子 匡良(KANEKO Masayoshi)

【授業の紹介】

この授業では、日本国憲法の土台をなす立憲主義およびそれを生み出した歴史的背景について理解した上で、日本国憲法の構造および主要な規定内容について学んでいく。この授業は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」の育成に関わっており、また学修成果の「①豊かな人間性や主体的に生きる力」に関連している。

【到達目標】

- この授業は、以下の事項を修得することを目標とする。
- ①憲法の土台をなす立憲主義の内容を理解できる。
 - ②立憲主義が誕生した歴史的背景と立憲主義の変遷について理解できる。
 - ③日本国憲法の制定経緯について理解できる。
 - ④日本国憲法の構造および主要な規定内容を理解できる。
 - ⑤憲法の知識を通じて現代社会の諸問題を分析することができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	憲法の歴史①－立憲主義の成立
第3回	憲法の歴史②－立憲主義の変遷
第4回	日本国憲法の制定経緯
第5回	日本国憲法の構造
第6回	国民主権
第7回	人権の種類
第8回	人権の享有主体
第9回	表現の自由
第10回	社会権
第11回	参政権
第12回	権力分立
第13回	違憲審査制
第14回	憲法改正
第15回	全体のまとめ（重要点の確認）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業は配布プリントに基づいて行っていくため、授業前の予習として、よくプリントを読んでおき、問題点や疑問点を明らかにし、授業後には復習としてプリントをよく読み直し、事前に抱いた問題点や疑問点が解消できたかを確認する。なお、予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を目安とする。

【成績の評価】

成績評価は、定期試験の点数に基づいて行う（100%）。試験後に試験内容についてフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし。毎回の授業時に配布するプリントに基づいて授業を進める。

【参考文献】

長谷部恭男(解説)『日本国憲法』（岩波文庫、2019年）

科目名： <UGS003>心理学

担当教員： 太田 美里(00TA Misato)

【授業の紹介】

心理学は人間の心を研究する学問ですが、色々な分野があります。例えば、知覚心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学などがあり、ひとつひとつが適用範囲の異なる分野の心理学です。この授業では、様々な心理学の基礎的知識を日常生活と結びつけながら学び、自分や他者の心についての理解を深めます。また、授業は基本的に講義形式ですが、学生が主体的に心理学の基礎的知識を身につけることを促すため、適宜体験的なワーク等を行います。なお、この授業では、卒業認定・学位授与の方針「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」に関する知識、技法の修得を目指します。経営学部の方針にある自己管理力や周囲への配慮を持つこと、発達科学部の方針にある教育・保育に必要な幅広い知識を体系的に理解し、実践と関連づけて理解することを目指して学びます。また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力』に関連しています。

【到達目標】

学生が心理学の基礎的知識を身につけ、それを基に自己や他者の心に対する理解を深めることができる。自身の専攻領域における心理学の活用方法を考えることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション／心理学の歴史と研究法
第2回 感覚と知覚
第3回 学習
第4回 記憶
第5回 思考
第6回 言語
第7回 動機づけと情動
第8回 発達－胎児期・乳幼児期・児童期の発達－
第9回 発達－青年期・成人期・老年期－
第10回 性格
第11回 自己と対人関係
第12回 心の問題
第13回 心の健康
第14回 心理療法を学ぶ
第15回 カウンセリングの実際と授業のまとめ（重要点の確認）
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習：次の講義内容を確認し、予習シートに沿った調べ物をしてくること（2時間）。
復習：授業後はレジュメの復習を行い、期末レポートの作成に備えること（2時間）。

【成績の評価】

成績は、授業毎に提出を求める学習シート（30%）と期末レポート（課題：心理学的理論の日常及び専攻領域における活用方法について）（70%）で評価します。なお、詳しい課題内容は講義内で説明します。評価は、①授業で学んだ心理学的理論を正確に理解できているか、②心理学の知識を自分の視点や体験と結びつけて理解できているか、③論理性、④形式（誤字脱字）等で判断します。学習シートは毎回点検し、授業内で講評を行います。また、期末レポートのフィードバックは、全体的なレポートの回答傾向や採点基準等を教務課窓口で閲覧できるようにすることで行います。10分以上の遅刻は欠席とみなします（病気等やむを得ない場合を除く）。

【使用テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

無藤 隆・森 敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治共著『心理学（新版）』（有斐閣、2018年）
梅本堯夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延共著『心理学第2版心のはたらきを知る』（サイエンス社、2014）
適宜、講義内で参考文献を紹介します。

科目名： <UG0301>総合科目

担当教員： 蓮井 明博(HASUI Akihiro), 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

現代の企業経営を、地域・産業・社会の立場で、深くかつ広い視野から探求するため、学外の権威ある指導者から企業経営観、企業文化論あるいは専門分野の先端情報等のテーマを中心に講義を願い、近代経営のあり方を考えます。講師陣の豊富な人生経験に触れることにより幅広い教養に裏付けられた知識や能力を身に付け、地域社会の中での自身の役割や係わりについて学習します。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」及び「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に結びつく科目です。また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」、「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関連しています。

本講義は、経営・情報・会計などの知識を、組織においてどの様に活用しているか、グローバル社会においても自らの力を地域社会に役立てようとする志を持ち、ビジネスや起業などの活動を通して貢献しているかなどを、講師陣の体験談を交え聴講することが出来ます。授業の運営上学習管理システム(LMS)を利用した連絡やレポート収集を行ないます。

特にこの授業は実社会でも、また講演会でもなかなかお目にかかれない、各界トップの講師陣が直接皆さんに語りかける講座で、本学特有のスペシャルメニューです。

【到達目標】

講師陣のお話を聞き、社会人としての豊かな人間性を高めることができる。
講師陣の経営観や人生観などを吸収し、多様な考え方を取入れることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 向こう100年を見据えて

高松丸亀町商店街振興組合 理事長 古川 康造 氏

第3回 子育て支援を仕事に

特定非営利活動法人わははネット 理事長 中橋 恵美子 氏

第4回 日本銀行の仕事とお札の話

日本銀行 高松支店長 小牧 義弘 氏

第5回 四国新幹線の実現に向けて～新・新幹線構想～

四国旅客鉄道株式会社 相談役 泉 雅文 氏

第6回 地域経済の課題と当行の取組み

株式会社香川銀行 代表取締役頭取 山田 径男 氏

第7回 マネーおよび金融の将来

高松大学 経営学部教授 蓮井 明博 氏

第8回 キャリアについて考える

香川県教育委員会 教育長 工代 祐司 氏

第9回 未来を創る君たちへ

株式会社四電工 相談役 家高 順一 氏

第10回 市場における競争と公正取引委員会の役割～新時代の競争政策～

公正取引委員会事務総局 四国支所長 菅野 善文 氏

第11回 出会い・夢・挑戦

公益財団法人高松観光コンベンションビューロー 理事長 佐野 正 氏

第12回 証券会社の役割と今後求められる人材について

香川証券株式会社 代表取締役社長 中條 博之 氏

第13回 地方創生に向けて

香川経済同友会 代表幹事 間島 賢治 氏

第14回 金融の基礎知識と地方銀行の役割

株式会社百十四銀行 取締役副頭取 香川 亮平 氏

第15回 チャンスを掴む

東海工業株式会社 代表取締役社長 塚本 忠男 氏

※以上は、昨年度実施のもので、本年度も同様に予定していますが、都合により、講師およびテーマに変更がある場合があります。定期試験は実施しません。

【授業時間外の学習】

新聞等を読み、国内経済・世界経済の動向について関心をもち、各回4時間以上の学習を行ってください。

【成績の評価】

随時課するレポートにより100%評価します。提出物は、評価して返却することでフィードバックします。✓

【使用テキスト】

ありません。

【参考文献】

必要の都度、指示します。

第3期高松市中心市街地活性化基本計画

第6次高松総合計画など

科目名： <UGH002> 芸術文化
担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

文芸、音楽、美術、演劇、舞踊、映画、アニメーション、漫画等の芸術文化は、人間の感性を豊かにする知的で創造的な活動です。また、人間が人間らしく生きるための糧ともなり、社会全体が活性化できる大きな力にもなります。本授業では、西洋美術史・日本美術史を中心として、歴史を辿りながら多くの芸術作品を図版や映像で鑑賞します。時代背景を学びながら、その時代の美術・文化の特徴についてレポート提出があります。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力』に関連しています。

【到達目標】

1. 美術の歴史や流れの中に継承された伝統がどのように取り組まれ、形として表れているかを理解することができる。
2. 美術作品に対して作者との心の交流を深め価値を見出したりすることができる。
3. 作品を鑑賞して自分に語りかけ自己の感じ方を学ぶことができる。
4. 様々な美術作品を鑑賞することで表現方法や技法を学ぶことができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション、芸術と芸術文化の意義	「洞窟壁画」
第2回	西洋美術 (エジプト・メソポタミア)	「ツタンカーメン王のマスク」他
第3回	西洋美術 (古代ギリシャ・ローマ)	「ミロのビーナス」他
第4回	西洋美術 (ルネサンス)	「モナ・リザ」ダ・ビンチ 他
第5回	西洋美術 (バロック・ロココ)	「真珠の耳飾りの少女」フェルメール 他
第6回	西洋美術 (印象派)	「印象・日の出」モネ 他
第7回	西洋美術 (世紀末美術)	「ユディット」クリムト 他
第8回	西洋美術 (近代美術)	「アヴィニョンの娘たち」ピカソ他
第9回	日本美術 (縄文～天平美術)	「法隆寺金堂釈迦三尊像」他
第10回	日本美術 (平安～鎌倉時代)	「金剛力士像」運慶 他
第11回	日本美術 (室町～江戸時代初期)	「唐獅子図」狩野永徳 他
第12回	日本美術 (江戸中期～江戸後期)	「富嶽三十六景」葛飾北斎 他
第13回	日本美術 (明治～昭和初期)	「霊峰飛鶴」横山大観 他
第14回	現代美術	「ナンバー1」ジャクソン・ポロック他
第15回	西洋・日本美術以外の美術	アフリカ、中国、南アメリカの美術他
定期試験は実施しない		

【授業時間外の学習】

毎回、授業で紹介した芸術作品の中で、興味を持った作品・作家について、その作家の生き様、他の作品、時代背景などをより深く調べ、資料としてまとめてください。(4時間)

【成績の評価】

各授業で講義内容についてのレポート提出があります。

レポート提出(80%)、授業態度・意欲(20%)で評価します。

提出されたレポートに対して、次の授業で講評することでフィードバックします。

【使用テキスト】

『いちばん親切的な西洋美術史』(池上英洋他 著、新生出版社、2016年)

【参考文献】

『すぐわかる日本の美術 改訂版』(田中 日佐夫 監修、東京美術、2009年)

科目名： <UG0001>うどん学
担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi)

【授業の紹介】

香川県では、半夏の日にうどんを食べる習慣があるそうです。お祝にもうどんはつきものです。サラリーマンは昼食の多くをうどん屋で食べ、一人あたりのうどんの消費量も日本一です。近年香川県をうどん県と名うち全国に情報発信するようになり、香川県におけるうどんの認知度は益々上がる一方です。うどん県ならではの授業として、うどん学を開講し、うどんの歴史、製法、材料、販売など様々な角度からうどんを学習していきます。そして、うどんを通して、地域の文化や産業、観光などの観点から、うどんの特徴や今後の課題について学んでいく。

この科目では、卒業認定・学位授与の方針の、「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」に関する知識、技能の修得をめざします。

なお、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力』に関連しています。

また、調理実習時では、白衣またはエプロン・三角巾の着用が必要です。また、材料費を徴収します。なお、材料費は受講している全員から徴収します。

【到達目標】

うどんの文化、地理、歴史、経営商学に至る様々な角度からうどんについて考えることができる。
うどんの特徴が説明でき、うどん打ちをすることができる。
うどんを統計的に分析することにより、うどんを定量的に見ることができるようになる。この様な経験を基に、地域の課題に気づいて解決することができる。

【授業計画】

第1回	うどんとは
第2回	うどんの歴史
第3回	うどんを広めた人々
第4回	全国のうどん地図
第5回	うどん店を調査する
第6回	うどんと祭事、行事
第7回	さぬきにうどん屋が多いわけ
第8回	小麦とうどん
第9回	うどんとだし、薬味
第10回	うどんの消費と動向
第11回	うどんを打つ
第12回	うどんを食べる
第13回	うどんと文学、うどんと経済学
第14回	うどんと音楽、映画
第15回	うどんと香川
定期試験	

【授業時間外の学習】

レポートの提出がある。レポート提出に備えて、各回4時間以上の復習を行うこと。

【成績の評価】

授業内レポート（20%）、課題レポート（50%）、定期試験（30%）の評価を行う。
授業内レポート、課題レポート等は添削して返却します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて、その都度指定する。
たとえば、うどん統計データであれば、香川県のホームページを参照するなど

科目名： <UG0102>香川学【発】

担当教員： 藤井 雄三(FUJII Yuzo), 林 守孝(HAYASHI Moritaka), 西岡 達哉(NISHIOKA Tatsuya)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。公的な機関において、文化財行政などを担当した経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を進めます。

この授業は、教育課程編成・実施の方針である、現代社会の様々な問題に関心を持つことおよび、グローバル社会においても自らの力を地域社会に役立てようとする志を持ち、地域の発展に貢献できることに沿った授業内容とし、これからの社会を生きる者にとって、自己の立ち位置を知り、意識しておくことは、極めて重要です。今、住んでいる、またはこれから、住むあるいは働く可能性が高い私たちにとって、そこがどのような場所であるのかを知ることは、避けて通ることができません。自分たちが地域の活性化や地域社会に貢献するためにどうすればよいかを目標に、香川・高松の特色のある行事、地形、文化、歴史等を学びます。それらで得えられた知識を通じ、社会人として活動できる力を身につけ、地域を元気にするために活動できる人材になれるようにします。

本授業では、1回の現地見学を予定しており、現地の息吹をじかに触れてください。その他は、基本的には講義形式です。

なお、現地学習等に要する経費は、各自の負担となります。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力、2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

1. 香川県という地域を学び、地域に生きる意味を考えることができる
2. 香川県という地域を愛することができる
3. 多様化した社会において生き抜く自己のバックボーンとすることができる

【授業計画】

- 第1回 香川の地形 (担当 藤井)
 - 第2回 讃岐(香川)の地理 (担当 西岡)
 - 第3回 香川と水・干ばつとため池 (担当 藤井)
 - 第4回 香川の見所／栗林公園 (担当 西岡)
 - 第5回 香川の見所／金刀比羅宮 (担当 藤井)
 - 第6回 香川の見所／屋島・瀬戸内海 (担当 西岡)
 - 第7回 香川の見所／小豆島と二十四の瞳 (担当 藤井)
 - 第8回 日本最大の天才・空海 (担当 西岡)
 - 第9回 四国遍路、真念と茂兵衛 (担当 藤井)
 - 第10回 栗山と源内 (担当 西岡)
 - 第11回 太平洋を渡った島の男たち (担当 藤井)
 - 第12回 香川県の現代的課題 香川と温暖化 (担当 西岡)
 - 第13回 香川県の現代的課題 香川と環境 (担当 西岡)
 - 第14回 現地見学
 - 第15回 現地見学
- 定期試験

【授業時間外の学習】

どのような事でもいからです。日頃から自分の住んでいる地域のことがら、場所だけではなく、そこに住んでいる人々等も含めて、普段から複眼的な視野で学び、そして香川を見てください。

次回の授業内容について説明しますので、予習として関係することことを調べておくこと。(1時間)

毎回の授業内容について、A4、1枚程度の内容を要約して記録しておくこと。(1時間)

また、授業終了時に授業のまとめとして、必要に応じて小テストを実施します。現地見学ではレポートの提出を求めます。

【成績の評価】

1. 授業態度・小テスト・レポート40%
2. 定期試験60%

レポート、試験の結果はオフィスアワーの際に説明することでフィードバックします。

【使用テキスト】

毎回、配布するプリントもしくは資料を用います。

【参考文献】

特別なものはありませんが、必要な場合は講義中に随時紹介します。

科目名： <UG0002>香川学演習

担当教員： 藤井 雄三(FUJII Yuzo), 林 守孝(HAYASHI Moritaka), 西岡 達哉(NISHIOKA Tatsuya)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。公的な機関において、文化財行政および生涯学習などに関する業務の一端を担ってきた経験を生かし、具体的な事例などを示しながら活動を指導します。

故郷香川の自然や文物、創成の取り組みへの理解を深め、実習を通して、参画の態度を育てることを目的とします。教職をめざす学生は教材開発の視点、経営を学ぶ学生は地域活性化の視点を重視します。

日常的な活動としては、高松市創造都市推進局や地域コミュニティー等、近隣の自治体やその関係機関が行う行事・活動に参加し、多様な立場の人々との確にコミュニケーションを図れるようにするとともに、その意義などを実際に学び、豊かな人間性や主体的に生きる力や、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を実地で養います。

さらに、休日等を利用して学内外の行事にボランティアとして運営補助等の立場でも参加し、香川の明日を創る、特色ある取り組みについて、学びます。

受講者は、参加したい活動や行事を選択し、各自で授業計画を作成します。参加する活動の受け入れ先と交渉を行い、日時の決定も自ら行います。

学外で実施される主な行事と活動（例）

博物館・美術館等の行う事業への参画、見学

子どもに関係する団体の行う事業への参画、見学

スポーツ関係団体の行う事業への参画、見学

地域の関係団体等が行う事業への参画、見学

地方公共団体、それに準じる団体等が行う事業への参画、見学

なお、活動に要する経費は自己負担となります。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力、2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

1. 香川県および高松市等の自身が生活している各地域を実地で知ることができる。
2. 行事に協働して活動することにより、自身が地域社会に参画したという実績づくりができる。
3. 地域社会の一員であることを認識することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション 受講生各自の授業計画の作成

第2回 受講生各自の授業計画の作成

第3回 受講生各自の授業計画の作成

第4回～第11回 受講生各自の計画実施

第12回 中ほどにおける実施の確認

第13回～第19回 受講生各自の計画実施

第20回 中ほどにおける実施の確認

第21回～第27回 受講生各自の計画実施

第28回 報告書作成・確認

第29回 報告書作成・確認

第30回 報告書作成・確認

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

学校外での活動が多くなります。周囲の関係者とコミュニケーションを十分取れるような環境を、自分自身でつくることによって、実習がスムーズにいきます。そのためには、書籍、マスメディアなどを通じて、テーマに関係した基礎知識を貪欲に吸収してください。

活動を行った日には、活動の場所・内容などを事前に予習し、終了後はその結果をまとめてください。（1時間）

【成績の評価】

1. 実習、受講態度と意欲、姿勢 50%

2. 報告書・レポート等の内容 50%

報告書等については、授業時に教員と協議し、必要な指導をします。

【使用テキスト】

実習先においては配布される資料等を参考にしてください。

【参考文献】

特別なものではありませんが、実習先の要請等、必要に応じてサポートします。

科目名： <UGH003> 歴史

担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

【授業の紹介】

グローバル化が進展する中、今、「日本とは何か」が問われています。日本人一人ひとりへの問いかけがなされています。「過去を知らなければ、未来を語ることはできない」とよく言われます。未来は、過去を振り返ることによってのみ明らかになってきます。日本には先人が生み育ててきた長い文化の歴史があり、この授業科目は、文化史の視点に立って改めて日本の歴史を振り返り、日本文化の特質とその歴史的な性格について学び理解することができます。なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」に関する知識、技法、態度の修得・育成をめざすとともに、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気付いて解決する力や社会に貢献できる力」に関連しています。

【到達目標】

1. 日本の身近な文化財や伝統文化を通して、それらが生まれてきた風土や歴史的背景を理解できる。
2. 日本や日本文化に対する関心を高め、歴史的なものの見方や考え方を習得できる。
3. 新たな時代に相応しい日本文化を創造していく力を身に付けることができる。
4. 日本の文化の成り立ちや特色について関心を高めるとともに、自らの郷土や国の歴史・文化及び先人の努力等に対する理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・文化史とは何か
- 第2回 日本文化の源流（P.1～P.14）
- 第3回 古代国家の形成と日本神話（P.15～P.39）
- 第4回 仏教の受容とその発展（P.41～P.54）
- 第5回 漢風文化から国風文化へ（P.55～P.72）
- 第6回 平安時代の仏教文化（P.73～P.83）
- 第7回 鎌倉仏教文化の成立（P.85～P.110）
- 第8回 内乱期の文化（P.111～P.124）
- 第9回 国民的宗教の成立（P.125～P.136）
- 第10回 近世国家の成立と歴史思想（P.137～P.156）
- 第11回 元禄文化（P.157～P.173）
- 第12回 儒学の日本的展開（P.175～P.185）
- 第13回 国学と洋学・明治維新における公論尊重の理念（P.187～P.212）
- 第14回 近代日本における西洋化と伝統文化（P.213～P.229）
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答～日本文化史から日本文化論へ～
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎時間中に質問をするので、テキスト『日本文化の歴史』の該当ページを予習し、必要に応じて専門用語の意味等を調べるとともに、自分なりの意見や疑問点をまとめておくこと。ユニットの区切り（原則として5回終了後）ごとに確認小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにし、これらをまとめた学修ノートを提出すること。準備学修（予習・復習等）は合計60時間以上行うこと。本学図書館には日本文化史関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用すること。また、オフィスアワーを設定しているので、利用すること。

【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等（10%）に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー（10%）、ユニットごとの小テスト（20%）及び学修ノート（20%）・レポート（40%）の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。遅刻2回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

尾藤正英著『日本文化の歴史』（岩波新書、2000年）

【参考文献】

家永三郎『日本文化史（第二版）』（岩波新書、1982年）佐々木高明著『日本文化の多重構造』（小学館、1997年）阿部猛・西垣晴次編『日本文化史ハンドブック』（東京堂出版、2002年）村井康彦著『日本の文化』（岩波ジュニア新書、2002年）大久保喬樹著『日本文化論の系譜』（中央新書、2003年）遠山淳他編『日本文化論キーワード』（有斐閣、2009年）ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

科目名： <UGH004>地理

担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

【授業の紹介】

地理学(geography)は空間的な視点から地表上の諸事象についてその実態や要因を研究する学問で、geo(土地)をgraphia(記述する)という語源に発しています。世界遺産は地球の生成や人類の歴史によって生み出された貴重な財産で、地理学の絶好な教科書でもある。現在では地球環境保護への関心が高まり、自然や景観の価値が見直されています。この授業科目は、人類共通の至宝である世界遺産(World Heritage)等の学習を通して、世界の自然や民族・文化等の多様性や世界平和・地球環境保護に関する認識を深めます。なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)の「1. 豊かな人間性と主体的に生きる力」に関する知識、技法、態度の修得・育成をめざすとともに、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関連しています。

【到達目標】

1. 世界遺産等の学習を通して、世界の自然や民族・文化等の多様性を理解できる。
2. 世界の国や地域に関する知識を広めるとともに、地理学的空間認識能力を高めることができる。
3. 世界平和や持続可能な地球環境保護に関する意識を高め、地理学に関する幅広い知見を身に付けることができる。
4. 地理学を中心に地質学、生態学、文化人類学、環境学、国際関係学等を総合的学際的に学ぶことができ、広い視野と幅広い知識を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、はじめに、地理学と世界遺産(P.1~P.7)
 - 第2回 ユネスコ、世界遺産とは、世界遺産条約、世界遺産委員会(P.10~P.23)
 - 第3回 世界遺産の種類、登録要件、登録基準、登録手順、世界遺産暫定リスト、危機遺産、世界遺産基金(P.23~P.31)
 - 第4回 日本の世界遺産、世界遺産の今後の課題、世界遺産条約の将来(P.31~P.37)
 - 第5回 世界遺産分布図、危機遺産(P.38~P.51)
 - 第6回 世界遺産(文化遺産・自然遺産・複合遺産)の例(P.52~P.61)
 - 第7回 無形文化遺産とは、無形文化遺産保護条約、無形文化遺産委員会(P.63~P.78)
 - 第8回 登録(選定)候補の評価機関、緊急保護リスト、代表リスト、国際援助(P.78~P.87)
 - 第9回 日本の無形文化遺産、無形文化遺産の今後の課題、無形文化遺産分布図(P.88~P.96)
 - 第10回 無形文化遺産保護条約と登録のフローチャート、無形文化遺産の例(P.97~P.119)
 - 第11回 世界の記憶の種類、選定基準、国際諮問委員会・補助機関、世界の記憶基金(P.121~P.130)
 - 第12回 日本の世界の記憶、国内公募の選考基準、世界の記憶の今後の課題(P.130~P.142)
 - 第13回 世界の記憶登録の選考プロセス、世界の記憶の登録推薦書式、世界の記憶の例(P.143~P.159)
 - 第14回 世界遺産・無形文化遺産・世界の記憶の比較(P.161~P.163)
 - 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答~世界遺産を通して世界の自然や文化の多様性を学ぶことの意義について~
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎回授業中に質問をするので、テキスト『世界遺産ガイドーユネスコ遺産の基礎知識ー』の該当ページを予習し、必要に応じて専門用語の意味等を調べるとともに、自分なりの意見や疑問点をまとめておくこと。ユニットの区切り(原則として5回終了後)ごとに確認小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにし、これらをまとめた学修ノートを提出すること。準備学修(予習・復習等)は合計60時間以上行うこと。本学図書館には地理学・世界遺産学関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用すること。また、オフィスアワーを設定しているので、利用すること。

【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等(10%)に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー(10%)、ユニットごとの小テスト(20%)及び学修ノート(20%)・レポート(40%)の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。遅刻2回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

古田陽久著『世界遺産ガイドーユネスコ遺産の基礎知識ー2022改訂版』(シンクタンクせとうち総合研究機構、2021年9月30日発行)。世界の気候や風土を確認するため、手持ちの地図帳を持参すること。

【参考文献】

奈良大学文学部世界遺産を考える会編『世界遺産学を学ぶ人のために』(世界思想社、2000年) 愛川フォー
ール紀子監修・古田陽久・古田真美著『世界遺産入門ーユネスコから世界を学ぶー』(シンクタンクせ
とうち総合研究機構、2007年) 松浦晃一郎著『世界遺産：ユネスコ事務局長は訴える』(講談社、2008年)
安江則子編『世界遺産学への招待』(法律文化社、2011年) ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する
。

科目名： <UGS004>くらしと経済
担当教員： 高塚 順子(TAKATSUKA Junko)

【授業の紹介】

私たちは日々、生活者として経済活動を行っています。そして、そのくらしの中で、社会・経済に関する様々なニュースに触れています。そこで、本講義では、くらしの中の身近なトピックスを概観するとともに、そのトピックスを「自分事」として捉えることで、自分と地域社会とのつながりを見出し、社会の一員であるとの自覚を促します。また、自らのライフプランを考えることで、計画性をもって生活すること、社会・経済に関する情報や知識を得ることの重要性について学びを深めます。

なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の育成に関わっています。また、学修成果「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関連しています。さらに本科目は、上級情報処理士、上級ビジネス実務士取得のための選択科目に該当します。

授業は原則対面で実施します。ただし、学修の定着度や感染症拡大状況等により授業計画や方法を途中で変更する場合があります。

Google Classroomのクラスコードは「ubxcmui」です。

【到達目標】

1. 日本における社会・経済の課題への関心を深め、自分の考えを述べることができる。
2. 個人のくらしが日本国内だけでなくグローバルな経済とつながっていることが理解できる。
3. 自らのライフプランを考えるとともに、そのプランを実現させるためには、社会人基礎力の育成が必要であることが理解できる。

【授業計画】

第1回	ガイダンス Google Classroomへの参加（クラスコード ubxcmui）
第2回	SDGs① SDGsの概要
第3回	SDGs② 2030アジェンダ
第4回	SDGs③ SDGsの達成状況
第5回	SDGs④ 消費者・生活者とSDGs
第6回	SDGs⑤ 企業とSDGs（ジェンダーを含む）
第7回	講話 大学での学びの道すじ
第8回	ライフプランを考える
第9回	国家財政① 令和4年度国家予算
第10回	国家財政② 危機的な財政状況
第11回	国家財政③ 高松税務署による「租税教室」
第12回	社会保障① 社会保障の役割
第13回	社会保障② 公的年金
第14回	香川労働局による講話 ―「働くこと」と労働法―
第15回	これまでの講義についてのまとめ（学習した重要項目の確認）と質疑応答
定期試験	

【授業時間外の学習】

配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。毎回の講義毎に、講義で学んだこと、疑問点や気づいたことを、必ずその日のうちにメモ等にまとめること（1時間）。新聞やインターネットなどのさまざまなメディアから、講義で学んだことに関連する内容について情報収集を行うこと（1時間）。また、複数回の課題を丁寧に仕上げ、期日までに提出すること（2時間）。授業の内容や学習上の問題について質問や相談がある場合は、オフィスアワーを掲示等で確認のうえ、適宜教員研究室へ質問に来ること。

【成績の評価】

評価項目は、授業態度（10%）、課題（50%）、定期試験（40%）とする。

受講生には、他の受講生に迷惑をかけることのないよう、良好な受講態度が求められる。普段の学生生活から、自分の行為に責任をもち、周囲の方々へ配慮し、思いやりをもって接することを心がけて欲しい。

受講態度が不適切な場合は、それに応じた減点をするので留意すること。また、遅刻や欠席する（した）場合は、その事実が判明した段階で可及的速やかに大学に連絡を入れること。さらに、授業の内容について理解を深めるような積極的な発問、回答の内容については、随時、評価に加点する。

なお、各評価項目や配点の詳細は、第1回のガイダンスで連絡する。定期試験終了後、模範解答を研究室外に掲示する。

【使用テキスト】

なし。プリントを随時配布する。

【参考文献】

川廷昌弘著『未来をつくる道具 わたしたちのSDGs』ナツメ社、2020年．
河口真理子著『SDGsで「変わる経済」と「新たな暮らし」』生産性出版、2020年．
折笠和文他著『日本経済の基本問題 一事例で学ぶ教養経済』実教出版株式会社、2001年．
大江英樹著『知らないと損する 経済おかねの超基本1年生』東洋経済新報社、2016年．
池上彰著『政治と経済のしくみがわかるおとな事典』講談社、2012年．

科目名： <UGN001>人間と環境
担当教員： 福家 由佳(FUKE Yuka)

【授業の紹介】

現在世界中が気候変動問題について対策を取っていく中、日本でも脱炭素社会の実現に向けて2050年に温室効果ガス排出0を目指す方針が打ち出されました。このことにより、環境に対する国民の関心は、年々高まっており、自然環境への配慮や保全等が強く求められています。

具体的には持続可能な開発目標「SDGs」を理解し、それぞれの専門分野の講師から自然環境や気候変動などと人間との関わり等について学び、自分の行動、特に環境への対策がどこに繋がりとどう広がっていくかを考え、脱炭素社会を目指した対策を取りながら持続可能な社会に向けた行動ができる力を習得するとともに、学んだことを伝える力を身に付けます。

また、質問等を随時受け付け授業中に回答します。

この授業では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の養成を目指し、地球環境問題の現状とその発生要因やメカニズムを理解し、今後の各個人の生活の在り方を考え、実践できる力と人に伝える力を養成するものです。

また、学修成果『②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

- (1) 人間と環境との関わり合いについて理解できる。
- (2) 持続可能な社会を実現するために、今、私たちが考えなければならないこと、しなければならないことについて、自分なりの見解を持ち、実践できる素養を身に付けるとともに人に伝える力を身につけることができる。
- (3) 授業は正しい解が教えられるものではなく、考える習慣や感性を身につけるものであることを理解し、実践することができる。

【授業計画】

- 第1回 授業のガイダンス(授業の目的・内容・進め方、レポート及びプレゼンテーション等について)
講師：公益財団法人香川県環境保全公社 地球温暖化防止コミュニケーター 福家由佳
- 第2回 SDGs（持続可能な開発目標）について
社会の様々な課題（特に環境問題）とSDGsとの繋がりを理解し、持続可能な世界を築くために私たちがすべきことなどを学ぶ
講師：SDGsコンサルタント等
- 第3回 脱炭素社会に向けて国の動向等について
世界中で気候変動対策が実施される中、脱炭素社会に向けて日本が目指す方向性や具体策などを学ぶ
講師：環境省四国事務所職員
- 第4回 地球温暖化による気候変動について（香川県の気候について）
地球温暖化の基礎知識や香川県での気候について現在どのように変化が起きているかなど、気象庁の具体的なデータや事例をもとに解説
講師：高松気象台職員
- 第5回 地球温暖化と生活防災について
地球の温暖化の影響はすでに日本でも起きている。地震だけでなく集中豪雨や台風といった気候変動による影響に私たちが備えるべきことを学ぶ
講師：地球温暖化防止活動推進員・防災士 古井秀樹
- 第6回 再生可能エネルギーの今とこれから 四国に適した再生可能エネルギーについて
日本国内の電源構成や、今後の脱化石燃料に向けてエネルギー源の転換について、再生可能エネルギーや自然エネルギーなどを学ぶ
講師：四国経済産業局エネルギー対策課職員
- 第7回 自然環境と持続可能な地域社会について
県内で自然環境の保全に取り組む事例や自然保護に取組みながら持続可能な地域を目指す具体的な取り組みを学び地域活動を考える
講師：農学博士 横山 昌太郎
- 第8回 エシカル消費について
地域の活性化や雇用なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動「倫理的消費(エシカル消費)」について学び自分のことだけでなく、自分以外の人や社会、環境のことを考える
講師：地球温暖化防止活動推進員・消費生活アドバイザー 片山仁子
- 第9回 地域を元気にする農業の取り組みについて
地球温暖化で起きている農作物への影響を知ること、また生産者から消費者へ直接供給する産直などで地域を元気にする取組などを考える
講師：JA香川県職員
- 第10回 プラスチックごみ食ロス等ごみ問題と対策について
現在問題になっているプラスチックごみやまだ食べられるのに捨てられている食品ロス問題を中心に香川県での廃棄物対策について学ぶ
講師：香川県廃棄物対策課職員
- 第11回 省エネ住宅設備 身近でできる住まいの省エネ
脱炭素社会に向けて切り離せない私たちの住まい、省エネ住宅（ZEH）や住宅設備の省エネ化及び家庭でできる取組を学ぶ
講師：地球温暖化防止活動推進員・(株)LIXIL 釘宮貴志
- 第12回 家電の今昔について
ここ10年あまりで急激に技術開発されている家電、昔の家電とのエネルギー消費の違いや正しい家電の使い方が省エネにつながることを学ぶ
講師：地球温暖化防止活動推進員・省エネ普及指導員 滝口隆男
- 第13回 香川県での環境活動について
香川県内の環境団体の活動事例、その中でも地球温暖化防止活動推進員について、制度の概要及び研修内容、また推進員が取り組んでいる環境活動の事例等を学ぶ
講師：公社職員 地球温暖化防止コミュニケーター 西本 真
- 第14回 個人ワーク及びグループワーク（ディスカッション）
第2~13回の講義テーマを1つ個人もしくは各グループでプレゼンテーション（短時間で人に伝えられる）できるよう、各テーマごとに発表の準備をする
講師：公益財団法人香川県環境保全公社 福家由佳・西本真
- 第15回 学生によるプレゼンテーション及び人間と環境まとめ
個人もしくは各グループ3分程度で発表（人数により時間を変更します）し、全講座を通し

ての気づきや学びを振り返る

講師：公益財団法人香川県環境保全公社 福家由佳・西本真

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

第2回目から第13回目の授業においては、講義で聞いた内容について、自分の身近な人に何を伝えて相手の反応はどうだったかなどを提出します。
また、第15回目に個人もしくはグループで担当テーマについて伝えるためのプレゼンテーションをします。

このプレゼンテーションに関して、各人の担当内容、テーマ発表で気がついたこと、学んだことなどに関する個人別のレポートの作成・提出が必要です。

授業時間外の学習時間は、毎授業ごとに予習1.0時間、復習3時間（身近な人に伝え感想を聞く、プレゼンテーションの準備など）が必要です。

【成績の評価】

成績の評価は、各講義のあとの確認テストとレポート（30分以内で記入）を提出してもらいます。
問題の回答とレポート内容60%、プレゼンテーション30%、授業への参加状況(出席ではなくディスカッションへの参加状況、意見発表、質問など)10%とします。また、レポート・試験答案等は、希望する者に、返却します。
各授業に公社職員が同行し評価をします。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

・新しい環境学（環境問題の基礎知識をマスターする） 著者 鈴木孝弘

・IPCC第6次評価報告書統合報告書政策決定者向け要約他
<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/index.html>

その他適宜各講師により紹介

科目名： <UGS001> ボランティア
担当教員： 蓮井 孝夫 (HASUI Takao)

【授業の紹介】

この授業では、ボランティア活動実施に当たり、活動の意義や社会的な役割などの基礎的知識を「ワークショップ」などのアクティブラーニングを通じ、対話的・主体的な深い学びをします。ボランティア活動実施の準備として、教室内では、様々な活動への情報提供を各種団体から受けます。あわせて各種団体から活動スキルを学びます。また学外ボランティア活動を自主的に体験（必須）することは、多くの異世代の人たちと出会い、心豊かな社会人の第一歩となるでしょう。積極的な活動参加を期待しています。上記に述べた講義内容を体験・理解することで、豊かな人間性や地域の課題に気づき、社会的課題を解決する力や社会に貢献できる力を培い、幅広い教養を養います。また、予測困難な時代にあって、主体的に考える力・感じ取る力・表現する力・行動する力を持つためにボランティア活動の体験は大いに意義あることです。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力、2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

- ① ボランティアについての概要を理解できる。
- ② ボランティア活動を通じて、視野を広げることができる。
- ③ 様々な立場の人と接することで、コミュニケーション能力を向上させることができる。
- ④ ボランティア活動の実体験から、自らの新しい価値観が生み出され、身につけることができる。
- ⑤ 社会性をもったボランティア活動は、社会の構成員としての自覚を認識させてくれ、社会的課題解決に取り組めることができる。
- ⑥ 「自ら学び、自ら考え、自ら気づき、自ら表現し、自ら行動し、社会的課題を解決する資質や能力」を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション ボランティア活動基礎① NPO活動情報・高松市民活動センター（講義70% 演習30%）
- 第2回 ボランティア活動基礎② NPO活動情報・セカンド・ハンド（講義70% 演習30%）
- 第3回 ボランティア活動基礎③ NPO活動情報・高松ボランティア協会（講義70% 演習30%）
- 第4回 ボランティア活動基礎④ NPO活動情報・四国ESD活動支援センター（講義70% 演習30%）
- 第5回 ボランティア活動現場① 講義&ワーク・折り紙（講義50% 演習50%）
- 第6回 ボランティア活動現場② 講義&ワーク・年長さんとの遊び・DVD 幼児の遊び（講義50% 演習50%）
- 第7回 ボランティア活動現場③ 講義&ワーク・幼児との手遊びなど（講義50% 演習50%）
- 第8回 ボランティア活動現場④ 講義&ワーク・幼児への紙芝居・絵本読み聞かせ（講義50% 演習50%）
- 第9回 ボランティア活動基礎⑤ 講義&ワーク・手話通訳（講義50% 演習50%）
- 第10回 ボランティア活動基礎⑥ 講義&ワーク・大島青松園・ハンセン病元患者理解（講義70% 演習30%）
- 第11回 ボランティア活動基礎⑦ 講義&ワーク・手記「高松空襲の絵本」づくり（講義70% 演習30%）
- 第12回 ボランティア活動基礎⑧ 講義&ワーク・子どもミュージカル活動（講義70% 演習30%）
- 第13回 ボランティア活動講義② 講義&ワーク・ボランティア活動理論まとめ①（講義80% 演習20%）
- 第14回 ボランティア活動講義③ 講義&ワーク・ボランティア活動理論まとめ②（講義80% 演習20%）
- 第15回 ボランティア活動基礎④ 講義&ワーク・活動のまとめ・発表③（講義50% 演習50%）
- 定期試験 授業の内容から特に重要と思われる内容について出題します。

【授業時間外の学習】

授業の形式は「2E」ですが、週1コマの講義と、それ以外に4月から8月下旬までに、自らボランティア活動先を探し（教師からも情報提供）、学外活動を15コマ程度実施する必要がある、地域での活動に積極的に参加しよう。そして多くの人々とつながっていきましょう。

授業では毎回レジュメ配布し、最後に「授業ふりかえりレポート」を復習（2時間以上）として課し、自宅等でレジュメを再読し、自分の変化や成長・感想・意見を記述して次回の授業の冒頭に提出のこと。また毎回の授業の最後に次週のテーマについて調べる課題（予習1時間以上）を出します。事前にキーワードで検索したり、図書館で関連する本を読んだりして予習すること。事前に知っておくことによって授業での課題のディスカッションが活発にできるようになります。質問等については、「授業ふりかえりレポート」に記述すること。もしくはオフィスアワーを設定していますので日時を確認の上、質問・相談に来ること。

【成績の評価】

学外ボランティア活動・受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行います）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

【参考文献】

藤田久美編著「大学生のためのボランティア活動ハンドブック」（ふくろう出版）
岡本栄一・菅井直也・妻鹿ふみ子著「学生のためにボランティア論」（大阪ボランティア協会）
巡静一・早瀬昇著「基礎から学ぶボランティアの理論と実際」（中央出版）
ホールファミリーケア協会編「新傾聴ボランティアのすすめ」（三省堂）

科目名： <UBL001> 日本語表現基礎Ⅰ

担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校の現場での教科指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

主に、各種の教育現場の職務に必要な日本語の基礎を内容としています。ディスカッションやプレゼンテーションなどを取り入れ、発言力の養成に努めます。

この授業科目では、卒業認定・学位授与方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力、2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力・②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

学生が、日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けることができます。

学生が、文章や情報を正確に読み解き、対話する力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができます。

学生が、今後の様々な社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けることができます。

【授業計画】

- 第1回 日本語について
- 第2回 日本語の文字と表記
- 第3回 仮名及び仮名遣い
- 第4回 現代仮名遣い
- 第5回 現代仮名遣いトレーニング
- 第6回 日本語の音韻
- 第7回 日本語の種類
- 第8回 日本語の文法
- 第9回 日本語の文法トレーニング
- 第10回 敬語表現：尊敬語
- 第11回 敬語表現：尊敬語トレーニング
- 第12回 敬語表現：謙譲語
- 第13回 敬語表現：謙譲語トレーニング
- 第14回 敬語表現：丁寧語
- 第15回 敬語表現：丁寧語トレーニング

※定期試験を実施します。

【授業時間外の学習】

予習として、前回授業での提示課題を考えておくこと。(2時間)

復習として、毎回の授業で学修した資料を完成させ、指定期日までに提出すること。(2時間)

【成績の評価】

- ①授業に対する取組み姿勢を評価します。
- ②授業で学習したノートを評価します。
- ③上記①と②の合計(30%)と定期試験の結果(70%)を合わせて総合的に評価します。

※フィードバック

定期試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

自作資料集

なお、毎時、国語辞書を持参すること。

【参考文献】

保育所保育指針(平成29年3月厚生労働省告示)

幼稚園教育要領(平成29年3月文部科学省告示)

小学校学習指導要領(平成29年3月文部科学省告示)

関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： <UBL001>日本語表現基礎Ⅰ【留】

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、外国人留学生が専門書などの論理的な文章を読むために必要な基礎的な読解技術の養成を目的としています。日本人学生は受講することができません。

4つの読解ストラテジーに分け、段階的にレベルアップを図ります。①「1文を理解するストラテジー」では、文法を意識しながら長くて複雑な1文をしっかり理解するトレーニングを行います。②「文の連続を理解するストラテジー」では、指示詞、省略、関連語句を意識しながら、連続する文を正しく理解するトレーニングを行います。③「文章の展開を理解するストラテジー」では、文章の展開を示す表現に着目しながら、文章の構造と筆者の言いたいことを鋭く見抜くトレーニングを行います。④「知識を使って理解するストラテジー」では、読者の持っている知識を用いて文章の理解をスムーズにするトレーニングを行います。各課の読解ストラテジーを通して、複雑な文章を正確に理解し、筆者の言いたいことを素早く見抜ける読解能力を養成します。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「豊かな人間性や主体的に生きる力」「課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。

また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関連しています。

【到達目標】

- ①修飾関係を正しく理解できる。
- ②キーワードを素早く見つけることができる。
- ③文のつながりを正しく理解できる。
- ④指示詞の指す内容を正しく理解できる。
- ⑤省略されている情報が何かを理解できる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	第1課「語のまとまりをとらえましょう」①考えてみよう
第3回	〃〃②試してみよう
第4回	第2課「する/される」の関係をつかみましょう①考えてみよう
第5回	〃〃②試してみよう
第6回	第3課「文の構造をとらえましょう」①考えてみよう
第7回	〃〃②試してみよう
第8回	第4課「前件と後件の関係をつかみましょう」①考えてみよう
第9回	〃〃②試してみよう
第10回	第5課「『これ』『それ』が指すものを考えましょう」①考えてみよう
第11回	〃〃②試してみよう
第12回	第6課「省略されているものが何か考えましょう」①考えてみよう
第13回	〃〃②試してみよう
第14回	第7課「関連のある言葉を探しましょう」①考えてみよう
第15回	〃〃②試してみよう
定期試験	

【授業時間外の学習】

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくる。こと。（1時間）また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。

（計15時間）

オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にくること。

【成績の評価】

レポート・授業中の発表（25%）、小テスト（25%）、定期試験（50%）

レポート・小テストは、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

『留学生のための読解トレーニング ― 読む力がアップする15のポイント』石黒圭編著、熊田道子・筒井千絵・Olga Pokrovska・山田裕美子著、凡人社、2011年、1,800円＋税

【参考文献】

『留学生のための ここが大切 文章表現ルール』石黒圭・筒井千絵著、スリーエーネットワーク、2009年、1,600円＋税

科目名： <UBL001> 日本語表現法Ⅰ
担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校の現場での教科指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

主に、各種の教育現場の職務に必要な日本語の基礎を内容としています。ディスカッションやプレゼンテーションなどを取り入れ、発言力の養成に努めます。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力、2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

学生が、日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けることができます。

学生が、文章や情報を正確に読み解き、対話する力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができます。

学生が、今後の様々な社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けることができます。

【授業計画】

- 第1回 日本語について
- 第2回 日本語の文字と表記
- 第3回 仮名及び仮名遣い
- 第4回 現代仮名遣い
- 第5回 現代仮名遣いトレーニング
- 第6回 日本語の音韻
- 第7回 日本語の種類
- 第8回 日本語の文法
- 第9回 日本語の文法トレーニング
- 第10回 敬語表現：尊敬語
- 第11回 敬語表現：尊敬語トレーニング
- 第12回 敬語表現：謙譲語
- 第13回 敬語表現：謙譲語トレーニング
- 第14回 敬語表現：丁寧語
- 第15回 敬語表現：丁寧語トレーニング

※定期試験を実施します。

【授業時間外の学習】

予習として、前回授業での提示課題を考えておくこと。(2時間)

復習として、毎回の授業で学修したノートを完成させ、指定期日までに提出すること。(2時間)

【成績の評価】

- ①授業に対する取組み姿勢を評価します。
- ②授業で学習したノートを評価します。
- ③上記①と②の合計（30％）と定期試験の結果（70％）を合わせて総合的に評価します。

※フィードバック

定期試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

自作資料集

なお、毎時、国語辞書を持参すること。

【参考文献】

保育所保育指針（平成29年3月厚生労働省告示）

幼稚園教育要領（平成29年3月文部科学省告示）

小学校学習指導要領（平成29年3月文部科学省告示）

関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： <UBL001>日本語表現法Ⅰ【留】

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、外国人留学生が専門書などの論理的な文章を読むために必要な基礎的な読解技術の養成を目的としています。日本人学生は受講することができません。

4つの読解ストラテジーに分け、段階的にレベルアップを図ります。①「1文を理解するストラテジー」では、文法を意識しながら長くて複雑な1文をしっかり理解するトレーニングを行います。②「文の連続を理解するストラテジー」では、指示詞、省略、関連語句を意識しながら、連続する文を正しく理解するトレーニングを行います。③「文章の展開を理解するストラテジー」では、文章の展開を示す表現に着目しながら、文章の構造と筆者の言いたいことを鋭く見抜くトレーニングを行います。④「知識を使って理解するストラテジー」では、読者の持っている知識を用いて文章の理解をスムーズにするトレーニングを行います。各課の読解ストラテジーを通して、複雑な文章を正確に理解し、筆者の言いたいことを素早く見抜ける読解能力を養成します。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。

また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関連しています。

【到達目標】

- ①修飾関係を正しく理解できる。
- ②キーワードを素早く見つけることができる。
- ③文のつながりを正しく理解できる。
- ④指示詞の指す内容を正しく理解できる。
- ⑤省略されている情報が何かを理解できる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	第1課「語のまとまりをとらえましょう」①考えてみよう
第3回	〃〃②試してみよう
第4回	第2課「する/される」の関係をつかみましょう①考えてみよう
第5回	〃〃②試してみよう
第6回	第3課「文の構造をとらえましょう」①考えてみよう
第7回	〃〃②試してみよう
第8回	第4課「前件と後件の関係をつかみましょう」①考えてみよう
第9回	〃〃②試してみよう
第10回	第5課「『これ』『それ』が指すものを考えましょう」①考えてみよう
第11回	〃〃②試してみよう
第12回	第6課「省略されているものが何か考えましょう」①考えてみよう
第13回	〃〃②試してみよう
第14回	第7課「関連のある言葉を探しましょう」①考えてみよう
第15回	〃〃②試してみよう
定期試験	

【授業時間外の学習】

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくる。こと。（1時間）また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（計15時間）

オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にくること。

【成績の評価】

レポート・授業中の発表（25%）、小テスト（25%）、定期試験（50%）

レポート・小テストは、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

『留学生のための読解トレーニング ― 読む力がアップする15のポイント』石黒圭編著、熊田道子・筒井千絵・Olga Pokrovska・山田裕美子著、凡人社、2011年、1,800円＋税

【参考文献】

『留学生のための ここが大切 文章表現ルール』石黒圭・筒井千絵著、スリーエーネットワーク、2009年、1,600円＋税

科目名： <UBL002> 日本語表現基礎Ⅱ

担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校の現場での教科指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

主に、各種の教育現場の職務に必要な日本語の基礎を内容としています。ディスカッションやプレゼンテーションなどを取り入れ、発言力の養成に努めます。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力、2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

学生が、日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けることができます。

学生が、文章や情報を正確に読み解き、対話する力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができます。

学生が、今後の様々な社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けることができます。

【授業計画】

- 第1回 人権を傷つける恐れのある言葉・他
- 第2回 アカデミックワード
- 第3回 熟字訓・当て字
- 第4回 文脈により読みと意味が変わる漢字
- 第5回 間違いやすい語句
- 第6回 間違いやすい重言
- 第7回 間違いやすい慣用句
- 第8回 間違いやすい類似語
- 第9回 間違いやすい外来語表現
- 第10回 間違いやすい外来語
- 第11回 助数詞の使い方
- 第12回 簡潔な表現
- 第13回 故事成語の世界
- 第14回 形容詞の多義性
- 第15回 文章表現トレーニング

※定期試験を実施します。

【授業時間外の学習】

予習として、前回授業での提示課題を考えておくこと。(2時間)

復習として、毎回の授業で学修した資料を完成させ、指定期日までに提出すること。(2時間)

【成績の評価】

①授業に対する取組み姿勢を評価します。

②授業で学習したノートを評価します。

③上記①と②の合計(30%)と定期試験の結果(70%)を合わせて総合的に評価します。

※フィードバック

定期試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

自作資料集

なお、毎時、国語辞書を持参すること。

【参考文献】

保育所保育指針(平成29年3月厚生労働省告示)

幼稚園教育要領(平成29年3月文部科学省告示)

小学校学習指導要領(平成29年3月文部科学省告示)

関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

本講義は、「日本語表現基礎Ⅰ」に引き続き、外国人留学生が専門書などの論理的文章を読むために必要な基礎的な読解技術の養成を目的としています。日本人学生は受講することができません。

4つの読解ストラテジーに分け、段階的にレベルアップを図ります。①「1文を理解するストラテジー」では、文法を意識しながら長くて複雑な1文をしっかりと理解するトレーニングを行います。②「文の連続を理解するストラテジー」では、指示詞、省略、関連語句を意識しながら、連続する文を正しく理解するトレーニングを行います。③「文章の展開を理解するストラテジー」では、文章の展開を示す表現に着目しながら、文章の構造と筆者の言いたいことを鋭く見抜くトレーニングを行います。④「知識を使って理解するストラテジー」では、読者の持っている知識を用いて文章の理解をスムーズにするトレーニングを行います。各課の読解ストラテジーを通して、複雑な文章を正確に理解し、筆者の言いたいことを素早く見抜ける読解能力を養成します。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。

また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関連しています。

①文章の内容をできるだけ短時間で理解できる。
②複雑な文章の展開を理解できる。
③難しい言葉があっても、内容を想像しながら読むことができる。
④筆者の言いたいことを素早く見抜くことができる。

第1回	第8課	「文末に着目して筆者の意見を見抜きましょう」	①考えてみよう
第2回	第8課	「」	②試してみよう
第3回	第9課	「筆者の立場を見分けましょう」	①考えてみよう
第4回	第9課	「」	②試してみよう
第5回	第10課	「大切なことを伝えるサインをつかみましょう」	①考えてみよう
第6回	第10課	「」	②試してみよう
第7回	第11課	「目印を使って内容を整理しましょう」	①考えてみよう
第8回	第11課	「」	②試してみよう
第9回	第12課	「内容を素早く理解しましょう」	①考えてみよう
第10回	第12課	「」	②試してみよう
第11回	第13課	「文章の話題を見抜きましょう」	①考えてみよう
第12回	第13課	「」	②試してみよう
第13回	第14課	「ストーリーを上手に読みましょう」	①考えてみよう
第14回	第14課	「」	②試してみよう
第15回	第15課	「読み間違いを見つけましょう」	①考えてみよう
定期試験			

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってもらうこと。(1時間) また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。(計15時間)

オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にくること。

レポート・授業中の発表（25％）、小テスト（25％）、定期試験（50％）
レポート・小テストは、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講
評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻3回で欠席1回とみなす。

『留学生のための読解トレーニングー読む力がアップする15のポイント』石黒圭編著、熊田道子・筒井千絵・Olga Pokrovska・山田裕美子著、凡人社、2011年、1,800円＋税

『留学生のための ここが大切 文章表現ルール』石黒圭・筒井千絵著、スリーエーネットワーク、2009年、1,600円＋税

科目名： <UBL002> 日本語表現法 II
担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校の現場での教科指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

主に、各種の教育現場の職務に必要な日本語の基礎を内容としています。ディスカッションやプレゼンテーションなどを取り入れ、発言力の養成に努めます。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力、2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

学生が、日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けることができます。

学生が、文章や情報を正確に読み解き、対話する力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができます。

学生が、今後の様々な社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けることができます。

【授業計画】

- 第1回 人権を傷つける恐れのある言葉・他
- 第2回 アカデミックワード
- 第3回 熟字訓・当て字
- 第4回 文脈により読みと意味が変わる漢字
- 第5回 間違いやすい語句
- 第6回 間違いやすい重言
- 第7回 間違いやすい慣用句
- 第8回 間違いやすい類似語
- 第9回 間違いやすい外来語表現
- 第10回 間違いやすい外来語
- 第11回 助数詞の使い方
- 第12回 簡潔な表現
- 第13回 故事成語の世界
- 第14回 形容詞の多義性
- 第15回 文章表現トレーニング

※定期試験を実施します。

【授業時間外の学習】

予習として、前回授業での提示課題を考えておくこと。(2時間)

復習として、毎回の授業で学修した資料を完成させ、指定期日までに提出すること。(2時間)

【成績の評価】

①授業に対する取組み姿勢を評価します。

②授業で学習したノートを評価します。

③上記①と②の合計(30%)と定期試験の結果(70%)を合わせて総合的に評価します。

※フィードバック

定期試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

自作資料集

なお、毎時、国語辞書を持参すること。

【参考文献】

保育所保育指針(平成29年3月厚生労働省告示)

幼稚園教育要領(平成29年3月文部科学省告示)

小学校学習指導要領(平成29年3月文部科学省告示)

関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： <UBL002>日本語表現法Ⅱ【留】

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、「日本語表現法Ⅰ」に引き続き、外国人留学生在が専門書などの論理的な文章を読むために必要な基礎的な読解技術の養成を目的としています。日本人学生は受講することができません。4つの読解ストラテジーに分け、段階的にレベルアップを図ります。①「1文を理解するストラテジー」では、文法を意識しながら長くて複雑な1文をしっかりと理解するトレーニングを行います。②「文の連続を理解するストラテジー」では、指示詞、省略、関連語句を意識しながら、連続する文を正しく理解するトレーニングを行います。③「文章の展開を理解するストラテジー」では、文章の展開を示す表現に着目しながら、文章の構造と筆者の言いたいことを鋭く見抜くトレーニングを行います。④「知識を使って理解するストラテジー」では、読者の持っている知識を用いて文章の理解をスムーズにするトレーニングを行います。各課の読解ストラテジーを通して、複雑な文章を正確に理解し、筆者の言いたいことを素早く見抜ける読解能力を養成します。なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関連しています。

【到達目標】

- ①文章の内容をできるだけ短時間で理解できる。
- ②複雑な文章の展開を理解できる。
- ③難しい言葉があっても、内容を想像しながら読むことができる。
- ④筆者の言いたいことを素早く見抜くことができる。

【授業計画】

第1回	第8課「文末に着目して筆者の意見を見抜きましょう」①考えてみよう
第2回	// ②試してみよう
第3回	第9課「筆者の立場を見分けましょう」①考えてみよう
第4回	// ②試してみよう
第5回	第10課「大切なことを伝えるサインをつかみましょう」①考えてみよう
第6回	// ②試してみよう
第7回	第11課「目印を使って内容を整理しましょう」①考えてみよう
第8回	// ②試してみよう
第9回	第12課「内容を素早く理解しましょう」①考えてみよう
第10回	// ②試してみよう
第11回	第13課「文章の話題を見抜きましょう」①考えてみよう
第12回	// ②試してみよう
第13回	第14課「ストーリーを上手に読みましょう」①考えてみよう
第14回	// ②試してみよう
第15回	第15課「読み間違いを見つけましょう」①考えてみよう
定期試験	

【授業時間外の学習】

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。（1時間）また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（計15時間）

オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にくること。

【成績の評価】

レポート・授業中の発表（25%）、小テスト（25%）、定期試験（50%）

レポート・小テストは、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

『留学生のための読解トレーニング ― 読む力がアップする15のポイント』石黒圭編著、熊田道子・筒井千絵・Olga Pokrovska・山田裕美子著、凡人社、2011年、1,800円＋税

【参考文献】

『留学生のための ここが大切 文章表現ルール』石黒圭・筒井千絵著、スリーエーネットワーク、2009年、1,600円＋税

科目名： <UBM001>数学基礎
担当教員： 土井 理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校・特別支援学校での学校現場指導を活かし、具体的な数学に関する事例を示しながら授業していきます。身近な生活の中にある課題や古典的課題に対して、数学のさまざまな考え方を活用して、根拠を基に筋道立てて考え、その解決方法を見つけるために、あなたが考え、あなたが解決する時間です。じっくりと考えること、多面的に考えることの面白さを体験し、数学的思考を高めていきましょう。
なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関する知識、技能の修得をめざします。また、学修成果『②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

1. 与えられた課題を理解し、解決方法を見つけることができる。
2. 各自の考えた解決策を相互に検討し、解答を導くことができる。
3. 自分のアイデアや解法をみんなに分かるように説明（証明）することができる。

【授業計画】

第1回 ガイダンス、はじめの問題
第2回 数と式
第3回 数の性質（1）：倍数と約数
第4回 数の性質（2）：小数と分数、n進数
第5回 方程式と不等式の解法
第6回 方程式と不等式の応用
第7回 図形と方程式
第8回 生活の中の数学（1）：お金に関する話題
第9回 生活の中の数学（2）：量に関する話題
第10回 生活の中の数学（3）：変化に関する話題
第11回 数の規則性
第12回 集合と論理
第13回 場合の数と確率
第14回 図形の性質（1）：角度に関する話題
第15回 図形の性質（2）：面積等に関する話題
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。次の点に留意しましょう。
・毎回の授業の終わりに出す課題に取り組み、次回の授業の最初にレポートとして提出する。（2時間）
・次回の授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（2時間）

【成績の評価】

受講態度（20%） 課題レポート（40%） 最終課題レポート（40%）
・毎回の授業の最初に、課題レポートを提出する（コメントを記入して返却します）。
・最終課題（①数学を学ぶ意義 ②身近な生活の中にある数学）についてのレポートを作成し、第15回の最終授業時に提出する。

【使用テキスト】

教材として、授業プリントを準備し、予習ができるよう、事前に配布します。

【参考文献】

『「数学」はこんなところで役に立つ』、白取春彦、青春出版社、2005
『大人のための数学勉強法—どんな問題も解ける10のアプローチ』、永野裕之、ダイヤモンド社、2012
『算数から数学まで まるごと8時間でわかる本』、何森仁、小沢健一、明日香出版社、2014
『本当はすごい小学算数』、小田敏弘、日本実業出版社、2015
『算数少女ミカ 割合なんて、こわくない!』、石原清貴、日本評論社、2018
『改訂版 中学校3年間の数学が1冊でしっかりわかる本』、小杉 拓也、2021

科目名： <UBE101>英語基礎Ⅰ

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This class will be a basic conversation class in English. It will closely follow the syllabus of the book, and will use an active learning model that will engage students in communication in each and every class. Students will be expected to use basic English and communicate with each other and the instructor. Classes will begin with a review of the previous week's activities and then move on to new material.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

The main goal of the class is to enhance the students' abilities in the followings.

1. Students can use English in everyday situations.
2. Students can make explanations about cultural information with materials in the textbook.
3. Students can evaluate how they have progressed after each class.

【授業計画】

第1回Orientation

第2回Introductions

第3回Unit 1 Preparing to travel

第4回Unit 1 On the airplane

第5回quiz Followed by introduction of next phase

第6回Unit 2 At the airport

第7回Unit 2 Talking to Immigration

第8回Writing Day. Students will choose from various topics to write about

第9回Unit 3 Changing Money

第10回Unit 3 Using an ATM

第11回Quiz Followed by introduction of next phase

第12回Unit 4 Renting a room in a hotel

第13回Unit 4 Talking to a clerk on the telephone

第14回Unit 5 Directions and test practice

第15回Review of the course for the final quiz

Examination in the regular period

【授業時間外の学習】

Students will be given short topics to prepare for the next week, based on the study material for that week. (1hour) This will be used in the review of the previous weeks materials at the beginning of the next class. (1hour)

【成績の評価】

25% of the students' grades will be based on participation and homework from the previous week. The other 75% of the course will be based on the first two quizzes 25% each and the final quiz 50%

Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Passport 1 Second Edition

by Angela Buckingham, Lewis Lansford

9780194718165 (10-digit ISBN: 0194718166)

Oxford University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCP101>プラクティカル・イングリッシュⅠ
担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This class will be a basic conversation class in English. It will closely follow the syllabus of the book, and will use an active learning model that will engage students in communication in each and every class. Students will be expected to use basic English and communicate with each other and the instructor. Classes will begin with a review of the previous week's activities and then move on to new material.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

The main goal of the class is to enhance the students' abilities in the followings.

1. Students can use English in everyday situations.
2. Students can make explanations about cultural information with materials in the textbook.
3. Students can evaluate how they have progressed after each class.

【授業計画】

第1回Orientation
第2回Introductions
第3回Unit 1 Preparing to travel
第4回Unit 1 On the airplane
第5回quiz Followed by introduction of next phase
第6回Unit 2 At the airport
第7回Unit 2 Talking to Immigration
第8回Writing Day. Students will choose from various topics to write about
第9回Unit 3 Changing Money
第10回Unit 3 Using an ATM
第11回Quiz Followed by introduction of next phase
第12回Unit 4 Renting a room in a hotel
第13回Unit 4 Talking to a clerk on the telephone
第14回Unit 5 Directions and test practice
第15回Review of the course for the final quiz
Examination in the regular period

【授業時間外の学習】

Students will be given short topics to prepare for the next week, based on the study material for that week. (1hour) This will be used in the review of the previous weeks materials at the beginning of the next class. (1hour)

【成績の評価】

25% of the students' grades will be based on participation and homework from the previous week. The other 75% of the course will be based on the first two quizzes 25% each and the final quiz 50%

Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Passport 1 Second Edition
by Angela Buckingham, Lewis Lansford
9780194718165 (10-digit ISBN: 0194718166)
Oxford University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UBE102>英語基礎Ⅱ

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This class will be a basic conversation class in English. It will closely follow the syllabus of the book, and will use an active learning model that will engage students in communication in each and every class. Students will be expected to use basic English and communicate with each other and the instructor. Classes will begin with a review of the previous week's activities and then move on to new material. Students must complete '基礎英語I' before taking this course.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

The main goal of the class is to enhance the students' abilities in the followings.

1. Students can catch more chances to use English in everyday situations.
2. Students can make better explanations about cultural information with materials in the textbook.
3. Students can evaluate their progress and plan their improvement after each class.

【授業計画】

- 第1回Orientation
 - 第2回Unit 6 Homestays
 - 第3回Unit 6 Household appliances
 - 第4回Quiz Followed by introduction of next phase
 - 第5回Unit 7 At the doctor
 - 第6回Unit 7 I am sick
 - 第7回Writing Day
 - 第8回Unit 8 Are you free?
 - 第9回Unit 8 Making appointments
 - 第10回Quiz Followed by introduction of next phase
 - 第11回Unit 9 In a restaurant
 - 第12回Unit 9 Ordering
 - 第13回Making conversations. Speaking quiz
 - 第14回Review for the final exam
 - 第15回Review of the course for the final quiz
- Examination in the regular period

【授業時間外の学習】

Students will be given short topics to prepare for the next week, based on the study material for that week. (1hour) This will be used in the review of the previous weeks materials at the beginning of the next class. (1hour)

【成績の評価】

30% of the students' grades will be based on participation and homework from the previous week. The other 70% of the course will be based on the first two quizzes 25% each and the final quiz 50%

Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Passport 1 Second Edition
by Angela Buckingham, Lewis Lansford
9780194718165 (10-digit ISBN: 0194718166)
Oxford University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCP102>プラクティカル・イングリッシュII
担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This class will be a basic conversation class in English. It will closely follow the syllabus of the book, and will use an active learning model that will engage students in communication in each and every class. Students will be expected to use basic English and communicate with each other and the instructor. Classes will begin with a review of the previous week's activities and then move on to new material. Students must complete 'プラクティカル・イングリッシュI' before taking this course.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

The main goal of the class is to enhance the students' abilities in the followings.

1. Students can catch more chances to use English in everyday situations.
2. Students can make better explanations about cultural information with materials in the textbook.
3. Students can evaluate their progress and plan their improvement after each class.

【授業計画】

第1回Orientation
第2回Unit 6 Homestays
第3回Unit 6 Household appliances
第4回Quiz Followed by introduction of next phase
第5回Unit 7 At the doctor
第6回Unit 7 I am sick
第7回Writing Day
第8回Unit 8 Are you free?
第9回Unit 8 Making appointments
第10回Quiz Followed by introduction of next phase
第11回Unit 9 In a restaurant
第12回Unit 9 Ordering
第13回Making conversations. Speaking quiz
第14回Review for the final exam
第15回Review of the course for the final quiz
Examination in the regular period

【授業時間外の学習】

Students will be given short topics to prepare for the next week, based on the study material for that week. (1hour) This will be used in the review of the previous weeks materials at the beginning of the next class. (1hour)

【成績の評価】

30% of the students' grades will be based on participation and homework from the previous week. The other 70% of the course will be based on the first two quizzes 25% each and the final quiz 50%

Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Passport 1 Second Edition
by Angela Buckingham, Lewis Lansford
9780194718165 (10-digit ISBN: 0194718166)
Oxford University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UD0101>数理データサイエンスと未来【発】
担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi),土井 理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】

Society 5.0社会が到来し、大学での教育も大きく変化しようとしている。様々な課題解決の場においてもビッグデータやAIが活用される社会となっている。このような状況において数理・データサイエンス・Aの知識や技術は、大変重要なテーマである。本講義では、入学当初に、・社会で起きている変化、・データ・AI利活用の最新動向、・社会で活用されているデータ、・データ・AI利活用のための技術、・AI利活用の現場・AIの活用領域を中心に、STEAM教育の観点も含めSociety 5.0を実現するための学習として授業を行う。なお授業にたっては学習管理システム（LMS）などを活用して授業を行う。卒業認定・学位授与の方針の、「2.課題に気づいて課題解決する力や社会に貢献できる力を養うため」に、この科目がおかれている。

なお、学修成果『②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

Society 5.0を実現する社会を理解することができる。
Society 5.0社会においても豊かな人間性をはっきできる。

- ・ Society 5.0社会で起きている事柄の理解

- ・ データ・AI利活用の最新動向
- ・ 社会で活用されているデータ
- ・ データ・AIの活用領域
- ・ データ・AI利活用のための技術
- ・ データ・AI利活用の現場

以上の理解が図れる。

【授業計画】

- 第1回 What's 数理・データサイエンス・AI（体験で学ぶSociety5.0）
 - 第2回 What's 数理・データサイエンス・AI（数学、Computer Science、Data Scienceの領域）
 - 第3回 数理・データサイエンス・AI（第4次産業革命、データ駆動型社会、身近なIoTを体験）
 - 第4回 身近な生活の中にあるデータを利活用する事を学ぶ
 - 第5回 数理・データサイエンス・AIで何
 - 第6回 ・社会で活用されているデータ
 - 第7回 社会で活用されているデータ利活用してみよう
 - 第8回 データ・AIの活用領域 第9回 データ・AIの活用領域
 - 第10回 データ・AI利活用のための技術（Technology）
 - 第11回 データ・AI利活用のための技術（Technology）
 - 第12回 データ・AI利活用の現場
 - 第13回 データ・AI利活用の現場
 - 第14回 データ・AI利活用の現場
 - 第15回 数理・データサイエンス・AI 将来
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間以外の学習は毎回4時間以上とし、授業の終りに、課題を出しますので、次回授業に必ず提出してください。

【成績の評価】

提出物50%、小テスト50%により評価を行う。

提出物は、評価して返却する。小テストは、模範解答を小テストの次の授業で解説することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

図書一般

世界を変えるSTEAM人材 シリコンバレー「デザイン思考」の核心（朝日新書）ヤング吉原麻里子著朝日新聞出版 2019など

東京大学のデータサイエンティスト育成講座 Pythonで手を動かして学ぶデータ分析 塚本邦尊，山田典一，大澤文孝（著），中山浩太郎（監修），松尾 豊[協力] マイナビ出版 2019

科目名： <UG0101>総合講座【発】

担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi),土井 理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】

Society 5.0社会が到来し、大学での教育も大きく変化しようとしている。様々な課題解決の場においてもビッグデータやAIが活用される社会となっている。このような状況において数理・データサイエンス・AIの知識や技術は、大変重要なテーマである。本講義では、入学当初に、・ 社会で起きている変化、・ データ・AI利活用の最新動向、・ 社会で活用されているデータ、・ データ・AI利活用のための技術、・ AI利活用の現場・AIの活用領域を中心に、STEAM教育の観点も含めSociety 5.0を実現するための学習として授業を行う。なお授業にたっては学習管理システム(LMS)などを活用して授業を行う。

卒業認定・学位授与の方針の、「2.課題に気づいて課題解決する力や社会に貢献できる力を養うため」に、この科目がおかれている。

なお、学修成果『②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

Society 5.0を実現する社会を理解することができる。

Society 5.0社会においても豊かな人間性をはっきできる。

- ・ Society 5.0社会で起きている事柄の理解
 - ・ データ・AI利活用の最新動向
 - ・ 社会で活用されているデータ
 - ・ データ・AIの活用領域
 - ・ データ・AI利活用のための技術
 - ・ データ・AI利活用の現場
- 以上の理解が図れる。

【授業計画】

- 第1回 What's 数理・データサイエンス・AI (体験で学ぶSociety5.0)
 - 第2回 What's 数理・データサイエンス・AI (数学、Computer Science、Data Scienceの領域)
 - 第3回 数理・データサイエンス・AI (第4次産業革命、データ駆動型社会、身近なIoTを体験)
 - 第4回 身近な生活の中にあるデータを利活用する事を学ぶ
 - 第5回 数理・データサイエンス・AIで何
 - 第6回 ・ 社会で活用されているデータ
 - 第7回 ・ 社会で活用されているデータ利活用してみよう
 - 第8回 データ・AIの活用領域 第9回 データ・AIの活用領域
 - 第10回 データ・AI利活用のための技術 (Technology)
 - 第11回 データ・AI利活用のための技術 (Technology)
 - 第12回 データ・AI利活用の現場
 - 第13回 データ・AI利活用の現場
 - 第14回 データ・AI利活用の現場
 - 第15回 数理・データサイエンス・AI 将来
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間以外の学習は毎回4時間以上とし、授業の終わりに、課題を出しますので、次回授業に必ず提出してください。

【成績の評価】

提出物50%、小テスト50%により評価を行う。

提出物は、評価して返却する。小テストは、模範解答を小テストの次の授業で解説することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

図書一般

世界を変えるSTEAM人材 シリコンバレー「デザイン思考」の核心 (朝日新書)ヤング吉原麻里子著朝日新聞出版 2019など

東京大学のデータサイエンティスト育成講座 Pythonで手を動かして学ぶデータ分析 塚本邦尊, 山田典一, 大澤文孝 (著), 中山浩太郎 (監修), 松尾 豊[協力] マイナビ出版 2019

科目名： <UDI101>情報基礎

担当教員： 神部 順子(KANBE Junko)

【授業の紹介】

「AI」、「ビッグデータ」、「IoT」といったデータ利活用に関連する新技術の進展がこれからの社会に大きな変革をもたらしている。これらの新技術によって創出された新たな製品やサービス等を効果的に活用するために、また、社会人になる基礎力として、ITリテラシーに関する知識を身に付けることが必要となっている。この授業はデータやAIといったものを利活用する際に必要となる基本的な知識と習得し、現代社会におけるITへの認識を深めるよう展開していく。この知識や理解を深めるための実習課題を通し、情報技術活用によるメリットやデメリット、情報化社会に参画する態度についても考えることとする。

なお、この授業は国家試験である「ITパスポート試験」の入門としても役立つように配慮していく。また、高等学校教諭一種免許状（情報）の取得のための必修科目である。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関する知識、技能の修得を目指す。

また、学修成果「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関連している。

さらに、数理データサイエンスAI教育プログラムの科目である。

【到達目標】

1. パソコンなど情報機器を活用するために最低限必要な、情報機器（ハードウェア）およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。
2. 情報化社会に参画するための知識を習得できる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション／情報社会で活用されているデータ紹介、データやAIに関する動向
第2回	ハードウェア（CPU、主記憶装置）
第3回	ハードウェア（補助記憶装置、入出力装置、入出力インターフェース）
第4回	ソフトウェア（OS、ファイルの管理）
第5回	ソフトウェア（表計算ソフト、関数）
第6回	コンピュータで扱うデータ（2進数）
第7回	コンピュータで扱うデータ（マルチメディア）
第8回	データベース
第9回	ここまでの要点整理と中間試験
第10回	ネットワーク
第11回	情報セキュリティの実際
第12回	システムの導入
第13回	システム開発とプロジェクトマネジメント
第14回	情報社会における光と影
第15回	データやAIを扱う上での留意事項
- 定期試験

【授業時間外の学習】

準備学習として、使用テキストの該当する部分を読み、授業に出席すること（2時間）。事後学習として、授業で学んだことをノート等に整理し、授業内で配布されたプリントにある問題を次回までに解いてくる（2時間）。さらに、レポートおよび中間試験後、不足している知識を整理し、自らの取り組みにおいて補充する。オフィスアワーを設定しているので、研究室に質問に来れば対応する。

【成績の評価】

授業内レポート（20%）、中間試験（30%）、定期試験（50%）の総合評価で行なう。リアクションペーパーに対するコメントや質問に対するフィードバックは次回授業にて行う。レポートおよび、中間試験結果については次の授業以降に返却・解説する。フィードバックとして期末試験の返却を希望する場合は、研究室まで取りに来ること。

【使用テキスト】

かんたん合格 ITパスポート教科書 令和4年度 坂下夕里&ラーニング編集部 インプレス 2022年

【参考文献】

適宜、指示する。

科目名： <UDI102>情報基礎演習【発A】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2016）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2016を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

第1回	受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力
第2回	文書作成（1）基本操作と印刷
第3回	文書作成（2）表の作成
第4回	文書作成（3）書式の設定
第5回	情報と社会（1）電子メールによるコミュニケーション
第6回	情報と社会（2）個人情報保護
第7回	文書作成（4）図・画像などの挿入
第8回	文書作成（5）Webブラウザとの連携
第9回	数理・データサイエンス（1）数理・データサイエンスとは何か？
第10回	情報と社会（3）情報倫理・情報モラル
第11回	情報と社会（4）知的財産権
第12回	文書作成（6）図の作成と編集
第13回	文書作成（7）縦書き、PDF変換
第14回	情報と社会（5）ネット犯罪
第15回	数理・データサイエンス（2）身の周りの数理・データサイエンス

定期試験は実施しない。

※授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子、大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版、2016年）ISBN:9784407340235

※テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UDI102>情報基礎演習【発B】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2016）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2016を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

第1回	受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力
第2回	文書作成（1）基本操作と印刷
第3回	文書作成（2）表の作成
第4回	文書作成（3）書式の設定
第5回	情報と社会（1）電子メールによるコミュニケーション
第6回	情報と社会（2）個人情報保護
第7回	文書作成（4）図・画像などの挿入
第8回	文書作成（5）Webブラウザとの連携
第9回	数理・データサイエンス（1）数理・データサイエンスとは何か？
第10回	情報と社会（3）情報倫理・情報モラル
第11回	情報と社会（4）知的財産権
第12回	文書作成（6）図の作成と編集
第13回	文書作成（7）縦書き、PDF変換
第14回	情報と社会（5）ネット犯罪
第15回	数理・データサイエンス（2）身の周りの数理・データサイエンス

定期試験は実施しない。

※授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子、大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版、2016年）ISBN:9784407340235

※テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UDI103>情報応用演習【発A】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2016）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2016）の機能について学習します。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2016を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPoint 2016を対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

第1回	受講ガイダンス、表計算（1）	基本操作と印刷
第2回	表計算（2）	表の作成と基本編集
第3回	表計算（3）	表の書式設定と印刷（詳細）
第4回	表計算（4）	数式（1）絶対参照と相対参照、基本関数
第5回	表計算（5）	数式（2）順位取得、条件判断
第6回	表計算（6）	数式（3）表参照によるデータ取得、端数処理
第7回	表計算（7）	数式（4）エラー回避、文字列操作
第8回	表計算（8）	グラフと図形
第9回	数理・データサイエンス（1）	Excelを使ったデータ処理の基礎
第10回	プレゼンテーション（1）	基本操作と印刷
第11回	プレゼンテーション（2）	図やオブジェクトの挿入
第12回	プレゼンテーション（3）	SmartArt、グラフ、表の挿入
第13回	プレゼンテーション（4）	特殊効果と自動実行
第14回	プレゼンテーション（5）	他のソフトウェアとのデータ連携
第15回	数理・データサイエンス（2）	データは人を騙す

定期試験は実施しない

※授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子、大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版、2016年）ISBN:9784407340235

※テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UDI103>情報応用演習【発B】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2016）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2016）の機能について学習します。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2016を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPoint 2016を対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

第1回	受講ガイダンス、表計算（1）	基本操作と印刷
第2回	表計算（2）	表の作成と基本編集
第3回	表計算（3）	表の書式設定と印刷（詳細）
第4回	表計算（4）	数式（1）絶対参照と相対参照、基本関数
第5回	表計算（5）	数式（2）順位取得、条件判断
第6回	表計算（6）	数式（3）表参照によるデータ取得、端数処理
第7回	表計算（7）	数式（4）エラー回避、文字列操作
第8回	表計算（8）	グラフと図形
第9回	数理・データサイエンス（1）	Excelを使ったデータ処理の基礎
第10回	プレゼンテーション（1）	基本操作と印刷
第11回	プレゼンテーション（2）	図やオブジェクトの挿入
第12回	プレゼンテーション（3）	SmartArt、グラフ、表の挿入
第13回	プレゼンテーション（4）	特殊効果と自動実行
第14回	プレゼンテーション（5）	他のソフトウェアとのデータ連携
第15回	数理・データサイエンス（2）	データは人を騙す

定期試験は実施しない

※授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子、大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版、2016年）ISBN:9784407340235

※テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UDS101>数理データサイエンス基礎
担当教員： 浮穴 学慈(UKENA Satoshi)

【授業の紹介】

現代の情報化社会において、数理・データサイエンス・AIの重要性が認識され、様々な企業や組織での活動に必要とされるとともに、基礎的な考え方を理解し、日常生活や仕事において使いこなせる人材が必要とされるようになっていきます。この授業では、そもそも何のために何をどのように計量し、データを取得しようとしているのか、得られたデータをどのように使うのかについて、基礎的な学習を行うとともに、情報やAI(人工知能)の概要について学びます。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2.課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関する知識、技法の修得を目指します。

また、学修成果『②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

本科目は、数理データサイエンスAI教育プログラムの科目です。

【到達目標】

1. 情報とは何かを理解し、データと情報の違いを説明できる。
2. データの集まりについて、その統計量を把握できる。
3. 数理モデルを考え、その妥当性を確かめることができる。
4. 機械学習の仕組みの概要を把握し、説明できる。

【授業計画】

以下の授業計画は、状況によって変更になる場合があります。

- 第1回 受講ガイダンスとイントロダクション
- 第2回 データと情報
- 第3回 データの特徴を把握する
- 第4回 確率分布と期待値
- 第5回 物事を数式を使って表す
- 第6回 データをもとに推測する
- 第7回 正しさや妥当性を説明する
- 第8回 情報を量る
- 第9回 情報を誤りなく伝える
- 第10回 暗号の仕組み
- 第11回 AIがやって来た
- 第12回 AIが得意なことは何か
- 第13回 AIに「足し算」を教える
- 第14回 AIが苦手なことは何か
- 第15回 総括：定期試験や課題に関する説明と今後の学習活動へのアドバイス

定期試験

【授業時間外の学習】

以下の標準所要時間は、達成に必要な目安の時間を授業回あたりの時間に換算したものです。

レポート課題（1.5時間）と自己CBT（0.5時間）を課します。

予習として教科書や配布資料の事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（1時間）を課し、復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し、他者への説明ができるようにしておくこと、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（1時間）を課します。

解らないことがある場合、オフィスアワーを設定していますので、質問しに来てください。

【成績の評価】

授業における取組みとレポート課題（25%）、小テスト（25%）、定期試験（50%）

レポート課題については、優秀なものについて解説を行うことにより、フィードバックを行う。

小テストおよび定期試験については、採点結果を返却することにより、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

資料を配布します。

【参考文献】

Kay, Mr. Φ 著「楽しいAI体験から始める機械学習 算数・数学をやらせてみたら」（技術評論社）ISBN978-4-297-11276-9, ￥2,180+税。

加藤公一監修, 秋庭伸也ら著「見て試してわかる機械学習アルゴリズムの仕組み 機械学習図鑑」（翔泳社）ISBN978-4-7981-5565-4, / 2,680+税

科目名： <UBS002> アンケート調査法
担当教員： 正岡 利朗(MASAOKA Toshirou)

【授業の紹介】

企業及び公共組織等が商品の販売促進やサービスの向上などをはかるために行うアンケート調査につき、教員が解説を行うかたちで、講義を進めます。アンケート調査は回答したことがあっても、自ら作る側に回った方は少ないと思われます。ですが、このような知識は、みなさんがさまざまな組織で仕事をするに当たり、身につけておいて決して損はしないものです。慣れてくると、考え方が整理され、アンケート調査の重要性、有用性がだんだんわかってきますので、興味のある方はこの機会にぜひ受講してみてください。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」、「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

そして、本授業は、グループワークで情報収集・ディスカッションを行うアクティブ・ラーニング形式を採用しています。また、高等学校教諭一種免許状（情報・商業）取得のための選択科目に該当します。

【到達目標】

1. 企業及び公共組織等が商品の販売やサービスなどを促進させるために行うアンケート調査について、理解を深めることができる。
2. リサーチの技法を確実に身につける。
3. 上記の各知識や授業中に得た情報処理能力を統合的に活用して、ソサエティー5.0に寄与する各技能や考え方を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 アンケート調査とは
 - 第3回 企画・設計の手順（調査課題の設定）
 - 第4回 企画・設計の手順（調査方法の選定）
 - 第5回 企画・設計の手順（調査期間等の見通し）
 - 第6回 アンケート票の作成（言葉遣いについて）
 - 第7回 アンケート票の作成（調査ボリューム）
 - 第8回 アンケート票の作成（レイアウトの検討）
 - 第9回 集計・分析の手順（集計の手順）
 - 第10回 集計・分析の手順（集計方法）
 - 第11回 集計・分析の手順（集計上の留意点）
 - 第12回 報告書の作成（文章、分析内容の検討）
 - 第13回 報告書の作成（レイアウトの検討）
 - 第14回 とくにweb調査について
 - 第15回 これまでの授業のまとめ（学習した重点項目の確認）と質疑応答
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

よいレポート内容をまとめるには相当な時間外の学習が必須となります。さまざまな意見を総合して、自分の意見をまとめるための参考にするという態度を時間をかけてぜひ身につけてください。毎回の授業開始前にはプリント等を復習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（2時間）。また、毎回の授業毎にA4・1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（2時間）。オフィスアワーを設定しているので、掲示等で日時を確認の上、質問に来てください。

【成績の評価】

レポート提出（100%）の結果により判断します。ただし、授業態度が不適切な場合はそれに応じた減点をしますので留意してください。なお、各受講生（グループ）のレポートの結果については講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

とくにありません（インターネットを使用する場合もある）。

【参考文献】

酒井隆『アンケート調査の進め方<第2版>』日本経済新聞出版社、2012年。（¥860）

科目名： <UCL001>コミュニケーション表現

担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

【授業の紹介】

この授業では、理論的学習を中心に、「カウンセリング的コミュニケーション理論・実践（傾聴・受容・共感）」「対人コミュニケーション理論・実践」などを身につけ、その結果、学位授与の方針に関する「自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる社会人」になるためのスキルを身につけていくよう授業構成しています。

特に「ペアワーク」「ワールド・カフェ」「カウンセリングロールプレイ」など様々なアクティブラーニングによる課題発見・課題解決を通じて、将来、組織において社会性を持った活動・行動に「コミュニケーション能力」が生かせるよう配慮しています。さらに社会問題解決のための課題発見し、仲間と共に考え、プレゼンテーションできるよう構成し、課題解決能力を身につけていきます。さらに様々な対人関係の問題解決のための的確な「コミュニケーション能力」の育成や多様な専門性を持つ人材と協力・協働できるように授業構成しています。

関連科目の「コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」もあわせて受講することを希望します。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』に関連しています。

【到達目標】

- ① 幼児・高齢者など異世代の人と「的確なコミュニケーション（実践と理論）」を図ることができる。
- ② 「話す力」「聴く力」「書く力」「読みとる力」「話し合う力」ができる。
- ③ 「考える力」「感じる力」「表現する力」「行動する力」ができる。
- ④ 悩める人に「カウンセリング的コミュニケーション」ができる。
- ⑤ 理論学習を中心に演習等を通じて、「自己理解」「他者理解」「自己決定」ができる。
- ⑥ 悩み多き人とのコミュニケーションを図ることができる。
- ⑦ グループワーク等を通じ、プレゼンテーション力を身につけることができる。

【授業計画】

（授業の進捗状況によって変更することがあります。）

第1回	ことば表現：「オリエンテーション・相互インタビュー」
第2回	ことば表現：「自己紹介・他己紹介・仲間作り」
第3回	ことば表現：「ことばの3つの役割・ルビンの杯・ジョハリの窓」
第4回	ことば表現：「コミュニケーションと大学での学び」
第5回	ことば表現：「ことばの3つの役割」
第6回	ことば表現：「できたことノートづくり」
第7回	ことば表現：「アンガーマネジメント」
第8回	ことば表現：「アサーション・トレーニング」
第9回	ことば表現：「7つの習慣とコミュニケーション」
第10回	ことば表現：「敬語と人間関係」
第11回	ことば表現：「自己肯定感・自分をほめる」
第12回	ことば表現：「アドラーの勇気づけ」
第13回	ことば表現：「カウンセリング的コミュニケーション・ロールプレイ」
第14回	ことば表現：「人間関係苦手克服法・不安解消法」
第15回	ことば表現：「就職・面接でのコミュニケーション」

定期試験 授業の内容から特に重要と思われる内容について出題します。

【授業時間外の学習】

授業は毎回レジュメ配布し、最後に「授業ふりかえりレポート」を復習（2時間以上）として課します。自宅などでレジュメを再読し、自分の変化や成長・感想・意見を記述して次回の授業の冒頭に提出のこと。また毎回の授業の最後に次週のテーマについて調べる課題（予習1時間以上）を出します。事前にキーワードで検索したり、図書館で関連する本を読んだりして予習すること。事前に知っておくことによって授業での課題のディスカッションが活発にできるようになります。

質問等については、「授業ふりかえりレポート」に記述すること。もしくはオフィスアワーを設定していますので日時を確認の上、質問・相談に来ること。

「自分を確立し、自立・共生」できる人間として成長するには、メンターや多くの友人・知人をつくることです。また様々な「社会的スキル」も身につけることです。アルバイト、映画鑑賞、音楽鑑賞などだけでなく、毎日のテレビニュースを視聴、新聞・本を読みましょう。また休暇を利用して県外、海外旅行も楽しんで下さい。新しい「価値観・視点」が発見できるでしょう。

【成績の評価】

受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

【参考文献】

ショーン・コヴィー著「7つの習慣ティーンズワークブック」（キングベアー出版）
永谷研一著「できたことノート」（クロスメディア・パブリッシング）
向後千春著「アドラー心理学のススメ」（技術評論社）
野田俊著「勇気づけの方法」（創元社）
東山紘宇久著「プロカウンセラーの聞く技術」（創元社）
伊藤絵美著「認知療法・認知行動療法カウンセリング」（星和書店）

科目名： <UCL002>コミュニケーション演習Ⅰ【発】

担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

【授業の紹介】

「コミュニケーション」が苦手な人たちが増えています。この授業では、学位授与の方針に関する、幼児など異世代とのコミュニケーションでの理論と実践力（演習）を学び、演習Ⅰでは「絵本の読み聞かせ方」「ことばの発音・発声・滑舌の仕方」なども取りいれています。また演習Ⅰの中では「自己のみつめ直し」「自己表現」などを通じて、まず自分自身を深く知り、自らの考え・価値観をしっかりと持てるようにしています。その結果、社会問題にも関心を深く持ち、「的確なコミュニケーション」が図れるよう授業構成しています。

毎回、アクティブラーニング等を通じ、子どもの教育・保育のかかる課題の発見・解決を通じて、将来、地域や組織での多様な人材と協力・協働を通じて、豊かな「コミュニケーション能力」が生かせるよう授業を進めていきます。また「自ら考え・判断し・行動できる」人間として成長できるよう授業構成しています。さらに「現代社会の様々な問題に関心をもち、多様な立場の人々との的確なコミュニケーションを図るとともに、リーダーシップを発揮することで問題解決に取り組める能力」の育成にかかわっていると考えています。積極的な授業参加を期待します。

関連科目の「コミュニケーション演習Ⅱ」、「コミュニケーション表現」もあわせて履修を希望します。この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」、3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関する知識、技法の修得をめざします。また、学修成果『③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

- ①自己理解を深めたり・広めたりすることができる。
- ②幼児や児童に絵本の読み聞かせや朗読ができる（言葉の表現の豊かさを実感できる）。
- ③標準語の発音・アクセントが正確にできる。
- ④ことばを通じて対人関係を深めたり・広めたりすることができる。
- ⑤幼児・児童の話す言葉の向こうにある「心の言葉」への理解（実践と理論）を深めることができる。
- ⑥グループワーク等を通じ、プレゼンテーション力を身につけることができる。
- ⑦コミュニケーション全般についての基礎的概念の理解を深めることができる。

【授業計画】

（授業の進捗状況によって変更することがあります。）

第1回	ことば表現演習：「オリエンテーション」
第2回	ことば表現演習：「アイスブレイクで仲間づくり」
第3回	ことば表現演習：「挨拶ことばはコミュニケーションのはじめ」
第4回	ことば表現演習：「入学1ヶ月何が変わった」
第5回	ことば表現演習：「大学時代にしたいこと10」
第6回	ことば表現演習：「3つのききかた（聞く・聴く・訊く）の違い」
第7回	ことば表現演習：「日本語の発声・発音・滑舌・アクセント」
第8回	ことば表現演習：「絵本の読み聞かせかた」
第9回	ことば表現演習：「人間関係不安解消法①」
第10回	ことば表現演習：「自己を深く見つめる内観法」
第11回	ことば表現演習：「文章を読んで意見を述べよう」
第12回	ことば表現演習：「3つのことばのレベル事実・推論・断定」
第13回	ことば表現演習：「社会人基礎力（価値感づくり）」
第14回	ことば表現演習：「自己概念、自分をみつめる」
第15回	ことば表現演習：「自他の価値観の相違を考える」

定期試験 授業の内容から特に重要と思われる内容について出題します。

【授業時間外の学習】

授業は毎回レジュメ配布し、最後に「授業ふりかえりレポート」を復習（2時間以上）として課します。自宅等でレジュメを再読し、自分の変化や成長・感想・意見を記述して次回の授業の冒頭に提出のこと。また毎回の授業の最後に次週のテーマについて調べる課題（予習1時間以上）を出します。事前にキーワードで検索したり、図書館で関連する本を読んだりして予習すること。事前に知っておくことによって授業での課題のディスカッションが活発にできるようになります。質問等については、「授業ふりかえりレポート」に記述すること。もしくはオフィスアワーを設定していますので日時を確認の上、質問・相談に来ること。

【成績の評価】

受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

【参考文献】

水島広子著「自分で出来る対人関係療法」（創元社）
宮原哲著「入門コミュニケーション論」（松柏社）
中野美香著「大学生からのコミュニケーション入門」（ナカニシヤ出版）
植村勝彦・松本青也・藤井正志著「コミュニケーション入門」（ナカニシヤ出版）
川瀬正裕・松本真理子著（ナカニシヤ出版）
川和孝著「日本語の発声レッスン」（新水社）

科目名： <UCL003>コミュニケーション演習Ⅱ【発】

担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

【授業の紹介】

「あなたの気持ちは、何%くらい相手に伝わっていますか」などの問いに、多くの学生は「コミュニケーション能力」を身につけたいと答えています。この授業では、幼児などの異世代とのコミュニケーションの理論と実践力（演習）を大切に、演習Ⅱでは「紙芝居の演じ方」「絵本の読み聞かせ方」なども取りいれています。演習Ⅱでは「心理学的コミュニケーションの仕方」「自己表現」「文章理解力」「ペアワーク」「グループワーク」「プレゼンテーション」などのアクティブラーニングによる課題発見・解決を通じて、多様な視点から自分自身を知り、自分の価値観をしっかりと持ち、豊かな人間性や主体的に生きる力を持てるようにしています。その結果、社会問題にも広く関心を持ち、「的確なコミュニケーション」が図れるよう授業構成しています。さらに「現代社会の様々な問題に関心を持ち、多様な立場の人々と的確にコミュニケーションを図るとともに、リーダーシップを発揮することで問題解決に取り組める」能力の育成にかかわっていると考えています。

関連科目の「コミュニケーション演習Ⅰ」、「コミュニケーション表現」もあわせて履修を希望します。この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」、3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関する知識、技法の修得をめざします。また、学修成果『③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

- ①自己理解を深めたり・広めたりすることができる。
- ②幼児や児童に絵本の読み聞かせができる（言葉の表現の豊かさを実感できる）。
- ③標準語の発音・アクセントが正確にできる。
- ④ことばを通じて対人関係を深めたり・広めたりすることができる。
- ⑤幼児・児童の話す言葉の向こうにある「心の言葉」への理解（実践と理論）を深めることができる。
- ⑥グループワーク等を通じプレゼンテーション力を身につけることができる。
- ⑦コミュニケーション全般についての基礎的概念の理解を深めることができる。

【授業計画】

（授業の進捗状況によって変更することがあります。）

第1回	ことば表現演習：「オリエンテーション」
第2回	ことば表現演習：「相互インタビュー」
第3回	ことば表現演習：「パブリック・スピーチ」
第4回	ことば表現演習：「20代にしておきたい17のテーマ」
第5回	ことば表現演習：「地域ことば（方言）の魅力」
第6回	ことば表現演習：「自己理解を深める」
第7回	ことば表現演習：「心のリフレーミング（心の枠組みを考える）」
第8回	ことば表現演習：「書くコミュニケーション」
第9回	ことば表現演習：「価値感とコミュニケーション」
第10回	ことば表現演習：「紙芝居の演じ方」
第11回	ことば表現演習：「幼児への朗読仕方」
第12回	ことば表現演習：「ブレーン・ストーミング」
第13回	ことば表現演習：「お互いを尊重するコミュニケーション」
第14回	ことば表現演習：「プレゼンテーションとは」
第15回	ことば表現演習：「トラブル・葛藤とのつきあい」

定期試験 授業の内容から特に重要と思われる内容について出題します。

【授業時間外の学習】

授業は毎回レジュメ配布し、最後に「授業ふりかえりレポート」を復習（2時間以上）として課します。自宅等でレジュメを再読し、自分の変化や成長・感想・意見を記述して、次回の授業の冒頭に提出のこと。また毎回の授業の最後に、次週のテーマについて調べる課題（予習1時間以上）を出します。事前にキーワードで検索したり、図書館で関連する本を読んだりして予習すること。事前に知っておくことによって授業での課題のディスカッションが活発にできるようになります。質問等については、「授業ふりかえりレポート」に記述すること。もしくはオフィスアワーを設定していますので日時を確認の上、質問・相談に来ること。

【成績の評価】

受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

【参考文献】

- 中野美香著「大学生からのグループ・ディスカッション入門」（ナカニシヤ出版）
星野欣生著「人間関係づくりトレーニング」（金子書房）
星野欣生著「職場の人間関係づくりトレーニング」（金子書房）
言語表現研究会編「コミュニケーションのためのことば学」（ミネルヴァ書房）
水國照充著「対人コミュニケーション心理学」（北樹出版）
田口久人著「受かる自己分析シート」（日本実業出版）
代田知子著「読み聞かせハンドブック」（一声社）
葉月のりこ監修「プロが教える朗読」（メイツ出版）

科目名： <UCS001>マスメディアと社会
担当教員： 山下 淳二(YAMASHITA Junji)

【授業の紹介】

ネット社会の進展につれ変貌するマスコミュニケーションの実相を新聞を中心としたオールドメディアの側から明らかにし、現代社会において望ましいマスメディアの在り方、市民との関係について学ぶ。情報はどのようにとらえられ、加工され、送られるのか。40年を超える新聞づくりの経験を生かしながら、送り手側の問題点、受け手側の課題を探る。その中で得られるメディア・リテラシーは、自ら考え、判断し、行動する力の基礎となるだろう。言葉を換えれば、「情報化社会を知的に生きる基礎」と言え、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」に関する知識、技法の修得をめざします。
また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」に関連しています。

【到達目標】

情報を読むことは単に字面を追うことではない。

1. 毎回の授業の冒頭は、最新のニュースを題材に、読み方を議論しながら情報を鵜呑みにしない視点を磨くことができる。
2. 情報を主体的に読み解く力、メディア・リテラシーの獲得をめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 マスメディアの興亡（歴史）
 - 第3回 ネット社会のマスメディア（現状）
 - 第4回 ニュースとは何か
 - 第5回 ニュースの価値判断
 - 第6回 報道と人権（概論）
 - 第7回 報道と人権（えん罪の構造）
 - 第8回 知る権利と報道の自由
 - 第9回 取材源の秘匿と報道倫理
 - 第10回 マスメディアの構造的問題（記者クラブ）
 - 第11回 マスメディアの構造的問題（新聞の宅配制度と特殊指定）
 - 第12回 マスメディアの構造的問題（クライアントとの距離感）
 - 第13回 マスメディアの構造的問題（クロス・オーナー・シップ）
 - 第14回 メディア・リテラシー
 - 第15回 これまでの講義のまとめ及び質疑応答
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

1週間のうち1本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをレポートする（3時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（1時間）。メディア・リテラシーの実践である。

【成績の評価】

この1週間の出来事の中から、テーマを選び毎週提出するミニ・レポートは、独自の視点を養い、情報の偏りの有無などを発見する作業。
毎授業の初めに、前週のレポートの主な評価をコメント付きで発表し、全員で考える材料とすることでフィードバックします。（50%）
最後に、統一のテーマを設定して締めくくりのレポート提出を求める。（50%）

【使用テキスト】

使用なし

【参考文献】

日々の新聞、雑誌など

科目名： <UCH001> 比較文化
担当教員： 井上 隆史 (INOUE Takashi)

【授業の紹介】

孫子の兵法には「敵を知り己を知れば百戦殆（あや）うからず」とありますが、往々にして「敵情を知らず、味方の事情も知らずに戦う」ことが多く、戦うたびに必ず危機に直面すると孫子は言います。鎌倉時代の人々はモンゴル襲来を受けて「ムクリコクリ（蒙古高句麗）ムクリコクリ」と囁きあいました。「得体のしれないもの＝恐ろしいもの」という意味だったそうです。未知のものほど怖いものはありません。今期の授業では私がNHKで制作してきたドキュメンタリーを素材として、英米・ロシア・中国・モンゴル・アフガニスタンなどの国々と日本の歴史を重ねながら、讃岐うどんやラーメンのルーツから、日本の敵や味方で活躍したスパイの世界などを紹介します。グローバル時代を生き抜くためには、歴史の事象や世界を「複眼」で見ることを心がけなければなりません。まずは日本との違いを知ることはか始めましょう。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の育成に関わっています。また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」に関連しています。

【到達目標】

- 1, 授業で取り上げた国々や事件・事象の中で最も関心を持ったテーマについて、自分なりの意見を1500字程度で書くことができる。
- 2, 浮かび上がった日本および日本人の問題点・課題を自分なりにわかりやすく述べることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション ドキュメンタリー制作者として見てきたアジアと世界―「その文化と素顔」
- 第2回：麺ロードをゆく① 中国黄土の大地で生まれた麺文化。山西省の刀削麺と陝西省の「猫耳麺」
- 第3回：麺ロードをゆく②シルクロードで讃岐うどんに会った。ウイグル族のラグメンと大盤鶏
- 第4回：戦争と謀略①日露戦争とは何だったのか。乃木将軍と旅順203高地。旅順買収手形事件の謎。
- 第5回：戦争と謀略②プーチン大統領が敬愛するロシアの国際スパイゾルゲの人物像と日本での諜報活動。
- 第6回：戦争と謀略③完敗だった日米暗号戦。米極秘文書とスペイン人秘密諜報員ベラスコの証言から。
- 第7回：中国の実像を知る①改革開放と農民。革命の聖地黄土高原で生きる人々の暮らしと文化。
- 第8回：中国の実像を知る②ジャーナリストとして見た新疆ウイグルとチベット。
- 第9回：中国の実像を知る③「2021年極貧世帯ゼロ達成」宣言でも乗り越えられない貧富の格差。
- 第10回：モンゴル帝国から見た世界①蒼き狼チンギスハーンと幻の王プレスタージョン。
- 第11回：モンゴル帝国から見た世界②元寇とは何だったのか。モンゴルが拓いた大航海時代。
- 第12回：モンゴル帝国から見た世界③巨大帝国の遺産・ペスト禍とクリミア問題。
- 第13回：遠くて近い国アフガニスタン①バーミヤンから奈良へ大仏の道。
- 第14回：遠くて近い国アフガニスタン②日本につながる壁画の道とラピスラズリの道。
- 第15回：遠くて近い国アフガニスタン③いまアフガニスタンで何が起きているのか？
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

マスコミの偏った報道に惑わされず、まずは自分の身近にある異文化に目を向けて、「なぜ」「どうして」といった素朴な疑問を持つことを意識してみてください。こうした姿勢がコミュニケーションを生み、相互理解につながることも少なくありません。

【成績の評価】

レポート（50%）授業への参加状況（50%）レポートは集中講義終了後採点し、コメントをつけて返却することでフィードバックをします。

【使用テキスト】

必要に応じて講義の時に配布します。

【参考文献】

- 「アフガニスタン・さまよえる国宝」（2017年 NHK出版）
「アフガニスタンを知るための70章」（2021年 明石書店）

科目名： <UCE101>英語Ⅰ【発あ】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

本授業では、中・高校で習った基礎的な文法力の定着を図るとともに、卒業後の社会において求められる英語でのコミュニケーション力の強化のために必要となる聴解力と読解力の強化に努めます。家庭では予習と復習が求められ、その確認のため毎回授業のはじめに小テストを行います。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

バランスの取れた英語力の習得のためには、当然のことながら文法・語法の理解は不可欠です。この授業で目指すものは、以下の三つです。

- ①基礎的な文法を確実に理解し、使うことができる。
- ②まとまった長さの英文を読み、内容を理解することができる。
- ③実用英語技能検定試験準2級程度の英文を聞き、理解することができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション・英語の文
第2回	名詞・代名詞
第3回	動詞
第4回	5文型
第5回	助動詞
第6回	時制
第7回	完了形
第8回	不定詞
第9回	動名詞
第10回	分詞
第11回	受動態
第12回	比較
第13回	関係詞
第14回	仮定法
第15回	前期授業のまとめ
	定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。

1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分）
2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分）
3. 次回の授業の予習をすること。（30分）

【成績の評価】

小テスト(40%)、宿題(10%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。毎時間行なう小テストは、その直後に解答を解説します。また宿題としての提出物は、評価したものをその後の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

山田久美 他、 Starting Gate（「基礎から始める英語演習」）（南雲堂）

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： <UCE101>英語Ⅰ【発い】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。Readingの素材は、「趣味」「スポーツ」「旅行」等、身近な話題を扱っており、受講生は興味・関心をもって取り組むことができます。また、子どもの教育・保育に係る諸問題についても、受講生自らが考え、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

Google Classroom への参加コードは、zsz4rsc です。

【到達目標】

1. まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
2. 本文を音読することで英語に慣れ、覚えた英文を用いてコミュニケーション活動を行うことができる。
3. 自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 Unit 1 Self-Introduction (1)
 - 第3回 Unit 1 Self-Introduction (2)
 - 第4回 Unit 2 Hobbies (1)
 - 第5回 Unit 2 Hobbies (2)
 - 第6回 Unit 3 Food and Exercise (1)
 - 第7回 Unit 3 Food and Exercise (2)
 - 第8回 Unit 4 Sports (Rugby) (1)
 - 第9回 Unit 4 Sports (Rugby) (2)
 - 第10回 Unit 5 Love and Marriage (1)
 - 第11回 Unit 5 Love and Marriage (2)
 - 第12回 Unit 6 Weather (Typhoons) (1)
 - 第13回 Unit 6 Weather (Typhoons) (2)
 - 第14回 Unit 7 Tourism (1)
 - 第15回 Unit 7 Tourism (2)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。

- ① テキストの予習（1時間）
- ② 習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「提出物等授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「音読テスト」20%、「定期試験」40%の5項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Power-Up College English <Intro> (JACET リスニング研究会、南雲堂、2020)

【参考文献】

なし

科目名： <UCE101>英語Ⅰ【発う】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This is an introductory course in English. We will focus on listening speaking mainly, but we will also cover reading and writing. The course is a practical course, and students will be expected to use English in every class. We will follow the outline of the textbook. Students will learn to express themselves in English. The class will utilize an active learning model of teaching.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

1. Students will study basic communicative skills associated with English as a Foreign Language.
2. Students will learn how to express themselves and their opinions in English
3. Students will study about cultural aspects as they relate to a foreign language a global affairs.
4. Students will given every opportunity to practice living in English with their native English instructor.

【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction.
- 第2回 Unit 1 Introductions
- 第3回 Unit 1 Talking about yourself
- 第4回 Unit 1 Occupations; in class speaking quiz
- 第5回 Unit 2 Work and school
- 第6回 Unit 2 Asking information
- 第7回 Unit 2 Future plans; in class speaking quiz
- 第8回 Writing module. Students will write about a selected topic
- 第9回 Unit 3 Talking about "these" and "those"
- 第10回 Unit 3 Shopping English
- 第11回 Unit 3 Comparing items; in class speaking quiz
- 第12回 Unit 4 Talking about genres of music/movies/TV
- 第13回 Unit 4 Likes and dislikes
- 第14回 Unit 4 Inviting people do things
- 第15回 test review
- Final exam

【授業時間外の学習】

Students will be be given homework to prepare for the next week's lesson. This will require a total of 15 hours outside of class time to complete. Their work will be used for evaluation purposes at the beginning of the next class.

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. The remainder of the 70% will come from a comprehensive final examination.

Students' homework will be evaluated in the Final class at test review. Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Interchange Fifth Edition Level 1 Student Book A
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCE102>英語Ⅱ【発あ】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

英語Ⅰに引き続き、この授業では文法力のさらなる定着を図るとともに、身近な話題を扱いながら、英語の4技能の運用能力を高め、将来社会人として最低限必要な英語力の涵養に努めます。また、実用英語技能検定試験やTOEICの問題にあたりながら、英語による問題解決能力の向上をもめざします。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

1. 基本的な英文法を理解し、使うことができる。
2. 平易な英文の読解ができる。
3. 日常的な英文を聞いて、概要をつかむことができる。
4. 英検準2級問題の8割は解くことができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション・前期の復習
第2回	比較
第3回	接続詞
第4回	5文型
第5回	各種疑問文
第6回	不定詞
第7回	Itの特別用法
第8回	時制
第9回	助動詞
第10回	受動態
第11回	冠詞
第12回	関係代名詞
第13回	完了形
第14回	仮定法
第15回	英語の重要構文と熟語
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。

1. 毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分）
2. 提出物の準備をすること。（15分）
3. 次回の授業の予習をすること。（30分）

【成績の評価】

小テスト（40 %）、宿題（10 %）および 定期試験（50 %）の結果を総合的に判断して行ないます。毎時間行なう小テストは、その直後に解答を解説します。また宿題としての提出物は、評価したものをその後の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

前期の進度により、後期に使用するテキストは、前期の最後に指示します。

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： <UCE102>英語Ⅱ【発い】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英語Ⅰに引き続き、英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。Readingの素材は、大学生として理解を深めておきたい話題「教育」「言語」「社会・環境問題」等を扱っており、受講生は興味・関心をもって取り組むことができます。また、子どもの教育・保育に係る諸問題についても、受講生自らが考え、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

【到達目標】

1. まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
2. 本文を音読することで英語に慣れ、覚えた英文を用いてコミュニケーション活動を行うことができる。
3. 自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 Unit 8 Social Issues (1)
 - 第3回 Unit 8 Social Issues (2)
 - 第4回 Unit 9 Study Skills (1)
 - 第5回 Unit 9 Study Skills (2)
 - 第6回 Unit 10 Health and Welfare (1)
 - 第7回 Unit 10 Health and Welfare (2)
 - 第8回 Unit 11 Environmental Issues (1)
 - 第9回 Unit 11 Environmental Issues (2)
 - 第10回 Unit 12 Languages (1)
 - 第11回 Unit 12 languages (2)
 - 第12回 Unit 13 Guide to Foreign Countries (1)
 - 第13回 Unit 13 Guide to Foreign Countries (2)
 - 第14回 Unit 14 Education Overseas (1)
 - 第15回 Unit 14 Education Overseas (2)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。

- ① テキストの予習（1時間）
- ② 習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「提出物等授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「音読テスト」20%、「定期試験」40%の4項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Power-Up College English <Intro> (JACET リスニング研究会、南雲堂、2020)

【参考文献】

なし

科目名： <UCE102>英語Ⅱ【発う】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This is an introductory course in English. We will focus on listening speaking mainly, but we will also cover reading and writing. The course is a practical course, and students will be expected to use English in every class. We will follow the outline of the textbook. Students will learn to express themselves in English. The class will utilize an active learning model of teaching.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

1. Students will study basic communicative skills associated with English as a Foreign Language.
2. Students will learn how to express themselves and their opinions in English
3. Students will study about cultural aspects as they relate to a foreign language a global affairs.
4. Students will given every opportunity to practice living in English with their native English instructor.

【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction
 - 第2回 Unit 5 Family
 - 第3回 Unit 5 Relationships
 - 第4回 Unit 5 Daily life; conversation quiz
 - 第5回 Unit 6 Exercising
 - 第6回 Unit 6 Doing things
 - 第7回 Unit 6 How much, How often, How well; conversation quiz
 - 第8回 Mid-term review (第1回～第7回までの復習)
 - 第9回 Unit 7 Free time
 - 第10回 Unit 7 At home
 - 第11回 Unit 7 Sightseeing; conversation quiz
 - 第12回 Unit 8 Talking about your neighborhood
 - 第13回 Unit 8 The basic names of shops and offices
 - 第14回 Send the worksheet by email to the instructor
 - 第15回 complete the online test. Send by email to the instructor.
- Final exam

【授業時間外の学習】

Students will be given homework to prepare for the next week's lesson. This will require a total of 15 hours outside of class time to complete. Their work will be used for evaluation purposes at the beginning of the next class.

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. The remainder of the 70% will come from a comprehensive final examination.

Students' homework will be evaluated in the Final class at test review. Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Interchange Fifth Edition Level 1 Student Book A
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCE201>英語III【発あ】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。Readingの素材は、「身近な不思議を英語で学ぶ」内容となっており、受講生の知的好奇心を刺激し、様々な社会的・文化的事象に目を向けるきっかけを与えてくれます。また、子どもの教育・保育に係る諸問題についても、受講生自らが考え、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

Google Classroom への参加コードは、ndjkrva です。

【到達目標】

1. まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
2. 本文を音読することで英語に慣れ、覚えた英文を用いてコミュニケーション活動を行うことができる。
3. 自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	Unit 1 What is "Black Friday"? (1)
第3回	Unit 1 What is "Black Friday"? (2)
第4回	Unit 2 What is "leap year"? (1)
第5回	Unit 2 What is "leap year"? (2)
第6回	Unit 3 Why do big ceremonies have a "red carpet"?
第7回	Unit 3 Why do big ceremonies have a "red carpet"?
第8回	Unit 5 What is a "Viking"?
第9回	Unit 5 What is a "Viking"?
第10回	Unit 6 Why are oranges "orange"?
第11回	Unit 6 Why are oranges "orange"?
第12回	Unit 7 Where did "Vaseline" come from?
第13回	Unit 7 Where did "Vaseline" come from?
第14回	Unit 8 Why are flamingos "pink"?
第15回	Unit 8 Why are flamingos "pink"?
定期試験	

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。

- ① テキストの予習（1時間）
- ② 習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「提出物等授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「音読テスト」20%、「定期試験」40%の5項目を総合的に評価します。小テスト、授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Answers to Everyday Questions 2 【Pre-Intermediate】
（アーノルド・アラオ、三原京、巳波義典、木村博是著、南雲堂、2022）

【参考文献】

なし

科目名： <UCE201>英語III【発い】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This is an introductory course in English. We will focus on listening speaking mainly, but we will also cover reading and writing. The course is a practical course, and students will be expected to use English in every class. We will follow the outline of the textbook. Students will learn to express themselves in English. The class will utilize an active learning model of teaching.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

1. Students will study basic communicative skills associated with English as a Foreign Language.
2. Students will learn how to express themselves and their opinions in English
3. Students will study about cultural aspects as they relate to a foreign language a global affairs.
4. Students will given every opportunity to practice living in English with their native English instructor.

【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction
- 第2回 Unit 1 Describing what people look like
- 第3回 Unit 1 Clothes and fashion singular and plural
- 第4回 Unit 1 Pop culture, describing famous people
- 第5回 Unit 1 Home study. Review of Unit one from the textbook
- 第6回 Unit 2 Talking about what you "have done."
- 第7回 Unit 2 Talking about doing things that are interesting in town
- 第8回 Writing day. Writing about your hometown or area
- 第9回 Unit 3 Talking about your hometown
- 第10回 Unit 3 Describing what a place is like?
- 第11回 Unit 3 Famous things to do or visit
- 第12回 Unit 4 Aches and pains and how to treat illness
- 第13回 Unit 4 Medicines and their packaging
- 第14回 Unit 4 Giving advice to others
- 第15回 test review
- Final exam

【授業時間外の学習】

Students will be be given homework to prepare for the next week's lesson. This will require a total of 15 hours outside of class time to complete. Their work will be used for evaluation purposes at the beginning of the next class.

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. The remainder of the 70% will come from a comprehensive final examination. Students' homework will be evaluated in the Final class at test review. Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Interchange Fifth Edition Level 1 Student Book B
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCE201>英語III【発う】

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwads)

【授業の紹介】

This is a course based around developing your English speaking, writing and reading skills. The course will involve a lot of group work, class discussions and projects.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

The goal of this course is to build confidence in the students to use English in a variety of situations.

The course will involve writing, speaking and a great deal of group work.

By the end of the course, the students should not feel worried or scared about using English.

【授業計画】

Week 1: introduction to course and textbook.

Week 2: self introductions.

week 3: hobbies and interests

week 4: prepositions of place

Week 5: modals

week 6: adjectives in simple sentences

week 7: mid term exam

week 8: lifestyle and frequency

week 9: Past perfect tense

Week 10: mixed tenses to explain recent experiences

week 11: giving recommendations

week 12: writing a simple review

week 13: writing a simple travel guide

week 14: conversation strategies

week 15 open and closed questions

final exam

【授業時間外の学習】

Weekly homework: 30 - 60 minutes. Occasional reports and projects.

【成績の評価】

Homework will be checked weekly, and Students will receive feedback on their progress during classes.

In Class Effort (taking notes, participating in class activities and showing a positive attitude

towards lessons): 30%

Midterm test: 20%

Homework: 20%

Final test: 30%

Students will receive feedback and advice on their progress during class-time.

【使用テキスト】

Smart Choice, Third Edition by Ken Wilson

Published by Oxford University Press

(3,708 yen)

ISBN:978-0194602648

【参考文献】

A good self-study site: <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCE202>英語IV【発あ】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英語Ⅲに引き続き、英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。Readingの素材は、「身近な不思議を英語で学ぶ」内容となっており、受講生の知的好奇心を刺激し、様々な社会的・文化的事象に目を向けるきっかけを与えてくれます。また、子どもの教育・保育に係る諸問題についても、受講生自らが考え、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

【到達目標】

1. まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
2. 本文を音読することで英語に慣れ、覚えた英文を用いてコミュニケーション活動を行うことができる。
3. 自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	Unit 9 What is a movie "trailer"? (1)
第3回	Unit 9 What is a movie "trailer"? (2)
第4回	Unit 10 Where did "bubble wrap" come from? (1)
第5回	Unit 10 Where did "bubble wrap" come from? (2)
第6回	Unit 11 Why is a billiard table "green"? (1)
第7回	Unit 11 Why is a billiard table "green"? (2)
第8回	Unit 12 Why is film called "footage"? (1)
第9回	Unit 12 Why is film called "footage"? (2)
第10回	Unit 13 Where did "Coca-Cola" come from? (1)
第11回	Unit 13 Where did "Coca-Cola" come from? (2)
第12回	Unit 14 Why are social media apps "blue"? (1)
第13回	Unit 14 Why are social media apps "blue"? (2)
第14回	Unit 15 Where did "makeup" come from? (1)
第15回	Unit 15 Where did "makeup" come from? (2)
定期試験	

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。

- ① テキストの予習（1時間）
- ② 習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「提出物等授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「音読テスト」20%、「定期試験」40%の5項目を総合的に評価します。小テスト、授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Answers to Everyday Questions 2 【Pre-Intermediate】

（アーノルド・アラオ、三原京、巳波義典、木村博是著、南雲堂、2022）

【参考文献】

なし

科目名： <UCE202>英語IV【発い】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This is an introductory course in English. We will focus on listening speaking mainly, but we will also cover reading and writing. The course is a practical course, and students will be expected to use English in every class. We will follow the outline of the textbook. Students will learn to express themselves in English. The class will utilize an active learning model of teaching.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

1. Students will study basic communicative skills associated with English as a Foreign Language.
2. Students will learn how to express themselves and their opinions in English
3. Students will study about cultural aspects as they relate to a foreign language a global affairs.
4. Students will given every opportunity to practice living in English with their native English instructor.

【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction
- 第2回 Unit 5 Food culture and what foods are popular
- 第3回 Unit 5 Ordering in restaurants
- 第4回 Unit 5 Making plans to eat out; conversation quiz
- 第5回 Unit 6 Talking about different landforms
- 第6回 Unit 6 Comparing places
- 第7回 Unit 6 Giving facts about culturally significant places; conversation quiz
- 第8回 Writing day. Write about a famous place in Japan
- 第9回 Unit 7 Going out for leisure activities
- 第10回 Unit 7 Asking other people out
- 第11回 Unit 7 Making phone calls; conversation quiz
- 第12回 Unit 8 Future plans
- 第13回 Unit 8 lifestyle changes
- 第14回 Unit 8 Write a 1/2 ~1 page self-introduction in English
- 第15回 Complete the online test by email from the instructor
- Final exam

【授業時間外の学習】

Students will be given homework to prepare for the next week's lesson. This will require a total of 15 hours outside of class time to complete. Their work will be used for evaluation purposes at the beginning of the next class.

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. The remainder of the 70% will come from a comprehensive final examination. Students' homework will be evaluated in the Final class at test review. Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Interchange Fifth Edition Level 1 Student Book B
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCE202>英語IV【発う】

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwads)

【授業の紹介】

Students will continue to build their English speaking, reading and writing skills through workshops, group discussions, projects and reports.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

Students should be confident enough to give a short speech in English, as well as participate in simple conversations on subjects that interest them. They should feel very comfortable travelling abroad in English speaking countries.

【授業計画】

Week 1: Catching up and discussing recent activities
week 2: Shopping English
week 3: restaurant English
week 4: discussing another person.
week 5: expressing surprise and using follow-up questions
week 6: describing traditions
week 7: midterm exam
week 8: recipes and instructions
week 9: the environment
week 10: movie reviews
week 11: basic narrative writing skills
week 12: introduction to past continuous
week 13: past continuous practice to describe recent interests
week 14: phone English (casual and formal)
week 15: course review
Final exam

【授業時間外の学習】

Between 30 - 60 minutes of homework per-week, as well as occasional reports and projects.

【成績の評価】

Homework and notes will be checked on a weekly basis in class.

In Class Effort (taking notes, participating in class and having a positive attitude towards studying): 30%

Midterm test: 20%

Homework: 20%

Final test: 30%

Students will receive feedback and advice on their progress during class-time.

【使用テキスト】

Smart Choice, Third Edition by Ken Wilson
publisher: Oxford University Press
Price: 3708 Yen

ISBN: 978-0194602648

【参考文献】

a good self-study site: <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCP201>プラクティカル・イングリッシュIII

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwads)

【授業の紹介】

This is a course based around developing your English speaking, writing and reading skills. The course will involve a lot of group work, class discussions and projects.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

The goal of this course is to build confidence in the students to use English in a variety of situations.

The course will involve writing, speaking and a great deal of group work.

By the end of the course, the students should not feel worried or scared about using English.

【授業計画】

Week 1: introduction to course and textbook.

Week 2: self introductions. We will continue using google classes in today's lesson.

week 3: hobbies and interests

week 4: prepositions of place

Week 5: modals

week 6: adjectives in simple sentences

week 7: mid term exam

week 8: lifestyle and frequency

week 9: Past perfect tense

Week 10: mixed tenses to explain recent experiences

week 11: giving recommendations

week 12: writing a simple review

week 13: writing a simple travel guide

week 14: conversation strategies

week 15 open and closed questions

final exam

【授業時間外の学習】

Weekly homework: 30 - 60 minutes. Occasional reports and projects.

【成績の評価】

Homework will be checked weekly, and Students will receive feedback on their progress during classes.

In Class Effort (taking notes, participating in class activities and showing a positive attitude

towards lessons): 30%

Midterm test: 20%

Homework: 20%

Final test: 30%

Students will receive feedback and advice on their progress during class-time.

【使用テキスト】

Smart Choice, Third Edition by Ken Wilson

Published by Oxford University Press

(3,708 yen)

ISBN:978-0194602648

【参考文献】

A good self-study site: <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCP202>プラクティカル・イングリッシュⅣ

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwads)

【授業の紹介】

Students will continue to build their English speaking, reading and writing skills through workshops, group discussions, projects and reports.

Diploma policy fulfillment: '1. Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction' and '2. Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society.'

Categories of Learning Outcome: "① Ability for Rich Humanity and Living with Self-Determination and Self-Direction" and "② Ability for Recognizing Problems, Proposing Solutions and Contributing to Society."

【到達目標】

Students should be confident enough to give a short speech in English, as well as participate in simple conversations on subjects that interest them. They should feel very comfortable travelling abroad in English speaking countries.

【授業計画】

Week 1: Catching up and discussing recent activities
week 2: Shopping English
week 3: restaurant English
week 4: discussing another person.
week 5: expressing surprise and using follow-up questions
week 6: describing traditions
week 7: midterm exam
week 8: recipes and instructions
week 9: the environment
week 10: movie reviews
week 11: basic narrative writing skills
week 12: introduction to past continuous
week 13: past continuous practice to describe recent interests
week 14: phone English (casual and formal)
week 15: course review
Final exam

【授業時間外の学習】

Between 30 - 60 minutes of homework per-week, as well as occasional reports and projects.

【成績の評価】

Homework and notes will be checked on a weekly basis in class.

In Class Effort (taking notes, participating in class and having a positive attitude towards studying): 30%

Midterm test: 20%

Homework: 20%

Final test: 30%

Students will receive feedback and advice on their progress during class-time.

【使用テキスト】

Smart Choice, Third Edition by Ken Wilson
publisher: Oxford University Press
Price: 3708 Yen

ISBN: 978-0194602648

【参考文献】

a good self-study site: <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCF101>フランス語Ⅰ

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

「フランス語が難しければ、フランス人でも話せません！」という出発点から始まります。赤ちゃんは周りの音から少しずつ意味が取れるようになり、自分から表現できるようになります。このフランス語Ⅰに参加される皆さんは赤ちゃんではありませんが、同じやり方で少しずつフランス語を自分のものにしていきます。ポイントは実際に話される内容を生かせることです。つまり、テキストの登場人物がやっていることを学んでいくのではなく、自分について、自分がやっていることについて、自分がやりたいことについて、そしてそれぞれについて仲間に尋ねる、という覚え方です。

15回の授業を2つのプロジェクトに分けます。それをさらに3つのテーマに分けて、各テーマに対して2つの授業をします。1つ目の授業は先生の話しているモデルに従った簡単な会話を中心に（話す力）、そして、その会話について簡単な文書を読みます（読む力）。2つ目の授業は身についた内容について簡単な作文をし（書く力）、それを発表して、会話に戻します（一つの「聞く、話す、読む、書く」循環が完成できました）。テーマを通じて、語彙や使える表現が少しずつ増やしていきます。プロジェクトごとにまとめ（復習）の授業があります。最後の授業は次のステップにつなげる内容を導入します。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力』『②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』『③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

1. 実際の状況に応じて、コミュニケーションを図ることができる。
2. 総合的なフランス語能力を身につけるため、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開できる。

【授業計画】

第1回	(初級)	自分について、話す (読む)
第2回	(初級)	自分について、書く (発表)
第3回	(初級)	家族、親戚について、話す (読む)
第4回	(初級)	家族、親戚について、書く (発表)
第5回	(初級)	友達、先生、バイト先の仲間について、話す (読む)
第6回	(初級)	友達、先生、バイト先の仲間について、書く (発表)
第7回	(初級)	テーマの復習
第8回	(中級)	自分について、話す (読む)
第9回	(中級)	自分について、書く (発表)
第10回	(中級)	家族、親戚について、話す (読む)
第11回	(中級)	家族、親戚について、書く (発表)
第12回	(中級)	友達、先生、バイト先の仲間について、話す (読む)
第13回	(中級)	友達、先生、バイト先の仲間について、書く (発表)
第14回	(中級)	テーマの復習
第15回	(初級)	日常生活について、話す (読む)
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度）

【成績の評価】

授業中の積極的な参加の評価	80%	総合合格点は60点以上です。
テーマの復習	20%	

授業時間内に随時コメントを行うことでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCF102>フランス語Ⅱ

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

フランス語Ⅰを参照。

フランス語Ⅱは、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定5級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力』『②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』『③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

1. 実際の状況に応じて、コミュニケーションを図ることができる。
2. 総合的なフランス語能力を身につけるため、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開できる。
3. 独学でフランス語検定5級を受けられる力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 (初級) 日常生活について、話す(読む)
 - 第2回 (初級) 日常生活について、書く(発表)
 - 第3回 (中級1) 日常生活について、話す(読む)
 - 第4回 (中級1) 日常生活について、書く(発表)
 - 第5回 (中級2) 日常生活について、話す(読む)
 - 第6回 (中級2) 日常生活について、書く(発表)
 - 第7回 テーマの復習
 - 第8回 (初級) 最近あったことについて、話す(読む)
 - 第9回 (初級) 最近あったことについて、書く(発表)
 - 第10回 (初級) これからあることについて、話す(読む)
 - 第11回 (初級) これからあることについて、書く(発表)
 - 第12回 (中級) 最近あったこと、これからあることについて、話す(読む)
 - 第13回 (中級) 最近あったこと、これからあることについて、書く(発表)
 - 第14回 テーマの復習
 - 第15回 (初級) 自分の好みとその理由について、話す(読む)
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。(必要な時間は1日15分程度)

【成績の評価】

授業中の積極的な参加の評価 80%
テーマの復習 20% 総合合格点は60点以上です。
授業時間内に随時コメントを行うことでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCF201>フランス語III

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

フランス語Iを参照。

フランス語IIIは、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定4級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力』『②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』『③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

1. 実際の状況に応じて、コミュニケーションを図ることができる。
2. 総合的なフランス語能力を身につけるため、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開できる。

【授業計画】

- 第1回 (初級) 自分の好みとその理由について、話す(読む)
 - 第2回 (初級) 自分の好みとその理由について、書く(発表)
 - 第3回 (中級1) 自分の好みとその理由について、話す(読む)
 - 第4回 (中級1) 自分の好みとその理由について、書く(発表)
 - 第5回 (中級2) 自分の好みとその理由について、話す(読む)
 - 第6回 (中級2) 自分の好みとその理由について、書く(発表)
 - 第7回 テーマの復習
 - 第8回 (初級) 自分の小さい頃について、話す(読む)
 - 第9回 (初級) 自分の小さい頃について、書く(発表)
 - 第10回 (中級1) 自分の小さい頃について、話す(読む)
 - 第11回 (中級1) 自分の小さい頃について、書く(発表)
 - 第12回 (中級2) 自分の小さい頃について、話す(読む)
 - 第13回 (中級2) 自分の小さい頃について、書く(発表)
 - 第14回 テーマの復習
 - 第15回 (初級) 人や場所の描写、話す(読む)
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。(必要な時間は1日15分程度)

【成績の評価】

授業中の積極的な参加の評価 80%
テーマの復習 20% 総合合格点は60点以上です。
授業時間内に随時コメントを行うことでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCF202>フランス語Ⅳ

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

フランス語Ⅰを参照。

フランス語Ⅳは、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定4級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力』『②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力』『③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

1. 実際の状況に応じて、コミュニケーションを図ることができる。
2. 総合的なフランス語能力を身につけるため、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開できる。
3. 独学でフランス語検定4級を受けられる力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 (初級) 日常生活について、話す(読む)
 - 第2回 (初級) 人や場所の描写、書く(発表)
 - 第3回 (中級1) 人や場所の描写、話す(読む)
 - 第4回 (中級1) 人や場所の描写、書く(発表)
 - 第5回 (中級2) 人や場所の描写、話す(読む)
 - 第6回 (中級2) 人や場所の描写、書く(発表)
 - 第7回 テーマの復習
 - 第8回 (初級) 自分のしたいこと、夢、計画について、話す(読む)
 - 第9回 (初級) 自分のしたいこと、夢、計画について、書く(発表)
 - 第10回 (中級1) 自分のしたいこと、夢、計画について、話す(読む)
 - 第11回 (中級1) 自分のしたいこと、夢、計画について、書く(発表)
 - 第12回 (中級2) 自分のしたいこと、夢、計画について、話す(読む)
 - 第13回 (中級2) 自分のしたいこと、夢、計画について、書く(発表)
 - 第14回 テーマの復習
 - 第15回 (初級) 自信のあること、不難なことについて、話す(読む)
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。(必要な時間は1日15分程度)

【成績の評価】

授業中の積極的な参加の評価 80%
テーマの復習 20% 総合合格点は60点以上です。
授業時間内に随時コメントを行うことでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCC101>中国語Ⅰ
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語を話し読むための発音記号（ピンイン）や中国語の基本文型を学習し、そのうえ、漢字を読み、単語を覚え、簡単な会話や挨拶を練習していきます。発音の練習は通信媒体の機能を利用して楽しく学習していきます。また、中国社会や中国文化についても紹介し、グローバルな思考を養います。

また、上記で述べた講義内容を理解することで、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

【到達目標】

1. 中国語の発音記号（ピンイン）を学習することによって中国語の漢字をすべて読むことができる。
2. 中国語での挨拶や簡単な会話ができるようになる。
3. 中国語基本文型の構造が理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと単母音
- 第2回 子音b p m f、d t n lと複合母音
- 第3回 子音g k h、j q xと複合母音
- 第4回 子音、鼻音
- 第5回 ピンインの小テスト
- 第6回 名前の言い方
- 第7回 簡単な挨拶
- 第8回 「是」の使い方
- 第9回 形容詞述語文
- 第10回 中間テスト（ピンイン・自己紹介・形容詞述語の習得程度を考査する）
- 第11回 「的」の使い方・指示代名詞
- 第12回 動詞述語
- 第13回 疑問文のタイプ
- 第14回 数字の言い方
- 第15回 お金の言い方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習：次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること。（2時間）
復習：毎回の授業内容をノートに書かせたり、文型に従って作文をさせたり、配ったワークシートを完成させたりして復習し、指定時間にチェックすること。（2時間）

【成績の評価】

授業中の各活動（10%）、授業時間外の学習ための問題（10%）、中間テスト（30%）、期末テスト（50%）
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 新版「1年生のコミュニケーション中国語」（白水社）

【参考文献】

『中日・日中辞典』
自編教材『ピンイン書き込み練習帳』

科目名： <UCC102>中国語Ⅱ
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語Ⅰを学習した学生を対象にさらに語彙を増やし、基本文型を学習し、それを使って会話をしたり、中国語の文章を読んだり、書いたりします。

また、上記で述べた講義内容を理解することで、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

【到達目標】

1. 簡単な会話ができる。
2. 簡単な中国語を読んだり、書くことができる。

【授業計画】

- 第1回 前置詞「在」の学習
- 第2回 時間名詞の学習 時間量を表す語
- 第3回 過去形表現
- 第4回 「了」の述語後に置く場合の練習
- 第5回 選択疑問文
- 第6回 現在進行形
- 第7回 中間テスト（第1回から第6回までの内容）
- 第8回 助動詞「会」の使い方
- 第9回 助動詞「能」の使い方
- 第10回 助動詞「可以」
- 第11回 動詞の重ね型
- 第12回 「是…的」の使い方
- 第13回 過去の経験を表す表現
- 第14回 連動型
- 第15回 復習
定期試験

【授業時間外の学習】

予習：次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること。（2時間）
復習：毎回の授業内容をノートに書かせたり、文型に従って作文をさせたり、配ったワークシートを完成させたりして復習し、指定時間にチェックすること。（2時間）

【成績の評価】

小テスト（プリント）（25%）、中間テスト（25%）、期末テスト（50%）
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 新版「1年生のコミュニケーション中国語」（白水社）

【参考文献】

『中日・日中辞典』
李佳坤自作初級練習教材

科目名： <UCC201>中国語III
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱを学習した学生を対象に、さらに語彙や文型を学習し、1つの場面を決め、それにめぐる内容で話す・書く練習をします。

また、上記の述べた講義内容を理解することで、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

【到達目標】

1. いくつかの日常生活場面の会話ができる。
2. 生活場面の会話内容を中国語で書くことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 自己紹介
 - 第3回 自分についての短文の読解と会話の練習
 - 第4回 家族
 - 第5回 家族についての短文の読解と会話の練習
 - 第6回 一日
 - 第7回 一日についての短文の読解と会話の練習
 - 第8回 中間テスト
 - 第9回 趣味
 - 第10回 趣味についての短文の読解と会話の練習
 - 第11回 夏休み
 - 第12回 夏休みについての短文の読解と会話の練習
 - 第13回 旅行
 - 第14回 旅行について作文と会話
 - 第15回 復習
- 定期試験

【授業時間外の学習】

次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること（2時間）。また、3回（計15時間）の中文の読解と作文に向けて準備することと、3回（計15時間）の中国文化に関するレポートを提出すること。

【成績の評価】

中文の読解と作文（20%）、小テスト（30%）、期末テスト（50%）

中文の読解と作文、小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

『中国語実用会話 初級から中級へ』 李佳坤著

【参考文献】

『中日・日中辞典』

科目名： <UCC202>中国語Ⅳ
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを習得した学生を対象にします。中国へ一人旅するときに遭遇する場面を想定し、その会話の練習をします。また、その会話を文章にする練習もします。さらに、中国文化や最近の出来事などをも紹介します。

また、上記の述べた講義内容を理解することで、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の育成に関わっています。また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」「②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関連しています。

【到達目標】

1. 簡単な中国語の文章を読解できる。
2. 中国へ一人旅できる程度の会話ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 買い物
 - 第3回 買い物についての短文の読解と会話の練習
 - 第4回 レストランにて
 - 第5回 レストランについての短文の読解と会話の練習
 - 第6回 道を尋ねる
 - 第7回 道を聞くことについての短文の読解と会話の練習
 - 第8回 中間テスト
 - 第9回 病気
 - 第10回 病気についての短文の読解と会話の練習
 - 第11回 電話でチケットを注文
 - 第12回 電話をかけることについての短文の読解と会話の練習
 - 第13回 友達を作る
 - 第14回 友達について作文と会話
 - 第15回 復習
- 定期試験

【授業時間外の学習】

次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること（2時間）。また、3回（計15時間）の中文の読解と作文に向けて準備することと、3回（計15時間）の中国文化に関するレポートを提出すること。

【成績の評価】

中文の読解と作文・レポート（25%）、中間テスト（25%）、期末テスト（50%）
中文の読解と作文・レポートや小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

『中国語実用会話 初級から中級へ』 李佳坤著

【参考文献】

『中日・日中辞典』

科目名： <UCJ101>日本語Ⅰ
担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、外国人留学生が大学で学ぶために必要な日本語能力を中上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。
留学生が十分興味を抱けるようなテーマで各課を統一し、「読む・聴く・書く・話す」の四技能をバランスよく統合的に学習します。「読む」では、キーワードから本文の内容を推測し、段落ごとの展開を読み取る練習や長文の大意を読み取る練習をしながら、読解能力を高めます。また「書く」では、本文の内容をまとめたり、本文と関連したテーマについて、段落・文章全体の構成を意識して作文を書く練習をします。「話す」では、テーマに沿ったプレゼンテーションやグループディスカッションを通して、コミュニケーション能力を高めます。授業全般をアクティブラーニングで構成し、問題練習においても、学生間で自由に意見を出し合って正解を導き出します。
なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の修得をめざします。
また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

- ①中上級レベルの文章を正確に理解できる。
- ②中上級レベルの漢字・語彙・文法を使うことができる。
- ③段落・文章構成を意識した作文を書くことができる。
- ④テーマに沿ってプレゼンテーションやグループディスカッションができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回～第4回	第1課「色」 本文：「病院の色」 重要表現：～という／～に基づく／～と同時に／～による／～際 聴解：「ポストの色」、作文：「私の国の国旗」 その他：色に関する表現、「就職活動と色彩心理」
第5回～第7回	第2課「ユーモア・ジョーク」 本文：「エプリル・フール」 重要表現：～とする／～にかけて／～から～にかけて／～さえ／～さえ～ない／～なんて／～ことで／～ことによって／～ように思われる 聴解：「世界最大のハンバーガー」、作文：「新聞記事を書く」 その他：「うそ」のことわざ・川柳、「人はなぜウソをつくのか」
第8回～第10回	第3課「制服」 本文：「学校の制服」 重要表現：～を問わず／～をめぐって／～をめぐるN／～ところ／～ことなく／～向き／～向け／～における／～において／～上 聴解：「わが社の制服」、作文：「制服は必要か不必要か」 その他：柄・服の種類、「卒業生の学校制服に対する意識調査」
第11回～第13回	第4課「算数」 本文：「計算の方法を説明する」 重要表現：～に至る／～から～に至るまで／～うえで／～なり／～という点／～点／～にかかわる 聴解：「形の説明」、作文：「なぜ大学に行くのか」 その他：図形のことば、「就活力」
第14回～第15回	第5課「遊びと運動」 本文：「子供の遊び」 重要表現：～をもたらす／～に対して／～にとって／～ばかりでなく～も／～だけでなく～も／～を通して／～を通じて 聴解：「体操」、作文：「子供のときによくした遊び」 その他：体の部位と動作表現、「ラジオ体操80年 継続が大切」
定期試験	

【授業時間外の学習】

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってもらうこと。（1時間）また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（計15時間）
オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にすること。

【成績の評価】

レポート・授業中の発表（25%）、小テスト（25%）、定期試験（50%）
レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』平井悦子・三輪さち子著、スリーエーネットワーク、2009年、2,400円+税

【参考文献】

『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子・宮本淳・和栗雅子著、アルク、2010年、2,500円+税

科目名： <UCJ102>日本語Ⅱ
担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、「日本語Ⅰ」に引き続き、外国人留学生が大学で学ぶために必要な日本語能力を中上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。留学生が十分興味を抱けるようなテーマで各課を統一し、「読む・聴く・書く・話す」の四技能をバランスよく統合的に学習します。「読む」では、キーワードから本文の内容を推測し、段落ごとの展開を読み取る練習や長文の大意を読み取る練習をしながら、読解能力を高めます。また「書く」では、本文の内容をまとめたり、本文に関連したテーマについて、段落・文章全体の構成を意識して作文を書く練習をします。「話す」では、テーマに沿ったプレゼンテーションやグループディスカッションを通して、コミュニケーション能力を高めます。授業全般をアクティブラーニングで構成し、問題練習においても、学生間で自由に意見を出し合って正解を導き出します。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

- ①中上級レベルの文章を正確に理解できる。
- ②中上級レベルの漢字・語彙・文法を使うことができる。
- ③段落・文章構成を意識した作文を書くことができる。
- ④テーマに沿ってプレゼンテーションやグループディスカッションができる。

【授業計画】

第1回～第3回	第6課「お金」 本文：「古くなったお札の行方」 重要表現：～ぶり／～とはいえ／～と（は）いっても／～当たり／たとえ～も／～やら、～やら／～のやら、～のやら／～のやら／～と、～ 聴解：「2,000円札」、作文：「自国の通貨」 その他：お金のことば・のし袋、「お金を投げる・洗う」
第4回～第6回	第7課「水」 本文：「水への関心」 重要表現：～に関する～／～ない限り／～限り／～がち／～っぱなし／～以上に／～以上／～を抜きにしては～ない／～抜き／～のおかげで／～せいで 聴解：「有料の飲み水」、作文：「もったいない」 その他：資源やエネルギーの無駄遣い、「生命にとって水とは何か」
第7回～第9回	第8課「遺伝」 本文：「南米の先住民は全員O型？」 重要表現：～にもかかわらず／～につれて／～に例えられる／～に例える／～に違いない／～得ない／～得る 聴解：「ゲノム」、作文：「血液型による性格判断」 その他：世界の地理、「アイスマン」
第10回～第12回	第9課「漫画・アニメ・本」 本文：「座談会『漫画について』」 重要表現：～っぽい／～ぽさ／～といってもいい／～にしても／～つつ、～／～めく 聴解：「漫画やアニメが学べる大学」、作文：「読書歴」 その他：擬態語、「manga」
第13回～第15回	第10課「ヒトと動物」 本文：「ヒトのことばと鳥の歌」 重要表現：～かのように／～結果／～までになる／～に比べて／～と比べて／～ものだ／～のに対して／～のに対し 聴解：「皇帝ペンギンの親子」、作文：「外国語を学習するうえで気をつけること」 その他：動物のことわざ、「進化の隣人チンパンジーの子育て」
定期試験	

【授業時間外の学習】

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくる。（1時間）また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（計15時間）

オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にくること。

【成績の評価】

レポート・授業中の発表（25%）、小テスト（25%）、定期試験（50%）

レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』平井悦子・三輪さち子著、スリーエーネットワーク、2009年、2,400円+税

【参考文献】

『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子・宮本淳・和栗雅子著、アルク、2010年、2,500円+税

科目名： <UCJ201>日本語III
担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、外国人留学生の日本語能力を上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。
上級レベルに到達するには、語彙力のアップ、文型の正確な使用や状況に応じた運用が求められます。そのため、ワークブックを併用し、豊富な問題練習によって、重要表現や語彙・漢字の理解、定着を図ります。さらに、学んだ語彙や重要表現を用いて、テキストの内容に即した話題で、自分の考えを自由に発信するタスク練習を行います。「読む」「聴く」「書く」「話す」を統合させたクラス活動を通して、運用能力を高めていきます。授業全般をアクティブラーニングで構成し、問題練習においても、学生間で自由に意見を出し合って正解を導き出します。
なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の修得をめざします。
また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

- ①上級レベルの文章の読解ができる。
- ②上級レベルの語彙・文法を使うことができる。
- ③テーマに沿ってレポートを作成することができる。
- ④社会問題に関するプレゼンテーションやディスカッションができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回～第4回	ユニット1「自己紹介と本当の自分」 本文：「自分とは何だろう」 重要表現：～（の）ではないでしょうか／～ことを「……」と言う／～ばかりで／ このように見てみると（考えると）～ということになる／～ば～ほど／例えば～と する／～場合もある／～と、なおさら…… タスク：エントリーシートを書く
第5回～第7回	ユニット2「若者の自己評価」 本文：「日米の大学生のコミュニケーション・スタイル」 重要表現：～に関するN／～関して／～なりに／～なりのN／～ごとに／～まで／ めったに～ない／いったい～の（だろう）か／～にすぎない／～はずがない／～わ けではない タスク：ロールプレイ「人物を紹介する」
第8回～第10回	ユニット3「ジェンダーを考える」 本文：「男の料理 市民権」 重要表現：～限り／～うえ（に）／～といったふうに／～というふうに／～（の）代 わりに／～うえで／どちらかといえば（どちらかという）／～ってことは……って こと／～ということは……ということ／～も～もない タスク：グラフを説明する
第11回～第13回	ユニット4「ことばと文化」 本文：「日本人は『ノー』と言わない？」 重要表現：～ようなものだ／～（よ）うものなら／～かねない／～ものの／なんと いっても／とても～ない（ぬ）／～をめぐり（めぐって）／～に反して／～からと いって／～にとって／～にとってのN タスク：メール「先生にお願いをする」
第14回～第15回	ユニット5「心と体のバランス」 本文：「健康病が心身をむしばむ」 重要表現：～と（いうの）は……ことを言う（ことだ）／と言っても／～度に／そも そも／～ふしがある／～べきだ（～べきではない）／いかにも～そうだ／～という／ ～つつ／～かける／～かけのN／～に…を感じさせられる（考えさせられる）／さら には タスク：アンケート「日本事情について調査する」

定期試験

【授業時間外の学習】

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってもらうこと。（1時間）また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（計15時間）
オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にすること。

【成績の評価】

レポート・授業中の発表（25%）、小テスト（25%）、定期試験（50%）
レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語』鎌田修・ボイクマン総子・富山佳子・山本真知子著
、the japan times、2012年、3,200円+税

【参考文献】

『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語ワークブック』鎌田修監修、奥野由紀子・金庭久美子・山森理恵著、the japan times、2013年、1,800円+税

科目名： <UCJ202>日本語Ⅳ
担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、「日本語Ⅲ」に引き続き、外国人留学生の日本語能力を上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。日本社会の現状を反映した読み物を使って、「読む」「聴く」「書く」「話す」能力を総合的に伸ばしていきます。上級レベルに到達するには、語彙力のアップ、文型の正確な使用や状況に応じた運用が求められます。そのため、ワークブックを併用し、豊富な問題練習によって、重要表現や語彙・漢字の理解、定着を図ります。さらに、学んだ語彙や重要表現を用いて、テキストの内容に即した話題で、自分の考えを自由に発信するタスク練習を行います。「読む」「聴く」「書く」「話す」を統合させたクラス活動を通して、運用能力を高めていきます。授業全般をアクティブラーニングで構成し、問題練習においても、学生間で自由に意見を出し合って正解を導き出します。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」「2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」「3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連しています。

【到達目標】

- ①上級レベルの文章の読解ができる。
- ②上級レベルの語彙・文法を使うことができる。
- ③テーマに沿ってレポートを作成することができる。
- ④社会問題に関するプレゼンテーションやディスカッションができる。

【授業計画】

- 第1回～第3回 ユニット6「働くということ」
本文：「『驚き』や『喜び』を食べて育つ」
重要表現：つまり／結果として／～につれ（て）／～末に／～からこそ（てこそ）／～として／ここ＋[期間]／～なんか／いかに～か／なぜなら（ば）～からだ
タスク：インタビュー「企業で働くOBや社員にインタビューする」
- 第4回～第6回 ユニット7「日本語の多様性」
本文：「『越境』が広げる言葉の可能性 外国人作家が書く日本文学」
重要表現：～がち／～による／XもあればYもある／XもいればYもいる／それに対して／～のに対して／～（か）が問題ではなく、……（か）が重要だ／～ざるを得ない
タスク：ロールプレイ「相手に応じた言い方で依頼する」
- 第7回～第9回 ユニット8「環境のためにできること」
本文：「暮らしの無駄、自覚」
重要表現：～とすれば／～にとどまる／～割に／～に従って／A（が）、逆にB／～一方（で）／～に限られる（限る）
タスク：ディスカッション「論理的に意見を述べる」
- 第10回～第12回 ユニット9「食の共同性」
本文：「新しい食の共同性を求めて」
重要表現：～ほど…はない（いない）／～を通して／～（が）ゆえに／しかも／～に向けて
タスク：スライド作成「発表内容をスライドにまとめる」
- 第13回～第15回 ユニット10「笑いのちから」
本文：「笑いの効能」
重要表現：～をはじめとするN／～をはじめとして／いまだ／～にて／～を込める（～が込められる）／～ねば
タスク：発表「スライドを見せながら発表する」

定期試験

【授業時間外の学習】

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。（1時間）また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（計15時間）

オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にくること。

【成績の評価】

レポート・授業中の発表（25%）、小テスト（25%）、定期試験（50%）
レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語』鎌田修・ボイクマン総子・富山佳子・山本真知子著、the japan times、2012年、3,200円+税

【参考文献】

『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語ワークブック』鎌田修監修、奥野由紀子・金庭久美子・山森理恵著、the japan times、2013年、1,800円+税

科目名： 健康とスポーツ【発】
担当教員： 宮本 賢作(MIYAMOTO Kensaku)

【授業の紹介】

成長期から成人期に移行するこの時期に、正しいヘルスリテラシーを身につけるとともに、今後起こりうる健康問題について理解することで、その予防としての運動、食事、休養の重要性と、それをサポートする社会的なシステムについて理解する。またこれらを主体的かつ科学的に捉え、行動変容を意識した実践力と、その基盤となるエビデンスに基づいた健康づくりについて考察する。
なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力」に関する知識、技法の修得をめざします。
また、学修成果「①豊かな人間性や主体的に生きる力」に関連しています。

【到達目標】

健康な生活を営む上で必要な基礎知識の理解を深めることができる。
ヒトの生涯のさまざまな場面で生じる疾病の予防および健康の維持と生体機能の関係について理解を深めることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション・健康（及び疾病）の概念とヘルスプロモーション
第2回 健康を取り巻く環境についての理解
第3回 健康情報とヘルスリテラシー
第4回 幼少期～成長期の健康問題
第5回 成人期の健康問題
第6回 高齢期の健康問題
第7回 死生観と生命倫理
第8回 健康と運動・労働
第9回 健康と食事・栄養
第10回 健康と休養・睡眠
第11回 喫煙、飲酒、薬物乱用、メディアリテラシーと健康
第12回 運動の科学と健康
第13回 体力の評価と分析
第14回 エビデンスに基づいた医療と健康づくり&持続可能な健康づくり
第15回 まとめ（生涯にわたる健康増進とスポーツライフの継続を目指して）
定期試験

【授業時間外の学習】

毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60%）、レポート・ミニテスト（30%）、学習態度（10%）によって行い、総計60%以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

シンプル衛生公衆衛生学2022（南江堂）
これからの健康とスポーツの科学 第5版（講談社）

科目名： <UHH002>健康とスポーツ実習【発A】

担当教員： 奥田 直希(OKUDA Naoki)

【授業の紹介】

この実習の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、実習のはじめには、文化としてスポーツを捉えることの必要性を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動を通して、スポーツの文化性について理解を深めます。次に、フリスビー競技（アルティメット）ならびにバレーボールを題材として、スポーツの楽しさを理解し、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。そして、これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。なお、この実習では、学籍番号順に前期と後期の履修者を決定することとします。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力、3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連している。

この実習の目的は、発達科学部ディプロマポリシー④「子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できること」に対応しています。

【到達目標】

1. 文化としてのスポーツの捉え方を理解できる
2. 新スポーツを企画・実行できる
3. スポーツの楽しさを理解し表現できる
4. 他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文化の概念およびその表現
- 第3回 新スポーツの企画
- 第4回 ルールの考案
- 第5回 発表と実践（1）：グループA
- 第6回 発表と実践（2）：グループB
- 第7回 アルティメット（1）：楽しさに触れる
- 第8回 アルティメット（2）：楽しさを表現する
- 第9回 バレーボール（1）：楽しさに触れる
- 第10回 バレーボール（2）：楽しさの構造を検討する
- 第11回 バレーボール（3）：楽しさの表現方法を検討する
- 第12回 バレーボール（4）：楽しさを表現する [グループA]
- 第13回 バレーボール（5）：楽しさを表現する [グループB]
- 第14回 バレーボール（6）：大人数で楽しむ方法を検討する
- 第15回 バレーボール（7）：大人数で楽しむ

定期試験は実施しない

※天候によって実施種目を変更することがあります

【授業時間外の学習】

実習毎に、実習内容の振り返りや調べ学習課題（新スポーツの企画、表現課題の準備など）といった計15時間の時間外学習課題を指示します。

【成績の評価】

- ・表現課題 80%
- ・小レポート 20%

《フィードバックの方法》

表現課題については、講評を実習時間中に実施することでフィードバックをおこないます。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス、1982年）※図書館に配架

科目名： <UHH002>健康とスポーツ実習【発B】

担当教員： 奥田 直希(OKUDA Naoki)

【授業の紹介】

この実習の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、実習のはじめには、文化としてスポーツを捉えることの必要性を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動を通して、スポーツの文化性について理解を深めます。次に、フリスビー競技（アルティメット）ならびにバレーボールを題材として、スポーツの楽しさを理解し、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。そして、これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。なお、この実習では、学籍番号順に前期と後期の履修者を決定することとします。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 豊かな人間性や主体的に生きる力、3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『①豊かな人間性や主体的に生きる力、③学部が示す専門的知識や技能および実践的能力』に関連している。

この実習の目的は、発達科学部ディプロマポリシー④「子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できること」に対応しています。

【到達目標】

1. 文化としてのスポーツの捉え方を理解できる
2. 新スポーツを企画・実行できる
3. スポーツの楽しさを理解し表現できる
4. 他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文化の概念およびその表現
- 第3回 新スポーツの企画
- 第4回 ルールの考案
- 第5回 発表と実践（1）：グループA
- 第6回 発表と実践（2）：グループB
- 第7回 アルティメット（1）：楽しさに触れる
- 第8回 アルティメット（2）：楽しさを表現する
- 第9回 バレーボール（1）：楽しさに触れる
- 第10回 バレーボール（2）：楽しさの構造を検討する
- 第11回 バレーボール（3）：楽しさの表現方法を検討する
- 第12回 バレーボール（4）：楽しさを表現する [グループA]
- 第13回 バレーボール（5）：楽しさを表現する [グループB]
- 第14回 バレーボール（6）：大人数で楽しむ方法を検討する
- 第15回 バレーボール（7）：大人数で楽しむ

定期試験は実施しない

※天候によって実施種目を変更することがあります

【授業時間外の学習】

実習毎に、実習内容の振り返りや調べ学習課題（新スポーツの企画、表現課題の準備など）といった計15時間の時間外学習課題を指示します。

【成績の評価】

- ・表現課題 80%
- ・小レポート 20%

《フィードバックの方法》

表現課題については、講評を実習時間中に実施することでフィードバックをおこないます。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス、1982年）※図書館に配架

科目名： <KIS01>児童学研究法
担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育者・保育者になること。それは、あなた方にとって目標かもしれませんがゴールではありません。現場に出れば、日々子どもたちとのふれあいの中で様々な発見をするとともに、つまり、思い悩むことの連続でしょう。そして、それらを乗り越えながら、教育者・保育者は子どもとともに成長するのです。教育者・保育者になった後の研究態度は、その意味で重要です。

この授業では、皆さんの学ぶ力を育てたいと考えています。そして、学修を通じて、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識と技能を養います。

また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・自主的な学習態度を形成し、問題発見能力を開発するとともに問題をとらえる視点の多様性を理解することができる。
- ・実際に教育・保育に関する各種のレポートを作成したり、調査研究の演習・発表・討議を通じて、文献資料の収集方法（図書館の利用方法を含む）の習得、読解力と文章構成力を高め、保育者にとって必要な発表や討論の方法を習得することができる。
- ・演習を通して、学生と教員、あるいは学生同士の自由な語り合いの下地を作り、本学の特色であるゼミ活動における教育研究をより一層効果的に実現することができる。
- ・将来、教育者・保育者に求められる自己研修能力の基盤を形成することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 レポートの作成：レポートを作成の意義と基本的フォーマット
 - 第3回 レポートの作成；レポート作成時の留意事項
 - 第4回 研究進め方
 - 第5回 マスコミ情報の批判的検討
 - 第6回 研究の方向性の決定
 - 第7回 研究の方向性の確定
 - 第8回 研究の進展
 - 第9回 中間発表レジュメの検討
 - 第10回 中間発表レジュメの完成
 - 第11回 研究中間発表
 - 第12回 発表レジュメの再検討
 - 第13回 研究成果発表会レジュメの完成
 - 第14回 研究成果発表会
 - 第15回 研究の振り返りと全体のまとめ
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ毎に、授業時に必要な資料の準備、また、授業後における学習内容の振り返り・整理が必要となります。また、研究成果発表会に向けての準備など、授業時間外での学習を指導します。学習には、15時間以上が必要となるでしょう。

【成績の評価】

毎回の授業時におけるミニレポートへのコメント(約30%)、レポート及び研究室単位の研究結果(約50%)、発表及び質疑での答弁等(約20%)を総合的に評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、最後の授業時に以後の学びへの継続についてフィードバックします。

【使用テキスト】

基礎演習で使用する発達科学部オリジナルテキスト「しるべ」を使用します。

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KIS02>教育学原論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育学原論では、教育課程編成・実施の方針に基づき、教育に関係する領域を広範囲に、かつ、多角的に追求することをおして、この領域の基礎的な知識を獲得するための科目として位置づけられます。

今日、人々の教育に関する意見や要望、そして批判には、いろんな立場から多様な意見が噴出して、答えを出すのが非常に難しい状況にあります。教育学原論では、教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識を獲得します。そして、自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力を形成します。

なお、「教育」と言うと幼児の段階からの教育を意識するかもしれませんが、保育においては養護と教育を一体的に実現するところに特色があります。そこで、0歳児からの教育の可能性や目的および目標についても検討します。

この授業では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識・技能の修得を目指します。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連する力量形成を行います。

【到達目標】

1. 教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識を獲得することができる。
2. 教育の基本的概念や教育の理念の基礎を理解することができる。
3. 教育の歴史や思想の学習をおして、今日の教育の基本理念の形成過程を理解することができる。
4. 自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力の獲得することができる。
5. 上の4つの到達目標を達成することで、卒業認定・学位授与の方針に示す、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション・教育の意味と本質
 - 第2回：教育の目的と目標
 - 第3回：人間社会における教育の役割
 - 第4回：家族や社会における教育の思想と教育の役割
 - 第5回：主要な教育思想
 - 第6回：近代学校制度の成立と展開
 - 第7回：日本の学校教育の歴史
 - 第8回：義務教育の概要
 - 第9回：今日の我が国における学校制度と主要国の学校制度
 - 第10回：教育課程の基礎
 - 第11回：学習指導の基礎
 - 第12回：家庭教育
 - 第13回：生涯学習
 - 第14回：教員養成
 - 第15回：今日の教育課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教育学原論では、授業時間外の学習として合計60時間に相当する学習を求めます。その1つとして、授業終了時に、当該授業において授業後に復習すべきことを指示します。また、次回の授業に関する予習事項を指示します。

【成績の評価】

毎回の授業終了時に課するミニレポート（約30%）、レポート（約20%）、定期試験（約50%）の3つを以て、総合的に評価します。

- ・ミニレポートについては、次の授業の冒頭の部分で内容についてコメントします。
- ・主たるレポート課題については、15回目の授業でフィードバックします。
- ・定期試験の内容については、学内ネットを通じてフィードバックします。

【使用テキスト】

新初等教育原理（平成26年 佐々木正治編著、福村出版）

【参考文献】

授業時に、適宜、紹介します。

科目名： <KIS03>教育制度論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれませんが、また、制度や法規に関連することが多いのでできれば避けて通りたい…と思う人も少なくないと思います。

しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の1つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめとてたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えているのです。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。

本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

・教育現場での1つ1つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることを理解し、自らの教育実践に取り組む姿勢を形成することができる。

・この授業では、教育制度の基本的な枠組みを理解すると共に、制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション&教育制度を学ぶ意義

第2回：教育法規の全体像

第3回：学校制度とその課題

第4回：教育行政制度とその課題

第5回：教育財政制度とその課題

第6回：教育課程行政

第7回：学校経営の理論と実際

第8回：学校経営における地域や保護者との連携

第9回：幼児・児童の管理

第10回：学校における安全管理

第11回：教員養成制度

第12回：特別支援教育制度

第13回：学校を巡る社会状況の変化と学校の課題

第14回：生涯学習社会に向けた教育制度の在り方

第15回：我が国及び諸外国における教育事情と教育改革

定期試験

【授業時間外の学習】

教育制度論では、授業時間外の学習として合計60時間に相当する学習を求めます。その1つとして、各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

【成績の評価】

毎回の授業時におけるミニレポートへのコメント(約30%)、レポート(約20%)及び試験(約50%)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

河野和清編著『現代教育の制度と行政 改訂版』福村出版 2017

【参考文献】

文部科学省「幼稚園教育要領」2017

文部科学省「小学校学習指導要領」2017

その他、授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KIS04>教師論
担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

教職や保育職は、皆さんにとって最も身近な職業の一つです。幼稚園や小学校でお世話になった先生に憧れて、この大学に入学した人も多いのではないのでしょうか。では、先生の仕事はどのようなものなのか知っていますか。先生の仕事の実際は、保育や教育を受ける立場からは見えづらいものです。教職や保育職を目指すならば、教師や保育者としての視点を持つことが必要です。

教師・保育者には、まず人間性（豊かな心、コミュニケーション力、責任感など）が重要です。その上に専門性（教育・保育の体系的知識や理論、教育や保育の実践力など）が求められます。さらに職業人としての教職や保育職の仕組み（職務、研修、サービス、チーム学校運営への対応など）を理解していなければなりません。

そこで本授業では、「教師・保育者の人間性」「教師・保育者の専門性」「職業人としての教師・保育者」について、教職や保育職にかかわる歴史、制度、理論など様々な視点から検討し、その理解を深めていきます。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っていること」、「2 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できていること」の育成に主に関連しています。また、学修成果の『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる』、『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している』、『⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している』、『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

1. 受講生が教職・保育職を具体的に理解し、それぞれの教師・保育者像を明確にでき、教職・保育職に対する情熱や使命感・倫理観を高めることができる。
2. 教師・保育者の人間性や専門性、職業人としての教師・保育者について体系的な知識や理論を理解することができる。
3. 教師・保育者が保育・教育に関わる多様な専門家や地域の人材と協働する意義を理解することができる。
4. 教師・保育者をめぐる諸問題について疑問を持ち、教職・保育職についての自分の考えを深めることができるとともに、自分の適性や意欲を確かめることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	(1) 教師・保育者の人間性	1) 江戸時代の教師・保育者
第3回	(1) 教師・保育者の人間性	2) 戦前の教師・保育者
第4回	(1) 教師・保育者の人間性	3) 戦後の教師・保育者
第5回	(1) 教師・保育者の人間性	4) まとめ、戦前と戦後の違い
第6回	(2) 教師・保育者の専門性	1) 求められる専門性の変遷
第7回	(2) 教師・保育者の専門性	2) 小学校教員の専門性
第8回	(2) 教師・保育者の専門性	3) 保育士・幼稚園教員の専門性
第9回	(2) 教師・保育者の専門性	4) まとめ、今後求められる専門性
第10回	(1) 職業人としての教師・保育者	1) 職務、身分
第11回	(1) 職業人としての教師・保育者	2) サービス規律
第12回	(1) 職業人としての教師・保育者	3) 研修
第13回	(1) 職業人としての教師・保育者	4) 勤務条件
第14回	(1) 職業人としての教師・保育者	5) チーム学校運営への対応、地域社会との連携・協働
第15回	全体のまとめ 全体の振り返り、保育・教育改革の動向 定期試験を実施する。	

【授業時間外の学習】

- ・授業前に、教員から指示されたテーマや資料に関する疑問点や気づいた点などをノート等に整理しておくこと（毎回1時間）。
- ・授業後に、配布資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理しておくこと（毎回1時間）。
- ・授業全体で3回、小レポートの作成を求めるため、その作成準備のために資料収集や分析などを行うこと（合計約30時間）。

【成績の評価】

毎回授業後に配布する振り返りシートの提出（20%）、3回行う小レポートの作成（20%）、期末試験の結果（60%）から総合的に評価する。

定期試験のフィードバックは、試験終了後に解答例を配付する。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。毎回のテーマにそった資料を配布し、それを用いて講義する。

【参考文献】

- ・佐竹勝利他編著『新世紀の教職論』コレール社、2006年。
- ・佐々木司・三山緑編著『これからの学校教育と教師―「失敗」から学ぶ教師論入門―』ミネルヴァ書房、2014年。
- ・大豆生田啓友他編著『アクティベート保育学② 保育者論』ミネルヴァ書房、2019年。
- ・佐久間亜紀・佐伯胖編著『アクティベート教育学② 現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。

科目名： <KIS05>カリキュラム論
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

保育者は日々子どもと遊びを共にしながら、子どもが幼稚園や保育所、認定こども園に入園（所）してから修了するまでの生活の全貌を見通した保育の計画を立て実践しています。本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき各園で編成・作成される教育課程・全体的な計画の意義や方法を学び、保育の計画、実践、評価、改善の過程についての全体構造を理解していきます。

そして、他教科の学びと関連付けて理解し、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」ことが身に付くことをめざします。なお、学修成果としては『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

1. 教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解し論理的に思考・創造することができる。
 - (1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格及び位置付け並びに編成・作成の目的が理解できる。
 - (2) 幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景が理解できる。
 - (3) 教育課程・全体的な計画が社会において果たしている役割や機能を理解し、使命感をもつことができる。
 - (4) 教育課程の基礎理論の習得により保育の営みの本質を探究しようとする態度を育むことができる。
2. 教育課程・全体的な計画の基本原則及び教育実践に即した編成・作成の方法を理解し、実践力の向上に努めることができる。
 - (1) 教育課程編成、全体的な計画作成の基本原則が理解できる。
 - (2) 幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力を例示し、多面的に課題に取り組むことができる。
 - (3) 長期的な視野からまた、乳幼児や園、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性が理解できる。
3. 園全体のカリキュラムを把握し、教育課程、全体の計画をマネジメントすることの意義を理解することができる。
 - (1) カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、柔軟な思考力を用いて課題に取り組むことができる。
 - (2) カリキュラム評価の基礎的な考え方が理解できる。

【授業計画】

第1回	カリキュラムについて
第2回	保育の基本と計画
第3回	幼稚園における教育課程の役割
第4回	保育所における全体的な計画
第5回	幼保連携型認定こども園における教育及び保育並びに子育て支援等における全体的な計画
第6回	幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力
第7回	長期の指導計画と短期の指導計画の実際
第8回	保育の評価
第9回	カリキュラム・マネジメントの意義と実際
第10回	小学校へつなぐ保育と計画
第11回	幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷とその背景
第12回	指導計画の実際 (1) 指導計画の作成方法
第13回	指導計画の実際 (2) 部分指導案の作成
第14回	指導計画の実際 (3) 全日指導案の作成
第15回	指導計画立案の発表と評価
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。(2時間)

復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。(1時間) また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。(計15時間)

その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容（20％）、保育指導案作成（30％）定期試験(50％)

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出すること。

課題、保育指導案作成については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年3月 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年3月 厚生労働省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

科目名： <KIS06>教育課程論

担当教員： 山岸 知幸(YAMAGISHI Tomoyuki)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」、また自身の「7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」の修得をめざします。

教育課程・カリキュラムに関する歴史、意義や編成原理、現在の学習指導要領の重要なポイントについて学んでいきます。教育課程についての具体的な事例にも基づいて考察していきます。

また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』と関連しています。

【到達目標】

1. 教育課程・カリキュラムに関わる歴史や理論を理解することができる。
2. 学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程の意義や編成方法を体系的に理解することができる。
3. 各学校の実情にあわせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション

第2回：我が国の戦後の教育課程の変遷

第3回：カリキュラム改革の歴史（1）－児童中心主義思想を中心に－

第4回：カリキュラム改革の歴史（2）－教育内容の現代化を中心に－

第5回：教育課程の編成原理と類型

第6回：教育課程の編成・実施・評価・改善

第7回：小学校学習指導要領を学ぶ（1）－総則を中心に－

第8回：小学校学習指導要領を学ぶ（2）－カリキュラム・マネジメントの視点から－

第9回：小学校学習指導要領を学ぶ（3）－幼小連携と小中連携の視点から－

第10回：教育課程の実践（1）－年間行事計画－

第11回：教育課程の実践（2）－時間割の作成－

第12回：教育課程の実践（3）－日課・週時程の編成－

第13回：教育課程の実践（4）－教科年間指導計画－

第14回：教育課程の実践（5）－特色ある学校づくりと学校評価－

第15回：まとめ－これからの教育課程・カリキュラムの課題－

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

事前に指示された資料及びテキストを精読し、学んだこと・疑問点をノートにまとめておくこと（2時間）。

レポート作成に向けて、毎回の授業内容のポイントをA5一枚程度にまとめておくこと（2時間）。

【成績の評価】

レポート試験（60%）、毎回の授業後に提出する小レポート（40%）

レポートについては、採点基準を説明する。

毎回の授業後に提出する小レポートについては、次の授業時間にコメントを添えて返却する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）

【参考文献】

授業中に適宜資料を配付する。

科目名： <KIS07>保育原理Ⅰ
担当教員： 湯地 宏樹(YUJI Hiroki)

【授業の紹介】

この授業は、日々の保育を支えるために大切となる子どもの見方、保育の考え方、保育の歴史に関する基礎知識を身につけることを目指しています。

この授業科目は、学位授与の方針における「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

そのために、保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度、保育の思想と歴史の変遷、保育の現状と課題など保育の専門知識を幅広く学修します。

なお、この授業科目は、「子育て支援に関する基礎科目」に位置付き、保育士資格取得のための必修科目です。本授業科目の単位が認定されていない場合、2年次に実施される「保育実習Ⅰ」の履修が困難になる恐れがあります。

【到達目標】

1. 保育所保育指針の内容を保育実践に関連付けて理解できる。
2. 保育の現状と課題について自分の意見を論述することができる。
3. 子ども理解と保育の過程について省察することができる。

【授業計画】

- 第1回 乳幼児の発達の特徴
 - 第2回 保育の意義
 - 第3回 保育所保育の基本
 - 第4回 保育の環境
 - 第5回 教育制度・教育実践
 - 第6回 保育の計画・評価
 - 第7回 保育の内容
 - 第8回 子育て支援
 - 第9回 子ども・子育て支援新制度
 - 第10回 保育の場
 - 第11回 保育士の専門性
 - 第12回 保育の思想
 - 第13回 日本における保育の歴史
 - 第14回 諸外国の保育
 - 第15回 保育の現状と課題
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- ・保育所保育指針やテキストを読んで、予習・復習すること（1.5時間）。
- ・授業の中の保育実践ビデオ等に関して省察し、記録すること（1.5時間）。
- ・保育の現状と課題に関するレポートを作成すること（計15時間）。

【成績の評価】

保育の内容の理解度を確認するための小テスト（30%）、保育の現状と課題（保育所保育指針第4章「子育て支援」）に関するレポート（40%）、毎回の課題（30%）及び授業への参加状況等を踏まえて総合的に評価する。小テスト・レポートは採点やコメントを付けてフィードバックします。

【使用テキスト】

- ・『2022年版 まんがでわかる 保育士ららくらく要点マスター』（キャリア・ステーション編著、実務教育出版社、2021年）
- ・『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館、2018年）

【参考文献】

- ・適宜、資料を配布します。

科目名： <KIS08>子ども家庭支援論

担当教員： 伊達 ルミ (DATE Rumi)

【授業の紹介】

この授業は保育士資格習得に必須の授業科目です。実務経験のある教員が現場での家庭支援の経験を活かし具体的な事例を示しながら授業を行います。

家庭支援論とは、私的領域であった家庭内の子育てを社会全体で支えるようになった背景について理解し、職業使命感と倫理観を高めます。そのうえで、保育所・こども園・幼稚園などの保育施設を利用する親子のみならず、地域の親子までを視野にいたした支援のあり方に関する専門的知識を身に付け、保育実践力向上へと導いていきます。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。」及び「4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、具体的な学修成果としては『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1、学生は子育て家庭への支援者としての教育・保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることが出来る。

2、学生は家庭ならびに子育て家庭への支援に関する専門的知識や判断力を習得することが出来る。

【授業計画】

第1回 子ども家庭支援の必要性・・・家族の今とむかし

第2回 子ども家庭支援の目的・・・家族の機能

第3回 保育の専門性と家庭支援

第4回 子どもの育ちの喜びの共有

第5回 子育ての向上に資する支援

第6回 保育士に求められる基本的態度

第7回 家庭の状況に応じた支援

第8回 地域の資源活用

第9回 社会資源について

第10回 子育て支援施策

第11回 子ども家庭支援の内容と対象

第12回 保育所等を利用する家庭への支援

第13回 地域の子育て支援

第14回 要保護児童家庭への支援

第15回 家庭支援の現状と課題

定期試験はなし

【授業時間外の学習】

次回の授業範囲の予習として1時間程度、本授業に関連する保育所保育指針、認定こども園教育保育要領、幼稚園教育要領を確認しておいてください。わからない言葉は調べ、ノートにまとめておいてください。

また、復習としては1時間程度、授業内で語った事例などを参考に理解を深め重要な語句などを見直ししてください。

【成績の評価】

毎回の学習シートの記入・提出〔30%〕、レポート〔10%〕、まとめ〔60%〕の合計点で評価し、単位認定をいたします。第1回に説明いたしますので履修意思のある方は必ず出席してください。

提出物は、コメントを付して返却することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

◆子ども家庭支援論（保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす）萌文書林（ほうぶんしょりん）
守巧【編著】佐藤恵・齊藤崇・齊藤勇紀・松井剛太【著者】2021年

幼稚園教育要領〔平成29年3月告示〕文部科学省

保育所保育指針〔平成29年3月告示〕厚生労働省

幼保連携型認定こども園教育・保育要領〔平成29年3月告示〕内閣府、文部科学省、厚生労働省

【参考文献】

新基本保育シリーズ⑤子ども家庭支援論 中央法規【2019年松原康雄、村田典子、南野奈津子】

実践 家庭支援論【第3版】ななみ書房【2019年 松本園子、永田陽子、福川須美、森和子著】

科目名： <K0K01>発達心理学

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

人間のこころとからだは、生まれてから死ぬまで一生涯を通じて発達（＝変化）しつづけます。特に、乳幼児期の発達は一生涯のなかで最も著しく、量的にも質的にも大きな変化を示します。将来、保育者を目指す学生にとって、乳幼児の心身の発達について正しい知識を持っているかどうかは大変重要です。そこで本講義では、乳幼児の心身の発達（運動、認知、言語、知能、情動、気質、人間関係、社会性など）についての授業を通して、発達に応じた子どもへの働きかけや調和のとれた子どもの育ちを支える教育・保育の実践力を身につけることをめざします。また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

- ・発達心理学の基礎知識を身に付け、保育者に必要な「子供を見る目」「親とかかわる態度」などを習得できる。
- ・教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（発達と保育の営み）
 - 第2回 運動の発達（乳幼児）
 - 第3回 認知の発達①各発達段階と年齢の特徴
 - 第4回 認知の発達②発達の仕組み
 - 第6回 言語・コミュニケーションの発達・言語的コミュニケーション
 - 第7回 知能の発達
 - 第8回 情動の発達
 - 第9回 気質の発達
 - 第10回 遊びの発達
 - 第11回 親子関係・きょうだい関係・仲間関係の発達
 - 第12回 道徳性・向社会的行動の発達
 - 第13回 自己の発達（自我から自己へ）
 - 第14回 乳幼児期の発達の連関①（歩行開始前）
 - 第15回 乳幼児期の発達の連関②（歩行開始以後）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

重要と思われる内容は、事前に予習の範囲を指定します。調べてきたことを、ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、授業終了後新たに抱いた疑問などについて調べ、ノートなどに整理しておくこと。（2時間）

【成績の評価】

- ・授業への参加度（10%）、提出物（授業へのコメント・レポート）（20%）、テスト（70%）から総合的に評価します。
- ・提出物に関しては、授業時にコメントを返却します。試験については、個人的に研究室でフィードバックします。

【使用テキスト】

本郷一夫（編著）『シードブック 発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』（建帛社、2007年）1995円

【参考文献】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <K0K010>子ども家庭支援の心理学

担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki),磯部 健一(ISOBE Kenichi)

【授業の紹介】

この授業は、(1)生涯発達と初期経験の重要性、(2)家族家庭の意義と機能、(3)子育て家庭に関する現状と課題、(4)子どもの精神保健とその課題の4つの内容に大きく分かれており、子どもの発達とその家庭支援および精神保健に必要な基本的な知識を幅広く修得することを目的としています。横川が(1)から(3)を、磯部が(4)を担当します。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に必要な知識を広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解することができる。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得することができる。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解することができる。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解することができる。

【授業計画】

1. 生涯発達とライフサイクル (担当：横川)
2. 乳幼児期から学童期 (担当：横川)
3. 学童期後期から青年期 (担当：横川)
4. 成人期から老年期 (担当：横川)
5. 家族・家庭の意義と機能 (担当：横川)
6. 親子関係の定義・特徴 (担当：横川)
7. 子育ての経験と親としての育ち (担当：横川)
8. 子どもと家庭の状況 (担当：横川)
9. ライフコースと仕事・子育て (担当：横川)
10. 多様な家庭とその理解 (担当：横川)
11. 特別な配慮を要する子どもと家庭 (担当：磯部)
12. 子どもの精神保健を学ぶ意義 (担当：磯部)
13. 子どもの生活・生育環境とその影響 (担当：磯部)
14. 子どもの心の健康にかかわる問題 (1) アタッチメント障害、知的障害 (担当：磯部)
15. 子どもの心の健康にかかわる問題 (2) 発達障害、心身症 (担当：磯部)

定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、次の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので、事前に読み、キーワードや専門用語の意味を調べ、ノート等にまとめておくこと(2時間)。復習として、キーワードや専門用語の意味を再度確認するとともに、授業内容を要約すること(2時間)。

【成績の評価】

予習課題15%、各授業ごとのミニレポート15%、定期試験70%、試験結果については、オフィスアワーを利用する。予習とミニレポートについては、授業時に返却する。

【使用テキスト】

原信夫・井上美鈴 著(2022) 『子ども家庭支援の心理学 改訂版』(北樹出版)

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

科目名： <K0K02>教育心理学
担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」ことに関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

教師は、幼児・児童の発達、学習状態を正しくとらえ、それに応じて指導することが求められています。本講義では、児童・生徒の性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価などについての基本的知識の獲得を目指します。また、特別な学習支援が必要な幼児・児童の学習過程についても、その特徴などを学びます。本講義の目標は「心理学による教育方法の充実」です。小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育に関わるに際し必要となる理論を紹介し、受講した学生が理論と教育実践と結びつけられることをめざします。

【到達目標】

1. 学生が子どもの教育・保育にあたるための幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、理論を含めた基礎的な知識を身に付けることができる。
2. 学生が各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。
3. 学生がそのような知識をどのようにして子どもの教育・保育の実践に生かせるのか考える態度を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：教育心理学の内容・方法
 - 第2回：学習と記憶
 - 第3回：動機づけ
 - 第4回：知能・創造性と学力
 - 第5回：自己理解とパーソナリティ
 - 第6回：心理検査
 - 第7回：測定と評価
 - 第8回：発達の原理
 - 第9回：発達段階の特徴
 - 第10回：社会化と個性化
 - 第11回：学校不適応行動の理解
 - 第12回：学級経営
 - 第13回：学級集団
 - 第14回：キャリア教育
 - 第15回：発達障害と支援
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、テキストの指定範囲を読み理解しておくこと（2時間）。復習として、授業内容をまとめ、授業時に出される課題を行うこと（2時間）。

【成績の評価】

定期試験（70%）、授業時に出される課題（30%）。

【使用テキスト】

富永大介・平田幹夫・竹村明子・金武育子（2016）『教職をめざすひとのための発達と教育の心理学』（ナカニシヤ出版）

【参考文献】

- 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著（2019）『やさしい教育心理学』（有斐閣）
- 武田明典（2020）『教師と学生が知っておくべき教育心理学』（北樹出版）
- 藤原和政・谷口弘一（2021）『学校現場で役立つ教育心理学』（北大路書房）
- 高櫻綾子（2021）『子どもの育ちを考える教育心理学』（朝倉書店）

科目名： <K0K03>教育相談
担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。小・中学校の現場での教育相談担当教員やスクールカウンセラーの経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。教育相談は、幼児・児童の心理的発達を支援するための日常的な教育活動であり、教育の専門家としての教師にとって、教育相談に関する基礎の習得は不可欠である。子どもの発達上直面する問題について柔軟に対応し、援助するためのスキルについて、体験的な活動も取り入れ、子どもの心理的成長を支える予防的援助について学習する。

なお、この授業科目は卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の習得を目指す。また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。』に関連している。

【到達目標】

到達目標は以下の4点である。

1. 学校における教育相談の意義と理論を理解することができる。
2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解することができる。
3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解することができる。
4. 学校での子どもに対する予防的心理教育の方法について理解し、実践力を高めることができる。

【授業計画】

- 第1回 教育相談とは
 - 第2回 児童生徒理解のための心理学
 - 第3回 アセスメント
 - 第4回 カウンセリング
 - 第5回 コンサルテーション
 - 第6回 ソーシャルスキル教育
 - 第7回 ストレスマネジメント教育
 - 第8回 キャリア教育
 - 第9回 不登校
 - 第10回 いじめ
 - 第11回 発達障害
 - 第12回 学校の危機管理
 - 第13回 学級経営によるこどもの援助
 - 第14回 Q-Uと構成的グループエンカウンター
 - 第15回 学校教育と教育相談
- 定期試験

【授業時間外の学習】

指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと。(毎回2時間)
内容についての小レポートを毎回課すので、まとめて提出すること。(毎回2時間)

【成績の評価】

学期末試験(60%)と小レポート(40%)
小レポートについては、その都度、授業時に講評する。定期試験については教務課窓口及び教員研究室において模範解答を閲覧できるようにする。

【使用テキスト】

授業時間中に資料を配布する。

【参考文献】

絶対役立つ教育相談(2017年10月 藤田哲也監修 ミネルヴァ書房)
生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省 教育図書)
初めて学ぶ教職 教育相談(2019年3月 吉田武男監修 ミネルヴァ書房)
新訂版 学校教育相談入門 (2014年5月 有村久春 金子書房)

科目名： <K0K04>保育内容－人間関係Ⅰ【発A】
担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

この授業では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」、「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」ことに関わっています。子どもたちを取り巻く「人間関係」の希薄さ、子ども自身の「人間関係」づくりの弱さなどの問題に対し、保育者として、また、親としてどのように対応すればいいのだろうか。幼稚園教育要領および保育所保育指針における基本理念をふまえながら、乳幼児の様々な生活場面での「人との関わり」の育ちについて、心理学的な知識を仲立ちとした保育理念と保育実践の統合という観点から検討します。子どもの育ちについて理論と実践力を兼ね備えた、子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けることを目指します。また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。
1. 学生が、幼稚園教育等において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して理論と結びついた実践的な保育を構想する方法を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション
第2回：現代社会と人と関わる力
第3回：子どもの人間関係（1）0歳児
第4回：子どもの人間関係（2）1～2歳児
第5回：子どもの人間関係（3）3歳児
第6回：子どもの人間関係（4）4歳児
第7回：子どもの人間関係（5）5歳児
第8回：人と関わる力を育む保育（1）ねらいと内容
第9回：人と関わる力を育む保育（2）人と関わる力と遊び
第10回：人と関わる力を育む保育（3）幼児理解と評価
第11回：人と関わる力を育む保育（4）指導計画
第12回：保育の構想と展開（1）1～2歳児
第13回：保育の構想と展開（2）3歳児
第14回：保育の構想と展開（3）4歳児
第15回：保育の構想と展開（4）5歳児
定期試験は実施しない（レポート）

【授業時間外の学習】

テキスト該当範囲の予習（30分）、授業時に出される課題の作成（30分）。

【成績の評価】

- ・授業時に出される課題（40%）、グループワーク（30%）、レポート（30%）の総合評価。
- ・課題やグループワークについては授業内でフィードバックを行う。
- ・レポートについては、採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

岩立京子・西坂小百合（2018）『保育内容 人間関係』（光生館）

【参考文献】

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
無籐隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）
小田豊・奥野正義（2009）『保育内容 人間関係』（北大路書房）

科目名： <K0K04>保育内容－人間関係Ⅰ【発B】

担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

この授業では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」、「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」ことに関わっています。子どもたちを取り巻く「人間関係」の希薄さ、子ども自身の「人間関係」づくりの弱さなどの問題に対し、保育者として、また、親としてどのように対応すればいいのだろうか。幼稚園教育要領および保育所保育指針における基本理念をふまえながら、乳幼児の様々な生活場面での「人との関わり」の育ちについて、心理学的な知識を仲立ちとした保育理念と保育実践の統合という観点から検討します。子どもの育ちについて理論と実践力を兼ね備えた、子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けることを目指します。また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。

1. 学生が、幼稚園教育等において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して理論と結びついた実践的な保育を構想する方法を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：現代社会と人と関わる力
 - 第3回：子どもの人間関係（1）0歳児
 - 第4回：子どもの人間関係（2）1～2歳児
 - 第5回：子どもの人間関係（3）3歳児
 - 第6回：子どもの人間関係（4）4歳児
 - 第7回：子どもの人間関係（5）5歳児
 - 第8回：人と関わる力を育む保育（1）ねらいと内容
 - 第9回：人と関わる力を育む保育（2）人と関わる力と遊び
 - 第10回：人と関わる力を育む保育（3）幼児理解と評価
 - 第11回：人と関わる力を育む保育（4）指導計画
 - 第12回：保育の構想と展開（1）1～2歳児
 - 第13回：保育の構想と展開（2）3歳児
 - 第14回：保育の構想と展開（3）4歳児
 - 第15回：保育の構想と展開（4）5歳児
- 定期試験は実施しない（レポート）

【授業時間外の学習】

テキスト該当範囲の予習（30分）、授業時に出される課題の作成（30分）。

【成績の評価】

- ・授業時に出される課題（40%）、グループワーク（30%）、レポート（30%）の総合評価。
- ・課題やグループワークについては授業内でフィードバックを行う。
- ・レポートについては、採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

岩立京子・西坂小百合（2018）『保育内容 人間関係』（光生館）

【参考文献】

- 文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
- 厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
- 無籐隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）
- 小田豊・奥野正義（2009）『保育内容 人間関係』（北大路書房）

科目名： <K0K05>保育内容－人間関係Ⅱ【発A】

担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

本授業科目は、卒業認定・学位授与の方針のうち、「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」ことに関わっている。本講義では、保育内容－人間関係Ⅱに引き続き、幼稚園教育要領、および、保育所保育指針の基本理念をふまえた上で、子どもとの人間関係をどのようにとらえるのか、また指導はどのようにあるべきかについて、人間関係に関するさまざまな心理学的知見をもとに検討する。特に、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人との関わり」に関する具体的な問題を多くとりあげ、そのような問題に対処する理論に基づいた基本的な考え方と対処方法について学ぶ。保育や教育で必要となる理論と実践を備え、子育て支援社会を支えるための実践力の向上を目指します。また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、乳幼児の「人との関わり」に関するさまざまな事項を検討・考察することで、人間関係全般に関する基礎的指導力のさらなる育成を目標とする。
3. 学生が、子どもにとっての人とのかかわりの意味の重要性をあらためて理解し、主観に陥らない子どもと問題のとらえ方を身に付け、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【授業計画】

第1回：遊びと人間関係（1）遊びと発達
第2回：遊びと人間関係（2）遊びを通した子どもの育ち
第3回：遊びと人間関係（3）保育者の援助
第4回：遊びと人間関係（4）保育の構想と展開
第5回：保育者と子どもの人間関係（1）乳児の保育
第6回：保育者と子どもの人間関係（2）1歳以上3歳未満児の保育
第7回：保育者と子どもの人間関係（3）幼児の仲間づくりと保育
第8回：保育者と子どもの人間関係（4）保育の構想と展開
第9回：人間関係で気になる子ども（1）気になる子どもと自分の「見方」
第10回：人間関係で気になる子ども（2）気になる子どもに対する援助
第11回：人間関係で気になる子ども（3）保育の構想と展開
第12回：地域に生きる保育者の人間関係
第13回：保育者同士の人間関係
第14回：領域「人間関係」の考え方
第15回：まとめ（現代社会における保育者の役割を考える）
定期試験は実施しない（レポート）

【授業時間外の学習】

テキスト該当範囲の予習（30分）、授業時に出される課題（30分）。

【成績の評価】

- ・授業時に出される課題（40%）、グループワーク（30%）、レポート（30%）の総合評価。
- ・課題、グループワークについては授業内でフィードバックを行う。
- ・レポートについては採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

小田豊・奥野正義（2009）『新保育ライブラリー 保育内容 人間関係』（北大路書房）

【参考文献】

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
岩立京子・西坂小百合（2018）『保育内容 人間関係』（光生館）
無籐隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）

科目名： <K0K05>保育内容－人間関係Ⅱ【発B】

担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

本授業科目は、卒業認定・学位授与の方針のうち、「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」ことに関わっている。本講義では、保育内容－人間関係Ⅰに引き続き、幼稚園教育要領、および、保育所保育指針の基本理念をふまえた上で、子どもとの人間関係をどのようにとらえるのか、また指導はどのようにあるべきかについて、人間関係に関するさまざまな心理学的知見をもとに検討する。特に、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人との関わり」に関する具体的な問題を多くとりあげ、そのような問題に対処する理論に基づいた基本的な考え方と対処方法について学ぶ。保育や教育で必要となる理論と実践を備え、子育て支援社会を支えるための実践力の向上を目指します。また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、乳幼児の「人との関わり」に関するさまざまな事項を検討・考察することで、人間関係全般に関する基礎的指導力のさらなる育成を目標とする。
3. 学生が、子どもにとっての人とのかかわりの意味の重要性をあらためて理解し、主観に陥らない子どもと問題のとらえ方を身に付け、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【授業計画】

- 第1回：遊びと人間関係（1）遊びと発達
 - 第2回：遊びと人間関係（2）遊びを通した子どもの育ち
 - 第3回：遊びと人間関係（3）保育者の援助
 - 第4回：遊びと人間関係（4）保育の構想と展開
 - 第5回：保育者と子どもの人間関係（1）乳児の保育
 - 第6回：保育者と子どもの人間関係（2）1歳以上3歳未満児の保育
 - 第7回：保育者と子どもの人間関係（3）幼児の仲間づくりと保育
 - 第8回：保育者と子どもの人間関係（4）保育の構想と展開
 - 第9回：人間関係で気になる子ども（1）気になる子どもと自分の「見方」
 - 第10回：人間関係で気になる子ども（2）気になる子どもに対する援助
 - 第11回：人間関係で気になる子ども（3）保育の構想と展開
 - 第12回：地域に生きる保育者の人間関係
 - 第13回：保育者同士の人間関係
 - 第14回：領域「人間関係」の考え方
 - 第15回：まとめ（現代社会における保育者の役割を考える）
- 定期試験は実施しない（レポート）

【授業時間外の学習】

テキスト該当範囲の予習（30分）、授業時に出される課題（30分）。

【成績の評価】

- ・授業時に出される課題（40%）、グループワーク（30%）、レポート（30%）の総合評価。
- ・課題、グループワークについては授業内でフィードバックを行う。
- ・レポートについては採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

小田豊・奥野正義（2009）『新保育ライブラリー 保育内容 人間関係』（北大路書房）

【参考文献】

- 文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
- 厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
- 岩立京子・西坂小百合（2018）『保育内容 人間関係』（光生館）
- 無籐隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）

科目名： <K0K06>保育内容－環境Ⅰ【発A】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

子どもは、周囲の様々な環境（人、もの、自然、社会、文化、ICTなど）に好奇心や探究心をもって関わります。子どもにとってよりよい環境や保育者が果たす役割などについて、具体的指導場面での事例や体験的な実践を通して考えながら、保育実践力を培っていきます。その中でも、主に自然との関わりに焦点をあて、大学内のフィールドワークを通して指導法や指導上の留意点等について考えていきます。

また、小学校教育との連携など保育の現代的課題について考え、保育をする上での工夫や配慮等についても考えていきます。

これらの学修を通して、学部の卒業認定・学位授与の方針の、「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果としては、『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解できる。
2. 保育内容「環境」のねらいや内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、自分なりに考えることができる。
3. 幼児理解と評価についての考え方を理解できる。
4. 保育の現代的課題や、領域「環境」と小学校以降の教科等とのつながりを理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、オリジナル植物図鑑について
 - 第2回 保育内容「環境」の意義・「環境」のねらいと内容
 - 第3回 保育内容「環境」と幼児理解（好奇心・探究心）
 - 第4回 身近な自然との関わりと具体的活動①（「自然」について領域から考える）
 - 第5回 身近な自然との関わりと具体的活動②（自然に触れる：フィールドワーク）
 - 第6回 身近な自然との関わりと具体的活動③（グループワーク：フィールドワーク）
 - 第7回 身近な自然との関わりと具体的活動④（指導法：安全性に配慮した保育者の援助）
 - 第8回 身近な自然との関わりと具体的活動⑤（指導実践・振り返り・評価）
 - 第9回 数量・図形との関わりと具体的な活動①（子どもの育ち・発達を捉える）
 - 第10回 数量・図形との関わりと具体的な活動②（保育者の援助や関わり）
 - 第11回 ICT機器との関わりと具体的な活動①（保育におけるICT環境の実際）
 - 第12回 ICT機器との関わりと具体的な活動②（ICT機器を活用した保育の実際）
 - 第13回 幼小接続期の育ちと環境とのかかわり
 - 第14回 身近な自然との関わりと具体的活動⑦「オリジナル植物図鑑」の作品鑑賞会
 - 第15回 保育の現代的課題、まとめ（これまでの学びの振り返り）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。（1時間）
- ・各自で情報収集を行い、「オリジナル植物図鑑」を作成すること。（計15時間）
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。（30分）

【成績の評価】

授業への関心・態度（10％）、授業時のワークシート及びオリジナル植物図鑑（60％）、定期試験（30％）

※ワークシートや課題については、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。期末試験の成績については、オフィスアワーにてフィードバックする。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他、適宜授業で紹介します。

科目名： <K0K06>保育内容－環境Ⅰ【発B】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

子どもは、周囲の様々な環境（人、もの、自然、社会、文化、ICTなど）に好奇心や探究心をもって関わります。子どもにとってよりよい環境や保育者が果たす役割などについて、具体的指導場面での事例や体験的な実践を通して考えながら、保育実践力を培っていきます。その中でも、主に自然との関わりに焦点をあて、大学内のフィールドワークを通して指導法や指導上の留意点等について考えていきます。

また、小学校教育との連携など保育の現代的課題について考え、保育をする上での工夫や配慮等についても考えていきます。

これらの学修を通して、学部の卒業認定・学位授与の方針の、「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果としては、『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解できる。
2. 保育内容「環境」のねらいや内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、自分なりに考えることができる。
3. 幼児理解と評価についての考え方を理解できる。
4. 保育の現代的課題や、領域「環境」と小学校以降の教科等とのつながりを理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、オリジナル植物図鑑について
 - 第2回 保育内容「環境」の意義・「環境」のねらいと内容
 - 第3回 保育内容「環境」と幼児理解（好奇心・探究心）
 - 第4回 身近な自然との関わりと具体的活動①（「自然」について領域から考える）
 - 第5回 身近な自然との関わりと具体的活動②（自然に触れる：フィールドワーク）
 - 第6回 身近な自然との関わりと具体的活動③（グループワーク：フィールドワーク）
 - 第7回 身近な自然との関わりと具体的活動④（指導法：安全性に配慮した保育者の援助）
 - 第8回 身近な自然との関わりと具体的活動⑤（指導実践・振り返り・評価）
 - 第9回 数量・図形との関わりと具体的な活動①（子どもの育ち・発達を捉える）
 - 第10回 数量・図形との関わりと具体的な活動②（保育者の援助や関わり）
 - 第11回 ICT機器との関わりと具体的な活動①（保育におけるICT環境の実際）
 - 第12回 ICT機器との関わりと具体的な活動②（ICT機器を活用した保育の実際）
 - 第13回 幼小接続期の育ちと環境とのかかわり
 - 第14回 身近な自然との関わりと具体的活動⑦「オリジナル植物図鑑」の作品鑑賞会
 - 第15回 保育の現代的課題、まとめ（これまでの学びの振り返り）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。（1時間）
- ・各自で情報収集を行い、「オリジナル植物図鑑」を作成すること。（計15時間）
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。（30分）

【成績の評価】

授業への関心・態度（10％）、授業時のワークシート及びオリジナル植物図鑑（60％）、定期試験（30％）

※ワークシートや課題については、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。期末試験の成績については、オフィスアワーにてフィードバックする。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他、適宜授業で紹介します。

科目名： <K0K07>保育内容－環境Ⅱ【発A】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

環境Ⅱでは、環境Ⅰの内容を発展させ、子どもが主体的に環境に関わる力を育む保育について、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付けていきます。そのため、指導案や指導計画の作成、模擬保育を行います。

また、園の室内環境や安全な環境について知識や技術を深めたり、現代的課題や保育実践の動向について学んだりすることを通して、保育構想の向上を目指します。

これらの学修を通して、学部の卒業認定・学位授与の方針の、「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果としては、『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 幼児の発達や学びの過程を理解し、環境を再構成することができる専門的知識や実践力を身に付けることができる。
2. 領域「環境」の特性及び情報機器や教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
3. 具体的な保育を構想した指導案や指導計画を作成することができる。
4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。
5. 現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	園の環境をデザインする①（保育環境のデザインと物的環境）
第3回	園の環境をデザインする②（子どもの生活や遊びを豊かにする環境）
第4回	園の環境をデザインする③（室内環境を実際に作成する）
第5回	社会生活とのかかわり（文化や伝統、行事に親しむ保育の実践）
第6回	指導形態とカリキュラム
第7回	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案作成① 行事について）
第8回	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実践① 行事：七夕）
第9回	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実践② 行事：クリスマス）
第10回	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実践③ 行事：節分）
第11回	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実践④ 行事：ひなまつり）
第12回	指導の実践の振り返り、幼児理解と評価（記録と映像資料等の活用）
第13回	物や人との関わりを深める環境の構成と保育の展開（映像資料等の活用）
第14回	乳幼児の安全な環境について①（事故の予防と対策）
第15回	乳幼児の安全な環境について②（安全能力形成について）まとめ（これまでの学びの振り返り）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。（1時間）
- ・指導案や指導計画を作成し、模擬保育の準備をすること。（計10時間）
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。（30分）

【成績の評価】

関心・態度（10％）、グループ活動・ワークシート及び事前課題・指導案等の提出（60％）、定期試験（30％）

※授業の振り返りやレポートは、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他必要があれば適宜紹介します。

科目名： <K0K07>保育内容－環境Ⅱ【発B】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

環境Ⅱでは、環境Ⅰの内容を発展させ、子どもが主体的に環境に関わる力を育む保育について、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付けていきます。そのため、指導案や指導計画の作成、模擬保育を行います。

また、園の室内環境や安全な環境について知識や技術を深めたり、現代的課題や保育実践の動向について学んだりすることを通して、保育構想の向上を目指します。

これらの学修を通して、学部卒業認定・学位授与の方針の、「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識や技能の修得を目指します。

また、学修成果としては、『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 幼児の発達や学びの過程を理解し、環境を再構成することができる専門的知識や実践力を身に付けることができる。
2. 領域「環境」の特性及び情報機器や教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
3. 具体的な保育を構想した指導案や指導計画を作成することができる。
4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。
5. 現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	園の環境をデザインする①（保育環境のデザインと物的環境）
第3回	園の環境をデザインする②（子どもの生活や遊びを豊かにする環境）
第4回	園の環境をデザインする③（室内環境を実際に作成する）
第5回	社会生活とのかかわり（文化や伝統、行事に親しむ保育の実践）
第6回	指導形態とカリキュラム
第7回	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案作成① 行事について）
第8回	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実践① 行事：七夕）
第9回	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実践② 行事：クリスマス）
第10回	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実践③ 行事：節分）
第11回	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実践④ 行事：ひなまつり）
第12回	指導の実践の振り返り、幼児理解と評価（記録と映像資料等の活用）
第13回	物や人との関わりを深める環境の構成と保育の展開（映像資料等の活用）
第14回	乳幼児の安全な環境について①（事故の予防と対策）
第15回	乳幼児の安全な環境について②（安全能力形成について）まとめ（これまでの学びの振り返り）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。（1時間）
- ・指導案や指導計画を作成し、模擬保育の準備をすること。（計10時間）
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。（30分）

【成績の評価】

関心・態度（10％）、グループ活動・ワークシート及び事前課題・指導案等の提出（60％）、定期試験（30％）

※授業の振り返りやレポートは、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他必要があれば適宜紹介します。

科目名： <K0K08> 道徳教育論
担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

授業を大まかに理論編と実践編に分けます。理論編では、現代社会と道徳問題について概説し、道徳教育及び道徳科の本質について講義します。実践編では、学習指導要領に基づいた道徳教育のあり方や実践的方法について具体例や演習を通して考えていきます。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。」「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識や技能の修得を目指します。

また、学習成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けることができる。

①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解することができる。

②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導法を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション

第2回：〔Ⅰ〕理論編：現代社会と道徳問題

第3回：道徳の本質

第4回：道徳性の発達

第5回：道徳教育の歴史

第6回：学校における道徳教育及び道徳科の目標と内容

第7回：〔Ⅱ〕実践編：学校における道徳教育の指導計画

第8回：道徳科の指導方法

第9回：道徳科の教材と授業設計Ⅰ（小学校）（価値内容と教材分析）

第10回：道徳科の教材と授業設計Ⅱ（小学校）（教材の活用と授業設計）

第11回：学習指導案の作成Ⅰ（小学校）（学習指導案作成の手順と内容）

第12回：学習指導案の作成Ⅱ（小学校）（学習指導案の作成）

第13回：模擬授業と学習評価Ⅰ（小学校）（模擬授業の準備）

第14回：模擬授業と学習評価Ⅱ（小学校）（模擬授業の実施と評価）

第15回：学校全体で取り組む道徳科を要とした道徳教育の推進（まとめ）

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと（2時間）。

また、授業後振り返りシートによる復習と小レポートの作成（2時間）

【成績の評価】

学期末最終レポート（60%）、授業への取り組み及び指導案や小レポート（40%）

なお、学期末最終レポートの結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』

【参考文献】

授業時に随時提示する。またはプリントを配布する。

科目名： <K0K09>生徒・進路指導論
担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目であり、学校における生徒指導の進め方、進路指導・キャリア教育のあり方について、児童の社会的な自己実現に関わる様々な「問題」やトピックスを取り上げながら臨床教育学的に考察するものです。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識や技能の修得を目指します。

また、学習成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

- ①学校の学校の教育活動全体を通じて行われる生徒指導、進路指導・キャリア教育の理論と方法について理解することができる。
- ②学校において組織的・効果的な生徒指導と進路指導・キャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回：生徒指導の意義と教育課程における位置づけ
 - 第2回：生徒指導の方法原理
 - 第3回：生徒指導と教育相談
 - 第4回：生徒指導の進め方（1）－ほめと叱りの人間学
 - 第5回：生徒指導の進め方（2）－集団づくりと生徒指導
 - 第6回：生徒指導の組織的な取組みと学校内外の連携
 - 第7回：生徒指導上の「問題」－不登校を中心に
 - 第8回：生徒指導上の「問題」－いじめを中心に
 - 第9回：生徒指導ケーススタディーⅠ－小学校の事例－
 - 第10回：生徒指導ケーススタディーⅡ－中学校の事例－
 - 第11回：進路指導・キャリア教育の意義と教育課程における位置づけ
 - 第12回：職業に関する体験活動とキャリア教育
 - 第13回：進路指導・キャリア教育の組織的な推進体制と連携
 - 第14回：学校における異年齢集団活動
 - 第15回：生涯を通じたキャリア形成とキャリア・カウンセリング
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと（2時間）。
また、授業後振り返りシートによる復習や小レポートの作成を行うこと（2時間）

【成績の評価】

学期末レポート（70%）と授業内の小レポート（30%）による総合評価

なお、レポートの結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

文部科学省『生徒指導提要』（令和4年4月）

【参考文献】

随時資料を配布する

科目名： <K0K011>子どもと人間関係【発A】

担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

本講義では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」ことの育成に関わっています。また、幼稚園や保育所等で直接に子どもの保育・教育に必要なとなる子どもたちの人間関係に関する諸理論およびその基礎となる社会性に関する諸理論を学ぶことを通じて、子どもと様々な人との関係性の質が子どもの発達にどのような影響を与えるのか検討します。また、保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における人間関係のねらいや内容についての考え方の根拠について学びます。また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. 領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることができる。
2. 乳幼児の人間関係に関する理論やその背景にある研究を検討・考察することで、乳幼児における人との関わりがどのような意味を持つかについて、理論と実践を結びつけながら理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：子どもの生活と人間関係
 - 第3回：保育内容としての人間関係
 - 第4回：幼児期の教育・保育と人間関係
 - 第5回：現代社会と人と関わる力
 - 第6回：子どもの生活と遊び
 - 第7回：子どもの発達と遊び
 - 第8回：遊びの実際（1）機能
 - 第9回：遊びの実際（2）ごっこ
 - 第10回：遊びの実際（3）ルール
 - 第11回：遊びの実際（4）ゲーム
 - 第12回：遊びにみる人間関係の発達（1）仲間との関わりの視点
 - 第13回：遊びにみる人間関係の発達（2）認知発達の視点
 - 第14回：遊びにみる人と関わる力の育ち
 - 第15回：まとめ（人と関わる力の育ちを支援する）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時に出される予習課題（30分）及び復習課題（30分）。

【成績の評価】

- ・試験（50%）、授業時に出される課題（50%）の総合評価。
- ・課題については、授業時にフィードバックを行う。
- ・試験については、解答を研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）

【参考文献】

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
岩立京子・西坂小百合（2018）『保育内容 人間関係』（光生館）
無籐隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）

科目名： <K0K011>子どもと人間関係【発B】

担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

本講義では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」ことの育成に関わっています。また、幼稚園や保育所等で直接に子どもの保育・教育に必要なとなる子どもたちの人間関係に関する諸理論およびその基礎となる社会性に関する諸理論を学ぶことを通じて、子どもと様々な人との関係性の質が子どもの発達にどのような影響を与えるのか検討します。また、保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における人間関係のねらいや内容についての考え方の根拠について学びます。また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. 領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることができる。
2. 乳幼児の人間関係に関する理論やその背景にある研究を検討・考察することで、乳幼児における人との関わりがどのような意味を持つかについて、理論と実践を結びつけながら理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：子どもの生活と人間関係
 - 第3回：保育内容としての人間関係
 - 第4回：幼児期の教育・保育と人間関係
 - 第5回：現代社会と人と関わる力
 - 第6回：子どもの生活と遊び
 - 第7回：子どもの発達と遊び
 - 第8回：遊びの実際（1）機能
 - 第9回：遊びの実際（2）ごっこ
 - 第10回：遊びの実際（3）ルール
 - 第11回：遊びの実際（4）ゲーム
 - 第12回：遊びにみる人間関係の発達（1）仲間との関わりの視点
 - 第13回：遊びにみる人間関係の発達（2）認知発達の視点
 - 第14回：遊びにみる人と関わる力の育ち
 - 第15回：まとめ（人と関わる力の育ちを支援する）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時に出される予習課題（30分）及び復習課題（30分）。

【成績の評価】

- ・試験（50%）、授業時に出される課題（50%）の総合評価。
- ・課題については、授業時にフィードバックを行う。
- ・試験については、解答を研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

- 文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
- 厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）

【参考文献】

- 内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
- 岩立京子・西坂小百合（2018）『保育内容 人間関係』（光生館）
- 無籐隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）

科目名： <K0K012>子どもと環境【発A】
担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例を示しながら授業を行います。なお、この授業は、卒業認定・学位授与方針である「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解できている」、「7.教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている」に関する知識・技法の修得をめざします。また、学修成果としては、『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

この授業では、領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する基本的な知識や技能を身に付けていきます。特に、領域「環境」の基盤である子どもを取り巻く環境の諸側面から、幼児の活動と発達等との関連について学びます。具体的には、保育内容の環境についての理解をもとに、子どもの環境との関わりについて実際の活動を体験します。その後、幼児の発達に適した環境についてグループワークなどを通して考えを深めていきます。また、この授業を通して、日常生活においても身近な環境に意識を向け、継続的に学ぶ力を養うことをめざします。

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めることができる。
2. 子どもを取り巻く環境の意義を理解し、説明できる。
3. 子どもを取り巻く環境の諸側面から、乳幼児の活動と発達等を関連づけて考えることができる。
4. 領域「環境」に関連する基本的な知識や技術を身に付け、教育・保育の実践的な活動を自分なりに構想することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション・保育と「環境」
- 第2回：領域「環境」とは
- 第3回：子どもの育ちと領域「環境」
- 第4回：子どもを取り巻く自然環境①（身近な自然）
- 第5回：子どもを取り巻く自然環境②（動植物）
- 第6回：子どもを取り巻く自然環境③（季節や生活の変化）
- 第7回：子どもを取り巻く物的環境①（物の性質と仕組み）
- 第8回：子どもを取り巻く物的環境②（数量・図形）
- 第9回：子どもを取り巻く物的環境③（文字・標識）
- 第10回：子どもを取り巻く社会的環境①（文化・伝統）
- 第11回：子どもを取り巻く社会的環境②（生活に関する情報・地域施設）
- 第12回：子どもを取り巻く社会的環境③（多文化理解）
- 第13回：子どもを取り巻く人的環境
- 第14回：保育におけるESD（SDGs）
- 第15回：遊びを通した総合的な指導の展開（5領域と領域「環境」との関連）

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業内容に関連する情報を収集したり、身近な環境を調べたりしておくこと。（1時間）
- ・配布資料等をよく読み、学習内容や気づきをまとめるなど授業の振り返りをしておくこと。（1時間）

【成績の評価】

授業時のワークシート（40%）、レポート（40%）、授業時に実施する確認テスト（20%）により、評価する。

※ワークシート、レポート、確認テストについては、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

- ・文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説 フレーベル館
- ・厚生労働省（2018）保育所保育指針解説 フレーベル館

【参考文献】

- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館
- ・田宮縁（2018）体験する・調べる・考える 領域「環境」 萌文書林
- ・小櫃智子（2021）実践例から学びを深める 環境指導法 わかば社

その他、授業で適宜紹介します。

科目名： <K0K012>子どもと環境【発B】
担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例を示しながら授業を行います。なお、この授業は、卒業認定・学位授与方針である「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解できている」、「7.教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている」に関する知識・技法の修得をめざします。また、学修成果としては、『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

この授業では、領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する基本的な知識や技能を身に付けていきます。特に、領域「環境」の基盤である子どもを取り巻く環境の諸側面から、幼児の活動と発達等との関連について学びます。具体的には、保育内容の環境についての理解をもとに、子どもの環境との関わりについて実際の活動を体験します。その後、幼児の発達に適した環境についてグループワークなどを通して考えを深めていきます。また、この授業を通して、日常生活においても身近な環境に意識を向け、継続的に学ぶ力を養うことをめざします。

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めることができる。
2. 子どもを取り巻く環境の意義を理解し、説明できる。
3. 子どもを取り巻く環境の諸側面から、乳幼児の活動と発達等を関連づけて考えることができる。
4. 領域「環境」に関連する基本的な知識や技術を身に付け、教育・保育の実践的な活動を自分なりに構想することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション・保育と「環境」
- 第2回：領域「環境」とは
- 第3回：子どもの育ちと領域「環境」
- 第4回：子どもを取り巻く自然環境①（身近な自然）
- 第5回：子どもを取り巻く自然環境②（動植物）
- 第6回：子どもを取り巻く自然環境③（季節や生活の変化）
- 第7回：子どもを取り巻く物的環境①（物の性質と仕組み）
- 第8回：子どもを取り巻く物的環境②（数量・図形）
- 第9回：子どもを取り巻く物的環境③（文字・標識）
- 第10回：子どもを取り巻く社会的環境①（文化・伝統）
- 第11回：子どもを取り巻く社会的環境②（生活に関する情報・地域施設）
- 第12回：子どもを取り巻く社会的環境③（多文化理解）
- 第13回：子どもを取り巻く人的環境
- 第14回：保育におけるESD（SDGs）
- 第15回：遊びを通した総合的な指導の展開（5領域と領域「環境」との関連）

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業内容に関連する情報を収集したり、身近な環境を調べたりしておくこと。（1時間）
- ・配布資料等をよく読み、学習内容や気づきをまとめるなど授業の振り返りをしておくこと。（1時間）

【成績の評価】

授業時のワークシート（40%）、レポート（40%）、授業時に実施する確認テスト（20%）により、評価する。

※ワークシート、レポート、確認テストについては、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

- ・文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説 フレーベル館
- ・厚生労働省（2018）保育所保育指針解説 フレーベル館

【参考文献】

- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館
- ・田宮縁（2018）体験する・調べる・考える 領域「環境」 萌文書林
- ・小櫃智子（2021）実践例から学びを深める 環境指導法 わかば社

その他、授業で適宜紹介します。

科目名： <KARA31>乳児保育Ⅰ
担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育園、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中で乳児保育に携わってきました。
乳児保育の意義、目的、歴史的背景を知り、3歳未満児の発達、保育内容、保護者、地域との連携の仕方について学びます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 乳児保育の意義・目的・歴史・役割等について理解することができる。
2. 多様な保育の場での乳児保育の現状と課題について理解することができる。
3. 子どもの発達過程を理解し、それに適した保育のねらいや内容について理解することができる。
4. 子どもの発達に応じた生活・遊びを行うための環境構成について理解することができる。
5. 乳児保育の現状と課題について理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 乳児保育とはなにか
 - 第2回 乳児保育の理念
 - 第3回 乳児保育の歴史
 - 第4回 保育所、認定こども園における乳児保育
 - 第5回 乳児院などにおける乳児保育
 - 第6回 乳児保育の基礎知識 発達
 - 第7回 乳児保育の基礎知識 乳児保育のねらいと内容
 - 第8回 乳児保育の基礎知識 保育に関わる配慮事項
 - 第9回 6か月未満児の子どもの育ちと保育内容
 - 第10回 6か月から1歳未満児の子どもの育ちと保育内容
 - 第11回 1歳から2歳未満児の子どもの育ちと保育内容
 - 第12回 2歳から3歳の子どもの育ちと保育内容
 - 第13回 保護者との連携
 - 第14回 職員間、地域の関係機関との連携
 - 第15回 乳児保育の現状と課題
- 定期試験なし

【授業時間外の学習】

次回の授業内容を確認し、予習としてテキスト範囲を読み、わからないことなどは事前に調べて、A4用紙にまとめておくこと。（2時間）

配布したワークシートの記入をし、次回の授業の前に提出すること。（2時間）

【成績の評価】

授業中の態度（20%）、毎回のワークシートの記入内容（40%）、提出物（10%）、小テスト（30%）により評価します。

小テスト、ワークシートは、次の授業時に返却し講評をします。

【使用テキスト】

よくわかる！保育士エクササイズ⑤ 乳児保育演習ブック〔第2版〕（ミネルヴァ書房 2019年）

【参考文献】

保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆監修（ミネルヴァ書房 2018年）
改訂 乳児保育の基本 阿部和子編（萌文書林）

科目名： <KARA32>乳児保育Ⅱ【発A】
担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育園、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中で乳児保育に携わってきました。
保育の現場で求められる保育士としての役割を理解し、3歳未満の子どもの育ちを支えるために必要な知識と実践力を培います。乳児保育Ⅰで得た知識や、自らの情報収集や思考力、想像力を使って演習に臨み発表を通してより実践に近い経験をたくさん積むことで実践力を身につけることを目的としています。
また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 3歳未満児の発達の過程や特性を踏まえた関わりの基本的な考え方を理解することができる。
2. 3歳未満児の子どもの生活や遊び、環境について具体的に理解することができる。
3. 乳児保育に必要な配慮について具体的に理解することができる。
4. 上記のことをふまえて、乳児保育の指導計画の立案、観察、記録、自己評価について理解することができる。
5. 保護者、地域との連携を理解し、情報の共有手段としての連絡帳やおたよりの作成ができる。
6. 乳児期の発達に応じたおもちゃ、絵本を提案し作成または読み聞かせなどの実践ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 乳児保育Ⅰのふりかえり
- 第2回 乳児保育の基本
- 第3回 乳児保育の1日
- 第4回 乳児保育の生活環境
- 第5回 乳児保育の遊びと環境
- 第6回 乳児保育での生活における配慮
- 第7回 乳児保育における指導計画
- 第8回 観察、記録及び自己評価
- 第9回 保育者間の連携 実践編
- 第10回 保護者との連携 連絡帳の書き方等
- 第11回 おたよりの作成① 情報収集
- 第12回 おたよりの作成② まとめ
- 第13回 乳児保育のおもちゃ、絵本
- 第14回 手づくりおもちゃ、乳児向け絵本の読み聞かせなど 発表と相互評価
- 第15回 乳児保育についてふりかえり
定期試験なし

【授業時間外の学習】

次回の授業内容を確認し、予習としてテキスト範囲を読み、わからないことなどは事前に調べて、A4用紙にまとめておくこと。（1時間）
配布したワークシートの記入をし、次回の授業の前に提出すること。（1時間）
おたより・おもちゃなどの作成のために、情報収集・教示研究をし、完成させること（1時間）

【成績の評価】

授業中の態度（20%）、毎回のワークシートの記入内容（40%）、課題 おたより、手づくりおもちゃ等（40%）、により評価します。
ワークシートは次の授業時に返却し講評をします。課題は発表時に解説をします。

【使用テキスト】

よくわかる！保育士エクササイズ⑤ 乳児保育演習ブック〔第2版〕（ミネルヴァ書房 2019年）

【参考文献】

保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆監修（ミネルヴァ書房 2018年）
改訂 乳児保育の基本 阿部和子編（萌文書林）

科目名： <KARA32>乳児保育Ⅱ【発B】
担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育園、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中で乳児保育に携わってきました。
保育の現場で求められる保育士としての役割を理解し、3歳未満の子どもの育ちを支えるために必要な知識と実践力を培います。この授業では、乳児保育Ⅰで得た知識や、自らの情報収集や思考力、想像力を使って演習に臨み発表を通してより実践に近い経験をたくさん積むことで実践力を身につけることを目的としています。
また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 3歳未満児の発達の過程や特性を踏まえた関わりの基本的な考え方を理解することができる。
2. 3歳未満児の子どもの生活や遊び、環境について具体的に理解することができる。
3. 乳児保育で必要な配慮について具体的に理解することができる。
4. 上記のことをふまえて、乳児保育の指導計画の立案、観察、記録、自己評価について理解することができる。
5. 保護者、地域との連携を理解し、情報の共有手段としての連絡帳やおたよりの作成ができる。
6. 乳児期の発達に応じたおもちゃ、絵本を提案し作成または読み聞かせなどの実践ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 乳児保育Ⅰのふりかえり
 - 第2回 乳児保育の基本
 - 第3回 乳児保育の1日
 - 第4回 乳児保育の生活環境
 - 第5回 乳児保育の遊びと環境
 - 第6回 乳児保育での生活における配慮
 - 第7回 乳児保育における指導計画
 - 第8回 観察、記録及び自己評価
 - 第9回 保育者間の連携 実践編
 - 第10回 保護者との連携 連絡帳の書き方等
 - 第11回 おたよりの作成① 情報収集
 - 第12回 おたよりの作成② まとめ
 - 第13回 乳児保育のおもちゃ、絵本
 - 第14回 手づくりおもちゃ、乳児向け絵本の読み聞かせなど 発表と相互評価
 - 第15回 乳児保育についてふりかえり
- 定期試験なし

【授業時間外の学習】

次回の授業内容を確認し、予習としてテキスト範囲を読み、わからないことなどは事前に調べて、A4用紙にまとめておくこと。（1時間）
配布したワークシートの記入をし、次回の授業の前に提出すること。（1時間）
おたより・おもちゃなどの作成のために、情報収集・教示研究をし、完成させること（1時間）

【成績の評価】

授業中の態度（20%）、毎回のワークシートの記入内容（40%）、課題 おたより、手づくりおもちゃ等（40%）、により評価します。

【使用テキスト】

よくわかる！保育士エクササイズ⑤ 乳児保育演習ブック〔第2版〕（ミネルヴァ書房 2019年）

【参考文献】

保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆監修（ミネルヴァ書房 2018年）
改訂 乳児保育の基本 阿部和子編（萌文書林）

科目名： <KARA3>子どもの食と栄養Ⅰ【発A】

担当教員： 川染 節江(KAWASOME Setsue)

【授業の紹介】

「子どもの食と栄養Ⅰ」は、最初に栄養学の基本として栄養素と栄養について学びます。次に小学校・特別支援学校や幼稚園、保育所で、直接的に子どもの教育、保育にあたるための「食と栄養、食生活」の領域における理論と実践力を身につけることをめざした授業内容とします。

また、実際に食事づくりを体験し、栄養素と体の関係を理解するように授業を進めます。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』と関連しています。

【到達目標】

1. 乳幼児期から思春期に至る子どもの心身の発達に必要な栄養素の種類とその働きを知ることをめざす。
2. 心身の発達に必要な栄養素と食品について知ることができる。
3. 子どもの身体の発達を評価する手法を知ることができる。(BMI、肥満度)
4. 調理実習の体験から、栄養素、消化、吸収、味覚の仕組み等を理解し保育者の資質を向上することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（子どもの心身の発育に必要な食と栄養とは何か、また、本授業を学ぶ目的は何かを確認する。）
 - 第2回 子どもの心身の健康と食生活の意義（発育・発達の評価方法）、食事の目的
 - 第3回 子どもの食生活環境の現状把握と課題（世界の子どもの栄養状態を知る）
 - 第4回 子どもの食と栄養の特徴、子どもの生涯発達と食生活の関係
 - 第5回 栄養の基本的概念、栄養素の種類と機能Ⅰ（3大栄養素）
 - 第6回 栄養素の種類と機能Ⅱ（5大栄養素）、栄養素の消化・吸収の機能、ビデオによる学習
 - 第7回 日本人の食事摂取基準（2020年度版）、PFCのエネルギーバランスと必要な栄養素を知る
 - 第8回 食品の基礎知識、食品の分類、市販食品の現状、食品の選び方を知る
 - 第9回 献立作成と調理の基本
 - 第10回 調理実習 思春期の望ましい食事づくりを体験する
 - 第11回 調理実習 離乳食、子どものおやつづくりを体験する
 - 第12回 子どもの発育・発達と栄養生理 食欲・味覚の仕組みなどを学ぶ
 - 第13回 子どもの発育・発達と食生活の関係Ⅰ（乳児期・離乳期・幼児期）
 - 第14回 子どもの発育・発達と食生活の関係Ⅱ（学童期・思春期）
 - 第15回 重要項目について確認及びテストについて
- 定期試験

【授業時間外の学習】

復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するために1時間以上の復習をして、指定した授業日にレポートとして提出するように取り組んでください。

教育実習・保育実習時における食事場面をよく観察し、授業内容の理解にいかしてください。

【成績の評価】

授業態度（10%）、実習レポート（20%）、テスト結果（70%）を総合的に評価します。

講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出して、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

岡崎 光子編『子どもの食と栄養』（光生館）2015年

【参考文献】

到達目標に関連した新聞記事やデータなどを資料として配布し保育者としての資質向上をめざします。

科目名： <KARA3>子どもの食と栄養Ⅰ【発B】

担当教員： 川染 節江(KAWASOME Setsue)

【授業の紹介】

「子どもの食と栄養Ⅰ」は、最初に栄養学の基本として栄養素と栄養について学びます。次に小学校・特別支援学校や幼稚園、保育所で、直接的に子どもの教育、保育にあたるための「食と栄養、食生活」の領域における理論と実践力を身につけることをめざした授業内容とします。

また、実際に食事づくりを体験し、栄養素と体の関係を理解するように授業を進めます。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』と関連しています。

【到達目標】

1. 乳幼児期から思春期に至る子どもの心身の発達に必要な栄養素の種類とその働きを知ることをめざす。
2. 心身の発達に必要な栄養素と食品について知ることができる。
3. 子どもの身体の発達を評価する手法を知ることができる。(BMI、肥満度)
4. 調理実習の体験から、栄養素、消化、吸収、味覚の仕組み等を理解し保育者の資質を向上することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（子どもの心身の発育に必要な食と栄養とは何か、また、本授業を学ぶ目的は何かを確認する。）
 - 第2回 子どもの心身の健康と食生活の意義（発育・発達の評価方法）、食事の目的
 - 第3回 子どもの食生活環境の現状把握と課題（世界の子どもの栄養状態を知る）
 - 第4回 子どもの食と栄養の特徴、子どもの生涯発達と食生活の関係
 - 第5回 栄養の基本的概念、栄養素の種類と機能Ⅰ（3大栄養素）
 - 第6回 栄養素の種類と機能Ⅱ（5大栄養素）、栄養素の消化・吸収の機能、ビデオによる学習
 - 第7回 日本人の食事摂取基準（2020年度版）、PFCのエネルギーバランスと必要な栄養素を知る
 - 第8回 食品の基礎知識、食品の分類、市販食品の現状、食品の選び方を知る
 - 第9回 献立作成と調理の基本
 - 第10回 調理実習 思春期の望ましい食事づくりを体験する
 - 第11回 調理実習 離乳食、子どものおやつづくりを体験する
 - 第12回 子どもの発育・発達と栄養生理 食欲・味覚の仕組みなどを学ぶ
 - 第13回 子どもの発育・発達と食生活の関係Ⅰ（乳児期・離乳期・幼児期）
 - 第14回 子どもの発育・発達と食生活の関係Ⅱ（学童期・思春期）
 - 第15回 重要項目について確認及びテストについて
- 定期試験

【授業時間外の学習】

復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するために1時間以上の復習をして、指定した授業日にレポートとして提出するように取り組んでください。

教育実習・保育実習時における食事場面をよく観察し、授業内容の理解にいかしてください。

【成績の評価】

授業態度（10%）、実習レポート（20%）、テスト結果（70%）を総合的に評価します。

講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出して、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

岡崎 光子編『子どもの食と栄養』（光生館）2015年

【参考文献】

到達目標に関連した新聞記事やデータなどを資料として配布し保育者としての資質向上をめざします。

科目名： <KARA4>子どもの食と栄養Ⅱ【発A】

担当教員： 川染 節江(KAWASOME Setsue)

【授業の紹介】

「子どもの食と栄養Ⅱ」は、「子どもの食と栄養Ⅰ」で得た子どもの健全な成長・発達に、食生活と栄養が深くかかわっていることを基本とし、食育の推進・子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けることができるような内容とします。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』と関連しています。

【到達目標】

1. 離乳期から乳幼児期、児童期、思春期に至る、実際の食生活のあり方を知ることがめざす。
2. それぞれ発達段階に応じた栄養および食生活の問題点と対応策を知り、子育て支援にいかせることができる。
3. 幼稚園、保育所、小学校における食育推進の基本と実践力を身に付けることができる。
4. 子どもの食生活におけるアレルギー対策・障害のある子どもへの食事の支援などの知識を得る。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業内容を周知し、学生の学ぶ意欲の向上を図ります）
 - 第2回 離乳期の意義と食生活の関係を学ぶ
 - 第3回 離乳期の意義と食生活の関係Ⅰ（離乳期の必要性）
 - 第4回 離乳期の意義と食生活の関係Ⅱ（離乳食の進め方）
 - 第5回 学童期・思春期の発育・発達と食生活の関係を学ぶ
 - 第6回 妊娠期の心身の発達と栄養・食生活の関係を学ぶ
 - 第7回 調理実習、おやつづくりの体験
 - 第8回 調理実習、幼児食、学童食づくりの体験
 - 第9回 食育の基本と内容Ⅰ 保育園の例、食育基本法、食育推進基本計画
 - 第10回 食育の基本と内容Ⅱ 学童期・思春期の例（食生活上の問題点、特に朝食の必要性を知る）
 - 第11回 家庭における食育の必要性（生活習慣病・肥満対策）
 - 第12回 児童福祉施設における食事と栄養
 - 第13回 食物アレルギー・障害がある子どもの食と栄養
 - 第14回 保育所と学校給食の変遷及び現状・栄養教諭の役割と学校での食育活動
 - 第15回 各自の目標達成度の確認、及びテストについて
- 定期試験

【授業時間外の学習】

復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するために1時間以上の復習をして、指定した授業日にレポートとして提出するように取り組んでください。

教育実習・保育実習時における食事場面をよく観察し、授業内容の理解にいかしてください。

【成績の評価】

授業態度（10%）、実習レポート（20%）、テスト結果（70%）を総合的に評価します。

講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出して、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

岡崎 光子 編『子どもの食と栄養』（光生館）2015年

【参考文献】

到達目標に関連した新聞記事やデータなどを資料として配布し、保育者になるための資質向上をめざします。

科目名： <KARA4>子どもの食と栄養Ⅱ【発B】

担当教員： 川染 節江(KAWASOME Setsue)

【授業の紹介】

「子どもの食と栄養Ⅱ」は、「子どもの食と栄養Ⅰ」で得た子どもの健全な成長・発達に、食生活と栄養が深くかかわっていることを基本とし、食育の推進・子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けることができるような内容とします。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』と関連しています。

【到達目標】

1. 離乳期から乳幼児期、児童期、思春期に至る、実際の食生活のあり方を知ることがめざす。
2. それぞれ発達段階に応じた栄養および食生活の問題点と対応策を知り、子育て支援にいかせることができる。
3. 幼稚園、保育所、小学校における食育推進の基本と実践力を身に付けることができる。
4. 子どもの食生活におけるアレルギー対策・障害のある子どもへの食事の支援などの知識を得る。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業内容を周知し、学生の学ぶ意欲の向上を図ります）
 - 第2回 離乳期の意義と食生活の関係を学ぶ
 - 第3回 離乳期の意義と食生活の関係Ⅰ（離乳期の必要性）
 - 第4回 離乳期の意義と食生活の関係Ⅱ（離乳食の進め方）
 - 第5回 学童期・思春期の発育・発達と食生活の関係を学ぶ
 - 第6回 妊娠期の心身の発達と栄養・食生活の関係を学ぶ
 - 第7回 調理実習、おやつづくりの体験
 - 第8回 調理実習、幼児食、学童食づくりの体験
 - 第9回 食育の基本と内容Ⅰ 保育園の例、食育基本法、食育推進基本計画
 - 第10回 食育の基本と内容Ⅱ 学童期・思春期の例（食生活上の問題点、特に朝食の必要性を知る）
 - 第11回 家庭における食育の必要性（生活習慣病・肥満対策）
 - 第12回 児童福祉施設における食事と栄養
 - 第13回 食物アレルギー・障害がある子どもの食と栄養
 - 第14回 保育所と学校給食の変遷及び現状・栄養教諭の役割と学校での食育活動
 - 第15回 各自の目標達成度の確認、及びテストについて
- 定期試験

【授業時間外の学習】

復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するために1時間以上の復習をして、指定した授業日にレポートとして提出するように取り組んでください。

教育実習・保育実習時における食事場面をよく観察し、授業内容の理解にいかしてください。

【成績の評価】

授業態度（10%）、実習レポート（20%）、テスト結果（70%）を総合的に評価します。

講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出して、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

岡崎 光子 編『子どもの食と栄養』（光生館）2015年

【参考文献】

到達目標に関連した新聞記事やデータなどを資料として配布し、保育者になるための資質向上をめざします。

科目名： <KARA5>子どもの保健
担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi)

【授業の紹介】

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の中でも「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を実践と関連づけて理解できている」に係る知識を修得します。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの保健は、胎生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を対象としますが、特に胎生期から乳幼児までを重点的に扱います。成長発達の途上において各臓器にはさまざまな臨界期が存在しており、一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化が引き起されます。子どもの健全な成長発達とその病的な面だけでなく、生理的な面の知識を習得することが重要です。これらの知識を基本として、三つの健康（身体健康、心の健康、社会性の健康）を重視する視点を学習し、子どもの教育・保育にあたるための理論と実践力を修得します。

【到達目標】

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。
4. 子どもの疾病とその予防法と適切な対応について理解できる。

【授業計画】

この授業では、Google Classroomを利用して講義資料・参考資料などを配布します。

この授業のクラスコードは、初回授業時にお知らせします。

- 第1回 子どもの健康と保健の意義
 - 第2回 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
 - 第3回 地域における保健活動と子ども虐待防止
 - 第4回 身体発育及び運動機能
 - 第5回 生理機能の発達-1（呼吸・循環・体温・免疫・消化器・排泄）
 - 第6回 生理機能の発達-2（水分代謝・内分泌・睡眠・感覚・神経）
 - 第7回 健康状態の観察
 - 第8回 発育・発達の把握と健康診断
 - 第9回 主な疾病の特徴-1（新生児、先天性疾患）
 - 第10回 主な疾病の特徴-2（呼吸器、循環器、血液、消化器疾患）
 - 第11回 主な疾病の特徴-3（アレルギー、免疫、内分泌、代謝疾患）
 - 第12回 主な疾病の特徴-4（神経、腎・泌尿器、その他の疾患）
 - 第13回 主な疾病の特徴-5（感染症）
 - 第14回 子どもの疾病の予防と適切な対応
 - 第15回 これまでの講義の重要ポイントのまとめと質疑応答
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業内容についてのレポート作成を課題とする。次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（予習と復習は、各回4時間以上行うこと）

【成績の評価】

授業参加状況・ミニレポート（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）の成績により総合的に判断する。

ミニレポートと小テストは授業時に返却し解説する。

定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

松田博雄、金森三枝 編著『子どもの保健』（中央法規、2019年）

【参考文献】

松田博雄、金森三枝 編集『子どもの健康と安全』（中央法規、2019年）

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（内閣府文部科学省 厚生労働省、チャイルド本社、2017年）

科目名： <KARA7>子どもの健康と安全【発A】

担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi),小川 佳代(OGAWA Kayo)

【授業の紹介】

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

指針・要領及び関連する各種ガイドライン等を踏まえ、子どもの健康や安全に係る実施体制や保健活動の計画および評価、保育における子どもの健康安全管理の実践、子どもの感染性疾患と予防対策、個別的な対応が必要な子どもへの対応などについて学ぶとともに、乳児の抱き方や計測法や包帯法などの応急処置と事故防止、安全管理について具体的に学び理論と実践力を修得します。

【到達目標】

保健的観点に基づく保育の環境整備や心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得することをめざす。

1. 保健的観点に基づいた保育環境や援助を理解できる。
2. 保育における衛生管理、事故防止、災害対策等について具体的に理解できる。
3. 体調不良等や事故発生に対する適切な対応について具体的に理解できる。
4. 保育における感染症対策について具体的に理解できる。
5. 子どもの状態に即して個別的に適切な対応が理解できる。

【授業計画】

この授業では、Google Classroomを利用して参考資料などを配布することがあります。Google Classroom 子どもの健康と安全【発A】（クラスコード；r2f2ns2）へ参加してください。Google Classroomに入れない場合には、kisobe@takamatsu-u.ac.jp へ連絡してください。その際には、学籍番号と氏名を入れて送信してください。

第1回：保育における保健活動の計画（防災も含む）及び評価、発育状況の把握（担当：小川）

第2回：乳幼児の身体計測と評価の実践（担当：小川）

第3回：子どもの保健と保育の環境（担当：小川）

第4回：乳幼児の養護(3歳未満児の抱き方・寝かせ方・おむつ交換)（担当：小川）

第5回：乳幼児の養護(3歳未満児を対象とした授乳・調乳・離乳食・幼児食)（担当：小川）

第6回：乳幼児の養護(特に3歳未満児の乳幼児の清潔)（担当：小川）

第7回：体調不良や障害発生時の対応(一般看護、包帯法など)（担当：小川）

第8回：感染症対策（担当：磯部）

第9回：健康・安全管理の実践（衛生管理、事故防止及び安全対策）（担当：磯部）

第10回：災害への備えと危機管理（担当：磯部）

第11回：子どもの応急処置（担当：磯部）

第12回：子どもの救急処置及び救急蘇生法（担当：磯部）

第13回：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（食物アレルギー等）（担当：磯部）

第14回：健康安全管理の実施体制（母子保健・地域保健と保育及び地域との連携）（担当：磯部）

第15回：これまでの講義のまとめと質疑応答（担当：磯部）

定期試験

【授業時間外の学習】

演習内容については事前に資料を配布するので、予習をして授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で各回1時間以上）

【成績の評価】

学習態度（10%）、演習記録などの提出物（20%）、定期試験（70%）によって総合的に評価する。なお、提出物は、評価して後日返却する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

松田博雄、金森三枝 編集『子どもの健康と安全』（中央法規、2019年）

【参考文献】

子どもの保健（2019年 松田博雄、金森三枝 編集、中央法規）

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 内閣府 文部科学省 厚生労働省、チャイルド本社）

科目名： <KARA7>子どもの健康と安全【発B】

担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi),小川 佳代(OGAWA Kayo)

【授業の紹介】

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

指針・要領及び関連する各種ガイドライン等を踏まえ、子どもの健康や安全に係る実施体制や保健活動の計画および評価、保育における子どもの健康安全管理の実践、子どもの感染性疾患と予防対策、個別的な対応が必要な子どもへの対応などについて学ぶとともに、乳児の抱き方や計測法や包帯法などの応急処置と事故防止、安全管理について具体的に学び理論と実践力を修得します。

【到達目標】

保健的観点に基づく保育の環境整備や心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得することをめざす。

1. 保健的観点に基づいた保育環境や援助を理解できる。
2. 保育における衛生管理、事故防止、災害対策等について具体的に理解できる。
3. 体調不良等や事故発生に対する適切な対応について具体的に理解できる。
4. 保育における感染症対策について具体的に理解できる。
5. 子どもの状態に即して個別的に適切な対応が理解できる。

【授業計画】

この授業では、Google Classroomを利用して参考資料などを配布することがあります。Google Classroom 子どもの健康と安全【発B】 (クラスコード; 3dj6e5k)へ参加してください。Google Classroomに入れない場合には、kisobe@takamatsu-u.ac.jp へ連絡してください。その際には、学籍番号と氏名を入れて送信してください。

第1回：保育における保健活動の計画（防災も含む）及び評価、発育状況の把握（担当：小川）

第2回：乳幼児の身体計測と評価の実践（担当：小川）

第3回：子どもの保健と保育の環境（担当：小川）

第4回：乳幼児の養護(3歳未満児の抱き方・寝かせ方・おむつ交換)（担当：小川）

第5回：乳幼児の養護(3歳未満児を対象とした授乳・調乳・離乳食・幼児食)（担当：小川）

第6回：乳幼児の養護(特に3歳未満児の乳幼児の清潔)(担当：小川)

第7回：体調不良や障害発生時の対応(一般看護、包帯法など)（担当：小川）

第8回：感染症対策（担当：磯部）

第9回：健康・安全管理の実践（衛生管理、事故防止及び安全対策）（担当：磯部）

第10回：災害への備えと危機管理（担当：磯部）

第11回：子どもの応急処置（担当：磯部）

第12回：子どもの救急処置及び救急蘇生法（担当：磯部）

第13回：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（食物アレルギー等）（担当：磯部）

第14回：健康安全管理の実施体制（母子保健・地域保健と保育及び地域との連携）（担当：磯部）

第15回：これまでの講義のまとめと質疑応答（担当：磯部）

定期試験

【授業時間外の学習】

演習内容については事前に資料を配布するので、予習をして授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で各回1時間以上）

【成績の評価】

学習態度（10%）、演習記録などの提出物（20%）、定期試験（70%）によって総合的に評価する。なお、提出物は、評価して後日返却する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

松田博雄、金森三枝 編集『子どもの健康と安全』（中央法規、2019年）

【参考文献】

子どもの保健（2019年 松田博雄、金森三枝 編集、中央法規）

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 （平成29年6月 内閣府 文部科学省 厚生労働省、チャイルド本社）

科目名： 子どもの保健Ⅱ

担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi),小川 佳代(OGAWA Kayo)

【授業の紹介】

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

指針・要領及び関連する各種ガイドライン等を踏まえ、子どもの健康や安全に係る実施体制や保健活動の計画および評価、保育における子どもの健康安全管理の実際、子どもの感染性疾患と予防対策、個別的な対応が必要な子どもへの対応などについて学ぶとともに、乳児の抱き方や計測法や包帯法などの応急処置と事故防止、安全管理について具体的に学び理論と実践力を修得します。

【到達目標】

保健的観点に基づく保育の環境整備や心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得することをめざす。

1. 保健的観点に基づいた保育環境や援助を理解できる。
2. 保育における衛生管理、事故防止、災害対策等について具体的に理解できる。
3. 体調不良等や事故発生に対する適切な対応について具体的に理解できる。
4. 保育における感染症対策について具体的に理解できる。
5. 子どもの状態に即して個別的に適切な対応が理解できる。

【授業計画】

この授業では、Google Classroomを利用して参考資料などを配布することがあります。Google Classroom 子どもの健康と安全【発A】(クラスコード; r2f2ns2)へ参加してください。Google Classroomに入れない場合には、kisobe@takamatsu-u.ac.jp へ連絡してください。その際には、学籍番号と氏名を入れて送信してください。

第1回：保育における保健活動の計画(防災も含む)及び評価、発育状況の把握(担当：小川)

第2回：乳幼児の身体計測と評価の実際(担当：小川)

第3回：子どもの保健と保育の環境(担当：小川)

第4回：乳幼児の養護(3歳未満児の抱き方・寝かせ方・おむつ交換)(担当：小川)

第5回：乳幼児の養護(3歳未満児を対象とした授乳・調乳・離乳食・幼児食)(担当：小川)

第6回：乳幼児の養護(特に3歳未満児の乳幼児の清潔)(担当：小川)

第7回：体調不良や障害発生時の対応(一般看護、包帯法など)(担当：小川)

第8回：感染症対策(担当：磯部)

第9回：健康・安全管理の実際(衛生管理、事故防止及び安全対策)(担当：磯部)

第10回：災害への備えと危機管理(担当：磯部)

第11回：子どもの応急処置(担当：磯部)

第12回：子どもの救急処置及び救急蘇生法(担当：磯部)

第13回：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(食物アレルギー等)(担当：磯部)

第14回：健康安全管理の実施体制(母子保健・地域保健と保育及び地域との連携)(担当：磯部)

第15回：これまでの講義のまとめと質疑応答(担当：磯部)

定期試験

【授業時間外の学習】

演習内容については事前に資料を配布するので、予習をして授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。(予習と復習で毎回1時間以上)

【成績の評価】

学習態度(10%)、演習記録などの提出物(20%)、定期試験(70%)によって総合的に評価する。なお、提出物は、評価して後日返却する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

松田博雄、金森三枝 編集『子どもの健康と安全』(中央法規、2019年)

【参考文献】

子どもの保健(2019年 松田博雄、金森三枝 編集、中央法規)

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 (平成29年6月 内閣府 文部科学省 厚生労働省、チャイルド本社)

科目名： <KARA8>保育内容－健康Ⅰ【発A】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

保育内容-健康Ⅰは、本学の卒業認定・学位授与の方針の「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識、技法の修得をめざします。また、この授業科目は、発達科学部の学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

最近では、子どもの運動能力の低下や身の自立ができていないことなどが話題となっています。本来、子どもにとって『健康』とは何でしょうか？

健康Ⅰおよび健康Ⅱでは、幼稚園・保育園の保育の基本と領域「健康」の関係を明らかにし、そのねらい、内容、方法に関して理解を深めるとともに、本来の子どもの健康を考えます。健康Ⅰでは、「子どもの健康」の考え方をふまえ、健康にかかわる子どもの生活実態を中心に学びます。

【到達目標】

1. 『健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う』という目標を達成するために、どのように子どもにかかわればよいのかを探究できる。
2. 子どもがたくましく生きるための健康や体力について修得できる。
3. 子どもの心と体の「理論」と子どもが健康で安全な生活を送ることができるための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「健康」の考え方
- 第2回 子どもの健康の考え方
- 第3回 領域「健康」において育むもの
- 第4回 領域「健康」と他の領域との関係
- 第5回 小学校教育と領域「健康」の関連性
- 第6回 健康にかかわる子どもの生活実態（睡眠について）
- 第7回 健康にかかわる子どもの生活実態（食生活について）
- 第8回 健康にかかわる子どもの生活実態（日中の活動について）
- 第9回 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動の発達について）
- 第10回 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動能力について）
- 第11回 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動能力低下の背景について）
- 第12回 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動発達の特徴について）
- 第13回 子どもの身体の発達と運動能力（子どもと運動遊びについて）
- 第14回 総括（指導案の作成を含む）<子どもと生活について>
- 第15回 総括（指導案の作成を含む）<子どもと運動について>

定期試験

<科目コード：xcunkhl>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合もあります。

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。

【成績の評価】

期末試験：65%（この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。）

授業中に作成する小レポート：20%

授業態度：15%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ 期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）

菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』（萌文書林、1990年）

森下はるみ 池田裕恵 『健康－乳幼児のこころとからだ－』（不昧堂出版、1992年）

生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』（北大路書房、1993年）

原田碩三 『幼児健康学』（黎明書房、1997年）

無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』（萌文書林、2007年）

河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』（建帛社、2008年）

科目名： <KARA8>保育内容－健康Ⅰ【発B】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

保育内容-健康Ⅰは、本学の卒業認定・学位授与の方針の「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識、技法の修得をめざします。また、この授業科目は、発達科学部の学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

最近では、子どもの運動能力の低下や身の自立ができていないことなどが話題となっています。本来、子どもにとって『健康』とは何でしょうか？

健康Ⅰおよび健康Ⅱでは、幼稚園・保育園の保育の基本と領域「健康」の関係を明らかにし、そのねらい、内容、方法に関して理解を深めるとともに、本来の子どもの健康を考えます。健康Ⅰでは、「子どもの健康」の考え方をふまえ、健康にかかわる子どもの生活実態を中心に学びます。

【到達目標】

1. 『健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う』という目標を達成するために、どのように子どもにかかわればよいのかを探究できる。
2. 子どもがたくましく生きるための健康や体力について修得できる。
3. 子どもの心と体の「理論」と子どもが健康で安全な生活を送ることができるための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「健康」の考え方
- 第2回 子どもの健康の考え方
- 第3回 領域「健康」において育むもの
- 第4回 領域「健康」と他の領域との関係
- 第5回 小学校教育と領域「健康」の関連性
- 第6回 健康にかかわる子どもの生活実態（睡眠について）
- 第7回 健康にかかわる子どもの生活実態（食生活について）
- 第8回 健康にかかわる子どもの生活実態（日中の活動について）
- 第9回 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動の発達について）
- 第10回 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動能力について）
- 第11回 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動能力低下の背景について）
- 第12回 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動発達の特徴について）
- 第13回 子どもの身体の発達と運動能力（子どもと運動遊びについて）
- 第14回 総括（指導案の作成を含む）<子どもと生活について>
- 第15回 総括（指導案の作成を含む）<子どもと運動について>

定期試験

<科目コード：xcunkh1>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合もあります。

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。

【成績の評価】

期末試験：65%（この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。）

授業中に作成する小レポート：20%

授業態度：15%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ 期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）

菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』（萌文書林、1990年）

森下はるみ 池田裕恵 『健康－乳幼児のこころとからだ－』（不昧堂出版、1992年）

生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』（北大路書房、1993年）

原田碩三 『幼児健康学』（黎明書房、1997年）

無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』（萌文書林、2007年）

河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』（建帛社、2008年）

科目名： <KARA9>保育内容－健康Ⅱ【発A】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

健康Ⅱは、本学の卒業認定・学位授与の方針の「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識、技法の修得をめざします。また、この授業科目は、発達科学部の学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

健康Ⅰの内容をふまえ、さらに「子どもの体や健康」について学習していきます。健康Ⅱでは、子どもの身体の発達や運動の発達を中心に学び、それらの基礎理論をもとに、実際の園生活を考えます。乳幼児は、100%大人が保護し、守る義務があります。したがって、保育者として、どのような安全の管理と指導および援助の方法があるのかを実際の事例をもとに修得します。

【到達目標】

1. 子どもの身体および運動の発育発達の原則を理解することができる。
2. 子どもを取り巻くすべてに対して、生命を守るための安全をどのように捉え、子どもたちにどのように指導していくかについて実践的な立場から具体的に考察できる。
3. 健康Ⅰに引き続き、子どもの基本的生活習慣の「理論」、その基本的生活習慣を形成するための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

第1回	子どもの身体の発達の原則（身長と体重について）
第2回	子どもの身体の発達の原則（骨の形成について）
第3回	子どもの身体の発達の原則（脊柱の湾曲について）
第4回	子どもの身体の発達の原則（生理的機能の発達について）
第5回	子どもの身体と発達の原則（さまざまな発育曲線から発達の原則をよむ）
第6回	子どもの身体と運動の発達のまとめ
第7回	基本的生活習慣の形成（食事について）
第8回	基本的生活習慣の形成（睡眠について）
第9回	基本的生活習慣の形成（衣服の着脱、排泄について）
第10回	基本的生活習慣の形成（生活リズムについて）
第11回	安全の指導（けが・事故の実態について）
第12回	安全の指導（事故のメカニズムについて）
第13回	安全の指導（子どもの安全の指導）
第14回	安全の指導（子どものルール・きまりの理解）
第15回	総括（子どもの発育・発達の原則を踏まえた子どもの健康について）

定期試験

<科目コード：fh53qun>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合もあります。

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。

【成績の評価】

期末試験：70%（この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。）

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ 期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領開設』（平成30年3月）

菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』（萌文書林 1990年）

森下はるみ 池田裕恵 『健康－乳幼児のこころとからだ－』（不昧堂出版 1992年）

生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』（北大路書房 1993年）

原田碩三 『幼児健康学』（黎明書房 1997年）

無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』（萌文書林 2007年）

科目名： <KARA9>保育内容－健康Ⅱ【発B】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

健康Ⅱは、本学の卒業認定・学位授与の方針の「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識、技法の修得をめざします。また、この授業科目は、発達科学部の学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

健康Ⅰの内容をふまえ、さらに「子どもの体や健康」について学習していきます。健康Ⅱでは、子どもの身体の発達や運動の発達を中心に学び、それらの基礎理論をもとに、実際の園生活を考えます。乳幼児は、100%大人が保護し、守る義務があります。したがって、保育者として、どのような安全の管理と指導および援助の方法があるのかを実際の事例をもとに修得します。

【到達目標】

1. 子どもの身体および運動の発育発達の原則を理解することができる。
2. 子どもを取り巻くすべてに対して、生命を守るための安全をどのように捉え、子どもたちにどのように指導していくかについて実践的な立場から具体的に考察できる。
3. 健康Ⅰに引き続き、子どもの基本的生活習慣の「理論」、その基本的生活習慣を形成するための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 子どもの身体の発達の原則（身長と体重について）
- 第2回 子どもの身体の発達の原則（骨の形成について）
- 第3回 子どもの身体の発達の原則（脊柱の湾曲について）
- 第4回 子どもの身体の発達の原則（生理的機能の発達について）
- 第5回 子どもの身体と発達の原則（さまざまな発育曲線から発達の原則をよむ）
- 第6回 子どもの身体と運動の発達のまとめ
- 第7回 基本的生活習慣の形成（食事について）
- 第8回 基本的生活習慣の形成（睡眠について）
- 第9回 基本的生活習慣の形成（衣服の着脱、排泄について）
- 第10回 基本的生活習慣の形成（生活リズムについて）
- 第11回 安全の指導（けが・事故の実態について）
- 第12回 安全の指導（事故のメカニズムについて）
- 第13回 安全の指導（子どもの安全の指導）
- 第14回 安全の指導（子どものルール・きまりの理解）
- 第15回 総括（子どもの発育・発達の原則を踏まえた子どもの健康について）

定期試験

<科目コード：fh53qun>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合もあります。

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。

【成績の評価】

期末試験：70%（この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。）

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ 期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領開設』（平成30年3月）

菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』（萌文書林 1990年）

森下はるみ 池田裕恵 『健康－乳幼児のこころとからだ－』（不昧堂出版 1992年）

生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』（北大路書房 1993年）

原田碩三 『幼児健康学』（黎明書房 1997年）

無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』（萌文書林 2007年）

科目名： <KARA10 >体育Ⅰ－Ⅰ
担当教員： 山神 眞一(YAMAGAMI Shin'ichi)

【授業の紹介】

幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では、各運動の特性を理解すると共に、運動の実践能力、さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ、「各運動のコツ」について体験を通じて学習し、以下の内容について学びを深める。

- ・子どもの育ちを支えるための教育的実践力を学ぶ。
- ・体ほぐし運動や基礎・基本的な運動学習を通して、他者とのコミュニケーション能力を育む。
- ・わかって、できる論理的な思考力や創造力を生かした実践的指導力を養う。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、具体的な学修成果としては『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』と関連しています。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点を理解できる。
2. 体づくり運動（特に体ほぐし）の基礎・基本を習得することができる。
3. 様々な基礎・基本的な運動（歩・走・跳・投・打・蹴）を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：子どもの心とからだの発達特性（小学校低学年）
 - 第3回：子どもの心とからだの発達特性（小学校中学年）
 - 第4回：子どもの心とからだの発達特性（小学校高学年）
 - 第5回：体づくり運動（小学校低学年）
 - 第6回：体づくり運動（小学校中学年）
 - 第7回：体づくり運動（小学校高学年）
 - 第8回：基礎・基本的動作（立つ・歩く）
 - 第9回：基礎・基本的動作（走る）
 - 第10回：基礎・基本的動作（跳ぶ）
 - 第11回：基礎・基本的動作（打つ・蹴る・泳ぐ）
 - 第12回：子どもの運動実践と心理的意義
 - 第13回：子どもの運動実践と身体的意義
 - 第14回：子どもの運動実践と社会的意義
 - 第15回：まとめ（これまでの講義の復習及び質疑応答）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

学習内容の予習・復習を毎週2時間ずつ行う。
具体的には、授業の初めにレジュメを渡すので、予習・復習に活用して授業に臨むようにしてください。
また、授業後には、振り返りして、ノートに記録するように心がける。

【成績の評価】

授業態度（40%）、小レポート（20%）、定期試験（40%）
出席率70%以上を原則として、評価点が全体の60%以上を合格とする。
定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。小テスト、レポートは添削して授業時に返却する。
模範解答を示し、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

使用せず、毎回資料を配布する。

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： <KARA11>体育Ⅰ－Ⅱ

担当教員： 山神 眞一(YAMAGAMI Shin'ichi)

【授業の紹介】

幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では、各運動の特性を理解すると共に、運動の実践能力、さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ、「各運動のコツ」について体験を通じて学習し、以下の内容について学びを深める。

- ・教師としての使命感、倫理観をもって児童と向かう。
- ・体の動きを高める運動を知識と実践を関連づけて学ばせる。
- ・自ら考えると共に仲間と意見交換しながら、課題解決していく協同性を養う。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、具体的な学修成果としては『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』と関連しています。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点を説明できる。
2. 体づくり運動（特に体の動きを高める運動）の基礎・基本を習得することができる。
3. 基礎・基本的な運動を活用した組み合わせ運動を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：子どもの心とからだの体力的特性（小学校低学年）
 - 第3回：子どもの心とからだの体力的特性（小学校中学年）
 - 第4回：子どもの心とからだの体力的特性（小学校高学年）
 - 第5回：子どもの運動能力的特性（小学校低学年）
 - 第6回：子どもの運動能力的特性（小学校中学年）
 - 第7回：子どもの運動能力的特性（小学校高学年）
 - 第8回：体の動きを高める段階的運動指導法（小学校低学年）
 - 第9回：体の動きを高める段階的運動指導法（小学校中学年）
 - 第10回：体の動きを高める段階的運動指導法（小学校高学年）
 - 第11回：子どもの体力的特性を踏まえた運動指導法
 - 第12回：子どもの心理的特性を配慮した運動指導法
 - 第13回：子どもの社会性を踏まえた運動指導法
 - 第14回：運動会を楽しむ指導法
 - 第15回：まとめ（これまでの講義の復習及び質疑応答）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

学習内容の予習・復習を毎週2時間ずつ行う。
具体的には、授業の初めにレジュメを渡すので、予習・復習に活用して授業に臨むようにしてください。
また、授業後には、振り返りして、ノートに記録するように心がける。

【成績の評価】

授業態度（40％）、小レポート（20％）、定期試験（40％）
出席率70％以上を原則として、評価点が全体の60％以上を合格とする。
定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。小テスト、レポートは添削して授業時に返却する。
模範解答を示し、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

使用せず、毎回資料を配布する。

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： <KARA12>体育Ⅱ－Ⅰ【A】

担当教員： 上野 耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】

体育Ⅰ－Ⅰ・Ⅱにおける学習内容に基づき、幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では、各運動の特性を理解すると共に、運動の実践能力、さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ、「各運動のコツ」について体験を通じて学習する。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

1. ボール運動（ネット型・ゴール型・ベースボール型）の特性について説明できる。
2. 各運動を楽しんで行い、その楽しさについて説明できる。
3. 各運動の実践能力を向上させるコツについて説明できる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション
第2回：ボール運動（ネット型の特徴）
第3回：ネット型（バドミントン基礎）
第4回：ネット型（バドミントン応用）
第5回：ネット型（バドミントン発展）
第6回：ボール運動（ゴール型の特徴）
第7回：ゴール型（サッカー基礎）
第8回：ゴール型（サッカー応用）
第9回：ゴール型（サッカー発展）
第10回：ボール運動（ベースボール型の特徴）
第11回：ベースボール型（キックベースボール基礎）
第12回：ベースボール型（キックベースボール応用）
第13回：ベースボール型（キックベースボール発展）
第14回：ボール運動（各型選択）
第15回：ボール運動（各型選択）及び全体の振り返り
定期試験 無

【授業時間外の学習】

初回授業時に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業は実技形式で行いますので、普段から運動に親しみ、授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいて下さい。できれば週3回、ジョギング程度の運動強度で構いませんので、自らが好きな運動を1時間程度以上行って下さい。

【成績の評価】

成績は運動の実践能力（60%）、授業における発問への回答（40%）によって評価します。なお集団での活動になりますので、遅刻しないよう特に注意して下さい。また、授業における発問への回答については、オフィスアワーの際にフィードバックを行います。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店）2010年
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： <KARA12>体育Ⅱ－Ⅰ【B】
担当教員： 花城 清紀(HANASHIRO Kiyonori)

【授業の紹介】

体育Ⅰ－Ⅰ・Ⅱにおける学習内容に基づき、幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では、各運動の特性を理解すると共に、運動の実践能力、さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ、「各運動のコツ」について体験を通じて学習する。なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」及び「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」に関する知識、技法の修得をめざす。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連している。

【到達目標】

1. ボール運動（ネット型・ゴール型・ベースボール型）の特性について説明できる。
2. 各運動を楽しんで行い、その楽しさについて説明できる。
3. 各運動の実践能力を向上させるコツについて説明できる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション
第2回：ボール運動（ネット型の特徴）
第3回：ネット型（バドミントン基礎）
第4回：ネット型（バドミントン応用）
第5回：ネット型（バドミントン発展）
第6回：ボール運動（ゴール型の特徴）
第7回：ゴール型（ハンドボール基礎）
第8回：ゴール型（ハンドボール応用）
第9回：ゴール型（ハンドボール発展）
第10回：ボール運動（ベースボール型の特徴）
第11回：ベースボール型（キックベースボール基礎）
第12回：ベースボール型（キックベースボール応用）
第13回：ベースボール型（キックベースボール発展）
第14回：ボール運動（各型選択）
第15回：ボール運動（各型選択）及び全体の振り返り
定期試験 無

【授業時間外の学習】

初回授業時に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業は実技形式で行いますので、普段から運動に親しみ、授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいて下さい。できれば週3回、ジョギング程度の運動強度で構いませんので、自らが好きな運動を1時間程度以上行って下さい。

【成績の評価】

成績は運動の実践能力（60％）、授業における発問への回答（40％）によって評価します。なお集団での活動になりますので、遅刻しないよう特に注意して下さい。また、授業における発問への回答については、オフィスアワーの際にフィードバックを行います。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店、2010年）
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： <KARA13>体育Ⅱ－Ⅱ【A】

担当教員： 上野 耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】

体育Ⅰ－Ⅰ・Ⅱにおける学習内容に基づき、幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では、各運動の特性を理解すると共に、運動の実践能力、さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ、「各運動のコツ」について体験を通じて学習する。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

1. マット運動、ボール運動、表現運動ほか各運動の特性について説明できる。
2. 各運動を楽しんで行い、その楽しさについて説明できる。
3. 各運動の実践能力を向上させるコツについて説明できる。

【授業計画】

- 第1回：ネット型ボールゲーム
 - 第2回：ネット型ボールゲーム
 - 第3回：マット運動（開脚前転・開脚後転）
 - 第4回：跳び箱運動（開脚跳び）
 - 第5回：跳び箱運動（台上前転）
 - 第6回：縄跳び（一回旋一・二跳躍）
 - 第7回：縄跳び（創作縄跳び）
 - 第8回：表現運動（各種ステップ）
 - 第9回：表現運動（リズムダンス）
 - 第10回：ボール運動（ネット型）
 - 第11回：ボール運動（ネット型：簡易ルール）
 - 第12回：ボール運動（ゴール型）
 - 第13回：ボール運動（ゴール型：簡易ルール）
 - 第14回：ボール運動（ベースボール型）
 - 第15回：ボール運動（ベースボール型：簡易ルール）及び全体の振り返り
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

初回授業時に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み、授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業は実技形式で行いますので、普段から運動に親しみ、授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいて下さい。できれば週3回、ジョギング程度の運動強度で構いませんので、自らが好きな運動を1時間程度以上行って下さい。

【成績の評価】

成績は運動の実践能力（60％）、授業における発問への回答（40％）によって評価します。なお、集団での活動になりますので、遅刻しないよう特に注意して下さい。また、授業における発問への回答については、オフィスアワーの際にフィードバックを行います。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店、2010年）
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： <KARA13>体育Ⅱ－Ⅱ【B】
担当教員： 花城 清紀(HANASHIRO Kiyonori)

【授業の紹介】

体育Ⅰ－Ⅰ・Ⅱにおける学習内容に基づき、幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では、各運動の特性を理解すると共に、運動の実践能力、さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ、「各運動のコツ」について体験を通じて学習する。なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」及び「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」に関する知識、技法の修得をめざす。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連している。

【到達目標】

1. マット運動、ボール運動、表現運動ほか各運動の特性について説明できる。
2. 各運動を楽しんで行い、その楽しさについて説明できる。
3. 各運動の実践能力を向上させるコツについて説明できる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション
第2回：マット運動（前転・後転）
第3回：マット運動（開脚前転・開脚後転）
第4回：跳び箱運動（開脚跳び）
第5回：跳び箱運動（台上前転）
第6回：縄跳び（一回旋一・二跳躍）
第7回：縄跳び（創作縄跳び）
第8回：表現運動（各種ステップ）
第9回：表現運動（リズムダンス）
第10回：ボール運動（ネット型）
第11回：ボール運動（ネット型：簡易ルール）
第12回：ボール運動（ゴール型）
第13回：ボール運動（ゴール型：簡易ルール）
第14回：ボール運動（ベースボール型）
第15回：ボール運動（ベースボール型：簡易ルール）及び全体の振り返り
定期試験 無

【授業時間外の学習】

初回授業時に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み、授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業は実技形式で行いますので、普段から運動に親しみ、授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいて下さい。できれば週3回、ジョギング程度の運動強度で構いませんので、自らが好きな運動を1時間程度以上行って下さい。

【成績の評価】

成績は運動の実践能力（60％）、授業における発問への回答（40％）によって評価します。なお、集団での活動になりますので、遅刻しないよう特に注意して下さい。また、授業における発問への回答については、オフィスアワーの際にフィードバックを行います。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店、2010年）
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： <KARA14> 野外活動実習Ⅰ

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

昨今、子どもの体力低下や体験不足が指摘されています。かつては、子どもが自然と触れ合う機会や仲間と遊ぶ場が豊富にありましたが、今日では、ゆっくりと自然と触れ合う、自然の中で友だちといっしょに工夫して遊ぶなどの生活体験は少なくなっています。

この授業は、将来小学校教員をめざす者を対象に実施します。国立青少年教育振興機構の実施する「大学生・若手教員野外活動体験会」（6月12日（日）日帰り）、「学生ボランティアリーダー養成講座」（8月24日（水）～8月26日（金）2泊3日）に参加し、体験活動における様々な知識の獲得や活動フィールドの整備を行う上での知識や技能を身につけます。また、野外炊飯等を通して、子どもたちの様々な体験活動をサポートするための専門的知識・技能を学び、小学校の教員としての実践力を身につけます。実習代金（4～5千円程度）は個人負担とし、詳細は5月に掲示します。

なお、この授業は卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わっており、学修成果『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・体験活動の基礎的知識や安全に関する知識を習得することができる。
- ・キャンプの基礎知識やフィールド整備に関する基礎知識等を習得することができる。
- ・仲間との集団生活を通して社会性を身につけることができる。
- ・理論と実践力を備えた小学校教員になることをめざす。

【授業計画】

- ・事前オリエンテーション：5月（予定）
- ・大学生・若手教員野外活動体験会：2022年6月12日（日）日帰り
- ・学生ボランティアリーダー養成講座：2022年8月24日（水）～8月26日（金）2泊3日
- ・まとめ・報告会
- ・定期試験は実施しない

【重要】classroom「2022野外活動実習Ⅰ・Ⅱ」を通じて必要な連絡を行うのに参加しておいてください。 クラスコードbgxbp3b

【授業時間外の学習】

体験活動に関する資料等を配布するので、実技に参加する前に熟読すること。また、青少年の体験活動に関する現状等についても予習しておく。

【成績の評価】

体験活動における活動状況（70%）および体験報告（30%）による。
体験報告のまとめを後日配付し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

「体験のかぜをおこそう ―体験活動の企画と展開―」田中壮一郎編（2012）悠光堂
「体験・遊びナビゲーター」独立行政法人国立青少年教育振興機構（2013）悠光堂

【参考文献】

その都度提示する。

科目名： <KARA15> 野外活動実習 II

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

昨今、子どもの体力低下や体験不足が指摘されています。かつては、子どもが自然と触れ合う機会や仲間と遊ぶ場が豊富にありましたが、今日では、ゆっくりと自然と触れ合う、自然の中で友だちといっしょに工夫して遊ぶなどの生活体験は少なくなっています。

この授業は、将来小学校教員をめざす者を対象に実施します。国立青少年教育振興機構が実施する「屋島子どもチャレンジキャンプ(小学生が参加)」(10月8日(土)～10日(月)2泊3日)、「森のまつり(小学生と保護者が参加)」(11月5日(土)・6日(日)各日帰り)に参加し、体験活動における様々な知識の獲得や活動フィールドの整備を行う上での知識や技能を身につけます。また、身につけたスキルを生かして、体験活動を運営・サポートすることで小学校の教員としての実践力を身につけます。実習代金(保険代・食事代等実費額)は個人負担とし、詳細は7月上旬に掲示します。

なお、この授業は卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わっており、学修成果『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。』に関連しています。

※この実習は「野外活動実習 I」を受講した学生に限ります。

【到達目標】

- ・子どもたちと活動フィールドの整備や野外炊飯など寝食を共にすることができる。
- ・子どもたちの様々な体験活動をサポートすることができる。
- ・親子の体験活動に関する技能と知識を身につけることができる。
- ・理論と実践力を備えた小学校教員になることをめざす。

【授業計画】

事前オリエンテーション : 未定
「子どもチャレンジキャンプ」 : 2022年10月8日(土)～10日(月)2泊3日
親子自然体験「森の祭り」 : 2022年11月5日(土)・6日(日)日帰り2日間
定期試験は実施しない

【重要】classroom「2022野外活動実習 I・II」を通じて必要な連絡を行うのに参加しておいてください。 クラスコードbgxbp3b

【授業時間外の学習】

野外活動実習に関する冊子を事前に配布するので、野外活動実習に参加する前に熟読すること。また、青少年の体験活動に関する現状等についても予習しておくこと。

【成績の評価】

体験活動における活動状況(70%)および体験報告(30%)による。
体験報告のまとめを後日配付し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

「体験のかぜをおこそう ー体験活動の企画と展開ー」田中壮一郎編(2012)悠光堂
「体験・遊びナビゲーター」独立行政法人国立青少年教育振興機構(2013)悠光堂

【参考文献】

その都度提示する。

科目名： <KARA16> 保育内容－表現III【発A】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

保育内容-表現IIIは、本学の卒業認定・学位授与「1.教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている」に関する知識、技法の修得をめざします。また、この授業科目は、発達科学部の学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる』『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

幼稚園・保育園の保育の基本理念をふまえ、「子どもにとって表現とは何か」「保育における表現とは何か」さらには「人間にとって表現とは何か」を考察した上で、“動きのスケッチ”による表現の方法を身につけます。

この授業では、今までにみなさんが行ってきた“創作ダンス”とは一味違う身体運動を行います。踊ることが“キライ”という人、からだが“カタイ”という人、人前でパフォーマンスをするのは“ニガテ”という人…も安心して授業を受けてください。

【到達目標】

1. 自分が見たこと、感じたこと、考えたこと、想像したことなどを自分の身体を媒体にして自由に伸び伸びと動きで表現することができる。
 2. 子どもの身体表現の基礎的知識を理解し、実践できる。
 3. 子どもの発育発達に即して、主体的・対話的な学びが実現できる家庭をふまえ、実際の指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。
 4. 表現活動とおして、豊かな心と創造力を身につけることができる。
- 上記の到達目標を達成することで、本学の卒業認定・学位授与の方針に示す、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 人間と表現の関係について 《講義》
- 第2回 子どもと表現の関係について 《講義》
- 第3回 保育の基本と表現（子どもにとって表現とは何か） 《講義》
- 第4回 保育の基本と表現（子どもの表現活動の実際） 《講義》
- 第5回 身体の部分を使ってのいろいろな動き 《実技》
- 第6回 身体全体を使ってのいろいろな動き（2人組での動き） 《実技》
- 第7回 身体全体を使ってのいろいろな動き（音楽に合わせての動き） 《実技》
- 第8回 主題に対する表現（指導案の作成を含む） <小さな動物> 《実技》
- 第9回 主題に対する表現（指導案の作成を含む） <大きな動物> 《実技》
- 第10回 主題に対する表現（指導案の作成を含む） <小さな乗り物> 《実技》
- 第11回 主題に対する表現（指導案の作成を含む） <大きな乗り物> 《実技》
- 第12回 子どもの生活における表現活動を考える（模擬保育） 《実技》
- 第13回 子どもの表現活動へのアプローチの実際（模擬保育） 《実技》
- 第14回 総括（子どもの表現活動をの本質を考える） 《講義》
- 第15回 総括（子どもと表現活動のまとめ） 《レポート作成》

定期試験は実施しない

<科目コード：qp4h7do>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合があります。

【授業時間外の学習】

《講義》 次回の授業内容を把握し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておいてください（30分）。また、毎回、授業ごとに、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

《実技》 授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。

【成績の評価】

授業時間内での作品評価：70%

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ 授業内で発表する作品の評価は、ビデオ等により振り返り、フィードバックします。

※ 小レポートの評価は、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）

杉浦 とく他 『子どもの表現力を高める舞踊』（明治図書 1988年）

黒川 建一他編 『保育内容 表現』（ミネルヴァ書房 1990年）

高橋 和子他編 『表現 ー風の卵がころがったときー』（不昧堂出版 1995年）

科目名： <KARA16> 保育内容－表現III【発B】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

保育内容-表現IIIは、本学の卒業認定・学位授与「1.教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている」に関する知識、技法の修得をめざします。また、この授業科目は、発達科学部の学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる』『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

幼稚園・保育園の保育の基本理念をふまえ、「子どもにとって表現とは何か」「保育における表現とは何か」さらには「人間にとって表現とは何か」を考察した上で、“動きのスケッチ”による表現の方法を身につけます。

この授業では、今までにみなさんが行ってきた“創作ダンス”とは一味違う身体運動を行います。踊ることが“キライ”という人、からだが“カタイ”という人、人前でパフォーマンスをするのは“ニガテ”という人…も安心して授業を受けてください。

【到達目標】

1. 自分が見たこと、感じたこと、考えたこと、想像したことなどを自分の身体を媒体にして自由に伸び伸びと動きで表現することができる。
 2. 子どもの身体表現の基礎的知識を理解し、実践できる。
 3. 子どもの発育発達に即して、主体的・対話的な学びが実現できる家庭をふまえ、実際の指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。
 4. 表現活動とおして、豊かな心と創造力を身につけることができる。
- 上記の到達目標を達成することで、本学の卒業認定・学位授与の方針に示す、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を身につけることができる。

【授業計画】

第1回	人間と表現の関係について	《講義》
第2回	子どもと表現の関係について	《講義》
第3回	保育の基本と表現（子どもにとって表現とは何か）	《講義》
第4回	保育の基本と表現（子どもの表現活動の実際）	《講義》
第5回	身体の部分を使ってのいろいろな動き	《実技》
第6回	身体全体を使ってのいろいろな動き（2人組での動き）	《実技》
第7回	身体全体を使ってのいろいろな動き（音楽に合わせての動き）	《実技》
第8回	主題に対する表現（指導案の作成を含む）	<小さな動物> 《実技》
第9回	主題に対する表現（指導案の作成を含む）	<大きな動物> 《実技》
第10回	主題に対する表現（指導案の作成を含む）	<小さな乗り物> 《実技》
第11回	主題に対する表現（指導案の作成を含む）	<大きな乗り物> 《実技》
第12回	子どもの生活における表現活動を考える（模擬保育）	《実技》
第13回	子どもの表現活動へのアプローチの実際（模擬保育）	《実技》
第14回	総括（子どもの表現活動をの本質を考える）	《講義》
第15回	総括（子どもと表現活動のまとめ）	《レポート作成》

定期試験は実施しない

<科目コード：qp4h7do>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合があります。

【授業時間外の学習】

《講義》 次回の授業内容を把握し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておいてください（30分）。また、毎回、授業ごとに、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

《実技》 授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。

【成績の評価】

授業時間内での作品評価：70%

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ 授業内で発表する作品の評価は、ビデオ等により振り返り、フィードバックします。

※ 小レポートの評価は、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）

杉浦 とく他 『子どもの表現力を高める舞踊』（明治図書 1988年）

黒川 建一他編 『保育内容 表現』（ミネルヴァ書房 1990年）

高橋 和子他編 『表現 ー風の卵がころがったときー』（不昧堂出版 1995年）

科目名： <KARA6>子どもと健康【発A】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

子どもと健康では、本学の卒業認定・学位授与の方針の「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識、技法の修得をめざします。また、この授業科目は、発達科学部の学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる』『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

乳幼児の発育発達原則を解説したうえで、運動発達、基本的生活習慣の形成、安全な生活などの専門事項を修得します。保育の基本理念をふまえ、子どもにとっての健康の意義を探究することを何よりも大切にしたいと思います。

【到達目標】

1. 健康の定義をふまえて、乳幼児期の健康の意義を理解することができる。
2. 乳幼児の体の発達的特徴を修得することができる。
3. 乳幼児の基本的生活習慣の形成とその意義を説明することができる。
4. 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：保育の基本理念と領域「健康」
- 第2回：領域「健康」の特徴
- 第3回：子どもの健康（乳幼児期の健康とは）
- 第4回：子どもの健康（乳幼児期の心の健康と体の健康について）
- 第5回：子どもの発達と健康（乳幼児の発達の考え方について）
- 第6回：子どもの発達と健康（乳幼児の身体の発達について）
- 第7回：子どもの発達と健康（乳幼児の運動の発達について）
- 第8回：子どもの発達と健康（乳幼児の精神機能の発達について）
- 第9回：子どもの基本的生活習慣の発達（乳幼児における基本的生活習慣とは）
- 第10回：子どもの基本的生活習慣の発達（乳幼児における基本的生活習慣の各論）
- 第11回：子どもの基本的生活習慣の発達（乳幼児の基本的生活習慣形成の方法について）
- 第12回：子どもの安全教育と健康教育（乳幼児の安全能力と事故防止について）
- 第13回：子どもの安全教育と健康教育（園における安全管理の実践について）
- 第14回：子どもの安全教育と健康教育（幼稚園・保育所における健康教育の具体的な取り組み）
- 第15回：総括（子どもの健康とは何か）

定期試験

<科目コード：km32gag>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合もあります。

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。

【成績の評価】

授業内に作成する小レポート：50%

期末試験：30%

授業態度：20%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ 期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

原田碩三『幼児健康学』（黎明書房、1997年）

河邊貴子編『演習 保育内容 健康』（建帛社、2008年）

井狩芳子『演習 保育内容 健康 一大人から子どもへつなぐ健康の視点一』（萌文書林、2014年）

内閣府 文部科学省 厚生労働省『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（チャイルド本社、2017年）

科目名： <KARA6>子どもと健康【発B】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

子どもと健康では、本学の卒業認定・学位授与の方針の「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識、技法の修得をめざします。また、この授業科目は、発達科学部の学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる』『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

乳幼児の発育発達原則を解説したうえで、運動発達、基本的生活習慣の形成、安全な生活などの専門事項を修得します。保育の基本理念をふまえ、子どもにとっての健康の意義を探究することを何よりも大切にしたいと思います。

【到達目標】

1. 健康の定義をふまえて、乳幼児期の健康の意義を理解することができる。
2. 乳幼児の体の発達的特徴を修得することができる。
3. 乳幼児の基本的生活習慣の形成とその意義を説明することができる。
4. 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：保育の基本理念と領域「健康」
- 第2回：領域「健康」の特徴
- 第3回：子どもの健康（乳幼児期の健康とは）
- 第4回：子どもの健康（乳幼児期の心の健康と体の健康について）
- 第5回：子どもの発達と健康（乳幼児の発達の考え方について）
- 第6回：子どもの発達と健康（乳幼児の身体の発達について）
- 第7回：子どもの発達と健康（乳幼児の運動の発達について）
- 第8回：子どもの発達と健康（乳幼児の精神機能の発達について）
- 第9回：子どもの基本的生活習慣の発達（乳幼児における基本的生活習慣とは）
- 第10回：子どもの基本的生活習慣の発達（乳幼児における基本的生活習慣の各論）
- 第11回：子どもの基本的生活習慣の発達（乳幼児の基本的生活習慣形成の方法について）
- 第12回：子どもの安全教育と健康教育（乳幼児の安全能力と事故防止について）
- 第13回：子どもの安全教育と健康教育（園における安全管理の実践について）
- 第14回：子どもの安全教育と健康教育（幼稚園・保育所における健康教育の具体的な取り組み）
- 第15回：総括（子どもの健康とは何か）

定期試験

<科目コード：km32gag>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合もあります。

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。

【成績の評価】

授業内に作成する小レポート：50%

期末試験：30%

授業態度：20%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ 期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

原田碩三『幼児健康学』（黎明書房、1997年）

河邊貴子編『演習 保育内容 健康』（建帛社、2008年）

井狩芳子『演習 保育内容 健康 一大人から子どもへつなぐ健康の視点一』（萌文書林、2014年）

内閣府 文部科学省 厚生労働省『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（チャイルド本社、2017年）

科目名： <TISE1>教育の方法及び技術
担当教員： 松下 文夫(MATSUSHITA Humio)

【授業の紹介】

現代は高度情報通信社会と言われるように、スマホやタブレット等に代表される各種の情報メディアが開発され、容易に大量の情報生成、蓄積、流通等が可能になりました。このような社会で求められる能力とは、インターネットや新しいICTを活用でき、必要とする情報の選択、加工、創造、伝達等に関わる新しいコミュニケーション能力です。授業は、学習者の「主体的で対話的な深い学び」を目標にアクティブラーニングの手法を用いて行います。

この科目では、学習者の豊かな発想や興味・関心に対応できる学習形態の中で、経験、観察や調査、情報検索、映像やCGなどが活用できる自由度の高いメディアの選択と活用を可能にする教育の方法と技術の修得をめざします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 教育実践に必要な教育の方法に関する基礎的・基本的な知識の理解、技術の習得ができる。
2. 新しい学力観に対応した教授学習システムを設計することができる。
3. 情報ネットワークや情報メディアなど、ICTを活用した教育技術の習得ができる。
4. アクティブラーニングを実践することで、新しい教育方法・技術の活用方法が習得でき、教育者としての資質・力量の向上を図ります。

【授業計画】

クラスコード:ks64gqw

第1回	良い授業（保育）の調査からみる教育方法・技術の分野
第2回	子どもの成長・発達における教育の役割
第3回	小学校学習指導要領（幼稚園教育要領）と「生きる力」
第4回	授業（保育）計画に伴う構成要素
第5回	指導（保育）技術に関する構成要素
第6回	教育（保育）目標と評価（指導と評価の一体化）
第7回	アクティブラーニング（遊びこむ保育）の有効性と限界
第8回	ICTの特徴と教育（保育）利用の有効性と限界
第9回	ICTを活用した学習（保育）指導案の作成
第10回	ICTによるマルチメディア教材の作成
第11回	ICTを活用した学習（保育）の成果の記録
第12回	情報社会の光と影・情報モラル
第13回	AIによる幼・小教育の円滑な実施（1）指導内容・方法
第14回	AIによる幼・小教育の円滑な実施（2）人的環境等
第15回	教育の方法及び技術のまとめと展望等

定期試験

【授業時間外の学習】

以下の数字は授業回数、a.は予習内容、b.は復習内容、()内の数字は、およその時間を示す。

- 1.a.人間に対する教育の必要性を文献（例、学問のすすめ他）やWebなどで調べる。自らの経験からよい保育・授業の条件を抽出する（2）。b.人間の存在理由、及び教育の必要性、並びに良い授業の条件についてレポートにまとめる（2）。
- 2.a.幼児期の段階的な成長・発達の特徴及びそれらと教育の役割等を、文献「例、認知発達」やWebなどから調べる（1.5）。b.直観的思考、具体的操作、形式的操作等の各段階と教育の特徴についてまとめる（2.5）。
- 3.a.文科省は、幼稚園及び小学校において学力をどの様に捉えているかを学習指導要領及び文献（例、教科書第1章）で調べる（2）。b.内容の精選、新しい学力観、生きる力、自主的・対話的な深い学び（例、同第1章1(1)）などの用語からまとめる（2）。
- 4.a.小学2年生の算数「(2位数) + (2位数)で繰り上がりのない筆算ができる」という目標で学習展開を想定しながら、指導過程の略案を作成する（1.5）。b.授業（保育）は、教育目標、内容（学習材）、教師、子ども、教育メディア等の構成要素が融合したシステムとして、繰り上がりのある筆算の学習指導過程を作成する（2.5）。
- 5.a.動機付け理論とは何かをWebで調べるとともに、質問に回答できなかった子どもに対する望ましい言葉掛けについて考える（1.5）。b.授業における子どもの学習意欲を向上する指導（保育）技術について、動機付けとKR情報についてまとめる（2.5）。
- 6.a.教育における評価の重要性について文献（例、教科書第7章）やWebから調べる（2）。b.指導と評価の一体化（P-D-C-A）、授業中での評価、テスト得点による評価、数値によらない評価等についてまとめる（2）。
- 7.a.アクティブラーニング（AL）、フィンランドの教育、我が国のALの状況等について文献（例、教科書第3章）やWebで調べる（2）。b.『わが国でALを円滑に導入するための条件を探る』という主題でまとめ、レポートを提出する（3）。
- 8.a. ICTの利用とその効果について、文献（例、教科書第6章）やWebから調べる（2）。b. Scratchによるプログラミング教育が導入される。その教育の目標をまとめるとともに、PowerPointによる情報の提示や調べ学習での活用についてまとめる（3）。
- 9.a. ICTを活用した学習指導案の作成方法を文献（例、教科書第6章）やWeb（例、ICT活用の指導案）から調べる（1.5）。b. 小学校3年理科・社会の教科書から題材を選び、教科書の口絵・図表等をデータ化して教材化し、Wordソフトで学習指導案にまとめる（2.5）。
- 10.a. PowerPointソフトによる教育情報（学習材）の提示には、子どもたちの学習にとって、どのような長所及び短所があるかを文献（例、教科書）やWebで調べる（2）。b. このソフトでマルチメディア教材を制作するための絵コンテ（学習フローチャート）を作成する（2）。
- 11.a. ICTによる学習成果の記録についてどのような方法があるかを文献（例、教科書第6・5 ICT活用の今後の姿）やWebで調べる（1.5）。b. 学習過程を視覚情報として記録する方法が、e-ポートフォリオである。PowerPointの活用によりe-ポートフォリオ・モデルを作成する（2.5）。
- 12.a. 情報社会には様々な問題があることを文献（例、教科書第6章）やWeb（例、ICT活用の指導案）から調べる（2）。b. 情報社会の利点及び問題点、特に学童期に指導しておきたい事項についてまとめる（3）。
- 13.a. 幼・小のAL教育の円滑な実施のための指導内容・方法に関する条件を文献（例、教科書第3章2）やWebから調べる（2）。b. グループ学習で、『AL教育の円滑な授業実施のために抽出した指導内容・方法に関する条件』についてまとめ、PowerPointソフトで6枚のスライドで表現する（3）。
- 14.a. 幼・小のAL教育の円滑な実施のための人的環境等に関する条件を文献（例、教科書第3章2）やWebから調べる（2）。b. グループ学習で、『AL教育の円滑な授業実施のために抽出した人的環境等に関する条件』についてまとめ、PowerPointソフトで6枚のスライドで表現する（2.5）。
- 15.a. 『AL教育を円滑に実施する条件』の結果を全体会で公表するためのプレゼン用予稿を作成する（2）。b. 『AL教育を円滑に実施するための条件を探る』の実践結果を小論文にまとめる。最後に、自己評価表（チェックリスト）によって評価をする（4）。

【成績の評価】

課題別レポート(30%)、定期試験(70%)に基づいて評価します。レポートについては、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領（文部科学省、平成29年3月）
教育の方法と技術（田中俊也編、ナカニシヤ出版、平成29年10月）

【参考文献】

授業の中で適宜印刷物（資料）を配布します。

科目名： <TISE3>保育内容－言葉Ⅰ【発A】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

保育計画、保育実践、保育評価、保育の改善・修正を、具体的保育場面において試みることができるように授業を進めます。その中で教室での学びを教育・保育の実践と関連付けて理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができるよう継続的な学ぶ能力の習得を図ります。
また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

- ・ 保育場面におけるPDCAサイクルを理解することができる。
- ・ 言語習得過程を理解することができる。
- ・ 表出言語が発達する以前の理解言語の重要性を認識することができる。

【授業計画】

第1回 保育内容としての言葉と乳幼児の発達
第2回 保育内容としての言葉のねらいと内容
第3回 言葉の育ちと環境（1）文脈としての経験の意味
第4回 言葉の育ちと環境（2）三項関係と経験の共有化
第5回 言葉の育ちと環境（3）メタ言語能力、メタコミュニケーション
第6回 身体言語の意味
第7回 好奇心・疑問と言葉（内言）
第8回 見立て遊びと言葉
第9回 絵本の中の言葉（ICT機器、教材の活用を含む）
第10回 保育者の専門性と言葉
第11回 言葉と保育指導計画（保育指導案の作成）
第12回 言葉と環境構成
第13回 言葉と保育実践（模擬授業）
第14回 言葉と保育の評価
第15回 総合的指導と言葉（生活科との関連）
定期試験

【授業時間外の学習】

新聞記事に記載してある、自分にとって興味をそそられる語句や表現を収集し、授業の導入の部分で発表してもらいます。（2時間）
収集された語句や表現について、少なくとも3個以上を用いて文章を作成する。（2時間）

【成績の評価】

レポート（10%）、期末試験（80%）、授業への参加度（10%）
・ 課題（試験やレポート等）に対して、研究室で個人的にフィードバックします。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育方針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <TISE3>保育内容－言葉Ⅰ【発B】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

保育計画、保育実践、保育評価、保育の改善・修正を、具体的保育場面において試みることができるように授業を進めます。その中で教室での学びを教育・保育の実践と関連付けて理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができるよう継続的な学ぶ能力の習得を図ります。
また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

- ・ 保育場面におけるPDCAサイクルを理解することができる。
- ・ 言語習得過程を理解することができる。
- ・ 表出言語が発達する以前の理解言語の重要性を認識することができる。

【授業計画】

第1回 保育内容としての言葉と乳幼児の発達
第2回 保育内容としての言葉のねらいと内容
第3回 言葉の育ちと環境（1）文脈としての経験の意味
第4回 言葉の育ちと環境（2）三項関係と経験の共有化
第5回 言葉の育ちと環境（3）メタ言語能力、メタコミュニケーション
第6回 身体言語の意味
第7回 好奇心・疑問と言葉（内言）
第8回 見立て遊びと言葉
第9回 絵本の中の言葉（ICT機器、教材の活用を含む）
第10回 保育者の専門性と言葉
第11回 言葉と保育指導計画（保育指導案の作成）
第12回 言葉と環境構成
第13回 言葉と保育実践（模擬授業）
第14回 言葉と保育の評価
第15回 総合的指導と言葉（生活科との関連）
定期試験

【授業時間外の学習】

新聞記事に記載してある、自分にとって興味をそそられる語句や表現を収集し、授業の導入の部分で発表してもらいます。（2時間）
収集された語句や表現について、少なくとも3個以上を用いて文章を作成する。（2時間）

【成績の評価】

レポート（10%）、期末試験（80%）、授業への参加度（10%）
・ 課題（試験やレポート等）に対して、研究室で個人的にフィードバックします。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育方針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <TISE4>保育内容－言葉Ⅱ【発A】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な言語発達の知識を幅広く体系的に理解し、文化的刺激と言葉の重要性について理解を深める。お遊戯会や生活発表会において台本の制作や演劇指導の基本的スキルなどを習得し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができることをめざします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

- ・領域「言葉」のねらいや内容を児童文化財に見出し、保育計画の中に取り入れたらいいかかを考えることができる。
- ・絵本や劇活動などについて理解し、構想し、創作することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 保育の場とエピソードの意味
 - 第3回 領域「言葉」についての意義
 - 第4回 領域「言葉」のねらい
 - 第5回 環境構成と保育の意図性
 - 第6回 観察法と記録法の実際
 - 第7回 指導計画のなぜ（保育指導案の作成）
 - 第8回 保育の評価の意義と指導計画
 - 第9回 童話の中の言葉
 - 第10回 紙芝居と言葉（ICT機器利用）
 - 第11回 パネルシアターと言葉
 - 第12回 パネルシアターの製作
 - 第13回 絵本の製作
 - 第14回 四季の行事と言葉－ひなまつり、こいのぼり等
 - 第15回 総合的指導とは
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・四季を描いた形容詞や表現、花鳥風月を表す語句を調べ、授業の導入部において紹介してもらいます。（2時間）復習として、毎回の授業ごとに四季にまつわる気候文を200字程度作成すること。（2時間）

【成績の評価】

レポート（10％）、期末試験（70％）、作品（20％）

- ・課題（試験やレポート等）は、個人的に研究室でフィードバックします。パネルシアターや絵本は授業時にコメントを付けて返却します。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）2200円

【参考文献】

- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- 保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <TISE4>保育内容－言葉Ⅱ【発B】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な言語発達の知識を幅広く体系的に理解し、文化的刺激と言葉の重要性について理解を深める。お遊戯会や生活発表会において台本の制作や演劇指導の基本的スキルなどを習得し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができることをめざします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

- ・領域「言葉」のねらいや内容を児童文化財に見出し、保育計画の中に取り入れたらいいかかを考えることができる。
- ・絵本や劇活動などについて理解し、構想し、創作することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 保育の場とエピソードの意味
 - 第3回 領域「言葉」についての意義
 - 第4回 領域「言葉」のねらい
 - 第5回 環境構成と保育の意図性
 - 第6回 観察法と記録法の実際
 - 第7回 指導計画のなぜ（保育指導案の作成）
 - 第8回 保育の評価の意義と指導計画
 - 第9回 童話の中の言葉
 - 第10回 紙芝居と言葉（ICT機器利用）
 - 第11回 パネルシアターと言葉
 - 第12回 パネルシアターの製作
 - 第13回 絵本の製作
 - 第14回 四季の行事と言葉－ひなまつり、こいのぼり等
 - 第15回 総合的指導とは
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・四季を描いた形容詞や表現、花鳥風月を表す語句を調べ、授業の導入部において紹介してもらいます。（2時間）復習として、毎回の授業ごとに四季にまつわる気候文を200字程度作成すること。（2時間）

【成績の評価】

レポート（10％）、期末試験（70％）、作品（20％）

- ・課題（試験やレポート等）は、個人的に研究室でフィードバックします。パネルシアターや絵本は授業時にコメントを付けて返却します。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）2200円

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <TISE5>国語（書写を含む）

担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

【授業の紹介】

○この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校の教育現場での教科指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

○小学校や幼稚園などで国語教育に従事するための理論や表現力を身に付けることをねらいとした授業です。

○ディスカッションやプレゼンテーションなどの手法を取り入れた授業活動の中で、テキストの詳細な読解を通じて「国語」の指導力を高めます。

○また、書写については、毎授業冒頭で平仮名・片仮名の実践的な練習をします。

○なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与方針の「6.教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と想像力を用いて適切に判断できる。」に関する知識や技能の修得をめざします。

○また、学修成果『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。・④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育のの実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

【到達目標】

この授業の到達目標は、発達科学部の教育課程編成・実施の方針の「教育に関する研究能力を涵養」するとともに「主体的な学びの姿勢を形成」し、「論理的に判断し、それを適切な方法で表現する能力の獲得を図るため、以下のように設定しています。

①学生が、幼稚園・小学校教育に携わる教員として必要な国語を適切に表現し、理解する力をつけることができます。

②学生が、授業を通じて思考力や想像力、言語感覚を養い、国語を尊重する態度を育てる力をつけることができます。

③学生が、主体的に取り組むアクティブラーニングを通じ、自らの意見を表現する力を身につけることができます。

【授業計画】

【授業計画】

第1回 「国語」の意義について

第2回：宮沢賢治について・作品『やまなし』読解①基本的な知識

第3回：作品『やまなし』読解②細部の読解

第4回：作品『やまなし』読解③総合的な読解

第5回：様々な表現技術について（文学作品の分野）

第6回：様々な表現技術について（詩）

第7回：様々な表現技術について（短歌）

第8回：様々な表現技術について（修辞法）

第9回：様々な表現技術について（漢詩）（修辞法のいろいろ）

第10回：作品『注文の多い料理店』読解①細部の読解

第11回：作品『注文の多い料理店』読解②総合的な読解

第12回：意見交換・表現について

第13回：作品『なめとこ山の熊』読解①細部の読解

第14回：作品『なめとこ山の熊』読解②総合的な読解

第15回：これまでの読解・表現・書写についての整理

※なお、書写については毎時間の冒頭に練習します。

※定期試験を実施します。

【授業時間外の学習】

【授業時間外の学修】

○予習として、事前配布の資料を辞書や図書館の資料、WEBなどで調べ、内容を確認しておくこと。（2時間）

○復習として、毎回の授業で学修した資料を完成させ、指定期日までに提出すること。（2時間）

【成績の評価】

【成績の評価】

- ①ノートの評価…ノートができていない場合はテストを受ける資格がありません。
- ②授業に取り組む姿勢(30%)
- ③定期試験の成績(70%)
- ※①、②、③の合計点で総合的に評価します。
- ※フィードバック
- 定期試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

【使用テキスト】

- ひらがな練習帳
- 自作資料集
- 『やまなし』・『よだかの星』・『注文の多い料理店』・『なめとこ山の熊』（宮沢賢治著）

【参考文献】

【参考文献】

- 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- 関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： <TISE6>社会

担当教員： 野村 一夫(NOMURA Kazuo)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを通じて学校実情に即した社会科教育の在り方を追究します。

社会科は「社会認識による社会的知性を前提条件として究極的には公民的資質の育成を図る教科」です。小学校社会科では、「国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成することが目標とされています。授業では、社会の変化と社会科の果たす役割や小学校社会科の内容構成や目標、内容、教材、評価などの基本的な考え方、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた社会科授業の在り方を追究していきます。

これらの学修をもとに、これからの社会で求められる力を社会科を通じていかに身に付けるかを考え、理論を踏まえて実践できる基礎的な資質・能力を培うことを目指します。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」の修得をめざします。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

Google Classroom クラスコード：t2flvse

【到達目標】

社会の変化と学校教育における社会科の役割を考え、小学校教員として社会科学習をいかに指導するかを述べることができる。

- 1) 社会の変化と社会科教育の歴史を理解し、社会科の本質を述べることができる。
- 2) 社会科、地理歴史科、公民科の関連を理解し、小学校社会科の内容構成の特色を述べることができる。
- 3) 小学校社会科の目標、内容、評価の在り方などを理解し、指導計画作成上の留意点を述べることができる。
- 4) 社会科の学習過程や学習形態、学習活動の在り方を考え、授業計画作成上の留意点を述べることができる。
- 5) 総合的な学習の時間や特別の教科道德等との関連を理解し、社会科の役割を述べることができる。

【授業計画】

<<各回の資料配布・課題提出>>Google Classroom

- 第1回 オリエンテーション・社会科の歴史
- 第2回 社会の変化と社会科教育
- 第3回 社会科の本質・目標
- 第4回 小学校社会科と中学校社会科、地理歴史科、公民科との関連
- 第5回 小学校社会科と総合的な学習の時間、特別の教科道德等との関連
- 第6回 小学校社会科における地域学習・郷土学習
- 第7回 小学校社会科における社会的事象の地理的な見方・考え方
- 第8回 小学校社会科における歴史的学习
- 第9回 小学校社会科における公民的学习
- 第10回 小学校社会科指導計画の作成と配慮事項
- 第11回 小学校社会科の学習過程と学習形態
- 第12回 小学校社会科の評価
- 第13回 小学校社会科における教材・教具の開発と活用
- 第14回 小学校社会科における学習の個別・最適化とICT活用
- 第15回 「社会に開かれた教育課程」における小学校社会科の在り方

定期試験

【授業時間外の学習】

- 1) 事前学修課題について、図書や資料等を参考に自分考えをノート等にまとめておくこと。(毎2時間)
- 2) 社会的事象に関心を持ち、その意味を考えて報告する「今日の？」を各自1回以上発表できるようまとめること。
- 3) 事後学修課題について、本時の学修内容を振り返り、期限内に提出すること。Google classroom(毎2時間)

【成績の評価】

学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。授業中に作成するリフレクションペーパー(40%)、期末試験(60%)とします。

リフレクションペーパーは、評価と解説を行い、授業の中で返却します。

<<各回の資料配布・課題提出>>Google Classroom

定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 平成30年 文部科学省
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 平成30年 文部科学省
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 平成30年 文部科学省
小学校教科書「新しい社会」3年、4年、5年上・下、6年上・下 令和2年 東京書籍
小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 令和2年 帝国書院

【参考文献】

日本社会科教育学会編 新版 社会科教育事典 2012年 ぎょうせい
全国社会科教育学会 新 社会科授業づくりハンドブック 小学校編 2015年 明治図書
香川県小学校社会科教育研究会 社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習 2019年 東洋館
出版社

科目名： <TISE7>算数

担当教員： 土井 理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校・特別支援学校での学校現場指導を活かし、具体的な算数・数学に関する事例を示しながら授業していきます。また、この授業は、算数・数学に関する問題に対し、あなたが考え、あなたが解決する時間です。四則演算などの原理・原則や指導方法を学ぶことを通して、数学的な見方・考え方を認識し、算数・数学を学ぶ意義を考え、それを子どもたちに伝えていこうとする力を育てていきます。また、プログラミングを体験しながら、プログラミング的思考を育むための指導方法についても実践します。

なお、この授業科目では、発達科学部の卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識、技能の修得をめざします。

また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

- ・数学的な見方・考え方を認識し、算数・数学を学ぶ意義を理解することができる。
- ・数と計算（四則演算）及び図形（正多角形）の指導方法を身に付けることができる。
- ・プログラミング的思考を理解することができる。
- ・プログラミング教育の指導方法（計画・実施）を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、これまでの算数・数学教育の振り返り
 - 第2回：加法・減法（1）：タイルを使った位取り指導（位取りの原理と補数）
 - 第3回：加法、減法（2）：筆算の指導
 - 第4回：乗法
 - 第5回：除法（1）：等分除と包含除
 - 第6回：除法（2）：除法のアルゴリズムと筆算
 - 第7回：平面図形（正多角形）の性質
 - 第8回：プログラミング的思考
 - 第9回：Scratchを用いたプログラミング実習（1）：基本的な操作、フローチャート作成
 - 第10回：Scratchを用いたプログラミング実習（2）：正多角形の作図
 - 第11回：Scratchを用いたプログラミング実習（3）：正多角形の作図についての考察、条件分岐
 - 第12回：Scratchを用いたプログラミング教育実習
 - 第13回：加法、減法の筆算におけるアルゴリズム（1）：フローチャート作成
 - 第14回：加法、減法の筆算におけるアルゴリズム（2）：授業での指導
 - 第15回：楽しい算数・数学授業の在り方
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・毎回の授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（2時間）
- ・次回の授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（2時間）

【成績の評価】

受講態度（20%） 振り返りレポート（40%） 最終課題レポート（40%）

- ・毎回の授業振り返りレポートを提出し、コメントを記入して返却する。
- ・最終課題（①算数・数学を学ぶ意義 ②プログラミング的思考について のレポート）を作成し、第15回の最終授業時に提出する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年7月）
- ・必要に応じて授業プリント及び資料を配付します。

【参考文献】

- ・遠山啓「水道方式とはなにか 遠山啓著作集 数学教育論シリーズ3」（太郎次郎社、1980年）

科目名： <TISE8>小学校英語
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

小学校英語教育についての基礎的な知識・理解を深め、子どもの第二言語習得についての知識とその活用を学び、授業実践に必要な基礎的な指導技術を修得する。知識・理解を深めるために、調べてきたことや準備してきたことを発表する授業形態をとり、知識の活用法や指導技術を身に付けるために、ペアワークやグループワークによる言語活動を学生が自ら体験しながら学ぶ。

また、講義、演習、実習を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びになるよう、講義中心ではなくワークショップ中心の授業を行う。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる」に関する知識、技能の修得をめざす。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連している。

【到達目標】

- ・小学校における外国語活動（英語）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることができる。
- ・英語を使ってコミュニケーションを図るための素地を児童に効果的に習得させることができる。
- ・英語の発音やアクセントなど、音声指導が確実にできる。
- ・小学校英語教育に求められる英語力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 「第二部 外国語に関する専門的事項」について
 - 第2回 Unit 1 小学校英語教育の変遷、Unit 2 英語の音声
 - 第3回 Unit 3 発音と綴りの関係、Unit 4 英語の文構造・文法
 - 第4回 Unit 5 英語の語彙、Unit 6 第二言語習得に関する基本的な知識
 - 第5回 Unit 7 児童文学（絵本）、Unit 8 児童文学（子ども向けの歌や詩）
 - 第6回 「絵本の読み聞かせ」テスト
 - 第7回 Unit 9 異文化理解、Unit 10 英語の書き方
 - 第8回 Unit 11 英語コミュニケーション（聞くこと）
 - 第9回 Unit 12 英語コミュニケーション（読むこと）
 - 第10回 Unit 13 英語コミュニケーション（話すこと）
 - 第11回 Unit 14 英語コミュニケーション（書くこと）
 - 第12回 Unit 15 英語コミュニケーション（領域統合型の言語活動）
 - 第13回 "Show & Tell" テスト
 - 第14回 小学校教員採用試験問題（英語）にTry!
 - 第15回 小学校教員採用試験問題（英語）の復習
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（2時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（2時間）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「レポート等、授業以外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「絵本の読み聞かせ及びShow & Tell」20%、「定期試験」40%の5項目を総合的に評価します。レポート、小テスト、絵本の読み聞かせ及びShow & Tellについては、その都度フィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

小学校英語 はじめる教科書 改訂版
外国語科・外国語活動指導者養成のためにー コア・カリキュラムに沿ってー
（小川隆夫、東仁美著、mpi松香フォニックス、2021）

【参考文献】

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 外国語編及び外国語活動編
（平成29年3月 文部科学省）

科目名： <TISE9>生活

担当教員： 高橋 佳生(TAKAHASHI Yoshio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。小学校現場での授業実践と教員指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

生活科教育の目標や内容、創設の背景、現状や課題などを把握し、その在り方を考える学習を通して、現在の学校教育についての認識を深めます。また、地域のフィールドワークやものづくり、討論、思考ツールの活用など体験的な学習を通じて、生活科と他教科との関連、幼児教育との接続などに気づき、関心・意欲や技能など実践力を高めていくようにします。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針「2. 教育・保育に必要な知識の幅広く体系的な理解・実践と関連付けた理解」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. 生活科の目標や内容、創設の背景を理解するとともに、フィールドワークやものづくり、討論などを通して体験的に学び、教育実践のあり方について考えを深めることができる。
2. 学習指導要領や生活科にかかわる学習論の学びを通して、児童主体の教育方法の理解を深め、教育・保育について学ぶための資質・能力を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション、私にとっての生活科
第2回	生活科の目標・内容とその意味（グループワーク）
第3回	生活科の課題と学習指導要領の改訂（ディスカッション）
第4回	生活科の内容及び体験活動①「自然探索フィールドワーク」
第5回	生活科の特色と教育的意義（ディスカッション）
第6回	生活科の内容及び体験活動②「思考ツールの活用」（グループワーク）
第7回	生活科の内容及び体験活動③「自然のものづくり」（制作）
第8回	生活科の創設と時代的背景（グループワーク）
第9回	生活科の教育理念（グループワーク）
第10回	生活科の内容及び体験活動④「動くおもちゃ作り」（制作）
第11回	生活科と他教科とのかかわり（グループワーク）
第12回	生活科と見方・考え方、資質・能力（ディスカッション）
第13回	生活科と幼児期・中学年以降とのつながり（グループワーク）
第14回	生活科と総合的な学習（ディスカッション）
第15回	まとめ、生活科と学力
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- 次回授業内容を、学習指導要領を用いて確認・整理し、必要な用具・材料を準備する。（2時間）
授業で学んだ思考方法やフィールドワークの手法を用いて、日常での活動記録を行う。（2時間）

【成績の評価】

授業ワークシート(80%)、小テスト2回(10%)、授業への参加態度・日常活動(10%)。
授業ワークシート、小テストについては、その都度、結果を授業時に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説生活編(平成29年3月告示 文部科学省)
教科書 「あたらしいせいかつ(上)、新しい生活(下)」 東京書籍

【参考文献】

授業において適宜紹介、資料配布する。

科目名： <TISE10>理科

担当教員： 糸目 真也

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」ことに関する知識、技法の修得をめざしている。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連して、次の①～③の学習活動に取り組む。

①小学校での理科教育や環境教育等に関する内容を、小学校学習指導要領解説理科編及び教科書をもとに把握する。

②小学校理科の学習の内容区分である「生命・地球」に関する観察、実験、野外実習などの活動を通して、観察、実験などについての基本的な技能を身に付け、自然を愛する心情を養う。

③小学校理科の学習の内容区分である「物質・エネルギー」に関する実験などの活動を通して、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱う技能を身に付け、主体的に問題解決しようとする態度を養う。

【到達目標】

・将来、小学校や特別支援学校の教員として必要な素養と幅広い人間性、理科に関する専門的な知識と観察、

実験などに関する基本的な技能を身に付けることができる。

・実物を見る、実物に触れる、実際につくる、実際にやってみることを大切にして、手と目と足と頭を使っ

て、問題解決の力を伸長することができる。

・レポート作成や学生実験などを通して、文章を組み立てる力、情報を活用する力、プレゼンテーションする力、コミュニケーションする力を伸長することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 小学校理科の目標と内容の取り扱い

第3回 春の自然観察（春日川や学内の野鳥、動植物）

第4回 地学野外観察会（屋島）事前学習

第5回 地学野外観察Ⅰ：屋島の地形（メサ地形）と高松平野の地形の特徴の観察

第6回 地学野外観察Ⅱ：瀬戸内火山活動に伴う流紋岩質凝灰岩（雪の庭）と讃岐岩質安山岩（畳石）の露頭観察

第7回 環境教育の考え方

第8回 環境教育の実践と観察（簡易ビオトープの作成）

第9回 小学校理科「物質・エネルギー」の学習内容

第10回 小学校理科「物質・エネルギー」の教師実験

第11回 小学校理科「物質・エネルギー」の実験についての探究移動

第12回 小学校理科「物質・エネルギー」の実験教材の作成

第13回 小学校理科「物質・エネルギー」の学生実験-Part1-（3・4年生の教科書の実験より）

第14回 小学校理科「物質・エネルギー」の学生実験-Part2-（5・6年生の教科書の実験より）

第15回 天体観測の方法と夏の星空の観察

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

・小学校指導要領解説理科編、小学校理科の教科書、配付資料を読んで授業に臨むこと。（毎回1時間）

・授業の復習として内容をレポートを提出すること。（毎回2時間）

・学生実験のための教材研究と予備実験及び実験の準備（15時間）

【成績の評価】

・レポート（課題提出）及び学生実験など授業の成果を70%、小テストの成績を30%として評価する。

・レポートや小テストは評価と解説を行い、授業で返却する。

【使用テキスト】

授業で適宜連絡します。以下の内容に関する資料を配布あるいは提示の予定。

文部科学省「小学校学習指導解説 理科編」（平成29年告示）

小学校理科の教科書 等

【参考文献】

授業で適宜連絡します。

科目名： <TISE11>子ども文化
担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園・小学校での経験を活かし、文化に触れる子どもたちの具体的な姿の紹介もしながら授業を行います。

子どもは、自分を取り巻く文化の中で育ち、遊びながら学んでいきます。いろいろな遊びを通して、言葉を獲得したり、あれこれ工夫したりする知力を養っていきます。また、いっしょに遊ぶことから人と関わる力を身につけたり、体力や意欲を向上させていきます。子どもがどれだけ、生き生きと遊びに夢中になっているかは、保育の質と深さに関わってきます。保育者は、子どもの遊びの計画を立てたり、思わず遊びたくなるような教材を準備したり、実際の遊びの中に一緒に入り、さらに遊びが楽しくなるように構想を練ったりしなければなりません。

本授業では、子どもの心を育てる役割を果たす児童文化の歴史や理論を学ぶと同時に、保育現場で子どもと一緒に楽しむ方法を考える視点も学びます。伝承遊びや読み聞かせ、劇づくりなど具体的な活動を通して、幅広い教養と実践的能力を身に付けていきます。また、子どもの遊びの今日的課題（ゲーム文化等）について考えることで、論理的な思考力と適切な判断力の涵養もめざします。

なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 多様な文化財が子どもの感性や情操に与える意義を理解し、保育者としての使命感や倫理観を獲得することができる。
2. 子ども文化の今日的課題について情報を収集・分析・討論することで、多面的な考えをもつことができるようになる。
3. 多様な技能（読み聞かせ・劇の創作・伝承遊び等）を習得し、子どもの心の育ちに与する保育実践ができる。

【授業計画】

- 第1回 文化って何だろう
 - 第2回 子ども文化の内容（児童文化財・児童文化施設・児童文化活動）
 - 第3回 子ども文化の変遷
 - 第4回 子どもの遊びと消費生活
 - 第5回 電子空間の可能性と危険性
 - 第6回 子どもの生活を生き生きとさせる子ども文化（子どもは玩具でどう遊ぶのか）
 - 第7回 子どもの生活を生き生きとさせる子ども文化（子どもの視点で絵本を読む）
 - 第8回 子どもと文学
 - 第9回 子どもの生活と遊び（子どもに伝えたい伝承遊びの実践）
 - 第10回 子どもと文学（わらべうた・おはなしの世界）
 - 第11回 子どもと文学（絵本の力）
 - 第12回 劇創り（選書とシナリオ作成）
 - 第13回 劇創り（練習）
 - 第14回 劇創り（発表と評価）
 - 第15回 子ども文化を伝承すること
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・ 保育実践園、図書館、美術館、街等で子ども文化を見つける。（2時間）
- ・ 課題についての情報収集や考察をし、発表できるようにしておく。（6時間）
- ・ 伝承遊びや劇創りでは、発表練習や自分に分担された準備をする。（7時間）

【成績の評価】

関心・態度（30%）ワークシート等への記入内容や発表内容、提出物（70%）
授業の振り返りやレポートは添削して返したり、次時の授業で活用したりする。
伝承遊びや劇づくりの実践的活動では、準備や学習態度、意欲等を重視する。教員からの講評を受けることで、フィードバックを行う。
15分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

皆川美恵子 武田京子 編著「新版 児童文化」（ななみ書房、2016年）

【参考文献】

絵本 かこさとし作「どろぼうがっこう」（偕成社）
瀬田貞二作「かさじぞう」（福音館書店）
グリム童話「おおかみと七ひきのこやぎ」（福音館書店）
川端 誠作「落語絵本 まんじゅうこわい」（クレヨンハウス） など
野村 洵著「昔話は残酷か」（東京子ども図書館 2019年）

科目名： <TISE12> 幼児理解【発A】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

幼児期にふさわしい保育を行う際に必要なことは、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することです。そのため、本授業では、幼児理解の意義と重要性を理解し、それらを保育実践と結びつけて考察する力を身に付けることをめざします。また、事例研究や映像視聴、ロールプレイなど様々な演習方法を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について学ぶとともに、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付けていきます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解することができる。
 - (1) 幼児の生活及び遊びの実態に即した幼児理解の意義が理解できる。
 - (2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解することができる。
 - (3) 幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解することができる。
2. 幼児理解の方法を具体的に理解することができる。
 - (1) 観察や記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
 - (2) 個と集団の関係を捉える意義や方法が理解できる。
 - (3) 幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきやその要因を周りの幼児との関係やその他の背景から捉える原理及び方法を示すことができる。
 - (4) 保護者の心情や基礎的な対応の方法が理解できる。

【授業計画】

第1回	幼児理解の必要性
第2回	保育における「幼児理解」—子どもを見る目
第3回	幼児の発達や学びの理解
第4回	幼児の遊びと幼児理解
第5回	幼児理解を深める保育者の姿勢
第6回	幼児理解に向けて～個と集団
第7回	保育における「理解」と「援助」
第8回	幼児理解と保育者の意図
第9回	幼児理解の様々な方法
第10回	幼児理解を深める「観察と記録」
第11回	幼児のつまずきの理解とその対応
第12回	気になる行動への保育者の対応
第13回	子育て支援における幼児理解
第14回	保護者への対応のロールプレイ
第15回	幼児の学びのつながり—園内の協力体制と関係機関との連携
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。(1時間)

その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みとその内容(40%)、期末試験(60%)により評価します。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出すること。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

随時、資料を配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型こども園教育・保育要領(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE12> 幼児理解【発B】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

幼児期にふさわしい保育を行う際に必要なことは、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することです。そのため、本授業では、幼児理解の意義と重要性を理解し、それらを保育実践と結びつけて考察する力を身に付けることをめざします。また、事例研究や映像視聴、ロールプレイなど様々な演習方法を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について学ぶとともに、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付けていきます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解することができる。
 - (1) 幼児の生活及び遊びの実態に即した幼児理解の意義が理解できる。
 - (2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解することができる。
 - (3) 幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解することができる。
2. 幼児理解の方法を具体的に理解することができる。
 - (1) 観察と記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
 - (2) 個と集団の関係を捉える意義や方法が理解できる。
 - (3) 幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきやその要因を周りの幼児との関係やその他の背景から捉える原理及び方法を示すことができる。
 - (4) 保護者の心情や基礎的な対応の方法が理解できる。

【授業計画】

第1回	幼児理解の必要性
第2回	保育における「幼児理解」—子どもを見る目
第3回	幼児の発達や学びの理解
第4回	幼児の遊びと幼児理解
第5回	幼児理解を深める保育者の姿勢
第6回	幼児理解に向けて～個と集団
第7回	保育における「理解」と「援助」
第8回	幼児理解と保育者の意図
第9回	幼児理解の様々な方法
第10回	幼児理解を深める「観察と記録」
第11回	幼児のつまずきの理解とその対応
第12回	気になる行動への保育者の対応
第13回	子育て支援における幼児理解
第14回	保護者への対応のロールプレイ
第15回	幼児の学びのつながり—園内の協力体制と関係機関との連携
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。(1時間)

その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みとその内容(40%)、期末試験(60%)により評価します。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出すること。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

随時、資料を配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型こども園教育・保育要領(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE13>保育内容－表現Ⅰ【発A】

担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この科目は、保育士資格、幼稚園教諭一級免許状取得のための必修科目です。
また、本授業を担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、2年前から県教育委員会より造形活動の指導員として委嘱され、幼稚園や保育所で造形活動の指導を行っています。

そのため、この授業では、保育や教育の現場で、どのような造形活動（造形遊び）が行われているかを画像等で知るとともに、子どもたちのつまずきへの対応など、現場の実態に応じた具体的な指導方法も学びながら、基本的な造形活動（造形遊び）を自ら体験することで、保育者としての実践力を身に付けることができると思っています。

なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」に関わっています。また、学習成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。」に関連しています。

【到達目標】

- ・保育の現場で実践されている様々な技法遊び（絵の具遊び）を習得するとともに、偶然できる形や色の面白さや美しさに気付くとともに、造形表現の楽しみながら、その良さや可能性を感じ取ることができる。
- ・自他の作品の良さや美しさを感じ取ることができる。

【授業計画】

第1回 保育園・幼稚園等での技法遊びを中心とした造形活動（造形遊び）や造形作品を鑑賞し、幼児の造形表現の意義や目的について考える。

第2回 技法遊び①「デカルコマニー」吸水性の低い紙に絵の具を置き、紙を押し当てて転写する技法。絵の具の濃さや剥がし方によって様々な効果を楽しむことができる。

第3回 つくった「デカルコマニー」を台紙に構成し貼り付け、作品として完成させる。

第4回 技法遊び②「スパッタリング」画用紙の上に型紙を置き、金網にのせた絵の具をブラシで擦り、その網目から絵の具の粒子を飛び散らせ、そこから現れる模様を楽しむ。

第5回 つくった「スパッタリング」を台紙に構成し貼り付け、作品として完成させる。

第6回 技法遊び③「ローラーペインティング」マスキングやスパッタリングの技法も併用しながら、ローラーで模様を描く。

第7回 つくった「ローラーペインティング」を台紙に構成し貼り付け、作品として完成させる。

第8回 技法遊び④「スタンピング」身の回りにある様々な素材を使ってスタンプを自由に楽しみ、素材の工夫やスタンプして生まれる形の面白さや美しさに気付く。

第9回 つくった「スタンピング」を台紙に構成し貼り付け、作品として完成させる。

第10回 技法遊び⑤「ドリッピング」絵の具を垂らしたり、振りかけたりしてできた偶然の形や色の面白さや美しさに気付く。

第11回 つくった「ドリッピング」を台紙に構成し貼り付け、作品として完成させる。

第12回～第14回 技法遊び⑥～⑧を選択し、作品づくりを行う。

技法遊び⑥「フロッタージュ」凹凸がある物に紙をあて、その上からクレパスなどで擦り、紙に模様を写し取ることを楽しむ。技法遊び

⑦「にじみ絵」湿らせた紙に色を置いていったり、水性ペンで描いた部分に水を垂らしたりするなどして、色がにじみ合う美しさを楽しむ。技法遊び

⑧「スクラッチ」ボール紙に明るい色のクレパスを塗り重ね、最後にアクリル絵の具の黒を塗り、先の尖った物で表面を削り取って絵や模様を描く。

第15回 作品の自己評価、相互評価 自他の作品を並べて、作品鑑賞会を開催する。

※定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

今回の内容に沿って、あらかじめ準備物を用意したり、資料を収集したり、アイデアスケッチを描いてきたりすることが必要である。（1時間以上） それらの活動も含めて作品制作である。

また、授業終了までに仕上がらなかった場合は、次週の同授業日までに授業時間外で制作し、仕上げて提出すること。

【成績の評価】

課題作品（技能、創意工夫）60%、授業態度（制作態度、発表、準備物など）40%

課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

「保育者をめざす 楽しい造形表現」(齋藤正人監修・編著、圭文社、2018年)

「保育所保育指針 解説」(厚生労働省 平成30年2月)

「幼稚園教育要領 解説」(文部科学省 平成30年2月)

科目名： <TISE13>保育内容－表現Ⅰ【発B】

担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この科目は、保育士資格、幼稚園教諭一級免許状取得のための必修科目です。
また、本授業を担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、2年前から県教育委員会より造形活動の指導員として委嘱され、幼稚園や保育所で造形活動の指導を行っています。

そのため、この授業では、保育や教育の現場で、どのような造形活動（造形遊び）が行われているかを画像等で知るとともに、子どもたちのつまずきへの対応など、現場の実態に応じた具体的な指導方法も学びながら、基本的な造形活動（造形遊び）を自ら体験することで、保育者としての実践力を身に付けることができると思っています。

なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」に関わっています。また、学習成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。」に関連しています。

【到達目標】

- ・保育の現場で実践されている様々な技法遊び（絵の具遊び）を習得するとともに、偶然できる形や色の面白さや美しさに気付くとともに、造形表現の楽しみながら、その良さや可能性を感じ取ることができる。
- ・自他の作品の良さや美しさを感じ取ることができる。

【授業計画】

第1回 保育園・幼稚園等での技法遊びを中心とした造形活動（造形遊び）や造形作品を鑑賞し、幼児の造形表現の意義や目的について考える。

第2回 技法遊び①「デカルコマニー」吸水性の低い紙に絵の具を置き、紙を押し当てて転写する技法。絵の具の濃さや剥がし方によって様々な効果を楽しむことができる。

第3回 つくった「デカルコマニー」を台紙に構成し貼り付け、作品として完成させる。

第4回 技法遊び②「スパッタリング」画用紙の上に型紙を置き、金網にのせた絵の具をブラシで擦り、その網目から絵の具の粒子を飛び散らせ、そこから現れる模様を楽しむ。

第5回 つくった「スパッタリング」を台紙に構成し貼り付け、作品として完成させる。

第6回 技法遊び③「ローラーペインティング」マスキングやスパッタリングの技法も併用しながら、ローラーで模様を描く。

第7回 つくった「ローラーペインティング」を台紙に構成し貼り付け、作品として完成させる。

第8回 技法遊び④「スタンピング」身の回りにある様々な素材を使ってスタンプを自由に楽しみ、素材の工夫やスタンプして生まれる形の面白さや美しさに気付く。

第9回 つくった「スタンピング」を台紙に構成し貼り付け、作品として完成させる。

第10回 技法遊び⑤「ドリッピング」絵の具を垂らしたり、振りかけたりしてできた偶然の形や色の面白さや美しさに気付く。

第11回 つくった「ドリッピング」を台紙に構成し貼り付け、作品として完成させる。

第12回～第14回 技法遊び⑥～⑧を選択し、作品づくりを行う。

技法遊び⑥「フロッタージュ」凹凸がある物に紙をあて、その上からクレパスなどで擦り、紙に模様を写し取ることを楽しむ。技法遊び

⑦「にじみ絵」湿らせた紙に色を置いていったり、水性ペンで描いた部分に水を垂らしたりするなどして、色がにじみ合う美しさを楽しむ。技法遊び

⑧「スクラッチ」ボール紙に明るい色のクレパスを塗り重ね、最後にアクリル絵の具の黒を塗り、先の尖った物で表面を削り取って絵や模様を描く。

第15回 作品の自己評価、相互評価 自他の作品を並べて、作品鑑賞会を開催する。

※定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

今回の内容に沿って、あらかじめ準備物を用意したり、資料を収集したり、アイデアスケッチを描いたりすることが必要である。（1時間以上） それらの活動も含めて作品制作である。

また、授業終了までに仕上がらなかった場合は、次週の同授業日までに授業時間外で制作し、仕上げて提出すること。

【成績の評価】

課題作品（技能、創意工夫）60%、授業態度（制作態度、発表、準備物など）40%

課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 「保育者をめざす 楽しい造形表現」(齋藤正人監修・編著、圭文社、2018年)
「保育所保育指針 解説」(厚生労働省 平成30年2月)
「幼稚園教育要領 解説」(文部科学省 平成30年2月)

科目名： <TISE14>図画工作Ⅰ－Ⅰ
担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この科目は、小学校教諭一級免許状取得のための必修科目です。また、担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）と、県教育委員会指導主事として9年間の学校現場への指導経験（図画工作科）を有しており、児童のつまずきへの対応など、学校現場の実態に応じた具体的な指導方法も示しながら授業を行うことができます。

この授業では、授業で学んだ経験を生かし小学校現場で指導することができるよう、小学校低学年から中学年の図画工作科で取り扱われている実施頻度の高い造形遊びを中心とした教材を体験します。同時に、そのことで、造形活動に必要な基礎的な知識や技能も身に付けることができると考えています。

なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」に関わっています。また、学習成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。」に関連しています。

【到達目標】

- ・小学校図画工作科で、よく取り扱われている造形遊びを中心とした教材について理解し、教材の制作を通して造形活動に必要な基礎的な知識や技能を身に付けることができる。
- ・作品制作や鑑賞の活動を通して、造形表現活動を楽しむことができる。

【授業計画】

第1回 ここ数年間における香川県内の小学校で制作された作品（壁面掲示作品や展覧会の作品）を鑑賞し、小学校図画工作科の意義や目的、図工教育の現状と課題について考える。

第2回 「自画像づくり」ホームルーム教室に掲示する自画像を、色画用紙を切って貼ってつくる。自画像を描くことに抵抗感があったり、絵を描くことが苦手であったりする子どもたちも一生懸命取り組むことができる。

第3回 「自画像づくり」を完成させる。

第4回 「ふしぎな たまご」（日文1・2下）から 1回目
画用紙にいろいろな模様の卵を描き、それを2つに切って（割って）、中から、生まれて飛び出してくるものを想像して描いて、それらを画用紙に貼って構成し、作品にする。

第5回 「ふしぎな たまご」（日文1・2下）から 2回目

修正加筆等を行うなどして作品を完成させる。

第6回 「ぺったんコロコロ」（日文1・2上）、「スタンプ、スタンプ!」（開隆1・2上）から 1回目
「ぺったん」は身近な材料を使ったスタンプング、「コロコロ」はローラーペインティングであり、これらの技法を使った模様づくりを楽しむ。1回目は、身近な材料を使ってスタンプづくりをする。

第7回 「ぺったんコロコロ」（日文1・2上）、「スタンプ、スタンプ!」（開隆1・2上）から 2回目
作品として完成させる。

第8回 「絵の具を使ったいろんな表し方」（日文3・4下）、「絵の具を使ったいろんな表し方をくふうしよう」（開隆3・4下）から 1回目

ドリッピング、デカルコマニー、スパッタリング、ローラー・スポンジ・刷毛で描くなど、様々な技法を使って、またそれらの複数の技法を組み合わせるなどして偶然できる形や色の面白さ、美しさを体験する。

第9回 「絵の具を使ったいろんな表し方」（日文3・4下）、「絵の具を使ったいろんな表し方をくふうしよう」（開隆3・4下）から 2回目 できるだけ多くの技法を使った作品をつくる。

第10回 「絵の具を使ったいろんな表し方」（日文3・4下）、「絵の具を使ったいろんな表し方をくふうしよう」（開隆3・4下）から 3回目

1・2回目のできた作品を組み合わせた貼り絵による作品づくり（鳥、虫、魚など）を行う。

第11回 「絵の具+水+ふで=いいかんじ!」（日文3・4上）、「絵の具と水のハーモニー」（開隆3・4上）から 1回目

絵の具を混ぜたり、水の量を変えたりしていろんな色をつくり、いろんな線や形を描いてみる。

第12回 「絵の具+水+ふで=いいかんじ!」（日文3・4上）、「絵の具と水のハーモニー」（開隆3・4上）から 2回目 作品を完成させる。

第13回 「つなぐんぐん」（日文3・4下）から 1回目

新聞紙を細く固く丸めて棒をつくり、それらをしっかりと繋いで線材による立体物をつくる。共同制作による巨大オブジェづくり。

第14回 「つなぐんぐん」（日文3・4下）から 2回目

作品を完成させる。

第15回 作品の自己評価、相互評価 自他の作品を並べて、作品鑑賞会を開催する。

※定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

今回の内容に沿って、あらかじめ準備物を用意したり、資料を収集したり、アイデアスケッチを描いてきたりすることが必要である。（1時間以上）

また、授業終了までに仕上がらなかった場合は、次週の同授業日までに授業時間外で制作し、仕上げて提出すること。（相当する時間）

【成績の評価】

課題作品（技能、創意工夫）60%、授業態度（制作態度、発表、準備物など）40%

課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

令和2年～5年使用 小学校図画工作科 教科用図書

「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）

科目名： <TISE15>図画工作Ⅰ－Ⅱ

担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この科目を担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）と、県教育委員会指導主事として9年間の学校現場への指導経験（図画工作科）を有しており、児童のつまづきへの対応など、学校現場の実態に応じた具体的な指導方法も示しながら授業を行うことができます。

この授業では、授業で学んだ経験を生かし小学校現場で指導することができるよう、小学校中学年から高学年の図画工作科で取り扱われている実施頻度が高く指導力が求められる木版画等の教材を体験します。同時に、そのことで、造形活動に必要な基礎的な知識や技能も身に付けることができると考えています。

なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」に関わっています。また、学習成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。」に関連しています。

【到達目標】

- ・小学校図画工作科で、よく取り扱われている実施頻度が高く指導力が求められる木版画等の教材について理解し、教材の制作を通して造形活動に必要な基礎的な知識や技能を身に付けることができる。
- ・作品制作や鑑賞の活動を通して、造形表現活動を楽しむことができる。

【授業計画】

第1回 「創造性テスト」や「発想トレーニング」をとおして、創造性を高めるための造形教育の役割や意義について考える。

第2回 「これでえがくと」（開隆3・4下）から 1回目

いろんな布（麻布、化繊など）や紙、ダンボール紙、毛糸や紐、綿など、手触りの異なるいろんな素材を組み合わせて台紙に貼り付け、テクスチュア（画肌の感じ）の感じを楽しむとともに、絵の具で加筆するなどして作品づくりをする。

第3回 「これでえがくと」（開隆3・4下）から 2回目

作品を完成させる。

第4回 「木はん画のつくり方」（日文3・4下）、「木はん画に表そう」（開隆3・4下）から 1回目

木版画の制作手順について知り、線描きの下絵をつくる。

第5回 「木はん画のつくり方」（日文3・4下）、「木はん画に表そう」（開隆3・4下）から 2回目

白黒のバランスを考えて彫りの計画を立て、彫刻刀で版木を彫っていく。

第6回 「木はん画のつくり方」（日文3・4下）、「木はん画に表そう」（開隆3・4下）から 3回目

彫りの完成

第7回 「木はん画のつくり方」（日文3・4下）、「木はん画に表そう」（開隆3・4下）から 4回目

版木にローラーでむらなくインクをつけて、すり紙をのせ、バレンで刷る。

第8回 「立ち上がれ！ワイヤーアート」（日文5・6上）、

「見つけて！ワイヤードリーム」（開隆5・6上）から 1回目

カラーワイヤーやアルミ、真鍮など、様々な素材の針金を曲げたりつなげたりして、つくり方を工夫して、抽象的なオブジェをつくる。1回目は、ミニチュア作品の制作と本制作の構想。

第9回 「立ち上がれ！ワイヤーアート」（日文5・6上）、

「見つけて！ワイヤードリーム」（開隆5・6上）から 2回目 完成させ、木の台に取り付ける。

第10回 「でこぼこの絵」（日文5・6上）から 1回目

板を思いのまま自由に切って、並べたり、重ねたりして、抽象半立体作品をつくる。教科書では糸鋸で板を切ってつくるが、本授業ではカッターナイフでスチレンボードを切ってボンドで貼り付けてつくる。

第11回 「でこぼこの絵」（日文5・6上）から 2回目 完成させ、台紙に取り付ける。

第12回 「ダンボールで、試して、つくって」（開隆5・6上）から 1回目

ダンボールを切ったり、曲げたり、剥がしたり、いろいろ試して、そこから思いついたものをつくる。抽象作品でも具象作品でもよい。

第13回 「ダンボールで、試して、つくって」（開隆5・6上）から 2回目 完成させる

第14回・15回の授業では、日本や西洋美術史から小学校教科書に掲載されている名画を取り上げ、絵画鑑賞の基礎的な知識や見方を身に付ける。

第14回 鑑賞①「日本美術の特質をつかむ～水墨画、屏風絵、浮世絵の世界～」

第15回 鑑賞②「西洋古典絵画（宗教画など）の鑑賞～西洋文化の基礎理解～」

※定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

次回の内容に沿って、あらかじめ準備物を用意したり、資料を収集したり、アイデアスケッチを描いてきたりすることが必要である。（1時間以上）

また、授業終了までに仕上がらなかった場合は、次週の同授業日までに授業時間外で制作し、仕上げて提出すること。（相当する時間）

【成績の評価】

課題作品（技能、創意工夫）60%、授業態度（制作態度、発表、準備物など）40%
課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

令和2年～5年使用 小学校図画工作科 教科用図書
「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）

科目名： <TISE16>図画工作Ⅱ－Ⅰ【発A】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が独創的で積極的に創造活動を行うことができるものである。創作へのイメージや構想は多くの人がもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。「ペーパーカッティング」、「植物を表現する」、「平面構成」、「切り絵」の作品を制作し、造形に必要な基礎的知識や美的感覚を養う。教育・保育の実践力を有することによって、子育て支援社会に貢献します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。
なお、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. スケッチの仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
2. 絵画やデザインなどの創造活動によって、美的体験を豊かにすることができる。
3. 造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
4. 観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

第1回	表現力について
第2回	ペーパーカッティング（1）（試作、スケッチ）
第3回	ペーパーカッティング（2）（レイアウト、配色）
第4回	ペーパーカッティング（3）（配色、仕上げ）
第5回	植物を表現する（1）（構図のとり方、スケッチ）
第6回	植物を表現する（2）（着色）
第7回	植物を表現する（3）（着色、仕上げ）
第8回	平面構成（1）（作品鑑賞、アイディアスケッチ）
第9回	平面構成（2）（レイアウト、配色）
第10回	平面構成（3）（配色、仕上げ）
第11回	切り絵（1）（ラフスケッチ、試作、下絵）
第12回	切り絵（2）（細部のカッティング）
第13回	切り絵（3）（細部と大きい部分のカッティング）
第14回	切り絵（4）（カッティング、修正、仕上げ）
第15回	講評、これまでの制作についてのまとめ。
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「ペーパーカッティング」、「植物を表現する」、「平面構成」、「切り絵」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。（1時間）

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80％）、授業態度・意欲・準備物（20％）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児造形の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2018年）
『小学校図画工作の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2020年）

科目名： <TISE16>図画工作Ⅱ－Ⅰ【発B】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が独創的で積極的に創造活動を行うことができるものである。創作へのイメージや構想は多くの人がもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。「ペーパーカッティング」、「植物を表現する」、「平面構成」、「切り絵」の作品を制作し、造形に必要な基礎的知識や美的感覚を養う。教育・保育の実践力を有することによって、子育て支援社会に貢献します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。
なお、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. スケッチの仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
2. 絵画やデザインなどの創造活動によって、美的体験を豊かにすることができる。
3. 造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
4. 観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

- 第1回 表現力について
 - 第2回 ペーパーカッティング（1）（試作、スケッチ）
 - 第3回 ペーパーカッティング（2）（レイアウト、配色）
 - 第4回 ペーパーカッティング（3）（配色、仕上げ）
 - 第5回 植物を表現する（1）（構図のとり方、スケッチ）
 - 第6回 植物を表現する（2）（着色）
 - 第7回 植物を表現する（3）（着色、仕上げ）
 - 第8回 平面構成（1）（作品鑑賞、アイディアスケッチ）
 - 第9回 平面構成（2）（レイアウト、配色）
 - 第10回 平面構成（3）（配色、仕上げ）
 - 第11回 切り絵（1）（ラフスケッチ、試作、下絵）
 - 第12回 切り絵（2）（細部のカッティング）
 - 第13回 切り絵（3）（細部と大きい部分のカッティング）
 - 第14回 切り絵（4）（カッティング、修正、仕上げ）
 - 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「ペーパーカッティング」、「植物を表現する」、「平面構成」、「切り絵」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。（1時間）

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80％）、授業態度・意欲・準備物（20％）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児造形の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2018年）
- 『小学校図画工作の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2020年）

科目名： <TISE17>図画工作Ⅱ－Ⅱ【発A】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が最も独創的で積極的に創造活動を行うことができるものである。創作へのイメージや構想は多くの人がもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。「ペーパークラフト」、「デザイン」、「貼り絵」によって、造形に必要な基礎的能力や美的感覚を養う。教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. スケッチの仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
2. 平面・立体の造形活動によって、美的体験を豊かにすることができる。
3. 造形表現や作品鑑賞によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
4. 観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

第1回	平面・立体の作品鑑賞
第2回	ペーパークラフト（1）（アイディアスケッチ）
第3回	ペーパークラフト（2）（レイアウト、カッティング）
第4回	ペーパークラフト（3）（カッティング、彩色）
第5回	ペーパークラフト（4）（彩色、仕上げ）
第6回	デザイン（1）（アイディアスケッチ）
第7回	デザイン（2）（レイアウト、配色）
第8回	デザイン（3）（配色）
第9回	デザイン（4）（配色、仕上げ）
第10回	貼り絵（1）（アイディアスケッチ、レイアウト）
第11回	貼り絵（2）（配色の構想、色の集合体の作成）
第12回	貼り絵（3）（色の集合体の作成）
第13回	貼り絵（4）（色の集合体の作成・調整）
第14回	貼り絵（5）（色の集合体の調整、仕上げ）
第15回	講評、これまでの制作についてのまとめ。
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「ペーパークラフト」、「デザイン」、「貼り絵」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。（1時間）

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80％）、授業態度・意欲・準備物（20％）
課題は中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児造形の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2018年）
『小学校図画工作の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2020年）

科目名： <TISE17>図画工作Ⅱ－Ⅱ【発B】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が最も独創的で積極的に創造活動を行うことができるものである。創作へのイメージや構想は多くの人がもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。「ペーパークラフト」、「デザイン」、「貼り絵」によって、造形に必要な基礎的能力や美的感覚を養う。教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. スケッチの仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
2. 平面・立体の造形活動によって、美的体験を豊かにすることができる。
3. 造形表現や作品鑑賞によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
4. 観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

第1回	平面・立体の作品鑑賞
第2回	ペーパークラフト（1）（アイディアスケッチ）
第3回	ペーパークラフト（2）（レイアウト、カッティング）
第4回	ペーパークラフト（3）（カッティング、彩色）
第5回	ペーパークラフト（4）（彩色、仕上げ）
第6回	デザイン（1）（アイディアスケッチ）
第7回	デザイン（2）（レイアウト、配色）
第8回	デザイン（3）（配色）
第9回	デザイン（4）（配色、仕上げ）
第10回	貼り絵（1）（アイディアスケッチ、レイアウト）
第11回	貼り絵（2）（配色の構想、色の集合体の作成）
第12回	貼り絵（3）（色の集合体の作成）
第13回	貼り絵（4）（色の集合体の作成・調整）
第14回	貼り絵（5）（色の集合体の調整、仕上げ）
第15回	講評、これまでの制作についてのまとめ。
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「ペーパークラフト」、「デザイン」、「貼り絵」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。（1時間）

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80％）、授業態度・意欲・準備物（20％）
課題は中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児造形の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2018年）
『小学校図画工作の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2020年）

科目名： <TISE18>特別活動論
担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

学校における多様な集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動の総体である特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チームとしての学校」の視点から、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けます。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識や技能の修得を目指します。

また、学習成果『⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している。』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

- ①学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解することができる。
- ②教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解することができる。
- ③学級活動・ホームルーム活動の特質を理解することができる。
- ④児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解することができる。
- ⑤教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解することができる。
- ⑥特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解することができる。
- ⑦合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
- ⑧特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：特別活動の意義・目標・内容と教育課程における位置づけ
 - 第2回：特別活動の歴史的変遷
 - 第3回：特別活動と生徒指導
 - 第4回：特別活動と学級経営
 - 第5回：学級活動の意義・目標・内容
 - 第6回：児童会活動の意義・目標・内容
 - 第7回：クラブ活動の意義・目標・内容
 - 第8回：学校行事の意義・目標・内容
 - 第9回：特別活動の指導の在り方Ⅰ－小学校の事例（学級活動を中心に）－
 - 第10回：特別活動の指導の在り方Ⅱ－小学校の事例（児童会・クラブ活動を中心に）－
 - 第11回：特別活動の指導の在り方Ⅲ－小学校の事例（学校行事を中心に）－
 - 第12回：学級活動の指導の実際（模擬体験）
 - 第13回：児童会活動の指導の実際（模擬体験）
 - 第14回：学校行事の指導の実際（模擬体験）
 - 第15回：これからの特別活動
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと（2時間）。また、授業後振り返りシートによる復習と小レポートの作成（2時間）。

【成績の評価】

小レポート（30%）および学期末の最終レポート（70%）による。
なお、学期末最終レポートの結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配布する。

【参考文献】

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年7月 文部科学省）

科目名： <TISE19>保育原理Ⅱ
担当教員： 湯地 宏樹(YUJI Hiroki)

【授業の紹介】

この授業は、「保育原理Ⅰ」で学んだことをさらに発展させ、保育の意義及び目的、保育の理論と実践を関連付け、自らの実習体験を振り返りながら、真の保育とは何かを追及します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

この授業科目は、「子どもの知性の発達を促す科目」に位置付き、保育士資格取得のための選択必修科目、および、社会福祉主事任用資格取得のための選択必修科目となっています。原則として、「保育原理Ⅰ」の単位が認定されている学生を受講対象としています。

【到達目標】

1. 保育所保育指針の内容を保育実践に関連付けて理解できる。
2. 自らの子ども観・保育観を表現することができる。
3. 子ども理解と保育の過程について省察することができる。

【授業計画】

第1回	子ども観と子ども像
第2回	子どもの文化と児童文化
第3回	子どもの遊びの昔と今
第4回	環境を通して行う保育
第5回	養護と教育の一体性
第6回	育みたい資質・能力の一体性
第7回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
第8回	環境構成と教材研究
第9回	環境構成と保育者の役割
第10回	全体的な計画
第11回	カリキュラム・マネジメント
第12回	行事
第13回	保幼小の連携・接続
第14回	諸外国の保育カリキュラム
第15回	学び続ける保育者

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- ・保育所保育指針やテキストを読んで、予習・復習すること（1.5時間）。
- ・授業の中の保育実践ビデオ等に関して省察し、記録すること（1.5時間）。
- ・保育の理念や全体的な計画を踏まえた理想の園のプレゼンテーションを作成すること（計15時間）。

【成績の評価】

保育の内容の理解度を確認するための小テスト（30%）、理想の園に関するプレゼンテーション（40%）、毎回の課題（30%）及び授業への参加状況等を踏まえて総合的に評価する。小テスト・レポート・学修ノートは採点やコメントを付けてフィードバックします。

【使用テキスト】

- ・『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館、2018年）

【参考文献】

- ・適宜、資料を配布します。

科目名： <TISE20>家庭
担当教員： 大西 えい子(OONISHI Eiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある担当教員が小学校での家庭科指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら行います。

家庭科は家庭生活を中心にした生活を学習対象として、体験的・実践的に学習し、ひとりひとりがよりよく生きることを目標としている教科である。指導する教員は生活者としての視点と生活実践力を持つことが必要とされる。

この授業では、小学校家庭科の学習内容に関する演習や実習などの実践的・体験的な活動を中心として、小学校で家庭科の授業を行うために必要な家庭科の学習内容についての知識と基礎的な技能を習得し、生活実践力の獲得に繋げる。また、そのような活動を通じて生活者としての視点を養い、小学校家庭科の教材についての認識を深め、教材研究をする力を培う。

被服製作実習では裁縫道具及び布地などの資材，調理実習では白衣またはエプロン，三角巾，マスク，布巾などの準備が必要である。また，共通で使用するものの材料費として受講生全員から実習費を徴収する。

この授業を受講する学生は必ず第1回目の授業に参加すること。なお、設備の都合で受講人数を制限することがある。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

- 1.生活者としての視点を持ち、生活実践力を身につけようと継続的に学ぼうとする態度を身につけることができる。
- 2.小学校の家庭科の授業を行うために必要な知識や基礎的な技能を習得することができる。
- 3.小学校の家庭科の学習内容を把握した上で教材研究ができる。

【授業計画】

この授業では、連絡事項の伝達や課題の提示等にGoogle Classroom を使用します。受講する学生は、以下の方法でクラスに参加してください。

1. インターネットに接続されたパソコン、タブレット、スマートフォンなどのICT機器を準備する。
2. インターネットブラウザを起動する。(Chrome推奨)
3. GoogleのWEBページを表示する。(https://www.google.co.jp/)
4. 学生用Gmailアドレス(u○○○○○○○○@stg.takamatsu-u.ac.jp)でGoogleにログインする。
*高松大学のメールアドレス(@stg.takamatsu-u.ac.jp)以外のGmailアドレスでは、Classroomへの参加はできませんが、資料の閲覧や課題の提出等が正常にできません。必ず高松大学のメールアドレスでログインして、Google Classroomを経由して課題を提出するなどしてください。
5. Classroomを表示し、「+」マークをクリックして「クラスに参加」を選択し、クラスコードを入力します。

この授業のクラスコードは第1回目の授業内でお知らせします。

第1回	ガイダンス(授業のねらいと進め方について)	
第2回	「A家族・家庭生活」 自立とは	
第3回	「A家族・家庭生活」 家族・生活時間について	
第4回	「B衣食住の生活」 「C消費生活・環境」 エコ掃除について	指編みのエコたわしの製作
第5回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	被服製作の基礎知識
第6回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	手縫いの基礎とボタンつけ
第7回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	手縫い教材 あずま袋の製作①半返し縫い、本返し縫い
第8回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	手縫い教材 あずま袋の製作②仕上げ、ワッペン作り
第9回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	ミシン縫いの基礎
第10回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	ミシン縫い教材 エコバッグの製作①脇縫い
第11回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	ミシン縫い教材 エコバッグの製作②ひもつけ、仕上げ
第12回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	「生活を豊かにするための布を用いた製作」 型紙の作成、裁断
・しるしつけ		
第13回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	「生活を豊かにするための布を用いた製作」 本縫い①ワッペン
作り		
第14回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	「生活を豊かにするための布を用いた製作」 本縫い②脇縫い
第15回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	「生活を豊かにするための布を用いた製作」 本縫い③あき口の
始末		
第16回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	「生活を豊かにするための布を用いた製作」 本縫い④入れ口の
始末		
第17回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	「生活を豊かにするための布を用いた製作」 本縫い⑤まち作り
第18回	「B衣食住の生活」 衣生活分野	「生活を豊かにするための布を用いた製作」 本縫い⑥ひも通し
、仕上げ		
第19回	「B衣食住の生活」 食生活分野	毎日何を食べていますか？自分の食生活を把握しよう
第20回	「B衣食住の生活」 食生活分野	何をどう食べるのか
第21回	「B衣食住の生活」 食生活分野	調理の基礎
第22回	「B衣食住の生活」 食生活分野	鍋でご飯を炊いてみよう
第23回	「B衣食住の生活」 食生活分野	茹でる料理について
第24回	「B衣食住の生活」 食生活分野	茹でる料理の調理と評価
第25回	「B衣食住の生活」 食生活分野	味噌汁について
第26回	「B衣食住の生活」 住生活分野	味噌汁の調理と評価
第27回	「B衣食住の生活」 食生活分野	炒める料理について
第28回	「B衣食住の生活」 食生活分野	炒める料理の調理と評価
第29回	教材研究のプレゼンテーション	
第30回	これまでの講義の要点の確認と質疑応答	
	定期試験は実施しない	

なお、授業計画は状況により変更することもあります。

【授業時間外の学習】

授業の予習、復習には1回の授業につきそれぞれ30分以上の時間を費やすことが必要である。予習として、次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気づいたこと等をまとめておくこと(30分)。復習として、授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに調べたことなどを記入しておくこと(30分)。

被服製作実習の授業に関しては、授業までに必要な道具や資材などを準備し、「被服製作実習計画表」等に必要事項を記入し、授業での作業内容を確認しておくこと(30分)。授業後は学習した技能の習得のため、繰り返し練習することを課す(30分)。練習で製作したものは授業での製作物とともに提出すること。なお、授業での製作物の製作は授業でのみ行うこととする。

調理実習の授業に関しては、授業までに食材を準備することに加え、必要な食材の分量、調理の手順、使用する道具、経費を「実習の記録」プリントに記入しておくこと(30分)。調理技能の習得のため、授業外でも調理し、画像とともに記録し(30分)提出すること。

家庭科の指導においては、まず教師自身が基礎的・基本的な知識と技能を習得し、生活面で自立していることが必要とされる。授業の予習、復習だけでなく、各自が日々の生活を科学的な視点から改めて見直し、気づいたことを追求し、技能的なことは繰り返し実践し、主体的に生活することを心がけることが必要である。

【成績の評価】

授業態度及び意欲（10%）、予習復習の課題（20%）、提出物の提出状況や提出内容（50%）、教材研究のプレゼンテーション（20%）。提出物は期限後は受け取らない。また、提出物の未提出、本人からの事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とする。15分以上の遅刻、または遅刻3回で欠席1回とみなす。被服製作及び調理実習については準備なしでの授業への参加は認めない。被服製作実習での製作物の提出及び調理実習の授業への参加は必須である。
レポート等の課題については授業時間内またはオフィスアワーに解説する。

【使用テキスト】

「小学校学習指導要領解説 家庭編」、文部科学省、東洋館出版社、2017年
「わたしたちの家庭科5・6」、開隆堂、2020年

【参考文献】

「人生の答えは家庭科に聞け！」堀内かおる、南野忠晴共著、岩波書店、2016
「シワセなお金の使い方」南野忠晴著、岩波書店、2015
「僕が家庭科教師になったわけ：詰まるところの「生きる力」」小平陽一著、太郎次郎社エディタス、2016
「人生で大切なことはすべて家庭科で学べる：ふくしまの男性教員による授業」末松孝治著、文芸社、2014
「正しいパンツのたたみ方：新しい家庭科勉強法」南野忠治著、岩波書店、2011
その他関連する参考文献については講義の中で適宜説明する。

科目名： <TISE21> 保育内容－総合
担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。幼稚園・小学校・行政機関での経験を活かし、それぞれの立場からの具体的事例を示しながら授業を行います。

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の3つが改定され、全ての施設において、これまで以上に質の高い教育・保育が求められています。そのため、保育者は深い子ども理解に基づいた保育の構想力や実践力を身に付けておく必要があります。

本授業では、特に具体的な子どもの姿と関連づけながら、領域別に学んだ保育内容を総合的にとらえていく見方や考え方を学びます。また、指導計画作成の実際や、保育の現状や課題についての考察などを通して、実態に応じてカリキュラム・マネジメントできる豊かな保育実践的能力を培っていきます。

なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領等 に示された乳幼児教育・保育の指導の考え方を理解することができる。
2. 乳幼児の発達や学びの過程を見通した指導計画を作成し、子ども理解に根ざした保育を構想する力を身に付けることができる。
3. 保育の現状と課題についての情報交換と考察を通して、保育者の資質向上に向けて継続的に学ぶ意欲を高めることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション・保育の基本とその内容
第2回	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育・保育の内容の考え方と改定の趣旨
第3回	保育内容の変遷
第4回	遊びを通した総合的な指導（子どもにとっての遊びの意味をグループワークで考える）
第5回	子ども理解に基づく保育の展開
第6回	保育内容の現状と課題
第7回	指導計画作成の実際（手順や配慮事項）
第8回	指導計画の評価・改善と保育者の役割
第9回	幼児教育と小学校教育との接続（スタートカリキュラム）
第10回	幼児教育と小学校教育との接続（アプローチカリキュラム）
第11回	園行事の考え方と指導
第12回	保育内容の現状と課題（現代の子どもの生活と発達）
第13回	保育内容の現状と課題（障害のある子どもの指導）
第14回	保育実践の動向と課題
第15回	課題の考察と保育者の資質向上
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習

- ・予習として、その前の授業で指定する範囲のテキストを事前に読み、新しく知ったことや疑問等をまとめておく。（計5時間）
- ・授業の最後に課す課題をミニレポートとして提出する。（5時間）
- ・「保育内容の現状と課題」については、全員発表の場を設けるので、日常から情報収集に努めるとともに、課題をまとめておく。（計5時間）

【成績の評価】

成績の評価

関心・態度（10%）ワークシート等への記入内容や課題の提出（50%）定期試験（40%）

ミニレポートは添削して返し、参考となるレポートを紹介したり、次時の授業で活用したりする。

「保育の現状と課題」についての発表では、教員からの講評を受けることでフィードバックを行う。

15分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

T・平成29年告示の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
(フレーベル館)

・ 神長美津子・津金美智子・田代幸代編著「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育内容総論』」
(光生館2018年3月)

【参考文献】

文部科学省「幼稚園教育要領」解説（フレーベル館 平成30年3月）
倉橋惣三著「幼稚園真諦」・「育ての心」（フレーベル館 1976年）

科目名： <TISE22>総合的な学習の時間の指導法

担当教員： 野村 一夫(NOMURA Kazuo)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて学校の実情に即した指導の在り方を追究します。

授業では、総合的な学習の時間のカリキュラム上の位置付けや「時間」の在り方など、その趣旨やねらいを理解し、小学校学習指導要領に示された目標、内容及び内容の取扱い等を踏まえ、授業設計や指導法、評価等についての基礎的な理解と実践力の育成を図り、小学校教員としての資質・能力の基礎を培うことを目指します。具体的には、地域や学校の実情に応じた全体計画や年間指導計画、単元計画等の作成を通じ、学習指導や評価、環境整備、外部との連携などの在り方について協議し、理解を深めます。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」の修得をめざします。また、学修成果『⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

Google Classroom クラスコード：tpyewdm

【到達目標】

総合的な学習の時間に係る基礎的な指導理論を理解し、地域や学校の実情を踏まえた授業設計ができる。

- 1) 総合的な学習の時間創設の経緯を知り、カリキュラム論に基づく位置付けを説明することができる。
- 2) 総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校や地域の実情に応じた指導計画を作成することができる。
- 3) 探究的な学習過程における指導の在り方を説明することができる。
- 4) 総合的な学習の時間の評価の在り方を述べるができる。
- 5) 総合的な学習の時間に係る指導体制や環境整備、地域との連携・協働などの在り方について述べるができる。

【授業計画】

<<各回の資料配布・課題提出>>Google Classroom

- 第1回 オリエンテーション（総合的な学習の時間のイメージ）
- 第2回 総合的な学習の時間の経緯と背景
- 第3回 総合的な学習の時間の教育課程上の位置付けとカリキュラム論
- 第4回 学習指導要領における目標、内容及び内容の取扱い
- 第5回 総合的な学習の時間で育成することを目指す資質・能力
- 第6回 総合的な学習の時間における三つの課題
- 第7回 各学校において目標及び内容等を定める際の留意事項
- 第8回 総合的な学習の時間の全体計画の作成
- 第9回 総合的な学習の時間の年間指導計画の作成
- 第10回 総合的な学習の時間の単元計画の作成
- 第11回 探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」の視点
- 第12回 探究的な学習の指導のポイント
- 第13回 総合的な学習の時間の評価の在り方
- 第14回 総合的な学習の時間の指導体制と時間の弾力的運用の在り方
- 第15回 総合的な学習の時間に係る環境整備と地域との連携・協働の在り方

定期試験

【授業時間外の学習】

- 1) 現代的な諸課題(①国際理解、②情報、③環境、④福祉、⑤健康、⑥資源エネルギー、⑦住民の安全、⑧食、⑨科学技術の発展)について、課題の背景や現状、内容などを整理し、横断的・総合的な学習の成果「私の考える探究課題〇〇について」を作成すること。(30時間)
- 2) 事後学修として、学修内容を振り返り、リフレクションペーパー作成すること。(毎2時間)

【成績の評価】

学修内容の理解はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。

現代的な諸課題に係る「私の考える探究課題(12課題)」の提出(40%)、リフレクションペーパーの提出(10%)、期末定期試験(50%)とします。

リフレクションペーパーについては、返却時にコメントします。

期末定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 平成30年 文部科学省

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 総合的な学習の時間 令和2年

国立教育政策研究所教育課程センター

【参考文献】
随時紹介する。

科目名： <TISE23>造形表現Ⅰ【発A】
担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

造形表現は、「もの」との関わりによって感性・表現力・創造力を豊かにします。そして、集団の場での造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得することで、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。学修成果としては、『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

また、保育士資格取得、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目でもあります。

【到達目標】

1. 造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
2. 造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
3. ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
4. 子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【授業計画】

第1回	授業の内容と進め方の説明、クレヨンを使った抽象表現
第2回	技法のいろいろ(1)「ドリップング」「マーブリング」
第3回	技法のいろいろ(2)「スパッターリング」「ぼかし」「ウォッシング」
第4回	技法のいろいろ(3)「フロッターージュ」「スクラッチボード」「デカルコマニー」
第5回	四コマ漫画 起承転結を用いたストーリーのアイデア展開
第6回	四コマ漫画 ペンによる描画
第7回	四コマ漫画 発表
第8回	折り紙1 カブトムシ、プチトマト、サンマ、キリン、ぞう
第9回	折り紙2 リス、てぶくろ、かみとんぼ、折り紙小テスト
第10回	染紙 和紙・インクを使った染紙
第11回	ドリームキャッチャー ドリームキャッチャーの土台製作
第12回	ドリームキャッチャー 紙、毛糸などを使った装飾
第13回	紙粘土工作 紙粘土を使った成型
第14回	紙粘土工作 着彩
第15回	講評、これまでの製作についてのまとめ
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

前もって出された課題に対して、資料収集やアイデアスケッチなどをして、指定された日に提出できるように常に製作準備を整えておくようにしてください。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

山口真 著『決定版 日本のおりがみ12か月』(ナツメ社)

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(槇英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE23>造形表現Ⅰ【発B】
担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

造形表現は、「もの」との関わりによって感性・表現力・創造力を豊かにします。そして、集団の場で造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得することで、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。学修成果としては、『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

また、保育士資格取得、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目でもあります。

【到達目標】

1. 造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
2. 造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
3. ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
4. 子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【授業計画】

第1回	授業の内容と進め方の説明、クレヨンを使った抽象表現
第2回	技法のいろいろ(1)「ドリッピング」「マブリング」
第3回	技法のいろいろ(2)「スパッタリング」「ぼかし」「ウォッシング」
第4回	技法のいろいろ(3)「フロッタージュ」「スクラッチボード」「デカルコマニー」
第5回	四コマ漫画 起承転結を用いたストーリーのアイデア展開
第6回	四コマ漫画 ペンによる描画
第7回	四コマ漫画 発表
第8回	折り紙1 カブトムシ、プチトマト、サンマ、キリン、ぞう
第9回	折り紙2 リス、てぶくろ、かみとんぼ、折り紙小テスト
第10回	染紙 和紙・インクを使った染紙
第11回	ドリームキャッチャー ドリームキャッチャーの土台製作
第12回	ドリームキャッチャー 紙、毛糸などを使った装飾
第13回	紙粘土工作 紙粘土を使った成型
第14回	紙粘土工作 着彩
第15回	講評、これまでの製作についてのまとめ 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

前もって出された課題に対して、資料収集やアイデアスケッチなどをして、指定された日に提出できるように常に製作準備を整えておくようにしてください。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

山口真 著『決定版 日本のおりがみ12か月』(ナツメ社)

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(槇英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE24>造形表現Ⅱ【発A】
担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

本授業科目は、造形表現に関する授業です。描画材料（水彩絵具、クレパス、マーカー等）の組成、様々な粘土や紙の特性などの子どもの造形表現に関わる専門的知識や思考力を学習しながら、基本的な描法や造形、ハサミやカッターナイフなどの道具の基本的な使い方など技能を学習します。また、子どもの成長や発達段階に応じた教材、カリキュラム、材料、用具、場所や空間などの環境を工夫する力を身につけます。さらに子どもたちならではの造形表現を理解し、正しく援助する力を身につけます。

本授業科目は発達科学部子ども発達学科の選択科目です。また、幼稚園教諭一種免許状取得するための必修科目です。

本授業科目は卒業認定・学位授与の方針のなかでも、特に「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」の育成に関わっています。具体的な学修成果としては、『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

本授業科目では、授業前後の課題や資料等を配信・提出するにあたりGoogle Classroomを使用します。

【到達目標】

1. 保育に関する専門的な知識を習得しながら、子どもたちの造形表現活動に結びつけることができる。
2. 造形表現の基礎的な知識と技能を身につけ、素材を活かした表現や、発展させる造形力を身につけることができる。
3. 子どもたちの成長や実態に応じて、題材設定やねらいを明確にもちながら準備やプロセスを計画し、評価することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、造形表現とは、学習の仕方 折り紙の基本的な折り方 立体ハートの製作
>>> ※Google Classroomへの参加 クラスコード「cnycplh」

第2回 彩色による壁面構成①

>>> 指定された月から行事を考え、アイデアを練る。参考作品紹介。アイデアが決定したら、構図を考える。

第3回 彩色による壁面構成②

>>> 色彩計画。ケント紙に下書きし、彩色する。

第4回 彩色による壁面構成③

>>> 色彩調整は隣同士だけでなく、作品全体を考慮して色を選択する。

第5回 彩色による壁面構成④

>>> 細部まで描き込んで、完成する。作品講評会。

第6回 牛乳パックによるパクパク人形①

>>> 絵本の中から人形にするキャラクターを選ぶ。キャラクターをアイデア用紙に書き込む。

第7回 牛乳パックによるパクパク人形②

>>> 牛乳パックに下書きし、切る。カラードフォルムなどで部位を作り、貼っていく。

第8回 牛乳パックによるパクパク人形③

>>> 細部まで作り、完成させる。作品講評会。

第9回 学外授業① 高松市美術館特別展鑑賞

>>> 新型コロナ感染症対策と鑑賞時のマナーの徹底。学習シート記入。

第10回 学外授業② 高松市美術館特別展鑑賞

>>> 学習シートの完成、提出。

第11回 カラーセロファンを使ったステンドグラス①

>>> カラーセロファンの特性を知る。黒色の折り紙で様々な分割を試みる。

第12回 カラーセロファンを使ったステンドグラス②

>>> 貼り込みは両面テープを使い、全体の色彩を考慮しながら製作する。

第13回 カラーセロファンを使ったステンドグラス③

>>> 細部まで貼り込み完成する。作品講評会。

第14回 折り紙の製作①

>>> 指定された折り紙9点（ペンギン、バッタ、キリン、ライオン）等を練習する。

第15回 折り紙の製作②

>>> 指定された折り紙9点（リス、たまごやき、りったいのほし、サンタクロース）等を、テキストを見ないで折る。

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

美術館や博物館などに出かけ美術作品を鑑賞したり、画集を見たりして美的感受性を養う。（毎時1時間）

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況を60%、折り紙小テスト10%、学外授業レポート10%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品の全体的な傾向や作品個々の良い点をあげることでフィードバックする。

【使用テキスト】

山口 真著『決定版！日本のおりがみ12か月』（ナツメ社 2016年） ISBN 978-4-8163-6004-6

保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）

【参考文献】

随時紹介する。

科目名： <TISE24>造形表現Ⅱ【発B】
担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

本授業科目は、造形表現に関する授業です。描画材料（水彩絵具、クレパス、マーカー等）の組成、様々な粘土や紙の特性などの子どもの造形表現に関わる専門的知識や思考力を学習しながら、基本的な描法や造形、ハサミやカッターナイフなどの道具の基本的な使い方など技能を学習します。また、子どもの成長や発達段階に応じた教材、カリキュラム、材料、用具、場所や空間などの環境を工夫する力を身につけます。さらに子どもたちならではの造形表現を理解し、正しく援助する力を身につけます。

本授業科目は発達科学部子ども発達学科の選択科目です。また、幼稚園教諭一種免許状取得するための必修科目です。

本授業科目は卒業認定・学位授与の方針のなかでも、特に「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」の育成に関わっています。具体的な学修成果としては、『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

本授業科目では、授業前後の課題や資料等を配信・提出するにあたりGoogle Classroomを使用します。

【到達目標】

1. 保育に関する専門的な知識を習得しながら、子どもたちの造形表現活動に結びつけることができる。
2. 造形表現の基礎的な知識と技能を身につけ、素材を活かした表現や、発展させる造形力を身につけることができる。
3. 子どもたちの成長や実態に応じて、題材設定やねらいを明確にもちながら準備やプロセスを計画し、評価することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、造形表現とは、学習の仕方 折り紙の基本的な折り方 立体ハートの製作
>>> ※Google Classroomへの参加 クラスコード「cnycplh」

第2回 彩色による壁面構成①

>>> 指定された月から行事を考え、アイデアを練る。参考作品紹介。アイデアが決定したら、構図を考える。

第3回 彩色による壁面構成②

>>> 色彩計画。ケント紙に下書きし、彩色する。

第4回 彩色による壁面構成③

>>> 色彩調整は隣同士だけでなく、作品全体を考慮して色を選択する。

第5回 彩色による壁面構成④

>>> 細部まで描き込んで、完成する。作品講評会。

第6回 牛乳パックによるパクパク人形①

>>> 絵本の中から人形にするキャラクターを選ぶ。キャラクターをアイデア用紙に書き込む。

第7回 牛乳パックによるパクパク人形②

>>> 牛乳パックに下書きし、切る。カラードフォルムなどで部位を作り、貼っていく。

第8回 牛乳パックによるパクパク人形③

>>> 細部まで作り、完成させる。作品講評会。

第9回 学外授業① 高松市美術館特別展鑑賞

>>> 新型コロナ感染症対策と鑑賞時のマナーの徹底。学習シート記入。

第10回 学外授業② 高松市美術館特別展鑑賞

>>> 学習シートの完成、提出。

第11回 カラーセロファンを使ったステンドグラス①

>>> カラーセロファンの特性を知る。黒色の折り紙で様々な分割を試みる。

第12回 カラーセロファンを使ったステンドグラス②

>>> 貼り込みは両面テープを使い、全体の色彩を考慮しながら製作する。

第13回 カラーセロファンを使ったステンドグラス③

>>> 細部まで貼り込み完成する。作品講評会。

第14回 折り紙の製作①

>>> 指定された折り紙9点（ペンギン、バッタ、キリン、ライオン）等を練習する。

第15回 折り紙の製作②

>>> 指定された折り紙9点（リス、たまごやき、りったいのほし、サンタクロース）等を、テキストを見ないで折る。

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

美術館や博物館などに出かけ美術作品を鑑賞したり、画集を見たりして美的感受性を養う。（毎時1時間）

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況を60%、折り紙小テスト10%、学外授業レポート10%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品の全体的な傾向や作品個々の良い点をあげることでフィードバックする。

【使用テキスト】

山口 真著『決定版！日本のおりがみ12か月』（ナツメ社 2016年） ISBN 978-4-8163-6004-6

保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）

【参考文献】

随時紹介する。

科目名： <TISE2>子どもと言葉【発A】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

言葉の獲得は乳幼児期の発達課題として重要なものである。子どもの言葉の育ちを支えるための必要な言語環境の重要性について学び、教育・保育の実践と関連づけて理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことをめざします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、言語発達に沿った保育・教育の在り方を模索することができる。
2. 言葉に関して理論的背景に裏打ちされた保育指導場面を構想することができる。

【授業計画】

- 第1回 保育内容としての言葉の独自性と5領域
 - 第2回 保育内容としての言葉のねらい（保育指針に照らして）
 - 第3回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション（1）エンタテインメント
 - 第4回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション（2）マザリース
 - 第5回 言葉の先駆的行動（共同注意、ポインティング、三項関係）
 - 第6回 言葉環境（1）人的環境
 - 第7回 言葉環境（2）子どもの生活と言葉
 - 第8回 言葉環境（3）言葉と発達の連関
 - 第9回 言葉と幼児理解
 - 第10回 言葉と思考（1）ルリアの理論
 - 第11回 言葉と思考（2）言語調整機能
 - 第12回 保育者の役割と援助
 - 第13回 障がい児とのかかわり（1）学習困難
 - 第14回 障がい児とのかかわり（2）自閉症
 - 第15回 障がい児とのかかわり（3）注意欠陥多動性障害
- 定期試験

【授業時間外の学習】

本授業とは別開講されている「観察参加」で記録した直近の言語的エピソードを毎回整理しておくこと。（1時間）

【成績の評価】

レポート（10%）、定期試験（80%）、授業への参加度（10%）
課題（試験やレポートなど）に対して、研究室で個人的にフィードバックする。

【使用テキスト】

徳安 敦、堀 科編『生活事例からはじめる－保育内容－言葉』（青鞥社 2016 1900円）

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <TISE2>子どもと言葉【発B】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

言葉の獲得は乳幼児期の発達課題として重要なものである。子どもの言葉の育ちを支えるための必要な言語環境の重要性について学び、教育・保育の実践と関連づけて理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことをめざします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、言語発達に沿った保育・教育の在り方を模索することができる。
2. 言葉に関して理論的背景に裏打ちされた保育指導場面を構想することができる。

【授業計画】

- 第1回 保育内容としての言葉の独自性と5領域
 - 第2回 保育内容としての言葉のねらい（保育指針に照らして）
 - 第3回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション（1）エンタテインメント
 - 第4回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション（2）マザリース
 - 第5回 言葉の先駆的行動（共同注意、ポインティング、三項関係）
 - 第6回 言葉環境（1）人的環境
 - 第7回 言葉環境（2）子どもの生活と言葉
 - 第8回 言葉環境（3）言葉と発達の連関
 - 第9回 言葉と幼児理解
 - 第10回 言葉と思考（1）ルリアの理論
 - 第11回 言葉と思考（2）言語調整機能
 - 第12回 保育者の役割と援助
 - 第13回 障がい児とのかかわり（1）学習困難
 - 第14回 障がい児とのかかわり（2）自閉症
 - 第15回 障がい児とのかかわり（3）注意欠陥多動性障害
- 定期試験

【授業時間外の学習】

本授業とは別に開講されている「観察参加」で記録した直近の言語的エピソードを毎回整理しておくこと。（1時間）

【成績の評価】

レポート（10%）、定期試験（80%）、授業への参加度（10%）
課題（試験やレポートなど）に対して、研究室で個人的にフィードバックする。

【使用テキスト】

徳安 敦、堀 科編『生活事例からはじめる－保育内容－言葉』（青鞥社 2016 1900円）

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <T0KU1>社会的養護Ⅰ
担当教員： 久利 文代(KURI Fumiyo)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。社会福祉の現場での児童福祉司、精神保健福祉士の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

近年多様かつ複雑な家庭環境の増加により家庭の子育ての潜在力が小さくなり、社会的養護を必要とする子どもが増加しています。

本講義では、社会的養護を要する子どもの現状と課題及び施設養護の現状について学び、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解します。そして、児童福祉施設の援助者としての基礎知識、技術、倫理観、特に「思考力・判断力」や「保育実践力」を習得します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。』『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

- ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本原則を理解し、内容を説明できる。
- ・施設養護や家庭養護に関する基本的な知識を身につけ、必要な用語について説明できるとともに虐待を受けた子どもの言動の特徴を学び援助の方法や関係機関との連携の在り方を理解することができる。
- ・社会的養護の現状と課題について考えを述べることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 社会的養護の歴史の変遷
 - 第3回 児童の権利擁護と社会的養護
 - 第4回 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
 - 第5回 施設養護における養育
 - 第6回 児童相談所の役割と連携
 - 第7回 家庭からの保護
 - 第8回 虐待された子どもの理解と対応Ⅰ（児童虐待について）
 - 第9回 虐待された子どもの理解と対応Ⅱ（虐待された子どもの理解と対応）
 - 第10回 社会的養護の制度と実施体系
 - 第11回 児童福祉施設援助者の資質
 - 第12回 施設養護の現状（乳児院・児童養護施設）
 - 第13回 施設養護の現状（児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児入所施設）
 - 第14回 家庭養護の実践
 - 第15回 社会的養護の現状と課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

次の授業内容を確認し専門用語等2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習を求めます。

【成績の評価】

- ・レポート30%（期間中2回実施し、次回授業時添削して返却します）
- ・筆記試験70%（模範解答は教務課に掲示します）によって評価します。

【使用テキスト】

児童の福祉を支える社会的養護<第3版> 吉田真里編著 萌林書林 2,160円 2019年

【参考文献】

なし

科目名： <TOKU2>社会的養護Ⅱ【発A】

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

この授業は実務経験(障害児者支援施設、児童自立支援施設、児童相談所、発達障害者支援センター、心身障害児就学指導委員など)のある教員による授業科目です。相談や施設経験を活かし、具体例を示しながら授業を行います。

現代では、子どもの健全な生存・成長を担うには、家庭だけでは十分にその機能が果たせないために、多くの子どもに社会的養護が必要になってきています。施設養護や家庭養護において、どのような支援がおこなわれているかを学び、子どもの虐待防止や家庭支援、相談援助等に必要な方法・技術の習得を目指します。さらに、支援計画・記録・評価の実際について理解し、事例検討を通して福祉に関わる「思考力・判断力」「多様な専門家との協力・協働」等を身に付けることを目指します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関わっています。

なお、学修成果『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

この授業科目は、保育士資格取得のための必修科目です。

【到達目標】

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(児童福祉施設の体系と概要)
- 第2回 子どもの最善の利益と権利擁護
- 第3回 社会的養護における保育士の専門性
- 第4回 家庭で生活できない子ども①
～入所施設各論「乳児院」～
- 第5回 家庭で生活できない子ども②
～入所施設各論「児童養護施設」～
- 第6回 家庭で生活できない子ども③
～入所施設各論「医療型障害児入所施設」～
- 第7回 家庭で生活できない子ども④
～児童自立支援施設・児童心理治療施設～
- 第8回 里親制度の特徴とその実際
- 第9回 虐待された子どもへの支援
- 第10回 養護の具体的内容・方法①
～入所中の支援「親子関係の調整」～
- 第11回 養護の具体的内容・方法②
～入所中の支援「地域・学校との関係づくり」～
- 第12回 養護の具体的内容・方法③
～入所中の支援「自立への支援」～
- 第13回 社会的養護にかかわる相談援助の技術と活用
- 第14回 入所後から退所後に至る支援
- 第15回 社会的養護の課題と展望～地域連携
定期試験

【授業時間外の学習】

児童福祉施設ごとに、配布されたプリントやノートを使って授業内容の整理をし、施設の特徴等について記録しておくこと。また、期間中に各施設の関連事例について、10回程度のショートレポートを課す。(計15時間)

【成績の評価】

期末テスト(50%)、ショートレポート(50%)

ショートレポートについては、次の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ったレジュメやスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 『保育士を目指す人の社会的養護内容』（辰巳隆・岡本真幸編、みらい 2011年）
- 『社会的養護内容』（福永博文編著、北大路書房、2013年）
- 『社会的養護Ⅱ』（吉田真理編著、萌文書林 2019年）
- 『子どもの発達・アセスメントと養育・支援プラン』（犬塚峰子編、明石書店 2013年）
- 『社会的養護Ⅱ』（相沢仁・村井美紀・大竹智編、中央法規、2019年）
- 『社会的養護Ⅱ』（杉山宗尚・原田田句編著、萌文書林、2021年）

科目名： <TOKU2>社会的養護Ⅱ【発B】

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

この授業は実務経験(障害児者支援施設、児童自立支援施設、児童相談所、発達障害者支援センター、心身障害児就学指導委員など)のある教員による授業科目です。相談や施設経験を活かし、具体例を示しながら授業を行います。

現代では、子どもの健全な生存・成長を担うには、家庭だけでは十分にその機能が果たせないために、多くの子どもに社会的養護が必要になってきています。施設養護や家庭養護において、どのような支援がおこなわれているかを学び、子どもの虐待防止や家庭支援、相談援助等に必要な方法・技術の習得を目指します。さらに、支援計画・記録・評価の実際について理解し、事例検討を通して福祉に関わる「思考力・判断力」「多様な専門家との協力・協働」等を身に付けることを目指します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関わっています。

なお、学修成果『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

この授業科目は、保育士資格取得のための必修科目です。

【到達目標】

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(児童福祉施設の体系と概要)
- 第2回 子どもの最善の利益と権利擁護
- 第3回 社会的養護における保育士の専門性
- 第4回 家庭で生活できない子ども①
～入所施設各論「乳児院」～
- 第5回 家庭で生活できない子ども②
～入所施設各論「児童養護施設」～
- 第6回 家庭で生活できない子ども③
～入所施設各論「医療型障害児入所施設」～
- 第7回 家庭で生活できない子ども④
～児童自立支援施設・児童心理治療施設～
- 第8回 里親制度の特徴とその実際
- 第9回 虐待された子どもへの支援
- 第10回 養護の具体的内容・方法①
～入所中の支援「親子関係の調整」～
- 第11回 養護の具体的内容・方法②
～入所中の支援「地域・学校との関係づくり」～
- 第12回 養護の具体的内容・方法③
～入所中の支援「自立への支援」～
- 第13回 社会的養護にかかわる相談援助の技術と活用
- 第14回 入所後から退所後に至る支援
- 第15回 社会的養護の課題と展望～地域連携
定期試験

【授業時間外の学習】

児童福祉施設ごとに、配布されたプリントやノートを使って授業内容の整理をし、施設の特徴等について記録しておくこと。また、期間中に各施設の関連事例について、10回程度のショートレポートを課す。(計15時間)

【成績の評価】

期末テスト(50%)、ショートレポート(50%)

ショートレポートについては、次の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ったレジュメやスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 『保育士を目指す人の社会的養護内容』（辰巳隆・岡本真幸編、みらい 2011年）
- 『社会的養護内容』（福永博文編著、北大路書房、2013年）
- 『社会的養護Ⅱ』（吉田真理編著、萌文書林 2019年）
- 『子どもの発達・アセスメントと養育・支援プラン』（犬塚峰子編、明石書店 2013年）
- 『社会的養護Ⅱ』（相沢仁・村井美紀・大竹智編、中央法規、2019年）
- 『社会的養護Ⅱ』（杉山宗尚・原田田句編著、萌文書林、2021年）

科目名： 社会的養護内容

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

この授業は実務経験(障害児者支援施設、児童自立支援施設、児童相談所、発達障害者支援センター、心身障害児就学指導委員など)のある教員による授業科目です。相談や施設経験を活かし、具体例を示しながら授業を行います。

現代では、子どもの健全な生存・成長を担うには、家庭だけでは十分にその機能が果たせないために、多くの子どもに社会的養護が必要になってきています。施設養護や家庭養護において、どのような支援がおこなわれているかを学び、子どもの虐待防止や家庭支援、相談援助等に必要な方法・技術の習得を目指します。さらに、支援計画・記録・評価の実際について理解し、事例検討を通して福祉に関わる「思考力・判断力」「多様な専門家との協力・協働」等を身に付けることを目指します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関わっています。

なお、学修成果『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

この授業科目は、保育士資格取得のための必修科目です。

【到達目標】

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(児童福祉施設の体系と概要)
- 第2回 子どもの最善の利益と権利擁護
- 第3回 社会的養護における保育士の専門性
- 第4回 家庭で生活できない子ども①
～入所施設各論「乳児院」～
- 第5回 家庭で生活できない子ども②
～入所施設各論「児童養護施設」～
- 第6回 家庭で生活できない子ども③
～入所施設各論「医療型障害児入所施設」～
- 第7回 家庭で生活できない子ども④
～児童自立支援施設・児童心理治療施設～
- 第8回 里親制度の特徴とその実際
- 第9回 虐待された子どもへの支援
- 第10回 養護の具体的内容・方法①
～入所中の支援「親子関係の調整」～
- 第11回 養護の具体的内容・方法②
～入所中の支援「地域・学校との関係づくり」～
- 第12回 養護の具体的内容・方法③
～入所中の支援「自立への支援」～
- 第13回 社会的養護にかかわる相談援助の技術と活用
- 第14回 入所後から退所後に至る支援
- 第15回 社会的養護の課題と展望～地域連携
定期試験

【授業時間外の学習】

児童福祉施設ごとに、配布されたプリントやノートを使って授業内容の整理をし、施設の特徴等について記録しておくこと。また、期間中に各施設の関連事例について、10回程度のショートレポートを課す。(計15時間)

【成績の評価】

期末テスト(50%)、ショートレポート(50%)

ショートレポートについては、次の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ったレジュメやスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 『保育士を目指す人の社会的養護内容』（辰巳隆・岡本真幸編、みらい 2011年）
- 『社会的養護内容』（福永博文編著、北大路書房、2013年）
- 『社会的養護Ⅱ』（吉田真理編著、萌文書林 2019年）
- 『子どもの発達・アセスメントと養育・支援プラン』（犬塚峰子編、明石書店 2013年）
- 『社会的養護Ⅱ』（相沢仁・村井美紀・大竹智編、中央法規、2019年）
- 『社会的養護Ⅱ』（杉山宗尚・原田田句編著、萌文書林、2021年）

科目名： <TOKU3>特別支援教育総論
担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

特別支援学校だけでなく通常の学級に在籍している発達障害をはじめとする様々な障害等によって特別な支援を要する幼児、児童及び生徒の特性や配慮の視点、求められる環境構成について基礎的な知識を獲得する。また、幼児、児童及び生徒が主体的に学習活動に参加し、達成感とともに生きる力を高めることを目指し、個別的教育的ニーズに応じた工夫の仕方、他の教員や関係機関と効果的に連携して組織的対応をするための方法を理解する。本授業によって、インクルーシブ教育システム構築に求められている教育者としての基礎的な力の形成を目指します。

本授業では、ICTを活用して、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」の育成に関わっています。また、学修成果『⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1【特別支援教育の理念や制度、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害特性及び心身の発達について理解することができる】

(1) 特別支援教育に関する制度の理念やインクルーシブ教育システム、「連続した学びの場」の仕組みについて説明できる。

(2) 発達障害や軽度の知的障害などの支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程において生じる困難を例示できる。

(3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含むその他の障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活において生じる困難とそれに対する工夫について基礎的な支援方法を説明できる。

2【特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法など配慮の視点や必要な環境構成を理解することができる】

(1) 発達障害や軽度の知的障害やその他の障害のある幼児、児童及び生徒に対して必要な支援方法や配慮の視点、教材の工夫や環境構成の条件について理解することができる。

(2) 「通級による指導」及び「自立活動」「交流及び協同学習」の学習指導要領及び教育課程上の位置付けを理解しその実践について例示することができる。

(3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画、個別の移行支援計画の位置づけを理解し、作成する計画の活用方法を理解することができる。

(4) 特別支援教育コーディネーターや補助員、関係機関や家庭等と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解し、求められる多機関・多職種連携の課題と特徴を例示することができる。

3【障害はないが特別的教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解することができる】

(1) 母国語や貧困の問題等により配慮を要する教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難、求められる組織的対応や社会的資源の課題について例示することができる。

【授業計画】

第1回：特別支援教育の仕組みと幼稚園等・小学校・中学校・高等学校（中等教育学校）における特別支援教育

第2回：障害のある幼児児童生徒に対する教育①（知的障害・肢体不自由）

第3回：障害のある幼児児童生徒に対する教育②（視覚障害・聴覚障害・言語障害）

第4回：障害のある幼児児童生徒に対する教育③（自閉症スペクトラム障害）

第5回：障害のある幼児児童生徒に対する教育④（ADHD・LD等）

第6回：障害のある幼児児童生徒に対する教育⑤（病弱・情緒障害・その他の障害）

第7回：特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制の構築

第8回：特別支援教育の対象・教育課程の編成及び配慮事項①（自立活動）

第9回：特別支援教育の対象・教育課程の編成及び配慮事項②（通級による指導）

第10回：個別の指導計画・個別的教育支援計画と個別の移行支援計画

第11回：特別なニーズのある子への対応

第12回：保護者支援と家庭との連携

第13回：特別支援教育における関係機関との効果的な多職種連携

第14回：学級運営と障害理解教育

第15回：特別支援教育におけるキャリア教育とインクルーシブ教育

定期試験

【授業時間外の学習】

履修する学生には、前時の授業のまとめを通じた復習と次時資料の確認など予習を求めます（1時間程度）。また、復習を兼ねたレポートや感想文の提出を求めます（1時間程度）。

【成績の評価】

試験成績(60%)、レポート及び小テスト(30%)、授業中の質問や意見等の活動状況(10%)、レポートや小テストについては毎回の授業毎に教員の講評を行うことによってフィードバックします。定期試験結果のフィードバックは教務係を通して行います。具体的な方法については講義中に案内します。

【使用テキスト】

大塚玲（編）『インクルーシブ教育時代の教員を目指すための特別支援教育入門』（萌文書林）

【参考文献】

適宜，授業で紹介する。

科目名： <T0KU4>特別支援教育演習
担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

特別支援教育演習は、特別支援教育を必要とする幼児・児童・生徒の特徴やその支援の概要について総合的に学び、特別支援学校の授業形態や指導方法の実際を学ぶとともに、特別支援教育の指導形態に応じた学習指導の工夫について演習を通じて学びます。特別支援教育を必要としている教育現場において求められる知識及び実践力の基礎を培います。

本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できていること」の育成に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

特別支援教育の実践者として求められる基礎的知識の基盤形成し、実践的技能の基礎獲得することを目指します。そのために、以下の到達目標を設定します。

1. 多様な障害のある子どもの基礎知識について説明できる
2. 特別支援学校教育の実際に触れ、個々の教育的ニーズに応じた指導について説明できる
3. 児童生徒の個々のニーズに応じた基本的な対応及び配慮事項を提案できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 特別支援教育とICF
 - 第3回 特別支援教育の現状と動向
 - 第4回 知的障害児の教育の概要と特徴
 - 第5回 肢体不自由児の教育の概要と特徴
 - 第6回 視覚障害児の教育の概要と特徴
 - 第7回 聴覚障害児の教育の概要と特徴
 - 第8回 重度・重複障害児の教育の概要と特徴
 - 第9回 発達障害児の教育の概要と特徴(1：ASD)
 - 第10回 発達障害児の教育の概要と特徴(2：ADHD)
 - 第11回 発達障害児の教育の概要と特徴(3：LD)
 - 第12回 その他の障害児の教育の概要と特徴
 - 第13回 特別支援教育と自立
 - 第14回 特別支援教育と合理的配慮
 - 第15回 重要ポイントの確認と整理
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

各授業時間のテーマについて毎回レポートの提出を課します。資料や参考文献を用いて予習及び復習が必要になります(1時間)。また、特別支援教育の教育現場の参観や見学を予定しています。各自2箇所の参観及び見学を課します(3時間)。

【成績の評価】

受講態度(30%)、課題の提出状況(70%)などを総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

新・教職課程演習 特別支援教育, 川合紀宗他著, 協同出版, 2021.
その他必要に応じて、資料を配布します。

【参考文献】

必要に応じて、講義内で紹介します。

科目名： <T0KU5>知的障害児の心理
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

知的障害のある子どもへの適切な教育的支援を実践するためには、子ども理解はもちろん保護者や子育てにかかわる人々と十分なコミュニケーションをとることができることが必要です。そのための基礎的知識を習得しその知識を基盤として教育・保育の実践を行う上で、多様な専門性を持った人材と協力・協働できることをめざします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

- ・保育所や幼稚園、特別支援学校などにおける知的障害のある子どもの心理学的知識を理解することができる。
- ・その子にあった教育的支援・援助を実践するための方策を具体的に計画することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(障害と問題行動)
 - 第2回 知的障害の定義(知能とEQ.)
 - 第3回 知的障害の分類(ボーダー児の問題)
 - 第4回 知的障害のアセスメント
 - 第5回 言語のアセスメント(言語と思考)
 - 第6回 社会生活のアセスメント(社会性の意味)
 - 第7回 学習
 - 第8回 言語獲得と社会的相互作用
 - 第9回 行動調整機能
 - 第10回 記憶の特徴
 - 第11回 動機づけ
 - 第12回 自閉症(高機能自閉症)
 - 第13回 ダウン症
 - 第14回 学習障害(LD)
 - 第15回 注意欠陥多動性障害(ADHD)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

特に重要と思われる内容は、事前に予習の範囲を指定し、レジュメを作成してもらいます。(2時間)
予習時理解が困難であった専門用語について講義終了後どれくらい理解が進んだかについて記録しておくこと。(2時間)

【成績の評価】

- ・成績の評価は、授業への参加度(15%)、ショート・レポート(15%)、期末試験(70%)の結果をもとに総合的に行います。
- ・ショート・レポートは授業時にコメントを付けて返却します。期末試験に関しては、個人的に研修室でフィードバックします。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

新保育士養成講座編纂委員会(編)『子どもの保健』(全国社会福祉協議会、2012年)
湯浅恭正(編)『よくわかる 特別支援教育』(ミネルヴァ書房、2008年)

科目名： <T0KU6>知的障害児の生理・病理

担当教員： 宮崎 雅仁(MIYAZAKI Masahito)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目であり、教員自身が小児科医としての小児医療や児童発達支援施設での経験を活かして具体的な事例も含めた授業を実施する。特別支援教育は身体や知的に障害を持つ子どもたちへの教育支援プログラムである。その中で最近では単純な知的レベルに問題のある知的障害群に加えて知的障害の有無に拘わらず行動や情緒に障害のある発達障害の子どもたちに対する社会的認知度の高まりにより、それを専門とする教員への期待度・必要性が増している。それに伴い、その教育に関与する教員は子どもたちが持つ障害特性や病態生理を十分に理解し、科学的根拠の基に仁愛の念を持って対応する事が必要不可欠となる。本講義では特別支援教育に必要な定型的な子どもの成長・発達の知識から各障害の具体的な診断、治療、対処法までの内容を出来るだけわかり易く授業を実施する。その結果、知的障害や発達障害を持つ子どもたちの生理・病理を体系的に理解し、教育・保育の実践と関連付けて理解出来る能力を修得し、卒業認定・学位授与へと導く授業内容である。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識、技法の修得をめざします。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 子どもの定型発達を正しく理解出来る。
2. 特別支援教育を必要とする子どもたちの障害特性を充分理解出来る。
3. その知識を生かして子どもたちの持つ表面的な症状だけでなく、その病態生理を理解して科学的・医学的根拠に基づいた適切な対応が出来る。

【授業計画】

第1回	子どもの成長・発達
第2回	知的・発達障害概論（総論的内容）
第3回	発達障害各論（自閉症スペクトラム障害の病態生理）
第4回	発達障害各論（自閉症スペクトラム障害の診断・治療）
第5回	発達障害各論（注意欠陥/多動性障害の病態生理）
第6回	発達障害各論（注意欠陥/多動性障害の診断・治療）
第7回	発達障害各論（限局性学習障害の病態生理・診断・治療）
第8回	発達障害各論（発達性協調運動障害、トゥレット障害の病態生理・診断・治療）
第9回	中間習熟度チェック（質疑応答と意見交換）
	知的障害各論（知的能力障害（脳性麻痺合併を含む）の病態生理・診断・治療）
第10回	知的障害各論（染色体異常の病態生理・診断・治療）
第11回	知的障害各論（てんかんの病態生理）
第12回	知的障害各論（てんかんの診断・治療）
第13回	知的障害各論（遺伝性疾患の病態生理・診断・治療）
第14回	知的障害各論（代謝性疾患の病態生理・診断・治療）
第15回	期末習熟度チェック（授業のまとめと質疑応答・意見交換）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業前に指定教科書で授業内容を予習し、必要に応じて図書館・等で専門用語の意味・内容を調べて疑問点を自習ノートに記載しておく（各2時間）。授業で使用したスライド原稿や授業の最後に実施した小テストを持ち帰り復習すると同時に自らの到達度を把握する（各2時間）。

【成績の評価】

毎回の講義の最後に実施する小テストの成績（15%）、中間習熟度チェック（5%）、期末試験（80%）の総合評価により判定する。
小テストの正答は当日解説する。その結果より学生自身が各授業の理解度を確認し、復習に役立てる。

【使用テキスト】

宮崎雅仁・編：脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために（医学書院、2012年）本体3500円（税別）

【参考文献】

なし

科目名： <TOKU7>病弱児の心理・生理・病理
担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi)

【授業の紹介】

病弱児の種々の病気を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育の実践と関連づけて理解し子どもの支援を目指す授業です。特に、病弱児に対しては、医療的な対応や支援が必要とされるので、多様な専門性を持つ人材とコミュニケーションが十分にでき、また、協力・協働できることも目指します。医学・医療、心理の立場から多面的に映像的な資料としてスライドなどを使用して講義を行います。病弱児の主要な疾患についてグループ毎に6～8回の発表を行い、理解を深める授業にします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 病弱児・虚弱児について理解し説明できる。
2. 多様化、重度化しつつある病弱児の主要な疾患について具体的に理解できる。
3. 病弱児への対応や支援に関する他職種との協力・協働について理解できる。

【授業計画】

この授業では、Google Classroomを利用して授業始量・参考資料などを配布します。

この授業のクラスコードは、【 】です。

- 第1回 総論（病弱・虚弱児の定義、病弱児教育の歴史）
 - 第2回 病弱児教育の意義（病弱児教育と対象疾患）
 - 第3回 病弱児教育（病弱児教育の仕組）
 - 第4回 グループ発表（神経疾患、循環器疾患）
 - 第5回 グループ発表（心身症－1）
 - 第6回 グループ発表（心身症－2）
 - 第7回 グループ発表（精神疾患）
 - 第8回 グループ発表（慢性疾患）
 - 第9回 グループ発表（内分泌疾患）
 - 第10回 グループ発表（血液疾患、膠原病）
 - 第11回 グループ発表（先天異常など）
 - 第12回 小児の感染症、感染予防とスタンダードプレコーション
 - 第13回 愛着形成
 - 第14回 病弱・虚弱児の医療的ケア
 - 第15回 これまでの講義のまとめと質疑応答
- 定期試験

【授業時間外の学習】

各授業時に病弱・虚弱児に関係する事柄や疾患等（前もって提示）について質問するので、図書館等で調べノートにまとめること。また、病弱・虚弱児の主要な疾患をグループ毎に割り当てるので、グループ発表とレポートの提出を義務付けます。（予習と復習は、各回4時間以上行うこと）

【成績の評価】

学習態度（10%）、レポート（20%）、定期試験（70%）の結果により総合的に判断します。グループ発表時に各疾患についての解説を行います。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説します。

【使用テキスト】

使用しません。

【参考文献】

全国病弱養護学校長会編著『病弱教育Q&A PART1 改訂版』（ジアース教育新社、2002年）
及川郁子監 伊藤龍子、及川郁子編『小児慢性特定疾患療養育成指導マニュアル』（診断と治療社、2006年）
独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』（ジアース教育新社、2015年）

科目名： <TOKU8> 肢体不自由児の心理・生理・病理

担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi), 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

具体的には、(1) 肢体不自由の概念を明らかにしたうえで、医学的な観点からは、人間行動の成り立ちと肢体不自由、身体のおくみとその生理と病理を理解し、肢体不自由の原因と主な起因疾患については3回のグループ発表を行います、(2) 心理学的な観点からは、肢体不自由と発達の関係、肢体不自由児の感覚・知覚、運動・動作、コミュニケーション、肢体不自由児への心理的支援について考えます。これらを通じて、特別な支援を必要とする子育てを支えるための理論と実践力を身につけることを学びます。なお、授業は、生理・病理の領域を磯部が担当し、心理の領域を川田が担当して行います。

【到達目標】

1. 肢体不自由児の主要な疾患や肢体不自由児の心理・生理・病理を理解することができる。
2. 理論と実践力を身につけ肢体不自由児に適切な支援ができる教員としての資質を培うことができる。

【授業計画】

この授業では、Google Classroomを利用して授業資料・参考資料などを配布します。

この授業のクラスコードは、初回授業時にお知らせします。

第1回 オリエンテーション・肢体不自由の概念 (磯部)

第2回 人間行動の成り立ちと肢体不自由 (子どもの正常運動発達) (磯部)

第3回 身体のおくみとその生理・病理-1 (運動器) (磯部)

第4回 身体のおくみとその生理・病理-2 (中枢神経系) (磯部)

第5回 肢体不自由の原因と主な起因疾患-1 (脳・脊髄性疾患)、グループ発表 (磯部)

第6回 肢体不自由の原因と主な起因疾患-2 (筋原性疾患)、グループ発表 (磯部)

第7回 肢体不自由の原因と主な起因疾患-3 (骨関節疾患)、グループ発表 (磯部)

第8回 肢体不自由と発達の関係 (川田)

第9回 肢体不自由児の感覚・知覚 (川田)

第10回 肢体不自由児の運動・動作 (川田)

第11回 肢体不自由児のコミュニケーション-1 (川田)

第12回 肢体不自由児のコミュニケーション-2 (川田)

第13回 肢体不自由児への心理的支援 (川田)

第14回 肢体不自由に係わる社会的・制度的課題 (磯部)

第15回 講義の重要ポイントのまとめと質疑応答

定期試験

【授業時間外の学習】

次回の講義内容を確認し、肢体不自由の原因となる疾患等について教科書や図書館等で調べノートにまとめること。また、3回のグループ発表とレポートの提出を義務付けます。(予習と復習は、各回4時間以上行うこと)

【成績の評価】

授業参加状 (10%)、レポート (20%)、定期試験 (70%) の成績により総合的に判断します。グループ発表時に各疾患についての解説を行います。

【使用テキスト】

安藤隆男・藤田継道編著『よくわかる肢体不自由教育』(ミネルバ書房、2015年) (川田)

授業者が作成した資料を講義テキストとします (磯部)。

【参考文献】

篠田達明監修、沖 高司、岡川敏郎、土橋圭子編集『肢体不自由児の医療・療育・教育改訂3版』(金芳堂、2015年)

その他、授業のなかで、適宜紹介します。

科目名： <T0KU9>障害児保育Ⅰ【発A】

担当教員： 常田 美穂(TSUNEDA Miho)

【授業の紹介】

障害のある子どもに関する環境は、特別支援教育の実施に伴い、早期発見・早期療養が求められており、保育現場でも特別なニーズを伴う幼児への支援が求められています。本講義では、「特別支援教育」の特徴と実際を学び、保育現場で求められている具体的な支援の在り方や保育の仕方について理解を深めます。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

特別支援教育を必要とする子どもの特性と効果的な実践を理解し、望ましい教育的支援の在り方、効果的な支援方法の理解、ニーズに応じた環境設定の仕方、効果的な教材開発の仕方を学習し、多様なニーズを有する幼児への保育士としての知識、技能を高め、多様なニーズに応じた基本的な対応及び環境調整を提案することができる。そのために以下の項目を到達目標とする。

1. 「障害」についてICFを基に理解することができる
2. 特別支援教育の共通性と障害種による個別性について説明できる
3. 子どもの発達段階や障害特性に応じた個別の対応の基本について説明できる
4. 子どものニーズに応じた環境設定の仕方について、複数の案を提案することができる
5. 多様なニーズを有する子どもの就学支援のポイントについて説明できる
6. 多様なニーズを有する子どもの保護者との連携のポイントと関係機関との連携について説明できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「障害」と特別支援教育
 - 第3回 子どもを「理解」することとは
 - 第4回 障害のある子どもの特性
 - 第5回 障害のある子どもの立場になる
 - 第6回 人の育ち、発達
 - 第7回 集団での育ち、環境の意味
 - 第8回 保育における計画と支援
 - 第9回 園内での支援体制の構築
 - 第10回 家庭との連携
 - 第11回 専門機関との連携
 - 第12回 地域で育つ子ども
 - 第13回 小学校等との連携
 - 第14回 外国籍や貧困等による特別な配慮を必要とする子ども
 - 第15回 障害のある子どもの保育に関わる現状と課題
- 定期試験を実施しません

【授業時間外の学習】

履修する学生には、前時の復習と次時の予習を求めます。また、毎時間、復習を兼ねたレポートや感想文の提出を毎時間求めます。各回のテーマについて事前に授業時間外に検索したり(1時間)、まとめたりする必要があります(2時間)。

【成績の評価】

受講態度(20%)、レポート課題の提出状況(60%)、発表(20%)等を総合して成績を評価します。必要に応じて質問などがあれば、メールで個別に対応します。

レポートについては、添削し返却又は口頭によるフィードバック、発表については、教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

榊原洋一・市川奈緒子・渡辺英則『アクティベート 障害児保育』（予定）（ミネルヴァ書房）2021年

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介します。

科目名： <T0KU9>障害児保育Ⅰ【発B】

担当教員： 常田 美穂(TSUNEDA Miho)

【授業の紹介】

障害のある子どもに関する環境は、特別支援教育の実施に伴い、早期発見・早期療養が求められており、保育現場でも特別なニーズを伴う幼児への支援が求められています。本講義では、「特別支援教育」の特徴と実際を学び、保育現場で求められている具体的な支援の在り方や保育の仕方について理解を深めます。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

特別支援教育を必要とする子どもの特性と効果的な実践を理解し、望ましい教育的支援の在り方、効果的な支援方法の理解、ニーズに応じた環境設定の仕方、効果的な教材開発の仕方を学習し、多様なニーズを有する幼児への保育士としての知識、技能を高め、多様なニーズに応じた基本的な対応及び環境調整を提案することができる。そのために以下の項目を到達目標とする。

1. 「障害」についてICFを基に理解することができる
2. 特別支援教育の共通性と障害種による個別性について説明できる
3. 子どもの発達段階や障害特性に応じた個別の対応の基本について説明できる
4. 子どものニーズに応じた環境設定の仕方について、複数の案を提案することができる
5. 多様なニーズを有する子どもの就学支援のポイントについて説明できる
6. 多様なニーズを有する子どもの保護者との連携のポイントと関係機関との連携について説明できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「障害」と特別支援教育
 - 第3回 子どもを「理解」することとは
 - 第4回 障害のある子どもの特性
 - 第5回 障害のある子どもの立場になる
 - 第6回 人の育ち、発達
 - 第7回 集団での育ち、環境の意味
 - 第8回 保育における計画と支援
 - 第9回 園内での支援体制の構築
 - 第10回 家庭との連携
 - 第11回 専門機関との連携
 - 第12回 地域で育つ子ども
 - 第13回 小学校等との連携
 - 第14回 外国籍や貧困等による特別な配慮を必要とする子ども
 - 第15回 障害のある子どもの保育に関わる現状と課題
- 定期試験を実施しません

【授業時間外の学習】

履修する学生には、前時の復習と次時の予習を求めます。また、毎時間、復習を兼ねたレポートや感想文の提出を毎時間求めます。各回のテーマについて事前に授業時間外に検索したり(1時間)、まとめたりする必要があります(2時間)。

【成績の評価】

受講態度(20%)、レポート課題の提出状況(60%)、発表(20%)等を総合して成績を評価します。必要に応じて質問などがあれば、メールで個別に対応します。

レポートについては、添削し返却又は口頭によるフィードバック、発表については、教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

榊原洋一・市川奈緒子・渡辺英則『アクティベート 障害児保育』（予定）（ミネルヴァ書房）2021年

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介します。

科目名： <TOKU10>障害児保育Ⅱ【発A】
担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

障害のある子どもに関する環境は、特別支援教育の実施に伴い、早期発見・早期療養が求められており、保育現場でも特別なニーズを伴う幼児への支援が求められています。本講義では、「特別支援教育」の基本的概念と理念、その体系を学び、保育現場で求められている特別なニーズのある幼児への支援の在り方や保育に求められている「障害児保育」と「特別支援教育」について理解を深めます。

本授業では、ICTを活用して、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

特別支援教育の基本的概念や理念を理解し、望ましい支援の在り方、効果的な支援方法の理解、ニーズに応じた環境設定の仕方を学び、多様なニーズを有する幼児への「障害児保育」・「特別支援教育」を担う保育士としての知識、技能を高め、ニーズに応じた基本的な対応及び配慮の工夫を提案することができるよう。

1. 「障害」についてICFを基に理解することができる
2. 特別支援教育の共通性と障害種による個別性について説明できる
3. 子どもの発達段階や障害特性に応じた個別の対応の基本について説明できる
4. 子どものニーズに応じた環境設定の仕方について、複数の案を提案することができる
5. 多様なニーズを有する子どもの修学支援のポイントについて説明できる
6. 多様なニーズを有する子どもの保護者との連携のポイントと関係機関とのチーム支援について説明できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「障害」と「特別なニーズ」
 - 第3回 特別支援教育の特徴（1）（知的障害教育・肢体不自由教育・病弱児教育）
 - 第4回 特別支援教育の特徴（2）（視覚障害教育・聴覚障害教育）
 - 第5回 障害児保育の実践（1）ADHD児の事例と配慮の工夫
 - 第6回 障害児保育の実践（2）ASD児の事例と配慮の工夫
 - 第7回 障害児保育の実践（3）複数障害のある児の事例と配慮の工夫
 - 第8回 障害児保育の実践（4）環境構成と配慮の工夫
 - 第9回 障害児保育の実践（5）就学支援の実際
 - 第10回 保護者への支援と保育士の役割（1）
 - 第11回 保護者への支援と保育士の役割（2）
 - 第12回 関係機関との連携とチーム支援
 - 第13回 早期発見・早期療育の視点と実践
 - 第14回 障害児保育の展望と課題
 - 第15回 障害児保育における保育者資質
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

履修する学生には、前時の授業のまとめを通じた復習と次時資料の確認など予習を求めます（1時間）。また、復習を兼ねたレポートや感想文の提出を求めます（1時間）。

【成績の評価】

受講態度（20%）、レポート課題の提出状況（60%）、発表（20%）等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。

また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

『新・基本保育シリーズ⑰ 障害児保育』公益財団法人児童育成協会監修、西村重稀・水田敏郎編 中央法規出版 978-4-8058-5797-7

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介します

科目名： <TOKU10>障害児保育Ⅱ【発B】
担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

障害のある子どもに関する環境は、特別支援教育の実施に伴い、早期発見・早期療養が求められており、保育現場でも特別なニーズを伴う幼児への支援が求められています。本講義では、「特別支援教育」の基本的概念と理念、その体系を学び、保育現場で求められている特別なニーズのある幼児への支援の在り方や保育に求められている「障害児保育」と「特別支援教育」について理解を深めます。

本授業では、ICTを活用して、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

特別支援教育の基本的概念や理念を理解し、望ましい支援の在り方、効果的な支援方法の理解、ニーズに応じた環境設定の仕方を学び、多様なニーズを有する幼児への「障害児保育」・「特別支援教育」を担う保育士としての知識、技能を高め、ニーズに応じた基本的な対応及び配慮の工夫を提案することができるよう。

1. 「障害」についてICFを基に理解することができる
2. 特別支援教育の共通性と障害種による個別性について説明できる
3. 子どもの発達段階や障害特性に応じた個別の対応の基本について説明できる
4. 子どものニーズに応じた環境設定の仕方について、複数の案を提案することができる
5. 多様なニーズを有する子どもの修学支援のポイントについて説明できる
6. 多様なニーズを有する子どもの保護者との連携のポイントと関係機関とのチーム支援について説明できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「障害」と「特別なニーズ」
 - 第3回 特別支援教育の特徴（1）（知的障害教育・肢体不自由教育・病弱児教育）
 - 第4回 特別支援教育の特徴（2）（視覚障害教育・聴覚障害教育）
 - 第5回 障害児保育の実践（1）ADHD児の事例と配慮の工夫
 - 第6回 障害児保育の実践（2）ASD児の事例と配慮の工夫
 - 第7回 障害児保育の実践（3）複数障害のある児の事例と配慮の工夫
 - 第8回 障害児保育の実践（4）環境構成と配慮の工夫
 - 第9回 障害児保育の実践（5）就学支援の実際
 - 第10回 保護者への支援と保育士の役割（1）
 - 第11回 保護者への支援と保育士の役割（2）
 - 第12回 関係機関との連携とチーム支援
 - 第13回 早期発見・早期療育の視点と実践
 - 第14回 障害児保育の展望と課題
 - 第15回 障害児保育における保育者資質
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

履修する学生には、前時の授業のまとめを通じた復習と次時資料の確認など予習を求めます（1時間）。また、復習を兼ねたレポートや感想文の提出を求めます（1時間）。

【成績の評価】

受講態度（20%）、レポート課題の提出状況（60%）、発表（20%）等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。

また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

『新・基本保育シリーズ⑰ 障害児保育』公益財団法人児童育成協会監修、西村重稀・水田敏郎編 中央法規出版 978-4-8058-5797-7

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介します

科目名： <TOKU11> 障害児の教育課程と指導法

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。特別支援学校で学習指導や生徒指導に携わった経験を生かし、具体的な実践例を示しながら授業を行います。

障害児の教育課程と指導法は、本学の教育課程編成・実施の方針を踏まえ、学校の教育目標、教育内容、授業時数を要素とする学校の教育計画です。授業では、特別支援学校・特別支援学級の教育課程や具体的な指導内容について学ぶとともに、特別な支援を必要とする子どもの個に応じた教育課程や指導の在り方について考察します。なお、毎回使用する「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説」を読み解きやすくするために、用語や基本的内容について、これまで修得した特別支援教育や特別支援教育総論、知的障害児教育、肢体不自由児教育の内容を復習しながら授業を進めます。

本授業を通じて、特別な支援を必要とする子育てを支えるための理論と実践力を身に付けることをめざします。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できる」ようになるための科目として、位置付けられています。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 教育課程の編成に関わる法令等を理解することができる。
2. 学習指導要領の内容を理解し、教育課程の編成や教育実践について基礎的な知識を修得することができる。
3. 障害に応じた教育課程や指導法等を理解し、説明することができる。
4. 個別の指導計画を作成することができる。

【授業計画】

- 第1回 教育課程の基準・編成
 - 第2回 学習指導要領と基本方針
 - 第3回 知的障害児教育における教育課程の編成と指導
 - 第4回 視覚障害児教育における教育課程の編成と指導
 - 第5回 聴覚障害児教育における教育課程の編成と指導
 - 第6回 肢体不自由児教育・病弱児教育における教育課程の編成と指導
 - 第7回 特別支援学級の教育課程
 - 第8回 重複障害者等を対象とした教育課程
 - 第9回 自立活動の指導
 - 第10回 道徳と特別活動
 - 第11回 社会に開かれた教育課程
 - 第12回 一人一人のニーズに応じた教育課程の編成の工夫
 - 第13回 就労に向けた教育課程の編成の工夫
 - 第14回 生きる力の育成に向けた教育課程の編成の工夫
 - 第15回 個別の指導計画の作成
- 定期試験

【授業時間外の学習】

障害児の教育課程と指導法では、授業外の学習時間として60時間以上の学習を求めます。授業計画に基づき、授業内容を予習するとともに、予習課題について調べた内容をノート等にまとめてください（2時間）。毎時、授業内容に関する復習課題をレポートとして提出してください（2時間）。

なお、ユニットの区切りで小テストを4回実施します。

【成績の評価】

予習・復習課題の内容（30%）、小テスト（10%）、定期試験（60%）の成績を総合して評価します。

予習・復習課題や小テストは、模範解答を示して授業で講評し、改善のためにフィードバックします。

【使用テキスト】

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（開隆堂出版 2018年）

【参考文献】

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（開隆堂出版 2018年）

文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』（開隆堂出版 2018年）

科目名： <T0KU27>特別支援教育指導法研究

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko),山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

特別支援学校における教育実習に向けて、特別支援学校の授業形態や指導方法の実際を学ぶとともに、大学において習得した障害特性や環境調整に関する知識や技能を基盤として、特別支援教育の指導形態に応じた学習指導の工夫について演習を通じて学びます。特別支援教育実習において求められる実践力の基礎を培います。

本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができること、6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できること」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

特別支援教育の実践者として求められる基礎的知識や技能の基盤形成及び実践的技能の習得を目指し、特別支援学校における教育の実際に触れ、各部で用いられている学習指導案の作成に求められる基礎的な技能を習得できる。

1. 特別支援教育で用いる学習指導案の特徴について説明することができる。
2. 特別支援教育で用いる学習指導案の形式に従って、指導計画を立案することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 特別支援教育における教育実習のねらい
 - 第3回 特別支援学校(知的障害)の概要と特徴
 - 第4回 特別支援学校(肢体不自由)の概要と特徴
 - 第5回 特別支援学校(病弱)の概要と特徴(プレゼンテーション)
 - 第6回 特別支援学校教育の実際 (1) (特別支援学校の訪問)
 - 第7回 特別支援学校教育の実際 (2) (特別支援学校の訪問)
 - 第8回 特別支援学校教育の実際 (3) (特別支援学校の訪問)
 - 第9回 特別支援学校教育の実際 (4) (特別支援学校の訪問)
 - 第10回 特別支援教育指導法研究 (教育課程と学習指導案)
 - 第11回 特別支援教育指導法研究 (幼稚部の学習指導案)
 - 第12回 特別支援教育指導法研究 (小学部の学習指導案)
 - 第13回 特別支援教育指導法研究 (中学部の学習指導案)
 - 第14回 特別支援教育指導法研究 (高等部の学習指導案)
 - 第15回 重要ポイントの確認と整理
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

これまで講義や演習で学んだこととともに、学習指導案の作成や教材研究など自宅学習の時間確保が必要です(1時間)。また特別支援学校の授業参観やボランティア活動に積極的に参加して(計4時間以上)、実践力の基盤形成に努めることが大切です。

【成績の評価】

受講態度(30%)、レポート課題(70%)などを総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

特別支援教育の学習指導案と授業研究-子どもたちが学ぶ楽しさを味わえる授業づくり-肥後祥治ら(2013) ジアース教育新社

【参考文献】

必要に応じて、講義内で紹介します。

科目名： <TOKU13>知的障害児教育
担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。知的障害特別支援学校で学習指導や生徒指導等に携わった経験を生かし、具体的な実践例を示しながら授業を行います。

知的障害児教育は、本学のエデュケーション課程編成・実施の方針を踏まえ、知的障害の特性、知的障害児教育のエデュケーション課程、指導や支援の内容・方法、知的障害児教育の今日的課題等について学びます。特別支援教育の重要性に興味をもって、授業に臨んでください。

本授業を通じて、特別な支援を必要とする子育てを支えるための理論と実践力を身に付け、豊かな心をもった教師をめざします。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる」に係る知識を習得するための科目として位置付けられています。なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 知的障害の障害特性を理解することができる。
2. 知的障害児教育におけるエデュケーション課程及び指導法の特徴を理解し、説明することができる。
3. 知的障害児教育における指導・支援に必要な知識・技能を身に付けることができる。
4. 知的障害児教育の今日的課題や特別支援教育の動向について、理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 知的障害児教育と特別支援教育
 - 第2回 知的障害児の障害特性と配慮
 - 第3回 知的障害を伴う自閉症児に対する教育
 - 第4回 知的障害児教育におけるエデュケーション課程の編成と指導の特徴
 - 第5回 知的障害児教育における教科別の指導
 - 第6回 知的障害児教育の指導法①（日常生活の指導、遊びの指導）
 - 第7回 知的障害児教育の指導法②（生活単元学習）
 - 第8回 知的障害児教育の指導法③（作業学習）
 - 第9回 知的障害児教育の指導法④（自立活動）
 - 第10回 個別の指導計画と個別のエデュケーション支援計画
 - 第11回 職業教育と移行支援計画
 - 第12回 進路指導とキャリア教育
 - 第13回 個のニーズに応じた授業づくり
 - 第14回 重度・重複障害の理解と指導
 - 第15回 インクルーシブ教育
- 定期試験

【授業時間外の学習】

知的障害児教育では、授業外の学習時間として60時間以上の学習を求めます。使用テキストで次の授業内容を予習するとともに、予習課題について調べた内容をノート等にまとめてください（2時間）。毎時、授業内容に関するキーワードを示します。キーワードについて理解した内容や新たに調べた内容を、レポートとして提出することを求めます（2時間）。

なお、ユニットの区切りで小テストを4回実施します。

【成績の評価】

予習・復習課題の内容（30%）、小テスト（10%）、定期試験（60%）の成績を総合して評価します。予習・復習課題や小テストは、模範解答を示して授業で講評し、改善のためにフィードバックします。

【使用テキスト】

杉野学、上田正三 編著『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』（大学図書出版 2020年）

【参考文献】

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）』（開隆堂出版 2018年）

科目名： <TOKU14>知的障害児教育演習

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。知的障害特別支援学校で学習指導や生徒指導等に携わった経験を生かし、具体的な実践例を示しながら授業を行います。

知的障害児教育演習は、本学の教育課程編成・実施の方針を踏まえ、「知的障害児教育」の基礎的な理論の修得に基づき、グループワークにより履修者同士の実践的な学び合いを重視します。主な内容は、事例検討、実践につながるアセスメント、教材教具の作製、模擬授業です。

教師になった自分をイメージしながら演習を行い、特別な支援を必要とする子育てを支えるための理論と実践力を身に付けましょう。

この授業科目では、発達科学部の卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる」に係る知識を習得するための科目として位置付けられています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 知的障害児に対する教育上の配慮事項について理解し、説明することができる。
2. アセスメントの基礎的な内容を理解することができる。
3. 教科別及び教科等を合わせた指導の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。
4. 指導内容に応じた教材教具を考え、作製することができる。
5. より良い実践を行うために必要な着眼点とスキルを身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 知的障害児教育と特別支援教育
 - 第2回 知的障害児の発達及びアセスメント
 - 第3回 知的障害児の学習の特性と支援
 - 第4回 「日常生活の指導」における指導・支援
 - 第5回 「生活単元学習」、「作業学習」における指導・支援
 - 第6回 「国語科」、「算数科」における指導・支援
 - 第7回 学習指導案の作成と活用
 - 第8回 知的障害児教育における教材教具の作製①試作・評価
 - 第9回 知的障害児教育における教材教具の作製②改善
 - 第10回 「日常生活の指導（朝の会）」模擬授業
 - 第11回 「国語科」模擬授業
 - 第12回 「算数科」模擬授業
 - 第13回 知的障害児教育における指導技法
 - 第14回 知的障害児教育における自立活動の指導:事例検討
 - 第15回 自閉症スペクトラム障害のある児童生徒に対する支援
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

知的障害児教育演習では、授業時間外の学習として15時間以上の学習を求めます。授業計画に基づき、知的障害児教育に関する専門用語の意味を調べる等の予習（30分）、授業後、配布した資料の内容を復習（30分）してください。

模擬授業や教材教具作製の準備は、時間を設けて計画的に進めてください。

【成績の評価】

授業における発言・質疑応答の内容（30%）、レポート・教材教具の完成度（30%）、模擬授業（40%）の成績を総合して評価します。

採点したレポートは次回の授業で返却し、教材教具や模擬授業に関する講評は授業時に行い、改善のためにフィードバックします。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- ・上野一彦、室橋春光、花熊暁 監修『特別支援教育の理論と実践Ⅰ 概論・アセスメント』（金剛出版 2018年）
- ・杉野学、上田征三 編著『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』（大学図書出版 2020年）
- ・立松英子 著『発達支援と教材教具Ⅲ』（ジアース教育新社 2017年）

科目名： <TOKU15> 病弱児教育
担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。特別支援学校での学習指導や生徒指導等の経験を生かし、具体的な実践例を示しながら授業を行います。

病弱児教育は、本学のエデュケーション・実践の方針を踏まえ、特別支援学校や地域の小・中学校にある特別支援学級・通常の学級等に在籍しています。近年、子どもの病気は多様化し、心身症やうつ病等の精神疾患、発達障害の二次障害としての行動障害等、心のケアが必要な子どもが増加しています。また、医療的ケアが必要な子どもの学習保障も課題となっています。授業では、「病弱児の心理・病理・生理」の基礎的な理論の修得に基づき、病弱児教育のエデュケーションや指導・支援の内容・方法について学ぶとともに、医療及び福祉機関、家庭との連携・協働における教員の役割について考えます。

本授業を通じて、特別な支援を必要とする子育てを支えるための理論と実践力を身に付けることをめざします。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる」に係る知識を習得するための科目として位置付けられています。

なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 病弱児教育の対象となる疾患について理解し、指導上の配慮事項を説明することができる。
2. 病弱児教育の意義と役割について理解することができる。
3. 病弱児教育のエデュケーションや適切な指導・支援について理解することができ、実践に必要な知識・技能を身に付けることができる。
4. 医療及び福祉関係機関、家族との連携・協働に関する課題について、意見を述べることができる。

【授業計画】

- 第1回 病弱児教育の対象となる病気の症状
 - 第2回 病弱児の学びの場とエデュケーション
 - 第3回 一人一人のエデュケーションニーズに応じた支援①（復学支援、高校生支援）
 - 第4回 一人一人のエデュケーションニーズに応じた支援②（医療的ケア）
 - 第5回 一人一人のエデュケーションニーズに応じた支援③（病気の受容と理解、自己管理）
 - 第6回 通常学級における病弱児への理解と支援
 - 第7回 学習指導要領を踏まえた指導
 - 第8回 心身症・精神疾患の子どもへの自立活動
 - 第9回 ICTの活用意義及び活用事例
 - 第10回 体験的な活動における指導方法の工夫
 - 第11回 教育機会の保障
 - 第12回 ベッドサイド教育、病院への訪問による指導
 - 第13回 進路指導とキャリア教育
 - 第14回 特別支援学校(病弱教育)のセンター的役割
 - 第15回 医療及び福祉関係機関、家族との連携・協働
- 定期試験

【授業時間外の学習】

病弱児教育では、授業時間外の学習として60時間以上の学習を求めます。使用テキストで次の授業内容を予習すると共に、予習課題について調べた内容をノート等にまとめてください(2時間)。毎時、授業内容に関するキーワードを示します。キーワードについて理解した内容や新たに調べた内容を、レポートとして提出することを求めます(2時間)。

なお、ユニットの区切りで小テストを4回実施します。

【成績の評価】

予習・復習課題の内容(30%)、小テスト(10%)、定期試験(60%)の成績を総合して評価します。

予習・復習課題や小テストは、模範解答を示して授業で講評し、改善のためにフィードバックします。

【使用テキスト】

・深草瑞世監修、全国特別支援学校病弱教育校長会編著『特別支援学校の学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携』（ジアース教育新社 2020年）

【参考文献】

- ・西牧謙吾監修、松浦俊弥編著『チームで育む病気の子ども』（北樹出版 2017年）
- ・山本昌邦、島 治伸、滝川国芳編集、日本育療学会編著『標準 病弱児のエデュケーションテキスト』（ジアース教育新社 2019年）
- ・全国病弱教育研究会編著『病気の子どもへの教育入門』（クリエイツかもがわ 2015年）

科目名： <TOKU12> 病弱児教育演習
担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。特別支援学校で学習指導や生徒指導等に携わった経験を生かし、具体的な実践例を示しながら授業を行います。

病弱児教育演習は、本学の教育課程編成・実施の方針を踏まえ、特別な支援を必要とする子育てを支えるための科目として位置付けられています。近年、病弱児教育では、疾病や治療の多様性の理解、治療形態に応じた個別の対応が求められています。授業では「病弱児の心理・生理・病理」及び「病弱児教育」の基礎的な理論の修得に基づき、グループワークにより履修者同士の実践的な学び合いを重視します。主な内容は、病弱児の実態に応じた支援の内容・方法についての考察、ICTを活用した教育活動の体験や学習活動の制限を考慮した教材教具の作製、個別の指導計画や学習指導案の作成です。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる」に係る知識を習得することと特別な支援を必要とする子育てを支えるための理論と実践力を身に付けることをめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 病弱児に対する教育上の配慮事項について理解し、説明することができる。
2. 病弱児教育の教育課程を理解し、学習指導案を作成することができる。
3. 学習の空白や活動の制限を考慮した教材教具を考え、作製することができる。
4. ICTを活用した教育活動を体験し、ICTの有用性について説明することができる。
5. 演習を通して、より良い実践を行うために必要な着眼点とスキルを身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 病弱児教育の現状と課題
 - 第2回 発達障害のある子どもや不登校の子どもの理解と支援
 - 第3回 重症心身障害児の教育
 - 第4回 病弱児教育における教科指導
 - 第5回 学習指導案の作成
 - 第6回 病弱児教育における自立活動
 - 第7回 個別の指導計画と個別の支援計画
 - 第8回 教材教具の役割
 - 第9回 演習①学習指導案の作成
 - 第10回 演習②教材教具の作製
 - 第11回 演習③模擬授業（グループA）
 - 第12回 演習④模擬授業（グループB）
 - 第13回 演習⑤ICTを活用した教育活動の体験
 - 第14回 ライフステージに応じたがん対策
 - 第15回 演習⑥個別の指導計画の作成
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

病弱児教育演習では、授業時間外の学習として15時間以上の学習を求めます。授業計画に基づいて、病弱児教育に関する専門用語の意味を調べる等の予習（30分）と授業後、配布した講義資料の内容を復習（30分）してください。必要に応じて、設定したテーマについて関連文献や資料等で調べた内容や考察した内容を、レポートとして提出することを求めます。

【成績の評価】

授業における発言・質疑応答の内容（20%）、レポート（40%）、模擬授業や個別の指導計画の作成等の実践（40%）、を総合して評価します。

採点したレポートは次回授業時に返却し、模擬授業等の内容は授業時に教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- ・丹羽登監修、全国特別支援学校病弱教育校長会編著『病弱教育における各教科等の指導』（ジアース教育新社 2015年）
- ・深草瑞世監修、全国特別支援学校病弱教育校長会編著『特別支援学校の学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携』（ジアース教育新社 2020年）
- ・西牧謙吾監修、松浦俊弥編著『チームで育む病気の子ども』（北樹出版 2017年）

科目名： <TOKU17> 肢体不自由児教育
担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

公立学校にて、特別支援教育担当教員として長年特別支援教育に携わってきた実務経験をもとに講義を行います。本授業科目は、「特別支援学校教諭一種免許状」取得に関する科目です。

肢体不自由児の教育・保育や療育について、基礎・基本を学びます。障がいの多様な肢体不自由児を正しく理解し、必要とされる様々な視点や実践的な指導・支援につながる内容を提供します。

また、肢体不自由児に係る今日的な課題について、障がいの重度・重複、多様化等との関連から整理し、自立活動や個別の指導計画等の理念と実践に関わる基礎的概念を深めます。

幼児児童生徒一人ひとりの心と身体に対する理解が深まるように共同体験等を通して、バリアフリーやユニバーサルデザインに向けた教育や福祉の推進者としての見識を高めることを目指します。

なお、本授業科目は、課題の提示やレポート提出にあたり「Google Classroom」を活用します。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針（DP）において、「6.教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考と創造力を用いて適切に判断できること」の育成に関わっています。具体的な学修成果としては、『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』と関連しています。

【到達目標】

肢体不自由児の正しい理解に努め望ましい指導や支援に向けた基本的な学びを通し、幼児児童生徒一人ひとりに対する効果的な指導法や環境づくり、教材教具の活用等を習得することをめざします。

多様なニーズに応じた望ましい支援に繋げるために以下の項目を到達目標とします。

- ①障がいについてICFを基に理解する。
- ②子どもの発達や障がい特性に応じた個別の対応の基本を理解する。
- ③合理的な配慮など環境設定のあり方について提案することができる。
- ④連続した偏りのない支援に向けて「個別的教育支援計画」等の作成と活用を理解する。
- ⑤親の障害受容や関係機関との連携・協働について説明できる。

【授業計画】

この授業では、Google Classroomを利用して授業資料・参考資料などを配布します。
この授業のクラスコードは、【 】です。

第1回	オリエンテーション
第2回	肢体不自由児の教育－歴史と現状－
第3回	脳性まひ児等の肢体不自由疾患による特性
第4回	肢体不自由児の運動発達と課題
第5回	肢体不自由児の心理発達
第6回	特別支援学校や特別支援学級における教育の実践（ポジティブな行動支援）
第7回	教育課程編成の基本と授業づくり（PDCAサイクル）
第8回	身体の動きの指導や支援
第9回	コミュニケーションの指導や支援
第10回	各教科・領域の指導や支援の関係性
第11回	重度・重複障がい児の理解と指導－重篤な医療的ケア対象児含－
第12回	自立活動と個別の指導計画
第13回	教材教具を活用した発達支援－ICT等の福祉機器－
第14回	肢体不自由児のキャリア教育
第15回	新たな取組と今後の課題－権利擁護と社会生活－
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

履修する学生には、「Google Classroom」を通して、事前に配布する授業資料やキーワード等の予習と、授業終了後にはワークシート（振り返りシート）の作成を各2時間程度求めます。また、肢体不自由児教育に係る課題解決にむけたレポート等の提出を求めることがあります。

また、特別支援学校や障害者施設等の見学や実習等を通して問題意識を高める主体性を求めます。

【成績の評価】

発表等主体的な受講態度（30%）、レポート（30%）、小筆記試験（40%）を総合して成績を評価します。

課題解決を図る小筆記試験並びにレポートについては、適宜授業のなかでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

「よくわかる肢体不自由児教育」安藤隆男・藤田継道編著 ミネルバ書房 2015年

【参考文献】

必要な文献や論文については授業のなかで適宜紹介します。

科目名： <T0JU18> 肢体不自由児教育演習

担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員の臨床経験を活かして、「自立活動」の授業で活用されている指導法や理論を紹介します。「肢体不自由児教育演習」は、「肢体不自由児教育」で学んだ基礎・基本を基盤にして、肢体不自由児個々の実態把握に基づいて展開される具体的な指導法や評価のあり方等を学ぶために設けられた科目です。特に、本演習では教育心理学的なアプローチ等を通して、幼児児童生徒たちが心と身体を整える具体的な方法や具体的な支援のあり方を学びます。また、肢体不自由児が安心して学べる環境づくりや合理的な配慮についても事例を通して検証します。

なお、本授業科目は、課題の提示やレポートの提出にあたり「Google Classroom」を活用します。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針（DP）において、「6.教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考と創造力を用いて適切に判断できること」の育成に関わっています。具体的な学修成果としては、『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』と関連しています。

【到達目標】

1. 肢体不自由児に対する関係機関との連携（個別的教育支援計画）を理解し作成することができる。
2. 一人ひとりに基づく「実態把握→指導・支援→評価→改善→引継」といった継続性や連続性を備えた偏りのない授業づくり（個別の指導計画）が展開できる。
3. 「自立活動」で活用されている指導法や理論等を学び、肢体不自由児教育に携わる教員として実践できる知識と技術を身につけることをめざす。

【授業計画】

この授業では、Google Classroomを利用して授業資料・参考資料などを配布します。
この授業のクラスコードは、【5hy6sei】です。なお、1回目のオリエンテーションは308講義室で行います。

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 IEPの理念と実践―「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」―
 - 第3回 肢体不自由児教育における「自立活動」の計画・実践・評価・改善
 - 第4回 肢体不自由児教育における指導法（実践で役立つ指導法）
 - 第5回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き1）リラクセーション
 - 第6回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き2）座位
 - 第7回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き3）膝立ち位
 - 第8回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き4）立位・歩行
 - 第9回 肢体不自由児教育における指導法（授業づくり1）姿勢保持・姿勢変換・移動
 - 第10回 肢体不自由児教育における指導法（授業づくり2）身体の動きの指導と評価
 - 第11回 肢体不自由児教育における指導法（授業づくり3）外部専門家の導入と連携
 - 第12回 事例検討会①～個別事例（CP児）への指導・支援の検討
 - 第13回 事例検討会②～個別事例（重度重複児）への指導・支援の検討
 - 第14回 事例検討会③～個別事例（筋疾患児）への指導・支援の検討
 - 第15回 事例検討会④～神経生理学的なアプローチ等の有用性や環境設定のあり方
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

履修する学生には、特別支援学校や特別支援学級、肢体不自由児施設等の実地見学や実習を通して、重度・重複障害児、超重症児等に対する問題意識や人権感覚を高める姿勢を求めます。

また、各1時間程度の予習と復習を兼ねたレポートや感想文（振り返りシート）の提出を求めます。

なお、課題の提示や提出にあたり「Google Classroom」を活用します。

【成績の評価】

演習への参加態度（30%）や習熟度（30%）、レポート等（40%）を総合して成績を評価します。

なお、習熟度につきましては、事例検討会や運動・動作を用いた実技指導を通してフィードバックします。

【使用テキスト】

「障害者のための絵でわかる動作法2 自立活動へのはじめの一步」宮崎昭、村主光子、田丸秋穂、杉林寛仁、長田実著 福村出版 2018年

【参考文献】

必要な文献や論文については、授業のなかで適宜紹介します。

科目名： <TOKU19> 視覚の発達と障害

担当教員： 恵羅 修吉(ERA Shukichi)

【授業の紹介】

目が見える人にとって、目が見えない人の経験する世界を想像することはとても難しいことです。目が見えている私たちは、「見える」ということを子どもの時から当たり前のこととして経験してきました。当たり前のように存在している「見え」の世界。しかしながら、私たちは経験としては気づいていませんが、「見え」の世界は子どもから大人になるについて少しずつ変化しているのです。この授業では、「見え」の発達について、いろいろな事例や研究を通して基礎的な知識を提供することをめざします。さらに、目が見えない、あるいは目が見えにくいといった視覚障害について解説します。講義を通して、視機能に困難のある子どもにとって望ましい成長・発達を支援するための専門的知識と技能の獲得と、実践的能力の基礎となる知見の獲得を目指します。

本授業は「特別支援学校教諭免許」に必要な科目です。視覚障害のある子どもの理解と教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育や支援の実践で活かせるように自ら多様な情報を収集・分析することで、将来にわたり継続的に学ぶ姿勢を身につけていきます。

なお、この授業科目では、卒業・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識、技法の修得を目指します。

また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. 視覚の成立に関わる生物学的構造について理解できる。
2. 視覚に関わる検査について、その意義を説明することができる。
3. 視機能に困難を有する子どもの心理特性について理解し、配慮点について説明できる。
4. 視覚障害教育の歴史と現状について理解できる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	視覚の構造1：眼から脳まで
第3回	視覚の構造2：高次脳機能
第4回	視覚障害の定義と分類
第5回	視覚検査1：視力検査
第6回	視覚検査2：眼位検査
第7回	視覚検査3：色覚検査
第8回	視覚検査3：その他の検査
第9回	視覚障害児の心理学的特性1：聴覚認知
第10回	視覚障害児の心理学的特性2：触運知覚
第11回	視覚障害児の心理学的特性3：空間認知（空間移動を含む）
第12回	視覚障害児の心理学的特性4：音声言語の発達
第13回	視覚障害児の心理学的特性5：視覚言語（点字を含む）の発達
第14回	視覚障害に対応した支援機器の活用
第15回	授業のまとめ：視覚障害教育の過去と未来 (定期試験は実施しません。以下の「成績の評価」を参照。)

【授業時間外の学習】

授業中に参考図書やホームページをいくつか紹介します。それらを可能な限り閲覧してください。
授業期間中に報道された視覚障害に関連する記事を読み、その背景などについて調べてみましょう。新聞やWebでのニュースを注意深くみると、視覚障害やそれに関連する内容の記事が報道されています。授業期間中これらの記事を読み、関心を持った内容については、更にその背景を調べてみることで視覚障害ならびに視覚障害教育に関わる現状について認識を深めましょう。これに要する時間は、1週間に4時間を想定しています。

【成績の評価】

評価は、授業中の小レポート（40%）、期末レポート（60%）とします。小レポートについては、次の授業時に全体的に講評を加えます。期末レポートについては、Google Classroomで個別にフィードバックします。

【使用テキスト】

ありません。

【参考文献】

香川邦生・千田耕基(編)『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』(教育出版, 2009年)
香川邦生(編)『四訂版 視覚障害教育に携わる方のために』(慶應義塾大学出版会, 2010年)

科目名： <TOKU20>聴覚障害教育総論
担当教員： 川合 紀宗(KAWAI Norimune)

【授業の紹介】

聴覚障害のある幼児児童生徒に対する教育的支援に必要な制度や実践的側面、心理・生理・病理的側面に関する基本的な事項の知識を体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解するなど、聴覚障害教育の在り方について幅広く学習します。

なお、現在のところ対面での実施を予定していますが、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、オンライン（Zoomによる遠隔ライブ講義）にて講義を実施する可能性もあります。オンラインで実施することになった場合、ネットにつながるマイクカメラ付きのパソコンが各自必要となります。

自分で用意できる人は自宅で受講してください。用意が出来ない人は、大学にて演習室を開放するよう依頼いたします。オンライン受講の際、カメラはONにしておいてください。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

- ・聴覚障害教育について考える際に基盤となる事項について、基礎的な知識を身につけることができる。
- ・聴覚障害教育の実際について、幼児児童生徒の発達段階を追い、具体的に教育の内容と方法を理解することができる。
- ・聴覚障害の心理・生理・病理的側面に関する基本的な事項を理解することができる。
- ・聴覚障害教育の望ましいあり方について主体的に考え、話し合うことができる。

【授業計画】

- 第1回 聴覚障害の歴史的展開
 - 第2回 聴覚障害教育の心理・生理・病理
 - 第3回 特別支援教育における聴覚障害
 - 第4回 聴覚障害教育の教育課程
 - 第5回 聴覚障害教育とコミュニケーション方法
 - 第6回 聴覚障害児に対する自立活動
 - 第7回 聴覚障害児の教科学習と読み書き能力
 - 第8回 通常の学級で学ぶ聴覚障害児
- 定期試験なし

【授業時間外の学習】

配布された資料について予習（講義資料の予習をし、講師に対する質問事項を考えておく）や復習（授業を通して学んだこと・疑問に思ったことをコメントする）を1回あたり90分に相当する時間必ず行い、内容を理解しておいてください。

【成績の評価】

①授業中の積極的な参加（質疑応答、グループワーク等：40%）と②課題レポートの内容（60%）によって評価します。①については、受講者の発言・応答内容やグループ発表に対して口頭や記述による質の評価を行います。②については、授業内容の理解度をレポートの記述内容から分析し、量的評価を行います。評価後、採点結果やコメントを返します。

【使用テキスト】

ありません。必要に応じて講義資料を配付します。

【参考文献】

四日市章・鄭 仁豪・澤 隆史・ハリー・クノールス・マーク・マーシャーク編「学習と指導—発達と心理学的基礎—」（明石書店、2018年）
我妻敏博「改訂版 聴覚障害児の言語指導—実践のための基礎知識—」（田研出版、2011年）
脇中起余子「聴覚障害教育 これまでとこれから：コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に」（北大路書房、2009年）

科目名： <TOKU21> 重複障害教育総論
担当教員： 落合 俊郎(OCHIAI Toshiro)

【授業の紹介】

特別支援学校の中でも重度でかつ複数の障害をあわせもった子どもたちの教育を知り、教育者に求められる知識だけでなく、使命感と倫理観も培います。まず、重複障害児教育の歴史をさかのぼり、ヘレン・ケラーに始まる盲ろう二重障害の教育方法を学び、点字、手話、発話へと、どのように教育するのか学習します。1979年の養護学校義務制実施以降、知的障害、肢体不自由、病弱をあわせもつ重複障害の子どもが多くなりました。このような児童生徒に対して、どのような授業を展開するのか、さらに改訂された学習指導要領の新旧の違いについて説明します。また、たんの吸引、経管栄養、胃ろう等の医療的ケアが必要な子どもたちへの対応と実践についても学びます。国連障害者の権利条約批准後、重複障害のある子どもたちの合理的配慮をどのようにするのかを説明します。重複障害のある児童生徒に寄り添った豊かな人間性をはぐくみ、授業の内容に対して積極的かつ主体的に意見の発表を行うような授業を行います。さらに重複障害のある児童生徒の教育の課題を明らかにし、その課題を解決する力を身に付け、特別支援学校の教員になる前にボランティア等で社会に貢献する気づきを養います。授業で修学した専門的知識や技能を生かし、特別支援学校での実践的能力を培います。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」及び「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、具体的な学修成果としては『②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。』『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. 重複障害のある児童生徒の教育に関する新しい学習指導要領の内容を理解し、新旧学習指導要領の違いを理解する。
2. 重複障害のある児童生徒の心理・生理・病理的な特徴と、特別支援学校重複学級の中では、どのような授業が行われるか理解する。
3. 重複障害のある児童生徒の医療的ケアに関する知識を身に付ける。
4. 特別支援学校教諭に必要な総合的な知識と教育実践に必要な知識とスキルを身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。
- 第2回 重複障害の定義と新旧学習指導要領の違いを説明します。また、なぜ新しい内容になったのかその理由も明らかにします。
- 第3回 重複障害教育の歴史をさかのぼって：盲ろう二重障害児の教育とはどのようなものか紹介します。
- 第4回 NHK「ETVスペシャル あなたと話したい」から学ぶもの：現在、重複障害児のほとんどは、重度の知的障害・肢体不自由・病弱を併せもつ児童生徒の教育とは何か紹介します。
- 第5回 個別の教育計画、個別の指導計画、合理的配慮とはなにか、その具体的な内容について学びます。
- 第6回 自立活動について(学習指導要領解説から)：授業案を作成するときのポイント、行動の見方について学びます。
- 第7回 重複障害のある児童生徒の教育課程：特別支援学校内の重複障害学級の中での授業を紹介します。
- 第8回 医療的ケアが必要な子どもたちへの対応についての説明と授業の振り返りを行います。
- 第9回 まとめ：盲ろう二重障害児教育から、重度・重複障害児の教育の方法、さらには医療的ケアが必要な子どもたちへの対応について振り返ります。

【授業時間外の学習】

重複障害のある児童生徒は肢体不自由特別支援学校や病弱特別支援学校に在籍していることが多いのでボランティアや介護等の体験等でこれらの子どもたちと親しむことを勧めます。授業開始一週間前からGoogle Classroomに講義内容ならびに資料を閲覧可能な状態にします。授業開始までの予習に3時間、講義終了後の復習に3時間かけて復習してください。さらにGoogle Classroomには授業中開示しますので、質問等がございましたら、Google Classroomを通じて質疑応答を行います。特別支援学校での教育実習は2週間という短い間で研究授業を行い学習指導案も書かなければなりません。重複障害のある児童生徒の担当になることもありますので、事前にボランティア活動等を通して、これら重複障害のある児童生徒への対応を経験してください。

【成績の評価】

授業の参加状況(20%)と試験(80%)の結果により総合的に評価します。授業の参加状況については、出席だけではなく、学生と教員との意見のやり取り、質疑応答等の内容も評価対象とします。

試験については、授業中の直前の振り返りをした後、模範解答についてはGoogle Class roomに掲載し、学生からの質疑に対して丁寧な回答・指導を行います。

Google Class roomで毎時間、感想と質問を記載するようにします。それも評価の対象にします。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）
開隆堂
本体159円＋税

【参考文献】

授業の中で必要な資料を配布します。広島県立福山特別支援学校発行の自立活動のガイドラインを紹介
します。授業開始前に授業内容を知りたい方はGoogle Classroomにログインしてください。クラスコード
は2oi05gです。

科目名： <T0KU22> L D等教育総論
担当教員： 井上 とも子(INOUE Tomoko)

【授業の紹介】

発達障害、主にLD・ADHD・高機能自閉症スペクトラム障害の様態に応じて必要となる支援、特に教育的支援について学び、専門知識を身につけ、特別支援教育に関する実践的能力を培います。はじめに、発達障害の定義について、教育的支援の方向性を示す形で解説します。教育的支援を組み立てるために、アセスメントについて話を進める中で、標準化された発達検査についても触れ、発達障害児の学校内の様態についての理解を進めます。次にそれぞれの学習上の特性に応じた指導・支援方法を論じた後、問題行動に関しても、対応方法と共に説明します。この時、グループ協議の形で、課題への気づきとともに、配慮点や教育対応方法を考えるなどの演習を行い、解決する力を育成します。
なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」「4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。
また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

- ①幼児期と小学校期の発達障害の様態を理解することができる。
 - ②児が起こす行動の意味を知り、特性と行動の意味にあった支援・指導の方法を知ることができる。
 - ③通常の学級における特別支援教育のあり方全般の知識を修得することをめざす。
- 以上の3つのことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・教育分野の3つの発達障害とは
 - 第2回 LDとは
 - 第3回 ADHDとは一動画から知るADHD―
 - 第4回 学校におけるADHD児の実態と理解
 - 第5回 ASDとは一わかりにくさの理解―
 - 第6回 学校教育とアセスメント
 - 第7回 支援についての基本的考え方と実践的方法
 - 第8回 学級内配慮はどうあるべきか
 - 第9回 学校におけるASD支援の実際
 - 第10回 インクルーシブ教育と合理的配慮
 - 第11回 通常の学級内における特別支援教育の在り方
 - 第12回 校内支援体制の構築―教師間連携―
 - 第13回 問題行動の意味と対策
 - 第14回 保護者支援の在り方・通級による指導
 - 第15回 まとめ（これまでの講義にかかる質問・応答、課題に応じたレポート作成と発表）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 1 第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、1回目の授業時に「発達障害とは何か」についてのレポートを提出する（計15時間）
- 2 授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計20時間）
- 3 第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「発達障害児に対して自身が取り組みたい支援についての疑問点、理解困難な点」について発表し、後半授業の個々の目標を明らかにして授業に臨むために授業資料を見直し、復習する（計10時間）
- 4 15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）

【成績の評価】

レポート30% 授業中の質問・発言10% 授業態度10% 試験50%
レポートについては、読んだ後、コメントをつけて返します。
成績評価の不明な点についての質問には、十分な説明を行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

小島道生・宇野宏幸・井澤信三編著『発達障害の子がいるクラスの授業・学級経営の工夫』明時図書（2008）
小野次郎・上野一彦・藤田継道編『よく分かる発達障害』第2版ミネルヴァ書房（2010）
日本LD学会編『発達障害事典』（2016）

科目名： <TOKU24>子育て支援【発A】
担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育園、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中で、保護者からの相談を受け、その対応の仕方を一緒に考え、助言をしてきました。2017年告示の「保育所保育指針」第4章子育て支援などに示されている通り、保育士は子どもの保育に加えて保護者からの相談に応じたり助言をしたりする職務が義務化されました。子育て支援の授業では「保育所保育指針」第4章子育て支援を踏まえて、保育士の行う保育の専門性に基づいた保護者に対する相談、助言、情報提供の特性を理解し、養成段階で経験することが難しい具体的な場面の事例を通して学び、子どもはもちろん保護者や子育てに関わる人と協力、協働しながら子どもたちの育ちを支えるために必要な保育の実践力を養うことを目的としています。また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 子育て支援の必要性を理解した上で実践できる。
2. 保育士の専門性を活かした保護者に対する相談、助言、情報提供などの支援についてその特性と展開を具体的に理解することができる。
3. 保育士が行う子育て支援について、その時の状況に合わせた支援の方法やその支援をする意義を、事例を通して理解することができる。
4. 子どもの育ちにつながる支援のあり方とその意義について理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 子育て支援とは 子どもの保育とともに行う保護者の支援
 - 第2回 子育て支援の意義
 - 第3回 子育て支援の基本姿勢① 子どもの最善の利益の尊重
 - 第4回 子育て支援の基本姿勢② 保育の専門性と子育て支援
 - 第5回 子育て支援の基本姿勢③ 保護者との相互理解・信頼関係
 - 第6回 保育所・認定こども園などの特性をいかした支援
 - 第7回 子育て支援の計画と環境構成
 - 第8回 支援の実践、記録、評価
 - 第9回 地域の関係機関との連携・協力
 - 第10回 障がいのある子どもおよびその家庭に対する支援
 - 第11回 特別な配慮が必要な子どもおよびその家庭に対する支援
 - 第12回 虐待予防と要保護児童などの家庭に対する支援
 - 第13回 保護者の理解とかかわり方
 - 第14回 文書や行事を活用した子育て支援 連絡帳、おたより、行事の持ち方
 - 第15回 保育士に求められる子育て支援 振り返りと今後の課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教科書を予めよく読んでわからないことなどは事前に調べておくこと。（1時間）
配布したワークシートの記入をし、次の授業の前に提出する。（1時間）

【成績の評価】

授業中の態度（10%）、毎回のワークシートの記入内容（30%）、提出物（10%）、定期試験（50%）により評価します。
小テスト、ワークシートは、添削して授業時に返却します。
定期試験については、希望する人は模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】

子育て支援 新・基本保育シリーズ⑨ （中央法規出版株式会社 2019年）

【参考文献】

保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆監修 （ミネルヴァ書房 2018年）
子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック 二宮 祐子 （萌文書林 2018年）
演習・保育と子育て支援 （株式会社みらい 2019年）

科目名： <T0KU24>子育て支援【発B】
担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育園、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中で、保護者からの相談を受け、その対応の仕方を一緒に考え、助言をしてきました。2017年告示の「保育所保育指針」第4章子育て支援などに示されている通り、保育士は子どもの保育に加えて保護者からの相談に応じたり助言をしたりする職務が義務化されました。子育て支援の授業では「保育所保育指針」第4章子育て支援を踏まえて、保育士の行う保育の専門性に基づいた保護者に対する相談、助言、情報提供の特性を理解し、養成段階で経験することが難しい具体的な場面の事例を通して学び、子どもはもちろん保護者や子育てに関わる人と協力、協働しながら子どもたちの育ちを支えるために必要な保育の実践力を養うことを目的としています。また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 子育て支援の必要性を理解した上で実践できる。
2. 保育士の専門性を活かした保護者に対する相談、助言、情報提供などの支援についてその特性と展開を具体的に理解することができる。
3. 保育士が行う子育て支援について、その時の状況に合わせた支援の方法やその支援をする意義を、事例を通して理解することができる。
4. 子どもの育ちにつながる支援のあり方とその意義について理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 子育て支援とは 子どもの保育とともに行う保護者の支援
 - 第2回 子育て支援の意義
 - 第3回 子育て支援の基本姿勢① 子どもの最善の利益の尊重
 - 第4回 子育て支援の基本姿勢② 保育の専門性と子育て支援
 - 第5回 子育て支援の基本姿勢③ 保護者との相互理解・信頼関係
 - 第6回 保育所・認定こども園などの特性をいかした支援
 - 第7回 子育て支援の計画と環境構成
 - 第8回 支援の実践、記録、評価
 - 第9回 地域の関係機関との連携・協力
 - 第10回 障がいのある子どもおよびその家庭に対する支援
 - 第11回 特別な配慮が必要な子どもおよびその家庭に対する支援
 - 第12回 虐待予防と要保護児童などの家庭に対する支援
 - 第13回 保護者の理解とかかわり方
 - 第14回 文書や行事を活用した子育て支援 連絡帳、おたより、行事の持ち方
 - 第15回 保育士に求められる子育て支援 振り返りと今後の課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教科書を予めよく読んでわからないことなどは事前に調べておくこと。（1時間）
配布したワークシートの記入をし、次の授業の前に提出する。（1時間）

【成績の評価】

授業中の態度（10%）、毎回のワークシートの記入内容（30%）、提出物（10%）、定期試験（50%）により評価します。
小テスト、ワークシートは、添削して授業時に返却します。
定期試験については、希望する人は模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】

子育て支援 新・基本保育シリーズ⑨ （中央法規出版株式会社 2019年）

【参考文献】

保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆監修 （ミネルヴァ書房 2018年）
子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック 二宮 祐子 （萌文書林 2018年）
演習・保育と子育て支援 （株式会社みらい 2019年）

科目名： <TOKU24> 保育相談支援【発A】
担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育園、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中で、保護者からの相談を受け、その対応の仕方を一緒に考え、助言をしてきました。2017年告示の「保育所保育指針」第4章子育て支援などに示されている通り、保育士は子どもの保育に加えて保護者からの相談に応じたり助言をしたりする職務が義務化されました。子育て支援の授業では「保育所保育指針」第4章子育て支援を踏まえて、保育士の行う保育の専門性に基づいた保護者に対する相談、助言、情報提供の特性を理解し、養成段階で経験することが難しい具体的な場面の事例を通して学び、子どもはもちろん保護者や子育てに関わる人と協力、協働しながら子どもたちの育ちを支えるために必要な保育の実践力を養うことを目的としています。また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 子育て支援の必要性を理解した上で実践できる。
2. 保育士の専門性を活かした保護者に対する相談、助言、情報提供などの支援についてその特性と展開を具体的に理解することができる。
3. 保育士が行う子育て支援について、その時の状況に合わせた支援の方法やその支援をする意義を、事例を通して理解することができる。
4. 子どもの育ちにつながる支援のあり方とその意義について理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 子育て支援とは 子どもの保育とともに行う保護者の支援
 - 第2回 子育て支援の意義
 - 第3回 子育て支援の基本姿勢① 子どもの最善の利益の尊重
 - 第4回 子育て支援の基本姿勢② 保育の専門性と子育て支援
 - 第5回 子育て支援の基本姿勢③ 保護者との相互理解・信頼関係
 - 第6回 保育所・認定こども園などの特性をいかした支援
 - 第7回 子育て支援の計画と環境構成
 - 第8回 支援の実践、記録、評価
 - 第9回 地域の関係機関との連携・協力
 - 第10回 障がいのある子どもおよびその家庭に対する支援
 - 第11回 特別な配慮が必要な子どもおよびその家庭に対する支援
 - 第12回 虐待予防と要保護児童などの家庭に対する支援
 - 第13回 保護者の理解とかかわり方
 - 第14回 文書や行事を活用した子育て支援 連絡帳、おたより、行事の持ち方
 - 第15回 保育士に求められる子育て支援 振り返りと今後の課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教科書を予めよく読んでわからないことなどは事前に調べておくこと。（1時間）
配布したワークシートの記入をし、次の授業の前に提出する。（1時間）

【成績の評価】

授業中の態度（10%）、毎回のワークシートの記入内容（30%）、提出物（10%）、定期試験（50%）により評価します。
小テスト、ワークシートは、添削して授業時に返却します。
定期試験については、希望する人は模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】

子育て支援 新・基本保育シリーズ⑨ （中央法規出版株式会社 2019年）

【参考文献】

保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆監修 （ミネルヴァ書房 2018年）
子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック 二宮 祐子 （萌文書林 2018年）
演習・保育と子育て支援 （株式会社みらい 2019年）

科目名： <T0KU24> 保育相談支援【発B】
担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育園、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中で、保護者からの相談を受け、その対応の仕方を一緒に考え、助言をしてきました。2017年告示の「保育所保育指針」第4章子育て支援などに示されている通り、保育士は子どもの保育に加えて保護者からの相談に応じたり助言をしたりする職務が義務化されました。子育て支援の授業では「保育所保育指針」第4章子育て支援を踏まえて、保育士の行う保育の専門性に基づいた保護者に対する相談、助言、情報提供の特性を理解し、養成段階で経験することが難しい具体的な場面の事例を通して学び、子どもはもちろん保護者や子育てに関わる人と協力、協働しながら子どもたちの育ちを支えるために必要な保育の実践力を養うことを目的としています。また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 子育て支援の必要性を理解した上で実践できる。
2. 保育士の専門性を活かした保護者に対する相談、助言、情報提供などの支援についてその特性と展開を具体的に理解することができる。
3. 保育士が行う子育て支援について、その時の状況に合わせた支援の方法やその支援をする意義を、事例を通して理解することができる。
4. 子どもの育ちにつながる支援のあり方とその意義について理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 子育て支援とは 子どもの保育とともに行う保護者の支援
 - 第2回 子育て支援の意義
 - 第3回 子育て支援の基本姿勢① 子どもの最善の利益の尊重
 - 第4回 子育て支援の基本姿勢② 保育の専門性と子育て支援
 - 第5回 子育て支援の基本姿勢③ 保護者との相互理解・信頼関係
 - 第6回 保育所・認定こども園などの特性をいかした支援
 - 第7回 子育て支援の計画と環境構成
 - 第8回 支援の実践、記録、評価
 - 第9回 地域の関係機関との連携・協力
 - 第10回 障がいのある子どもおよびその家庭に対する支援
 - 第11回 特別な配慮が必要な子どもおよびその家庭に対する支援
 - 第12回 虐待予防と要保護児童などの家庭に対する支援
 - 第13回 保護者の理解とかかわり方
 - 第14回 文書や行事を活用した子育て支援 連絡帳、おたより、行事の持ち方
 - 第15回 保育士に求められる子育て支援 振り返りと今後の課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教科書を予めよく読んでわからないことなどは事前に調べておくこと。（1時間）
配布したワークシートの記入をし、次の授業の前に提出する。（1時間）

【成績の評価】

授業中の態度（10%）、毎回のワークシートの記入内容（30%）、提出物（10%）、定期試験（50%）により評価します。
小テスト、ワークシートは、添削して授業時に返却します。
定期試験については、希望する人は模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】

子育て支援 新・基本保育シリーズ⑨ （中央法規出版株式会社 2019年）

【参考文献】

保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆監修 （ミネルヴァ書房 2018年）
子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック 二宮 祐子 （萌文書林 2018年）
演習・保育と子育て支援 （株式会社みらい 2019年）

科目名： <TOKU25> 社会福祉
担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

この授業は実務経験(児童相談所、障害者支援施設、発達障害者支援センター、民生児童委員、引きこもり対策検討委員など)のある教員による授業科目です。福祉現場の経験を活かし、具体例を示しながら授業を行います。

社会福祉の基本「福祉とは何か」を共に考えていきます。社会福祉の考え方や、社会福祉を取り巻く現状・課題を学習したうえで、子ども家庭福祉の視点について理解してきます。社会福祉の制度や実施体系、共生社会の実現と障害者施策、また、相談援助等の社会福祉全般に関する理解を深めます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関わっています。

なお、学修成果『②豊かな心をもち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

この授業科目は、保育士資格取得のための必修科目です。

【到達目標】

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点について理解できる。
2. 社会福祉の制度や実施体制について理解できる。
3. 社会福祉における相談援助について理解できる。
4. 社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解できる。
5. 社会福祉の動向と課題について理解できる。

【授業計画】

第1回	社会福祉の理念と概念
第2回	社会福祉の歴史的変遷①－イギリス、アメリカ、スウェーデン
第3回	社会福祉の歴史的変遷②－日本
第4回	子ども家庭福祉と社会福祉
第5回	社会福祉の制度と法体系
第6回	社会福祉行政と実施機関
第7回	社会福祉施設と福祉専門職
第8回	社会保障及び関連制度の概要
第9回	相談援助の意義
第10回	相談援助の理論と方法
第11回	相談援助の対象と技術
第12回	利用者の保護～権利擁護と苦情解決等
第13回	現代の福祉問題－少子化社会における子育て支援
第14回	現代の福祉問題－共生社会の実現と障害者施策
第15回	社会福祉の動向と課題－在宅福祉・地域福祉の推進
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業ごとに、配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(計30時間)。
その中で特に気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。
期間中に3回のレポートを課す(計30時間)

【成績の評価】

期末テスト(70%) レポート(30%)
レポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ってレジュメ又はスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 『保育と社会福祉』(橋本好一・宮田徹編著、みらい、2014年)
『社会福祉と私たちの生活』(小林育子・一瀬早百合著、萌文書林、2016年)
『社会福祉』(直島正樹・原田旬哉編著、萌文書林、2015年)
『社会福祉』(松原康雄・坪洋一・金子充編、中央法規、2019年)
『社会福祉』(新川康弘・宮野安治編、青鞥社、2020年)
『民生委員・児童委員必携第64集』(全国社会福祉協議会発行、2020年)

科目名： <T0KU26>子ども家庭福祉
担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

この授業は実務経験(児童相談所、児童自立支援施設、障害児施設、不登校等各種委員、民生児童委員など)のある教員による授業科目です。担当教員の現場経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

子ども家庭福祉は、子どもの福祉の増進とともに、「子どものより良き適応を援助する」だけでなく、子どもの家庭を含めて支援する体制や仕組みが必要となっています。また、現代社会における子ども・家庭問題は、少子化の中で、児童虐待をはじめ、危機的状況に立たされています。このような現状と課題に加えて、子ども家庭福祉の専門職として、子どもの人権擁護や貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応等について理解を深めます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関わっています。

なお、学修成果『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

この授業科目は保育士資格取得のための必修科目でもあります。

【到達目標】

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解できる。
2. 子どもの人権擁護について理解できる。
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。
4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解できる。
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 子ども家庭福祉の理念と概念
 - 第2回 子ども家庭福祉の歴史①－イギリス、アメリカ
 - 第3回 子ども家庭福祉の歴史②－日本
 - 第4回 現代社会と子ども家庭福祉
 - 第5回 子どもの人権擁護－歴史の変遷
 - 第6回 子どもの人権擁護－子どもの権利条約
 - 第7回 子ども家庭福祉の制度と法体系
 - 第8回 児童福祉施設と専門職
 - 第9回 少子化と地域子育て支援
 - 第10回 多様な保育ニーズへの対応
 - 第11回 子ども虐待・DVとその防止
 - 第12回 障害のある子どもへの対応
 - 第13回 少年非行等への対応
 - 第14回 貧困家庭、外国籍の子どもとその家族への対応
 - 第15回 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業ごとに、配布されたプリントやノートを使って授業内容の整理をし(計30時間)、予習として、次回テーマに関して、専門用語などを図書館等で調べてノートにまとめておくこと。
また、期間中に、特定のテーマについて3回のレポートを課す。(計30時間)

【成績の評価】

期末テスト(70%)、レポート(30%)
レポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ってレジュメ又はスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 『子ども家庭福祉』（吉田真理著、萌文書林、2018年）
- 『子どもと家庭の福祉を学ぶ』（松本園子、堀口美智子、森和子著、みなみ書房、2018年）
- 『子ども家庭福祉』（佐々木政人・澁谷昌史編著、光生館、2011年）
- 『子ども家庭福祉』（児童育成会監修、新保幸男・小林理編集、中央法規 2019年）
- 『保育者のための児童家庭福祉データブック2022』（西郷泰之・宮島清編集、中央法規 2021年）
- 『民生委員・児童委員必携 第64集』（全国社会福祉協議会発行、2020年）

科目名： 児童家庭福祉

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

この授業は実務経験(児童相談所、児童自立支援施設、障害児施設、不登校等各種委員、民生児童委員など)のある教員による授業科目です。担当教員の現場経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

子ども家庭福祉は、子どもの福祉の増進とともに、「子どものより良き適応を援助する」だけでなく、子どもの家庭を含めて支援する体制や仕組みが必要となっています。また、現代社会における子ども・家庭問題は、少子化の中で、児童虐待をはじめ、危機的状況に立たされています。このような現状と課題に加えて、子ども家庭福祉の専門職として、子どもの人権擁護や貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応等について理解を深めます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関わっています。

なお、学修成果『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

この授業科目は保育士資格取得のための必修科目でもあります。

【到達目標】

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解できる。
2. 子どもの人権擁護について理解できる。
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。
4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解できる。
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 子ども家庭福祉の理念と概念
 - 第2回 子ども家庭福祉の歴史①－イギリス、アメリカ
 - 第3回 子ども家庭福祉の歴史②－日本
 - 第4回 現代社会と子ども家庭福祉
 - 第5回 子どもの人権擁護－歴史の変遷
 - 第6回 子どもの人権擁護－子どもの権利条約
 - 第7回 子ども家庭福祉の制度と法体系
 - 第8回 児童福祉施設と専門職
 - 第9回 少子化と地域子育て支援
 - 第10回 多様な保育ニーズへの対応
 - 第11回 子ども虐待・DVとその防止
 - 第12回 障害のある子どもへの対応
 - 第13回 少年非行等への対応
 - 第14回 貧困家庭、外国籍の子どもとその家族への対応
 - 第15回 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業ごとに、配布されたプリントやノートを使って授業内容の整理をし(計30時間)、予習として、次回テーマに関して、専門用語などを図書館等で調べてノートにまとめておくこと。
また、期間中に、特定のテーマについて3回のレポートを課す。(計30時間)

【成績の評価】

期末テスト(70%)、レポート(30%)
レポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ってレジュメ又はスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 『子ども家庭福祉』（吉田真理著、萌文書林、2018年）
- 『子どもと家庭の福祉を学ぶ』（松本園子、堀口美智子、森和子著、みなみ書房、2018年）
- 『子ども家庭福祉』（佐々木政人・澁谷昌史編著、光生館、2011年）
- 『子ども家庭福祉』（児童育成会監修、新保幸男・小林理編集、中央法規 2019年）
- 『保育者のための児童家庭福祉データブック2022』（西郷泰之・宮島清編集、中央法規 2021年）
- 『民生委員・児童委員必携 第64集』（全国社会福祉協議会発行、2020年）

科目名： <TOKU26>特別支援教育
担当教員： 湯浅 恭正(YUASA Takamasa)

【授業の紹介】

特別の支援を必要とする児童・生徒(発達障害児・知的障害児等)の理解を進めるための基本を講義し、学校等において支援するための教育内容・方法についての基本を学ぶ。そのために、特別な支援を必要とする児童・生徒の心理特性・発達特性を踏まえて、学級経営・授業づくり等の場面での指導方法とその背景にある教育課程の概要を講義する。具体的な実践事例も取り上げて、教師の資質・能力として必要な知識・技術・教育観について学ぶ。さらにインクルーシブ教育の国際的な背景や動向・制度の基本を押さえ、「通級による指導」や個別の指導計画・教育支援計画の必要性・関係機関との連携等、特別支援教育に関する現代の課題にも触れる。

なお、この授業では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」を目指す。また、学修成果『⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している』『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連している。

【到達目標】

1. 特別な支援を必要とする児童・生徒(発達障害児・知的障害児等)の生活・発達・学習における困難さ・個別のニーズを把握するための基本を理解することができる。
2. 特別な支援を必要とする児童・生徒が授業や学級活動に参加するために教師や学校組織等に必要な知識・支援方法・関係機関との連携のあり方の基本を理解することができる。
3. 特別な支援を必要とする児童・生徒とともに生きるインクルーシブな共生社会の在り方の基本を理解することができる。

【授業計画】

集中講義「特別支援教育」については、新型コロナウイルスの感染拡大予防のためオンラインを含めて検討し、実施いたします。オンライン授業に参加するために、ネットにつながるマイク付きのパソコンが各自必要となります。自分で用意できる人は自宅で受講してください。授業内で担当教員からマイクをオンにするように指示があれば、オンにしてください。また、ブレイクアウトルームを利用してグループワークを実施する予定です。

用意が出来ない人は、大学にて演習室を開放しますので、ヘッドセットを各自で用意し、9月3日(金)17時まで教務課に連絡してください(受付時間：平日8:30~17:30)。連絡が無い場合は、自宅にて受講するものとみなします。

また、Google Classroomに資料をアップしていますので、授業開始前までに確認してください。クラスコードは、「v3c4lbt」です。

Zoomのリンクは以下の通りです。

Zoomミーティングに参加する

<https://us02web.zoom.us/j/6207515338?pwd=UWVwY3I1YThYb2Y0cjFicWpTNHpPZz09>

ミーティングID: 620 751 5338

パスコード: 0rAXjv

第1回: 特別支援教育を学ぶために-授業のガイダンス

第2回: インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の理念・制度について

第3回: 発達障害、知的障害のある児童・生徒の発達特性について

第4回: 発達障害、知的障害のある児童・生徒の心理特性について

第5回: 特別支援学校・学級に在籍する児童・生徒の学習・発達における困難さについて

第6回: 特別な支援を必要とする幼児の支援方法について

第7回: 特別な支援を必要とする児童・生徒の支援方法について

第8回: 教育課程における「通級による指導」「自立活動」の位置づけについて

第9回: 「通級による指導」の内容について

第10回: 「自立活動」の内容について

第11回: 個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義と教育課程について

第12回: 個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成する方法について

第13回: 関係機関と連携して特別支援教育の体制を構築する意義について

第14回: 母国語や貧困等の問題により特別なニーズのある児童・生徒の困難さと組織的対応について

第15回: インクルーシブ教育時代の特別支援教育の方向について

定期試験

【授業時間外の学習】

各授業で示す課題を授業時間外において学習して、次の授業時に提出するなどの復習・予習することが必要である(2時間)。授業で紹介した特別支援教育についての文献・実践記録等を検索して収集し、学習した結果を指定期日までに提出することが必要である(2時間)。

【成績の評価】

定期試験(80%)、いくつかの授業の区切りの最後に提出するレポート(20%)
提出されたレポートは、口頭でコメントをつけて返却する。また、定期試験においては採点基準を示して説明する。

【使用テキスト】

『よくわかる特別支援教育 第2版』(湯浅恭正編、ミネルヴァ書房、2018)

【参考文献】

授業中適宜資料を配付する。
なお参考として、渡部昭男『障害のある子の就学・進学ガイドブック改訂新版』日本標準
がありますので、参考にして下さい。

科目名： <ONGA1> 音楽理論
担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

時間芸術である音楽、これを再現する手段として「楽譜」があります。楽譜から様々な情報を得て私たちは演奏しています。それを正しく読み取ること、そして逆の立場から、人にこちらの思う通りに正確に演奏してもらえらる楽譜を書けることが音楽活動には必要です。五線に記号を並べただけのものから、あの名曲が再現されるのです。楽譜の秘密を解き明かしながら様々な方向から音楽にアプローチしていきます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざし、特に音楽環境を豊かにできる基礎力を身に付けることができます。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. 正確に楽譜の読み書きができる
2. 楽譜の知識をもとにして、理論的裏付けのある表現ができる
3. 正しく楽譜を使って子どもたちに的確な対応ができる
4. 子どもの音楽環境を豊かに保ち、音楽的感性を拓く人的環境になることをめざす

【授業計画】

- 第1回 高校までに学んだ音楽の知識。調号の基礎。移動ド唱法とは何か。
 - 第2回 楽譜に注目してみよう。楽譜の語るもの。音符と休符、音部記号、速度記号、拍子記号。
 - 第3回 楽譜の基礎知識確認。連桁の使い方。音程とは何か。
 - 第4回 2度・3度音程の理解。キーボード上の3度音程と和音。正しい記譜①スペースの取り方。
 - 第5回 コードネームと和音記号。キーボード上で和音をつかむ練習。
正しい記譜②拍子に合わせた記譜。
 - 第6回 2度・3度以外の音程。日本音名、ドイツ音名。異名同音の考え方。
 - 第7回 音程の練習。長音階の構造から長調の調号へ。
 - 第8回 様々な音程、長音階と音程のまとめ。
 - 第9回 五度円の理解と使い方。平行調の理解。
 - 第10回 短調の調号、各種の短音階。
 - 第11回 音程・音階の復習。移調の基礎。
 - 第12回 コードネームの復習。属七の和音の重要性。
 - 第13回 授業のまとめ。練習問題1の実施。
 - 第14回 練習問題1の解説。知識の確認。練習問題2の実施。
 - 第15回 練習問題2の解説 各種の楽譜を題材にこれまでの復習、応用の可能性。
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業用のメモ・ワークシートの他に、毎時練習課題を配布します。その内容は授業の復習であると共に次時への基礎・予習も含んでいるので必ず完成して(2時間)持参してください。

また、毎日目にするピアノの楽譜の中に学習した内容を発見することも大切です。疑問点を明らかにすることを目指して自ら(練習課題を参考に)問題を作ることをもう一つの課題とします。(2時間)

そういう取り組みを通して、これまでより楽譜に注目して音楽を聴く習慣をつけることを心がけてください。

【成績の評価】

筆記試験70%、講義・演習(学習シート)への取り組み30%

学習シート内の課題や練習課題は次回の授業時に解説、自作の問題についてはその都度チェックします。定期試験の模範解答と解説は、試験終了後に配布します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

菊池有恒著『楽典 音楽家を志す人のための』音楽之友社

科目名： <ONGA2> 器楽【電子オルガン】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

電子オルガンの授業です。教育・保育現場における音楽活動に必要な知識や演奏技術を楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスン形式で演奏指導を行います。こども音楽療育士の資格取得に関する科目です。電子オルガンの経験は問いません。初心者・経験者それぞれに合わせて選曲し進めていきますので心配ありません。電子オルガン用の3段楽譜とコードネーム付き1段譜の両方を学習することにより、教育・保育の現場での、より実践的な力が身に付きます。

なおこの授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 両手・両足を使って、いろいろなリズムの曲の演奏ができる。
2. コードネームを見て、その曲に適切な伴奏をつけることができる。
3. 日常的な子どもの活動に合わせて、その場にふさわしい音楽をつけることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力、電子オルガン演奏能力を調査し、楽曲を選定する。

電子オルガンの基本的操作の練習をする。

第2回	ジャズを弾く①クラリネットスイング（茶色の小びん）、マイレパートリー①を弾く
第3回	ジャズを弾く②デキシードジャズ（わらの中の七面鳥）、マイレパートリー①を弾く
第4回	ジャズを弾く③チャールストン（森のくまさん）、マイレパートリー①を弾く
第5回	8ビートを弾く①シンプル8ビート1（キラキラ星）、マイレパートリー①を弾く
第6回	8ビートを弾く②シンプル8ビート2（オーラリー）、マイレパートリー②を弾く
第7回	マーチを弾く①キッズマーチ1（1年生になったら）、マイレパートリー②を弾く
第8回	マーチを弾く②キッズマーチ2（さんぽ）、マイレパートリー②を弾く
第9回	ワルツを弾く①ピュアワルツ（エーデルワイス）、マイレパートリー②を弾く
第10回	クリスマス曲を弾く①スノーワルツ1（きよしこの夜）、マイレパートリー③を弾く
第11回	クリスマス曲を弾く②スノーワルツ2（おめでとうクリスマス）、マイレパートリー③を弾く
第12回	クリスマス曲を弾く③ウインタースイング（ジングルベル）、マイレパートリー③を弾く
第13回	ラテンのリズムを弾く①コミカルルンバ（南の島のハメハメ大王）、マイレパートリー③を弾く
第14回	ラテンのリズムを弾く②コミカルサンバ（アイアイ）、実技テストに弾く曲の復習①
第15回	ラテンのリズムを弾く③ポップチャチャ（おもちゃのチャチャチャ）、実技テストに弾く曲の復習②

定期試験

【授業時間外の学習】

楽器演奏には、日々の練習が欠かせません。また練習しないと授業そのものが成り立ちません。授業時に指摘した問題点を1週間間の練習によって改善してください。

毎日10分でも15分でも、楽器の前に座って練習することで、楽器に慣れ、楽器と仲良くなることで技術の向上も早くなります。

【成績の評価】

定期試験（70％）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（30％）なども加味して評価します。

定期試験は、「両手・両足を使って弾ける」、「ゆっくりでもリズムに合わせて弾ける」、「指示されたテンポでプログラムに合わせて弾ける」、「強弱もつけて音楽的に仕上げられている」の4段階を基準に採点します。

授業においては、楽曲の演奏について、指摘した問題点を次の授業に、また定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】

こどものうた 稲葉夕佳他著（2003年ヤマハミュージックメディア）

スタジオジブリ作品集1 上野みゆき他著（2005年ヤマハミュージックメディア）

ディズニー映画ベストソングセレクション 岩崎孝昭他著（2005年ヤマハミュージックメディア）等

【参考文献】

STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ165

STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ165Vol.2

尾野カオル他著（2004年ヤマハミュージックメディア）

科目名： <ONGA2>器楽【ピアノ】
担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

ピアノの授業です。教育、保育の現場における音楽活動に必要な知識を、楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスンで指導をします。こども音楽療育士の資格取得に関する科目です。

ソナチネ以上の演奏技術を有する学生対象の授業で、ソナチネ程度以上の楽曲から任意の一曲を選び、仕上げていきます。その中で演奏技術、音楽性を高めます。

【到達目標】

西洋クラシックを中心としたピアノ音楽に取り組むことで高い技術を習得することができる。
作品の背景についても学び、深い理解に基づいた演奏をすることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーションおよび楽曲の決定
第2回	各自のレベルに応じた個人指導（～第13回）
第3回	譜読み指導—作品全体について説明
第4回	〃 —運指、装飾音など奏法に関すること
第5回	〃 —調性、臨時記号（楽曲に応じて）
第6回	技術指導 —ペダル
第7回	〃 —難しい箇所のリズム練習
第8回	〃 —タッチの練習、音のバランス
第9回	作品の背景—作曲家について
第10回	〃 —作曲年代、時代背景
第11回	作品の構成—形式、フレーズ、和声構造
第12回	暗譜を通して弾く、解釈について
第13回	テンポ、リズム等の調整
第14回	実技テストに向けて～リハーサル
第15回	まとめ（受講生同士で演奏を聴き合い、お互いに意見・感想を交換する）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

譜読みのための練習（30分以上）と、授業時に指摘した問題点を克服するための練習（30分以上）を毎日行ってください。

【成績の評価】

定期試験（90%）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（10%）なども加味して評価します。

授業においては、楽曲の演奏について指摘した問題点を、次回の授業にて、また定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】

ソナチネアルバム以上のレベルの曲集

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA2> 器楽【弦楽器】
担当教員： 福崎 至佐子(FUKUZAKI Hisako)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。プロオーケストラの現場での演奏経験を活かし、具体的な事例を示しながら資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を養う授業を行います。

ヴァイオリンの基礎奏法を学びます。

ヴァイオリンについての概略（楽器の構造・歴史・取り扱い方法・弦の張り方・調弦方法・楽器の構え方）

弓についても同上とする。簡易な作品からスタートします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。」に関する知識・技法の修得をめざします。

なお、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

- ・やさしい童謡からスタートし、レベルに合わせて高度な楽曲も演奏することができる。
- ・美しい音色、正しい音程を聞き分ける耳を養い、絶対音感を身に付けることができる。
- ・大学のオータムコンサートに出演することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 楽器の構造・名称
 - 第3回 楽器の持ち方、弓の持ち方、姿勢
 - 第4回 ボーイング（運弓）の練習（右手）
 - 第5回 運指の練習（左手）
 - 第6回 リズムの練習
 - 第7回 全弓の練習（全音符、付点2分音符、等）
 - 第8回 キラキラ星変奏曲1（16分音符のリズムをはぎれ良く弾けるようにする）
 - 第9回 キラキラ星変奏曲2（三連音符のリズムを正しく弾けるようにする）
 - 第10回 蝶々、ロングロングアゴー（右手のボーイングをなめらかに使えるようにする）
 - 第11回 かすみか雲か、むすんでひらいて（付点4分音符の弓のスピードを保つようにする）
 - 第12回 バッハ作曲 メヌエット1番（スラーとポルタートのちがいを勉強する）
 - 第13回 バッハ作曲 メヌエット2番（移弦は手首を使ってなめらかに弾く練習をする）
 - 第14回 バッハ作曲 メヌエット3番（複雑なスラーをきちんと理解出来るようにする）
 - 第15回 ゴセック作曲 ガボット
- 定期試験

【授業時間外の学習】

復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。1日1時間以上の復習を心がけましょう。

【成績の評価】

①授業態度（20%）、②期末試験（80%）により総合的に判断します。
また、発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

鈴木慎一ヴァイオリン指導曲集第1巻
ヴァイオリン練習曲カイザー第1巻～第3巻

【参考文献】

ホームマンヴァイオリン教則本第1巻～第4巻

科目名： <ONGA3> 声楽

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する中で「音楽」は重要な要素の一分野である。「声」という最も身近で個人的かつ魅力的な楽器の使用法(発声法)を中心に学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるように歌唱レパートリーを充実させる。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力」の育成に関わっています。また、学修成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。」に関連しています。

【到達目標】

- ・ 息の流れを習得することができる。
- ・ 音域を広げることができる。
- ・ 声を明瞭にすることができる。
- ・ 童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。(1曲ずつ)

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番1~3、春の童謡
第3回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番4~6、春の唱歌
第4回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番7~9、夏の童謡
第5回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番10~12、夏の唱歌
第6回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番13~15、秋の童謡
第7回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番16~18、秋の唱歌
第8回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番19~21、冬の童謡
第9回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番22~24、冬の唱歌
第10回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番25~27、日本の抒情歌
第11回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番28~30、日本の抒情歌
第12回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番31~33、イタリア古典歌曲
第13回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番34~36、イタリア古典歌曲
第14回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番世界の名曲
第15回	呼吸法と発声練習、各クラスにて発表演奏

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。

指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。

【成績の評価】

指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。

当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%

実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。

最終回は全員でクラス発表を行い、感想を述べあう。問題点がある場合は再度練習をしてより高い完成度を目指す。

【使用テキスト】

- 『コンコーネ50番』(畑中良輔 編) (全音楽譜出版社)
- 『こどものうた大集合210』(坂田おさむ 編) (ソットーミュージック出版 2012年)
- 『日本の名歌集1・2』(音楽之友社 編) (音楽之友社 2010年)
- 『イタリア古典歌曲集』(畑中良輔 編) (全音楽譜出版社)

【参考文献】

- 『美しい発声法』(D.P.マクロスキー著、高山教子 訳) (音楽之友社 2002年)

科目名： <ONGA3> 声楽

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する中で「音楽」は重要な要素の一分野である。「声」という最も身近で個人的かつ魅力的な楽器の使用法(発声法)を中心に学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるように歌唱レパートリーを充実させる。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力」の育成に関わっています。また、学修成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。」に関連しています。

【到達目標】

- ・ 息の流れを習得することができる。
- ・ 音域を広げることができる。
- ・ 声を明瞭にすることができる。
- ・ 童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。(1曲ずつ)

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番1~3、春の童謡
第3回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番4~6、春の唱歌
第4回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番7~9、夏の童謡
第5回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番10~12、夏の唱歌
第6回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番13~15、秋の童謡
第7回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番16~18、秋の唱歌
第8回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番19~21、冬の童謡
第9回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番22~24、冬の唱歌
第10回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番25~27、日本の抒情歌
第11回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番28~30、日本の抒情歌
第12回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番31~33、イタリア古典歌曲
第13回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番34~36、イタリア古典歌曲
第14回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番世界の名曲
第15回	呼吸法と発声練習、各クラスにて発表演奏

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。

指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。

【成績の評価】

指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。

当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%

実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。

最終回は全員でクラス発表を行い、感想を述べあう。問題点がある場合は再度練習をしてより高い完成度を目指す。

【使用テキスト】

- 『コンコーネ50番』(畑中良輔 編) (全音楽譜出版社)
- 『こどものうた大集合210』(坂田おさむ 編) (ソットーミュージック出版 2012年)
- 『日本の名歌集1・2』(音楽之友社 編) (音楽之友社 2010年)
- 『イタリア古典歌曲集』(畑中良輔 編) (全音楽譜出版社)

【参考文献】

- 『美しい発声法』(D.P.マクロスキー著、高山教子 訳) (音楽之友社 2002年)

科目名： <ONGA3> 声楽

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する中で「音楽」は重要な要素の一分野である。「声」という最も身近で個人的かつ魅力的な楽器の使用法(発声法)を中心に学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるように歌唱レパートリーを充実させる。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力」の育成に関わっています。また、学修成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。」に関連しています。

【到達目標】

- ・ 息の流れを習得することができる。
- ・ 音域を広げることができる。
- ・ 声を明瞭にすることができる。
- ・ 童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。(1曲ずつ)

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番1~3、春の童謡
第3回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番4~6、春の唱歌
第4回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番7~9、夏の童謡
第5回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番10~12、夏の唱歌
第6回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番13~15、秋の童謡
第7回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番16~18、秋の唱歌
第8回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番19~21、冬の童謡
第9回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番22~24、冬の唱歌
第10回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番25~27、日本の抒情歌
第11回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番28~30、日本の抒情歌
第12回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番31~33、イタリア古典歌曲
第13回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番34~36、イタリア古典歌曲
第14回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番世界の名曲
第15回	呼吸法と発声練習、各クラスにて発表演奏

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。

指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。

【成績の評価】

指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。

当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%

実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。

最終回は全員でクラス発表を行い、感想を述べあう。問題点がある場合は再度練習をしてより高い完成度を目指す。

【使用テキスト】

- 『コンコーネ50番』(畑中良輔 編) (全音楽譜出版社)
- 『こどものうた大集合210』(坂田おさむ 編) (ソットーミュージック出版 2012年)
- 『日本の名歌集1・2』(音楽之友社 編) (音楽之友社 2010年)
- 『イタリア古典歌曲集』(畑中良輔 編) (全音楽譜出版社)

【参考文献】

- 『美しい発声法』(D.P.マクロスキー著、高山教子 訳) (音楽之友社 2002年)

科目名： <ONGA3> 声楽

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する中で「音楽」は重要な要素の一分野である。「声」という最も身近で個人的かつ魅力的な楽器の使用法(発声法)を中心に学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるように歌唱レパートリーを充実させる。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力」の育成に関わっています。また、学修成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。」に関連しています。

【到達目標】

- ・ 息の流れを習得することができる。
- ・ 音域を広げることができる。
- ・ 声を明瞭にすることができる。
- ・ 童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。(1曲ずつ)

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番1~3、春の童謡
第3回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番4~6、春の唱歌
第4回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番7~9、夏の童謡
第5回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番10~12、夏の唱歌
第6回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番13~15、秋の童謡
第7回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番16~18、秋の唱歌
第8回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番19~21、冬の童謡
第9回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番22~24、冬の唱歌
第10回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番25~27、日本の抒情歌
第11回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番28~30、日本の抒情歌
第12回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番31~33、イタリア古典歌曲
第13回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番34~36、イタリア古典歌曲
第14回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番世界の名曲
第15回	呼吸法と発声練習、各クラスにて発表演奏

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。

指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。

【成績の評価】

指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。

当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%

実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。

最終回は全員でクラス発表を行い、感想を述べあう。問題点がある場合は再度練習をしてより高い完成度を目指す。

【使用テキスト】

- 『コンコーネ50番』(畑中良輔 編) (全音楽譜出版社)
- 『こどものうた大集合210』(坂田おさむ 編) (ソットーミュージック出版 2012年)
- 『日本の名歌集1・2』(音楽之友社 編) (音楽之友社 2010年)
- 『イタリア古典歌曲集』(畑中良輔 編) (全音楽譜出版社)

【参考文献】

- 『美しい発声法』(D.P.マクロスキー著、高山教子 訳) (音楽之友社 2002年)

科目名： <ONGA4>合唱

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する中で「音楽」は重要な要素の一分野である。「声」は最も身近で個人的かつ魅力的な楽器である。受講者全員が其々の声を響かせ、心をつなげて歌い上げる合唱は、子どもの豊かな心や創造力を導き出す為に、高い使命感・倫理観を醸成し、教育・保育に必要な実践力を体現することができる。受講者全員の声を聴きそれぞれの声に合ったパート分けをし、二部、三部、四部合唱等を楽しむことができるようにします。女声合唱、男声合唱、混声合唱等各種の合唱の魅力を味わい、人の声の素晴らしさを体験し、曲目については、日本の名曲、世界の名曲、童謡等から選び外国の曲は原語で演奏する。バロックから現代まで幅広く選曲します。この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力」の育成に関わっています。また、学修成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。」に関連しています。

【到達目標】

- ・ 各自のパートをしっかりと歌うことができる。
- ・ 合唱になっても他のパートにつられない様に歌うことができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション6曲の合唱曲発表。パート分け
第2回	発声練習、楽曲解説、パート練習
第3回	発声練習、パート練習① 春の曲、夏の曲
第4回	発声練習、パート練習② 秋の曲、冬の曲
第5回	発声練習、パート練習③ 春の曲、夏の曲
第6回	発声練習、パート練習④ 秋の曲、冬の曲
第7回	発声練習、パート練習、全体練習① 春の曲、夏の曲
第8回	発声練習、パート練習、全体練習② 秋の曲、冬の曲、
第9回	発声練習、パート練習、全体練習③ 春の曲、夏の曲
第10回	発声練習、パート練習、全体練習④ 秋の曲、冬の曲
第11回	発声練習、全体練習、パート練習① 春、夏、秋の曲、3曲
第12回	発声練習、全体練習、パート練習② 夏、秋、冬の曲、3曲
第13回	発声練習、全体練習、パート練習③ 春、冬、を中心に完成度の低い曲
第14回	発声練習、全体練習、パート練習④ 全6曲
第15回	発声練習、全体練習、その後公開演奏、総合的なまとめ

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

まず、テキストの音読と各自のパートの譜読みに毎日少しずつ、週に1時間以上時間を十分かけて欲しい。テキストの内容の解釈に努めてほしい。

【成績の評価】

各自の個性を大切にしつつ全体のハーモニーの事を考え、楽曲の理解や演奏内容を考慮して評価し、単位を認定する。

公開演奏90% 課題への取り組み方10%

最終授業時に、広い会場で演奏して音楽の美しさ・楽しさを感じ取る。録音をして完成度を確かめ各パート問題箇所は続いてオータムコンサートに向けて更に練習すること。

【使用テキスト】

『コンコーネ50番』（畑中良輔編）（全音楽譜出版社）
『各種合唱名曲集』等

【参考文献】

『声とことばのトレーニング』（加藤友康）桐書房出版（1998年）

科目名： <ONGA5>合奏

担当教員： 金川 公久(KANAGAWA Hirohisa)

【授業の紹介】

中学・高校の吹奏楽部などで器楽演奏を経験した者及び個人的に習ったことのある管打楽器を使用して合奏を行う授業です。

指導者による合奏を通し、演奏上の様々な問題点についての支援方法を体験することにより、演奏法に関する諸情報を収集し、理解し、それを基盤として演奏にかかる諸問題を自ら発見し解決することができる能力を培い、将来、子供たちをより良い環境に導くための実践的能力を養うことで教育に係る資質を身に着け、学部をめざす教育者像をめざします。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有すること」に関する知識、技法を修得する。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 演奏技術及び合奏技術の向上を図ることができる。
2. 集団での演奏活動を通して、積極性、協調性、社会性、集中力や感性を養うことができる。
3. 将来、子供たちを指導するためのポイントのつかみ方を学ぶことができる。

【授業計画】

下記の授業計画は目安であり、内容や進行は状況に応じて変わることがあります。

第1回	オリエンテーション	
第2回	基礎合奏及び楽曲合奏	「J-BEST'21」の初見合奏及び部分合奏
第3回	基礎合奏及び楽曲合奏	「J-BEST'21」の部分合奏によるピッチ合わせ
第4回	基礎合奏及び楽曲合奏	「J-BEST'21」の部分合奏によるバランス調整
第5回	基礎合奏及び楽曲合奏	「J-BEST'21」のピッチ合わせ
第6回	基礎合奏及び楽曲合奏	「J-BEST'21」のバランス調整
第7回	基礎合奏及び楽曲合奏	「ぼよよん行進曲」「笑点のテーマ」の初見演奏及び部分合奏
第8回	基礎合奏及び楽曲合奏	「ぼよよん行進曲」「笑点のテーマ」の部分合奏によるピッチ合わせ
第9回	基礎合奏及び楽曲合奏	「ぼよよん行進曲」「笑点のテーマ」の部分合奏によるバランス調整
第10回	基礎合奏及び楽曲合奏	「糸」の初見演奏及び部分合奏、通し合奏①
第11回	基礎合奏及び楽曲合奏	「糸」の部分合奏によるピッチ合わせ、通し合奏②
第12回	基礎合奏及び楽曲合奏	「糸」の部分合奏によるバランス調整、通し合奏③
第13回	基礎合奏及び楽曲合奏	通し合奏④
第14回	基礎合奏及び楽曲合奏	通し合奏⑤
第15回	基礎合奏及び楽曲合奏	通し合奏⑥

定期試験は行わない

※通し合奏は楽曲の中から演奏の状況により変更することがあります。

【授業時間外の学習】

楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日30分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。

【成績の評価】

平常の授業への取り組み姿勢50%、個人的指導に対する応える能力50%。

演奏内容について、合奏する合間で、常に講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

全体的な演奏の技量に応じて、楽譜などを配布します。

【参考文献】

JBCバンドスタディ（ヤマハ楽譜出版）

3Dハンドブック（ヤマハ楽譜出版）

科目名： <ONGA6>音楽Ⅰ－Ⅰ

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu), 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

小学校音楽科の授業、また音楽に関連した特別活動の指導上必要な専門的知識と実践的能力を身に付けられるよう以下の項目を中心に学びます。

- ・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技能。
 - ・授業展開に必要な音楽理論。
 - ・小学校音楽科で扱われる種々の楽器の取り扱いと演奏技術。
 - ・歌唱共通教材を中心に、ハ、二、ヘ、ト、変ロ長調の階名唱。
 - ・簡単な合奏と、4分の2、4分の3、4分の4、8分の6拍子の指揮法。
- また自ら継続的に学ぶ能力を養うために、毎週系統的な課題に臨み、安定した学びの習慣を確立します。

【到達目標】

- 1 児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得できる。
- 2 曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
- 3 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことができる。
- 4 小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、ピアノ演奏技術の進捗調査（自由曲の演奏）、楽譜の説明
第2回：ピアノ奏法（1）、ハ長調、イ短調音階、ハ長調の階名唱、I度の三和音
第3回：ピアノ奏法（2）、ト長調、ホ短調音階、ト長調の階名唱、V度の三和音
第4回：ピアノ奏法（3）、ニ長調、ロ短調音階、ニ長調階名唱、IV度の三和音
第5回：ピアノ奏法（4）、ヘ長調、二短調音階、ヘ長調の階名唱、V7の和音
第6回：ピアノ奏法（5）、変ロ長調、ト短調音階、変ロ長調の階名唱、和音の転回
第7回：ピアノ奏法（6）、基本的な伴奏法
第8回：ピアノ奏法（7）、簡単なコード（C,F,G,G7）による伴奏法
第9回：歌唱共通教材を使用した歌唱法
第10回：歌唱共通教材のピアノ弾き歌い
第11回：リコーダー奏法
第12回：鍵盤ハーモニカ奏法
第13回：さまざまな打楽器の奏法、ボディ・パーカッションと音楽遊び
第14回：4分の2、あるいは4分の4拍子の合奏曲と指揮法
第15回：4分の3および8分の6拍子の合奏曲と指揮法
定期試験：筆記試験、実技試験（ピアノ弾き歌い）

【授業時間外の学習】

学習用ワークシートを宿題とする。理論的な課題に沿って適宜指定された実技練習を行い、毎週合わせて120分以上を目安とする。実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。

【成績の評価】

定期試験-筆記（20%）、定期試験-実技（50%）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（30%）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
（平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社）

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： <ONGA7>音楽Ⅰ－Ⅱ

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu), 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。7. 教育。保育に係る資質向上に向けた継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果『⑥教保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

小学校音楽科の授業、また音楽に関連した特別活動の指導上必要な専門的知識と実践的能力を身に付けられるよう、音楽Ⅰ-Ⅱに引き続き、以下の項目を中心に学びます。

- ・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技能。
 - ・授業展開に必要な音楽理論。
 - ・小学校音楽科で扱われる種々の楽器の取り扱いと演奏技術。
 - ・階名唱の反復練習、簡単な弾き歌い、および2部合唱。
 - ・出来るだけ多くの楽器の体験。
 - ・（既存の合奏譜に加える形で）打楽器パートのリズム譜の作成とその演奏。
- また自ら継続的に学ぶ能力を養うために、毎週系統的な課題に臨み、安定した学びの習慣を確立します。

【到達目標】

- 1 児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得できる。
- 2 曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
- 3 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことができる。
- 4 小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期の復習
 - 第2回：ピアノ奏法（1）拍子の確認
 - 第3回：ピアノ奏法（2）音価の確認
 - 第4回：ピアノ奏法（3）I/IV/V/V7の和音の確認
 - 第5回：ピアノ奏法（4）和音の転回の確認
 - 第6回：ピアノ奏法（5）コード（C,F,G,G7）の確認
 - 第7回：弾き歌い（1）低学年の曲から
 - 第8回：弾き歌い（2）中学年の曲から
 - 第9回：合唱（1）さまざまな練習法、パート練習
 - 第10回：合唱（2）全体練習、留意点の確認
 - 第11回：合唱（3）発表、ふり返り
 - 第12回：合奏（1）リズム譜の作成
 - 第13回：合奏（2）さまざまな練習法、パート練習
 - 第14回：合奏（3）全体練習、留意点の確認
 - 第15回：合奏（4）発表、ふり返り
- 定期試験：筆記試験、実技試験（ピアノ弾き歌い）

【授業時間外の学習】

学習用ワークシートを宿題とする。理論的な課題に沿って適宜指定された実技練習を行い、毎週合わせて120分以上を目安とする。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。

【成績の評価】

定期試験-筆記（20％）、定期試験-実技（50％）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（30％）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
（平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社）

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発A】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する）

第2回 実技指導① バイエル 8番～17番

第3回 実技指導② バイエル18番～27番

第4回 実技指導③ バイエル28番～37番

第5回 実技指導④ バイエル38番～47番

第6回 実技指導⑤ バイエル48番～57番

第7回 実技指導⑥ バイエル58番～69番

第8回 実技指導⑦ バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）

第10回 課題曲を中心に実技指導②

第11回 課題曲を中心に実技指導③

第12回 課題曲を中心に実技指導④

第13回 課題曲を中心に実技指導⑤

第14回 課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー100番・30番教則本』
『ブルグミュラー25番練習曲集』
『ソナチネアルバム第1巻』
『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発A】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する）

第2回 実技指導① バイエル 8番～17番

第3回 実技指導② バイエル18番～27番

第4回 実技指導③ バイエル28番～37番

第5回 実技指導④ バイエル38番～47番

第6回 実技指導⑤ バイエル48番～57番

第7回 実技指導⑥ バイエル58番～69番

第8回 実技指導⑦ バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）

第10回 課題曲を中心に実技指導②

第11回 課題曲を中心に実技指導③

第12回 課題曲を中心に実技指導④

第13回 課題曲を中心に実技指導⑤

第14回 課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発A】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する）

第2回 実技指導① バイエル 8番～17番

第3回 実技指導② バイエル18番～27番

第4回 実技指導③ バイエル28番～37番

第5回 実技指導④ バイエル38番～47番

第6回 実技指導⑤ バイエル48番～57番

第7回 実技指導⑥ バイエル58番～69番

第8回 実技指導⑦ バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）

第10回 課題曲を中心に実技指導②

第11回 課題曲を中心に実技指導③

第12回 課題曲を中心に実技指導④

第13回 課題曲を中心に実技指導⑤

第14回 課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発A】
担当教員： 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する）

第2回 実技指導① バイエル 8番～17番

第3回 実技指導② バイエル18番～27番

第4回 実技指導③ バイエル28番～37番

第5回 実技指導④ バイエル38番～47番

第6回 実技指導⑤ バイエル48番～57番

第7回 実技指導⑥ バイエル58番～69番

第8回 実技指導⑦ バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）

第10回 課題曲を中心に実技指導②

第11回 課題曲を中心に実技指導③

第12回 課題曲を中心に実技指導④

第13回 課題曲を中心に実技指導⑤

第14回 課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発A】
担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する）

第2回 実技指導① バイエル 8番～17番

第3回 実技指導② バイエル18番～27番

第4回 実技指導③ バイエル28番～37番

第5回 実技指導④ バイエル38番～47番

第6回 実技指導⑤ バイエル48番～57番

第7回 実技指導⑥ バイエル58番～69番

第8回 実技指導⑦ バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）

第10回 課題曲を中心に実技指導②

第11回 課題曲を中心に実技指導③

第12回 課題曲を中心に実技指導④

第13回 課題曲を中心に実技指導⑤

第14回 課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー100番・30番教則本』
『ブルグミュラー25番練習曲集』
『ソナチネアルバム第1巻』
『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発B】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する）

第2回 実技指導① バイエル 8番～17番

第3回 実技指導② バイエル18番～27番

第4回 実技指導③ バイエル28番～37番

第5回 実技指導④ バイエル38番～47番

第6回 実技指導⑤ バイエル48番～57番

第7回 実技指導⑥ バイエル58番～69番

第8回 実技指導⑦ バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）

第10回 課題曲を中心に実技指導②

第11回 課題曲を中心に実技指導③

第12回 課題曲を中心に実技指導④

第13回 課題曲を中心に実技指導⑤

第14回 課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー100番・30番教則本』
『ブルグミュラー25番練習曲集』
『ソナチネアルバム第1巻』
『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発B】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する）

第2回 実技指導① バイエル 8番～17番

第3回 実技指導② バイエル18番～27番

第4回 実技指導③ バイエル28番～37番

第5回 実技指導④ バイエル38番～47番

第6回 実技指導⑤ バイエル48番～57番

第7回 実技指導⑥ バイエル58番～69番

第8回 実技指導⑦ バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）

第10回 課題曲を中心に実技指導②

第11回 課題曲を中心に実技指導③

第12回 課題曲を中心に実技指導④

第13回 課題曲を中心に実技指導⑤

第14回 課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発B】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する）

第2回 実技指導① バイエル 8番～17番

第3回 実技指導② バイエル18番～27番

第4回 実技指導③ バイエル28番～37番

第5回 実技指導④ バイエル38番～47番

第6回 実技指導⑤ バイエル48番～57番

第7回 実技指導⑥ バイエル58番～69番

第8回 実技指導⑦ バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）

第10回 課題曲を中心に実技指導②

第11回 課題曲を中心に実技指導③

第12回 課題曲を中心に実技指導④

第13回 課題曲を中心に実技指導⑤

第14回 課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発B】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する）

第2回 実技指導① バイエル 8番～17番

第3回 実技指導② バイエル18番～27番

第4回 実技指導③ バイエル28番～37番

第5回 実技指導④ バイエル38番～47番

第6回 実技指導⑤ バイエル48番～57番

第7回 実技指導⑥ バイエル58番～69番

第8回 実技指導⑦ バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）

第10回 課題曲を中心に実技指導②

第11回 課題曲を中心に実技指導③

第12回 課題曲を中心に実技指導④

第13回 課題曲を中心に実技指導⑤

第14回 課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発B】
担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する）

第2回 実技指導① バイエル 8番～17番

第3回 実技指導② バイエル18番～27番

第4回 実技指導③ バイエル28番～37番

第5回 実技指導④ バイエル38番～47番

第6回 実技指導⑤ バイエル48番～57番

第7回 実技指導⑥ バイエル58番～69番

第8回 実技指導⑦ バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）

第10回 課題曲を中心に実技指導②

第11回 課題曲を中心に実技指導③

第12回 課題曲を中心に実技指導④

第13回 課題曲を中心に実技指導⑤

第14回 課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー100番・30番教則本』
『ブルグミュラー25番練習曲集』
『ソナチネアルバム第1巻』
『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発A】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。）
第2回 実技指導①バイエル81番～83番
第3回 実技指導②バイエル84番～86番
第4回 実技指導③バイエル87番～91番
第5回 実技指導④バイエル92番～94番
第6回 実技指導⑤バイエル95番～97番
第7回 実技指導⑥バイエル98番～100番
第8回 実技指導⑦バイエル101番～103番
第9回 実技指導⑧バイエル104番～106番（後期末実技試験の課題曲発表）
第10回 課題曲を中心に実技指導①
第11回 課題曲を中心に実技指導②
第12回 課題曲を中心に実技指導③
第13回 課題曲を中心に実技指導④
第14回 課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）
第15回 課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）
定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

- 全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー100番・30番 教則本』
『ブルグミュラー25番練習曲集』
『ソナチネアルバム第1巻』
『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発A】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。）

第2回 実技指導①バイエル81番～83番

第3回 実技指導②バイエル84番～86番

第4回 実技指導③バイエル87番～91番

第5回 実技指導④バイエル92番～94番

第6回 実技指導⑤バイエル95番～97番

第7回 実技指導⑥バイエル98番～100番

第8回 実技指導⑦バイエル101番～103番

第9回 実技指導⑧バイエル104番～106番（後期末実技試験の課題曲発表）

第10回 課題曲を中心に実技指導①

第11回 課題曲を中心に実技指導②

第12回 課題曲を中心に実技指導③

第13回 課題曲を中心に実技指導④

第14回 課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発A】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。）

第2回 実技指導①バイエル81番～83番

第3回 実技指導②バイエル84番～86番

第4回 実技指導③バイエル87番～91番

第5回 実技指導④バイエル92番～94番

第6回 実技指導⑤バイエル95番～97番

第7回 実技指導⑥バイエル98番～100番

第8回 実技指導⑦バイエル101番～103番

第9回 実技指導⑧バイエル104番～106番（後期末実技試験の課題曲発表）

第10回 課題曲を中心に実技指導①

第11回 課題曲を中心に実技指導②

第12回 課題曲を中心に実技指導③

第13回 課題曲を中心に実技指導④

第14回 課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発A】
担当教員： 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。）
第2回 実技指導①バイエル81番～83番
第3回 実技指導②バイエル84番～86番
第4回 実技指導③バイエル87番～91番
第5回 実技指導④バイエル92番～94番
第6回 実技指導⑤バイエル95番～97番
第7回 実技指導⑥バイエル98番～100番
第8回 実技指導⑦バイエル101番～103番
第9回 実技指導⑧バイエル104番～106番（後期末実技試験の課題曲発表）
第10回 課題曲を中心に実技指導①
第11回 課題曲を中心に実技指導②
第12回 課題曲を中心に実技指導③
第13回 課題曲を中心に実技指導④
第14回 課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）
第15回 課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）
定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

- 全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー100番・30番 教則本』
『ブルグミュラー25番練習曲集』
『ソナチネアルバム第1巻』
『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発A】
担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。）

第2回 実技指導①バイエル81番～83番

第3回 実技指導②バイエル84番～86番

第4回 実技指導③バイエル87番～91番

第5回 実技指導④バイエル92番～94番

第6回 実技指導⑤バイエル95番～97番

第7回 実技指導⑥バイエル98番～100番

第8回 実技指導⑦バイエル101番～103番

第9回 実技指導⑧バイエル104番～106番（後期末実技試験の課題曲発表）

第10回 課題曲を中心に実技指導①

第11回 課題曲を中心に実技指導②

第12回 課題曲を中心に実技指導③

第13回 課題曲を中心に実技指導④

第14回 課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発B】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。）
第2回	実技指導①バイエル81番～83番
第3回	実技指導②バイエル84番～86番
第4回	実技指導③バイエル87番～91番
第5回	実技指導④バイエル92番～94番
第6回	実技指導⑤バイエル95番～97番
第7回	実技指導⑥バイエル98番～100番
第8回	実技指導⑦バイエル101番～103番
第9回	実技指導⑧バイエル104番～106番（後期末実技試験の課題曲発表）
第10回	課題曲を中心に実技指導①
第11回	課題曲を中心に実技指導②
第12回	課題曲を中心に実技指導③
第13回	課題曲を中心に実技指導④
第14回	課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）
第15回	課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

- 全音楽譜出版社『バイエル教則本』
- 『ツェルニー100番・30番 教則本』
- 『ブルグミュラー25番練習曲集』
- 『ソナチネアルバム第1巻』
- 『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発B】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。）

第2回 実技指導①バイエル81番～83番

第3回 実技指導②バイエル84番～86番

第4回 実技指導③バイエル87番～91番

第5回 実技指導④バイエル92番～94番

第6回 実技指導⑤バイエル95番～97番

第7回 実技指導⑥バイエル98番～100番

第8回 実技指導⑦バイエル101番～103番

第9回 実技指導⑧バイエル104番～106番（後期末実技試験の課題曲発表）

第10回 課題曲を中心に実技指導①

第11回 課題曲を中心に実技指導②

第12回 課題曲を中心に実技指導③

第13回 課題曲を中心に実技指導④

第14回 課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発B】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。）

第2回 実技指導①バイエル81番～83番

第3回 実技指導②バイエル84番～86番

第4回 実技指導③バイエル87番～91番

第5回 実技指導④バイエル92番～94番

第6回 実技指導⑤バイエル95番～97番

第7回 実技指導⑥バイエル98番～100番

第8回 実技指導⑦バイエル101番～103番

第9回 実技指導⑧バイエル104番～106番（後期末実技試験の課題曲発表）

第10回 課題曲を中心に実技指導①

第11回 課題曲を中心に実技指導②

第12回 課題曲を中心に実技指導③

第13回 課題曲を中心に実技指導④

第14回 課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）

第15回 課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発B】
担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。）
第2回	実技指導①バイエル81番～83番
第3回	実技指導②バイエル84番～86番
第4回	実技指導③バイエル87番～91番
第5回	実技指導④バイエル92番～94番
第6回	実技指導⑤バイエル95番～97番
第7回	実技指導⑥バイエル98番～100番
第8回	実技指導⑦バイエル101番～103番
第9回	実技指導⑧バイエル104番～106番（後期末実技試験の課題曲発表）
第10回	課題曲を中心に実技指導①
第11回	課題曲を中心に実技指導②
第12回	課題曲を中心に実技指導③
第13回	課題曲を中心に実技指導④
第14回	課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）
第15回	課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

- 全音楽譜出版社『バイエル教則本』
- 『ツェルニー100番・30番 教則本』
- 『ブルグミュラー25番練習曲集』
- 『ソナチネアルバム第1巻』
- 『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発B】
担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

子どもの音楽教育に関する科目です。

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。）
第2回 実技指導①バイエル81番～83番
第3回 実技指導②バイエル84番～86番
第4回 実技指導③バイエル87番～91番
第5回 実技指導④バイエル92番～94番
第6回 実技指導⑤バイエル95番～97番
第7回 実技指導⑥バイエル98番～100番
第8回 実技指導⑦バイエル101番～103番
第9回 実技指導⑧バイエル104番～106番（後期末実技試験の課題曲発表）
第10回 課題曲を中心に実技指導①
第11回 課題曲を中心に実技指導②
第12回 課題曲を中心に実技指導③
第13回 課題曲を中心に実技指導④
第14回 課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）
第15回 課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）
定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日の実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%で評価する。

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

- 全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー100番・30番 教則本』
『ブルグミュラー25番練習曲集』
『ソナチネアルバム第1巻』
『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA10> 音楽III－Ⅰ【弦楽器】
担当教員： 福岡 至佐子(FUKUZAKI Hisako)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。プロオーケストラの現場での演奏経験を活かし、具体的な事例を示しながら資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を養う授業を行います。
この授業は3年生後期に行います。

打楽器(小太鼓・大太鼓・カスタネット・スネア・タンバリン・すず・トライアングル)・音板楽器(木琴・鉄琴)・ピアノ・管楽器(リコーダー)等を用いて、簡単な重奏や合奏にした楽曲・クラシックの名曲を演奏し、基本的な指揮(アインザッツ・表現方法)を学びます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。」に関する知識・技法の修得をめざします。

なお、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

○学生が幅広く数多くの楽器の基礎演奏法を身に付けることができる。

○将来保育士・幼稚園・小学校等の教諭となるための音楽の基礎知識(楽典)を理解し、自らも豊かな感性を磨き、後世に音楽の素晴らしさを伝えることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション(合奏について)

第2回 楽器の扱い方(手入れの仕方)

第3回 エルガー作曲 行進曲「威風堂々」第1番を演奏、強弱記号、速度記号について理解を深める

第4回 モーツァルト作曲 アイネクライネナハトムジークを演奏、総譜(スコア)の読み方に慣れる

第5回 ブラームス作曲 ハンガリアン舞曲5番を演奏、強弱記号、反復記号をマスターする

第6回 バッハ作曲 G線上のアリアを演奏、緩やかなリズムの取り方、美しい音の出し方を学ぶ

第7回 メンデルスゾーン作曲 歌の翼にを演奏、細かい音符をはっきり出す奏法を学ぶ

第8回 ヴィヴァルディ作曲 四季より「春」を演奏、はぎれ良い音の出し方を研究

第9回 ヨハン・シュトラウス2世作曲「青く美しきドナウ」を演奏、ワルツのリズム感(3拍子)を会得する

第10回 ヨハン・シュトラウス1世 デラッキー行進曲を演奏、打楽器の基礎奏法と明確な音の出し方を研究する

第11回 強弱の変化をマスターする

第12回 モーツァルト独特の明るく、かるいリズム感の会得

第13回 ブラームスの深く暗い音色を探究する

第14回 バッハの古典的な歌いまわしと宗教的な音色を探究する

第15回 作曲家によって奏法のちがい、音色・リズム感の違いを体験初見がきくようにする

定期試験

【授業時間外の学習】

復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。1日1時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。

【成績の評価】

平常の授業への取り組みを重視し、期末試験も含め総合的に評価します。

期末試験点 80%

平常点 20%

また、発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

こどもの器楽合奏大全集 クラシック1
クラシック2

株式会社デプロ(2007年発行)

【参考文献】

音楽科の基礎練習

パウル・ヒンデミット著 坂本良隆/千蔵八郎 英訳

音楽之友(昭和63年発行)

科目名： <ONGA10> 音楽III－ I 【管楽器】
担当教員： 金川 公久(KANAGAWA Hirohisa)

【授業の紹介】

中学・高校の吹奏楽部などで器楽演奏を経験した者及び個人的に習ったことのある管打楽器を使用して合奏を行う授業です。

指導者による合奏を通し、演奏上の様々な問題点についての支援方法を体験することにより、演奏法に関する諸情報を収集し、理解し、それを基盤として演奏にかかる諸問題を自ら発見し解決することができる能力を培い、将来、子供たちをより良い環境に導くための実践的能力を養うことで教育に係る資質を身に着け、学部をめざす教育者像をめざします。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有すること」に関する知識、技法を修得する。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 演奏技術及び合奏技術の向上を図ることができる。
2. 集団での演奏活動を通して、積極性、協調性、社会性、集中力や感性を養うことができる。
3. 将来、子供たちを指導するためのポイントのつかみ方を学ぶことができる。

【授業計画】

下記の授業計画は目安であり、内容や進行は状況に応じて変わることがあります。

第1回	オリエンテーション（※楽曲の内容については未定）
第2回	基礎合奏及び楽曲Ⅰ（中級の吹奏楽曲）の初見合奏及び部分合奏
第3回	基礎合奏及び楽曲Ⅰの部分合奏によるピッチ合わせ
第4回	基礎合奏及び楽曲Ⅰの部分合奏によるバランス調整
第5回	基礎合奏及び楽曲Ⅰのピッチ合わせ
第6回	基礎合奏及び楽曲Ⅰのバランス調整
第7回	基礎合奏及び楽曲Ⅰの詳細練習
第8回	基礎合奏及び楽曲Ⅰのまとめの合奏
第9回	基礎合奏及び楽曲Ⅱ（ディズニー音楽やジブリ音楽など）の初見合奏及び部分合奏
第10回	基礎合奏及び楽曲Ⅱの部分合奏によるピッチ合わせ
第11回	基礎合奏及び楽曲Ⅱの部分合奏によるバランス調整
第12回	基礎合奏及び楽曲Ⅱのまとめの合奏
第13回	基礎合奏及び楽曲合奏 通し合奏①
第14回	基礎合奏及び楽曲合奏 通し合奏②
第15回	基礎合奏及び楽曲合奏 通し合奏③

定期試験は行わない

※通し合奏は楽曲の中から演奏の状況により変更することがあります。

【授業時間外の学習】

楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日30分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。

【成績の評価】

平常の授業への取り組む姿勢50%、個人的指導に対する応える能力50%

演奏内容について、合奏する合間で、常に講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

全体的な演奏の技量に応じて、楽譜などを配布します。

【参考文献】

JBCバンドスタディ（ヤマハ楽譜出版）

3Dハンドブック（ヤマハ楽譜出版）

科目名： <ONGA10>音楽IIIーⅠ【電子オルガン】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

電子オルガンの授業です。教育・保育現場における音楽活動に必要な知識や演奏技術を楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスン形式で演奏指導を行います。電子オルガンの経験は問いません。初心者・経験者それぞれに合わせて選曲し進めていきますので心配ありません。電子オルガン用の3段譜とコードネーム付き1段譜の両方を学習することにより、教育・保育の場での、より実践的な力が身に付きます。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 両手・両足を使って、いろいろなリズムの曲の演奏ができる。
 2. コードネームを見て、その曲に適切な伴奏をつけることができる。
 3. 日常的な子どもの活動に合わせて、その場にふさわしい音楽をつけることができる。
- 器楽[鍵盤]から引き続いて履修する学生は、より高度な楽曲が弾けるようになることを目指すとともに、自分でレジストを選択したり、現場に対応した簡単な編曲ができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力・電子オルガン演奏能力を調査し、楽曲を選定する
第2回	ジャズを弾く①ゴスペル（アメイジング・グレイス）、マイレパートリー①を弾く
第3回	ジャズを弾く②デキシードジャズ（聖者の行進）、マイレパートリー①を弾く
第4回	ジャズを弾く③チャールストン（5匹のこぶたとチャールストン）、マイレパートリー①を弾く
第5回	8ビートを弾く①ライトステップ（サザエさん）、マイレパートリー①を弾く
第6回	8ビートを弾く②サニーポップ（となりのトトロ）、マイレパートリー②を弾く
第7回	マーチを弾く①キッズマーチ1（小さな世界）、マイレパートリー②を弾く
第8回	マーチを弾く②キッズマーチ2（ビビディ・バビディ・ブー）、マイレパートリー②を弾く
第9回	ワルツを弾く①ベシクワルツ（うみ）、マイレパートリー②を弾く
第10回	ワルツを弾く②スノーワルツ1（ふるさと）、マイレパートリー③を弾く
第11回	クリスマス曲を弾く①スノーワルツ2（牧人ひつじを）、マイレパートリー③を弾く
第12回	クリスマス曲を弾く②ウインターシング（サンタが街にやってくる）、マイレパートリー③を弾く
第13回	ラテンのリズムを弾く①コミカルルンバ（とんでったバナナ）、マイレパートリー③を弾く
第14回	ラテンのリズムを弾く②シーカーニバル（ハクナ・マタタ）、実技テストに弾く曲の復習①
第15回	ラテンのリズムを弾く③ポップチャチャ（さらばジャマイカ）、実技テストに弾く曲の復習②
- 定期試験

【授業時間外の学習】

楽器演奏には、日々の練習が欠かせません。また、練習しないと授業そのものが成り立ちません。授業時に指摘した問題点を1週間の練習によって改善してください。毎日10分でも15分でも、楽器の前に座って練習することで楽器に慣れ、楽器と仲良くなることで技術の向上も早くなります。

また、積極的にコンサートなどの学校行事に参加して、発表の機会も増やすよう努力しましょう。

【成績の評価】

定期試験（70％）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（30％）なども加味して評価します。定期試験は、「両手・両足を使って弾ける」「ゆっくりでもリズムに合わせて弾ける」「指示されたテンポでプログラムに合わせて弾ける」「強弱もつけて音楽的に仕上げられている」の4段階を基準に採点します。

授業においては、楽曲の演奏について、指摘した問題点を次の授業に、また、定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】

こどものうた 稲葉夕佳他著（2003年ヤマハミュージックメディア）
スタジオジブリ作品集1 上野みゆき他著（2005年ヤマハミュージックメディア）
ディズニー映画ベストソングセレクション 岩崎孝昭他著（2005年ヤマハミュージックメディア）他

【参考文献】

STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ165
STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ165 Vol.2
尾野カオル他著（2004年ヤマハミュージックメディア）

科目名： <ONGA10>音楽IIIーⅠ【ピアノ】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。ピアノの授業です。教育、保育の現場における音楽活動に必要な知識を、楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスンで指導をします。

ソナチネ以上の演奏技術を有する学生対象の授業で、ソナチネ程度以上の楽曲から任意の一曲を選び、仕上げていきます。その中で演奏技術、音楽性を高めます。

【到達目標】

高度な楽曲に取り組むことでより高い演奏技術を習得することができる。
その作品の作曲家について学び、楽曲の分析を行うことで、深い理解に基づいた演奏をすることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーションおよび楽曲の決定
第2回	各自のレベルに応じた個人指導（～第13回）
第3回	譜読み指導—作品全体について説明
第4回	〃 —運指、装飾音など奏法に関すること
第5回	〃 —調性、臨時記号（楽曲に応じて）
第6回	技術指導 —ペダル
第7回	〃 —難しい箇所のリズム練習
第8回	〃 —タッチの練習、音のバランス
第9回	作品の背景—作曲家について
第10回	〃 —作曲年代、時代背景
第11回	作品の構成—形式、フレーズ、和声構造
第12回	暗譜を通して弾く、解釈について
第13回	テンポ、リズム等の調整
第14回	実技テストに向けて～リハーサル
第15回	まとめ（受講生同士で演奏を聴き合い、お互いに意見・感想を交換する）
	定期試験

【授業時間外の学習】

譜読みのための練習（30分以上）と、授業時に指摘した問題点を克服するための練習（30分以上）を毎日行ってください。

【成績の評価】

定期試験（90%）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（10%）なども加味して評価します。

授業においては、楽曲の演奏について指摘した問題点を、次回の授業にて、また定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】

ソナチネアルバム以上のレベルの曲集

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA11> 音楽III－II 【声楽】
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。声楽経験者も初心者も受講できる少人数制で個別指導を含む授業です。基本的な無理のない発声練習を行いながら、情感豊かな表現力に富んだ声で童謡や唱歌、日本の抒情歌を中心に演奏を行います。又声楽の基本であるイタリア古典歌曲や世界の名曲にも取り組みます。「声」という最も身近な楽器の使用法を学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるよう歌唱レパートリーを充実させていきます。

【到達目標】

- ・ 息の流れを習得することができる。
- ・ 音域を広げることができる。
- ・ 声を明瞭にすることができる。
- ・ 童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。（1曲ずつ）

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番1~3、春の童謡
第3回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番4~6、春の唱歌
第4回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番7~9、夏の童謡
第5回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番10~12、夏の唱歌
第6回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番13~15、秋の童謡
第7回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番16~18、秋の唱歌
第8回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番19~21、冬の童謡
第9回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番22~24、冬の唱歌
第10回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番25~27、日本の抒情歌
第11回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番28~30、日本の抒情歌
第12回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番31~33、イタリア古典歌曲
第13回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番34~36、イタリア古典歌曲
第14回	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番世界の名曲
第15回	呼吸法と発声練習、各クラスにて発表演奏

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。
指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。

【成績の評価】

指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。
当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%
クラス発表後全員で感想を述べあう。
実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。

【使用テキスト】

『コンコーネ50番』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）
『こどものうた大集合210』（坂田おさむ 編）（ソットーミュージック出版 2012年）
『日本の名歌集1・2』（音楽之友社 編）（音楽之友社 2010年）
『イタリア古典歌曲集』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）

【参考文献】

『美しい発声法』（D.P.マクロスキー著、高山教子 訳）（音楽之友社 2002年）

科目名： <ONGA11> 音楽III－II 【声楽】
担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。声楽経験者も初心者も受講できる少人数制で個別指導を含む授業です。基本的な無理のない発声練習を行いながら、情感豊かな表現力に富んだ声で童謡や唱歌、日本の抒情歌を中心に演奏を行います。又声楽の基本であるイタリア古典歌曲や世界の名曲にも取り組みます。「声」という最も身近な楽器の使用法を学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるよう歌唱レパートリーを充実させていきます。

【到達目標】

- ・ 息の流れを習得することができる。
- ・ 音域を広げることができる。
- ・ 声を明瞭にすることができる。
- ・ 童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。（1曲ずつ）

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番1~3、春の童謡
第3回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番4~6、春の唱歌
第4回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番7~9、夏の童謡
第5回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番10~12、夏の唱歌
第6回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番13~15、秋の童謡
第7回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番16~18、秋の唱歌
第8回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番19~21、冬の童謡
第9回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番22~24、冬の唱歌
第10回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番25~27、日本の抒情歌
第11回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番28~30、日本の抒情歌
第12回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番31~33、イタリア古典歌曲
第13回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番34~36、イタリア古典歌曲
第14回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番世界の名曲
第15回 呼吸法と発声練習、各クラスにて発表演奏
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。
指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。

【成績の評価】

指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。
当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%
クラス発表後全員で感想を述べあう。
実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。

【使用テキスト】

『コンコーネ50番』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）
『こどものうた大集合210』（坂田おさむ 編）（ソットーミュージック出版 2012年）
『日本の名歌集1・2』（音楽之友社 編）（音楽之友社 2010年）
『イタリア古典歌曲集』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）

【参考文献】

『美しい発声法』（D.P.マクロスキー著、高山教子 訳）（音楽之友社 2002年）

科目名： <ONGA12> 保育内容－表現Ⅱ【発A】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の一環として音楽的表現活動を指導するために必要な専門的知識、技能および実践力を修得する。幼稚園教育要領の示す領域「表現」のうち音楽に関わる内容を理解し、種々の音楽的表現と指導法を学ぶ。グループワークによる課題を通して各々の自由な発想を呼び起こし、豊かに創造する力と園児に伝える力を育成する。またほぼ毎行う発表や模擬授業を通して保育者としての実践力を高めると同時に、観察および評価の力を養う。保育現場において専門性を持つ人材と協働し子どもとの音楽活動に十分に対応できる幅広い音楽知識を修得する。

なお、この授業科目では卒業認定・学位授与方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する資質・能力の修得を目指します。また、学修成果『⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 領域「表現」のねらいと内容を理解できる。
2. 保育者に問われる基礎的な音楽能力と身体表現力（楽しんで発表できる力）を身に付ける。
3. 子どもの発達に合わせた保育内容の計画と実践、および適切な評価ができる。
4. レパートリーの習得（15曲）に加え、自由な発想による振付が短時間でできる。
5. 子どもに寄り添う音楽を理解し、堅実な実践力により彼らの豊かな音楽経験をサポートできる。
6. 音楽に関わる指導場面を具体的に想定し保育を構想することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（授業の進め方）、幼稚園教育要領の領域「表現」、音楽表現の芽生えと発達、他領域との関連
- 第2回：手遊び歌・体遊び歌（1）「季節の歌」
- 第3回：手遊び歌・体遊び歌（2）「園生活の歌」
- 第4回：手遊び歌・体遊び歌（3）「人気のダンス」
- 第5回：わらべ歌、遊びと表現、音楽を伴ったさまざまな遊び、遊びの創作
- 第6回：リズム遊び「ボディー・パーカッション」「簡単なクラッピング・ミュージック」
- 第7回：リトミック「さまざまなリズムを聴きとり、反応する」「さまざまな音の表情を聴き取り、反応する」「リズムカード」ICT機器の活用
- 第8回：音楽表現における教材選び、指導案の作成
- 第9回：トーンチャイムを使ったさまざまな音楽活動
- 第10回：簡単な楽器を使った合奏（鍵盤楽器、打楽器、トーンチャイム等）
- 第11回：指導案に沿った模擬保育とその振り返り
- 第12回：簡単な音楽劇の制作についてのオリエンテーション（素材や手法の説明、計画の立て方、表現指導上の留意点、援助のあり方）ICT機器の活用
- 第13回：音楽劇の準備・練習（1）（小道具の製作、楽器伴奏、振り付け）
- 第14回：音楽劇の準備・練習（2）（総合的な練習）
- 第15回：音楽劇の発表会、振り返り、評価の考え方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

指定された曲の予習、また復習を週に最低1時間以上行う。課題曲は必ず歌詞を覚える。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時またはオフィスアワーに指導を受けること。

【成績の評価】

定期試験（35%）、授業における発表（35%）、課題に取り組む姿勢・提出物（30%）

定期試験については採点基準を説明する。授業における発表に対してはその都度コメントを与える。提出物は添削し、返却する。

【使用テキスト】

本廣明実・加藤照恵著 「幼稚園・保育園のうた/ピアノ伴奏曲集」ドレミ楽譜出版社

【参考文献】

幼稚園教育要領（2017年 文部科学省）

科目名： <ONGA12> 保育内容－表現Ⅱ【発B】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の一環として音楽的表現活動を指導するために必要な専門的知識、技能および実践力を修得する。幼稚園教育要領の示す領域「表現」のうち音楽に関わる内容を理解し、種々の音楽的表現と指導法を学ぶ。グループワークによる課題を通して各々の自由な発想を呼び起こし、豊かに創造する力と園児に伝える力を育成する。またほぼ毎行う発表や模擬授業を通して保育者としての実践力を高めると同時に、観察および評価の力を養う。保育現場において専門性を持つ人材と協働し子どもとの音楽活動に十分に対応できる幅広い音楽知識を修得する。

なお、この授業科目では卒業認定・学位授与方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する資質・能力の修得を目指します。また、学修成果『⑤教育・保育に関わる多様な人材と協力・協働する意義を理解し、それに必要な知識・技能を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 領域「表現」のねらいと内容を理解できる。
2. 保育者に問われる基礎的な音楽能力と身体表現力（楽しんで発表できる力）を身に付ける。
3. 子どもの発達に合わせた保育内容の計画と実践、および適切な評価ができる。
4. レパートリーの習得（15曲）に加え、自由な発想による振付けが短時間でできる。
5. 子どもに寄り添う音楽を理解し、堅実な実践力により彼らの豊かな音楽経験をサポートできる。
6. 音楽に関わる指導場面を具体的に想定し保育を構構することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（授業の進め方）、幼稚園教育要領の領域「表現」、音楽表現の芽生えと発達、他領域との関連
- 第2回：手遊び歌・体遊び歌（1）「季節の歌
- 第3回：手遊び歌・体遊び歌（2）「園生活の歌
- 第4回：手遊び歌・体遊び歌（3）「人気のダンス
- 第5回：わらべ歌、遊びと表現、音楽を伴ったさまざまな遊び、遊びの創作
- 第6回：リズム遊び「ボディー・パーカッション」「簡単なクラッピング・ミュージック」
- 第7回：リトミック「さまざまなリズムを聴きとり、反応する」「さまざまな音の表情を聴き取り、反応する」「リズムカード」ICT機器の活用
- 第8回：音楽表現における教材選び、指導案の作成
- 第9回：トーンチャイムを使ったさまざまな音楽活動
- 第10回：簡単な楽器を使った合奏（鍵盤楽器、打楽器、トーンチャイム等）
- 第11回：指導案に沿った模擬保育とその振り返り
- 第12回：簡単な音楽劇の制作についてのオリエンテーション（素材や手法の説明、計画の立て方、表現指導上の留意点、援助のあり方）ICT機器の活用
- 第13回：音楽劇の準備・練習（1）（小道具の製作、楽器伴奏、振り付け）
- 第14回：音楽劇の準備・練習（2）（総合的な練習）
- 第15回：音楽劇の発表会、振り返り、評価の考え方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

指定された曲の予習、また復習を週に最低1時間以上行う。課題曲は必ず歌詞を覚える。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時またはオフィスアワーに指導を受けること。

【成績の評価】

定期試験（35%）、授業における発表（35%）、課題に取り組む姿勢・提出物（30%）

定期試験については採点基準を説明する。授業における発表に対してはその都度コメントを与える。提出物は添削し、返却する。

【使用テキスト】

本廣明実・加藤照恵著 「幼稚園・保育園のうた/ピアノ伴奏曲集」ドレミ楽譜出版社

【参考文献】

幼稚園教育要領（2017年 文部科学省）

科目名： <ONGA13>子ども音楽療育概論

担当教員： 栗田 京子(KURITA Kyoko)

【授業の紹介】

この授業は、子ども音楽療育士の資格取得に必要な授業です。音楽を使って、生きにくい子ども達をサポートする方法の基礎を学習します。コミュニケーションの苦手な子ども達や障がいをもった子ども達に限らず、通常発達児とのコミュニケーションも円滑にする基礎を学習します。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関連する知識、技法の習得をめざします。

また、学修成果「⑥の教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基礎として教育・保育の実践を行うことができる。」に関連しています。

【到達目標】

- ・ 障害のある子ども達に音楽を使う時に必要な基礎や専門知識を習得することができる。
- ・ 音楽の持つ特性を熟知し、心身の発達過程と音楽の関わりを学習し、将来関わっていくであろう様々な子どもたちへのかかわり方の一つとして、より豊かな知識と技術を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(授業目標及び授業の概要の確認)
 - 第2回 コミュニケーションの育ちと音楽
 - 第3回 発達障がい児への音楽療育の検証
 - 第4回 療育の現場の検証(先人のDVDを見ることで音楽を使っている関わり方を検証する)
 - 第5回 アセスメントの取り方
 - 第6回 感覚統合と音楽療育との関係
 - 第7回 コミュニケーションを育てる療法のプログラムについて
 - 第8回 コミュニケーションを育てるプログラムの検証1(感覚統合の観点から)
 - 第9回 コミュニケーションを育てるプログラムの検証2(行動分析の観点から)
 - 第10回 音楽療育における目標設定の方法1
 - 第11回 音楽療育における目標設定の方法2(目標の構造化)
 - 第12回 先人の文献及び映像から療育の実践を観る
 - 第13回 観察及び観察点のポイントを学習
 - 第14回 記録書の書き方
 - 第15回 まとめ(音楽療育の意義を確認する)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと(毎週2時間)

復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと(毎週2時間)

【成績の評価】

- 定期試験 (50%)
- 授業態度 (30%)
- 提出物 (20%)

採点基準を説明することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

二俣 泉 著「音楽で育てよう」(春秋社 2011年)
必要な資料はその都度配布する

【参考文献】

クライブ・ロビンズ 著『音楽する人間』(春秋社、2007年)

科目名： <ONGA14>子ども音楽療育演習
担当教員： 栗田 京子(KURITA Kyoko)

【授業の紹介】

この授業は、子ども音楽療育士の資格取得に必要な授業です。子ども音楽療育概論で学習した理論を踏まえ、音楽の効果を実践に使えるように実際に療育をする場合の目標設定・プランの立て方・技術を体得していきます。概論で学習した目標設定の構造化など、実践に結び付く授業を行います。ピアノ演奏が苦手でも、即興演奏を楽しんで学習することができます。子ども達と関わるツールとしての音楽の有り方を探求します。また、視覚刺激の重要性から音楽に繋がった視覚刺激の有り方も探求します。
なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働ができる。」に関する知識、技法の習得をめざします。
また、学修成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基礎として教育・保育の実践を行うことができる」に関連しています。

【到達目標】

- ・障害のある子ども及び通常発達児を対象とした音楽療育の方法を、具体的に楽器や音楽の使い方を学習することで、自在に音楽を使うことができる。
- ・目標設定やプランを立てることで実践に向かって、より効果的な音楽の使い方が習得できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(授業目標および本授業の到達目標を示唆する)
 - 第2回 音楽療育に使う楽器紹介および楽器の効果的使い方
 - 第3回 コードネームの理解
 - 第4回 コード進行および簡単な旋法の学習
 - 第5回 視覚刺激の効果及び作成
 - 第6回 活動目標のたてかた(アセスメントの方法および目標設定)
 - 第7回 視覚刺激の発表(各自が作成した視覚刺激作品の活用例の発表)
 - 第8回 絵本に音楽をつける(音楽の効果的な使い方を習得)
 - 第9回 活動の展開方法の検証
 - 第10回 プラン作成方法(目標・セッションの流れ・準備物など)
 - 第11回 プラン作成
 - 第12回 模擬セッション(各自が立てたプランの実施)
 - 第13回 模擬セッション(各自が立てたプランの実施)
 - 第14回 記録書の書き方及び模擬セッションの記録書作成
 - 第15回 まとめ(授業で習得した技術の確認)
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと(各課題3時間)
復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する(各課題2時間)

【成績の評価】

提出物 (50%)
授業程度 (30%)
パフォーマンス (20%)
提出物およびパフォーマンスに対してその都度アドバイスをする。

【使用テキスト】

二俣 泉 著 『音楽で育てよう』(春秋社、2011年)

【参考文献】

生野 里花 著 『静かな森の大きな木』(春秋社、2001年)

科目名： <ONGA15>子ども音楽療育実習
担当教員： 栗田 京子(KURITA Kyoko)

【授業の紹介】

この授業は、子ども音楽療育士の資格取得に必要な授業です。また、実務経験のある教員による授業科目です。音楽療法の現場での経験を活かし、具体的に実習の指導をします。療育の目標設定から実際のセッションにおける効果的な音楽の使い方、プログラムの立案、実践、現場でのフィードバックという流れでの実習となります。残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現場での実習という形がとれません。そこで、対象となる子ども達に映像を通しての関わりをします。なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する」に関する知識、技法の習得をめざします。また、学修成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基礎として教育・保育の実践を行うことができる」に関連しています。

【到達目標】

- ・障害を持つ子どもたちの心理、及び行動を理解できる素地を作る。
- ・子どもたちの支援となる方法を模索、検証することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（授業の概要説明）
第2回 対象児のアセスメントビデオの確認をし、対象児のアセスメント及び治療目標を設定する
第3回 治療計画表の作成
第4回 治療構造及び目標設定
第5回 セッションプラン作成及びセッション内容の確認
第6回 DVD作成1及びセッション準備
第7回 DVD作成2及びセッション準備
第8回 撮影（第1作目）
第9回 撮影・編集（第1作目）
第10回 DVD1（第1作目のフィードバック・・・子ども達の反応を観察・記録）
第11回 DVD作成3及びセッション準備
第12回 撮影（第2作目）
第13回 撮影・編集（第2作目）
第14回 DVD2（第2作目のフィードバック・・・子ども達の反応を観察・記録）
第15回 まとめ(授業で獲得したプレゼンテーションの確認・報告書の書き方等の確認)
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間）
記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間）
実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）

【成績の評価】

プランの作成(40%)
パフォーマンス(30%)
記録書等の提出物(30%)
プラン・記録書等、提出物については添削し返却する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

二俣泉著 「音楽で育てよう」（春秋社2011年）
生野里花著 「静かな森の大きな木」（春秋社2001年）
加藤博之著 「音楽療法(特別支援教育の発達の視点を踏まえて)」(明治図書)

科目名： <ONGA6> 音楽表現Ⅰ【発A】
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わる知識、技能の修得を目指します。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探求し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましょう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

科目名： <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発A】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わる知識、技能の修得を目指します。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探求し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通して、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましょう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

科目名： <ONGA6> 音楽表現Ⅰ【発A】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わる知識、技能の修得を目指します。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探求し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通して、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましょう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通して、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

科目名： <ONGA6> 音楽表現Ⅰ【発A】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わる知識、技能の修得を目指します。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探求し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通して、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましょう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通して、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

科目名： <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発A】
担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わる知識、技能の修得を目指します。また、学修成果『6教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。
上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

科目名： <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発B】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わる知識、技能の修得を目指します。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探求し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通して、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましょう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

科目名： <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発B】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わる知識、技能の修得を目指します。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探求し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通して、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましょう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通して、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

科目名： <ONGA6> 音楽表現Ⅰ【発B】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わる知識、技能の修得を目指します。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探求し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通して、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましょう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通して、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

科目名： <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発B】

担当教員： 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。

また、学修成果「⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。」に関連しています。

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探求し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通して、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましょう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通して、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

科目名： <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発B】
担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わる知識、技能の修得を目指します。また、学修成果『6教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましょう、虹)歌唱と弾き歌い
5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。
上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

科目名： <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発A】
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。
前期の音楽表現Ⅰを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Ⅰで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現Ⅰ」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチャーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発A】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。
前期の音楽表現Ⅰを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Ⅰで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現Ⅰ」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチャーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発A】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。
前期の音楽表現Ⅰを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Ⅰで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現Ⅰ」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチャーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発A】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。
前期の音楽表現Ⅰを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Ⅰで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現Ⅰ」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチャーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発A】
担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。
前期の音楽表現Ⅰを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Ⅰで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現Ⅰ」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチャーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発B】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。
前期の音楽表現Ⅰを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Ⅰで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現Ⅰ」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチャーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発B】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。
前期の音楽表現Ⅰを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Ⅰで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現Ⅰ」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチャーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発B】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。
前期の音楽表現Ⅰを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Ⅰで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現Ⅰ」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチャーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発B】
担当教員： 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。
前期の音楽表現Ⅰを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Ⅰで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現Ⅰ」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチャーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発B】
担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」の育成に関わっています。
なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。
前期の音楽表現Ⅰを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Ⅰで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現Ⅰ」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチャーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <KY0U1>国語指導法Ⅰ
担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

「国語指導法Ⅰ・Ⅱ」は、小学校の国語科「思考力・判断力・表現力」の全領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を、その目的、内容評価について、原理原論的立場からと、実践的立場からの両面について考えます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、国語科の全領域を指導するために必要な指導力を明らかにします。様々な学習指導理論を検討し、確かな理論に基づく指導を展開できる実践的実践力の向上をめざします。「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの基礎として、次の3点を到達目標とします。

- ①学習指導要領における国語科の目標・主要内容・全体構造を理解できる。
- ②PISA調査で明らかになった「読解力」の課題と、新学習指導要領改訂への繋がりを理解できる。
- ③具体的な指導場面を通して、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業のあり方を考えることができる。

【授業計画】

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
クラス名：2022国語指導法Ⅰ・Ⅱ クラスコード：2rg4zyu

- 第1回：ガイダンス（授業のすすめ方、実践記録を読むことの必要性、「百人一首」札取りの分担）
 - 第2回：PISA調査と「読解力」（1）PISA調査の概要と日本の児童生徒の課題
 - 第3回：PISA調査と「読解力」（2）PISA2003年調査以降の「読解力」向上の施策
 - 第4回：国語科の全体構造と新旧学習指導要領の比較
 - 第5回：「話すこと・聞くこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第6回：「話すこと・聞くこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第7回：「話すこと・聞くこと」の実際（2）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導
 - 第8回：「書くこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第9回：「書くこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第10回：「書くこと」の実際（2）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導
 - 第11回：「読むこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第12回：「読むこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第13回：「読むこと」の実際（2）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導
 - 第14回：国語科における「主体的・対話的で深い学びの実現を図る」デジタル教科書の活用
 - 第15回：これからの読書指導（大村はま実践とアニメーション等）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる（毎月：A41枚1400字程度）
- ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します。読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。

毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

- ・期末試験を基本とし(80%)、実践記録感想文等の提出物(10%)、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。定期試験は後期授業に返却、解説し内容の定着を図ります。

【使用テキスト】

- ・『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』（東洋館出版 2018年）
- ・『新編 あたらしいこくご』（一上～六上）（東京書籍、令和2年版）

【参考文献】

- ・教師修行 9 国語の授業が楽しくなる（向山洋一著、明治図書、1986年）
- ・読解力を高める国語科授業の改革 PISA型読解力を中心に（鶴田清司著、明治図書、2008年）
- ・国語科授業批判（宇佐見寛著、明治図書、1986年）

科目名： <KY0U2>国語指導法Ⅱ

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

国語科の全領域を、実際に教壇に立った際に指導できるために必要な実践的指導力のトレーニングを行います。その活動を通して、「思考力・判断力・表現力」の育成を検討します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

模擬授業等の活動を通し、「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することとして、次の実践的指導力を身に付けることができる。

1. 目標を明確にした授業略案と板書計画案をそれぞれA4用紙1枚程度に表すことができる。
2. 発問・指示・説明(指導言)を吟味し、揺れのない明確な指導言を発することができる。
3. 必要な教材教具の準備ができ、授業において効果的に活用できる。

【授業計画】

※リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。

クラス名：2022国語指導法Ⅰ・Ⅱ クラスコード：2rg4zyu

- 第1回：学習計画説明(「範読」「音読指導」「話すこと・聞くことの指導」「漢字指導」「模擬授業」の分担)
 - 第2回：教科書教材の「範読」(1)音読・朗読における「知識及び技能」 学生による「範読」活動①
 - 第3回：教科書教材の「範読」(2)音読・朗読と「思考力・判断力・表現力」 学生による「範読」活動②
 - 第4回：「話すこと・聞くこと」の指導における「知識及び技能」 学生による模擬授業①
 - 第5回：「話すこと・聞くこと」の指導における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業②
 - 第6回：「話すこと・聞くこと」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第7回：「音読指導」における「知識及び技能」 学生による模擬授業①
 - 第8回：「音読指導」における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業②
 - 第9回：「音読指導」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第10回：「漢字指導」における「知識及び技能」 学生による模擬授業①
 - 第11回：「漢字指導」における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業②
 - 第12回：「漢字指導」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第13回：教科書教材を用いた模擬授業(1)「知識及び技能」に関わる指導
 - 第14回：教科書教材を用いた模擬授業(2)「思考力・判断力・表現力」の指導
 - 第15回：教科書教材を用いた模擬授業の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。
 - ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。
 - ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身に付けるよう努力してください。
- 毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。

【成績の評価】

「話すこと・聞くこと」「音読」「漢字」「百人一首」の各指導(10%)、「模擬授業」(50%)の評価を基本とし、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。各指導・模擬授業は授業において随時、評価・解説し、改善点等を示します。

【使用テキスト】

- ・『小学校学習指導要領解説(平成29年告示) 国語編』(東洋館出版、2018年)
- ・『新編 あたらしいこくご(一上～六上)』(東京書籍、令和2年版)

【参考文献】

- ・教育新書1 授業の腕を上げる法則(向山洋一著、明治図書、1985年)
- ・教員採用試験αシリーズ「模擬授業・場面指導」(野口芳宏著、一ツ橋書店、2016年)

科目名： <KY0U3>社会科指導法 I
担当教員： 野村 一夫(NOMURA Kazuo)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、ディスカッション、グループワーク及びプレゼンテーションを通じて学校の実情に即した指導の在り方を追究します。

授業では、小学校学習指導要領に示された社会科の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえた授業設計や教材の開発、指導法、評価等についての基礎的な理解と実践力の育成を図り、小学校教員としての資質・能力の基礎を培うことを目指します。具体的には、教科書や実践記録等の分析を通じて単元構想、指導計画、教材開発、授業の展開及び評価等に関する理解を深め、学習指導案を作成します。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」の修得をめざします。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

Google Classroom クラスコード：h277rnt

【到達目標】

小学校社会科の基礎的な指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計ができる。

- 1) 小学校社会科の目標、内容、方法及び評価について理解し、児童の発達段階を踏まえその特色を述べるができる。
- 2) 学年の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえ、単元構想を立てることができる。
- 3) 指導案作成の意義と基本を理解し、単元構想を具現化する学習指導案を作成することができる。
- 4) 児童の発達段階や学習内容を理解し、個別・最適化を図る情報機器等の活用方法を述べるができる。
- 5) 地図や地球儀、資料等の特色を理解し、活用方法を述べるができる。

【授業計画】

<<各回の資料配布・課題提出>>Google Classroom

- 第1回 オリエンテーション（小学校社会科学習のイメージ）
 - 第2回 小学校社会科の目標と内容及び内容の取扱い：解説の構成と読み方
 - 第3回 単元構想と問題解決的な学習の進め方
 - 第4回 情報機器及び映像資料等の特色と活用：指導計画作成上の配慮事項
 - 第5回 地域教材の開発と観察や見学・調査など体験的な学習の進め方：指導計画作成上の配慮事項
 - 第6回 教科書や副読本、資料、地図、地球儀の役割と活用：指導計画作成上の配慮事項
 - 第7回 国土と産業に関する学習の進め方：指導計画作成上の配慮事項
 - 第8回 政治・国際、歴史に関する学習の進め方：指導計画作成上の配慮事項
 - 第9回 教科書及び実践記録等の分析①（第3学年）
 - 第10回 教科書及び実践記録等の分析②（第4学年）
 - 第11回 教科書及び実践記録等の分析③（第5学年）
 - 第12回 教科書及び実践記録等の分析④（第6学年）
 - 第13回 単元構想と学習指導案の作成方法
 - 第14回 単元構想と学習指導案の作成と相互評価
 - 第15回 「教材開発素材集」の発表と相互評価
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 1) 新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。(全30時間)
- 2) 学修中に課したワークシートの記述内容を振り返り、ノート等に整理しておくこと。(毎2時間)

【成績の評価】

学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。

授業中に作成するリフレクションペーパー(20%)、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」(40%)、期末試験(40%)とします。

リフレクションペーパーは、返却の際にコメントします。

教材スクラップブックは、第15回に各自が素材集を紹介し、相互評価します。

定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 平成30年 文部科学省

小学校教科書「新しい社会」3年、4年、5年上・下、6年上・下 令和2年 東京書籍

小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 令和2年 帝国書院

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会 社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習 2019年 東洋館
出版社

科目名： <KY0U4>社会科指導法Ⅱ
担当教員： 野村 一夫(NOMURA Kazuo)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、ディスカッション、グループワークを通じて学校の実情に即した指導の在り方を追究します。

授業では、小学校学習指導要領に示された社会科の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえた授業設計や教材の開発、指導法、評価等についての基礎的な理解に基づき、授業設計や学習指導、教材開発などの実践力を育成し、小学校教員としての資質・能力の基礎を培うことを目指します。学習指導案、板書計画案及び配付資料等を作成し、模擬授業を通じ板書や発問、指導助言、学習形態などの在り方を検討します。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」の修得をめざします。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

Google Classroom クラスコード：jfrb2y3

【到達目標】

小学校社会科の基礎的な指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計ができる。

- 1) 小学校社会科の目標、内容、方法及び評価について理解し、整理することができる。
- 2) 学年の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえ、単元構想を立てることができる。
- 3) 指導案作成の意義と基本を理解し、単元構想を具現化する学習指導案を作成することができる。
- 4) 児童の発達段階や学習内容を理解し、教材・教具の最適な活用方法を述べることができる。
- 5) 模擬授業を通じて、授業改善の在り方を述べることができる。

【授業計画】

<<各回の資料配布・課題提出>>Google Classroom

第1回 オリエンテーション（印象に残っている小学校社会科授業）

第2回 各学年の目標、内容及び内容の取扱い

第3回 模擬授業と授業改善：第3学年 地域社会の社会的事象①

第4回 模擬授業と授業改善：第3学年 地域社会の社会的事象②

第5回 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象①

第6回 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象②

第7回 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象③

第8回 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業①

第9回 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業②

第10回 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業③

第11回 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の政治の働き

第12回 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の歴史上の主な事象①

第13回 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の歴史上の主な事象②

第14回 模擬授業と授業改善：第6学年 グローバル化する世界と日本の役割

第15回 社会科指導の在り方：まとめ

定期試験

【授業時間外の学習】

模擬授業に向け、教材研究を行い、学習指導案と資料等を作成すること。(計42時間)

担当模擬授業実施の際に指摘された事項を整理し、修正した学習指導案を提出すること。(計6時間)

模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、提出すること。(計12時間)

【成績の評価】

学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。

授業中に作成するリフレクションペーパー（20%）、修正学習指導案(40%)、期末試験（40%）とします。

。リフレクションペーパーは、課題返却の際に評価観点を解説します。

<<各回の資料配布・課題提出>>Google Classroom

リフレクションペーパーについて、毎回コメントを返信します。Google Classroom

定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 平成30年 文部科学省

小学校教科書「新しい社会」3年、4年、5年上・下、6年上・下 令和2年 東京書籍

小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 令和2年 帝国書院

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会 社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習 2019年 東洋館
出版社

科目名： <KY0U5>算数指導法Ⅰ

担当教員： 環 修(TAMAKI Osamu)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高等学校での学校現場指導及び、教育委員会での行政指導の経験を活かし、具体的な実践事例を示しながら授業を行います。また、算数科の授業に必要な知識や技能を幅広く体系的に知り、算数・数学の見方・考え方に触れることで、豊かな人間性や主体的に生きる力を育てていきます。また、単元ごとの指導内容や方法を、個々に報告してもらい、それをもとに、子どものつまずきやその対応を考えたりすることで、子どもにとって分かりやすい指導のあり方を身に付けていきます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識・技能の習得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

- ・学習指導要領における算数科の目標、内容及び全体構造を理解することができる。
- ・楽しい、分かる授業ができるようになるためのポイントを把握できる。
- ・魅力ある算数の授業ができるようになるための教材研究のあり方を理解することができる。
- ・算数教育に必要な知識を体系的に整理し、実践と関係づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、算数授業のための教材研究のあり方
 - 第2回：第1学年の内容（数、たし算）
 - 第3回：第1・2学年の内容（ひき算、時刻と時間）
 - 第4回：第2学年の内容（長さ、九九）
 - 第5回：第2・3学年の内容（三角形と四角形、わり算）
 - 第6回：第3学年の内容（分数と小数、三角形）
 - 第7回：第3・4学年の内容（表とグラフ、角の大きさ）
 - 第8回：第4学年の内容（わり算の筆算、面積）
 - 第9回：第4・5学年の内容（割合、台形の面積）
 - 第10回：第5学年の内容（整数、分数のたし算、ひき算）
 - 第11回：第5・6学年の内容（速さ、分数のかけ算、わり算）
 - 第12回：第6学年の内容（比例と反比例、円の面積）
 - 第13回：第6学年の内容（資料の調べ方）
 - 第14回：楽しい、分かる授業をするためのポイント
 - 第15回：学習指導案作成のポイント
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・次回の学年の単元ごとの内容を、教科書や学習指導要領解説をもとに予習しておく。（2時間）
- ・毎回の授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（2時間）

【成績の評価】

受講態度（20％） 振り返りレポート（40％） 最終課題レポート（40％）

- ・毎回の授業振り返りレポートを提出し、コメントを記入して返却する。
- ・最終課題は、1つの単元を決め、その単元の指導内容や指導方法のポイントについてまとめ、そのレポートを15回目の最終授業時に提出する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年7月）
- ・新興出版社 啓林館 「わくわく算数（1～6年）」（平成31 検定済）

【参考文献】

- ・香川県教育委員会「さぬきの授業基礎・基本[改訂版]」（平成29年3月）

科目名： <KY0U6>算数指導法Ⅱ

担当教員： 環 修(TAMAKI Osamu)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高等学校での学校現場指導及び、教育委員会での行政指導の経験を活かし、具体的な実践事例を示しながら授業を行います。前期算数指導法Ⅰで学習したことをもとに、ペアで学習指導案を作成し、それをもとに模擬授業を実施し、全体で授業討議を行います。具体的な授業を通して、教材研究の在り方を学び、指導技術の向上を図っていきます。また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識・技能の習得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

- ・学習指導要領における算数科の目標、内容及び全体構造を理解することができる。
- ・算数科の教材をもとに、学習指導案を作成することができる。
- ・学習指導案をもとに、授業の基本的な技能を生かし、授業を展開することができる。
- ・算数科の学習評価の考え方を理解し、それを授業に生かすことができる。

【授業計画】

第1回：ガイダンス、授業をイメージした学習指導案の作り方
第2回：模擬授業のための学習指導案づくり
第3回：模擬授業と授業討議①（1年p94、95：くりあがりのあるたし算）
第4回：模擬授業と授業討議②（2年下p27、28：6のだんの九九）
第5回：模擬授業と授業討議③（3年上p21～23：わり算）
第6回：模擬授業と授業討議④（3年下p59～61：三角形）
第7回：模擬授業と授業討議⑤（4年上p17～19：角の大きさ）
第8回：模擬授業と授業討議⑥（4年上p119、120：割合）
第9回：模擬授業と授業討議⑦（5年p140、141：台形の面積）
第10回：模擬授業と授業討議⑧（5年p220～222：速さ）
第11回：模擬授業と授業討議⑨（6年p59～61：分数÷分数）
第12回：模擬授業と授業討議⑩（6年p73～77：資料の整理）
第13回：模擬授業と授業討議⑪（6年p150、151：比例）
第14回：算数指導法Ⅱの授業の振り返り
第15回：教育実習への心構え
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説をもとに行う。（2時間）
- ・毎回の授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（2時間）

【成績の評価】

受講態度（10％） 模擬授業（30％） 指導案・授業記録・討議記録（30％） 最終課題レポート（30％）
・指導案、授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出し、コメントを記入して返却する。
・最終課題は、①「楽しい算数の授業づくりについて」、②「楽しい算数の授業の指導案」のレポートを作成し、15回目の最終授業時に提出する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年7月）
- ・新興出版社 啓林館 「わくわく算数（1～6年）」（平成31 検定済）

【参考文献】

- ・香川県教育委員会「さぬきの授業基礎・基本[改訂版]」（平成29年3月）

科目名： <KY0U7>理科指導法Ⅰ
担当教員： 高木 由美子(TAKAGI Yumiko)

【授業の紹介】

小学校教諭1種免許状を取得することを目的に、小学校理科の授業を実施するための基本的な内容を身につけるとともに、授業に役立つ理科学的な実習ならびに教材研究の実習とその報告を作成する。授業に役立つ理科学的な実習を一通り行ったのち、理科教材としての実験・観察について、教員と学生が相談して扱う対象を決め、全学生が実演し、その原理と教育的意味を報告し、そのあと検討の議論を行う。理科の実習の成果はレポートに、教材研究の実験は実験カードにまとめる。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」のための知識、技法の修得をめざします。

また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

- ・理科の観察・実験・実習の方法を理解し、その方法にもとづいて観察・実験・実習を行うことができる。
- ・取り上げられた物理・化学・生物・地学の各トピックの基礎的な概念を身に着け、実習・実験の考察に使用できる。
- ・簡単な探究的な課題に取り組み、そのレポートを書くことができる。
- ・実験を行う上での安全への適切な配慮を示すことができる。
- ・理科室の管理・運営に関する基本的な理解をもって行動することができる。
- ・理科授業において効果的な実験教材を限られた期間内に準備して予備実験を済ませ、実際に演示しわかりやすく説明し、カードを作成することができる。

【授業計画】

1. 授業内容説明、授業前アンケート実施

予習：高等学校化学内容の復習2時間、復習：アンケートで各自が答えられなかった項目の調べ学習1時間

2. 理科室の基本的な運営管理方法について

予習：安全教育に関する項目の調べ学習1時間、復習：課題レポート2時間

3. 化学分野（実験1：化学の概要、実験器具の基本操作）

予習：安全教育に関する項目の調べ学習1時間、復習：課題レポート2時間

4. 化学分野（実験2：物の燃え方と空気）

予習：「酸化」「燃焼」の調べ学習1時間、復習：課題レポート2時間

5. 化学分野（実験3：水溶液の性質とはたらき）

予習：「pH」定義に関する調べ学習1時間、復習：課題レポート2時間

6. 物理分野（熱伝導）

予習：「熱伝導」に関する調べ学習1時間、復習：課題レポート2時間

7. 生物分野（レポートの書き方・光学顕微鏡の操作方法、花粉の観察）

予習：「顕微鏡の仕組み」に関する調べ学習1時間、復習：課題レポート2時間

8. 地学分野（日なたと日かげの温度調べ）

予習：「地面温度の測定方法」に関する調べ学習1時間、復習：課題レポート2時間

9. 実施実験についての検討・予備実験

復習：課題実験決定に関する調査3時間

10. 理科教育分野演示実験

予習：担当者が選んだテーマに関する調べ学習1時間、復習：課題・準備レポート2時間

11. 物理分野演示実験

予習：担当者が選んだテーマに関する調べ学習1時間、復習：課題・準備レポート2時間

12. 化学分野演示実験

予習：担当者が選んだテーマに関する調べ学習1時間、復習：課題・準備レポート2時間

13. 生物分野演示実験

予習：担当者が選んだテーマに関する調べ学習1時間、復習：課題・準備レポート2時間

14. 地学分野演示実験

予習：担当者が選んだテーマに関する調べ学習1時間、復習：課題・準備レポート2時間

15. アンコール実験、まとめ

復習：理科カード作成3時間

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

理科教材実験は全員をグループに分け、2人または3人で授業時間外に行う予備実験によって、選んだ実験を追試・改良または開発し、授業時間内に実演する。演示が終わった実験については、授業時間外にその内容を実験カードにまとめ、翌週までに提出する。授業計画内の予習・復習の項目を参照する。

【成績の評価】

出席は必須とする。発表及び実験態度（30％）課題レポート、理科カードなどの提出物（70％）を総合評価し単位を認定する。演示した実験の教育的意義、難易度、実施できた水準、原理の考察の度合い、演示におけるコミュニケーション力などを総合判断して評価する。無断欠席またはレポート未提出があれば単位を認定しないことがある。

【使用テキスト】

理科実験はテキストを授業時間内に配布する。教材実験は、図書館の教材、インターネットに掲載されている実験などを参考とする。

新編 新しい理科 3－6年 東京書籍

【参考文献】

なし

科目名： <KY0U8>理科指導法Ⅱ

担当教員： 高木 由美子(TAKAGI Yumiko)

【授業の紹介】

教育実習の前に身につけておくべきことの習得を目指して、理科の単元案及び授業案を作成し、模擬授業を行うまでの実践力を育む。

分野ごとにどの単元案をつくるか決める。学生がそれぞれの単元の実践例などで参考になるものを探し、それと教科書の流れを比較し、その違いについてまとめて報告する。単元案を作成して報告する。また、模擬授業を行うところを選び、その指導案を作成し、模擬授業を行って、その内容について議論し、より良い指導案に改善することによって授業を行うにあたって教師が考えるべきことについて学ぶ。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」のための知識、技法の修得をめざします。

また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

・理科の単元案を、グループで相談しながら構想し、学習指導要領、教科書の内容の分析・検討を的確に行い、簡潔にまとめることができる。

・指導案及びその改善案を自身で作成する方法を学び、その学びを生かした模擬授業を行うことができる。

【授業計画】

1. 化学分野応用実験（マイクロスケール実験－塩の性質）

予習：「塩の加水分解」の復習2時間、復習：課題レポート作成1時間

2. 化学分野応用実験（マイクロスケール実験－中和滴定）

予習：「中和滴定」の復習2時間、復習：課題レポート作成1時間

3. 化学分野応用実験（マイクロスケール実験－有機化合物の同定）

予習：「有機化合物の同定」に関する調べ学習2時間、復習：課題レポート作成1時間

4. 化学分野応用実験（マイクロスケール実験－大気汚染）

予習：「SDG's」に関する調べ学習2時間、復習：課題レポート作成1時間

5. 単元案の作成法(教科書比較表および単元案のかき方)

予習：配布する「小学校地学分野単元案」を参考に自身が実施する単元に関する調べ学習2時間、復習：単元案作成1時間

6. 比較表および単元案の発表表の提案・議論-物理

予習：担当者が発表する単元に関する調べ学習1時間、復習：自身の単元案作成及び予備実験1時間

7. 比較表および単元案の発表表の提案・議論-化学

予習：担当者が発表する単元に関する調べ学習1時間、復習：自身の単元案作成及び予備実験1時間

8. 比較表および単元案の発表表の提案・議論-生物

予習：担当者が発表する単元に関する調べ学習1時間、復習：自身の単元案作成及び予備実験1時間

9. 比較表および単元案の発表表の提案・議論-地学

予習：担当者が発表する単元に関する調べ学習1時間、復習：自身の単元案作成及び予備実験1時間

10. 各自が行う模擬授業の分野決定・指導案の作成に関するガイドライン

復習：指導案作成及び予備実験3時間

11. 模擬授業の実施およびその授業検討①

予習：担当者が発表する授業テーマに関する調べ学習1時間、復習：自身の指導案修正及び予備実験2時間

12. 模擬授業の実施およびその授業検討②

予習：担当者が発表する授業テーマに関する調べ学習1時間、復習：自身の指導案修正及び予備実験2時間

13. 模擬授業の実施およびその授業検討③

予習：担当者が発表する授業テーマに関する調べ学習1時間、復習：自身の指導案修正及び予備実験2時間

14. 模擬授業の実施およびその授業検討④

予習：担当者が発表する授業テーマに関する調べ学習1時間、復習：自身の指導案修正及び予備実験2時間

15. 模擬授業の実施およびその授業検討⑤

予習：担当者が発表する授業テーマに関する調べ学習1時間、復習：自身の指導案修正及び予備実験2時間

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- ・履修者の人数に合わせて複数のグループを作り、グループごとに「比較表」と「単元表」を各教科作成する。授業時間内には、提出されたものに基づいて検討し、議論を進める。
- ・議論されたことをふまえて、授業終了後に各グループで再び検討し、「比較表」と「単元表」を完成させ、期限までに提出する。
- ・模擬授業は一人一回担当し、指導案作成は事前に行い、模擬授業に取り組む。
- ・模擬授業を行う前に、予備実験や必要な教材の準備などを実施する。
- ・予習・復習は授業計画欄の内容を参照すること。

【成績の評価】

レポートの成績（４０％）、実験授業の態度、発表・模擬授業における生徒との応答の実際、討議における発言内容（３０％）作成した「比較表」「単元表」「指導案」（３０％）を総合的に判断して評価する。

【使用テキスト】

新編 新しい理科 ３－６年 東京書籍

比較表、単元表の作成に使用した他の資料は該当部分を履修者人数分＋教員（１）分コピーし、授業日当日に持参するか、授業日前日までにメール添付・クラウドuploadなどの方法により配布する。

【参考文献】

なし

科目名： <KY0U9>生活科指導法 I
担当教員： 高橋 佳生(TAKAHASHI Yoshio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。小学校現場での授業実践と教員指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

生活科の学習指導を行う上で基本となる学習指導要領の目標や内容について理解を深め、栽培活動やフィールドワークなどを通して生活科の指導法と理念を体験的に学びます。また、生活科の授業の内容や在り方についてレクチャーする演習や協議を通して、教育者となるための資質・能力の向上を図ります。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針「2. 教育・保育に必要な知識の幅広く体系的な理解・実践と関連付けた理解」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. 学習指導要領に示される生活科の目標や内容、指導上の留意点などについて、実習や討論を通して体験的に理解するとともに、児童主体の教育についての考えを深めることができる。

2. 生活科学習の在り方を考え実践する学修を通して、知識体系と実際の教育活動を関連付け、教員としての実践に向けた資質・能力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 生活科指導法オリエンテーション、生活科教育の現状と課題
 - 第2回 生活科のねらいと内容（ディスカッション）
 - 第3回 教科書とその概要
 - 第4回 年間指導計画の作成と単元計画の基本（グループワーク）
 - 第5回 各学年の目標及び内容のポイントと解説（1）学校と生活
 - 第6回 生活科の内容の実際（自然のフィールドワーク）
 - 第7回 レクチャーと協議①「学校と生活」【演習】
 - 第8回 レクチャーと協議②「公共物の利用」【演習】
 - 第9回 生活科の内容の実際（栽培活動の準備と実際）
 - 第10回 レクチャーと協議③「季節の変化と生活」【演習】
 - 第11回 レクチャーと協議④「地域と生活」【演習】
 - 第12回 レクチャーと協議⑤「自然や物を使った遊び」【演習】
 - 第13回 レクチャーと協議⑥「自分の成長」【演習】
 - 第14回 生活科授業の基本と実際（栽培活動の収穫と片付け）
 - 第15回 まとめと評価 生活科授業の在り方
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

栽培活動での栽培園の整備や水やり、草取り、収穫などの当番活動（2時間）
演習やフィールドワークに関する計画づくり、用具・材料の準備（4時間）

【成績の評価】

授業ワークシート(80%)、小テスト(10%)、授業への参加態度・日常活動(10%)。
授業ワークシート、小テストについては、その都度、結果を授業時に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説生活編（平成29年3月告示 文部科学省）
教科書「あたらしいせいがかつ上、新しい生活下」東京書籍

【参考文献】

授業において適宜紹介、資料配布する。

科目名： <KY0U10>生活科指導法Ⅱ
担当教員： 高橋 佳生(TAKAHASHI Yoshio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。小学校現場での授業実践と教員指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

生活科の学習において求められる児童主体の学習展開や体験的な学習過程について、単元の構想や学習指導案づくりを通して学びます。また、模擬授業の実施・協議を通して、教員として教育を担い、社会に貢献できるための資質・能力の向上を図ります。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針「2. 教育・保育に必要な知識の幅広く体系的な理解・実践と関連付けた理解」に関する知識、技法の修得をめざします。

また、具体的な学修成果としては『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』と関連しています。

【到達目標】

1. 生活科の学習指導案づくり、模擬授業の実践を通して、授業づくりの基本を理解するとともに、児童主体の学習とするための学習展開や教材、指導技術の考えを深めることができる。
2. 生活科学習の在り方を考え実践する学修を通して、知識体系と実際の教育活動を関連付け、教員としての実践に向けた資質・能力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、生活科学習指導の進め方
- 第2回 模擬授業に向けた検討・計画づくり
- 第3回 単元構想案づくりとグループ検討（グループワーク）
- 第4回 学習展開・体験的学習の基本（ビデオ視聴とディスカッション）
- 第5回 学習指導案づくり(1)、教材研究（教材・教具）
- 第6回 学習指導案づくり(2)、グループ別検討（グループワーク）
- 第7回 模擬授業に向けた教材の準備（グループワーク）
- 第8回 模擬授業及び研究討議(1)（授業実践）
- 第9回 模擬授業及び研究討議(2)（授業実践）
- 第10回 模擬授業及び研究討議(3)（授業実践）
- 第11回 模擬授業及び研究協議(4)（授業実践）
- 第12回 模擬授業及び研究協議(5)（授業実践）
- 第13回 模擬授業及び研究協議(6)（授業実践）
- 第14回 模擬授業の振り返りと生活科学習の要件（グループワーク）
- 第15回 まとめ 生活科が小学校教育に果たす役割
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

学内の栽培園での冬野菜の栽培活動（当番制での水やり、草取り、肥料やり）（1時間）
模擬授業に向けた計画・指導案作り、教材・教具など資料の準備（4時間）

【成績の評価】

授業ワークシート(80%)、小テスト(10%)、授業への参加態度・日常活動(10%)。
授業ワークシート、模擬授業評価については、その都度、授業時に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年3月告示 文部科学省）
教科書「あたらしいせいかつ上、新しい生活下」東京書籍

【参考文献】

授業において適宜紹介、資料配布する。

科目名： <KY0U11> 家庭科指導法
担当教員： 大西 えい子(OONISHI Eiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある担当教員が小学校での家庭科指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら行います。

家庭科は、家庭生活を中心にした生活を学習対象として、体験的・実践的に学習し、ひとりひとりがよりよく生きることを目標としている教科である。この授業では、家庭科の教科としての歴史の変遷や独自性を理解し、学習指導要領に示された目標、内容、指導上の留意点などを踏まえた上で、学習指導案を作成し、グループごとに模擬授業を行う。また、家庭科の授業において必要不可欠な調理及び被服製作実習の指導に必要な基礎的・基本的な知識や技能を、実習を交えて修得する。授業を通して、家庭科の指導に必要な資質である生活者としての視点と生活実践力を身につけようと継続的に学ぶ能力や実践的指導力を身につけるようにする。実習の授業の際には裁縫道具や布地などの資材、食材や白衣またはエプロン、三角巾、マスク、布巾などの準備が必要である。また、この授業を受講する学生は、必ず第1回目を受講すること。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法を習得するものである。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領における家庭科の目標及び内容、指導上の留意点を理解できる。
2. 家庭科教育における体験的・実践的学習の意義が理解できる。
3. 児童の意欲や認識、生活等の実態を視野に入れた授業計画を構想することができる。
4. 具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。
5. 児童の実践的・体験的な学習を展開するために必要な基礎的・基本的な知識や技能を修得することができる。

【授業計画】

この授業では、連絡事項の伝達や課題の提示等にGoogle Classroomを使用します。受講する学生は、以下の方法でクラスに参加してください。

1. インターネットに接続されたパソコン、タブレット、スマートフォンなどのICT機器を準備する。
 2. インターネットブラウザを起動する。(Chrome推奨)
 3. GoogleのWEBページを表示する。(https://www.google.co.jp/)
 4. 高松大学の学生用メールアドレス (u○○○○○○○@stg.takamatsu-u.ac.jp)でログインする。
- ※高松大学の学生用メールアドレス以外のGmailアドレスでは、Classroomへの参加はできませんが、資料の閲覧や課題の提出等が正常にできません。必ず高松大学の学生用メールアドレスでログインし、Google Classroomを経由して課題等を提出するなどの操作をしてください。

この授業のクラスコードは、【ai7wzqf】

第1回：ガイダンス(授業のねらいと進め方について)

第2回：小学校家庭科教育の変遷 家庭科教育の意義とねらい及び内容

第3回：家庭科の授業づくり(学習指導と評価、年間指導計画・ICT機器の活用方法)

第4回：「生活を豊かにするための布を用いた製作」手縫いの基礎

第5回：「生活を豊かにするための布を用いた製作」ティッシュケースの製作①あき口の三つ折り縫い

第6回：「生活を豊かにするための布を用いた製作」ティッシュケースの製作②脇縫い、仕上げ

第7回：模擬授業の計画(教材研究・指導案作成)

第8回：模擬授業及び授業観察①家族・家庭生活領域

第9回：模擬授業及び授業観察②食領域

第10回：模擬授業及び授業観察③衣領域

第11回：模擬授業及び授業観察④住領域

第12回：模擬授業及び授業観察⑤消費生活領域

第13回：模擬授業及び授業観察⑥環境領域

第14回：模擬授業及び授業観察⑦課題と実践

第15回：模擬授業及び授業観察⑧学習指導案の見直し

定期試験は実施しない。

なお、授業計画は状況により変更することもあります。

【授業時間外の学習】

授業の予習、復習にはそれぞれ2時間以上の時間を費やすことが必要である。予習としては、次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気づいたこと等をノートにまとめておくこと（2時間）。復習として、授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（2時間）。実習の授業については、予習として実習に必要な準備物は授業までに準備し、計画表を完成しておき、実習内容に必要な知識や技能について調べ、実習における自分の課題を確認しておくこと（2時間）。また、実習後は授業で学んだ技能を各自の生活で実践し、確実に修得するよう努力し、実施状況を記録しておくこと（2時間）。家庭科は家庭生活を中心とした生活に関わる内容を取り扱う教科であるため、各自が自立した生活主体者として暮らし、常に科学的な視点で日々の生活において問題を見出し、気づいたことはノートに書き留めておき、常に解決する努力をし続けること。

【成績の評価】

授業態度及び意欲（10%）、予習復習の課題（10%）、提出物の提出状況及びその内容（50%）、模擬授業への取り組み方等（30%）。

なお、提出物は提出期限後は受け取らない。また提出物の未提出、本人からの事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とする。30分以上の遅刻、または遅刻3回で欠席1回とみなす。被服製作実習および調理実習については準備なしでの授業への出席は認めない。被服製作実習での製作物の提出及び調理実習の授業への参加は必須である。

レポート等の課題については授業時間内またはオフィスアワーに解説する。

【使用テキスト】

「小学校学習指導要領解説 家庭編」,文部科学省,東洋館出版社,2017年

「新しい家庭5・6」,東京書籍,2020年

【参考文献】

「初等家庭科の研究―指導力につなげる専門性の育成」,大竹美登利 倉持清美著,萌文書林,2018年

「小学校家庭科教育法」大竹美登利編纂,建帛社,2018年

その他関連する参考文献については講義の中で適宜説明する。

科目名： <KY0U112>体育指導法Ⅰ
担当教員： 上野 耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】

小学校学習指導要領「体育科」では、体育科の目標を「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」としています。つまり、小学校体育では児童のスポーツ愛好度を高めることを重視した授業を求めています。本授業では児童が「夢中になって取り組める授業づくり」ができる知識や技能を修得し、創造的な教材開発力と授業実践力を身に付けることをめざします。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

授業の到達目標及びテーマ

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点について説明できる。
2. 児童の意欲や思考力、判断力などの実態に応じた授業づくり・教材づくりができる。
3. 教育に係る資質向上に向けて、自らの体育授業を客観的に評価・反省し、継続的に学習することができる。
4. 「良い体育授業」の基礎的・内容的条件を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

【授業計画】

クラスコード【2re5yvf】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：スポーツ・運動の価値
 - 第3回：体育の目的
 - 第4回：体育の目標の変遷
 - 第5回：体育の学習指導要領
 - 第6回：良い体育授業の条件
 - 第7回：体育における指導・学習スタイル
 - 第8回：体育における教材と教具
 - 第9回：体育の学習評価
 - 第10回：体育授業の観察・評価の方法
 - 第11回：学習指導案づくり
 - 第12回：体育の模擬授業（体づくり：体ほぐしの運動）
 - 第13回：体育の模擬授業（体づくり：体の動きを高める運動）
 - 第14回：体育の模擬授業（器械運動：マット運動 接点技群）
 - 第15回：授業のまとめと今後の課題の提示
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

次時の学習内容を予告するので、関連内容について参考資料等により予習してください。模擬授業の担当者は前時終了までに学習指導案を作成した上で教員のチェックを受けてください。模擬授業の準備はグループのメンバーで協力して行い責任を果たしてください。文部科学省HPにある小学生を対象とした指導モデルを参考に、毎週の担当者の授業と比較しながら振り返ることにより、2時間程度の復習をして下さい。

【成績の評価】

中間テスト（30%）、模擬授業の発表内容（30%）、模擬授業実施後のレポート（40%）で評価する。レポートは模擬授業を実施した次の週に全員で振り返りますので、それまでに必ず提出して下さい。

【使用テキスト】

テキストは特に使用せず、授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店）2010年
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： <KY0U112>体育指導法Ⅱ
担当教員： 上野 耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】

小学校学習指導要領「体育科」では、体育科の目標を「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」としています。つまり、小学校体育では児童のスポーツ愛好度を高めることを重視した授業を求めています。本授業では児童が「夢中になって取り組める授業づくり」ができる知識や技能を修得し、創造的な教材開発力と授業実践力を身に付けることをめざします。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

授業の到達目標及びテーマ

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点について説明できる。
2. 児童の意欲や思考力、判断力などの実態に応じた授業づくり・教材づくりができる。
3. 教育に係る資質向上に向けて、自らの体育授業を客観的に評価・反省し、継続的に学習することができる。
4. 「良い体育授業」の基礎的・内容的条件を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

【授業計画】

クラスコード【ozf2vvb】

- 第1回：体育の模擬授業（器械運動：マット運動 翻転技群）
第2回：体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動 切り返し系）
第3回：体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動 回転系）
第4回：体育の模擬授業（陸上運動：短距離走）
第5回：体育の模擬授業（陸上運動：リレー）
第6回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 宝取り鬼）
第7回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 コロコロボール）
第8回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 ハンドボール）
第9回：体育の模擬授業（ボール運動：ネット型 キャッチバレーボール）
第10回：体育の模擬授業（ボール運動：ネット型 ソフトバレーボール）
第11回：体育の模擬授業（ボール運動：ベースボール型 キックベースボール）
第12回：体育の模擬授業（表現運動：表現・フォークダンス）
第13回：体育の模擬授業（保健：心の発達）
第14回：体育の模擬授業（保健：心と体の相互の影響）
第15回：授業のまとめと今後の課題の提示
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

次時の学習内容を予告するので、関連内容について参考資料等により予習してください。模擬授業の担当者は前時終了までに学習指導案を作成した上で教員のチェックを受けてください。模擬授業の準備はグループのメンバーで協力して行い責任を果たしてください。文部科学省HPにある小学生を対象とした指導モデルを参考に、毎週の担当者の授業と比較しながら振り返ることにより、2時間程度の復習をして下さい。

【成績の評価】

中間テスト（30%）、模擬授業の発表内容（30%）、模擬授業実施後のレポート（40%）で評価する。レポートは模擬授業を実施した次の週に全員で振り返りますので、それまでに必ず提出して下さい。

【使用テキスト】

テキストは特に使用せず、授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店）2010年
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： <KY0U13> 音楽指導法 I
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。7. 教育・保育に係る資質向上に向けた継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教保育保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

- ・子どもの育ちを支えるために必要な教育の一環として音楽科の授業、および音楽表現関連の特別活動を指導する上で求められる専門的知識、技能と実践力を修得する。
 - ・将来教育現場において自ら継続的に学ぶことができるよう、個々に適応した準備や練習の工程を作成する。
 - ・児童が生活の中で音楽に親しみ味わえるようサポートするための授業を行なえる力を磨く。
 - ・共通教材を用いたピアノの弾き歌いやリコーダー、指揮等の技能と共に必要な理論を修得する。
- また教材を研究し自ら指導案を作成、模擬授業や相互評価を行い実践的な流れを体験する。
- ・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領に示された音楽科の教科の目標と第1から第3学年までの内容を理解できる。
2. 授業を円滑に行うために必要な演奏技術と音楽理論を修得し、教材となる曲を堅実に演奏することができる。
3. 指導上の留意点を理解し、学習指導要領に忠実な指導案を作成できる。
4. 児童を導き評価を行うための聴く力（共通教材演奏時、音程やリズムの違いを判断できる力、こちよい響きを判定できる力）を身に付け、また適切な表現でコメントすることができる。
5. 教材と学習のねらいを的確に判断し、自ら継続的に学ぶ能力を獲得することができる。
6. 音楽教科の幅広く体系的な理解を礎に、具体的な授業の計画を行うことができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、ピアノ演奏技術の進捗調査（自由曲の演奏）
 - 第2回：学習指導要領に示された教科の目標と指導内容
 - 第3回：弾き歌いの指導（1）「うみ」ト長調と階名、拍子
 - 第4回：弾き歌いの指導（2）「日のまる」ヘ長調と階名、コードネームによる伴奏
 - 第5回：弾き歌いの指導（3）「春がきた」美しい発声法
 - 第6回：弾き歌いの指導（4）「虫のこえ」擬声語と打楽器による表現
 - 第7回：弾き歌いの指導（5）「うさぎ」日本古謡と陰音階
 - 第8回：弾き歌いの指導（6）「茶つみ」ヨナ抜き音階、手遊び、リズム打ち
 - 第9回：リコーダー奏法
 - 第10回：指揮法と器楽および声楽アンサンブル
 - 第11回：「音楽づくり」の意義と指導法
 - 第12回：「鑑賞」の教材研究と指導法、ICT機器の使用
 - 第13回：学習指導案の作成
 - 第14回：第1回模擬授業と振り返り、音楽科における学習評価の考え方について
 - 第15回：第2回模擬授業と振り返り、1～3学年の指導法についての総括
- 定期試験：筆記試験、実技試験（ピアノ弾き歌い）

【授業時間外の学習】

週に最低1時間以上、次回授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。学習指導案の草稿を作成し、授業後には念入りに修正を行い、より洗練されたものへと仕上げる。必要であれば教具を作成する。

【成績の評価】

定期試験-筆記（35%）、定期試験-実技（35%）、作成した学習指導案（10%）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（20%）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
(平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社)

【参考文献】

文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」平成29年7月

科目名： <KY0U14> 音楽指導法Ⅱ
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

・子どもの育ちを支えるために必要な教育の一環として音楽科の授業、および音楽表現関連の特別活動を指導する上で必要な専門的知識、技能と実践力を修得する。

・音楽指導法Ⅰで得た基礎能力にさらに磨きをかけ、また反復によって指導者としての資質を高める。

・児童が生活の中で音楽に親しみ味わえるようサポートするための授業を行なえる力を磨く。

・共通教材を用いたピアノの弾き歌いやその他の楽器、指揮等の技能と共に必要な理論を習得する。

また教材を研究し自ら指導案を作成、模擬授業や相互評価を行い実践的な流れを体験する。

・将来、教育現場において自ら継続的に学ぶことができるよう、個々に適応した準備や練習の工程を作成する。また邦楽と洋楽の比較、他教科や特別活動との関連付けを通して視野の拡大と内容の理解を深め、幅広く音楽に係わるシーンを知っていく。

・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領に示された音楽科の教科の目標と第4から第6学年までの内容を理解できる。
2. 授業を円滑に行うために必要な演奏技術と音楽理論を修得し、教材となる曲を楽しむ（実技試験で滑らかに演奏する）ことができる。
3. 教材を多様な側面から研究し、自らのアイデアで学習指導案を作成できる。
4. 児童を導き評価を行うための聴く力（共通教材演奏時、音程やリズムの違いを判断する力、こちよい響きを判定できる力）を身に付け、また適切な表現でコメントすることができる。
5. 教材と学習のねらいを的確に判断し、自ら継続的に学ぶ能力を獲得することができる。
6. 音楽教科の幅広く体系的な理解を礎に、具体的な授業の計画を行うことができる。
7. 学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深め、より豊かな指導へと結びつけることができる。

【授業計画】

第1回：学習指導要領に示された教科の目標と指導内容

第2回：弾き歌いの指導（1）「とんび」美しい発声法

第3回：弾き歌いの指導（2）「もみじ」へ長調と階名、（2部合唱への試み）

第4回：弾き歌いの指導（3）「子もり歌」日本古謡、五音音階、（リコーダーとの重奏）

第5回：弾き歌いの指導（4）「冬げしき」二部合唱、3拍子と抑揚の体得

第6回：弾き歌いの指導（5）「おぼろ月夜」弱起、歌詞の理解と情景の味わい

第7回：弾き歌いの指導（6）「われは海の子」二長調と階名、明瞭な発音、滑舌や発声のまとめ

第8回：打楽器の奏法と指導法

第9回：指揮法と器楽・声楽アンサンブル

第10回：日本の伝統音楽と外国の民族音楽 ICT機器の使用

第11回：音楽科と他教科、特別活動との関連

第12回：「鑑賞」の教材研究と指導法、ICT機器の使用

第13回：学習指導案の作成

第14回：第1回模擬授業と振り返り、音楽科における学習評価の考え方について

第15回：第2回模擬授業と振り返り、第4～6学年の指導法についての総括

定期試験

【授業時間外の学習】

週に最低1時間以上次回授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。学習指導案の草稿を作成し、授業後には念入りに修正を行い、より洗練されたものへと仕上げる。必要であれば教具を作成する。

【成績の評価】

定期試験-筆記（35%）、定期試験-実技（35%）、作成した学習指導案（10%）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（20%）

実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
（平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会編、音楽之友社）

【参考文献】

文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編-平成29年7月」

科目名： <KY0U15> 図画工作指導法

担当教員： 速水 史朗(HAYAMI Shiro), 速水 規里(HAYAMI Misato)

【授業の紹介】

平面や立体（紙、粘土、木等の素材）の造形表現実習及び美術館の鑑賞などの活動を通して、作り出す喜び、美術にふれる楽しさを自身体験する。「造形的な見方・考え方」を働かせるにはどうしてゆくかを、その体験から考察し図画工作の学習指導法に活かしてゆく。

その活動から、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身につけ、教育（図画工作指導）の知識・能力や態度・指向性を修得する。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できていること」の育成に関わっています。また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

Google Classroom：クラスコード 7532uwo

【到達目標】

・「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することをめざす」授業を行えるために、図画工作のいろいろな教育内容を適切に具体的に体験ができる。

・体験した中での問題点や課題に気づいて解決する力を身につけることをめざす。

・それをいろいろな場面にあてはめながら、「児童生徒一人一人が表現の楽しさを覚え、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わい、造形的な能力を培い、豊かな情操を養う」という目標を持った指導方法を考察し、構築してゆく力を身につけることをめざす。

（図画工作指導法研究における教育目的、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作指導法研究の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることをめざす。）

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、講師自己紹介、学生自己紹介 授業の方針と進め方の説明、次回授業の説明、学生の目的、要望の聞き取り

第2回：色彩構成（平面） 色紙による色彩構成、構図を考える

第3回：色彩構成（平面） 配色を考えながら構成制作

第4回：色彩構成、立体構成 色彩構成の完成、立体構成を考える

第5回：紙による立体構成 画用紙での立体造形 構成を考える

第6回：紙による立体構成 組み立て及び配色

第7回：絵を描く（人物・彩色） 友人を描く デッサン

第8回：絵を描く（人物・彩色） 彩色

第9回：コラージュ制作 印刷物を切り取りイメージの再構築（導入部分に模擬授業を行う）

第10回：コラージュ制作 再構築したイメージの貼り込み

第11回：美術の鑑賞（香川県立ミュージアム、市立美術館等）2時間（1-1）学芸員の説明を受けての美術の鑑賞他

第12回：美術の鑑賞（香川県立ミュージアム、市立美術館等）2時間（1-2）学芸員の説明を受けての美術の鑑賞他 校外授業の考察

第13回：提出課題の講評、粘土による造形 粘土の扱い方 立体の捉え方

第14回：粘土による造形 細かい部分の仕上げ（乾燥後焼成して返却）

第15回：学習指導案作成 粘土を使った授業の指導案作成

第16回：学習指導案作成 粘土を使った授業の指導案作成

第17回：美術の鑑賞（香川県立ミュージアム、市立美術館等）2時間（2-1）学芸員の説明を受けての美術の鑑賞他

第18回：美術の鑑賞（香川県立ミュージアム、市立美術館等）2時間（2-2）学芸員の説明を受けての美術の鑑賞他 校外授業の考察

第19回：提出課題の講評、絵手紙 出す相手を決めて構図を考える

第20回：絵手紙 絵手紙作成

第21回：木のレリーフ制作 デザインを考える

第22回：木のレリーフ制作 木に図柄をうつし、掘り始める

第23回：木のレリーフ制作 木を彫る

第24回：木のレリーフ制作 木を彫る

第25回：木のレリーフ制作 彫り上げた作品に色を付ける

第26回：木のレリーフ制作 作品の色付けおよび仕上げ、展示、講評

第27回：抽象表現 花、動物など具体的な事象をどのように表すかの考察

第28回：抽象表現 絵の具色紙などを使って制作

第29回：学習指導案作成 前回の指導案の注意点を踏まえて、指導案作成

第30回：学習指導案作成及び発表 指導案作成及び発表

定期試験は実施しない。

美術の鑑賞は2時間となるため、原則として土曜日の3・4時限にて行う（補講）

美術館のスケジュールにより、上記日程は変更になることがあります。

【授業時間外の学習】

課題は原則授業の最後に提出。いろいろな課題をどの様に授業に活かしてゆくかを考え、疑問点問題点などを話し合いながら制作。次回の授業に必要な資料、アイデアスケッチなどを準備しておく。（15時間程度）

提出出来ない場合は、次回授業で提出になるので、各自持ち帰って完成すること。（12時間程度）

美術の鑑賞では、次回授業時に「鑑賞、学芸員の説明に対する感想、授業としてどう活かすか」などのレポート提出。（3時間程度）

授業に出席できない場合（実習、個人の理由ともに）課題もしくはレポートを提出。（3時間程度）

【成績の評価】

受講態度、課題提出状況、発表、授業に対する理解度等を総合的に判断します。

各課題・レポート（70％）、学習指導案（30％）

各課題については数回に分けて授業の冒頭もしくは授業中に個別に講評を行います。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説図画工作編（平成29年告示）

【参考文献】

なし

科目名： <KY0U16>外国語指導法 I
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

小学校外国語教育についての基礎的な知識・理解を深め、子どもの第二言語習得についての知識とその活用方法を学び、授業実践に必要な基礎的な指導技術を修得する。知識・理解を深めるために、調べてきたことや準備してきたことを発表する授業形態をとり、知識の活用方法や指導技術を身に付けるために、ペアワークやグループワークによる言語活動を学生が自ら体験しながら学ぶ。

また、講義、演習、実習を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びになるよう、講義中心ではなくワークショップ中心の授業を行うとともに、実際の授業づくりにも取り組む。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できること」に関する知識、技能の修得をめざす。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連している。

Google Classroom への参加コードは、zducq6a です。

【到達目標】

- ・小学校における外国語活動（英語）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることができる。
- ・英語を使ってコミュニケーションを図るための素地を児童に効果的に習得させることができる。
- ・英語の発音やアクセントなど、音声指導が確実にできる。
- ・小学校英語教育に求められる英語力を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション 「第一部 外国語の指導法」について
第2回	Unit 1 外国語活動と外国語科の目標、Unit 2 小・中の連携と小学校の役割
第3回	Unit 3 児童や学校の多様性への対応、 Unit 4 言語使用を通じた言語習得・音声によるインプット
第4回	Unit 5 コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした言語活動 Unit 6 音声から文字へ
第5回	Unit 7 国語教育との連携、Unit 8 Classroom English, Small Talk, Teacher Talk
第6回	Unit 9 「読むこと」と「書くこと」への導き方、Unit 10 題材の選定と教材
第7回	Unit 11 学習到達目標、指導計画（カリキュラム・マネジメント） Unit 12 学習指導案の作り方
第8回	Unit 13 ALT等とのチーム・ティーチングによる指導の在り方 Unit 14 ICT等の活用の仕方
第9回	Unit 15 外国語科の学習評価
第10回	学習指導案作成
第11回	模擬授業（1）
第12回	模擬授業（2）
第13回	模擬授業（3）
第14回	インタビューテストの準備
第15回	インタビューテスト
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（2時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（2時間）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」20%、「授業時間以外に課すレポート等提出課題」20%、「小テスト」20%、「インタビューテスト及び模擬授業」40%の4項目を総合的に評価します。レポート、小テスト、インタビューテスト及び模擬授業については、その都度フィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

小学校英語 はじめる教科書 改訂版

外国語科・外国語活動指導者養成のためにー コア・カリキュラムに沿ってー
（小川隆夫、東仁美著、mpi松香フォニックス、2021）

【参考文献】

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 外国語編及び外国語活動編
（平成29年3月 文部科学省）

科目名： <KY0U16>外国語指導法Ⅱ
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

小学校外国語教育についての基礎的な知識・理解を深め、子どもの第二言語習得についての知識とその活用法を学び、授業実践に必要な基礎的な指導技術を修得する。知識・理解を深めるために、調べてきたことや準備してきたことを発表する授業形態をとり、知識の活用法や指導技術を身に付けるために、ペアワークやグループワークによる言語活動を学生が自ら体験しながら学ぶ。

また、講義、演習、実習を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びになるよう、講義中心ではなくワークショップ中心の授業を行うとともに、実際の授業づくりにも取り組む。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できること」に関する知識、技能の修得をめざす。

また、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連している。

【到達目標】

- ・小学校における外国語活動（英語）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることができる。
- ・英語を使ってコミュニケーションを図るための素地を児童に効果的に習得させることができる。
- ・英語の発音やアクセントなど、音声指導が確実にできる。
- ・小学校英語教育に求められる英語力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 「第三部 外国語活動の指導法」について
第2回 Unit 1 小学校教育の理念と現状理解、Unit 2 中学年外国語活動から高学年外国語科への接続
第3回 Unit 3 発達心理学の基礎、Unit 4 外国語（英語）活動のねらいと活動の在り方
第4回 Unit 5 児童の認知・情緒発達に即した指導法
Unit 6 学級担任とJTEとのチーム・ティーチング
第5回 Unit 7 ことばへの気づきをもたらし指導、Unit 8 外国語活動の学習評価
第6回 Unit 9 中学年に適したさまざまな活動、Unit 10 中学年に適した教材
第7回 Unit 11 英語によるやり取りの仕方
Unit 12 児童の発話の引き出し方・児童とのやり取りの進め方
第8回 Unit 13 語彙や表現に慣れ親しませる方法、Unit 14 読み聞かせ指導
第9回 Unit 15 発表活動の指導
第10回 "Speech"テスト
第11回 学習指導案作成
第12回 模擬授業（1）
第13回 模擬授業（2）
第14回 模擬授業（3）
第15回 まとめ（模擬授業の授業研究等）
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（2時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（2時間）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」20%、「レポート等、授業以外に課す課題」20%、「小テスト」20%、「"Speech"テスト及び模擬授業」40%の4項目を総合的に評価します。レポート、小テスト、"Speech"テスト及び模擬授業については、その都度フィードバックを行います。
なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

小学校英語 はじめる教科書 改訂版
外国語科・外国語活動指導者養成のためにー コア・カリキュラムに沿ってー
（小川隆夫、東仁美著、mpi松香フォニックス、2021）

【参考文献】

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 外国語編及び外国語活動編
（平成29年3月 文部科学省）

科目名： <KY0U17> 保育・教職実践演習（保・幼）

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko), 田中 美季(TANAKA Miki), 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi), 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki), 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu), 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi), 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目です。保育所、幼稚園等の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の理論的、実践的活動を通して、学生が身につけた豊かな心や創造力等の資質・能力が保育者に最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものです。そのため、1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して定着を図ります。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 保育・教育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する学修の取り組みを目指します。なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。～⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』の全てに関連しています。

なお、後期開講ですが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施することがあります。

【到達目標】

- (1) 幼稚園教員や保育士としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
- (2) 幼稚園教員や保育士としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
- (3) 乳幼児についての理解や学級経営等に関する知識を身に付け、考え方や基礎的事項を例示することができる。
- (4) 教育課程・全体の指導計画等についての知識や保育内容の指導力を身に付けることができる。

【授業計画】

以下のように各回2コマ実施します。

第1回	オリエンテーション・保育職を取り巻く現代的問題 ①本演習の目的と進め方 ②演習
第2回	社会性や対人関係能力に関する事項(1) ①教員や保育士に求められるマナーや社会性（講義） ②模擬面接
第3回	保育者に必要な危機管理対応 ①講義 ②演習
第4回	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1) ①講義 ②演習
第5回	社会性や対人関係能力に関する事項(2) ①講義 ②演習
第6回	保育内容の指導力に関する事項(1) ①造形表現に関する保育方法や技術の検討（講義） ②演習
第7回	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2) ①講義 ②演習
第8回	乳幼児理解や保育経営等に関する事項(1) ①特別な支援を必要とする乳幼児の理解（講義） ②演習
第9回	乳幼児理解や保育経営等に関する事項(2) ①乳幼児の保護者との懇談 ②演習
第10回	乳幼児理解や保育経営等に関する事項(3) ①講義 ②演習
第11回	保育内容の指導力に関する事項(2) ①健康に関する保育方法や技術の検討（講義） ②演習
第12回	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(3) ①講義 ②演習
第13回	社会性や対人関係能力に関する事項(3) ①保育者の対人能力（講義と演習）
第14回	保育内容の指導力に関する事項(3) ①音楽表現に関する保育方法や技術の検討（講義） ②演習
第15回	保育職に求められる資質・能力 ①総括 ②演習

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及びテキスト・資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。（1時間）

復習：授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。また、各回について、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、指定期日までに提出します。（1時間）

【成績の評価】

受講状況（20%）、毎回のワークシート・課題についてのまとめ（80%）によって、総合的に評価します。

提出されたワークシートや課題は次回以降の授業時に返却します。教員からの講評を受けることでフィードバックを行います。

また、毎回の授業時のワークシートや課題等の提出が必要です。出席、欠席にかかわらず未提出の場合は単位が出ません。なお、授業の意義と役割に鑑み、本学の欠席届の対象とならない欠席は認められません。

【使用テキスト】

必要に応じて資料を配付、または紹介します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <KYOU18>教職実践演習（小）

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 七條 正典(SHICHIJO Masanori), 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka), 堺 るり子(SAKAI Ruriko), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke), 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の学修活動を通して、身に付けた資質・能力が教員として最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものです。1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して「理論」と「実践力」の定着を図ります。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。～7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」の全てに関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。～⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』の全てに関連しています。

本授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目で、小学校、特別支援学校等の現場での経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

なお、後期開講ですが、必要に応じてその一部を前期に実施することがあります。

【到達目標】

1. 小学校の教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
2. 小学校の教員としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
3. 児童についての理解や学級経営等に関する知識を身に付けることができる。
4. 小学校の教育課程や指導についての知識や技能、指導力等を高めることができる。

【授業計画】

授業計画 以下のように各回2コマ実施します。

第1回	社会性や対人関係能力に関する事項(1) ① 教員に求められるマナーや社会性	② 模擬面接
第2回	小学校の教育内容の指導力に関する事項 ① 小学校現場の課題把握	② 小学校教員との交流
第3回	教職を取り巻く現代的課題 ① 本演習の目的と進め方	② 到達目標について討議、ワークシートの作成
第4回	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1) ① 講話	② 現職教員と学校現場の課題について討議
第5回	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2) ① 講話	
第6回	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(3) ① 教育行政関係職員との討議	② 小学校管理職との討議
第7回	社会性や対人関係能力に関する事項(2) ① 不登校対策（適応指導教室訪問）	
第8回	社会性や対人関係能力に関する事項(3) ① ストレスとの付き合い方（講話・演習）	
第9回	児童理解や学級経営等に関する事項(1) ① 特別な支援を必要とする児童の理解（講話）	② 同（演習）
第10回	児童理解や学級経営等に関する事項(2)（学校訪問） ① 学校、学級経営の理解（講話）	② 若年教員等との懇談会
第11回	児童理解や学級経営等に関する事項(3) ① 学級経営計画について（講話）	② 学級経営計画の作成、発表、討議
第12回	教育内容の指導力に関する事項(1) ① 教育課程の編成原理等について（講話）	② 教育改革の動向（講話）
第13回	教育内容の指導力に関する事項(2) ① 教科内容等の指導力について検討	② 模擬授業
第14回	教育内容の指導力に関する事項(3) ① 新しい教育方法や技術の検討	
第15回	教員に求められる資質・能力のまとめ ① 求められる教師像のまとめ発表	② 総括

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

各回について、1時間程度の復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。

【成績の評価】

討議や発表における参加度(50%)や毎回のまとめ(30%)、ワークシート(20%)によって評価。まとめやワークシートは、その都度添削して授業時間に返却する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年3月告示 文部科学省）

【参考文献】

適宜紹介、資料として配付する。

科目名： <KY0U19>教職教養演習Ⅰ
担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

教育原理、教育史、保育原理などの教職教養の基礎知識は備わっただろうか。本授業はそれらの確認や復習のために実施します。それは発達科学部の専門科目である教育学原論や教育制度論、保育原理、あるいは教師論で既に学んだ内容であり、受験に向けて基礎知識の定着を図るものでもあります。主として問題演習を行うが、解説を通して内容を実践に結びつけて理解することも目的とします。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できていること」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果の『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

- ・教育・保育や学校（園）に関する専門的な知識を習得し、用語や内容について説明することができる。
- ・教育・保育の思想や仕組みについて理解し、説明することができる。
- ・習得した知識を教育・保育の実践と関連づけて、自分なりの意見や考えを述べることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	教育・保育の意義と概念
第3回	西洋教育史1 古代・中世
第4回	西洋教育史2 近代
第5回	西洋教育史3 現代
第6回	西洋教育史4 まとめ
第7回	日本教育史1 江戸・明治期
第8回	日本教育史2 大正期
第9回	日本教育史3 戦後
第10回	日本教育史4 まとめ
第11回	教育制度
第12回	教育課程
第13回	教職員
第14回	保育・教育改革の動向
第15回	現代の保育・教育問題
定期試験は行わない。	

【授業時間外の学習】

毎回、前回学習した内容に関する小テストを最初に実施するので、各回に学んだことを、次回までに復習しておく（毎回2時間、合計30時間）が必要である。また、次回の内容について各自で調べておき、予習しておく（毎回1時間、合計15時間）が必要である。

【成績の評価】

受講態度や授業への積極的な参加状況（30%）、小テスト（70%）を総合して評価する。
毎回、小テストの解答を示し、解説する。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。毎回のテーマにそった資料を配布し、それを用いて講義する。

【参考文献】

佐々木司・熊井将太編著『やさしく学ぶ教育原理』ミネルヴァ書房、2018年など

科目名： <KYOU20>教職教養演習 II
担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

子どもや子育てに関する問題が目まぐるしく起こっており、これまで見られなかった複雑な判断が求められることが増えています。そのため、教育や保育の現場において法規についての基礎的理解が欠かせません。

本授業では、小学校、幼稚園・保育所などの採用試験対策としての問題練習及び解説を行います。教育法規の意義は何か、学校教育に関するどのような法律があるか、子育て支援などの法規はどのように定められているのかなどの説明及び意見交換をしながら、法規について基本的な理解を深めていきます。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できていること」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果の『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる』に関連しています。

【到達目標】

1. 教育・保育の法規の意義、教育・保育に関する基本的な法規の内容、教育・保育の諸問題についての法的な関わりなどを理解し、説明できる。
2. 教育・保育の法規そのものに対する知識や理論を獲得するとともに、具体的な事例や判例を学ぶことによって、教員・保育士に求められる実践的な判断ができる。
3. 小学校や幼稚園・保育所等の採用試験に出る法規の問題を解くことができる。
4. 法規の見方・読み方を身につけることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	教育法規の意義、教育法規の体系
第3回	教育基本法と教育・保育
第4回	学校教育法と教育・保育
第5回	教育制度の原理
第6回	教員・保育士の職務
第7回	教員・保育士の服務
第8回	教員・保育士の研修
第9回	教育課程と教育法規
第10回	学校経営と教育法規
第11回	学校保健・学校安全
第12回	子どもの保護・福祉
第13回	家庭教育と生涯学習
第14回	保育・教育改革の動向
第15回	現代の保育・教育課題

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎回、前回学習した内容に関する小テストを実施するので、各回に学んだことを、次回までに復習しておく（毎回2時間、合計30時間）ことが必要である。また、次回の内容について各自で調べておき、予習しておく（毎回1時間、合計15時間）ことが必要である。

【成績の評価】

受講態度や授業への積極的な参加状況（30%）、小テスト（70%）を総合して評価する。
毎回、小テストの解答を示し、解説する。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。毎回のテーマにそった資料を配布し、それを用いて講義する。

【参考文献】

- ・古賀一博編著『教師教育講座第5巻 教育行財政・学校経営改訂版』（協同出版、2018年）
- ・高見茂監修『必携 教職六法 2023年度版』（協同出版、2021年）

科目名： <KY0U21>教職教養演習III
担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本気で教員を目指しませんか。この授業は、小学校教諭を強く志望し、4年次に小学校教員採用試験を受験する学生が対象です。教員採用試験の「教職教養」「小学校全科」に出題される学習指導要領に関する問題を多数扱います。「教職専門演習」「特別演習III」も必ず受講してください。

また、本授業は実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

教員採用試験対策の一環として位置づけています。教員としての「専門的知識」を試される一次試験突破を目指します。学習指導要領及び解説編や解説書等を用いて自主的に学習を進めていくことが前提です。

- ①学習指導要領の「前文」「総則」「特別の教科道徳」の全文暗記、各教科の全体目標の全文暗記ができる。
- ②各回の範囲の学習指導要領を・解説編を熟読しノートにまとめることができる。
- ③毎回、教員採用試験における学習指導要領に関連する問題（「（ ）に適語を入れよ」）での合格点（正答率80%）をとることができる。

【授業計画】

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
クラス名：2022教職教養演習III クラスコード：tqej5e2

第1回 小学校学習指導要領とは(教育課程に関する法令との関連、改訂の歴史的背景)
ガイダンス(学習方法・授業時間外の学習について)

第2回 新学習指導要領「総則」について①(学力観の具現化、言語活動の充実など)

第3回 新学習指導要領「総則」について②

第4回 新学習指導要領「道徳」について①

第5回 新学習指導要領「道徳」について②

第6回 新学習指導要領「国語」について(言語活動の充実を図る方策の明確化)

第7回 新学習指導要領「社会」について

第8回 新学習指導要領「算数」について①

第9回 新学習指導要領「算数」について②

第10回 新学習指導要領「理科」について①

第11回 新学習指導要領「理科」について②

第12回 新学習指導要領「外国語活動」について

第13回 新学習指導要領「総合的な学習の時間」について

第14回 新学習指導要領「特別活動」について

第15回 学習のまとめ(現学習指導要領の特徴を捉え、レポートにまとめる)

定期試験

【授業時間外の学習】

- ・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと。
 - ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。
 - ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。
- 毎日、最低でも30分以上の時間を上記3点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

毎回実施する小テスト「教員採用試験における学習指導要領に関連する問題（「（ ）に適語を入れよ」）」を合わせた試験問題の点数による評価（20%）、期末試験（90%）を基本としますが、学習指導要領を分析、まとめたノートづくりや毎回の小テストへの取り組み状況などを併せて総合的に評価します。

学習指導要領に関わる学習内容は、教員採用試験対策講座等の集団討論・個人面接において活かします。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
- ・文部科学省『学習指導要領解説（各教科等）』（東洋館、日本教文、開隆堂、廣済堂、2018年）価格は各教科ごとによる。

【参考文献】

- ・日本教材システム編集部『一目でわかる 2 色刷り 小学校学習指導要領新旧対照表』（日本教材システム、2018年）
- ・資格試験研究会編『小学校学習指導要領らくらくマスター〔2022年度版〕』（実用教育出版、2021年）
- ・現代教育情報研究会『すいすい身につく小学校学習指導要領 2022年度版』（一ツ橋書店、2021年）

科目名： <KY0U22>教職専門演習
担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本気で教員を目指しましょう。この授業は、小学校教諭・特別支援学校教諭を強く志望し、本年度の教員採用試験を受験する学生が対象です。「特別演習Ⅰ・Ⅱ」で扱った模擬授業と、そこでは扱えなかった小学校における教科外の専門的知識と実践的指導力の習得を図ります。また、教員採用試験の面接対策にもなる「エントリーシート」「自己アピール」等の記述の指導を通して、教職に就く心構え、教育観、学校観、学力観を明確にしていきます。

また、本授業は実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」に関わる目標として、

- ① 自らの教育観・教職観・学校観を明確にし、原稿用紙1枚程度にまとめることができる。
- 「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」に関わる目標として、
- ② 「教職専門演習ノート」を作成し、大学での学習や生活、ボランティア活動や教育実習などの経験を具体例とし、自己アピール文やスピーチに的確にまとめることができる。
- ③ 教員採用試験において過去に出題された問題をもとに集団・個人面接や集団討論・集団活動を想定し、①や②でまとめた内容を効果的に表現できる。

【授業計画】

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。

クラス名：2022教職専門演習 クラスコード：3uo33jl

第1回	ガイダンス（授業構成の説明、次回以降の授業準備等について）	模擬授業①
第2回	エントリーシートの基本と書き方①「項目と条件」	模擬授業②
第3回	エントリーシートの基本と書き方②「自己アピールと具体例」	模擬授業③
第4回	明確な教育観・教職観・学校観のアピール①「キーワード」のとらえ方	模擬授業④
第5回	明確な教育観・教職観・学校観のアピール②「自分の意見と具体例、具体策」	模擬授業⑤
第6回	明確な教育観・教職観・学校観のアピール③「模範解答と自分の主張」	模擬授業⑥
第7回	場面指導について①「基本と展開」	模擬授業⑦
第8回	場面指導について②「場面の分類」	模擬授業⑧
第9回	場面指導について③「各場面における指導のあり方」	模擬授業⑨
第10回	場面指導について④「学習習慣を確立させる場」の具体的指導	模擬授業⑩
第11回	場面指導について⑤「知識・技能を習得させる場や活用させる場」の具体的指導	模擬授業⑪
第12回	面接における「明確な教育観・教職観・学校観のアピール」の実際①	模擬授業⑫
第13回	面接における「場面指導」の実際①	模擬授業⑬
第14回	面接における「明確な教育観・教職観・学校観のアピール」の実際②	模擬授業⑭
第15回	面接における「場面指導」の実際②	模擬授業⑮
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ① 教育観・教職観・学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。
 - ② 場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。
 - ③ 模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。
 - ④ ①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。
- 毎日、最低でも30分以上の時間を上記4点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

到達目標①～③について各4段階評価したものを点数化し評価の基礎データとします。

到達目標①（25%）、到達目標②「教職専門演習ノート」（50%）、到達目標③「模擬面接・討論・授業」（25%）

しかし、本来、点数化になじまない授業内容ですので、授業態度（教職に向けての意欲が現れているか）を大事にして総合的に評価します。

評価したものは、授業時間外に実施する教員採用試験対策講座の面接指導等に反映します。

【使用テキスト】

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
 - ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 総則編・特別活動編』（東洋館出版社、2018年）
 - 他、小学校学習指導要領解説 各教科
- その他、授業において、文献資料等を配布します。

【参考文献】

- ・協同教育研究会編 『香川県教員試験「過去問」シリーズ 香川県の論作文・面接 2022年度版』（共同出版、2021年）
- ・野口芳宏 『教員採用試験αシリーズ2022年度版「模擬授業・場面指導」』（一ツ橋書店、2021年）
- ・沖山吉和編者 『教員採用αシリーズ2022年度版「教育論作文」』（一ツ橋書店、2021年）
- ・現代教職研究会編者 『教員採用試験αシリーズ2022年度版「30秒アピール面接」』（一ツ橋書店、2021年）

科目名： <KY0U23>特別演習Ⅰ
担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本気で教員を目指しませんか。この授業は、4年次に小学校の教員採用試験を受験する学生を対象とした授業です。教員採用試験の2次試験対策の一環として位置づけ、小学校教諭に必要な教科の実践的指導力を身につけることをねらいとしています。模擬授業の相互評価を通して、教科の授業を指導する際に必要なスキルを身につけることに徹します。また、後期開講の「特別演習Ⅱ」、4年次の「特別演習Ⅲ」「教職専門演習」の授業も必ず受講してください。

本授業は、「実践」力を向上させることをねらいとし、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な指導言（発問・指示・説明）を示しながら授業を行います。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の3つを設定します。

- ・小学校算数科・国語科の模擬授業を通して修得する技能として、
 - 1 授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
 - 2 授業場面において児童との適切な対応(応答)と評価ができる。
 - 3 国語科・算数科の本来の意味を押さえた教材研究と授業をすることができる。

【授業計画】

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。

クラス名：2022特別演習Ⅰ・Ⅱ クラスコード：53ykvm7

第1回	ガイダンス	小学校算数科(3～6年生)の教材確認と模擬授業担当等の確認	
第2回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価①	「百玉そろばん」	実演
第3回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価②	「百玉そろばん」	実施（3名程度）
第4回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価③	「百玉そろばん」	実施（3名程度）
第5回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価④	「百玉そろばん」	実施（3名程度）
第6回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価⑤	「百玉そろばん」	実施（3名程度）
第7回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価⑥		
第8回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価⑦		
第9回	小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価①		
	（「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導）		
第10回	小学校国語科の説明文教材を用いた模擬授業と相互評価②		
第11回	小学校国語科の説明文教材を用いた模擬授業と相互評価③		
第12回	小学校国語科の文学作品教材を用いた模擬授業と相互評価④		
第13回	小学校国語科の文学作品教材を用いた模擬授業と相互評価⑤		
第14回	小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑥	百人一首の指導	
第15回	小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑦	百人一首の指導	
- 毎時間の模擬授業において評価を行うので定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の3点は必ず準備しておくこと。

- ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。
 - ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。
 - ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。
- 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

模擬授業においては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」（20%）、「発問・指示の明確さ」（20%）、「導入からの指導の流れ・リズム」（20%）、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」（20%）、「板書」（20%）について4段階評価したものを基礎データとします。また、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答などを併せて総合的に評価します。

毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「特別演習Ⅱ・Ⅲ」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』（東洋館出版、2018年）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（日本文教出版、2018年）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】

- ・野口芳宏『教員採用試験αシリーズ2020年度版「模擬授業・場面指導」』（一ツ橋書店、2018年）1188円
- ・向山洋一『教育新書1 授業の腕を上げる法則』（明治図書、1985年）860円

科目名： <KY0U24>特別演習Ⅱ
担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「特別演習Ⅰ」と同様、4年次に小学校教員採用試験を受験する学生を対象とした授業です。小学校教諭に必要なとされる教科（主に社会科・理科）の実践的指導力を身につけます。

実際に教壇に立つ場面を想定して模擬授業を行い、相互評価を通して、教科の授業を指導する際に必要なスキルを身につけることに徹し、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な指導言（発問・指示・説明）を示しながら授業を行います。また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

この授業は、小学校教員採用試験の2次試験対策の一環として位置づけています。教員採用試験を受験する学生には必須の授業です。また、後期の「教職教養演習Ⅲ」、4年次の「特別演習Ⅲ」「教職専門演習」の授業とも関連が深いので、これらの授業も必ず受講してください。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の3つを設定します。

- ・小学校社会科・理科の模擬授業を通して修得する技能として、
 - 1 授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
 - 2 児童との対応（応答）場面において適切な声かけや評価ができる。
 - 3 社会科・理科の本来の意味を押さえた教材研究と学習指導案を作成することができる。

【授業計画】

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。

クラス名：2022特別演習Ⅰ・Ⅱ クラスコード：53ykvm7

第1回	小学校社会科(3～6年生)の教材と模擬授業について	
第2回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価①	教科書の資料(画像・絵図)の扱い
第3回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価②	資料(グラフ・表)の読ませ方
第4回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価③	知識として身につけさせる内容
第5回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価④	思考力を育成させる場面
第6回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑤	「ねらい」を明確にする
第7回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑥	学習課題(めあて)の取り扱い
第8回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑦	10分間で授業を完結させる
第9回	ガイダンス 小学校理科(3～6年生)の教材と模擬授業について	
第10回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価①	実験器具の準備と取り扱い
第11回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価②	「予想」させる際の留意点
第12回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価③	「実験」させる際の留意点
第13回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価④	「結果の検証」をさせる際の留意点
第14回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑤	「ねらい」を明確にする
第15回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑥	20分間で授業を完結させる

毎回の模擬授業において評価を行うので定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。

- ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。
 - ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。
 - ③社会・理科の模擬授業担当前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。
- 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

模擬授業においては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」(20%)、「発問・指示の明確さ」(20%)、「導入からの指導の流れ・リズム」(20%)、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」(20%)、「板書」(20%)について4段階評価したものを基礎データとします。また、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答などを併せて総合的に評価します。毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「特別演習Ⅱ・Ⅲ」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版、2018年）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】

- ・常磐会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業 教員採用試験のために』（大阪教育図書、2018年）2484円
- その他、授業で適宜紹介します。

科目名： <KY0U25>特別演習III

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya),土井 理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】

本授業は実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な指導言（発問・指示・説明）を示しながら授業を行います。

小学校教員採用試験の2次試験で実施される模擬授業に対応した授業です。受験する自治体の教員採用試験に対応します。「特別演習Ⅰ・Ⅱ」で培ったスキルをもとに、確かな学力を子どもたちに身につけさせられる実践的指導力を目指します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の5つを設定します。

- 1 受験する教員採用試験の模擬授業についての情報を収集し熟知する。
- 2 授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
- 3 児童との対応（応答）場面において適切な声かけや評価ができる。
- 4 授業を構成する際に必要とされる基本的な教材研究ができる。
- 5 模擬授業を実施するにあたっての学習指導案、単元計画案を作成することができる。

【授業計画】

*リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。

クラス名：2022特別演習III クラス コード：5qc245p

第1回	ガイダンス 教員採用試験受験地の模擬授業情報の収集と分析	
第2回	教員採用試験受験地の模擬授業に関する情報の収集と分析①	
第3回	教員採用試験受験地の模擬授業に関する情報の収集と分析②	
第4回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価①（毎時間各1回以上）	学習指導者としての声と言葉遣い
第5回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価②（毎時間各1回以上）	指導する際の立ち位置
第6回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価③（毎時間各1回以上）	机間指導の必要性
第7回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価④（毎時間各1回以上）	「修得」の際の指導
第8回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑤（毎時間各1回以上）	「活用」の際の指導
第9回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑥（毎時間各1回以上）	「板書」の構成（1）
第10回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑦（毎時間各1回以上）	「板書」の構成（2）
第11回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑧（毎時間各1回以上）	「めあて」の示し方（1）
第12回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑨（毎時間各1回以上）	「めあて」の示し方（2）
第13回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑩（毎時間各1回以上）	「まとめ」の示し方
第14回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑪（毎時間各1回以上）	10分間で授業を完結させる（1）
第15回	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑫（毎時間各1回以上）	10分間で授業を完結させる（2）
- 毎回の授業において評価を行うので定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の3点は必ず準備しておくこと。

- ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。
- ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。
- ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

点数評価になじまない科目ですので、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答・意見など総合的に評価します。

模擬授業に関しては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」（20%）、「発問・指示の明確さ」（20%）、「導入からの指導の流れ・リズム」（20%）、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」（20%）、「板書」（20%）について4段階評価したものを基礎データとします。

毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「教職専門演習」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
- ・協同教育研究会編『香川県教員試験「過去問」シリーズ 香川県の論作文・面接 2022年度版』（共同出版、2018年）1620円等、受験する教員採用試験の地域の過去問題集などを各自準備すること。

【参考文献】

適宜紹介します。

- ・野口芳宏『教員採用試験αシリーズ2022年度版「模擬授業・場面指導」』（一ツ橋書店、2021年）
- ・常磐会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業 教員採用試験のために』（大阪教育図書、2018年）

科目名： <JISS1>観察参加Ⅰ

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi),山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

子どもに話しかけたり一緒に遊んだりすることを通して、座学で学んだ子どもの発達を生で体験することにより、子どもについての理解が深め理論と実践の接点を見出すことが可能になるだろう。この授業を通して、より確かな子ども観や実践力の基礎を学び教育・保育に関わる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することをめざします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

- ・幼稚園での観察・参加を通して、子供理解を深め保育の流れや保育活動に必要な知識技能を習得することができる。
- ・子ども達とどのようにかわり、そのかわりのどこをどのように観て記録するかについて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回～第2回 オリエンテーション（観察・参加の意義）
第3回 参加実習Ⅰの意義・目的・形態・内容・方法（その1）
第4回 参加実習Ⅰの意義・目的・形態・内容・方法（その2）
第5回 実習の心得・態度（その1） 幼児とのかかわり
第6回 実習の心得・態度（その2） 保育者とのかかわり
第7回～第8回 観察園の概要について知る
第9回～第10回 観察記録のとり方
第11回～第12回 観察の視点1-1 園の生活のリズムを理解する
第13回～第14回 観察の視点1-2 園生活の流れ
第15回～第16回 観察の視点2-1 子どもと保育者の在り方
第17回～第18回 観察の視点2-1 保育者の意図性
第19回～第20回 観察の視点3-1 年齢への着目（3歳児の生活）
第21回～第22回 観察の視点3-2 言葉を中心として（4歳児の生活）
第23回～第24回 観察の視点3-3 思考を中心として（5歳児の生活）
第25回～第26回 観察の視点4 保育室・園庭の遊具と環境整理（安全管理）
第27回～第28回 心に残った子どもの記録
第29回～第30回 まとめ・参加実習Ⅰで学んだこと
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

毎時間のテーマ・観察目標を事前にチェックし、自分なりに目標達成のための工夫ポイントを用意して観察・参加に臨むこと。（2時間）観察結果について、提示された視点から考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく客観と主観を重ねた保育観察記録を、次週までに仕上げて提出する。（2時間）

【成績の評価】

- ・観察記録（20%）、観察参加の態度（20%）、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等（60%）を総合評価
- ・観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

幼稚園実習 保育所・施設実習 [第2版] （2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他（編））

科目名： <JISS2> 観察参加Ⅱ

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は観察参加Ⅰに続いての授業となるので、傍観者的観察者としてではなく、主体的なかかわり方を求めます。そこから、保育者としてのかかわり方やいろいろな遊び場面における環境構成の方法や、援助の在り方、さらに随時環境の再構成について学んでいきます。また、子どもの発達についても理解を深め、その期の保育のねらいと子どもの動き、配慮の仕方など実践的観察参加の中から学び教育・保育に関わる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することをめざします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

- ・子どもの特性や発達への理解を深め、保育活動に必要な知識技能を修めることができる。
- ・教育実習に向けて継続的に学ぶ態度を身に付け、保育指導の計画立案能力を試みることができる。

【授業計画】

第1回～第2回	オリエンテーション
第3回～第4回	観察の視点・教師の役割について
第5回～第6回	参加観察法
第7回～第8回	観察記録の方法
第9回～第10回	配属クラスの観察
第11回～第12回	子どもの名前を覚えよう
第13回～第14回	その子らしさを感じよう
第15回～第16回	子どもの遊びに参加する
第17回～第18回	3歳児と話したり遊んだりする
第19回～第20回	4歳児と話したり遊んだりする
第21回～第22回	5歳児と話したり遊んだりする
第23回～第24回	環境構成の実践について

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・毎時間のテーマ・観察目標を事前にチェックし、自分なりに目標達成のための工夫ポイントを用意して授業（観察参加）に臨む。（2時間）
- ・観察結果について記録にのみ留まることなく、背景や意図を探り、分析、考察する習慣を身につける。（2時間）
- ・日常的に子どもの言動に注意し、「子どもらしさ、子どもならではの…等」の気づきにメモをとる習慣をつけ、観察眼を生活の中で養う。

【成績の評価】

- ・観察記録（20%）、観察参加の態度（20%）、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等（60%）を総合評価
- ・観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

幼稚園実習 保育所・施設実習 [第2版] （2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他（編））

科目名： <JISS3>学校支援ボランティアⅠ

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi),織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。

3年生で教育実習を実施する前段階として、学校現場で教育活動への理解を深め、児童への接し方、指導・支援のあり方を体験し、学ぶことを目的としています。

香川県内の要請のあった小学校等に出向き、児童と共に活動したり、教師の仕事を手伝ったりして、学校教育活動の補助を行います。そうした中で、得られる様々な実感や体感を通して、本学部カリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者・保育者に求められる使命感・倫理観の涵養」等をめざすものです。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 学校現場での実践を通して、使命感や倫理観に基づく判断・行動等、教員に求められる資質や能力を身に付けることができる。
2. 子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能を習得できる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション①
第2回	オリエンテーション②
第3回	学校支援ボランティア配置についての説明会
第4回	学校支援ボランティア配置についての連絡調整
第5回	学校支援ボランティアの意義と目的
第6回	学校支援ボランティアの形態・内容・方法
第7回	支援者としての心得・態度
第8回	支援者としての留意点
第9回	担当学校の概要
第10回	担当学校の教育計画等について
第11回	指導・支援記録について
第12回	指導・支援記録のとり方の実際
第13回	学校生活のリズムについて
第14回	学校生活のリズムと週時程
第15回	子どもの実態把握について
第16回	子どもの実態把握の仕方
第17回～第28回	学校の要請に応じたボランティア活動
第29回	まとめ・学んだこと（報告会前半）
第30回	まとめ・学んだこと（報告会後半）
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

指導・支援結果について、提示された視点から考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。

【成績の評価】

活動開始前のオリエンテーションや反省会での参加態度と成果及び指導・支援記録(40%)、ボランティアへの参加状況及び参加態度等(60%)で評価する。学校支援ボランティア参加報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

学校支援ボランティアQ&A（平成29年 高松大学）

【参考文献】

随時紹介、資料として配布する。

科目名： <JISS4>学校支援ボランティアⅡ

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。

前期に引き続き、担当校の要請に沿った支援・援助に努めるとともに、自らの課題を見つけ主体的に取り組んでいく中で、教科等の学習場面や生活場面における教師の支援・援助のあり方、また、児童の発達についての理解を深め、児童の実態把握の方法や技術などを学修します。これらの学修を通して、本学部がカリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者に求められる使命感・倫理観の涵養」等をめざすものです。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

1. 学校現場での実践を通して、使命感や倫理観に基づく判断・行動等、教員に求められる資質や能力を身に付けることができるとともに、教育実習に向けて自主的に学ぼうとする態度を養うことができる。
2. 子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能の修得できる。

【授業計画】

授業計画

第1回	前期のボランティア活動の振り返り（具体策の作成）
第2回	前期のボランティア活動の振り返り（具体策の検討）
第3回	学校等との打ち合わせ（学校の諸計画）
第4回	学校等との打ち合わせ（日程調整）
第5～12回	要請に応じたボランティア活動
第13回	管理職との面談（活動報告）
第14回	管理職との面談（指導助言）
第15～24回	要請に応じたボランティア活動
第25回	教科指導への参加とそのポイント
第26回	教科指導への参加と支援活動
第27回	生徒指導のポイント
第28回	生徒指導実践例
第29回	まとめ 報告会（前半）
第30回	まとめ 報告会（後半）

【授業時間外の学習】

- ・自らのテーマに照らし、自分なりに目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。
- ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。
- ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取る習慣を付け、児童理解に努める。

【成績の評価】

活動への参加状況及び意欲と態度(60%)、支援・援助記録(20%)、報告会の資料作成、参加態度(20%)で評価。支援・援助記録、報告資料の添削、報告会を講評して、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

学校支援ボランティアQ&A(平成29年 高松大学)

【参考文献】

随時紹介又は資料として配布する。

科目名： <JISS5>教育実習事前事後指導Ⅰ【幼】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

本授業は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うものであり、実習の前後に講義・演習を行います。幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるように学びを深めていきましょう。また、保育に必要な知識・技能を取得しようとする意欲を高め、保育技術を身に付けることをめざします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1.保育・教育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心をもっている。」に関する資質・能力の修得を目指します。なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し行動できる。②豊かな心を持ち人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。③教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解しその知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。④教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

1. 事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高めることができる。
2. 事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解できる。
3. これらのことを通して教育実習の意義を理解することができる。
①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
②教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解することができる。

【授業計画】

第1回	教育実習の意義と目的
第2回	教育実習の概要
第3回	保育実践の要件
第4回	保育を計画する①部分実習
第5回	保育の計画と実践、実習日誌の書き方
第6回	実習日誌の実際
第7回	実習直前の準備と心得
第8回	部分保育指導案の作成
第9回	教育実習Ⅰの振り返り
第10回	幼児同士のトラブルの対応（事例研究）
第11回	ロールプレイングを通して自己課題を克服する（日常保育）
第12回	ロールプレイングを通して自己課題を克服する（社会人のマナー）
第13回	保育学生としての言葉（SST）
第14回	教育実習Ⅱに向けて①日誌の作成
第15回	教育実習Ⅱに向けて②指導案の作成
第16回	教育実習Ⅱに向けて③自己点検
第17回	教育実習Ⅱの振り返り①
第18回	教育実習Ⅱの振り返り②（グループ協議）
第19回	教育実習報告会に向けて①発表原稿作成
第20回	教育実習報告会に向けて②発表原稿仕上げ
第21回	教育実習報告会に向けて③最終確認と協議
第22回	教育実習報告会
第23回	まとめと今後の課題
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）

部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること（10時間）

また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（10時間）

【成績の評価】

課題・学習シートのまとめ（50%）、実習の振り返りのまとめ（50%）

なお、教育実習事前事後指導は、教育実習Ⅰ及び教育実習Ⅱと連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取り組み、提出すること。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

科目名： <JISS6>教育実習事前事後指導Ⅱ【小】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

本授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目で、学校現場での経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うもので、実習の前後に講義・演習を行います。教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにするとともに、教育活動に必要な知識・技能の修得をめざします。2年次に履修した「学校支援ボランティアⅠ、Ⅱ」の体験を生かし、質の高い実践力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができますようにします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関わっています。なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。③教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。④教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

1. 小学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培うことができる。
2. 学校教育活動に必要な知識や判断力を修得することができる。
3. 学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を修得することができる。
4. 自己評価及び自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むことができる。

【授業計画】

授業計画

第1回	教育実習の意義と目的
第2回	教育実習の概要・心得・態度等
第3回	教育実習の内容と方法、実習日誌の書き方
第4回	学習指導案の書き方と教材準備の仕方
第5回	各種トラブル等の具体的解決策
第6回	実習直前の準備と心得
第7回	教育実習前半についてグループ討議、振り返りとまとめ
第8回	指導計画・事例研究
第9回	模擬授業のあり方
第10回	教育実習の振り返り（日誌の整理）
第11回	教育実習の振り返り（学校、子どもたちへの礼状）
第12回	教育実習報告会に向けて（報告資料の作成）
第13回	教育実習報告会に向けて（印刷、製本）
第14回	教育実習報告会の反省と自己課題の明確化
第15回	自己評価と今後の課題について

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

研究授業の教科を決めて、教科、ゼミナール担当教員の指導を受けながら、指導案作成時間として毎回1時間程度は、作成練習に取り組む。また、自らの課題解決に向けた資料収集に努める。

【成績の評価】

授業への参加態度(40%)、教材研究のあり方(30%)、実習のまとめ(30%)等から評価します。報告会において、各自の成果、課題について、説明、講評する。

【使用テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

なし。

科目名： <JISS7>教育実習Ⅰ【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

教育実習Ⅰは、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会です。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼児教育の実践を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることをめざします。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し行動できる。②豊かな心を持ち人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。③教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解しその知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。④教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

(1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解することができる。

- ① 幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
- ② 指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。
- ③ 教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。
- ④ 学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。

- ① 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
- ② 保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
- ③ 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。
- ④ 様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。

【授業計画】

- 〈第1週〉
 - 1 実習園の概要を知る
 - 2 実習園の1日の流れを把握する
 - 3 幼児の遊びの状況を理解し、参加する
 - 4 発達の特性により、遊び、生活、課題への取り組みの違いを知る
 - 5 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ
 - 6 実習記録の取り方、反省、評価について学ぶ
 - 7 安全に対する配慮、清掃、環境整備の仕方を知る
- 〈第2週〉
 - 1 年間指導計画の中での現在の保育を理解する
 - 2 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る
 - 3 いろいろな子どもとの関係を深める
 - 4 保育における指導と援助のあり方を探る
 - 5 部分実習をする
 - 6 保育実践の反省、評価を受ける
 - 7 園行事に参加し、行事のあり方について考える

※上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

事前：部分保育・研究保育指導案を作成しておくこと。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（15時間）

事後：毎日、実習日誌を記録し一日を振り返る。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載すること。また、実習園の教員からご指導いただいたことを記録しておくこと。（15時間）

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）

なお、教育実習Ⅰは、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： <JISS8>教育実習Ⅱ【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

教育実習Ⅱは、教育実習Ⅰの学習を踏まえたうえで、幼児教育の特質を知り、幼稚園保育の実践を理解し、実践力を培うことをねらいとします。実習園では、指導教員の指導を受けながら、観察・部分保育・全日保育・研究保育などの実習を行います。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠となります。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。また、学修成果としては『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し行動できる。②豊かな心を持ち人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。③教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解しその知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。④教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

(1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解することができる。

① 幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

② 指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。

③ 教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。

④ 学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。

① 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。

② 保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

③ 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。

④ 様々な活動の場面で適切に幼児と関わるることができる。

【授業計画】

- 〈第1週〉
- 1 子どもの成長発達を理解する
 - 2 集団生活における子どもの学びを知る
 - 3 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む）
 - 4 特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る
 - 5 季節の行事に関しての保育を知る
 - 6 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する）
 - 7 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する
 - 8 幼稚園と家庭との連携についてその意義と方法を知る
- 〈第2週〉
- 1 保育室の環境整備・経営について知り、実践する
 - 2 幼稚園教諭についての職務内容を理解する
 - 3 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する
 - 4 幼稚園の特色ある保育についての理解を深める
 - 5 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等）
 - 6 全日保育の計画、実践を行う
 - 7 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する
 - 8 実習反省会・お別れ会
 - 9 これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける

※上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがある。
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

事前：必ず全日及び研究保育指導案を作成しておくこと。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（15時間）

事後：毎日、実習日誌を記録し、一日を振り返る。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載すること。実習園の教員からご指導いただいたことを具体的に記録しておくこと。（15時間）

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）

なお、教育実習Ⅱは、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： <JISS10>教育実習Ⅳ【小】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi),佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。
教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事前に設定した課題解決に取り組む。教科等の指導をはじめ、生徒指導、教育相談、学校事務など実践を通して、学級経営、学校経営及び教育活動の特色や小学校教育全般についての理解を深めていきます。また、カリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者に求められる使命感・倫理観の涵養」等をめざすとともに、教室での学びを教育実践と関連づけて理解することをめざします。さらに、教育実習で得られた成果と課題を振り返り、教員免許取得までの補充を実践的に進めます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関わっています。なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。③教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。④教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

1. 経験豊かな担当教員の指導を受けながら、学校教育の実践を体験的、総合的に理解して、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができる。
2. 学校現場での教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を高めるとともに、その資質・能力や適性を身に付けることができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回：学校の教育方針や特色ある教育（校長）、配属学級での活動
- 第2回：指導講話Ⅰ 実習全般（教頭）、授業参観と授業記録の取り方
- 第3回：学級の実態と学級経営
- 第4回：指導講話Ⅱ 学習指導（現職教育主任）、授業参観（学習過程、板書、発問等）
- 第5回：指導講話Ⅲ 生徒指導（生徒指導主事）、授業参観（児童の反応、つぶやき等）
- 第6回：指導講話Ⅳ 保健指導（養護教諭、保健主事）、師範授業の参観と研究
- 第7回：学習指導案の立案、考え方、学級事務についての考え方と実習
- 第8回：指導講話Ⅴ 褒め方、叱り方（主幹教諭等）、朝の会、帰りの会の運営
- 第9回：児童の人間関係の把握、給食・清掃指導、授業研究Ⅰ（各教科等）
- 第10回：教室環境の整備、学級事務の処理、授業研究Ⅱ（道徳、特別活動）
- 第11回：日常活動、特別活動への参加、指導、授業研究Ⅲ（総合的な学習の時間、外国語活動）
- 第12回：授業研究Ⅳ（選択した教科の学習指導案の作成）
- 第13回：授業研究Ⅴ（選択した教科外の学習指導案の作成）
- 第14回：問題のある児童の実態把握の仕方
- 第15回：授業研究Ⅳで作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
- 第16回：授業研究Ⅴで作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
- 第17回：研究授業Ⅰ選択した教科の授業実践と指導、評価
- 第18回：研究授業Ⅱ選択した教科外の授業実践と指導、評価
- 第19回：教育実習のまとめと反省、関係者懇談、指導
- 第20回：学級での諸活動、実習記録の整理

以上のような回数（日数）と内容を各学校の計画に従って実施する。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎日、実習した内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。
気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。

【成績の評価】

教育実習校からの評価(40%)、担当教員による研究授業評価(30%)、実習日誌や提出物(30%)等により評価。教育実習事前事後指導の報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

小学校教育実習の手引き(令和2年 高松大学)

【参考文献】

小学校学習指導要領 全解説編(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： <JISS11>特別支援教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka), 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

本授業は、「特別支援教育指導法研究」を受講しており、特別支援学校教諭免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）を取得する学生を対象としています。一定期間特別支援学校において、指導教員の指導を受けながら特別支援学校の実践について体験し学びます。

併せて、教育実習を円滑に、より効果的にその目的を達成させるために、実習の前後に講義・演習を行います。事前指導では、学習指導案の作成及び模擬授業の実施を行い、実践力の基盤を固めます。また特別支援教育実習の概要や実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにしていきます。この特別支援教育実習及び事前事後指導を通じて、チームティーチングが求められる特別支援教育現場で求められる周囲との協調や協働する態度や姿勢を身に付け、教員として求められる使命感や倫理観を育みます。

本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができる。また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」の育成に関わっています。なお、学修成果『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる、②豊かな心をもち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している、③教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる、④教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

1. 特別支援教育の実践者として求められる専門性を理解し、必要な知識を習得することができる。
2. 子どもの実態把握、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して、基本的な指導技術を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育実習の流れと意義理解
- 第3回 教育実習の意義・目的・内容等
- 第4回 特別支援学校の実態
- 第5回 特別支援学校の幼児児童生徒の理解
- 第6回 特別支援学校の幼児児童生徒の理解

①事前指導

- ・教育実習の意義、目的、内容等について
- ・特別支援学校の実態、幼児児童生徒の理解
- ・特別支援学校の教育課程、指導の実際
- ・学習指導案の作成
- ・模擬授業の実施と反省
- ・実習の事前準備と心得及び直前指導(日誌等の書き方、挨拶、自己紹介等)

②特別支援教育実習(2週間)

- ・実習校の概要
- ・幼児児童生徒の理解
- ・授業参観と授業参加
- ・実地授業の準備と実施
- ・研究授業の準備と実施
- ・研究授業の反省会

③事後指導

- ・実習内容のまとめと反省
- ・実習成果の報告書作成
- ・特別支援教育実習報告会と実習評価

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

事前・事後指導における資料作成、教育実習中の学習指導案の作成、実習日誌の記入など、かなりの自主学習の時間が必要となります（3時間）。また、事前に特別支援学校の授業参観やボランティア活動に積極的に参加して（計4時間以上）、障害理解に努めてください。

【成績の評価】

事前・事後学習の活動状況（40%）、実習（40%）、報告会での発表（20%）を総合的に評価して、単位を認定します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別にフィードバックします。

【使用テキスト】

本学作成『特別支援教育実習の手引き』

【参考文献】

授業の中で、必要に応じて紹介します。

科目名： <JISS12> 保育実習 I

担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko), 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育実習 I は、保育所実習と施設実習からなり、保育所実習は保育所、認定こども園、施設実習は、乳児院、児童養護施設、障害者支援施設等において、それぞれ2週間、保育士の仕事に助手的な形で携わります。実習体験に基づいて、実習日誌に計画・記録し、計画・観察・記録・自己評価等の方法を具体的に学びます。

そして、卒業認定・学位授与の方針である、「1.教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っていること」「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果としては、『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。③教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。④教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ① 保育士の業務内容や職業倫理について知り、記述できる。
- ② 乳幼児（児童・利用者）とのかかわりを通して、感じたこと・考えたことを記述できる。
- ③ 施設の概要を把握するとともに、施設運営の実際を理解し、具体的に記述できる。
- ④ 保育士の職務や役割等の専門性について理解し、必要な知識や技術を習得することができる。
- ⑤ 子どもの実態を把握し、保育の計画・観察・記録・評価について理解し、指導案を記入できる。
- ⑥ 保育士を志すものとしての自己課題を明確にし、記述できる。

【授業計画】

- ①[事前・事後指導]
「保育実習指導 I－I」及び「保育実習指導 I－II」で実施する。
- ②[観察実習]
この期間に実習施設の概要を理解し、一日の（保育の）流れや子どもたち（利用者）の発達の特徴などを把握する。
- ③[参加・助手的実習]
担当者にならって助手的な役割を果たしながら、保育（養護）の実践について学ぶ。
- ④[部分実習]
生活や遊び（レクリエーション）の場面において、保育者の指導の下に、指導案を作成し、実際に責任をもって保育・指導を行い、保育者としての態度と技術を身に付ける。

定期試験なし

【授業時間外の学習】

毎日実習の記録として日誌を作成します。一日の記録一ページ、反省・考察・個人観察一ページを記入し、次の出勤時に実習施設に提出します。（1時間）その他、指導案（1回以上）の作成、保育教材作り（部分実習に必要な教材準備）など、実習時間以外の事前・事後学習や準備が必要です。（2時間）

【成績の評価】

実習施設の実習評価60%、実習日誌40%により、評価します。実習日誌は、担当の教職員から返却され、指導を受けます。また、保育実習指導 I－I、I－IIの授業時にまとめて返却します。

なお、「保育実習 I」、「保育実習指導 I－I」、「保育実習指導 I－II」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（2018年）

【参考文献】

- ・山本淳子編著『改訂新版 実習の記録と指導案』（ひかりのくに 2018年）

科目名： <JISS13> 保育実習指導Ⅰ－Ⅰ

担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko), 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針である「1.教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている」「7.教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果としては、『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。③教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。④教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。保育実習指導Ⅰ－Ⅰは、保育実習Ⅰの前半に実施される施設実習のための事前事後指導です。この授業では、保育実習の意義や目的を理解し、施設実習に向けた目的意識を高め、自らの実習課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。実習生としての心構え、子どもの権利擁護、プライバシーの保護等について、改めて考え、学び、現場に入る前に、使命感や倫理観を高めます。また、実習後は実習の総括、自己評価を行い、今後の課題を明確化することを通して、継続的に学ぶ能力を養います。

【到達目標】

- ・保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
- ・実習施設の概要、理念などを知り、記述できる。
- ・実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について、理解し、説明できる。
- ・実習日誌の書き方・適切な表現などを理解し、記述することができる。
- ・実習後の振り返りを通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、今後の自己課題を説明できる。

【授業計画】

※Google Classroom「R4 保育実習指導Ⅰ－Ⅰ・Ⅰ－Ⅱ」に参加してください。
クラスコードは【 1tuoepw 】（※表記は全てアルファベットで小文字）です。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 施設実習の目的
- 第3回 施設実習の概要
- 第4回 施設実習での学習内容と課題
- 第5回 実習施設についての事前学習
- 第6回 実習に際しての留意事項
- 第7回 実習日誌の記録①（記録の意義、実習日誌の様式）
- 第8回 実習日誌の記録②（実習日誌の書き方）
- 第9回 実習生の心得①（子どもの人権、最善の利益の考慮）
- 第10回 実習生の心得②（プライバシーの保護と守秘義務）
- 第11回 実習課題の確認
- 第12回 実習の振り返り①（ワークシートをもとに振り返る）
- 第13回 実習の振り返り②（グループ討議）
- 第14回 実習の振り返り③（今後の課題の明確化）
- 第15回 実習の総括と今後に向けて

定期試験なし

【授業時間外の学習】

予習として次回の授業内容の「保育実習の手引き」の範囲を熟読し、専門用語等の意味を調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間）実習の概要や課題、配属施設について学習し、保育実習日誌・レポート等にまとめること。（1時間）

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート、保育実習日誌等）80%と授業態度（模擬保育、グループ活動への参加）20%により、十分な実習の準備・反省ができているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習への意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習Ⅰ」、「保育実習指導Ⅰ－Ⅰ」、「保育実習指導Ⅰ－Ⅱ」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）
- ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（2018年）
- ・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・山本淳子編著『改訂新版 実習の記録と指導案』（ひかりのくに 2018年）

【参考文献】

適宜指示します。

科目名： <JISS14> 保育実習指導Ⅰ－Ⅱ

担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko), 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針である「1.教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている」「7.教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果としては、『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。②豊かな心を持ち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。保育実習指導Ⅰ－Ⅱは、保育実習Ⅰの後半に実施される保育所実習のための事前事後指導です。この授業では、保育実習の意義や目的を再確認し、保育所実習に向けた目的意識を高め、自らの実習課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。観察や記録、指導案の立案や教材準備、保育実技、子どもの最善の利益の考慮など実習を円滑に進めるための知識や技術を習得し、実践力を身につけます。また、実習後は、実習の総括、自己評価を行い、今後の学習課題を明確にすることを通して、継続的に学ぶ能力を養います。

【到達目標】

- ・保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
- ・実習施設の概要、理念などを知り、記述できる。
- ・実習日誌、指導案の書き方を理解し、記述することができる。
- ・指導案に基づいて実践し、計画と実践の相違点、自らの反省点・改善点に気づき、記述できる。
- ・実習後の振り返りを通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、今後の自己課題を説明できる。

【授業計画】

※Google Classroom「R4 保育実習指導Ⅰ－Ⅰ・Ⅰ－Ⅱ」に参加してください。
クラスコードは【 ltuoepw 】（※表記は全てアルファベットで小文字）です。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育所実習の目的
第3回	保育所実習の概要
第4回	保育所実習での学習内容と課題
第5回	実習日誌の記録方法①（記録の意義、実習日誌の様式）
第6回	実習日誌の記録方法②（実習日誌の書き方）
第7回	指導案の作成①（指導案作成の基本）
第8回	指導案の作成②（指導案の立て方）
第9回	模擬保育①（第1グループ）
第10回	模擬保育②（第2グループ）
第11回	実習の振り返り①（ワークシートをもとに振り返る）
第12回	実習の振り返り②（グループ討議）
第13回	実習の振り返り③（今後の課題の明確化）
第14回	保育所実習報告会に向けて
第15回	実習の総括と今後に向けて

定期試験なし

【授業時間外の学習】

予習として次回の授業内容の「保育実習の手引き」の範囲を熟読し、専門用語等の意味を調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間）実習の概要や課題、配属施設について学習し、保育実習日誌・レポート等にまとめること（1時間）。

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート、保育実習日誌等）80%と授業態度（模擬保育、意見交換への参加）20%により、十分な実習の準備・反省ができているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習の意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習Ⅰ」、「保育実習指導Ⅰ－Ⅰ」、「保育実習指導Ⅰ－Ⅱ」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）
- ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（2018年）
- ・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・山本淳子編著『改訂新版 実習の記録と指導案』（ひかりのくに、2018年）

【参考文献】

適宜指示します。

科目名： <JISS15> 保育実習Ⅱ

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi), 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での保育士経験を活かして、実習前後、実習中の指導を行います。保育実習Ⅱは、3年次に行われ、保育施設において2週間の実習を行います。2年次の保育実習Ⅰの保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。実習の内容としては、観察・参加・助手実習および部分実習に加え、一日の指導計画を立案し保育を行う全日実習を行います。全日保育を通して乳幼児の実態をとらえ、そこからねらいや内容を導き出すこと、計画の立案、環境設定や必要な準備、計画と実践とのかかわりと相違点の実感、臨機応変な対応の必要性などを体験的に理解することをめざします。

そして、卒業認定・学位授与の方針である、「1.教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っていること」「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」「7.教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果としては、『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。②豊かな心をもち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ① 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。
- ② 保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育や保護者支援について総合的に学ぶことができる。
- ③ 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めることができる。
- ④ 子どもの実態を把握し、保育の計画・観察・記録・評価について実際に取り組み理解を深めることができる。
- ⑤ 保育士としての自己課題を明確化できる。

【授業計画】

①[事前・事後指導]

「保育実習指導Ⅱ」で実施する。

②[観察実習]

2回目の実習であるので、最短の期間を充てる。

③[参加・助手的実習]

保育士の助手的な役割を果たしながら、実際に保育にかかわる。

④[部分実習]

保育実習Ⅰと同様、数回の部分実習を経験し、最終的な全日実習につなげる。

⑤[全日実習]

事前に指導案を作成し、実習生自身が保育者となり、一日の保育を行うことを通して、保育の責務を自覚する。

定期試験なし

【授業時間外の学習】

毎日実習後に、実習日誌を記入します。一日の記録1ページ、反省・考察・個人観察1ページを記入し(2時間)、次の出勤日に実習施設に提出します。その他、指導案(部分・全日)の作成(2時間)、保育教材の準備(2時間)、実習日程終了後のまとめ4ページ(2時間)等、実習時間以外にも記録・準備が必要です。

【成績の評価】

実習施設の実習評価60%、実習日誌40%をもとに総合的に評価します。実習日誌は添削し、保育実習指導Ⅱの授業時に返却します。

なお、「保育実習Ⅱ」、「保育実習指導Ⅱ」は、形式上それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・厚生労働省『保育所保育指針解説』2018年
- ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」2018年

【参考文献】

- ・山本淳子編著『改訂新版 実習の記録と指導案』（ひかりのくに 2018年）

科目名： <JISS16> 保育実習指導Ⅱ

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi), 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での保育士経験を活かし、観察や記録、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるために必要な知識・技術について具体的に説明します。

保育実習指導Ⅱは、保育実習Ⅱで行われる保育所実習のための事前事後指導です。保育実習Ⅰの保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。2回目の保育実習としての意義や目的を理解し、目的意識を高め、課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。また、事前、事後の学習や実習体験を振り返り、子どもの発達と遊び、環境構成、そして保育士の役割や職務内容などを具体的に・総合的に学んでいきます。

これらの学修を通して、学部の卒業認定・学位授与の方針の、「1.教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている」「7.教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果としては、『①教育・保育に携わる者に求められる使命感・倫理観に基づいて判断し、行動できる。②豊かな心をもち、人間性を常に自己研鑽する向上心を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
- ・実習施設の概要、理念などを学び、記載できる。
- ・実習日誌、部分指導案、全日指導案の書き方を理解し、実習をイメージして記載することができる。
- ・指導案に基づいて実践し、計画と実践の相違点に気づき、反省点・改善点を記載できる。
- ・事後指導・自己評価を通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、自己課題を説明できる。

【授業計画】

※Google Classroom「R4 保育実習指導Ⅱ」に参加してください。
クラスコードは【 unz26f5 】（※表記のアルファベットは全て小文字）です。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育所実習での学習内容と課題
第3回	保育士の専門性と求められる倫理観
第4回	保育士の職業倫理（情報モラル・守秘義務）
第5回	子どもの保育と保護者支援①（子育て支援の基本）
第6回	子どもの保育と保護者支援②（子育て支援の演習）
第7回	実習日誌・指導案の作成①（全日実習の日誌）
第8回	実習日誌・指導案の作成②（指導案の作成）
第9回	保育の実践①（模擬保育指導案の作成）
第10回	保育の実践②（第1グループ）
第11回	保育の実践③（第2グループ）
第12回	実習直前の準備と心得について
第13回	実習の振り返り①（ワークシートをもとに振り返る）
第14回	実習の振り返り②（グループ討議）
第15回	自己評価と今後の課題について

定期試験なし

【授業時間外の学習】

保育実習の概要や課題、配属施設について学習し、保育実習日誌・レポート等にまとめること。（2時間）
保育実習中におこなう部分実習・全日実習等の指導案作成、教材準備等をおこなうこと。（2時間）

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート、保育実習日誌等）80%と授業態度（模擬保育、グループ討議への参加）20%により、十分な実習の準備・反省ができているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習の意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習Ⅱ」、「保育実習指導Ⅱ」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018年）
- ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館 2018年）
- ・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・山本淳子編著『改訂新版 実習の記録と指導案』（ひかりのくに 2018年）

【参考文献】

必要があれば適宜紹介します

科目名： <JISS20>介護体験
担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

介護体験は、介護等体験特例法によって教員免許状取得にあたり義務付けられたものです。高齢者の方や障害のある方などの社会福祉施設等で介護等の体験をすることが求められます。介護等体験は、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の合計7日間行います。本科目では、介護等体験実習及び実習の事前学習、事後学習を行います。事前学習では、介護等体験の心得、特別支援学校や社会福祉施設の概要の理解、実習中の利用者の方と接し方についても学習します。介護等体験実習後は実習記録を整理し、レポートにまとめて報告します。この科目は、小学校教員免許状取得希望者のみ受講できます。また受講には、実習費など約1万円が必要になります。介護体験を通じて、教育者に求められる様々な人々とコミュニケーションを図るための態度や姿勢を身に付け、人間性の向上を目指し自律的に学ぶ意欲を育みます。

本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。
なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」の育成に関わっています。また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。

【到達目標】

- 特別なニーズのある子どもや利用者の方と交流を持ち、介護等を体験することにより、
1. 特別支援学校や社会福祉施設の役割を学び、人との関わり、援助する上で大切にすべき姿勢や視点を体験的に獲得することを目指す。
 2. 教育を担うものに求められる受容的な態度及び豊かな人間性を高めることができる
 3. 教育現場で求められる共生社会をめざす姿勢や視点を獲得できる

【授業計画】

介護体験は、後期に社会福祉施設、特別支援学校へ行きますが、前期から事前指導が行われます。6月頃から開始しますので、掲示板を確認し、事前指導には必ず出席するようにしてください。事前指導へ出席できない学生は、実習を行うことができませんので注意してください。詳細については、履修ガイドを確認してください。

- ①事前学習(10回程度予定)
 - ・介護等体験に関するガイダンス
 - ・介護等体験の心得について学ぶ
 - ・特別支援学校の概要の理解や通っている児童・生徒との接し方について学ぶ
 - ・社会福祉施設の概要と利用者との接し方について学ぶ
 - ②介護等体験
 - ・特別支援学校（2日間）、社会福祉施設（5日間）
 - ③事後学習(2回程度予定)
 - ・体験レポートの提出、報告会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

実習の直前には、事前学習で学んだことを再度確認することを求めます（1時間）。また実習後には、体験レポート作成や実習先への礼状書きなどを自宅学習で行います（3時間）。

【成績の評価】

事前・事後学習の受講態度（35%）、課題の提出状況（50%）、報告会での発表（15%）などを総合して成績を評価します。

課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。

また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

高松大学発達科学部『介護体験の手引き』

【参考文献】

必要に応じて、講義内で紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習Ⅰ【1ゼミ】
担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが。

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、基礎力を形成します。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有し、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力の基礎を身につけます。その過程で、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

- 第1回 伝わる喜びを感じよう！ 友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
 - 第4回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第5回 創る楽しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り&次年度の学外セミナーの成功に向けた討議
 - 第6回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(1)
 - 第7回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(2)
 - 第8回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(3)
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1)
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2)
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3)
 - 第13回 発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習Ⅰ【2ゼミ】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが。

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、基礎力を形成します。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有し、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力の基礎を身につけます。その過程で、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

- 第1回 伝わる喜びを感じよう！ 友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
 - 第4回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第5回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り&次年度の学外セミナーの成功に向けた討議
 - 第6回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(1)
 - 第7回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(2)
 - 第8回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(3)
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1)
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2)
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3)
 - 第13回 発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習Ⅰ【3ゼミ】
担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが。

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、基礎力を形成します。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有し、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力の基礎を身につけます。その過程で、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

- 第1回 伝わる喜びを感じよう！ 友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
 - 第4回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第5回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り&次年度の学外セミナーの成功に向けた討議
 - 第6回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(1)
 - 第7回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(2)
 - 第8回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(3)
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1)
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2)
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3)
 - 第13回 発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習Ⅰ【4ゼミ】

担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが。

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、基礎力を形成します。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有し、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力の基礎を身につけます。その過程で、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

- 第1回 伝わる喜びを感じよう！ 友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
 - 第4回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第5回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り&次年度の学外セミナーの成功に向けた討議
 - 第6回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(1)
 - 第7回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(2)
 - 第8回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(3)
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1)
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2)
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3)
 - 第13回 発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習Ⅰ【5ゼミ】
担当教員： 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが。

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、基礎力を形成します。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有し、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力の基礎を身につけます。その過程で、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

- 第1回 伝わる喜びを感じよう！ 友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
 - 第4回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第5回 創る楽しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り&次年度の学外セミナーの成功に向けた討議
 - 第6回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(1)
 - 第7回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(2)
 - 第8回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(3)
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1)
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2)
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3)
 - 第13回 発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習Ⅰ【6ゼミ】

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが。

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、基礎力を形成します。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有し、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力の基礎を身につけます。その過程で、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

- 第1回 伝わる喜びを感じよう！ 友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目ざす私」
 - 第4回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第5回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り&次年度の学外セミナーの成功に向けた討議
 - 第6回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(1)
 - 第7回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(2)
 - 第8回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(3)
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1)
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2)
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3)
 - 第13回 発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習Ⅰ【7ゼミ】
担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが、

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、基礎力を形成します。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有し、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力の基礎を身につけます。その過程で、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

- 第1回 伝わる喜びを感じよう！ 友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
 - 第4回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第5回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り&次年度の学外セミナーの成功に向けた討議
 - 第6回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(1)
 - 第7回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(2)
 - 第8回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！(3)
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1)
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2)
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3)
 - 第13回 発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のよう授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2>基礎演習Ⅱ【1ゼミ】
担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適應できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！
また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、前期に引き続いて、基礎力を形成します。
なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

一番上の授業の紹介欄に、重要事項を入れてあります。必ず確認して、ゼミごとのGoogle Classroomに入ってください。

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
第2回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その1
第3回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その2
第4回 「文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ」その3
第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）
第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）
第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）
第8回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その4）
第9回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その5）
第10回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）
第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）
第12回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）
第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その4）
第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その5）
第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のよう授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。
学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2>基礎演習Ⅱ【2ゼミ】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi)

【授業の紹介】

「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適応できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！
また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、前期に引き続いて、基礎力を形成します。
なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

一番上の授業の紹介欄に、重要事項を入れてあります。必ず確認して、ゼミごとのGoogle Classroomに入ってください。

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
第2回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その1
第3回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その2
第4回 「文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ」その3
第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）
第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）
第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）
第8回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その4）
第9回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その5）
第10回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）
第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）
第12回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）
第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その4）
第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その5）
第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。
学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2>基礎演習Ⅱ【3ゼミ】
担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適應できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！
また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、前期に引き続いて、基礎力を形成します。
なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

一番上の授業の紹介欄に、重要事項を入れています。必ず確認して、ゼミごとのGoogle Classroomに入ってください。

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
第2回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その1
第3回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その2
第4回 「文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その3
第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）
第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）
第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）
第8回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その4）
第9回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その5）
第10回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）
第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）
第12回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）
第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その4）
第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その5）
第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のよう授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。
学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2>基礎演習Ⅱ【4ゼミ】

担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適応できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！
また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、前期に引き続いて、基礎力を形成します。
なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

一番上の授業の紹介欄に、重要事項を入れてあります。必ず確認して、ゼミごとのGoogle Classroomに入ってください。

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
第2回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その1
第3回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その2
第4回 「文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ」その3
第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）
第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）
第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）
第8回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その4）
第9回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その5）
第10回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）
第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）
第12回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）
第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その4）
第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その5）
第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のよう授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。
学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2>基礎演習Ⅱ【5ゼミ】

担当教員： 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適應できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、前期に引き続いて、基礎力を形成します。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

一番上の授業の紹介欄に、重要事項を入れています。必ず確認して、ゼミごとのGoogle Classroomに入ってください。

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
- 第2回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その1
- 第3回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その2
- 第4回 「文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その3
- 第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）
- 第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）
- 第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）
- 第8回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その4）
- 第9回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その5）
- 第10回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）
- 第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）
- 第12回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）
- 第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その4）
- 第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その5）
- 第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のよう授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2>基礎演習Ⅱ【6ゼミ】

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適應できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！
また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、前期に引き続いて、基礎力を形成します。
なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

一番上の授業の紹介欄に、重要事項を入れています。必ず確認して、ゼミごとのGoogle Classroomに入ってください。

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
第2回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その1
第3回 文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その2
第4回 「文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ」その3
第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）
第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）
第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）
第8回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その4）
第9回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その5）
第10回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）
第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）
第12回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）
第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その4）
第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その5）
第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のよう授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。
学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2>基礎演習Ⅱ【7ゼミ】
担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適應できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！
また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざし、前期に引き続いて、基礎力を形成します。
なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しており、初歩的な学びを重ねます。

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【授業計画】

一番上の授業の紹介欄に、重要事項を入れています。必ず確認して、ゼミごとのGoogle Classroomに入ってください。

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
第2回 文章表現を取り巻く今日の状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その1
第3回 文章表現を取り巻く今日の状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ その2
第4回 「文章表現を取り巻く今日の状況および「わかりやすい」文章表現のための7つのステップ」その3
第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）
第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）
第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）
第8回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その4）
第9回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その5）
第10回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）
第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）
第12回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）
第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その4）
第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その5）
第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のよう授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。
学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、各回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和3年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和3年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK3> 演習Ⅰ【児童教育ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro), 織田 幸美(ODA Yukimi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 峯 寛文(MINE Hirofumi), 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

本授業は、実務経験のある教員が担当します。小・中・高等学校の教育現場での教科・生徒指導、教育委員会等での経験を生かし、豊富で具体的な事例を示しながら授業を行います。

本演習は、「児童教育コース」に進む学生のゼミ活動となる授業です。小学校教諭を目指す学生の専門的な研究活動の入り口になります。教育現場における朝の会・学級活動などの実際を行い、教科を指導するにあたって必要な漢字力や文章力・小学校全科の学習などの基礎的な学力のトレーニングを行います。これらの活動を通して、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しており、「理論」と「実践力」を兼ね備えた指導力の向上を図ることをねらいとしています。可能な限り教育現場に足を運んだり、授業のVTRやDVDを視聴して実際の教育活動に触れ、それをもとに教育活動を考えます。

【到達目標】

実践的指導力の基礎を培い、専門的な知識を身につけ、基礎的な学力向上のために、以下5点を目標とします。

- 1 小学校教諭に必要な教科指導力の基礎として「漢字検定2級」「日本語検定2級」の取得をめざす。
- 2 百人一首の札取りゲームの指導ができる。
- 3 自己紹介・朝の会のお話など、子どもの興味・関心を引く話が2つ以上できる。
- 4 朝・帰りの会や学級指導の際に子どもを熱中させるゲームが2つ以上できる。
- 5 新聞記事や文献等の要約やコメント記入を通して、教育観・教師観・学校観を明確に文章にすることができる。

【授業計画】

※リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。

クラス名：2022演習Ⅰ・Ⅱ（児童教育） クラスコード：mb4gqmy

第1回	オリエンテーション（「演習Ⅰ・Ⅱの内容と進め方」）	
第2回	①小学校教諭に必要な力	基礎的・基本的な学力（漢字検定・日本語検定）
第3回	②小学校教諭に必要な力	教育観を育む（新聞記事収集とコメント）
第4回	③小学校教諭に必要な力	子どもを惹きつける話
第5回	④小学校教諭に必要な力	子どもを熱中させるゲーム①（百人一首の札取り）
第6回	⑤小学校教諭に必要な力	子どもを熱中させるゲーム②（SGE・SS）
第7回	①～⑤を組み合わせ	て学級活動を構成する1「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による）
第8回	①～⑤を組み合わせ	て学級活動を構成する2「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による）
第9回	①～⑤を組み合わせ	て学級活動を構成する3「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による）
第10回	①～⑤を組み合わせ	て学級活動を構成する4先生って魅力的 DVD視聴1
第11回	①～⑤を組み合わせ	て学級活動を構成する5先生って魅力的 DVD視聴2
第12回	①～⑤を組み合わせ	て学級活動を構成する6先生って魅力的 DVD視聴3
第13回	①～⑤を組み合わせ	て学級活動を構成する7教育問題を考える1「学級崩壊」
第14回	①～⑤を組み合わせ	て学級活動を構成する8教育問題を考える2「保護者との関係」
第15回	①～⑤を組み合わせ	て学級活動を構成する9教育問題を考える3
- 毎回、担当の活動実施後に評価をするので定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

- ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。
- ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。
- ・また、学内での検定試験を受検すること（漢字検定：8月、2月 日本語検定：6月、11月）
- ・毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。
- ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道府県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。
- ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。

【成績の評価】

「朝の会」における司会進行「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」「教育問題のレジュメ検討」などの活動状況を、7段階評価（C-～A+）で点数化（50%）、「読書感想文」（25%）、「新聞記事論評」（25%）を基礎データとします。それに、ゼミ活動への取り組み意欲、出席状況などを併せて総合的に評価します。授業における活動を毎回評価コメントし、次時以降の活動に活かします。また、オープンキャンパス時、教員採用試験対策講座時において反映させます。

【使用テキスト】

- ・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円
- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】

- ・授業で紹介します。

科目名： <KENK3> 演習Ⅰ【幼児教育専修ゼミ】
担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。

演習Ⅰでは、具体的には、まずは専門書をきちんと読みこなせること、教育や教育に関する時事問題に関心を持ち、理解を深めることを狙います。そのために、指定したテキストについて、各回での発表者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

また、教育や教育に関する時事問題を毎週1つ選び、内容の報告と自分なりの意見をまとめたレポートの提出を求めます。

演習Ⅰでは、卒業認定・学位授与方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識・技能の修得を目指します。

また、学修成果として、『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。
- ・保育や教育に関する専門書を読みこなす技術と態度を身につける。

【授業計画】

- 第1回 保育の理念と概念
 - 第2回 保育の社会的役割と責任
 - 第3回 子ども・子育てにかかる制度と関係法令
 - 第4回 保育の実施体系
 - 第5回 保育所保育指針に基づく保育
 - 第6回 保育目標と方法
 - 第7回 乳児の保育
 - 第8回 1歳以上3歳未満児の保育
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 3歳以上児の保育
 - 第11回 子ども理解に基づく保育の理論
 - 第12回 子ども理解に基づく保育の実践
 - 第13回 諸外国の保育の思想と歴史
 - 第14回 日本の保育の思想と歴史
 - 第15回 日本の保育の現状と課題
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

学習に必要な時間は個人によって異なると思いますが、毎回ごとに、2時間以上の予復習をしてください。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・天野珠路・北野幸子（2019）『保育原理』中央法規

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK3>演習Ⅰ【健康ゼミ】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習Ⅰは、本学の卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している ④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している ⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

授業では、「保育内容 健康」の領域における文献研究を行うことで、専門的な研究活動への導入である分野を学習します。その際、言葉の意味を丁寧に調べ、理解を深めるとともに、読み取った内容について発表し、意見を交換します。

【到達目標】

1. 「保育内容 健康」の領域について研究を行った先行論文や書籍を通して、情報の収集、意見の発表、討論を行うための必要な知識と技能を養うことができる。
2. 修得した知識を活かし、「保育内容 健康」の領域における諸課題やその解決策についてレポートを作成できる。
3. レポートの内容について議論することにより、課題発見力、情報収集力、課題解決力、および表現（発表）力などの能力を高めることができる。
4. ゼミナール活動をととして、共に支え合い、豊かな心と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題Ⅰの設定
- 第3回 課題Ⅰにおける関連参考文献の検索
- 第4回 課題Ⅰに関するトピックスを読む・見る
- 第5回 課題Ⅰの分析と討議①（課題解決の目的）
- 第6回 課題Ⅰの分析と討議②（問題の所在）
- 第7回 課題Ⅰの分析と討議③（問題の所在に対する考察）
- 第8回 課題Ⅰの研究結果を発表しよう
- 第9回 課題Ⅱの設定
- 第10回 課題Ⅱにおける関連参考文献の検索
- 第11回 課題Ⅱに関するトピックスを読む・見る
- 第12回 課題Ⅱの分析と討議①（課題解決における目的、問題の所在）
- 第13回 課題Ⅱの分析と討議②（課題解決に向けての考察）
- 第14回 課題Ⅱの研究結果を発表しよう
- 第15回 総括（研究成果のまとめ）

定期試験は実施しない

<科目コード：gi3nh14>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合もあります。

【授業時間外の学習】

演習の目的は、各個人が興味と関心に応じて課題を見つけ、自らの力で課題を解決すること、つまり問題解決能力を養うことです。

本授業では、ゼミ生が設定した課題解決に必要な情報を分担、協力して予め収集してもらいます（30分）。

また、授業後は、それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA4 1枚程度に行ってください（30分）。

【成績の評価】

授業中に作成するレポート：50%

プレゼンテーション：30%

授業態度：20%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ 成績（レポートの評価を含む）については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： <KENK3>演習Ⅰ【人間関係ゼミ】
担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

「人間関係」、すなわち、「人との関わり」は人間が人間として生きていく中で必要不可欠なものです。しかしながら、現代社会においては、その人間関係が希薄になりがちだといわれます。このことは人ごとではなく、実は、そのような社会の中で、あなたは育っており、そして、将来、あなたが先生になったときに直接関わる子どもたちもまた、そのような社会で成長してゆくことになるのです。人間関係ゼミでは、「人との関わり」という視点から、心理学的知見をベースにして、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。その際に、自分自身の人間関係に関わる具体的なテーマについて、文献の精読を行い、その内容に関して討論することを通して、知識を自ら学び取ることを重視します。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

1. 自分自身の人間関係と幼稚園・保育所での人間関係について考察することができる
2. 豊かな心の基盤となる人間関係の重要性を捉え直すことができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 現代の人間関係に関する討論
第3回 関心領域に関する討論
第4回 様々な資料の活用（1）
第5回 様々な資料の活用（2）資料の検索
第6回 様々な資料の活用（3）資料の選定
第7回 資料の発表と討論（グループ1）
第8回 資料の発表と討論（グループ2）
第9回 発展的な課題の検討（1）
第10回 発展的な課題の検討（2）資料の検索
第11回 発展的な課題の検討（3）資料の選定
第12回 資料の発表と討論（グループ1）
第13回 資料の発表と討論（グループ2）
第14回 これまでの発表・討論の総括
第15回 前期の振り返りと今後の課題の検討
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

予習として、文献を事前に読んでおくこと（10時間）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（5時間）が必要になります。

【成績の評価】

- ・授業への参加状況（態度、意欲など）（30%）、発表（40%）、討論内容（30%）の総合評価。
- ・発表や討論の内容に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

林創・清水由紀（2012）『他者とかかわる心の発達心理学』（金子書房）
田中浩司（2014）『集団遊びの発達心理学』（北大路書房）
池上知子・遠藤由美（2008）『グラフィック社会心理学第2版』（サイエンス社）

科目名： <KENK3>演習Ⅰ【乳児保育ゼミ】
担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

演習Ⅰ（乳児保育ゼミ）では、演習Ⅱで自ら行う研究テーマを見つけ、研究を進めていくための基礎的な力を養うことを目標としています。興味あるテーマを見つけるため文献学習、情報収集、レジュメの作成・発表、他者との意見交換などを通して、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。
また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。』『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。』『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

1. 文章を書く、読むなどの基本的な力を身につける。
2. 保育所保育指針を通して3歳未満児の発達の過程や特性、子どもの生活や遊び、環境について具体的に理解する。
3. 保育所保育指針に出てくる専門用語を理解する。
4. 文献、資料などを通して、自らの興味ある情報を得ることができる。
5. 上記で得られた情報をもとに、レジュメの作成、発表、意見交換ができる。
6. 自らが興味のある研究テーマを見つけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 乳児保育の重要性について
 - 第3回 乳児保育 保育のねらい、内容について
 - 第4回 乳児保育の身体的発達について
 - 第5回 乳児保育の社会的発達について
 - 第6回 乳児保育の精神的発達について
 - 第7回 3歳未満児の「健康」について
 - 第8回 発表と意見交換 3歳未満児の「人間関係」について
 - 第9回 発表と意見交換 3歳未満児の「環境」について
 - 第10回 発表と意見交換 3歳未満児の「言葉」について
 - 第11回 発表と意見交換 3歳未満児の「表現」について
 - 第12回 振り返り 研究テーマの検討
 - 第13回 研究内容の検討
 - 第14回 研究計画の検討
 - 第15回 前期のまとめ、演習Ⅱに向けての計画
- 定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・保育所保育指針解説の次週の箇所を読み、分からない言葉を調べる。気になるワードを書きだす。（1時間）
- ・特に興味を持った内容について、資料を収集し、レジュメを作成する。（1時間）
- ・ゼミ研究テーマに沿って、情報収集を行う。（1時間）

【成績の評価】

小テスト（20%）、レジュメの作成・発表準備・発表（50%）、意見交換への参加（30%）、により評価します。

【使用テキスト】

厚生労働省「保育所保育指針解説」

【参考文献】

- ・保育所保育指針ハンドブック 監修 汐見稔幸 Gakken
- ・改訂 乳児保育の基本 阿部和子編 萌文書林
- ・改訂 保育学生のための基礎学力演習 中央法規

科目名： <KENK3>演習Ⅰ【環境ゼミ】
担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

「環境ゼミ」は、実践的な活動を通して、乳幼児教育における領域“環境”について考えるゼミです。演習Ⅰでは、学生の皆さんの興味関心に合わせて、保育現場で実践できる活動を文献などを用いて調べ、提案してもらいます。そして、事前学習を行った後、その活動について、計画を立て、実践し、省察をおこないます。

実践的な活動やレジュメ作成、討議を主な活動とし、研究に向けての基礎的な力を養います。また、これらの学修を通して、学部卒業認定・学位授与の方針の、「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識や技能の修得を目指します。学修成果としては、『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・文献等から知り得た情報をもとに、自らのテーマを決め、計画することができる。
- ・計画を実践、省察し、今後の課題を見出すことができる。
- ・協調性を持ちながら、他学生と意見交換をしたり積極的に実践活動に取り組んだりすることができる。
- ・「様々な環境に、好奇心や探求心をもってかかわる」ということについて自ら実践し、専門的な知識の理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実践活動のテーマ選定
- 第3回 実践活動を提案するための事前学習①
- 第4回 実践活動の計画 (①-1)
- 第5回 実践・調査 (①-2)
- 第6回 省察・討議 (①-3)
- 第7回 実践活動を提案するための事前学習②
- 第8回 実践活動の計画 (②-1)
- 第9回 実践・調査 (②-2)
- 第10回 省察・討議 (②-3)
- 第11回 実践活動を提案するための事前学習③
- 第12回 実践活動の計画 (③-1)
- 第13回 実践・調査 (③-2)
- 第14回 省察・討議 (③-3)
- 第15回 前期の実践活動を通して振り返り、演習Ⅱに向けての計画
定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・実践活動の内容について事前に情報収集し、レポートにまとめます。(2時間)
- ・授業時間内に討議ができるよう、他学生への配布レジュメを作成します。(1時間)
- ・実践活動の前後には、教材研究とその準備をする必要があります。(1時間)

【成績の評価】

提出物(レジュメ、レポート等) 50%、討議への参画 20%、実践活動への参画 30%を総合的に評価します。

レジュメ、レポートについては、授業時間内に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

厚生労働省(2018)「保育所保育指針解説」フレーベル館
文部科学省(2018)「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
その他、必要であれば適宜紹介します。

科目名： <KENK3>演習Ⅰ【言葉ゼミ】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習Ⅰ（言葉ゼミ）は、幼稚園教育要領の「言葉の獲得に関する領域」の内容を踏まえながら、絵本や紙芝居、童話などをテキストとして、調査・研究や発表・討議などを行います。テキストには日本で出版されているものだけでなく、外国語（英語）のものも含めます。

また、子どもが「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう」ことができるようにするために求められる、学生自身の表現力・コミュニケーション能力の向上を図るため、「読み聞かせ」や紙芝居の実践演習を行います。さらに、ゼミ活動の一環として読み聞かせボランティア活動を行います。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」を養うことを目指します。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- (1)子どもの言葉の獲得や言語生活についての理解を深めることができる。
- (2)実践的な読み聞かせ活動などにより子どもを対象としたコミュニケーション能力や言葉による表現能力を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	演習の内容と実施計画についての協議
第3回	絵本や紙芝居を読み解く（日本の絵本）
第4回	絵本や紙芝居を読み解く（外国の絵本）
第5回	絵本や紙芝居を読み解く（紙芝居）
第6回	読み聞かせの実践演習（絵本）
第7回	読み聞かせの実践演習（紙芝居）
第8回	読み聞かせの実践演習（昔話）
第9回	言語教材の研究（5歳児対応）
第10回	言語教材の研究（4歳児対応）
第11回	言語教材の研究（3歳児対応）
第12回	言語教材の研究（1, 2歳児対応）
第13回	言語教材の研究（0歳児対応）
第14回	学習成果の検討と分析
第15回	学習成果のまとめと反省
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間）

事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

受講態度・状況（60%）、学習シート・課題のまとめ（20%）、「おはなし会」ボランティア活動状況（20%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

絵本や紙芝居などを幅広く使用しますが、各自購入する必要はありません。

【参考文献】

演習の中で、随時紹介します。

科目名： <KENK3>演習Ⅰ【音楽表現ゼミ】
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する資質・能力の修得を目指します。また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。
幼児の音楽表現に関して研究を行います。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように演奏活動を中心にあずは自らの表現力を高め、専門的技能と実践能力を養います。また、オープン・キャンパスをはじめとした発表の場を目標に、計画・準備・本番等を通して、各自が課題に気づき、解決していく力を育みます。これら企画運営の経験を含めて総合的に音楽活動に関する知識、技法、態度を修得します。

【到達目標】

- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を論じることができる。
- ・積極的に課題を見つけ、創造的に取り組むことができる。
- ・演奏の場で臆することなく発表することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 ふれあいコンサートでの発表準備1（題材の決定、計画、レジュメ作成）
第3回 ふれあいコンサートでの発表準備2（練習、その他）
第4回 ふれあいコンサートでの発表準備3（リハーサル、修正）
第5回 課題Ⅰ：紹介文の作成
第6回 課題Ⅰの発表と討論
第7回 課題Ⅱ：身近な問題をテーマに賛成反対の意見文を作成
第8回 課題Ⅱの発表と討論
第9回 課題Ⅲ：before/afterについて述べる文章を作成
第10回 課題Ⅲの発表と討論
第11回 さまざまなロールプレイの実践
第12回 オープンキャンパスでの発表準備1（題材の決定）
第13回 オープンキャンパスでの発表準備2（計画、レジュメ作成）
第14回 オープンキャンパスでの発表準備3（練習、その他）
第15回 オープンキャンパスでの発表準備4（リハーサル、修正）前期の反省
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業時の楽器演奏および指導の状況を録音しておき、それを参考に各自技術向上のために週に最低1時間以上練習を行う。日々の生活の中で感じたことや、それらに関する各種情報を収集し、ゼミ内での討論や発表に活用できるようにノートに纏めておく。

【成績の評価】

提出物50% 発表内容50%
提出物にはコメントを添えて返却、発表に対しては授業内で講評を行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

北村智恵著 「風の声を聴く子どもたち」（芸術現代社）1988年

科目名： <KENK3> 演習Ⅰ【特別支援教育ゼミ】

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka), 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材としての素地を高めるために、学生の興味・関心をもとに障害のある子ども・成人を取り巻く様々な課題について先行研究や文献、インターネットから情報を収集し、自らの興味・関心の探索と問題意識の形成を図ります。また調べた内容をまとめて文章にし、発表することを通して、基礎力の向上を図ります。また実際に特別支援学校や障害者福祉関連施設への見学やボランティア活動へ参加することで、障害のある方との関わりの実体験を増やし、多角的な視野や観点の獲得を目指します。演習Ⅰを通じて、様々な課題に自ら気づき、子どもの育ちに関わる諸問題、社会の諸問題を自ら解決しようとする主体性と意欲を育みます。

本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材に求められる問題意識に基づく基礎的知識の獲得及び実体験を通じた多角的な視野や観点の獲得、実際的な対人技能の基礎技術を獲得できる。これらの目標を達成するために以下の到達目標を設定します。

1. 特別支援教育及び障害福祉を取り巻く課題について概説できる
2. 特別支援教育や障害福祉を必要とする人への関わり方の基本姿勢について説明できる
3. 特別支援教育及び障害福祉を必要とする人への基礎的な環境調整について説明できる

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	特別支援教育と共生社会の課題
第3回	障害のある方を取り巻く法律と合理的配慮
第4回	障害のある人と様々な社会課題 (1) 触法障害者の支援
第5回	障害のある人と様々な社会課題 (2) 障害者の職業自立
第6回	障害のある人と様々な社会課題 (3) 障害者の高等教育
第7回	障害のある人と様々な社会課題 (4) 生活支援
第8回	研究の進め方と文献検索の方法
第9回	研究設問の設定 (テーマ探索)
第10回	研究設問の設定 (文献検索)
第11回	研究構成と内容 (探索)
第12回	研究構成と内容 (決定)
第13回	最終発表の準備 (レジュメ作成) (1)
第14回	最終発表の準備 (レジュメ作成) (2)
第15回	最終発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です(1時間)。また、ゼミナール活動としてボランティア活動へ定期的に参加しています(月に1回程度)。本授業ではゼミ内の発表会を予定しているため、そのレジュメ作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度(30%)、提出物(40%)、発表(30%)等を総合して成績を評価します。
課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。
また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践，(編) 川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳，北大路書房，2016

科目名： <KENK3> 演習Ⅰ【造形表現ゼミ】
担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

本ゼミを担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、2年前から、県教育委員会より造形活動の指導員として幼稚園や保育所に派遣されていることから、現場の実態に応じた実践的な指導を行うことができます。

授業では、本学卒業後、赴任する保育所、幼稚園、こども園や、地域の造形教育（表現活動）の推進役として活躍することのできるよう、造形教育の意義やねらい等について、文献等から様々な考え方を学ぶとともに、幼児の造形活動を指導するにあたって必要となる知識や技能を技法遊びの実習を通して身に付けます。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・主として技法遊びの実習を通して、造形表現の基礎となる知識や技能を身に付けることができる。
- ・保育の現場で掲示物など、よりよい環境づくりに必要とされる造形的な構合力や表現力を、イラスト制作を通して身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
第2回 発表及び討議：造形教育の実態（教育現場から）について
小学校以降、受けてきた図工の授業の思い出（楽しかったことや、つまらなかったことなど）
第3回 発表及び討議：造形教育の意義やねらい、戦後の教育の展開（論争点）について
保育所・幼稚園で造形活動や図工の授業は必要か？
保育所保育指針、幼稚園教育要領から
第4回 作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び (1) スタンピング、ドリッピング
第5回 作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び (2) バチック、デカルコマニー
第6回 作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び (3) 糸引き絵、スパッタリング
第7回 作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び (4) ステンシル、フロッタージュ
第8回 作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び (5) スクラッチ、にじみ絵
第9回 作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び (6) マーブリング、ビー玉転がし
第10回 作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び (7) ローラーペインティング①
第11回 作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び (8) ローラーペインティング②
第12回 作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び (9) コラージュ、複合技法①
第13回 作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び (10) コラージュ、複合技法②
第14回 作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び (11) コラージュ、複合技法③
第15回 発表及び討議：研究内容の整理とまとめ、後期の研究の方向性の検討
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

今回の内容に沿って、あらかじめ準備物を用意したり、資料を収集したり、アイデアスケッチを描いたりすることが必要です。（1時間以上）

また、本学を離れて保育園や小学校で授業を行ったり、写生会の指導をしたりすることも検討しています。（相当する日数、時間）

【成績の評価】

造形教育や造形活動に対する知識・技能よりも、レジュメの内容や模擬授業の準備の程度（60%）、質疑応答への参画の態度（40%）など、これらを身に付けるために真摯に取り組む意欲や態度を評価します。

作成した作品等に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 「保育所保育指針 解説」（平成30年2月 厚生労働省）
「幼稚園教育要領 解説」（平成30年2月 文部科学省）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）
令和2年～5年使用 小学校図画工作科 教科用図書
「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）

科目名： <KENK4> 演習Ⅱ【児童教育ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro), 織田 幸美(ODA Yukimi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 峯 寛文(MINE Hirofumi), 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

本授業は、実務経験のある教員が担当します。小・中・高等学校の教育現場での教科・生徒指導、教育委員会等での経験を生かし、豊富で具体的な事例を示しながら授業を行います。

「演習Ⅰ」に引き続き、「教育現場における朝の会・学級活動などの実践的指導力のトレーニングを行います。また、「いじめ問題」「学力低下問題」など教育的な問題を取り上げ、資料収集・まとめ・発表の活動を通して専門的な力量を身につけることを目指します。可能な限り教育現場に足を運んだり、授業のVTRやDVDを視聴したりして実際の教育活動に触れ、それをもとに教育活動を考えます。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しており、「理論」と「実践力」を兼ね備えた指導力の向上を図ることをねらいとしています。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の4つを設定します。

- 1 教育的、社会的に問題となっている事象を取り上げ、幅広く資料を収集することができる。
- 2 収集した資料を整理しファイリングできる。
- 3 収集した資料を分析し、主張点を明確にできる。
- 4 引用、参考、自己の主張とを明確に区別したレジュメ（A4用紙2～4枚）を作成できる。

【授業計画】

※リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
クラス名：2022演習Ⅰ・Ⅱ（児童教育） クラスコード：mb4gqmy

第1回	「演習Ⅱ」の内容と進め方
第2回	取り上げる教育問題と研究の進め方、レジュメ分担等
第3回	発表および討議 学級活動を構成する1（「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等）
第4回	発表および討議 学級活動を構成する2（「生きる力」①）
第5回	発表および討議 学級活動を構成する3（「生きる力」②）
第6回	発表および討議 学級活動を構成する4（「いじめ」問題①）
第7回	発表および討議 学級活動を構成する5（「いじめ」問題②）
第8回	発表および討議 学級活動を構成する6（「食育」①）
第9回	発表および討議 学級活動を構成する7（「食育」②）
第10回	発表および討議 学級活動を構成する8（「学力低下」問題①）
第11回	発表および討議 学級活動を構成する9（「学力低下」問題②）
第12回	「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備1
第13回	「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備2
第14回	「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備3
第15回	「演習Ⅰ／Ⅱ 成果発表会」

毎回の担当の活動後と教育問題に関するレジュメ等で評価するので、定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

- ・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。
- ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。
- ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。
- ・また、学内での検定試験を受検すること（漢字検定：2月、日本語検定11月）
- ・毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。
- ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道府県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。

【成績の評価】

「朝の会」における司会進行「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」「教育問題のレジュメ検討」などの活動状況を7段階評価（C-～A+）で点数化（25%）、「読書感想文」「新聞記事論評」（25%）、「教育問題」を取り上げたレジュメ作成と・発表（50%）を基礎データとします。それに加え、コース成果発表会などのゼミ活動への取り組み意欲、出席状況などを併せて総合的に評価します。
毎回の授業において、活動・教育問題についてのレジュメに対しての評価コメントを行い次時に活かします。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
- ・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円（前期に購入済み）

【参考文献】

- ・文部科学省『学習指導要領解説（各教科等）』（2018年）価格は各教科ごと
 - ・文部科学省教育課程課・幼児教育課編「初等教育資料」（東洋館出版社、月一回発行月刊誌）
- その他 授業で適宜紹介します。

科目名： <KENK4> 演習Ⅱ【幼児教育専修ゼミ】
担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。

演習Ⅱでは、保育や教育に関する現代的な問題について、ゼミ生による共同研究と発表・討議、そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

また、保育や教育に関する時事問題を毎週1つ選び、内容の報告と自分なりの意見をまとめたレポートの提出を求めます。

演習Ⅱでは、卒業認定・学位授与方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識・技能の修得を目指します。

また、学修成果として、『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・言葉の概念や表現を緻密に検討することを重ねて、教育や保育に関する諸事象を正確に把握する力の獲得できる。
- ・研究した成果をプレゼンテーションするための基礎能力を獲得できる。
- ・教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	発表及び討議：保育制度の課題
第3回	発表及び討議：保育内容の課題
第4回	発表及び討議：子育て不安
第5回	発表及び討議：共同研究テーマの決定
第6回	発表及び討議：共同研究テーマの分析
第7回	発表及び討議：論証方法の検討
第8回	発表及び討議：論証内容の検討
第9回	発表及び討議：使用データの客観性の検討
第10回	発表及び討議：発表レジュメ試作
第11回	発表及び討議：発表レジュメの修正
第12回	発表及び討議：発表用プレゼンテーションの準備
第13回	発表及び討議：発表練習
第14回	学習成果発表会
第15回	卒業生の卒論発表会への参加

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業後に必要となります。学習には、15時間以上が必要になるでしょう。

【成績の評価】

レジュメの内容(50%)やゼミでの質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（1年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK4>演習Ⅱ【健康ゼミ】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習Ⅱは、本学の卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している ④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している ⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

演習Ⅱでは、演習Ⅰに引き続き、専門的な研究活動への導入である分野をさらに学習します。「保育内容 健康」の領域における先行論文の要約、論評、討論をくり返し、「文章を読む」「文章を書く」「文章を理解し、考察・分析する」「さらにはそれを人に伝える」という、文章の読み書き、問題や課題の考察・分析、プレゼンテーション能力を養うためのトレーニングを演習Ⅰからさらにステップアップして行います。

【到達目標】

1. 簡単な図やグラフを説明できる。
2. 他人に分かりやすくプレゼンテーションするためのツールを使いこなすことができる。
3. 演習Ⅰよりもさらに深く考察できるようになったり、演習Ⅰよりも、もう一段階ステップアップしたディスカッションができる。
4. 授業におけるさまざまな活動の中で、共に助け合い、豊かな心と創造力を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回	ある事象を分析する①（テーマの設定）
第2回	ある事象を分析する②（問題の所在を探る）
第3回	ある事象を分析する③（問題解決を分析する）
第4回	プレゼンテーションとは何か
第5回	プレゼンテーションのアウトラインを考える①（順序について）
第6回	プレゼンテーションのアウトラインを考える②（内容について）
第7回	Power Pointの基本①（テキストの入力）
第8回	Power Pointの基本②（クリップアートや図の挿入）
第9回	Power Pointの基本③（グラフの作成と挿入）
第10回	Power Pointを使いこなす①（テンプレートの作成）
第11回	Power Pointを使いこなす②（アニメーションの設定）
第12回	Power Pointを使ってプレゼンテーションしよう（前半）
第13回	Power Pointを使ってプレゼンテーションしよう（後半）
第14回	総括①（自作のプレゼンテーションの反省）
第15回	総括②（プレゼンテーションのまとめ）

定期試験は実施しない

<科目コード：gi3nh14>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合もあります。

【授業時間外の学習】

演習Ⅰと同様にゼミ生が役割を分担し共同（協働）作業によって課題を解決して行く授業です。課せられた役割が確実に果たせるよう日常的に資料の収集やレポートの作成などの作業を滞ることがないように努力する責任が生じます。

本授業では、ゼミ生が設定した課題解決に必要な情報を分担、協力して予め収集してもらいます（30分）。

また、授業後は、それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA4 1枚程度に行ってください（30分）。

【成績の評価】

授業中に作成するレポート：50%

プレゼンテーション：30%

授業態度：20%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ 成績（レポートの評価を含む）については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： <KENK4> 演習 II 【人間関係ゼミ】
担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

演習 I に引き続き、心理学の研究によって得られた知見や心理学研究の方法論にもとづいて、「人との関わり」という視点から、卒業認定・学位授与の方針の卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。授業では、子どもたちの人間関係に関わる具体的なテーマについて、文献研究を行い、必要に応じて調査をし、それらの結果に関して討論することを通して、演習 I と同様に、知識を自ら学ぶことを重視します。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

1. 演習 I における自らの人間関係に関する学び、動機づけ、および、幼児の遊びについての学びを基礎にしながら、現代社会の人間関係について考察することができる。
2. 子育て支援社会を支える豊かな心の基盤となる人間関係の重要性を改めて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 関心領域と課題に関する議論
- 第3回 文献の発表と討論（グループ1）
- 第4回 文献の発表と討論（グループ2）
- 第5回 文献の発表と討論（グループ3）
- 第6回 文献の研究的視点からの検討
- 第7回 文献の実践的視点からの検討
- 第8回 関連文献の発表と討論（グループ1）
- 第9回 関連文献の発表と討論（グループ2）
- 第10回 関連文献の発表と討論（グループ3）
- 第11回 関連文献の研究的視点からの検討
- 第12回 関連文献の実践的視点からの検討
- 第13回 発表・討論の総括
- 第14回 ゼミ活動報告会（グループ1）
- 第15回 ゼミ活動報告会（グループ2）

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

予習として、扱う文献を事前に読みまとめること（12時間）。復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（3時間）。

【成績の評価】

- ・授業の参加状況（態度、意欲など）（30%）、発表（40%）、討論内容（30%）の総合評価。
- ・発表や討論の内容に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

- 山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』（ミネルヴァ書房）
- 林創・清水由紀（2012）『他者とかかわる心の発達心理学』（金子書房）
- 田中浩司（2014）『集団遊びの発達心理学』（北大路書房）
- 池上知子・遠藤由美（2008）『グラフィック社会心理学第2版』（サイエンス社）

科目名： <KENK4> 演習Ⅱ【乳児保育ゼミ】
担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

演習Ⅱ（乳児保育ゼミ）では、演習Ⅰで決めたゼミテーマに沿って、文献収集、学習、研究などの活動を行います。自ら調べるなど、興味あるテーマをより深く知っていくための活動とともに、他者の研究状況も発表を通して理解しながら協力・協働する力も培い、演習Ⅰに引き続き、論文を書くための技術も身につけていきます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。』『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。』『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

1. 文章を書く、読むなどの基本的な力を身につける。
2. 文献、資料などを通して、自らの興味ある情報を得ることができる。
3. 研究について計画、実践、振り返りを行うことができる。
4. 自らの研究テーマについて他の学生と意見交換をしたり、他学生の研究テーマについても自分の意見を伝えることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研究の意義と今後の計画
 - 第3回 研究テーマに基づいた文献学習
 - 第4回 文献学習の発表と討議①
 - 第5回 文献学習の発表と討議②
 - 第6回 文献学習のまとめ
 - 第7回 教材研究の計画と準備
 - 第8回 教材研究①
 - 第9回 教材研究②
 - 第10回 教材研究のまとめ
 - 第11回 実践的な活動の計画と準備
 - 第12回 実践的な活動
 - 第13回 実践的な活動の振り返り
 - 第14回 演習成果報告会レジュメの作成
 - 第15回 演習成果報告会発表準備
- 定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・研究テーマに基づいた文献学習を行い、その内容をまとめる。（1時間）
- ・教材研究や実践活動の計画の立案や準備をする。（1時間）
- ・ゼミ研究テーマに沿って、情報収集を行う。（1時間）

【成績の評価】

小テスト（10%）、レジュメの作成・発表準備・発表（60%）、意見交換への参加（30%）、により評価します。

【使用テキスト】

厚生労働省「保育所保育指針解説」

【参考文献】

研究テーマに沿って適宜使用します。

科目名： <KENK4> 演習Ⅱ【環境ゼミ】
担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

「環境ゼミ」は、実践的な活動を通して、乳幼児教育における領域“環境”について考えるゼミです。演習Ⅱでは、演習Ⅰに引き続き、学生の皆さんの興味関心に合わせて、保育現場で実践できる活動を文献などを用いて調べ、提案してもらいます。そして、事前学習を行った後、その活動について、計画を立て、実践し、省察をします。

実践的な活動やレジュメ作成、討議を主な活動とし、研究に向けての基礎的な力を養うことを目標とします。これらの学修を通して、学部の卒業認定・学位授与の方針の、「2.教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識や技能の修得を目指します。学修成果としては、『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・文献等から知り得た情報をもとに、自らのテーマを決め、計画することができる。
- ・計画を実践、省察し、今後の課題を見出すことができる。
- ・協調性を持ちながら、他学生と意見交換をしたり積極的に実践活動に取り組んだりすることができる。
- ・「様々な環境に、好奇心や探求心をもってかかわる」ということについて自ら実践し、理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実践活動にむけての事前学習、討議①
- 第3回 実践活動の計画 (①-1)
- 第4回 実践・調査 (①-2)
- 第5回 省察・討議 (①-3)
- 第6回 実践活動にむけての事前学習、討議②
- 第7回 実践活動の計画 (②-1)
- 第8回 実践・調査 (②-2)
- 第9回 省察・討議 (②-3)
- 第10回 実践活動の振り返り、課題についての意見交換
- 第11回 学習成果発表会の内容検討
- 第12回 学習成果発表会レジュメ作成
- 第13回 学習成果発表会プレゼンテーション準備
- 第14回 学習成果発表会発表準備
- 第15回 学習成果発表会
- 定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・実践活動の内容について事前に学習したことを、レポートにまとめます。(2時間)
- ・授業時間内に発表するための配布資料の作成、発表原稿の作成、資料整理等が必要です。(2時間)
- ・実践活動の前には、教材研究をしたり活動の準備をしたりする必要があります。(1時間)

【成績の評価】

提出物(レジュメ、レポート等)50%、討議への参画20%、実践活動への参画30%を総合的に評価します。

レジュメ、レポートについては、授業時間内に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

厚生労働省(2018)「保育所保育指針解説」 フレーベル館
文部科学省(2018)「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館
その他、必要であれば適宜紹介します。

科目名： <KENK4>演習Ⅱ【言葉ゼミ】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習Ⅱ（言葉ゼミ）は、演習Ⅰの学習を踏まえ、それを継続し、一層拡大・深化させる形で、絵本や紙芝居、童話などをテキストとしての調査・研究や発表・討議などを行います。その他、言語教材について研究や実践演習を行います。

また、子どもが「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう」ことができるようにするために求められる、学生自身の表現力・コミュニケーション能力の向上を図るため、「読み聞かせ」や紙芝居の実践演習を継続・拡充して行います。さらに、ゼミ活動の一環として読み聞かせボランティア活動を行います。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- (1)演習Ⅰの学習成果を踏まえ、子どもの言葉の獲得や言語生活についての理解を深めることができる。
- (2)実践的な読み聞かせ活動などにより、子どもを対象としたコミュニケーション能力や言葉による表現能力の一層の向上を図ることができる。

【授業計画】

第1回	演習の内容と実施計画についての協議
第2回	言語教材の資料収集
第3回	言語教材の分析
第4回	絵本の表現研究（メディア・リテラシー）
第5回	読み聞かせの実践演習（絵本）
第6回	読み聞かせの実践演習（紙芝居）
第7回	読み聞かせの実践演習（パネルシアターなど）
第8回	言語教材の実演方法の検討
第9回	言語教材の実演発表(1グループ)
第10回	言語教材の実演発表(2グループ)
第11回	言語教材の実演発表の反省と考察
第12回	学習成果の分析
第13回	学習成果の検討
第14回	学習成果のまとめと課題の検討
第15回	学習成果発表会
定期試験は実施しない	

【授業時間外の学習】

絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間）
事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

受講態度・状況（60%）、学習シート課題のまとめ（20%）、「おはなし会」ボランティア活動状況等（20%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

絵本や紙芝居などを幅広く使用しますが、各自購入する必要はありません。

【参考文献】

演習の中で、随時紹介します。

科目名： <KENK4> 演習 II 【音楽表現ゼミ】
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。4. 子どもはもろろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができる。また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する資質・能力の習得を目指します。また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。
幼児の音楽表現に関して研究を行います。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように演奏活動を中心にまずは自らの表現力を高め、専門的スキルと実践能力を養います。また、ふれあいコンサートをはじめとした発表の場を目標に、計画・準備・本番等を通して、各自が課題に気づき、解決していく力を育みます。これら企画運営の経験を含めて総合的に音楽活動に関する知識、技法、態度を修得します。

【到達目標】

- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を論じることができる。
- ・積極的に課題を見つけ、創造的に取り組むことができる。
- ・演奏の場で臆することなく発表することができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	課題Iの提案、準備、遂行
第3回	課題Iの遂行、発表
第4回	ドラマ教育の手法と実践
第5回	オータムコンサートのための準備1
第6回	オータムコンサートのための準備2
第7回	ふれあいコンサートのための準備1（提案、計画、レジュメ作成）
第8回	ふれあいコンサートのための準備2（練習）
第9回	ふれあいコンサートのための準備3（リハーサル）
第10回	ゼミナール発表テーマの提案と検討
第11回	卒論テーマについての意見交換
第12回	プレゼンテーションの方法
第13回	課題IIの提案、準備、遂行
第14回	課題IIの遂行、発表
第15回	独奏/唱曲の発表、今期の振り返り、ポートフォリオの下準備

【授業時間外の学習】

授業時の楽器演奏および指導の状況を録音しておき、それを参考に各自技術向上のために練習を週に最低1時間以上行う。日々の生活の中で感じたことや、それらに関する各種情報を収集し、ゼミ内での討論や発表に活用できるようにノートに纏めておく。

【成績の評価】

提出物50% 発表内容50%
提出物にはコメントを添えて返却、発表内容については授業内で講評を行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

北村智恵著 「風の声聴く子どもたち」（芸術現代社）1988年

科目名： <KENK4> 演習Ⅱ【特別支援教育ゼミ】

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka), 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材としての素地を高めるために、学生の興味・関心をもとに障害のある子ども・成人を取り巻く様々な課題について先行研究や文献、インターネットから情報を収集し、自らの興味・関心の探索と問題意識の形成を図ります。また調べた内容をまとめて文章にし、発表することを通して、基礎力の向上を図ります。また実際に特別支援学校や障害者福祉関連施設への見学やボランティア活動へ参加することで、障害のある方との関わりの実体験を増やし、多角的な視野や観点の獲得を目指します。演習Ⅱを通じて、自ら課題解決に挑む主体性や周囲と協調・協働して物事に取り組もうとする態度、幅広い教養を身に着けるための自律的な学習意識を高めます。

本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材に求められる問題意識に基づく基礎的知識の獲得及び実体験を通して多角的な視野や観点の獲得、実際的な対人技能の基礎技術を獲得できる。

1. 特別支援教育及び障害福祉を必要とする人に必要な環境構成の意義について説明できる
2. 特別支援教育及び障害福祉を必要とする人との交流を通じて、望ましい姿勢や態度を獲得できる

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	特別支援教育の実践と環境構成
第3回	教材開発の視点と環境構成
第4回	教材開発（アイデア発表）
第5回	教材開発（素材集めと見直し）
第6回	教材開発（作成）
第7回	教材紹介
第8回	ボランティア活動の意義と学び（グループ討議）
第9回	ボランティア活動の意義と学び（個別発表）
第10回	研究設問の設定（文献検索）
第11回	研究構成と内容（探索）
第12回	研究構成と内容（決定）
第13回	最終発表の準備（レジュメ作成）
第14回	最終発表の準備（発表練習）
第15回	最終発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です（1時間）。また、ゼミナール活動としてボランティア活動へ定期的に参加しています（月1回以上）。本授業ではゼミ内の発表会を予定しているため、そのレジュメ作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（40%）、発表（30%）等を総合して成績を評価します。

課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。

また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践、（編）川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳、北大路書房、2016年

科目名： <KENK4> 演習 II 【造形表現ゼミ】
担当教員： 佐々木 啓祐 (SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

本ゼミを担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、2年前から、県教育委員会より造形活動の指導員として幼稚園や保育所に派遣されていることから、現場の実態に応じた実践的な指導を行うことができます。

授業では、本学卒業後、赴任する保育所、幼稚園、こども園や、地域の造形教育（表現活動）の推進役として活躍することのできるよう、造形教育の意義やねらい等について、文献等から様々な考え方を学ぶとともに、幼児の造形活動を指導するにあたって必要となる知識や技能を現場で行われている造形活動の作品づくりを通して身に付けます。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・保育の現場で行われている造形活動の作品づくりを通して、造形表現の基礎となる知識や技能を身に付けることができる。
- ・保育の現場で掲示物など、よりよい環境づくりに必要とされる造形的な構成力や表現力を、イラスト制作を通して身に付けることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

発表及び討議：個々の夏休み中の実践研究の発表

第2回 作品制作：保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題によるイラスト練習①

第3回 作品制作：保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題によるイラスト練習②

第4回 作品制作：保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題によるイラスト練習③

第5回 作品制作：壁面掲示物づくり①

第6回 作品制作：壁面掲示物づくり②

第7回 作品制作：壁面掲示物づくり③

第8回 作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (1) 複合技法による作品づくり①

第9回 作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (2) //

第10回 作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (3) //

第11回 作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (4) 季節や行事の作品づくり①

第12回 作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (5) //

第13回 作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (6) //

第14回 作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (7) //

第15回 発表及び討議：研究内容の整理とまとめ

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

今回の内容に沿って、あらかじめ準備物を用意したり、資料を収集したり、アイデアスケッチを描いてきたりすることが必要です。（1時間以上）

また、本学を離れて保育園や小学校で授業を行ったり、写生会の指導をしたりすることも検討しています。（相当する日数、時間）

【成績の評価】

造形教育や造形活動に対する知識・技能よりも、レジュメの内容や模擬授業の準備の程度（60%）、質疑応答への参画の態度（40%）など、これらを身に付けるために真摯に取り組む意欲や態度を評価します。

。作成した作品等に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

「保育所保育指針 解説」（平成30年2月 厚生労働省）
「幼稚園教育要領 解説」（平成30年2月 文部科学省）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）
令和2年～5年使用 小学校図画工作科 教科用図書

科目名： <KENK5> 演習III【幼児教育ゼミ】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習IIIは、2年次の言葉ゼミ演習I・IIで行った絵本、紙芝居、物語などの調査、研究、検討協議並びに読み聞かせの実技演習などを踏まえて、学生がそれぞれの興味・関心等により、個別の研究テーマを設定し、それにかかわる絵本、紙芝居等の紹介や研究協議を行うと共に、ゼミ活動の一環として、子育て支援ボランティア活動「おはなし会」公演等を行います。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- (1) 絵本、紙芝居等を活用して、子どもと本との関わりについての理解を深めることができる。
- (2) 表現力、コミュニケーション能力を高め、将来、保育所や幼稚園等における人間教育、情操教育を担当することのできる資質や能力、態度等を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 演習の全体計画、学生各自のテーマ設定に関する検討協議
 - 第3回 ブックトーク研修（選書方法）
 - 第4回 ブックトーク研修（事例研修①）
 - 第5回 ブックトーク研修（事例研修②）
 - 第6回 ブックトーク研修（実践と評価①）
 - 第7回 ブックトーク研修（実践と評価②）
 - 第8回 ブックトーク研修（実践と評価③）
 - 第9回 ブックトーク研修（実践と評価④）
 - 第10回 ブックトーク研修（成果と課題）
 - 第11回 卒論構想テーマ設定の検討（テーマとタイトル）
 - 第12回 研究資料の検討（文献・先行研究の探求）
 - 第13回 研究資料の検討（資料の探求）
 - 第14回 研究資料の検討（調査資料の収集）
 - 第15回 演習成果のまとめ
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表の準備をすること。（5時間）

各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（15時間）

子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

受講態度・状況（20%）、学習シート・研究のまとめ（50%）、「おはなし会」ボランティア活動状況（30%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

学生自身が用意した、市販の絵本、紙芝居や、パネルシアターなどを随時教材として使用します。

【参考文献】

随時紹介します。

科目名： <KENK5>演習III【保育ゼミ】
担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

また、発表・討議を重ねることで、卒業論文として研究したいテーマを見つけます。演習IIIでは、卒業認定・学位授与方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識・技能の修得を目指します。

また、学修成果として、『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

・卒業論文のテーマ決定に向けて、教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	発表及び討議：保育の目的と目標
第3回	発表及び討議：保育内容の課題
第4回	発表及び討議：保育方法の課題
第5回	発表及び討議：保育制度の課題
第6回	発表及び討議：子育てニーズの多様性
第7回	発表及び討議：育児不安の現状
第8回	発表及び討議：育児不安の原因
第9回	発表及び討議：子育て支援の現状
第10回	発表及び討議：子育て支援の課題
第11回	発表及び討議：新たな保育ニーズ
第12回	発表及び討議：研究内容の整理と分析
第13回	発表及び討議：個々の研究テーマの報告
第14回	発表及び討議：研究内容のまとめ
第15回	発表及び討議：後期の研究の方向性の検討
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業後に必要となります。学習には、15時間以上が必要になるでしょう。

【成績の評価】

レジュメの内容(50%)や質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（1年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK5> 演習III【保育実践ゼミ】
担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

演習IIIでは、卒業論文のテーマ・研究内容を決定するために、関係のある分野の文献や先行研究をもとに学習します。自ら興味あるテーマを見つけ、より深く知っていくための活動をしていく能力の獲得を目指します。他者の研究状況も発表を通して理解しながら協力・協働する力も培うことを目指します。学習した知識をもとに、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識、技法の修得をめざします。また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。』『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。』『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

1. 文献、資料などを通して、自らの興味ある情報を得ることができる。
2. 研究について計画、実践、振り返りを行うことができる。
3. 自らの研究テーマについて発表をし、他学生の研究テーマについても自分の意見を伝えることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 情報収集
第3回 卒業研究、研究方法について
第4回 文献・資料の探し方
第5回 文献・資料の情報整理
第6回 レジュメの書き方
第7回 文献・資料をもとにしたレジュメの作成
第8回 発表・討議（グループ1）
第9回 発表・討議（グループ2）
第10回 研究テーマの設定
第11回 研究テーマと研究の方法
第12回 発表・討議（グループ1）
第13回 発表・討議（グループ2）
第14回 振り返り（発表・討議についての総括）
第15回 前期のまとめ、研究テーマについての意見交換
定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・自らの興味にあった文献や先行研究をもとに情報収集をし、その内容をまとめる。（1時間）
- ・授業時に発表するために、それぞれの研究状況、学習成果をまとめる。（1時間）

【成績の評価】

レジュメの作成・発表準備・発表（70%）、意見交換への参加（30%）、により評価します。

【使用テキスト】

厚生労働省「保育所保育指針解説」

【参考文献】

研究テーマに沿って適宜使用します。

科目名： <KENK5> 演習III【特別支援教育支援システムゼミ】

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

卒業論文の研究課題を設定するために、興味・関心をもとに先行研究や文献から情報を収集し、自らの問題意識を明確にします。また調べた内容をまとめて文章することを通して、卒業論文作成に求められる基礎力の向上を図ります。この演習を通じて、幅広い教養を身に付け、自律的に学ぶ姿勢と様々な課題に気づき、自ら課題解決を図る主体性を高めます。本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができる。また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

研究の基礎である、情報収集、文章のまとめ方、発表の仕方など、卒業論文作成に求められる基礎的知識と技能を習得できる。

1. 研究の種類とその内容について概説できる
2. 文献資料を探索し、文献収集ができる
3. 研究設問を設定し、それを具現化する方法を選択できる
4. 発表原稿を作成することができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研究の進め方（研究手法とは）
 - 第3回 研究の進め方（研究手法の選定）
 - 第4回 研究課題の探索（テーマ探索）
 - 第5回 研究課題の探索（文献探索）
 - 第6回 研究課題の探索（文献整理）
 - 第7回 中間発表の準備
 - 第8回 中間発表会
 - 第9回 研究設問の設定（RQの探索）
 - 第10回 研究設問の設定（RQの決定）
 - 第11回 研究構成と内容
 - 第12回 研究構成の確認
 - 第13回 最終発表の準備（レジュメ作成）
 - 第14回 最終発表の準備（発表練習）
 - 第15回 最終発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です（1時間）。また、本講義では2回ゼミ内の発表会を予定しているため、そのレジュメ作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（40%）、発表（30%）等を総合して成績を評価します。
課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。
また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK5> 演習Ⅲ【授業研究ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本授業は、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での教科・生徒指導の経験を生かし、豊富で具体的な実践事例を示しながら授業を行います。その実践をふまえて、学生それぞれの興味・関心からなる個別の研究テーマを設定し、後期実施の「演習Ⅳ」へとつないでいきます。また、実践的指導力の向上を目指した模擬授業や場面指導の在り方など教員採用試験に向けた内容を扱います。

戦後教育における著名な教育実践家の教育実践を取り上げ検討します。具体的には斎藤喜博、向山洋一、大村はま、遠山啓、大西忠治、無着成恭らの教育実践家です。彼らの教育実践から、現代の教育においても大切にしたい教育観、指導方法等を取り出します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- 1 取り上げる教育実践に関わる情報を収集・整理・分析し、A4 3～4 枚のレジュメにまとめることができる。
- 2 レジュメを検討する際のグループ討議を通して、論点に沿った質問や意見の発表することができる。
- 3 目標、指導言を明確にした10分弱程度の授業計画を立て、オープンキャンパス等の場において模擬授業を実施できる。

【授業計画】

*リモートでの授業に備えClassroomへの参加、準備をお願いします。

クラス：2022演習Ⅲ・Ⅳ（授業研究ゼミ3年） クラスコード：yjc2nku

第1回	オリエンテーション
第2回	教育実践「斎藤喜博」に関わる発表と討議1
第3回	教育実践「斎藤喜博」に関わる発表と討議2
第4回	教育実践「向山洋一」に関わる発表と討議1
第5回	教育実践「向山洋一」に関わる発表と討議2
第6回	教育実践「大西忠治」に関わる発表と討議1
第7回	教育実践「大西忠治」に関わる発表と討議2
第8回	教育実践「大村はま」に関わる発表と討議1
第9回	教育実践「大村はま」に関わる発表と討議2
第10回	教育実践「遠山啓・数教協」に関わる発表と討議1
第11回	教育実践「遠山啓・数教協」に関わる発表と討議2
第12回	教育実践「無着成恭・やまびこ学校」に関わる発表と討議1
第13回	教育実践「無着成恭・やまびこ学校」に関わる発表と討議2
第14回	教育実践「有田和正」に関わる発表と討議1
第15回	教育実践「有田和正」に関わる発表と討議2

担当したレポート・レジュメと質疑応答をもって評価するので定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

- ・研究テーマの選定・設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。
 - ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。
- 毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。
- ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。

【成績の評価】

レジュメの内容（90%）、質疑応答など（10%）を基本にして総合的に評価します。

毎回の教育実践の検討において、実践分析の在り方、レジュメ制作の在り方についての評価コメントを行い、次時へ活かすようにします。

また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

- ・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円
- ・田中耕治編著『時代を拓いた教師たち 戦後教育実践からのメッセージ』（日本標準、2005年）1800円

【参考文献】

- ・無着成恭『やまびこ学校』（岩波文庫、1995年）
 - ・大村はま『教えるということ』（共文社、1973年）
 - ・斎藤喜博『授業』国土社
 - ・遠山啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社、1976年）
 - ・大西忠治『教育的集団の発見・定本「核のいる学級」』（大西忠治教育技術著作集）（明治図書、1991年）
 - ・向山洋一『跳び箱は誰でも跳ばせられる』（明治図書、1999年）
- その他、適宜紹介します。

科目名： <KENK5> 演習III【健康スポーツゼミ】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習IIIは、本学の卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している ④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している ⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

授業は、卒業論文を作成するための準備をする第一段階の授業として位置づけます。卒業論文のテーマの領域を選択するために、先行研究の探し方を学び、実際に先行研究の文献を読みます。さまざまな文献を読みすすめていくうちに、論文とはどのような文章なのか、論文の構成など、実際に学びます。

【到達目標】

1. 過去の文献を読み進めていき、作成する卒業論文のテーマの領域をしばることができる。
2. 卒業論文を作成するために必要な基本的な作業の過程を修得できる。
3. ゼミナール活動をととして、共に支え合い、豊かな心と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文を作成するための手順とは①（論文構成を考える）
- 第3回 卒業論文を作成するための手順とは②（論文構成を作成する）
- 第4回 卒業論文を作成するための手順とは③（論文構成を検討してみる）
- 第5回 先行研究の探し方を学ぼう①（図書館にて）
- 第6回 先行研究の探し方を学ぼう②（Webでの探し方）
- 第7回 実際に先行研究の文献を探そう①（図書館にて自分のテーマに関する先行文献を探す）
- 第8回 実際に先行研究の文献を探そう②（Web上にて自分のテーマに関する先行文献を探す）
- 第9回 実際に先行研究の文献を探そう③（文献検索のまとめ）
- 第10回 さまざまな文献を読もう①（収集した文献を読む）
- 第11回 さまざまな文献を読もう②（収集した文献の整理）
- 第12回 さまざまな文献を読もう③（収集した文献をまとめる）
- 第13回 収集した文献のまとめを発表する①（前半）
- 第14回 収集した文献のまとめを発表する②（後半）
- 第15回 総括（今後の卒業論文の進め方）

定期試験は実施しない

<科目コード：1mwpan6>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合もあります。

【授業時間外の学習】

毎回、卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し、ノートにまとめておいてください（30分）。

また、授業後は、その関連資料をもとに、卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。

【成績の評価】

プレゼンテーション：60%

授業中に作成するレポート：30%

討議における授業態度：10%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ 成績（レポートの評価を含む）については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： <KENK5> 演習III【教育心理ゼミ】
担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

この授業では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの保育・教育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題の解決することができる」に関する知識、技法の修得をめざします。教育心理学や発達心理学の知見を中心に、発達・思考・言語・学習などについての文献の講読、レポートの作成、発表などを行い、発達心理学や教育心理学の研究分野に関するより一層深い理解を目標とします。その際に、購読した論文の問題点や改善点、その他の文献から新しく得られた知見にもとづいた発展研究の案などを積極的に議論できる態度の育成を目指します。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

1. 様々な文献に記載される子どもの教育・保育に関わる理論を適切に理解できる。
2. 様々な文献から発展的な知見に得るための思考方法、またその態度を養うことができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 関心領域に関する討論
第3回 関心領域に関する課題の検討
第4回 関心領域に関する資料の検索
第5回 関心領域に関する資料の検討
第6回 発表と討論（グループ1）
第7回 発表と討論（グループ2）
第8回 発表と討論（グループ3）
第9回 発表と討論（グループ4）
第10回 発表と討論（グループ5）
第11回 論文の構成
第12回 論文の検索方法と文献の示し方
第13回 論文の要約方法
第14回 文献の検索と報告
第15回 文献の検索と検討
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

この授業では、専門書、研究論文の探索と購読、レジュメの作成（10時間）などのために時間外の学習をすることになっています。また、授業中に指摘された問題点について、改めて調べ直すこと（5時間）も必要になります。

【成績の評価】

- ・授業の参加状況（態度、意欲など）（30%）、発表（40%）、討論内容（30%）の総合評価。
- ・発表内容と資料に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

松井豊（2010）『心理学論文の書き方－卒業論文や修士論文を書くために』（河出書房）

【参考文献】

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（2001）『心理学研究法入門』（東京大学出版会）
大野木裕明・中澤潤（2002）『心理学マニュアル 研究法レッスン』（北大路書房）
小宮あすか・布井雅人（2018）『Excelで今すぐはじめる心理統計』（講談社）
サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実（2019）『質的研究法マッピング』（新曜社）

科目名： <KENK5> 演習III【音楽ゼミ】
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実有する有する。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関する資質・能力の修得を目指します。また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

演習I,IIに引き続き、幼児の音楽表現に関する研究を深めます。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように演奏活動を中心に自らの表現力をさらに高め、専門的技能と実践能力を養います。また次年度の卒業論文のテーマについて、ゼミ内での意見交換をもとに各自構想を練っていきます。

【到達目標】

- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を的確に論じることができる。
- ・演奏の場で自らが楽しみながら発表することができる。
- ・各自が卒業論文のテーマとなり得る案を用意できる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 ふれあいコンサートでの発表準備1（題材の決定、計画、レジュメ作成）
第3回 ふれあいコンサートでの発表準備2（練習、その他）
第4回 ふれあいコンサートでの発表準備3（リハーサル、修正）
第5回 課題I: 紹介文の作成
第6回 課題Iの発表と討論
第7回 課題II: 身近な問題をテーマに賛成反対の意見文を作成
第8回 課題IIの発表と討論
第9回 課題III: before/afterについて述べる文章を作成
第10回 課題IIIの発表と討論
第11回 卒論テーマに関する中間報告
第12回 オープンキャンパスでの発表準備1（題材の決定）
第13回 オープンキャンパスでの発表準備2（計画、レジュメ作成）
第14回 オープンキャンパスでの発表準備3（練習、その他）
第15回 オープンキャンパスでの発表準備4（リハーサル、修正）前期の反省
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業時の楽器演奏および指導の状況を録音しておき、それらを参考に各自技術向上のための練習を週に最低1時間以上行う。卒業論文のテーマを決定する為に多くの資料を収集し比較検討を行いゼミ内での討論や発表に活用できるようノートに纏めておく。

【成績の評価】

提出物50% 発表内容50%
提出物にはコメントを添えて返却、発表内容には個々に説明を行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

「子どもの眼の高さで歌おう」北村智恵著（芸術現代社）1983年
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <KENK5> 演習III【学校教育ゼミ】
担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

まず、各自の関心に基づいた学校教育に関する研究課題を設定します。次に、研究課題にかかわる文献や資料を収集・調査・分析する活動を進めていきます。受講学生は、定期的にレジュメを作成・発表します。これらの取り組みを通して、文献や資料の収集方法、論文の読み方、要約の仕方について学んでいきます。また、教員も交えて積極的に議論することで、様々な研究課題に関心を持ち、教育に関する見識を高めていきます。研究活動以外では、教育に関する今日の問題に関心を持ってもらうために、新聞記事の切り抜きをもとに議論する時間を設ける予定です。また、希望があれば教員採用試験に向けた対策を取り入れることもあります。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができること」、「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できること」の育成に主にかかわっています。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している』、『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している』、『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』と関わりがあります。

【到達目標】

- ・各自の関心に基づく教育・保育に関する研究課題を設定することができる。
- ・自ら設定した研究課題に関する文献・資料を収集し、調査し、分析することができる。
- ・各自で分析したことを整理し、ゼミ内で発表し、意見交換することができる。
- ・日常的に教育問題に関心を持ち、社会人としての素養を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	研究課題の設定とは
第3回	各自の研究課題の設定
第4回	各自の研究課題の再設定
第5回	文献・資料調査とは
第6回	文献・資料収集の方法
第7回	文献・資料の整理
第8回	インタビュー調査の方法
第9回	アンケート調査の方法
第10回	発表レジュメの作成
第11回	発表レジュメの修正
第12回	発表準備
第13回	ゼミ内での発表と意見交換
第14回	今後の研究計画
第15回	全体のまとめ（今期の振り返り）
定期試験	は実施しない

【授業時間外の学習】

毎回、授業準備として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）と、教育の今日的課題に関する新聞記事を紹介すること（1時間）。授業後は、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）。

【成績の評価】

授業態度や授業への積極的参加状況（30%）、各自の研究課題の進捗状況（50%）、新聞記事の紹介（20%）などにより総合的に評価する。
発表後は、教員から講評を受けることでフィードバックを行う。また、最終回では、全体の講評を行う。

【使用テキスト】

なし。

【参考文献】

- ・桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版』実教出版、2015年。など

科目名： <KENK5> 演習III【特別支援教育ゼミ】

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業は、特別な支援を必要とする子どもの生活・学習等における課題を考察します。また、実地研修やボランティア等の体験活動に参加する機会を積極的に設け、特別な支援を必要とする子どもの教育・保育にかかる問題を自ら発見し、問題を解決する方策等について積極的に発言することを重視します。

演習IIIでの学びを通じて、卒業論文の作成に必要な基礎的な知識を習得するとともに、教育・保育に関する研究能力を涵養し、子どもの健全な成長・発達の姿を究明する力を養います。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できる」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

1. 特別な支援を必要とする子どもの生活・学習等におけるニーズや課題を、理解することができる。
2. 実地研修やボランティア活動等に積極的に参加し、学んだ内容を報告することができる。
3. 討議や発表で、気付きや疑問、意見を積極的に述べるができる。
4. 卒業論文のテーマ決定に向けて、関心がある領域の問題点や課題等を的確にレジュメにまとめることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 卒業論文及び研究とは
 - 第3回 特別な支援が必要な子どもを理解する視点
 - 第4回 子どもの発達
 - 第5回 特別な支援が必要な子どもの生活に関する課題
 - 第6回 特別な支援が必要な子どもの学びに関する課題
 - 第7回 関心がある領域 グループA
 - 第8回 関心がある領域 グループB
 - 第9回 実地研修：特別支援学校又は福祉施設における医療的ケア
 - 第10回 障害が重い子どもの教育・療育
 - 第11回 特別支援教育における現代の課題
 - 第12回 研究テーマの報告 グループA
 - 第13回 研究テーマの報告 グループB
 - 第14回 実地研修：特別支援教育におけるICT機器の活用
 - 第15回 研究内容のまとめ及び演習IVの研究内容の検討
- 定期試験は実施しない

※実地研修以外は各テーマについて発表・討議を行います。

【授業時間外の学習】

- ・関心がある領域について文献の精読や先行研究の検索、情報の収集を行ってください（30分以上）。
- ・授業後は、討議等で指摘された事項について再度調べたりまとめ直したりすることが必要です（30分以上）。
- ・各回のテーマに基づき発表用のレジュメを作成してください（1時間以上）

【成績の評価】

- ・レジュメの内容（50%）、討議への参画（50%）を踏まえて総合的に評価します。
- ・レジュメについては授業時に講評し、改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- ・白石正久著『発達の扉（上）』かもがわ出版、1996年
- ・白石正久著『発達障害論 研究序説』かもがわ出版、1995年
- ・アナット・パニエル著『限界を超える子どもたち』太郎次郎社エディタス、2019年
- ・神蔵幸子、金允貞編著『やさしい乳児保育』青踏社、2020年

科目名： <KENK5> 演習III【乳幼児保育研究ゼミ】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

演習IIIでは、就学前の子どもや子育て支援、保育分野に関する研究課題を設定するために、文献や先行研究から資料を収集します。また、今日の子育て課題や保育情勢を知ること、さらに研究課題を追究していきます。各自調べたことをレジュメにまとめ、発表、討論をすることを通して、さらに理解を深め、演習IVにつなげていきます。

本授業を通して、学部卒業認定・学位授与の方針の「1.教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている」「6.教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる」に関する資質・能力の修得を目指します。また、学修成果としては、『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・就学前の子どもや子育て支援、保育分野に関することで、関心のあるテーマに関連する文献や先行研究を見つけ、レジュメを作成できる。
- ・レジュメをもとに発表し、他学生の意見を尊重しながらも自分の考えを述べるなど、積極的に討論に参加することができる。
- ・今日の子育て課題や保育情勢について知り、理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研究とは
 - 第3回 文献・資料検索方法
 - 第4回 先行研究の読み方
 - 第5回 調査方法①（アンケート、インタビュー）
 - 第6回 調査方法②（観察）
 - 第7回 文献・資料の整理方法
 - 第8回 レジュメの書き方
 - 第9回 文献・資料をもとにしたレジュメの作成
 - 第10回 レジュメ発表・討議①
 - 第11回 レジュメ発表・討議②
 - 第12回 研究テーマと研究方法の検討
 - 第13回 研究テーマと方法について発表・討議①
 - 第14回 研究テーマと方法について発表・討議②
 - 第15回 前期まとめ、後期に向けての計画
- 上記の他、今日の子育て課題や保育情勢についての討論も随時行う。
定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・文献や先行研究について検索し、情報収集をして、レポートにまとめる。（2時間）
- ・研究テーマと方法について発表するためのレジュメを作成する。（2時間）
- ・今日の子育て課題や保育情勢について、情報収集を行う。（30分）

【成績の評価】

レジュメの内容（60%）、討議への参画（40%）を総合的に評価します。
レジュメについては、毎回授業時に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他、必要であれば適宜紹介します。

科目名： <KENK5>演習III【教育相談ゼミ】

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

学童期、乳幼児期に子どもが直面する発達上の課題について理解を深め、課題解決に向けての実践力を高めるための基礎を養います。授業は文献や先行研究を見つけ、発表することでお互いに自分なりの考えをもって取り組めるように、討論を中心に進めます。また、カウンセリング技法や人間関係を深めるワークに対する理解を深めるとともに学生が主体となって取り組みます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識・技法の習得を目指します。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している』、『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している』、『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

- ・ 集団や個人の人間関係力を高めるワークについて理解し、実践できる。
- ・ カウンセリング技法に習熟し、日常生活にも活用できるようになり。
- ・ 発表をもとに自分なりの考えを持ち、お互いに討論ができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	人間関係を深めるワーク（構成的グループエンカウンター）
第3回	人間関係力を高めるワーク（ソーシャルスキルトレーニング）
第4回	カウンセリングの要素
第5回	カウンセリングの技法①（傾聴技法・受容、繰り返し）
第6回	カウンセリングの技法②（傾聴技法・感情の反射、明確化）
第7回	カウンセリングの技法③（積極技法・自己開示、支持）
第8回	カウンセリングの技法④（積極技法・解決志向セラピー）
第9回	心理アセスメント①（TEG, CMI）
第10回	心理アセスメント②（WISC, WAIS）
第11回	心理アセスメント③（バウムテスト, HTPP）
第12回	心理アセスメント④（YG性格検査, 内田クレペリン）
第13回	文献研究の方法
第14回	研究テーマの設定
第15回	今期のまとめと意見交換

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいて、レジュメにまとめて発表に臨みます。（10時間）また、討論を通して出された課題に対して情報収集をし、発表の準備が必要です。（5時間）

【成績の評価】

受講態度・出席状況（20%）レジュメの内容（50%）討議への参画（20%）などにより、総合的に評価します。
発表・討議の際および期末に全体の講評を行いフィードバックをします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK5> 演習III【教科指導ゼミ（理科）】

担当教員： 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」ことに関する知識、技法の修得をめざしている。また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』ことに関連して、次の①～⑤の学習活動に取り組む。

- ① 小学校での理科教育や環境教育、防災教育等に関する内容を、小学校学習指導要領解説理科編及び教科書をもとに把握する。
- ② ①を踏まえて、理科教育や環境教育、防災教育等に関して、身近な自然やモノを素材とした教材開発と授業研究のための文献や資料、先行事例について調査する。
- ③ ②を踏まえて、卒業研究のテーマを検討し、決定する。
- ④ ③を踏まえて、卒業研究の進め方を具体的に考えた後に、卒業研究を進めていく。
- ⑤ ①～④と並行して、今日の学校が抱えている課題についても、適宜、学ぶこととする。

【到達目標】

- ・将来、教員として必要な素養と幅広い人間性、教科に関する専門的な知識と技能を身に付けることができる。
- ・実物を見る、実物に触れる、実際につくる、現場を知ること大切にして、手と目と足と頭を使って教材を開発して教材化し、授業を実践する基礎力を身に付けることができる。
- ・情報活用能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、課題解決能力を身に付けることができる。
- ・理科教育や環境教育、防災教育等に関しての知見を深め、演習IVへと継続・発展させることができる。

【授業計画】

下記は目安であり、授業の進度等によって変更する場合がある

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 小学校総合的な学習の時間の学習内容の調査と理解
 - 第3回 小学校理科教育の学習内容の調査と理解
 - 第4回 小学校環境教育の学習内容の調査と理解
 - 第5回 小学校防災教育学習内容の調査と理解
 - 第6回 小学校理科教育・環境教育・防災教育のまとめ
 - 第7回 小学校低学年理科教育の実験・観察内容の資料や先行事例の調査
 - 第8回 小学校高学年理科教育の実験・観察内容の資料や先行事例の調査
 - 第9回 小学校環境教育の実験・観察内容の資料や先行事例の調査
 - 第10回 小学校防災教育の実験・観察内容の資料や先行事例の調査
 - 第11回 小学校理科教育・環境教育・防災教育いずれかの教材開発
 - 第12回 小学校理科教育・環境教育・防災教育いずれかの教材開発の続き
 - 第13回 教材開発の発表と討議・修正
 - 第14回 ゼミ内での発表と討議・まとめ
 - 第15回 次期の計画
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

教材開発に取り組む、学生実験を行う予定である。また、そのための事前学習（2時間）及びまとめ（2時間）を行う。

【成績の評価】

ゼミ活動への取組状況（レポートや提出物等も含む）50%、ゼミ活動の成果30%、期末までの向上度20%を目安とする。レポートや提出物等は評価して返却する。発表・討議の際及び期末に全体の講評を行うことでフィードバックをします。

【使用テキスト】

授業で連絡します。以下を予定
文部科学省編「小学校学習指導要領解説 理科編」
小学校理科の教科書 等

【参考文献】

適宜、連絡します

科目名： <KENK5> 演習III【生徒指導力向上ゼミ】
担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。学校現場や教育行政での経験を活かし、具体的な事例を交えながら授業を行います。

教師に求められる学習指導力と生徒指導力のうち生徒指導に焦点を絞り、多面的にその理解を深めていく中で、本学部がカリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者・保育者に求められる使命感・倫理観の涵養」や「問題を自ら発見し、多様な情報収集・分析能力の技法と能力の獲得」等を図ります。また、学修の過程で積極的に討論を取り入れることにより、論理的に判断する力や適切な方法で表現する力の育成を図ります。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- 1 小学校段階における生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等を理解することができる。
- 2 卒業論文の作成に向けて研究を深める中で、生徒指導の素養を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 各都道府県教育委員会が掲げる教育理念1
 - 第3回 各都道府県教育委員会が掲げる教育理念2（発表・討論）
 - 第4回 学校支援ボランティアを通しての学び1（発表・討論）
 - 第5回 学校支援ボランティアを通しての学び2（発表・討論）
 - 第6回 生徒指導の意義
 - 第7回 開発的・予防的な生徒指導
 - 第8回 教育課程における生徒指導の位置づけ
 - 第9回 児童理解の重要性とその基本
 - 第10回 児童期の発達の特徴及び発達障害の理解
 - 第11回 児童理解を深める（発表・討論）
 - 第12回 集団指導と個別指導
 - 第13回 授業の中での生徒指導
 - 第14回 子ども・保護者との信頼関係の構築
 - 第15回 演習IIIの振り返りと演習IVの見通し
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎回、配布するワークシートに学習事項と要点をまとめるとともに次回の授業範囲を予習し、専門用語等の意味を理解しておく。また、発表・討論の際にはレジュメを作成する。（1. 5時間）

【成績の評価】

授業への参画状況（主体性、討論内容等）50%、ワークシート及びレジュメの内容 50%
毎回の授業時に学習成果の点検や講評等によるフィードバックを行う。

【使用テキスト】

文部科学省「生徒指導提要」教育図書（平成22年3月）

【参考文献】

適宜紹介する。

科目名： <KENK5> 演習III【造形教育ゼミ】
担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

本ゼミを担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、2年前から、県教育委員会より造形活動の指導員として幼稚園や保育所に派遣されていることから、現場の実態に応じた実践的な指導を行うことができます。

授業では、本学卒業後、赴任する保育所、幼稚園、こども園、小学校現場や、地域の造形教育（表現活動や図画工作教育）の推進役として活躍することのできるよう、造形教育の意義やねらい等について、文献等から様々な考え方を学ぶとともに、幼児や児童の造形活動を指導するにあたって必要となる知識や技能を技法遊びの実習を通して身に付けます。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・技法遊びの実習を通して、造形表現の基礎となる知識や技能を身に付けることができる。
- ・保育や教育の現場で掲示物など、よりよい環境づくりに必要とされる造形的な構成力や表現力を、イラスト制作を通して身に付けることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 発表及び討議：造形教育の実態（教育現場から）について

小学校以降、受けてきた図工の授業の思い出（楽しかったことや、つまらなかったことなど）

第3回 発表及び討議：造形教育の意義やねらい、戦後の教育の展開（論争点）について

保育所・幼稚園、小学校で造形活動や図工の授業は必要か？

保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領から

第4回 作品制作：「幼児に体験させたい造形遊び」教師が園児たちに実践してきた造形遊びを10題材程度、写真記録等により紹介する。

第5回から15回までの11回は、造形教育ゼミに所属する学生が各自で「幼児に体験させたい造形遊び」をゼミ内で紹介しあい、その中から優れたものを皆でいくつかを選んで制作活動を行う。

第5回 「幼児に体験させたい造形遊び」をゼミ内で紹介しあう。一人10分、2・3題材程度の発表

第6回 発表し合う活動、皆で制作活動を行う教材の決定。

第7回 皆で行う制作活動①

第8回 皆で行う制作活動②

第9回 皆で行う制作活動③

第10回 皆で行う制作活動④

第11回 皆で行う制作活動⑤

第12回 皆で行う制作活動⑥

第13回 皆で行う制作活動⑦

第14回 皆で行う制作活動⑧

第15回 発表及び討議：研究内容の整理とまとめ、後期の研究の方向性の検討

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

発表者はレジュメ作成等のために、事前の資料作成の準備に相当時間が必要です。

必要時間は全15回通して言えば15時間くらいと考えています。

また、本学を離れて保育園や小学校で授業を行ったり、写生会の指導をしたりすることも検討しています。（相当する日数、時間）

【成績の評価】

造形教育や造形活動に対する知識・技能よりも、レジュメの内容や模擬授業の準備の程度（60%）、質疑応答への参画の態度（40%）など、これらを身に付けるために真摯に取り組む意欲や態度を評価します。

作成した作品やレジュメ等に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

「保育所保育指針 解説」（平成30年2月 厚生労働省）

「幼稚園教育要領 解説」（平成30年2月 文部科学省）

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）

令和2年～5年使用 小学校図画工作科 教科用図書

「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）

科目名： <KENK5> 演習III【教科指導ゼミ（英語）】

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

この授業科目では、次の①～⑤の学習活動に取り組む。

① 小学校における外国語活動・外国語に関する内容を、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編及び教材・教科書をもとに把握する。

② ①を踏まえて、小学校英語教育に関して、身近で簡単な事柄を素材とした教材開発と授業研究のための文献や資料、先行事例について調査・研究する。

③ ②を踏まえて、卒業研究のテーマを検討し、決定する。

④ ③を踏まえて、卒業研究の進め方を具体的に考えた後に、卒業研究を進めていく。

⑤ ①～④と並行して、今日の学校が抱えている課題についても、適宜、学ぶこととする。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育の実践力、4.多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる力、7.教育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力」に関する知識、技能の修得をめざす。

また、学修成果『③十分なコミュニケーション能力、④教育に関わる問題を分析し、解決方法を表現する力、⑦教育者に求められる資質能力向上のための自己研修力』に関連している。

【到達目標】

・小学校の教員として必要な素養と幅広い人間性、教科に関する専門的な知識と技能を身に付けることができる。

・中学校1，2学年レベルの英語力を身に付けることにより、小学校英語教育に求められる教材開発力及び授業実践力を身に付けることができる。

・情報活用能力、課題解決力、プレゼンテーション力を身に付けることができる。

・小学校英語教育に関しての知見を深め、演習IVへと継続・発展させることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 小学校学習指導要領「外国語活動」の理解

第3回 小学校学習指導要領「外国語活動」の研究

第4回 小学校学習指導要領「外国語」の理解

第5回 小学校学習指導要領「外国語」の研究

第6回 小学校第3学年「外国語活動」の教材研究

第7回 小学校第4学年「外国語活動」の教材研究

第8回 小学校第5学年「外国語」の教科書研究

第9回 小学校第6学年「外国語」の教科書研究

第10回 中学校第1学年の英語教科書研究

第11回 中学校第2学年の英語教科書研究

第12回 「外国語活動」の教材開発

第13回 「外国語」の教材開発

第14回 教材開発の発表と討議、フィードバック

第15回 ゼミ内での発表と討議、まとめ

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

小学校英語教育に係る研修会や研究大会に2回程度参加する。（6時間×2回）

小学校英語教育に係る調査・研究を促すためのレポート等提出課題

【成績の評価】

「ゼミ活動への関心・意欲・態度」30%、「授業時間外に課すレポート等の提出課題」20%、「ゼミ活動の成果」30%、「発表・討議」20%の4項目を総合的に評価します。

レポート等の提出課題、発表・討議の成果については、その都度評価及びフィードバックを行います。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編 （文部科学省）

小学校外国語活動の教材及び外国語（英語）の教科書

【参考文献】

中学校英語教科書

科目名： <KENK5> 演習III【幼児教育ゼミ】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習IIIは、2年次の言葉ゼミ演習I・IIで行った絵本、紙芝居、物語などの調査、研究、検討協議並びに読み聞かせの実技演習などを踏まえて、学生がそれぞれの興味・関心等により、個別の研究テーマを設定し、それにかかわる絵本、紙芝居等の紹介や研究協議を行うと共に、ゼミ活動の一環として、子育て支援ボランティア活動「おはなし会」公演等を行います。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- (1) 絵本、紙芝居等を活用して、子どもと本との関わりについての理解を深めることができる。
- (2) 表現力、コミュニケーション能力を高め、将来、保育所や幼稚園等における人間教育、情操教育を担当することのできる資質や能力、態度等を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 演習の全体計画、学生各自のテーマ設定に関する検討協議
 - 第3回 ブックトーク研修（選書方法）
 - 第4回 ブックトーク研修（事例研修①）
 - 第5回 ブックトーク研修（事例研修②）
 - 第6回 ブックトーク研修（実践と評価①）
 - 第7回 ブックトーク研修（実践と評価②）
 - 第8回 ブックトーク研修（実践と評価③）
 - 第9回 ブックトーク研修（実践と評価④）
 - 第10回 ブックトーク研修（成果と課題）
 - 第11回 卒論構想テーマ設定の検討（テーマとタイトル）
 - 第12回 研究資料の検討（文献・先行研究の探求）
 - 第13回 研究資料の検討（資料の探求）
 - 第14回 研究資料の検討（調査資料の収集）
 - 第15回 演習成果のまとめ
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表の準備をすること。（5時間）

各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（15時間）

子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

受講態度・状況（20%）、学習シート・研究のまとめ（50%）、「おはなし会」ボランティア活動状況（30%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

学生自身が用意した、市販の絵本、紙芝居や、パネルシアターなどを随時教材として使用します。

【参考文献】

随時紹介します。

科目名： <KENK6> 演習Ⅳ【幼児教育ゼミ】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習Ⅳは、学生がそれぞれの興味・関心等により設定したテーマに関わる絵本、紙芝居等の紹介や保育・教育についての研究協議を行います。さらにそれらを深化し、発展させるとともに、ゼミ活動の一環として、絵本の読み聞かせや手遊びなどによる子育て支援ボランティア活動「おはなし会」公演等を行います。そして、これらを通して保育に必要な専門知識と実践力を養っていきます。

また、これらの諸活動を通じて獲得した課題意識に基づき、卒業論文の構想に結び付けていきます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」を養うことを目指します。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- (1) 絵本、紙芝居等を活用して、子どもと本との関わりについて研究し、理解を深めることができる。
- (2) 表現力、コミュニケーション能力を高め、将来、保育所や幼稚園等における人間教育、情操教育を担当することのできる資質や能力、態度等を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回	演習の全体計画
第2回	学生各自のテーマ設定に関する確認と検討協議
第3回	参考資料、文献の整理
第4回	参考資料、文献の発表
第5回	参考資料、文献の研究討議(①グループ)
第6回	参考資料、文献の研究討議(②グループ)
第7回	研究構想案の検討(研究の目的)
第8回	研究構想案の検討(研究の内容)
第9回	研究構想案の発表(①グループ)
第10回	研究構想案の発表(②グループ)
第11回	学生各自の研究発表、研究討議
第12回	学習成果の検討と分析
第13回	学習成果の発表とまとめ
第14回	卒業論文構想発表会
第15回	卒業論文構想発表会の考察と課題(まとめ)
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(20時間)
子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(15時間)

【成績の評価】

受講態度・状況(20%)、学習シート・課題のまとめ(60%)、「おはなし会」ボランティア活動状況等(20%)により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

学生自身が用意した、市販の絵本、紙芝居や、パネルシアターなどを随時教材として使用します。

【参考文献】

随時紹介します。

科目名： <KENK6>演習Ⅳ【保育ゼミ】
担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、前期に引き続いて、各回のゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえそうなプレゼンテーションの方法を学習します。

演習Ⅰでは、卒業認定・学位授与方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識・技能の修得を目指します。

また、学修成果として、『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

・卒業論文のテーマ決定に向けて、教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	発表及び討議：個々の夏休み中の研究成果の発表
第3回	発表及び討議：後期の研究課題の発表
第4回	発表及び討議：研究目的の検討
第5回	発表及び討議：研究の方向性と結論の予測
第6回	発表及び討議：論証の方法の検討
第7回	発表及び討議：論証に用いる資料の検討
第8回	発表及び討議：研究内容の発表（ゼミ生5名の内3名）
第9回	発表及び討議：研究内容の発表（ゼミ生5名の内2名）
第10回	発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの試作
第11回	発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの修正
第12回	発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの完成
第13回	発表及び討議：発表用プレゼンテーション資料の作成
第14回	発表及び討議：卒業論文構想発表会での発表
第15回	発表及び討議：後期の研究のまとめ、卒論に向けての課題の検討
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前に必要となります。学習には、15時間以上が必要になるでしょう。

【成績の評価】

レジュメの内容(50%)や質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。
毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（Ⅰ年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK6> 演習Ⅳ【保育実践ゼミ】
担当教員： 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

演習Ⅳでは、演習Ⅲにおいて学習した内容を踏まえ、卒業論文のテーマ・研究内容を決定します。そして、テーマ・ないようについてまとめ、発表、討議を重ねます。他者の研究状況も発表を通して理解しながら協力・協働する力も培うことを目指します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。』『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。』『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

1. 文献、資料などを通して、自らの興味ある情報を得ることができる。
2. 研究について計画、実践、振り返りを行うことができる。
3. 自らの研究テーマについて発表をし、他学生の研究テーマについても自分の意見を伝えることができる。
4. 卒業論文の構想をレジュメにできる
5. 卒業論文の構想、内容について発表できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研究方法
 - 第3回 研究方法の発表・討議（グループ1）
 - 第4回 研究方法の発表・討議（グループ2）
 - 第5回 研究計画
 - 第6回 研究計画の発表・討議（グループ1）
 - 第7回 研究計画の発表・討議（グループ2）
 - 第8回 卒業論文構想発表会にむけて
 - 第9回 卒業論文構想発表会レジュメ作成
 - 第10回 卒業論文構想発表会レジュメ修正
 - 第11回 卒業論文構想発表会レジュメ完成
 - 第12回 卒業論文構想発表会発表準備
 - 第13回 卒業論文構想発表会発表練習
 - 第14回 卒業論文構想発表会反省
 - 第15回 振り返り（1年間の振り返りと今後の課題について）
- 定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・自らの興味にあった文献や先行研究をもとに情報収集をし、その内容をまとめる。（1時間）
- ・授業時に発表するために、それぞれの研究状況、学習成果をまとめる。（1時間）

【成績の評価】

レジュメの作成・発表準備・発表（70%）、意見交換への参加（30%）、により評価します。

【使用テキスト】

厚生労働省「保育所保育指針解説」

【参考文献】

研究テーマに沿って適宜使用します。

科目名： <KENK6> 演習Ⅳ【特別支援教育支援システムゼミ】

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

演習Ⅲの内容を引き継ぎ、卒業論文の構成と内容を具体的に絞り込み、卒業論文を作成するための研究の方法と計画を立てます。第1回目から第5回目の授業では、各自の研究テーマに沿って、実地研究、調査研究、文献研究等の進め方と準備について学習します。また卒業論文の主となるデータの収集を複数のリソースから行います。またこれらを分析しまとめ、わかりやすく伝える工夫の仕方を学びます。この演習Ⅳを通じて、子どもの育ちに関連する課題に強い関心をもって情報収集を行うことで、幅広い教養を身に付け、新たな課題に対して、主体的かつ自律的に学ぶ姿勢を育みます。また中間発表など意見交換を行うことで、他者との協働作業やコミュニケーション能力を高めます。

本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。
また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有すること。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

自らの課題設定に対して、情報収集し、文章としてまとめ、わかりやすく発表するプレゼンテーションの仕方など、卒業論文作成に求められる知識と技能を向上を目指す。

1. 研究方法の種類とその特徴について説明することができる
2. 研究計画を立案することができる
3. 研究計画を基に、資料収集及びデータ収集を実施できる
4. 研究遂行の結果を文章にまとめることができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研究の方法と計画（研究法の確認）
 - 第3回 研究の方法と計画（研究計画の作成）
 - 第4回 研究開始の準備（調査及び実践：文献研究、調査研究）
 - 第5回 研究開始の準備（調査及び実践：実地研究、事例研究）
 - 第6回 中間発表の準備（レジュメ作成）
 - 第7回 中間発表
 - 第8回 研究（文献収集及びデータ収集：資料収集）
 - 第9回 研究（文献収集及びデータ収集：資料整理）
 - 第10回 研究（文献収集及びデータ収集：仮説の設定）
 - 第11回 研究（文献収集及びデータ収集：結果のまとめ）
 - 第12回 発表の準備（様式作成）
 - 第13回 発表の準備（レジュメ作成）
 - 第14回 発表の準備（発表練習）
 - 第15回 卒業論文構想発表会準備と発表
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、集めた情報や資料を整理することが必要です（1時間）。

また、本講義では、各回で各自の進捗状況の報告を行います。ゼミ内の中間発表会を行いますので、レジュメ作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（40%）、発表（30%）等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK6> 演習Ⅳ【授業研究ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本授業は、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での教科・生徒指導の経験を生かし、豊富で具体的な実践事例を示しながら授業を行います。

「演習Ⅲ」で行った著名な戦後教育の実践家の検討をもとに、個別に設定した研究テーマについての発表・検討を踏まえ、それをさらに深化・拡充します。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しており、「知識（体系）を教育・保育の実践と関連づけて具体的に考察することであり、4年次の卒業論文へ直接つながります。

また、4年次に受験する教員採用試験の願書等の書き方、試験問題の傾向と分析を行います。

【到達目標】

・教育に関わる論点についての情報を収集・整理・分析する力、レジュメを作成する力、論点についての本質を見極める力の獲得を目指す。

・「演習Ⅲ・Ⅳ」の研究成果をもとに、卒業論文のテーマを決定することができる。

・研究の目的、論文構成、結論の予測を明確にした「卒業論文構想」をA4用紙1枚にまとめることができる。

・「卒業論文構想発表会」において研究の概要を発表し、質疑に対する的確に回答できる。

・自身の教育観、児童観を明確にし、その内容をエントリーシートに表すことができる。また、学生や教員を面接官役に見立てた場で効果的にアピールできる。

【授業計画】

※リモートでの授業に備えClassroomへの参加、準備をお願いします。

クラス：2022演習Ⅲ・Ⅳ（授業研究ゼミ3年） クラスコード：yjc2nku

第1回	オリエンテーション
第2回	発表と討議 研究のねらいの明確化①（「主張」の文章化）
第3回	発表と討議 研究のねらいの明確化②（「主張」の修正）
第4回	発表と討議 仮の「研究主題」の設定①（「主張」を一文で示す）
第5回	発表と討議 仮の「研究主題」の設定②（「主張」と「タイトル」の関連）
第6回	発表と討議 予想される「結論」の設定①（学生半数）
第7回	発表と討議 予想される「結論」の設定②（学生残り半数）
第8回	発表と討議 「主題」を論証する手だて（KJ法）①（学生1／3名ずつ）
第9回	発表と討議 「主題」を論証する手だて（KJ法）②（学生1／3名ずつ）
第10回	発表と討議 「主題」を論証する手だて（KJ法）③（学生1／3名ずつ）
第11回	発表と討議 「論文構成」①（学生半数）
第12回	発表と討議 「論文構成」②（学生残り半数）
第13回	研究のまとめ 「卒業論文構想会」のレジュメ作り①（学生半数）
第14回	研究のまとめ 「卒業論文構想会」のレジュメ作り②（学生残り半数）
第15回	卒業論文構想発表

毎回の、卒業論文構想への取り組みをもって評価するので定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

・研究テーマが個別になるので、テーマの選定・設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。

・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。

毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

① 論証可能な適切な研究題目を設定できたか（25%）

② 研究題目に関わる予備調査（資料収集）が十分であるか（25%）

③ ①②を踏まえ、「卒業論文構想発表会」で検討される発表レジュメを作成できたか（50%）

①②③を基本として、出席状況、教員採用試験への取り組み意欲などを合わせて総合的に評価します。

評価したことは、次年の「卒業論文」作成の指導に反映します。

また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

- ・木下 是雄 『理科系の作文技術』中公新書（前期に購入済み）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】

- ・『香川県教員試験「過去問」シリーズ 香川県の論作文・面接 2022年度版』 協同教育研究会編など受験する教員採用試験の地域の過去問題集等。
- ・野口芳宏『教員採用試験αシリーズ2022年度版「模擬授業・場面指導」』一ツ橋書店
- ・常磐会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業 教員採用試験のために』大阪教育図書
- ・現代教職研究会編者『教員採用試験αシリーズ2022年度版「30秒アピール面接」』一ツ橋書店
その他、適宜紹介します。

科目名： <KENK6>演習Ⅳ【健康スポーツゼミ】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習Ⅳは、本学の卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している ④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している ⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

授業は、演習Ⅲの内容を引き継ぎ、卒業論文のテーマの領域を絞り込んでいきます。文献を読み、レジュメを作成していく中で、卒業論文という長文を完成させるための文章表現のマナーを修得していきます。

【到達目標】

1. 先行文献を読み、その内容を正確に把握し理解できる。
2. 文献の内容を要約することで、表現したい筋書きや内容を明確にすることができる。
3. レジュメを作成する際に、その都度、文章表現のマナーを修得することができる。
4. 授業におけるさまざまな活動の中で、共に助け合い、豊かな心と創造力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 興味のある領域の文献を読もう①（図書館にて）
- 第3回 興味のある領域の文献を読もう②（Web上にて）
- 第4回 興味のある領域の文献を読もう③（収集した文献のまとめ）
- 第5回 レジュメを作成しよう①（レジュメとは何か）
- 第6回 レジュメを作成しよう②（読み易さのための工夫）
- 第7回 レジュメを作成しよう③（レジュメの構成を考える）
- 第8回 レジュメを作成しよう④（主張部分の明示）
- 第9回 レジュメを作成しよう⑤（論理構造の明示）
- 第10回 文章表現のマナー①（引用文献の書き方）
- 第11回 文章表現のマナー②（タイプ別レジュメの書き方）
- 第12回 文章表現のマナー③（レジュメの書き方のまとめ）
- 第13回 卒業論文のテーマの領域についてのレジュメの構成を考える
- 第14回 卒業論文のテーマの領域についてのレジュメを書いてみる
- 第15回 作成したレジュメを発表する

定期試験は実施しない

<科目コード：lmwpan6>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合もあります。

【授業時間外の学習】

毎回、各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し、ノートにまとめておいてください（30分）。

また、授業後は、その関連資料をもとに、卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。

【成績の評価】

授業中に作成するレジュメおよびレポート：80%

授業態度（討議の態度、プレゼンテーション）：20%

※ 全体の60%以上の得点で合格とします。

※ レジュメおよび小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： <KENK6> 演習Ⅳ【教育心理ゼミ】
担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

この授業では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの保育・教育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題の解決することができる」に関する知識、技法の修得をめざします。心理学関係の講義やこれまでの演習で得られた知識や子どもの教育・保育に関わる理論をもとに、関心を持った事柄について、簡単な心理学の研究をゼミ生で協力しながら実際に行ってもらいます。まず、興味のある内容に関連した論文の講読、レジュメの作成、発表、討論などを行い、独自性豊かな研究テーマを開拓します。次に、研究の方法について詳細に議論し、自らの卒業論文のための研究計画を立ててもらいます。
なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

1. 卒業論文のための基礎として、文献の熟読、まとめ、発表、ディベートを通し、様々な論文や文献を基盤にし、発展的な研究を考えられる態度を確立し、実際の研究プロセスを体験することで、研究の楽しさや難しさが理解できる。
2. 卒業論文のテーマを絞り込み、それに向けて関連文献をまとめることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	各人の論文の発表と討論（関心に沿った論文の要約）
第3回	各人の論文の発表と討論（第2回で発表した論文に関連する論文）
第4回	各人の論文の発表と討論（第3回で発表した論文に関連する論文）
第5回	各人の論文の発表と討論（第4回で発表した論文に関連する論文）
第6回	各人の論文の発表と討論（第5回で発表した論文に関連する論文）
第7回	卒業論文のテーマに関する討論
第8回	卒業論文のテーマとなる文献の調査と報告（第7回を踏まえた報告）
第9回	卒業論文のテーマとなる文献の調査と報告（第8回の資料を改善したものを報告）
第10回	卒業論文構想発表会の資料作成（草案の作成）
第11回	卒業論文構想発表会の資料作成（草案の修正を作成）
第12回	卒業論文構想発表会の発表練習（各自資料をもとに準備）
第13回	卒業論文構想発表会の発表練習（第12回での発表練習での意見をもとに修正）
第14回	卒業論文構想発表会（グループ1）
第15回	卒業論文構想発表会（グループ2）
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

専門書、研究論文の探索（1時間）、購読（7時間）、資料の作成（7時間）、研究の計画・実施などのために時間外の学習をすることになっています。また、授業中に指摘された問題点について、改めて調べ直すことも必要になります。

【成績の評価】

- ・授業への参加状況（態度、意欲など）（20%）、発表（40%）、討論内容（20%）、研究内容（20%）の総合評価。
- ・発表や資料に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

その都度指示する。

【参考文献】

- 宮本聡介・宇井美代子（2014）『質問紙調査と心理測定尺度—計画から実施・解析まで』（サイエンス社）
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（2001）『心理学研究法入門』（東京大学出版会）
大野木裕明・中澤潤（2002）『心理学マニュアル 研究法レッスン』（北大路書房）
小宮あすか・布井雅人（2018）『Excelで今すぐはじめる心理統計』（講談社）
サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実（2019）『質的研究法マッピング』（新曜社）

科目名： <KENK6>演習Ⅳ【音楽ゼミ】
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関する資質・能力の習得を目指します。また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

演習Ⅱに引き続き、幼児の音楽表現に関する研究を深めます。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように音楽表現に関わる自らの専門的スキルと実践能力に更なる磨きをかけます。また卒業論文構想発表に向けて各自検討を重ね、ゼミ内での発表と討論を繰り返し、準備を整えていきます。

【到達目標】

- ・意義深く、各自が意欲的に取り組める卒業論文のテーマを決定し、その構想を分かりやすく表現することができる。
- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を説得力豊かに論じることができる。

【授業計画】

- 第1回 卒論テーマに関わる意見交換
 - 第2回 卒論に関わる文献の調査
 - 第3回 オータムコンサートのための準備1
 - 第4回 オータムコンサートのための準備2
 - 第5回 卒論に関わる思考マップの作成
 - 第6回 卒論に関わる問いと答えのリスト作成
 - 第7回 ふれあいコンサートのための準備1（提案、計画、レジュメ作成）
 - 第8回 ふれあいコンサートのための準備2（練習）
 - 第9回 ふれあいコンサートのための準備3（リハーサル）
 - 第10回 卒論の論証方法を考える
 - 第11回 卒論アウトラインの検討
 - 第12回 レジュメの準備
 - 第13回 レジュメの修正
 - 第14回 発表と討論
 - 第15回 再度発表
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

卒業論文のテーマを決定する為に多くの資料を収集し、毎週最低1時間以上は比較検討を行うこと。
演奏技術を維持するための練習を毎週最低1時間以上は行うこと。

【成績の評価】

提出物50% 発表内容50%
提出物にはコメント添えて返却、発表内容については個々に講評を与える。

【使用テキスト】

適宜紹介

【参考文献】

「子どもの眼の高さで歌おう」北村智恵著（芸術現代社）1983年
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・厚生労働省・文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）

科目名： <KENK6> 演習Ⅳ【学校教育ゼミ】
担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

演習Ⅲを発展させることとし、各自の研究課題を明確にする。まず関連する論文を取り上げてレジュメを作成し、検討を行う。それによって、卒業研究としての見通しがつくように研究をさらに進める。最終的に卒業論文構想を作成し、報告会で報告する。また、一般教養を身につけ、そして就職試験等に向けての対策も講じる。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができること」、「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できること」の育成に主にかかわっています。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している』、『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している』、『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』と関わりがあります。

【到達目標】

- ・ 各自の関心に基づく教育・保育に関する研究課題を設定することができる。
- ・ 自ら設定した研究課題に関する文献・資料を収集し、調査し、分析することができる。
- ・ 各自で分析したことを整理し、ゼミ内で発表し、意見交換することができる。
- ・ 日常的に教育問題に関心を持ち、社会人としての素養を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	研究課題の再検討
第3回	調査方法の再検討
第4回	文献・資料の収集
第5回	文献・資料の整理
第6回	文献・資料の分析
第7回	文献・資料の要約
第8回	発表レジュメの作成
第9回	発表レジュメの修正
第10回	卒論構想発表会の準備
第11回	卒論構想発表会のレジュメ作成
第12回	レジュメの修正
第13回	ゼミ内での発表と意見交換
第14回	構想発表会の練習
第15回	全体のまとめ（今期の振り返り）
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

毎回、授業準備として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）と、教育の今日の課題に関する新聞記事を紹介すること（1時間）。授業後は、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）。

【成績の評価】

授業態度や授業への積極的参加状況（30%）、各自の研究課題の進捗状況（50%）、新聞記事の紹介（20%）などにより総合的に評価する。

発表後は、教員から講評を受けることでフィードバックを行う。また、最終回では、全体の講評を行う。

【使用テキスト】

なし。

【参考文献】

桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版』実教出版、2015年。など

科目名： <KENK6> 演習Ⅳ【特別支援教育ゼミ】

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業は、演習Ⅲの内容を踏まえて卒業論文のテーマや研究内容を決定するとともに、論証に必要な資料等を収集するなど、卒業論文を作成する準備を進めます。計画的に研究内容に関するレジュメを作成し、討議を通して研究内容に関する理解を深め、新たな検討課題も設定します。

演習Ⅳでの学びを通じて、教育・保育に関する研究能力を涵養し、子どもの健全な成長・発達の姿を究明する力を養います。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できる」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

1. 研究内容に関する文献や先行研究等の資料、情報を検索・収集することができる。
2. グループ討議や体験活動の発表で、疑問や気付き、考え等を積極的に述べることができる。
3. 卒業論文構想発表会のレジュメを作成する過程で、理論と実践を関連付けて理解することができる。
4. 研究の目的を明確に説明し、問題を追及することができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	発表及び討議①各自の研究課題発表:グループA
第3回	発表及び討議②各自の研究課題設定:グループB
第4回	発表及び討議③研究計画の作成
第5回	発表及び討議④研究目的
第6回	発表及び討議⑤結論の予測
第7回	関連資料の収集①
第8回	関連資料の収集②
第9回	発表及び討議⑥研究内容の発表:グループA
第10回	発表及び討議⑦研究内容の発表:グループB
第11回	卒業論文構想発表のレジュメ作成
第12回	卒業論文構想発表のレジュメ修正
第13回	卒業論文構想発表のレジュメ完成
第14回	卒業論文構想発表の練習
第15回	発表及び討議⑧各自の研究のまとめ
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・毎回、授業前に資料やレジュメを作成し、発表及び討議に臨んでください（1時間以上）。
- ・授業後は、討議等で指摘された事項について再度調べたりまとめ直したりすることが必要です（30分以上）。
- ・研究テーマに関する文献の精読や先行研究の検索、資料・情報の収集及び整理等を行ってください（30分以上）。

【成績の評価】

- ・レジュメの内容（60%）、発表・討議（40%）を踏まえて総合的に評価します。
- ・レジュメについては授業時に講評し、改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・高松大学発達科学部オリジナルテキスト

【参考文献】

- ・一木薫著『重度・重複障害教育におけるカリキュラム評価』慶應義塾大学出版社、2020年
- ・アナット・バニエル著『限界を超える子どもたち』太郎次郎社エディタス、2019年
- ・中邑賢龍著『学校の中のハイブリッドキッズたち』こころリソースブック出版会、2015年
- ・愛媛大学教育学部附属特別支援学校著『将来の働く生活を実現する教育』明治図書、2011年

科目名： <KENK6> 演習Ⅳ【乳幼児保育研究ゼミ】
担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

演習Ⅳでは、演習Ⅲにおいて文献、先行研究をもとに学習したことをふまえ、卒業論文のテーマや研究内容を決定していきます。そして、そのテーマや研究内容についてレジュメにまとめ、発表・討議を重ねます。また、演習Ⅲに引き続き、今日の子育て課題や保育情勢について知り、理解を深めていきます。

本授業を通して、学部卒業認定・学位授与の方針の「1.教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている」「6.教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる」に関する資質・能力の修得を目指します。また、学修成果としては、『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・卒業論文のテーマに向けて文献や先行研究を検索し、それらの資料の分析を行い、各自レジュメを作成して発表できる。
- ・他学生の意見を尊重しながら自分の考えを述べるなど、積極的に討議に参加することができる。
- ・卒業論文構想を作成できる。
- ・卒業論文構想について、発表し、説明できる。
- ・今日の子育て課題や保育情勢について知り、理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研究テーマについての発表
 - 第3回 発表・討議①：研究目的と結論の予測
 - 第4回 発表・討議②：研究目的と結論の予測
 - 第5回 研究方法の検討
 - 第6回 研究内容の発表①
 - 第7回 研究内容の発表②
 - 第8回 卒業論文構想発表会にむけて
 - 第9回 卒業論文構想発表会レジュメ作成
 - 第10回 卒業論文構想発表会レジュメ修正
 - 第11回 卒業論文構想発表会レジュメ完成
 - 第12回 卒業論文構想発表会発表準備
 - 第13回 卒業論文構想発表会発表練習
 - 第14回 卒業論文構想発表会での発表
 - 第15回 後期の振り返り、次年度に向けて
- 上記の他、今日の子育て課題や保育情勢についての討議も随時行う。
定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・卒業論文構想発表に向けて、文献や先行研究をもとに情報収集をして、レポートにまとめる。（2時間）
 - ・個々の研究状況・学習成果を発表するための資料を作成する。（2時間）
 - ・今日の子育て課題や保育情勢について、情報収集を行う。（30分）
- その他、卒業論文構想発表会に向けた準備（レジュメ作成、発表資料作成など）に多くの時間が必要である。

【成績の評価】

レジュメの内容（60%）、討議への参画（40%）を総合的に評価します。
レジュメについては、毎回授業時に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他、必要であれば適宜紹介します。

科目名： <KENK6>演習Ⅳ【教育相談ゼミ】
担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

演習Ⅲで学んだことをもとに、カウンセリングやアセスメントの考え方を基盤として、学童期、乳幼児期に子どもが直面する発達上の課題について理解を深めるとともに、課題を解決するための教育実践についての研究を深めます。文献研究の方法に習熟し、卒業論文のテーマの領域を絞り込みます。構想発表に向けて各自検討を重ね、ゼミ内での発表と討論を繰り返し、準備を整えます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識・技法の習得を目指します。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している』、『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している』、『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

- ・ 子どもの発達上の心理的課題を解決するための様々な実践や研究について先行研究から理解する。
- ・ 卒業論文作成に向けて関心のあるテーマについて研究を深め、レジュメを作成して発表することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 後期の研究課題の発表
 - 第3回 卒業論文のテーマに関わる意見交換①
 - 第4回 卒業論文のテーマに関わる意見交換②(前回の続き)
 - 第5回 参考資料、文献調査①(グループ1)
 - 第6回 参考資料、文献調査②(グループ2)
 - 第7回 参考資料、文献調査③(グループ3)
 - 第8回 テーマ別の研究、発表、討議①(グループ1)
 - 第9回 テーマ別の研究、発表、討議②(グループ2)
 - 第10回 テーマ別の研究、発表、討議③(グループ3)
 - 第12回 卒業論文構想発表会に向けてのレジュメ作成①
 - 第13回 卒業論文構想発表会に向けてのレジュメ作成②
 - 第14回 卒業論文構想発表会に向けての発表練習
 - 第15回 今期のまとめと意見交換
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

個々の課題に基づいて、関連する文献や先行研究を収集、整理することが必要です。(10時間)ゼミ内での発表、討議のために準備が必要です。(2時間)

【成績の評価】

受講態度・出席状況(20%)レジュメの内容(50%)討議への参画(20%)などにより、総合的に評価します。

発表・討議の際及び期末に全体の講評を行いフィードバックをします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK6>演習Ⅳ【教科指導ゼミ（理科）】

担当教員： 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関する知識、技能の修得をめざす。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連して、次の学習活動に取り組む。

小学校での理科教育や環境教育、防災教育等に関する学習内容をもとに、身近な自然やモノを素材とした教材開発と授業研究に関することをテーマとして、演習Ⅲを踏まえて卒業研究の内容の検討を進めていく。そして、卒業論文の作成準備に取りかかり、卒業論文構想発表会でその成果を発表する。

【到達目標】

- ・将来、教員として必要な素養と幅広い人間性、教科に関する専門的な知識と技能を身に付けることができる。
- ・実物を見る、実物に触れる、実際につくる、現場を知ることが大切にして、手と目と足と頭を使って教材を開発して教材化し、授業を実践する基礎力を身に付けることができる。
- ・卒業研究の取組を通して、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、課題解決能力を伸長させることができる。
- ・卒業研究で深めた理科教育や環境教育、防災教育等に関する知見を、卒業後も活用することができる。

【授業計画】

下記は目安であり、授業の進捗等によって変更する場合がある

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 卒業研究テーマの検討・討議
 - 第3回 卒業研究テーマの検討・討議の続き
 - 第4回 卒業研究テーマの検討・決定
 - 第5回 卒業研究の進め方と論文作成のレクチャー
 - 第6回 卒業研究の進め方と論文作成の手順の検討・討議
 - 第7回 卒業研究開始及び論文作成準備
 - 第8回 卒業研究及び論文作成準備の続き
 - 第9回 卒業研究の内容討議・修正
 - 第10回 卒業研究の中間報告・まとめ
 - 第11回 卒業研究の中間報告・まとめの続き
 - 第12回 卒業論文構想発表会の準備と練習
 - 第13回 卒業論文構想発表会の準備と練習の続き
 - 第14回 学科全体の発表会とまとめ
 - 第15回 今期の振り返り（意見交換）
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

卒業研究及び卒業論文の進捗状況により、卒業研究の補充活動（8時間程度）、卒業論文構想発表会の準備と練習の補充活動（8時間程度）を、授業時間外の活動として適宜、取り入れる。

【成績の評価】

卒業研究への取組状況（発表レポートや提出物等も含む）50%、卒業論文の成果30%、発表会の成果20%を目安とする。発表レポートや提出物等は評価して返却する。討議、中間報告、発表会の節目の時に講評を行うことでフィードバックをします。

【使用テキスト】

授業で連絡します。以下を予定
文部科学省編「小学校学習指導要領解説 理科編」
小学校理科の教科書 等

【参考文献】

適宜、連絡します

科目名： <KENK6>演習Ⅳ【生徒指導力向上ゼミ】
担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。学校現場や教育行政での経験を活かし、具体的な事例を交えながら授業を行います。

教師に求められる学習指導力と生徒指導力のうち生徒指導に焦点を絞り、多面的にその理解を深めていく中で、本学部がカリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者・保育者に求められる使命感・倫理観の涵養」や「問題を自ら発見し、多様な情報収集・分析能力の技法と能力の獲得」等を図ります。また、学修の過程で積極的に討論を取り入れることにより、論理的に判断する力や適切な方法で表現する力の育成を図ります。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- 1 小学校段階における生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等を理解することができる。
- 2 卒業論文の作成に向けて研究を深める中で、生徒指導の素養を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 認知能力と非認知能力
 - 第3回 生徒指導と教育相談
 - 第4回 生徒指導と特別支援教育
 - 第5回 就学前教育の理解と学校種間の円滑な接続
 - 第6回 教育実習を通しての学び1（発表・討論）
 - 第7回 教育実習を通しての学び2（発表・討論）
 - 第8回 いじめ（ネットトラブルを含む）・ゲーム依存
 - 第9回 暴力行為・非行
 - 第10回 不登校・児童虐待
 - 第11回 卒業論文の作成に向けて1（卒論作成の意義とキーワードの拾い出し）
 - 第12回 卒業論文の作成に向けて2（キーワードの絞り込みと関連資料収集の見通し）
 - 第13回 卒業論文の作成に向けて3（テーマの検討と絞り込み）
 - 第14回 卒業論文の作成に向けて4（テーマの決定と発表）
 - 第15回 演習Ⅲ・Ⅳの振り返りと次年度の見通し
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎回、配布するワークシートに学習事項と要点をまとめるとともに次回の授業範囲を予習し、専門用語等の意味を理解しておく（1. 5時間）。

【成績の評価】

授業への参画状況（主体性、討論内容等）50%、ワークシート及びレジュメの内容 50%
毎回の授業時に学習成果の点検や講評等によるフィードバックを行う。

【使用テキスト】

文部科学省「生徒指導提要」教育図書（平成22年3月）

【参考文献】

適宜紹介する。

科目名： <KENK6> 演習Ⅳ【造形教育ゼミ】
担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

本ゼミを担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、2年前から、県教育委員会より造形活動の指導員として幼稚園や保育所に派遣されていることから、現場の実態に応じた実践的な指導を行うことができます。

授業では、本学卒業後、赴任する保育所、幼稚園、こども園、小学校現場や、地域の造形教育（表現活動や図画工作教育）の推進役として活躍することのできるよう、造形教育の意義やねらい等について、文献等から様々な考え方を学ぶとともに、幼児や児童の造形活動を指導するにあたって必要となる知識や技能を技法遊びの実習を通して身に付けます。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・技法遊びの実習を通して、造形表現の基礎となる知識や技能を身に付けることができる。
- ・保育や教育の現場で掲示物など、よりよい環境づくりに必要とされる造形的な構成力や表現力を、イラスト制作を通して身に付けることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

発表及び討議： 個々の夏休み中の実践研究の発表

第2回 イラストについて

第3回 作品制作： 保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題によるイラスト練習①

第4回 作品制作： 保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題によるイラスト練習②

第5回 作品制作： 保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題によるイラスト練習③

第6回 作品制作： 保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題によるイラスト練習④

第7回 発表及び討議： 研究課題、研究目的の発表、研究の方向性と結論の予測

第8回 発表及び討議： 論証の方法、論証に用いる資料の検討

第9回 発表及び討議： 研究内容の発表

第10回 発表及び討議： 卒業論文構想発表会のレジュメの試作

第11回 発表及び討議： 卒業論文構想発表会のレジュメの修正

第12回 発表及び討議： 卒業論文構想発表会のレジュメの完成

第13回 発表及び討議： 発表用プレゼンテーション資料の作成

第14回 発表及び討議： 卒業論文構想発表会での発表

第15回 発表及び討議： 後期研究のまとめ（意見交換）

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

今回の内容に沿って、あらかじめ準備物を用意したり、資料を収集したり、アイデアスケッチを描いてきたりすることが必要です。（1時間以上）

また、本学を離れて保育園や小学校で授業を行ったり、写生会の指導をしたりすることも検討しています。（相当する日数、時間）

【成績の評価】

造形教育や造形活動に対する知識・技能よりも、レジュメの内容や模擬授業の準備の程度（60%）、質疑応答への参画の態度（40%）など、これらを身に付けるために真摯に取り組む意欲や態度を評価します。

作成した作品やレジュメ等に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

「保育所保育指針 解説」（平成30年2月 厚生労働省）

「幼稚園教育要領 解説」（平成30年2月 文部科学省）

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）

令和2年～5年使用 小学校図画工作科 教科用図書

「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）

科目名： <KENK6> 演習Ⅳ【教科指導ゼミ（英語）】

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

この授業科目では、次の学習活動に取り組む。

・小学校における外国語活動・外国語に関する学習内容をもとに、身近で簡単な事柄を素材とした教材開発と授業研究をテーマとして、演習Ⅲを踏まえ、卒業研究の準備を進める。また、卒業論文の作成準備にも取りかかり、卒業論文構想発表会でその成果を発表する。

なお、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育の実践力、4.多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる力、7.教育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力」に関する知識、技能の修得をめざす。

また、学修成果『③十分なコミュニケーション能力、④教育に関わる問題を分析し、解決方法を表現する力、⑦教育者に求められる資質能力向上のための自己研修力』に関連している。

【到達目標】

・小学校の教員として必要な素養と幅広い人間性、教科に関する専門的な知識と技能を身に付けることができる。

・中学校1，2学年レベルの英語力を身に付けることにより、小学校英語教育に求められる教材開発力及び授業実践力を身に付けることができる。

・卒業研究の取組を通して、情報活用能力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、課題解決力を向上させることができる。

・卒業研究で深めた小学校英語教育に関する知見を、卒業後も活用することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 卒業研究テーマの検討・討議(1)
 - 第3回 卒業研究テーマの検討・討議(2)
 - 第4回 卒業研究テーマの検討・決定
 - 第5回 卒業研究の進め方と論文作成のレクチャー
 - 第6回 卒業研究の進め方と論文作成の手順の検討・討議
 - 第7回 卒業研究開始及び論文作成準備(1)
 - 第8回 卒業研究及び論文作成準備(2)
 - 第9回 卒業研究の内容討議・フィードバック
 - 第10回 卒業研究の中間報告・まとめ(1)
 - 第11回 卒業研究の中間報告・まとめ(2)
 - 第12回 卒業論文構想発表会の準備と練習(1)
 - 第13回 卒業論文構想発表会の準備と練習(2)
 - 第14回 学科全体の発表会とまとめ
 - 第15回 ゼミ内での発表と討議
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

卒業研究及び卒業論文の進捗状況により、卒業研究の補充活動（8時間程度）、卒業論文構想発表会の準備と練習の補充活動（8時間程度）を、授業時間外の活動として適宜実施する。

【成績の評価】

「卒業研究への関心・意欲・態度」30%、「授業時間外に課すレポート等の提出課題」20%、「卒業論文の成果」30%、「発表会の成果」20%の4項目を総合的に評価します。レポート等の提出課題は、その都度評価及びフィードバックを行います。また、討議、中間報告、発表会では、講評をします。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編 （文部科学省）
小学校外国語活動の教材及び外国語（英語）の教科書

【参考文献】

中学校英語教科書

科目名： <KENK7>卒業論文【授業研究ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本授業は、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での教科・生徒指導の経験を生かし、豊富で具体的な実践事例を示しながら、それを理論と結びつけて授業を行います。

前年度までの演習（Ⅰ～Ⅳ）における研究を踏まえ、教養教育・専門教育・演習活動で習得した知識と技能、観察・参加と教育実習で得られた成果を総動員して研究に取り組みます。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しており、「知識（体系）を教育・保育の実践と関連づけて理解」の集大成として位置づけ、卒業論文発表会において研究成果を明らかにします。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の3つを設定します。

- 1 先行研究に可能な限りあたり、文献や資料を収集しファイリングできる。
- 2 自己の研究の位置づけをはっきりさせ、明確な研究テーマを設定することができる。
- 3 教育・保育に関わる論点についての情報を収集・整理・分析し、論文としてまとめることができる。

【授業計画】

※リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。

クラス名：2022卒業論文（授業研究ゼミ4年） クラスコード：j36b243

第1回	前期オリエンテーション	卒業論文完成までのタイムテーブルづくり①
第2回	発表と討議1	「先行研究」の収集と絞り込み（～5回）
第3回	発表と討議2	
第4回	発表と討議3	
第5回	発表と討議4	
第6回	発表と討議5	
第7回	発表と討議6	「先行研究」の分析と検討（～12回）
第8回	発表と討議7	
第9回	発表と討議8	
第10回	発表と討議9	
第11回	発表と討議10	
第12回	発表と討議11	
第13回	発表と討議12	
第14回	研究のまとめ1	（研究内容の整理と分析）
第15回	研究のまとめ2	（研究内容の整理と分析）
第16回	後期オリエンテーション	卒業論文完成までのタイムテーブルづくり②
第17回	発表と討議13	「研究主題」の明確化①
第18回	発表と討議14	「研究主題」の明確化②
第19回	発表と討議15	「研究主題」の論証①
第20回	発表と討議16	「研究主題」の論証②
第21回	発表と討議17	「用語統一」と「脚注」
第22回	発表と討議18	「書式」
第23回	発表と討議19	各章ごとの校正（～23回）
第24回	発表と討議20	
第25回	発表と討議21	
第26回	発表と討議22	
第27回	発表と討議23	
第28回	卒業論文発表会発表資料作成1	
第29回	卒業論文発表会発表資料作成2	
第30回	卒業論文発表会	

「発表会」が卒業論文の審査も兼ねていますので、定期試験はありません。

【授業時間外の学習】

研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談にきてください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第1回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも1回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。

【成績の評価】

100%、卒業論文の内容で評価します。授業研究に関する論文になりますので、教職に就き日々授業実践を行う中で自分の主張の妥当性を確かめる事（フィードバック）が真の評価となります。
また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

- ・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円
- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】

- ・フライ著・酒井一夫訳 『アメリカ式論文の書き方』（東京図書、1994年）
- その他、適宜紹介します。

科目名： <KENK7>卒業論文【学校教育ゼミ】

担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

演習Ⅲ、Ⅳで取り組んだ各自の研究課題や研究計画をもとに、卒業論文執筆に向けた取り組みを進めます。各章や節に関わる文献・資料の要約を行うとともに、各自の調査や分析にも取り組んでいきます。そして全体の構成を見直しながら、卒業論文の完成を目指します。研究活動以外では、教育に関する今日の問題に関心を持ってもらうために、新聞記事の切り抜きをもとに議論する時間を設ける予定です。また、希望があれば教員採用試験に向けた対策を取り入れることもあります。

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができること、6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できること」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している、④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している、⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

- ・卒業論文の完成を目指し、文献・資料の収集、整理、分析ができる。
- ・卒業論文の完成を目指し、各自が設定した研究課題の解決に向けた考察ができる。
- ・様々な価値感を受けとめ、十分なコミュニケーションを行うことができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション、今後の計画
第2回	研究課題の再検討
第3回	卒論構想の再検討
第4回	文献・資料の再収集
第5回	文献・資料の再整理
第6回	予備調査の準備
第7回	予備調査活動の実施
第8回	予備調査の経過報告
第9回	予備調査の振り返り
第10回	論文構想の再修正
第11回	文献・資料の再点検
第12回	本調査の実施
第13回	研究目的の文章化と意見交換
第14回	研究方法の文章化と意見交換
第15回	研究目的と方法の修正
第16回	第一章の文章化と意見交換
第17回	第二章の文章化と意見交換
第18回	論文前半部分の修正
第19回	追加調査の実施
第20回	今後の計画の再調整
第21回	論文構成の再修正
第22回	追加資料の点検
第23回	論文後半の文章化と意見交換
第24回	論文後半の修正
第25回	全体を通じた点検
第26回	形式の再点検
第27回	要旨作成
第28回	全体の再修正
第29回	卒論発表会の準備
第30回	卒論発表会の練習
- ・定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

毎回、卒業論文の完成に向けた取り組みとして、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）と、教育の今日的課題に関する新聞記事を紹介すること（1時間）。授業後は、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）。

【成績の評価】

授業態度や授業への積極的参加状況（30%）、卒論の進捗状況（50%）、新聞記事の紹介（20%）などにより総合的に評価する。

発表後は、教員から講評を受けることでフィードバックを行う。また、最終回では、全体の講評を行う。

【使用テキスト】

なし。

【参考文献】

桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版』実教出版、2015年。など

科目名： <KENK7>卒業論文【特別支援教育支援システムゼミ】

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

演習Ⅲ・Ⅳで取組んだ研究課題を卒業論文として構成し直し、修正しながら、卒業論文を完成させる。また卒業論文発表会に向けて備える。卒業論文の研究テーマは、特別支援教育及び障害者福祉領域に関するテーマを中心に研究に取り組むことを望みます。卒業論文作成を通して、これまで習得した知識や技能、自己の興味・関心を学問的に発展させます。卒業論文を通じて、自らの気づきに対して、自律的に学び変化に対応する柔軟性と他者との協働を支えるコミュニケーション能力の向上を図ります。

本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

また、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学習成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

自らの課題設定に対して、情報収集し、文章としてまとめ、他者へわかりやすく発表するプレゼンテーション能力を獲得する。自身の興味・関心を学問的にまとめ、他者へ発信する力を向上させることを目指す。

1. 研究設問を設定し、適切な方法を選択し、研究遂行できる
2. 先行研究をまとめ、必要な調査を実施し、データを整理できる
3. 先行研究やデータ分析の結果を適切に表記することができる
4. 研究の目的、方法、結果、考察について文章にまとめることができる

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	研究課題と方法の設定
第3回	研究の進め方
第4回	研究課題の探索（研究デザイン）
第5回	研究課題の探索（文献研究）
第6回	研究課題の探索（文献整理）
第7回	研究課題の探索（文献整理とRQ（1））
第8回	研究課題の探索（文献整理とRQ（2））
第9回	研究課題と方法の設定（1）
第10回	研究課題と方法の設定（2）
第11回	リサーチクエスション（RQ）の設定（1）
第12回	リサーチクエスション（RQ）の設定（2）
第13回	RQの設定と研究デザイン（1）
第14回	RQの設定と研究デザイン（2）
第15回	RQの設定と研究デザイン（3）
第16回	研究開始の準備（1）
第17回	研究開始の準備（2）
第18回	研究倫理等チェック
第19回	データ収集及び分析（1）
第20回	データ収集及び分析（2）
第21回	論文執筆（1）
第22回	論文執筆（2）
第23回	論文執筆（3）
第24回	論文執筆（4）
第25回	論文執筆（5）
第26回	論文修正（1）
第27回	論文修正（2）
第28回	発表会レジュメ作成（1）
第29回	発表会レジュメ作成（2）
第30回	卒業論文発表会準備
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、集めた情報や資料を整理することが必要です（2時間）。また、本講義では、各回で各自の進捗状況の報告を行います。またゼミ内の中間発表会を行いますので、レジュメ作成等の準備が必要です。相当な時間外学習が必要になります。

【成績の評価】

受講態度（30％）、提出物（40％）、発表（30％）等を総合して成績を評価します。
課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK7>卒業論文【特別支援教育ゼミ】

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業科目は、本学の教育課程編成・実施の方針を踏まえ、演習Ⅲ・Ⅳの学びで見出した研究課題について、子育て支援に関する専門科目や教育実践に関する専門科目で修得した内容を基盤として、卒業論文を執筆します。また、卒業論文発表会に向けて、研究の成果を発表する技法を習得します。

本授業を通じて、問題を自ら発見し、問題を解決する能力を高めるとともに、教育者・保育者に求められる使命感・倫理観の涵養をめざします。

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。

なお、学修成果『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦保育・教育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

1. テーマを追求する上で必要な情報を収集・分析することができる。
2. 得られた結論を論理的に整理し、文章にまとめることができる。
3. 卒業論文発表会に向けて、プレゼンテーションの技法を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション、卒業論文構想の再検討
第2回	発表及び討議① 問題意識の具体化・明確化
第3回	卒業論文作成の留意
第4回	発表及び討議② 前期の研究計画及び研究課題の検討
第5回	発表及び討議③ 研究の進め方
第6回	発表及び討議④ 先行研究の調査と検討（グループA）
第7回	発表及び討議⑤ 先行研究の調査と検討（グループB）
第8回	発表及び討議⑥ 資料の収集と分析（グループA）
第9回	発表及び討議⑦ 資料の収集と分析（グループB）
第10回	発表及び討議⑧ 論証方法の検討
第11回	発表及び討議⑨ 研究テーマの再検討
第12回	発表及び討議⑩ 研究内容の再検討
第13回	発表及び討議⑪ 第1回卒業論文中間発表及び質疑応答、修正指示（グループA）
第14回	発表及び討議⑫ 第1回卒業論文中間発表及び質疑応答、修正指示（グループB）
第15回	夏季休業中の研究課題と執筆計画
第16回	発表及び討議⑬ 夏季休業中の研究成果の発表
第17回	発表及び討議⑭ 後期の研究計画及び研究課題の検討
第18回	発表及び討議⑮ 研究目的の確定
第19回	発表及び討議⑯ 論文構成の確定
第20回	発表及び討議⑰ 第1章の研究内容
第21回	発表及び討議⑱ 第2章の研究内容
第22回	発表及び討議⑲ 第3章の研究内容
第23回	発表及び討議⑳ 第4章の研究内容
第24回	発表及び討議㉑ 結論の検討
第25回	発表及び討議㉒ 卒業論文全体の修正
第26回	発表及び討議㉓ 卒業論文要旨の作成
第27回	卒業論文全体を通じた点検
第28回	プレゼンテーション資料の作成
第29回	卒業論文発表会
第30回	研究成果報告

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

・研究テーマに関連する文献・論文の精読、情報の収集及び整理、授業時に発表するレジュメの作成のために、毎回授業時間外に2時間以上の学習が必要です。

【成績の評価】

- ・レジュメの内容（20%）、質疑応答、討議への参画の程度（20%）、卒業論文発表の完成度（50%）、卒業論文発表（10%）により総合的に評価します。
- ・レジュメは授業時に講評し、改善のためのフィードバックを行います。
- ・卒業論文は個別に指導し、修正・加筆を指示します。

【使用テキスト】

- ・高松大学発達科学部オリジナルテキスト

【参考文献】

- ・ 個々の研究テーマに応じて適宜紹介します。

科目名： <KENK7>卒業論文【健康スポーツゼミ】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

卒業論文は、本学の卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している ④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している ⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

授業では、“子どものからだ”“子どもの運動”あるいは“スポーツ”という幅広い分野から自己の研究テーマを確定し、教養教育および専門教育での習得した「理論」と「実践力」を総動員することにより、卒業論文を執筆します。

【到達目標】

1. テーマの選択から始まり、研究目的から論文を展開させることができる。
2. 収集した様々なデータなどから考察、分析を重ね、私見を検討してまとめることができる。
3. 論文を完成させる過程において、実際の問題点を把握、分析することができる。
4. 自分の考えを構築しまとめるだけでなく、実際に論文を様式どおりに作成できる。
5. 論文を発表するというプレゼンテーション能力、他の学生との討議における態度など、総合的な力を養うことができる。
6. 卒業論文の作成をととして、共に支え合い、豊かな心と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文のテーマを絞り込む①（収集した先行研究のまとめ）
- 第3回 卒業論文のテーマを絞り込む②（卒論のテーマの領域を決定する）
- 第4回 卒業論文のテーマを絞り込む③（卒論のテーマを決定する）
- 第5回 卒業論文の概要を作成する
- 第6回 論文全体の筋書きを作成する①（章立てを考える）
- 第7回 論文全体の筋書きを作成する②（章立てと対応ページ）
- 第8回 自分の論文の筋書きを発表する
- 第9回 各論文の筋書きを検討する
- 第10回 研究の背景を考える
- 第11回 収集した文献と研究の背景を対応させる
- 第12回 研究の目的を考える
- 第13回 収集した文献と研究の目的を対応させる
- 第14回 研究の目的を発表する
- 第15回 中間総括（研究の目的の展開）
- 第16回 文章表現のマナーを確認する
- 第17回 論文の様式を確認する
- 第18回 基本概念や専門用語の定義について
- 第19回 問題の所在を探る
- 第20回 問題の所在と研究の目的を対応させる
- 第21回 問題を解決する手法を考える
- 第22回 問題解決のために客観的な評価を行う
- 第23回 問題可決のために客観的な考察を行う
- 第24回 各研究成果を討議しよう
- 第25回 論文発表の準備をしよう
- 第26回 論文を発表する①（リハーサル）
- 第27回 論文を発表する②（前半）
- 第28回 論文を発表する③（後半）
- 第29回 総括（作成した論文の最終校正）
- 第30回 卒業論文発表会

定期試験は実施しない

<科目コード：thgjelf>

※この授業は、対面授業で行います。ただし、社会状況によっては、在宅学習で行う場合もあります。

【授業時間外の学習】

各自が収集した卒業論文のテーマに関連する文献や資料を授業終了後、その都度まとめておいてください。中間発表や卒業論文発表会のためのリハーサルなど、その都度指示された内容で準備しておいてください。卒業論文の作成に関しては、日常的に取り組んでください。

毎回、各自の卒業論文のテーマに関する資料を収集し、ノートにまとめておいてください（30分）。また、授業後は、その関連資料をもとに、卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。

【成績の評価】

授業態度（討議の態度，発表会におけるプレゼンテーション能力）：20%

卒業論文（卒業論文発表会を含む）：80%

＊ 全体の60%以上の得点で合格とします。

＊ 成績については，オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度，提示する

科目名： <KENK7>卒業論文【音楽ゼミ】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実有する有する。4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができる。また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関する資質・能力を有する。また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

演習Ⅳで決定した卒業論文のテーマに従って各自研究を進めていきます。ゼミでは毎回論文の進捗状況を発表し他の学生とともに検討し意見交換を行います。論文作成にあたって、問題を特定し、情報を精査し解決策を探り、得た結論を的確に表現するという一連の作業を経験します。これにより、教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して論理的な思考力と創造力を用いて判断する能力を修得します。また、オープンキャンパスやふれあいコンサートでの準備や発表を通して教育・保育の実践力をさらに高めていきます。

【到達目標】

- ・充実した内容の論文を完成することができる。
- ・分りやすく伝えるスキルを磨き、またグループ内でのコミュニケーション能力を高めることができる。
- ・教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して論理的な思考力と創造力を用いて判断することができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	基本資料に基づいたテーマに関する基礎知識の発表
第3回	順次発表 思考マップの作成
第4回	順次発表 問いと答えリストの作成
第5回	順次発表 論証方法の考察
第6回	順次発表 データの収集と効果的な見せ方の考察
第7回	順次発表 アウトラインの作成
第8回	順次発表 アウトラインの完成
第9回	順次発表 論文に適った日本語表現
第10回	第I中間発表 グループ① これまでの成果発表
第11回	第I中間発表 グループ② これまでの成果発表
第12回	第6回オープンキャンパスの準備1（発案、計画）
第13回	第6回オープンキャンパスの準備2（練習）
第14回	第6回オープンキャンパスの準備3（練習、修正）
第15回	第6回オープンキャンパスの準備4（リハーサル）
第16回	第II中間発表 グループA 引用の基本ルール
第17回	第II中間発表 グループB 文献リスト作成上の確認
第18回	第II中間発表 グループC 日本語表記のルール確認
第19回	第III中間発表 グループA 第16回での状況に従ってテーマを設定
第20回	第III中間発表 グループB 第17回での状況に従ってテーマを設定
第21回	第III中間発表 グループC 第18回での状況に従ってテーマを設定
第22回	第IV中間発表 グループA 清書前の最終チェック
第23回	第IV中間発表 グループB 清書前の最終チェック
第24回	第IV中間発表 グループC 清書前の最終チェック
第25回	ふれあいコンサートの準備1（計画、練習）
第26回	ふれあいコンサートの準備2（練習、修正）
第27回	ふれあいコンサートの準備3（リハーサル）
第28回	最終発表グループA 卒論要旨
第29回	最終発表グループB 卒論要旨
第30回	最終発表グループC 卒論要旨

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

充実した内容の論文を完成する為に資料を収集、分析検討、論文を仕上げる。週に最低4時間以上は作業に関わること。

【成績の評価】

発表内容、論文の完成度を検討して単位を認定する。

研究内容 90% 発表能力 10%

実技演奏等の発表に関しては、その都度コメントを与える。

主に卒業論文原稿等の提出物は、口頭と筆記により添削指導を行う。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK7>卒業論文【保育ゼミ】
担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえようようなプレゼンテーションの方法を学習します。そして、最終的には、卒業論文をまとめ、卒業論文発表会につなげていきます。

卒業認定・学位授与方針の「5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識・技能の修得を目指します。

また、学修成果として、『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・卒業論文の作成に向けて、個々にテーマを追求する上で必要な情報の収集や分析ができる。
- ・各自のテーマに関して、概論的な知識の獲得と学習の成果を他者にわかりやすく伝えることができる。
- ・質の高い論文を完成し、発表会において効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	発表及び討議：春期休業中の研究成果の発表
第3回	発表及び討議：前期の研究計画と方向性
第4回	発表及び討議：研究目的の検討
第5回	発表及び討議：研究の方向性の検討
第6回	発表及び討議：研究結果及び結論の予測
第7回	発表及び討議：研究成果の発表
第8回	発表及び討議：研究課題の追究
第9回	発表及び討議：論証方法の検討
第10回	発表及び討議：分析資料の検討
第11回	発表及び討議：研究課題の再検討
第12回	発表及び討議：中間発表レジュメ作成
第13回	発表及び討議：中間発表レジュメの修正
第14回	卒業論文中間発表会
第15回	発表及び討議：今後の研究課題と研究計画
第16回	後期オリエンテーション
第17回	発表及び討議：夏期休業中の研究成果の発表
第18回	発表及び討議：研究目的の確定
第19回	発表及び討議：論文構成の確定
第20回	発表及び討議：第1章の研究内容
第21回	発表及び討議：第2章の研究内容
第22回	発表及び討議：第3章の研究内容(17)
第23回	発表及び討議：結論の検討
第24回	発表及び討議：卒業論文全体の見直し
第25回	発表及び討議：卒業論文全体の修正
第26回	発表及び討議：卒業論文要旨の試作
第27回	発表及び討議：卒業論文要旨の完成
第28回	発表及び討議：プレゼンテーション資料の作成
第29回	卒業論文発表会
第30回	発表及び討議：研究成果と課題の振り返り

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業後に必要となります。それぞれの回ごとに、2時間以上の学習は必要です。

【成績の評価】

レジュメの内容(30%)やゼミでの質疑応答への参画の程度(20%)および論文や発表の完成度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。前期・後期それぞれ3回以上を欠席した場合には、単位不認定を含め、厳しく対応します。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（I年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK7>卒業論文【幼児教育ゼミ】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習Ⅲ、Ⅳで得た学びを各自の研究課題を基に構成し、質の高い卒業論文の作成を目指します。絵本や紙芝居、童話、言葉による表現媒体等を主な研究対象としますが、保育・教育からの視点で研究を進めていきます。個別研究活動を中心にしながら、適宜、個別指導やゼミ所属学生によるグループ討議を取り入れていきます。また、研究活動や就職活動を支える学生生活の在り方に関わる適時適切な学習活動や指導も行います。

これらの学修を通して、この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」に関する資質・能力の修得を目指します。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- (1) 教育や保育に活かせる研究活動に取り組むことができる。
- (2) 論文作成を通して今後の保育・幼児教育活動に資するに足る専門性を総合的に身に付けることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	学生各自の卒業論文の研究計画の策定
第3回	学生各自の卒業論文の研究計画の検討
第4回	学生各自の卒業論文の資料収集（協議）
第5回	学生各自の卒業論文の資料収集（発表）
第6回	学生各自の卒業論文の資料収集（検討）
第7回	学生各自の卒業論文の作成の検討（資料の整理と活用）
第8回	学生各自の卒業論文の作成の検討（情報の組み立て方）
第9回	学生各自の卒業論文の作成の検討（作成の心得）
第10回	学生各自の卒業論文の作成の検討（論文の構成）
第11回	学生各自の卒業論文の作成の検討（まとめ方）
第12回	学生各自の卒業論文の作成の検討（文章の整理）
第13回	学生各自の卒業論文の作成の検討（語尾の表現）
第14回	学生各自の卒業論文の作成の検討（引用方法とその記述）
第15回	研究の中間報告（協議）
第16回	研究の中間報告（報告1）
第17回	研究の中間報告（報告2）
第18回	研究の中間報告（報告3）
第19回	研究の中間報告の検討
第20回	学生各自の卒業論文の報告1と討議
第21回	学生各自の卒業論文の報告2と討議
第22回	学生各自の卒業論文の報告3と討議
第23回	卒業論文草稿の修正（協議）
第24回	卒業論文の作成と修正（協議）
第25回	卒業論文の作成と修正（報告1）
第26回	卒業論文の作成と修正（報告2）
第27回	卒業論文要旨の作成（協議）
第28回	卒業論文要旨の作成（報告）
第29回	卒業論文の発表準備
第30回	卒業論文発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（60時間）

【成績の評価】

課題（レジュメ）の取組姿勢と内容（20%）、卒業論文及び発表会におけるプレゼンテーション（80%）により評価します。提出された課題（レジュメ）は、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

使用しません。

【参考文献】

演習の中で個々の研究テーマに応じて適宜紹介します。

科目名： <KENK7>卒業論文【保育実践ゼミ】

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

演習Ⅲ・Ⅳで見出した卒業論文のテーマに沿って、研究内容を深めていきます。乳幼児教育・保育、子育て支援等に関する情報を収集・分析するなかで、研究内容をレジュメにまとめ、発表したり討議をしたりすることを経験します。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。」「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」「7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」の育成に関わっています。

なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・文献や先行研究等、研究に必要な情報を集めることができる。
- ・自分の研究内容を説明したり他学生の研究内容を聞いたり質問したりする等、積極的に討議に参加できる。
- ・研究テーマに基づいて、必要な方法を見出し、その方法を実践できる。
- ・規定にしたがって、卒業論文・要旨を仕上げるができる。
- ・卒業研究について、発表し、その内容を説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（前期の日程と計画の確認）
- 第2回 論文構成の再確認
- 第3回 これまでの研究成果と計画の発表1
- 第4回 これまでの研究成果と計画の発表2
- 第5回 これまでの研究成果と計画の発表3
- 第6回 情報収集について
- 第7回 情報収集成果発表・討議（グループ1）
- 第8回 情報収集成果発表・討議（グループ2）
- 第9回 情報収集成果発表・討議（グループ3）
- 第10回 中間発表にむけて
- 第11回 研究テーマの再検討
- 第12回 研究内容の再検討
- 第13回 中間発表
- 第14回 中間発表の振り返り
- 第15回 夏季休暇中の研究計画
- 第16回 後期オリエンテーション（後期の日程と計画の確認）
- 第17回 夏季休業中の成果発表・討議（グループ1）
- 第18回 夏季休業中の成果発表・討議（グループ2）
- 第19回 夏季休業中の成果発表・討議（グループ3）
- 第20回 研究目的の最終検討
- 第21回 論証の方法についての最終検討
- 第22回 論文構成の最終検討
- 第23回 結論の最終検討
- 第24回 卒業論文全体の修正
- 第25回 卒業論文要旨作成・検討
- 第26回 卒業論文要旨完成
- 第27回 卒業論文最終確認
- 第28回 卒業論文発表方法の検討
- 第29回 卒業論文発表リハーサル
- 第30回 研究の振り返りと今後の課題

定期試験なし

【授業時間外の学習】

卒業研究の進捗状況として、毎週レジュメ・卒業論文（一部）の提出を求めます。文献や先行研究等から情報収集をし、レジュメにまとめます（2時間）また授業時にゼミ学生間で討議ができるよう、発表レジュメ（A4二ページ）を作成する必要があります。（2時間）その他卒業論文・卒業論文要旨の完成にむけて修正を重ねる必要があります。

【成績の評価】

授業時のレジュメ 20%、討議への参加 10%、卒業論文の完成度 60%、卒業論文発表 10%により、評価します。

授業時のレジュメは、授業時に解説し、返却します。また卒業論文については、その都度個別に解説・指導し、返却します。

【使用テキスト】

・厚生労働省『保育所保育指針解説』（2018年）フレーベル館

【参考文献】

個々の研究テーマに沿って、指示します。

科目名： <KENK7>卒業論文【乳幼児保育研究ゼミ】
担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

演習Ⅲ・Ⅳで見出した研究課題に沿って、卒業論文の内容を深めていきます。具体的には、各自のテーマに沿った乳幼児保育・教育に関する情報を収集し分析していき、研究内容のレジュメを発表したり討議をしたりしていきます。また、卒業発表に向けて、研究内容を他者に伝える技術を習得していきます。

本授業を通して、学部の卒業認定・学位授与の方針の「1.教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。」「6.教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる」に関する知識や技能の修得を目指します。また、学修成果としては、『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

- ・文献や先行研究等、個々の研究テーマに沿った必要な情報の収集及び分析をすることができる。
- ・自分の研究内容を説明したり他学生の研究内容を聞いたり質問したりする等、積極的に討議に参加できる。
- ・卒業論文を完成させ、その内容について発表し、分かりやすく説明することができる。
- ・卒業論文作成を通して、乳幼児保育・教育に必要な豊かな心や専門性を総合的に身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 春期休業中の研究成果の発表・討議①
 - 第3回 春期休業中の研究成果の発表・討議②
 - 第4回 研究の方向性の検討
 - 第5回 情報収集及び分析成果の発表・討議①
 - 第6回 情報収集及び分析成果の発表・討議②
 - 第7回 情報収集及び分析成果の発表・討議③
 - 第8回 情報収集及び分析成果の発表・討議④
 - 第9回 論証方法の検討
 - 第10回 研究テーマの再検討
 - 第11回 研究内容の再検討
 - 第12回 研究結果の再検討
 - 第13回 卒業論文中間発表について
 - 第14回 卒業論文中間発表
 - 第15回 夏季休業中の研究課題と研究計画
 - 第16回 後期オリエンテーション
 - 第17回 夏期休業中の研究成果の発表・討議①
 - 第18回 夏期休業中の研究成果の発表・討議②
 - 第19回 研究目的の確定
 - 第20回 論文構成の確定
 - 第21回 結論の検討
 - 第22回 卒業論文全体の見直し
 - 第23回 卒業論文全体の修正
 - 第24回 卒業論文要旨検討
 - 第25回 卒業論文要旨完成
 - 第26回 卒業論文最終確認
 - 第27回 プレゼンテーション資料完成
 - 第28回 卒業論文発表会リハーサル
 - 第29回 卒業論文発表会
 - 第30回 研究成果報告と課題の振り返り
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析を行い、研究を進めていきます（60時間）。

情報収集や分析した内容を授業で発表して討議をするため、毎週レジュメ（A4用紙2枚程度）を作成する必要があります（2時間）。

【成績の評価】

授業時のレジュメ20%、討議への参画20%、卒業論文の完成度（卒業論文発表も含む）60%により、総合的に評価します。

授業時のレジュメは、授業時に解説し、返却します。また卒業論文については、その都度個別に解説・指導し、返却します。

【使用テキスト】
使用しません

【参考文献】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他、個々の研究テーマに応じて適宜紹介します。

科目名： <KENK7>卒業論文【教育相談ゼミ】

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

演習Ⅲ・Ⅳで取組んだ研究課題を卒業論文として構成し直し、修正しながら、卒業論文を完成させます。卒業論文の研究テーマは、児童等が発達上に経験する諸問題に対しその成長を支える予防的・開発的な相談援助に関するテーマを中心に研究に取り組むことを望みます。

また、卒業論文作成を通して、これまで習得した知識や技能、自己の興味・関心を学問的に発展させます。この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。」に関する知識・技法の習得を目指します。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している』、『④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している』、『⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している』に関連しています。

【到達目標】

自身の興味・関心を学問的にまとめ、他者へ発信する力を向上させることを目指す。

また、自らの課題設定に対して、情報収集し、文章としてまとめ、他者へわかりやすく発表するプレゼンテーション能力を獲得する。

1. 研究設問を設定し、適切な方法を選択し、研究遂行できる
2. 先行研究をまとめ、必要な調査を実施し、データを整理できる
3. 先行研究やデータ分析の結果を適切に表記することができる
4. 研究の目的、方法、結果、考察について文章にまとめることができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 テーマについて①（これまでの課題の再検討）
 - 第3回 テーマについて②（これまでに収集した先行研究の再検討）
 - 第4回 テーマについて③（テーマを決定する）
 - 第5回 卒業論文の概要の作成
 - 第6回 論文構成の検討①（章立てを考える）
 - 第7回 論文構成の検討②（章立てと対応ページ）
 - 第8回 論文構成の発表
 - 第9回 論文構成の相互批評・修正
 - 第10回 資料の再点検
 - 第11回 文章表現のマナーを確認する
 - 第12回 先行研究、資料、調査の文章化
 - 第13回 研究の目的の文章化
 - 第14回 研究の目的の修正
 - 第15回 研究の方法の文章化・修正
 - 第16回 これまでの振り返りと今後の計画
 - 第17回 論文前半の文章化
 - 第18回 論文前半の点検・修正
 - 第19回 追加調査
 - 第20回 追加資料の点検
 - 第21回 論文後半の文章化
 - 第22回 論文後半の点検・修正
 - 第23回 論文構成全体の点検・修正
 - 第24回 各研究成果の討議
 - 第25回 論文発表の準備
 - 第26回 論文の発表と討論①（リハーサル）
 - 第27回 論文の発表と討論②（前半）
 - 第28回 論文の発表と討論③（後半）
 - 第29回 総括（作成した論文の最終校正）
 - 第30回 卒業論文発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理が必要となる（2時間）

中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習が必要（3時間）

【成績の評価】

論文への取り組み状況や受講態度（30%）、論文の完成度（40%）発表（30%）等を総合して評価する。発表・討議の際および全体の講評を行いフィードバックをします。

【使用テキスト】
適宜紹介する

【参考文献】
適宜紹介する

科目名： <KENK7>卒業論文【教科指導ゼミ】

担当教員： 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の「6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。」に関する知識、技法の修得をめざしている。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』ことに関連し、次の学習活動に取り組む。

- ・小学校での理科教育や環境教育、防災教育等に関して、その知識の定着と実験・観察の技能を習得する。
- ・身近な自然やモノを素材とした教材開発と授業研究を卒業研究のテーマとして、自ら考え研究を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。
- ・授業を通して、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、課題解決能力を伸ばさせて、理科教育を通して、子どもたちの豊かな感性と学習意欲を育むことができる資質を養う。

【到達目標】

- ・卒業研究に取り組む中で、五感を重視した小学校理科の教材を開発し、それを生かした授業研究に取り組むことができる。
- ・卒業研究に取り組む中で、小学校理科の確かな知識と実験・観察の技能を定着させることができる。
- ・卒業研究の成果をわかりやすく伝えられるようにプレゼンテーションの技法を習得することができる。
- ・卒業研究の成果を論文としての的確にまとめる文章力を伸ばすることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 春期休業中の研究成果の発表
 - 第3回 前期の研究計画と方向性の話し合い
 - 第4回 研究成果の検証と卒業研究内容の修正・実践（その1）
 - 第5回 研究成果の検証と卒業研究内容の修正・実践（その2）
 - 第6回 研究結果の検証と卒業研究内容の修正・実践（その3）
 - 第7回 研究成果の発表・報告
 - 第8回 研究課題の検証と追究
 - 第9回 研究課題の検証と追究の続き
 - 第10回 研究成果と分析資料の検証
 - 第11回 研究課題の再検討
 - 第12回 中間発表レジュメとプレゼンテーション資料の作成
 - 第13回 発表及び討議：中間発表レジュメとプレゼンテーション資料の作成の続き
 - 第14回 卒業論文中間発表会
 - 第15回 今後の研究課題と研究計画の検討
 - 第16回 後期オリエンテーション
 - 第17回 夏期休業中の研究成果の発表
 - 第18回 論文構成の検討・確認
 - 第19回 論文構成の検討・確認の続き
 - 第20回 論文作成（その1）
 - 第21回 論文作成（その2）
 - 第22回 論文作成（その3）
 - 第23回 論文作成（その4）
 - 第24回 卒業論文全体の修正（その1）
 - 第25回 卒業論文全体の修正（その2）
 - 第26回 卒業論文要旨の作成とプレゼンテーション資料の作成（その1）
 - 第27回 卒業論文要旨の作成とプレゼンテーション資料の作成（その2）
 - 第28回 卒業論文要旨とプレゼンテーション資料の完成
 - 第29回 卒業論文発表会
 - 第30回 卒業研究の成果と課題の振り返り
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。概ね50時間は必要と思われます。

【成績の評価】

卒業研究の取組状況（実験・観察の取組、提出物等）50%、卒業論文の成果30%、発表会の成果（プレゼンテーション資料の作成と発表）20%を目安とする。前期末、後期末、発表会等の節目の時に講評を行うことでフィードバックをします。

【使用テキスト】

授業で連絡します。以下を予定。
文部科学省編「小学校学習指導要領解説 理科編」
小学校理科の教科書 等

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK7>卒業論文【生徒指導力向上ゼミ】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。学校現場や教育行政での経験を生かし、具体的な事例を交えながら授業を行います。また、学修の過程では積極的に発表・討論を取り入れます。

演習Ⅲ・Ⅳでは、教師に求められる学習指導力と生徒指導力のうち生徒指導に焦点を絞り、多面的にその理解を深めてきました。卒業論文では、それを基盤として研究課題を設定し追及する中で、本学部がカリキュラム・ポリシーとしている「教育者・保育者に求められる使命感・倫理観の涵養」や「問題を自ら発見し、多様な情報収集・分析能力の技法と能力の獲得」等を図ります。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。」に関する知識、技法の修得をめざします。。なお、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。』に関連しています。

【到達目標】

1. 研究課題の追求に向け、必要な文献や資料等の収集・分析を行い、それをもとに演習Ⅳで立てた論文構想を見直し、テーマや構成を明確にすることができる。
2. 学部で定めた書式に沿って論文を完成させるとともに、発表会で明快な要旨説明ができる。
3. 論文の作成を通して、教育・保育に関する知識体系と実践の関連をより深く理解することができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	先行研究等、資料の収集・分析及び検討①
第3回	先行研究等、資料の収集・分析及び検討②
第4回	先行研究等、資料の収集・分析及び検討③
第5回	研究テーマ及び論文構成の見直し・検討①
第6回	研究テーマ及び論文構成の見直し・検討②
第7回	研究テーマ及び論文構成の見直し・検討③
第8回	先行研究等の分析及び検討①
第9回	先行研究等の分析及び検討②
第10回	先行研究等の分析及び検討③
第11回	研究テーマと論文構成の明確化①
第12回	研究テーマと論文構成の明確化②
第13回	研究テーマと論文構成の明確化③
第14回	発表・討議①(研究の目的、方向性、論証方法等)
第15回	発表・討議②(研究の目的、方向性、論証方法等)
第16回	後期オリエンテーション
第17回	書式の確認
第18回	各章の執筆①
第19回	各章の執筆②
第20回	各章の執筆③
第21回	各章の執筆④
第22回	各章の執筆⑤
第23回	各章の校正①
第24回	各章の校正②
第25回	各章の校正③
第26回	論文構成全体の見直し・修正
第27回	卒業論文発表要旨の作成
第28回	卒業論文発表要旨の完成
第29回	卒業論文発表会準備
第30回	卒業論文発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

資料の収集・分析、論文構成や内容の検討、執筆・校正、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。

【成績の評価】

卒業論文及び卒業論文要旨の完成度：60%

授業への参画姿勢(主体性、討論内容、レジュメ内容等)：40%

毎回の授業時に学習成果の点検や講評等によるフィードバックを行う。

【使用テキスト】

文部科学省「生徒指導提要」教育図書(平成22年3月)

【参考文献】

適宜紹介する。

科目名： <KENK7>卒業論文【造形教育ゼミ】

担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

卒業論文のテーマは、幼児・児童の造形活動に関するものなら自由です。

研究方法は、できれば自らオリジナル教材を作成・開発し、それを保育所や幼稚園、小学校で実践するなどして、その実践の様子や詳細に記録にとどめ、成果や課題を考察するという“実践研究”を主たる研究方法とします。その他に、アンケートを現場の先生方や子どもたちにとって考察を加えるなどする“調査研究”も論文作成のための有効な方法と考えています。

授業では、造形教育に関する様々な研究論文を読むことから始め、3年次に提出した「卒業論文構想」の再検討を行っていきます。

大切なことは、将来、保育や教育の現場で子どもたちを指導する実践者として、「実践につながる研究であること」だと考えています。

また、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」の集大成と位置付け、卒業論文発表会において研究成果を明らかにします。なお、学習成果③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。⑦教育・保育に携わる者に求められる資質能力を高めるための自己研修力を有している。」に関連しています。

【到達目標】

○ 本学卒業後、赴任する保育所、幼稚園、こども園、小学校現場や、地域の造形教育（表現活動や図画工作教育）の推進役として活躍することのできる知識や技能、及び実践意欲等の資質能力を身に付けることができる。

○ 卒業論文作成を通して、テーマの設定や内容、方法、成果や課題の書き方など、実践研究の方法についての基礎的な知識や技能を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、3年次の「卒業論文構想」の再検討
(保育士や幼稚園教員をめざす学生は、併せて実技試験対策も計画に入れる。)

第2回 造形教育に関する様々な研究論文(実践研究)の読解と分析①

第3回 造形教育に関する様々な研究論文(実践研究)の読解と分析②

第4回 造形教育に関する様々な研究論文(実践研究)の読解と分析③

第5回 卒業論文のテーマや研究内容・方法の再検討、決定

第6回 タイムテーブルの作成

第7回 造形活動の教材作成・開発①

第8回 造形活動の教材作成・開発②

第9回 造形活動の教材作成・開発③

第10回 造形活動の教材作成・開発④

第11回 造形活動の教材作成・開発⑤

第12回 造形活動の保育現場での実践計画、データ収集計画の立案

第13回 保育現場での実践①(先方の都合で、授業日以外に実施する場合もある)

第14回 保育現場での実践②

第15回 保育現場での実践③

休み中に実践のデータ収集と整理

第16回 後期オリエンテーション、実践のデータ収集と整理

第17回 造形活動の教材作成・開発、及び保育現場での実践①

第18回 造形活動の教材作成・開発、及び保育現場での実践②

第19回 造形活動の教材作成・開発、及び保育現場での実践③

(前期を補完する。現場での実践が難しい場合は、模擬授業や個別に幼児・児童に依頼)

第20回 実践のデータ収集と整理・分析、内容構成①

第21回 実践のデータ収集と整理・分析、内容構成②

第22回 実践のデータ収集と整理・分析、内容構成③

第23回 卒業論文執筆①

第24回 卒業論文執筆②

第25回 卒業論文執筆③

第26回 卒業論文執筆④

第27回 卒業論文執筆⑤

第28回 ゼミ内発表会、論文修正

第29回 レジューメ作成

第30回 卒業論文発表会

【授業時間外の学習】

教材作成や実践授業の構想、実施とデータ収集や分析など、卒業論文の執筆に取り掛かる前の実践や準備の段階にも多くの時間を必要とするので、当然授業時間外にも必要とします。60時間以上必要です。

【成績の評価】

教材作成・開発において、教材のよし・あし（20%）よりも、作成に取り組む意欲や態度（30%）を評価します。論文作成も同様に、論文の出来不出来（20%）よりも、作成に取り組む意欲や態度（30%）を評価します。作成した教材やレポート、その発表等に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

「保育所保育指針 解説」（平成30年2月 厚生労働省）

「幼稚園教育要領 解説」（平成30年2月 文部科学省）

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）

令和2年～5年使用 小学校図画工作科 教科用図書

「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）ほか、適宜紹介します。